授業コード	20003201	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	現代社会のしくみ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	林　兵磨				
シラバス執筆（主）	林　兵磨				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は、現代社会に生きる私たちにとって重要と思われるさまざまなトピックを取り上げそれらについて説明を行うことにより、受講生の社会への問題意識を高め、諸君が将来社会人として生きていく上で適切な意思決定ができるようになることを指向して開講するものである。
　授業の進め方は、毎回、担当者による特定のトピックに関するレクチャーを行い、その後そのトピックに関する問題演習（授業中ワーク）とその解答解説を行う。また、受講生が社会問題について自身の見解を明らかにする機会も設けており、社会問題に対する問題意識を高めるよう配慮する。

到達目標

本科目における受講生の到達目標は下記のとおりとする。
１．受講生が現代社会で生じている諸問題ついて適切に理解した上で、その解決方策を考え、それを他者に分かりやすく説明できるようになること
２．受講生が日本の政治について十分に理解した上で、問題点を発見・整理し、解決方策を考え、それを他者に分かりやすく説明できるようになること
３．受講生が日常生活に関わるさまざまな経済事象につき、それらのメカニズムを理解しつつ、そこに潜む問題点を発見・整理した後、解決法を他者に分かりやすく説明できるようになること

授業計画

第１講　地球環境問題について
第２講　資源・エネルギー問題について
第３講　科学技術の発達と生命について
第４講　情報化社会とわれわれの生活について
第５講　民主主義と日本国憲法について
第６講　基本的人権について①　日本国憲法に記載されている人権
第７講　基本的人権について②　日本国憲法に記載されていない新しい人権
第８講　国会と立法について
第９講　内閣と行政について
第10講　裁判所と司法について
第11講　地方自治について
第12講　国民所得と経済成長について
第13講　企業と金融について
第14講　少子高齢化の現状について
第15講　少子高齢化の対策について
なお、諸般の事情により上記授業計画に変更が生じる場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

必要学習時間は、毎回事前学習・事後学習各1.5時間である。また、これに加えて期末試験対策のための学習時間として合計15時間は要する。

第１講
　事前学習　地球温暖化について現状と政府のこれまでの取り組みについて調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第２講
　事前学習　現在の資源・エネルギー問題の現状と政府のこれまでの取り組みについて調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第３講
　事前学習　再生医療、クローン技術、遺伝子組み換え技術について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第４講
　事前学習　情報化の進展がわれわれの生活に及ぼしてきた影響について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第５講
　事前学習　日本国憲法の基本精神について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第６講
　事前学習　日本国憲法に示されている基本的人権（自由権、社会権等）について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第７講
　事前学習　日本国憲法に示されていない新しい人権（プライバシー権等）について調べておくこと

　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第８講
　事前学習　国会の役割と権限について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第９講
　事前学習　内閣の仕組み及び議院内閣制について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第10講
　事前学習　日本の司法制度について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第11講
　事前学習　日本の地方自治制度ついて調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第12講
　事前学習　日本の経済成長の状況について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第13講
　事前学習　企業の仕組み及び金融機関の役割について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第14講
　事前学習　日本の少子高齢化の現状と将来予測について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第15講
　事前学習　日本政府の少子高齢化対策の現状に調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業後にGoogle Classroomを通じて課題提出を求める。提出された課題については次の授業にて講評を行う。また、重要と思われる論点については再度、補足説明を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

・下記の評価割合に基づいて評価を行い、100点満点中60点以上を合格とする
・正当な理由なく、６回以上欠席した場合には「Ｋ」評価となる
・定期試験に代わるレポートを提出しなかった場合には「Ｋ」評価となる

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業中課題 Google Classroomにて実施する	1、2、3
授業外での評価	30	事後課題(宿題) Google Classroomにて実施する	1、2、3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	定期試験に代わるレポート Google Classroomにて実施する	1、2、3
その他	0		

テキスト	実教出版編修部『2025 ズームアップ公共資料』実教出版、2024年、990円(税込) ISBN:978-4-407-36499-6
参考書	必要に応じて授業中に指示する。
履修条件・他の科目との関連	・毎回授業中、各自のパソコンのGoogle Classroom に課題を送信して、解答を求める ・やむを得ず授業を欠席した場合には、Google Classroomで授業資料を確認して、授業内容を自身でフォローしておくこと

授業コード	20002201	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	女性学入門　［遠隔オンデマンド］				
シラバス執筆（全員）	大久保　遥				
シラバス執筆（主）	大久保　遥				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

女子は大人しく、目立ちすぎてはいけない？”女性らしさ”とはケアや気遣いができること？男性を立てられる女性が”いい女”？母親が家事や育児を担うことは当然の義務？。「男女平等」という言葉は一見過去のものに思えますが、実は私たちが生きる今日の現代社会においても、「女性」であることで求められる役割や社会的地位、あるいは格差や差別が生じています。けれども、あたかもその状態が、自然で当たり前のように感じさせられているのです。この講義では、受講生が日常にでくわすような出来事やトピックを中心に、学校・家族・労働・恋愛関係などにおいて「女性」が置かれた立場を問い直し、女性に生じる困難や障壁への想像力を働かせ、それらをつくる社会的構造を問い直す視点を得られるよう解説します。さらに、女性学の視点を踏まえて、さまざまなマイノリティ（社会的弱者）に対する差別が生じる構造についても授業を展開します。
★この授業は、オンデマンド型の遠隔授業です。リアルタイム型の遠隔授業ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、動画視聴後に課題を提出していただく形で実施する予定です。

到達目標

１．授業内の解説を踏まえ、さまざまな領域において女性に期待される役割や地位、格差や差別の実態や状況について説明することができる。
２．具体的な事例を用いて、現代社会において社会的に弱い立場の人たちへの差別が生じる構造について論じることができる。

授業計画

第1回　イントロダクション：女性学を学ぶことの意義
授業概要および進め方や今後のスケジュール、成績評価について説明します。

第2回　「女性」をどう捉え、社会を問い直していくか
ジェンダー・フェミニズム研究が展開してきた女性の捉え方についての基本的な視点について説明します。フェミニズムが何をなしてきたか、その意義についても解説します。

第3回　教育①：男らしさ、女らしさはどのようにつくられるのか
園や学校における教師とのかかわりや友人関係に関する調査を参照し、子ども期にジェンダーが構築するプロセスについて解説します。

第4回　教育②：学歴や進路をめぐるジェンダー間格差
成績や学歴、進路選択をめぐる調査をもとに、ジェンダー間格差について解説します。あわせて、ヤングケアラーの置かれた状況についても説明します。

第5回　家族①：近代家族と性別役割分業
夫婦間の役割がどのようにつくられ、いかにして正統性を帯びてきたのか、近代家族の誕生と関連づけながら解説します。

第6回　家族②：ケアの倫理と子育て
女性に期待されるケア役割や子育ての責任について解説します。

第7回　恋愛・結婚①：リプロダクティブ・ライツ
生や生殖に関する自己決定権をめぐる国内外の議論や課題について解説します。

第8回　恋愛・結婚②：デートDVと暴力
デートDVは何か、暴力とジェンダーの関係について解説します。

第9回　セクシュアル・ハラスメントの構造
セクシャル・ハラスメントは何か、具体的な事例から実態について説明し、それが生じる構造について解説します。

第10回　労働①：職場における女性
女性の雇用や職場内の役割に関する歴史的変遷や制度・政策の動向について解説します。

第11回　労働①：非正規雇用と貧困の女性化
非正規雇用の実態について説明し、貧困問題が女性に生じやすい社会的背景について解説します。

第12回　労働②：売買春と性の商品化
性産業やパパ活などの事例から、女性と性の商品化の実態とそれらをめぐる見えづらい問題について解説します。

第13回　性の多様性

さまざまなジェンダー・セクシュアリティについて説明するとともに、これまでの運動と今日の課題について解説します。

第14回　母と娘。女女格差。女性同士の連帯可能性
近年の女性同士の関係性をめぐる困難や課題を提示し、女性同士の連帯可能性について解説します。

第15回　まとめ：女性学をどのように展開させるか
これまでの授業を踏まえ、さまざまなマイノリティが直面する障壁や困難との関連性について提示します。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

第1回～第15回の授業の後に、日常での出来事やメディアや授業内で紹介した文献などを通じて知り得た情報と、授業内容との関連について考察することを求めます。毎回の授業後に課題として、コメントを提出してもらいます。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業課題については、いくつか次回授業時に紹介し、補足説明を加えます。
学期末レポートについては、提出後に、希望者に対してコメントを回答します。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

下記の評価割合に基づいて評価を行い、100点満点中60点以上を合格とする。正当な理由なく5回以上授業後の課題を未提出の場合や、定期試験に代わるレポートを提出しなかった場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業後に提出いただく、課題コメントの内容に対して、授業内容の理解ができているか、自身の言葉で説明できているかを評価します。	1
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	70	レポート課題に対して、授業を踏まえた視点を用いて、かつ自身の言葉で記述し、考察できているかを評価します。	1，2
その他	0		

テキスト	テキストは使用しません。
参考書	授業内で適宜紹介します。
履修条件・他の科目との関連	社会学やジェンダー・セクシュアリティ、マイノリティなどの科目に関連します。女性学を通じて、社会的に弱い立場に置かれた人が直面しやすい困難や、それを生じさせる社会構造への想像力を養うことにもつながるとおもいます。

授業コード	20002901	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	日本の伝統文化と芸術　［対面］				
シラバス執筆(全員)	佐藤　智明、丸山　茜葉、松井　道子				
シラバス執筆(主)	佐藤　智明				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

全体の概要：
本科目は、日本の伝統および文化について学ぶものであり、講義(1-5回目)と実習(6-15回目)から構成される。実習の際、受講生は「空手道」、「華道」、「書道」のうちから1つを選択し、初心者向けの体験学習を通じて、それぞれの分野の理論と実践の両面を学ぶ。
各実習：
・空手道：単にスポーツ的に身体活動を実施するのではなく、身体活動を通じて礼節や体の使い方を概説する。
・華道：草木や花を命あるものとしてとらえ、花器や花瓶の上でその美しさを表現するものである。華道の歴史的背景や現在の華道またフラワー・アレンジメントとの関連を解説し、初歩的な花を活ける実習を通して、日本の伝統文化を説明する。
・書道：臨書や自由制作を通じての漢字やかな書の実技の演習も行い、その中で鑑賞方法についても教授する。古典と実用書道、創作書道など現代書の両面から書道の在り方を概説する。
目的：
・講義において、日本の基本的な文化を学び、実社会に出てからの最低限必要な知識を概説する。
・実習において、他者と協力しながら、誠実に物事に取り組み、各文化の知識や技能を概説する。

到達目標

1. 日本の伝統文化を理解し説明することができる。
2. 学んだ道の文化を表現することができる。
3. 日本の伝統文化の知識を日常に役立てることができる。

授業計画

【第1回】
テーマ：ガイダンス・日本とは・四季を楽しむ文化
内容：季節を生かした行事・旧暦と新暦の違い
【第2回】
テーマ：にほんごという言語
内容：ユニークな言語・ことば遊び
【第3回】
テーマ：日本の食文化
内容：和食・食事とマナー
【第4回】
テーマ：「道」のつく文化
内容：「道」に通じるもの
【第5回】
テーマ：伝統文化の継承
内容：伝統文化と日本の再生・翌週からの「道」を選択

・空手道【第6回-15回】：
テーマ：「空手道」の文化を体験する
【第6回】
内容・方法：稽古にあたっての作法を理解する
【第7回】
内容・方法：基本の動きを学ぶ1：上半身中心
【第8回】
内容・方法：基本の動きを学ぶ2：下半身中心
【第9回】
内容・方法：基本の動きを学ぶ3：全身（上半身・下半身）の動き
【第10回】
内容・方法：移動の動きを学ぶ1：運足中心
【第11回】
内容・方法：移動の動きを学ぶ2：上半身と下半身の連動
【第12回】
内容・方法：基本的な型を学ぶ1：太極Ⅰ
【第13回】
内容・方法：基本的な型を学ぶ2：太極Ⅱ
【第14回】
内容・方法：基本的な技を学ぶ1：受け返し
【第15回】
内容・方法：基本的な技を学ぶ2：攻めのコンビネーション

・華道【第6回-15回】：

テーマ：「華道」の文化を体験する
【第6回】
内容・方法：「華道」の歴史や流派について学ぶ
【第7回】
内容・方法：フラワーセラピー（花との関係性を築く）
【第8回】
内容・方法：生け花の基本を学ぶ
【第9回】
内容・方法：フラワーアレンジメントの基礎を学ぶ
【第10回】
内容・方法：和花を生ける
【第11回】
内容・方法：季節のフラワーアレンジメントを生ける
【第12回】
内容・方法：フラワーセラピー（花との関係性を深める）
【第13回】
内容・方法：和花を生ける
【第14回】
内容・方法：自由創花をデザインし生ける1（学期末課題作品練習）
【第15回】
内容・方法：自由創花をデザインし生ける2（学期末課題作品作成）

・書道【第6回-15回】：
テーマ：「書道」の文化を体験する
【第6回】
内容・方法：書道の基本練習
【第7回】
内容・方法：2文字の実践練習
【第8回】
内容・方法: ４文字の実践練習、書の歴史
【第9回】
内容・方法：細字、書体の変化（楷書、行書、草書の違い）
【第10回】
内容・方法：日本の生活と書・名前、または実用書道の練習（細字）
【第11回】
内容・方法：日本の生活と書・年賀状の基本（細字）
【第12回】
内容・方法：日本の生活と書・創作年賀状（細字）
【第13回】
内容・方法：創作書道（課題決め、練習）
【第14回】
創作書道（実践、作品提出練習）
【第15回】
書道総括（基礎、創作の作品提出）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】
①事前学修課題：情報端末で「日本の四季」を調べておく　1.5時間
②事後学修課題：講義後にクラスルームより転送される資料を用いて、講義ノートを整理しながら復習し、課題作成を実施する事。　2.5時間
【第2回】
①事前学修課題：情報端末で「にほんご」を調べておく　1.5時間
②事後学修課題：講義後にクラスルームより転送される資料を用いて、講義ノートを整理しながら復習し、課題作成を実施する事。　2.5時間
【第3回】
①事前学修課題：情報端末で「日本の食文化」を調べておく　1.5時間
②事後学修課題：講義後にクラスルームより転送される資料を用いて、講義ノートを整理しながら復習し、課題作成を実施する事。　2.5時間
【第4回】
①事前学修課題：情報端末で「日本の道」を調べておく　1.5時間
②事後学修課題：講義後にクラスルームより転送される資料を用いて、講義ノートを整理しながら復習し、課題作成を実施する事。　2.5時間
【第5回】
①事前学修課題：情報端末で「伝統文化」を調べておく　1.5時間
②事後学修課題：講義後にクラスルームより転送される資料を用いて、講義ノートを整理しながら復習し、課題作成を実施する事。　2.5時間

・空手道【第6回-15回】：
【第6回】
①事前学修課題：情報端末で「空手道」を検索する　1.5時間
②事後学修課題：授業で学んだ稽古にあたっての作法を確認する　2.5時間
【第7回】
①事前学修課題：授業で学んだ稽古にあたっての作法を確認しておく　1.5時間
②事後学修課題：学んだ基本の動きをおさらいする　2.5時間

【第8回】
①事前学修課題：先週学んだ上半身の基本の動きをおさらいする　1.5時間
②事後学修課題：学んだ基本の動きをおさらいする　2.5時間
【第9回】
①事前学修課題：先週学んだ下半身基本の動きをおさらいする　1.5時間
②事後学修課題：学んだ基本の動きをおさらいする　2.5時間
【第10回】
①事前学修課題：先週学んだ上半身及び下半身基本の動きをおさらいする　1.5時間
②事後学修課題：学んだ移動の動きをおさらいする　2.5時間
【第11回】
①事前学修課題：先週学んだ運足移動の動きをおさらいする　1.5時間
②事後学修課題：学んだ移動の動きをおさらいする　2.5時間
【第12回】
①事前学修課題：先週学んだ上半身及び下半身の移動の動きをおさらいする　1.5時間
②事後学修課題：学んだ型の動きをおさらいする　2.5時間
【第13回】
①事前学修課題：先週学んだ太極Ⅰの型の動きをおさらいする　1.5時間
②事後学修課題：学んだ型の動きをおさらいする　2.5時間
【第14回】
①事前学修課題：先週学んだ太極Ⅱの型の動きをおさらいする　1.5時間
②事後学修課題：学んだ基本的な技の動きをおさらいする　2.5時間
【第15回】
①事前学修課題：先週学んだ基本的な技の動きをおさらいする　1.5時間
②事後学修課題：学んだ基本的な技の動きをおさらいする　2.5時間

・華道【第6回-15回】：
【第6回】
①事前学修課題：「華道」の歴史や流派について調べる　1.5時間
②事後学修課題：「華道」の歴史や流派についてまとめる　2.5時間
【第7回】
①事前学修課題：季節の草花を調べる　1.5時間
②事後学修課題：生け花を自分の花器に活け、デッサンをする　2.5時間
【第8回】
①事前学修課題：アレンジを考える　1.5時間
②事後学修課題：生け花を自分の花器に活け、デッサンをする　2.5時間
【第9回】
①事前学修課題：アレンジを考える　1.5時間
②事後学修課題：生け花を自分の花器に活け、デッサンをする　2.5時間
【第10回】
①事前学修課題：アレンジを考える　1.5時間
②事後学修課題：生け花を自分の花器に活け、デッサンをする　2.5時間
【第11回】
①事前学修課題：アレンジを考える　1.5時間
②事後学修課題：生け花を自分の花器に活け、デッサンをする　2.5時間
【第12回】
①事前学修課題：アレンジを考える　1.5時間
②事後学修課題：生け花を自分の花器に活け、デッサンをする　2.5時間
【第13回】
①事前学修課題：アレンジを考える　1.5時間
②事後学修課題：生け花を自分の花器に活け、デッサンをする　2.5時間
【第14回】
①事前学修課題：アレンジを考える　1.5時間
②事後学修課題：生け花を自分の花器に活け、デッサンをする　2.5時間
【第15回】
①事前学修課題：アレンジを考える　1.5時間
②事後学修課題：生け花を自分の花器に活け、デッサンをする　2.5時間

・書道【第6回-15回】：
【第6回】
①事前学修課題：書道について自身の体験の振り返り　1.5時間
②事後学修課題：基本練習の復習　2.5時間
【第7回】
①事前学修課題：楷書とは何か　1.5時間
②事後学修課題：基本練習の復習　2.5時間
【第8回】
①事前学修課題：仮名と楷書の違いとは　1.5時間
②事後学修課題：書道の歴史、基礎練習の復習　2.5時間
【第9回】
①事前学修課題：書体の種類について調べる　1.5時間
②事後学修課題：書体の違いの復習　2.5時間
【第10回】
①事前学修課題：9回の講義についての振り返り　1.5時間
②事後学修課題：名前の復習　2.5時間
【第11回】
①事前学修課題：日本の冠婚葬祭について確認　1.5時間
②事後学修課題：冠婚葬祭（年賀状）に使う文字の復習　2.5時間

【第12回】
①事前学修課題：日本の年賀状の歴史について確認　1.5時間
②事後学修課題：年賀状の基本的な作法の復習　2.5時間
【第13回】
①事前学修課題：自身の作品の文字を確認　1.5時間
②事後学修課題：次回の講義に備え、決定課題の練習　2.5時間
【第14回】
①事前学修課題：前講義での課題、最終デザインを認識　1.5時間
②事後学修課題：作品制作についての振り返り　2.5時間
【第15回】
①事前学修課題：書道全般の内容を再確認　1.5時間
②事後学修課題：書道実践について振り返り　2.5時間

課題に対するフィードバックの方法

講義では、授業中にクラスルームを通じて提出されたレポートを次回までに採点をし、次回に講評を行う。また実習にあたっては、授業中に評価ポイントを提示し、取り組んだ実技や作品の講評を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す通り、期間中に実施される通常課題の提出、期末課題、その他受講態度を採点基準とし、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由のない欠席5回以上（毎回の課題が未提出の場合、欠席扱いとなります）、また通常課題や期末課題を未提出の場合、評価の対象とせず、「1」若しくは「K」評価とする。
実習が中心となるため出席を重視し、かつ受講態度も併せて重視する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内で課される活動課題（実習形式）20やレポート課題（講義形式）10	1, 2
授業外での評価	20	授業外で課される課題	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	15回の授業終了後に課される課題	1, 2, 3
その他	20	活動や質問への回答などの積極的な受講態度	1, 2, 3

テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・講義と実習があるために、施設、用具の関係上、受講にあたって人数制限を行う。そのため必ず1回目の講義に出席する事。出席しない場合は原則、受講ができない。 　最初の5回は講義を展開する。その後の10回は「空手道」・「華道」・「書道」の内から1つを選択して各コースで実習を実施するが、それぞれ人数制限があるため、第三希望まで募り、振り分けを実施する。 「空手道」希望者は、スポーツウェア若しくは道着を用意しておくこと。 「華道」については、別途花材等、実習費が必要となる。 ・講義用のノートを用意しておくこと。

授業コード	20003001	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	暮らしのなかの憲法　［対面］				
シラバス執筆(全員)	小原　博臣				
シラバス執筆(主)	小原　博臣				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的･概要

今年は戦後80年を迎え、日本国憲法も施行から70余年を経過した。憲法は国のあり方の基本を定める最高法規である。憲法の条文には抽象的で曖昧な規定が多いが、その憲法は私たちの日々の「暮らしのなか」に息づいている。とりわけ人権規定は、歴史的に見れば市民が自らの生活を守るために国家や為政者から勝ち取ってきた成果であるが、その意味内容は、常に各々の時代や文化のなかを生きる人々の解釈を通して切り開かれてきたものである。現代を生きる私たちもまた、日々の暮らしのなかで、そのような憲法を解釈するという営為に携わっていると言える。
本講義では、日本国憲法のうち、主に基本的人権に関わる領域について解説する。特に過去の判例や現在生じている問題を素材にしながら、具体的局面における各々の人権の内容やその限界について検討する。また、教免必修科目として、なぜ憲法を学習しなければならないか、その意義についても触れていきたい。
また憲法や人権に関わる問題に取り組むうえで、自ら考え見解を述べることは重要である。そのため本講義では憲法や人権に関わる問題について、授業の中でディスカッションを行ったり、論述レポートの提出を求めたりする予定である。

到達目標

1.憲法と人権の歴史的背景と基礎的な事項を説明することができる。
2.日本国憲法の基本的人権規定が有する内容や限界を説明することができる。
3.人権規定が、現代の我々の生活とどのように関係しているのかを説明することができる。
4.習得した知識を、自分の言葉で的確に表現することができる。

授業計画

【第1回】
授業テーマ：ガイダンス
内容・方法等：講義の概要・基本方針、注意事項、成績評価、本講義で取り上げる対象、法とは何か
【第2回】
授業テーマ：日本国憲法の基礎と歴史
内容・方法等：立憲主義、法の支配、日本国憲法の成立史、憲法の基本原理
【第3回】
授業テーマ：人権総論　（人権とは何か）
内容・方法等：人権の分類、人権を享有する主体、公共の福祉
【第4回】
授業テーマ：生命・自由・幸福追求権
内容・方法等：憲法13条の意義、新しい人権の創出、プライバシーの権利　（「放っておいてもらう権利」から「私生活をみだりに公開されない権利」へ）
【第5回】
授業テーマ：自己決定権　（判例上の「人格権」との相違について）
内容・方法等：校則・就業規則に基づく規制の是非（服装、頭髪・ひげ問題）、リプロダクティブライツ（旧「優生保護法」強制不妊訴訟から）、安楽死と尊厳死、治療拒否問題
【第6回】
授業テーマ：法の下の平等（１）【総論】
内容・方法等：法の下の平等の意味、平等権と平等原則、相対的平等と絶対的平等、形式的平等と実質的平等
【第7回】
授業テーマ：法の下の平等（２）【各論：判例等から具体的事例を検討する】
内容・方法等：性差別と憲法14条、非嫡出子の相続格差、女性の再婚禁止期間、夫婦別姓、LGBTと同性婚
【第8回】
授業テーマ：信教の自由（精神的自由権について）
内容・方法等：精神的自由とは、信教の自由とその限界、政教分離原則（目的効果基準とは）
【第9回】
授業テーマ：表現の自由（１）
内容・方法等：知る権利と忘れられる権利、報道の自由と取材の自由、検閲の禁止
【第10回】
授業テーマ：表現の自由（２）
内容・方法等：表現の自由の限界（表現内容規制と内容中立規制）、ポルノ規制（芸術か猥褻か）、営利的言論の自由
【第11回】
授業テーマ：職業選択の自由　（自由主義経済と経済的自由権）
内容・方法等：営業の自由（積極目的規制と消極目的規制について）、法規制は合憲か違憲か（公衆浴場配置規制、薬局開設距離制限）
【第12回】
授業テーマ：参政権（法の下の平等との関連性）
内容・方法等：選挙権の法的性格と要件、在外邦人選挙権訴訟、一票の格差問題
【第13回】

授業テーマ：生存権　（「最低限度の生活」とは）
内容・方法等：憲法25条と法的性格、生活保護問題、判例の示した考え方の検討（朝日訴訟、堀木訴訟から）
【第14回】
授業テーマ：教育を受ける権利　（義務ではなく権利？）
内容・方法等：学習権と国の責務、学問の自由と教育の自由（旭川学力テスト事件判決から）
【第15回】
授業テーマ：まとめと補足
内容・方法等：重要事項の確認、その他の人権規定について

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、授業計画を参考にテキストの該当箇所を読んで、わからない用語等があれば法律用語辞典や国語辞典等で調べておくこと。また、新聞等で関連するニュースがあれば、スクラップするなど、1.5時間ほどの学習時間を要する。
事後学習は、授業時に配布したプリントや資料をもとに、ノート整理をするなど2.5時間ほどの学習時間を要する。

【第1回】
①事前学習課題：シラバスを確認する。テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。
【第2回】
①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。
【第3回】
①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。
【第4回】
①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。
【第5回】
①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。
【第6回】
①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。
【第7回】
①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。
【第8回】
①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。
【第9回】
①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。
【第10回】
①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。
【第11回】
①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。
【第12回】
①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。
【第13回】
①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。
【第14回】
①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。
【第15回】
①事前学習課題：疑問点等を洗い出しておくこと。
②事後学習課題：テキストと配布資料のすべて確認し、総復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業終了時にふりかえりシートを回収し、次回の授業時に冒頭でフィードバックを行う。
小テストについては、採点・解説を行う。
レポートに関しては総括して講評を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

この授業においては、正当な理由なく5回以上、但し5回未満であっても3回連続で授業を欠席した場合、また定期試験を受験しなかった場合には評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業における積極的な発言・質問(15) ふりかえりシートの提出(5) 小テスト(10)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	レポート課題	1, 2, 3, 4
定期試験	60	期末試験	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	初宿正典ほか編著『目で見る憲法[第6版]』、有斐閣、1,760円（税込）、ISBN: 978-4-641-22865-8 ※その他、必要に応じて資料等プリントを配布する。
参考書	・初宿正典ほか編『いちばんやさしい憲法入門[第6版]』（有斐閣アルマ、2020年） ・芦部信喜『憲法[第7版]』（岩波書店、2019年） ・松井茂記『日本国憲法を考える[第3版]』（大阪大学出版会、2014年） ・ポケット六法（有斐閣）、デイリー六法（三省堂）などの六法 その他のものについては、必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	「幼稚園教諭」免許状取得のためには、本科目の履修及び単位取得が必須となるので、十分気を付けること。 授業中は、特にこちらから指示のない限りスマホやパソコン等は基本的に使用しないので、授業中は机上に出さずに必ずカバンの中に入れておくこと。 授業の中ですべてを説明し尽くすことには限界があり、学生諸君の理解をより深めるためにもテキストは必ず事前に購入の上、予習および復習することが重要である。 授業への不参加（欠席）の多い者、遅刻・早退の多い者など、いわゆる出席状況の良くない者については、単位を認定することが出来なくなるので注意すること。 ※欠席学生への配布資料等の対応：前週配布分は翌週持参するので申し出ること。それ以上前の分に関しては事前にメールにて連絡すること。

授業コード	20003002	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	暮らしのなかの憲法　［対面］				
シラバス執筆(全員)	小原　博臣				
シラバス執筆(主)	小原　博臣				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的･概要

今年は戦後80年を迎え、日本国憲法も施行から70余年を経過した。憲法は国のあり方の基本を定める最高法規である。憲法の条文には抽象的で曖昧な規定が多いが、その憲法は私たちの日々の「暮らしのなか」に息づいている。とりわけ人権規定は、歴史的に見れば市民が自らの生活を守るために国家や為政者から勝ち取ってきた成果であるが、その意味内容は、常に各々の時代や文化のなかを生きる人々の解釈を通して切り開かれてきたものである。現代を生きる私たちもまた、日々の暮らしのなかで、そのような憲法を解釈するという営為に携わっていると言える。
本講義では、日本国憲法のうち、主に基本的人権に関わる領域について解説する。特に過去の判例や現在生じている問題を素材にしながら、具体的局面における各々の人権の内容やその限界について検討する。また、教免必修科目として、なぜ憲法を学習しなければならないか、その意義についても触れていきたい。
また憲法や人権に関わる問題に取り組むうえで、自ら考え見解を述べることは重要である。そのため本講義では憲法や人権に関わる問題について、授業の中でディスカッションを行ったり、論述レポートの提出を求めたりする予定である。

到達目標

1.憲法と人権の歴史的背景と基礎的な事項を説明することができる。
2.日本国憲法の基本的人権規定が有する内容や限界を説明することができる。
3.人権規定が、現代の我々の生活とどのように関係しているのかを説明することができる。
4.習得した知識を、自分の言葉で的確に表現することができる。

授業計画

【第1回】
授業テーマ：ガイダンス
内容・方法等：講義の概要・基本方針、注意事項、成績評価、本講義で取り上げる対象、法とは何か
【第2回】
授業テーマ：日本国憲法の基礎と歴史
内容・方法等：立憲主義、法の支配、日本国憲法の成立史、憲法の基本原理
【第3回】
授業テーマ：人権総論　（人権とは何か）
内容・方法等：人権の分類、人権を享有する主体、公共の福祉
【第4回】
授業テーマ：生命・自由・幸福追求権
内容・方法等：憲法13条の意義、新しい人権の創出、プライバシーの権利　（「放っておいてもらう権利」から「私生活をみだりに公開されない権利」へ）
【第5回】
授業テーマ：自己決定権　（判例上の「人格権」との相違について）
内容・方法等：校則・就業規則に基づく規制の是非（服装、頭髪・ひげ問題）、リプロダクティブライツ（旧「優生保護法」強制不妊訴訟から）、安楽死と尊厳死、治療拒否問題
【第6回】
授業テーマ：法の下の平等（１）【総論】
内容・方法等：法の下の平等の意味、平等権と平等原則、相対的平等と絶対的平等、形式的平等と実質的平等
【第7回】
授業テーマ：法の下の平等（２）【各論：判例等から具体的事例を検討する】
内容・方法等：性差別と憲法14条、非嫡出子の相続格差、女性の再婚禁止期間、夫婦別姓、LGBTと同性婚
【第8回】
授業テーマ：信教の自由（精神的自由権について）
内容・方法等：精神的自由とは、信教の自由とその限界、政教分離原則（目的効果基準とは）
【第9回】
授業テーマ：表現の自由（１）
内容・方法等：知る権利と忘れられる権利、報道の自由と取材の自由、検閲の禁止
【第10回】
授業テーマ：表現の自由（２）
内容・方法等：表現の自由の限界（表現内容規制と内容中立規制）、ポルノ規制（芸術か猥褻か）、営利的言論の自由
【第11回】
授業テーマ：職業選択の自由　（自由主義経済と経済的自由権）
内容・方法等：営業の自由（積極目的規制と消極目的規制について）、法規制は合憲か違憲か（公衆浴場配置規制、薬局開設距離制限）
【第12回】
授業テーマ：参政権（法の下の平等との関連性）
内容・方法等：選挙権の法的性格と要件、在外邦人選挙権訴訟、一票の格差問題
【第13回】

授業テーマ：生存権　（「最低限度の生活」とは）
内容・方法等：憲法25条と法的性格、生活保護問題、判例の示した考え方の検討（朝日訴訟、堀木訴訟から）
【第14回】
授業テーマ：教育を受ける権利　（義務ではなく権利？）
内容・方法等：学習権と国の責務、学問の自由と教育の自由（旭川学力テスト事件判決から）
【第15回】
授業テーマ：まとめと補足
内容・方法等：重要事項の確認、その他の人権規定について

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、授業計画を参考にテキストの該当箇所を読んで、わからない用語等があれば法律用語辞典や国語辞典等で調べておくこと。また、新聞等で関連するニュースがあれば、スクラップするなど、1.5時間ほどの学習時間を要する。
事後学習は、授業時に配布したプリントや資料をもとに、ノート整理をするなど2.5時間ほどの学習時間を要する。

【第1回】
①事前学習課題：シラバスを確認する。テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。
【第2回】
①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。
【第3回】
①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。
【第4回】
①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。
【第5回】
①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。
【第6回】
①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。
【第7回】
①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。
【第8回】
①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。
【第9回】
①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。
【第10回】
①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。
【第11回】
①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。
【第12回】
①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。
【第13回】
①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。
【第14回】
①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。
【第15回】
①事前学習課題：疑問点等を洗い出しておくこと。
②事後学習課題：テキストと配布資料のすべて確認し、総復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業終了時にふりかえりシートを回収し、次回の授業時に冒頭でフィードバックを行う。
小テストについては、採点・解説を行う。
レポートに関しては総括して講評を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

この授業においては、正当な理由なく5回以上、但し5回未満であっても3回連続で授業を欠席した場合、また定期試験を受験しなかった場合には評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業における積極的な発言・質問(15) ふりかえりシートの提出(5) 小テスト(10)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	レポート課題	1, 2, 3, 4
定期試験	60	期末試験	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	初宿正典ほか編著『目で見る憲法[第6版]』、有斐閣、1,760円（税込）、ISBN: 978-4-641-22865-8 ※その他、必要に応じて資料等プリントを配布する。
参考書	・初宿正典ほか編『いちばんやさしい憲法入門[第6版]』（有斐閣アルマ、2020年） ・芦部信喜『憲法[第7版]』（岩波書店、2019年） ・松井茂記『日本国憲法を考える[第3版]』（大阪大学出版会、2014年） ・ポケット六法（有斐閣）、デイリー六法（三省堂）などの六法 その他のものについては、必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	「幼稚園教諭」免許状取得のためには、本科目の履修及び単位取得が必須となるので、十分気を付けること。 授業中は、特にこちらから指示のない限りスマホやパソコン等は基本的に使用しないので、授業中は机上に出さずに必ずカバンの中に入れておくこと。 授業の中ですべてを説明し尽くすことには限界があり、学生諸君の理解をより深めるためにもテキストは必ず事前に購入の上、予習および復習することが重要である。 授業への不参加（欠席）の多い者、遅刻・早退の多い者など、いわゆる出席状況の良くない者については、単位を認定することが出来なくなるので注意すること。 ※欠席学生への配布資料等の対応：前週配布分は翌週持参するので申し出ること。それ以上前の分に関しては事前にメールにて連絡すること。

授業コード	20002501	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	生活と環境　［遠隔オンデマンド］				
シラバス執筆(全員)	坂田　啓三				
シラバス執筆(主)	坂田　啓三				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

私たちの暮らしや産業は地球の環境や資源などに支えられて成り立っています．これからも私たちの健康で快適な暮らしを維持するためには地球の環境や資源に関する理解を深めなければいけません．この講義では，①人間の産業活動により引き起こされた地球環境への問題，②環境を守るための活動，③食を中心とする私たちの生活の安全と環境問題との関係の3つについて解説します．これらの内容を学ぶことで，地球の環境と共存し，よりよく生きていくための基礎的な知識と思考するためのスキルを身につけることを目的とします．
この授業は，遠隔授業となります．リアルタイム型の遠隔授業（その授業時間にZoom等で参加する方法）ではなく，講義を録画した動画を一定期間中に視聴し，所定の課題を提出する形で実施する予定です．

到達目標

1.環境科学について基礎的な化学や物理学，生物学の観点から理解し説明できる．
2.私たち人間は地球の環境を構成する一員であり，私たちの生活は地球の環境に密接に関係していることを理解し，説明できる．
3.過去に人間の活動によって引き起こされた環境問題について学び，環境の悪化が私たち人間の生活にとって大きな脅威であることを理解し，説明できる．
4.環境保護の取り組みについて学ぶことで，環境問題の解決のために自分に何ができるのかを考え，行動するというプロセスについて理解し，説明できる．

授業計画

第1回　オリエンテーション：「生活と環境」に関するイントロダクションを行います．
第2回　環境科学を学ぶ上で必要な化学・物理学の基礎（復習小テスト①を実施）
第3回　環境科学を学ぶ上で必要な生物学の基礎（復習小テスト②を実施）
第4回　化学物質と健康被害：日本で発生した公害や家庭での化学物質による事故を例に，化学物質が生命に与える影響について説明します．
第5回　プラスチック問題：プラスチックごみ等による海洋の汚染について説明します．
第6回　放射能汚染：放射線の有害性を説明し，原発事故による環境への影響について説明します．
第7回　健全な水の循環と利用：上水道・下水道の役割と関連法規について説明します．
第8回　地球温暖化・前半のまとめ（確認試験①を課題として実施）
第9回　食の安全（農業と農薬）：　農業による環境負荷について説明し，持続可能な食糧生産について考えます．
第10回　食の安全（自然毒のリスクプロファイル）：山菜やキノコなど山の恵みに潜む食中毒の危険について説明します．
第11回　食の安全（ジビエの利用とそのリスク）：　近年，注目されている食材としてジビエ（野生鳥獣）の利用について，ジビエに潜むリスクを学びより良い利用法について考えます．
第12回　生物の絶滅と人間社会：人間の活動による生物の絶滅や多様性の低下について説明し，共存可能な社会について考えます．
第13回　生物多様性と環境保全①：環境を守るための法律や決まり事を説明し，よりよい共生社会とは何かについて考えます．
第14回　生物多様性と環境保全②：環境を守るための具体的な事例を学び，共生社会を目指してどのような取り組みが最善か考えます．
第15回　後半のまとめと総復習（確認試験②を課題として実施）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

2時間程度の事前学習と2時間程度の事後学習が必要です．
事前学習としてンターネットや図書館などで講義の主題に関する基礎的な周辺知識を身に着けておくことが望まれます．
また，講義終了後に講義用資料や自分で取った講義ノートを整理しながら復習し，重要事項を纏めるための事後学習が必要です．

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーおよび期末レポートは原則としてGoogle Classroomを用いての提出とします．
復習小テストおよび確認試験はGoogle Classroomを利用して行い，　解答例はGoogle Classroomを用いて示します．
質問はメールもしくはGoogle Classroomのコメント機能を利用して受け付けます．回答は同様に，メールもしくはGoogle Classroomのコメント機能を利用して返します．

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。

●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

正当な理由なく授業を5回以上欠席した場合は評価不能として「K」評価とします.
授業の出欠確認はリアクションペーパーの提出をもって行うものとします.
成績は以下の方法によって評価し，60点以上を合格として単位を認定します.

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	1. リアクションペーパー（15） 2. 復習小テスト①(10) 3. 復習小テスト②(10) 4. 確認試験①（20） 5. 確認試験②（20）	1，2，3，4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	期末レポート（25）	2，3，4
その他	0		

テキスト	テキストは指定しません.
参考書	『文系のための環境科学入門 新版』 有斐閣 ISBN 978-4641174238 『新版 新しい環境科学』 駿河台出版社 ISBN978-4411040398 その他，適宜授業内で紹介します.
履修条件・他の科目との関連	テキストや配布資料がなく，講義中のノートテイキング重視の講義です．各自がしっかりと自分のノートを作成することが求められます. 状況により授業内容の一部および順番の変更を行う場合もあります.

授業コード	20002601	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	生活と健康　［遠隔オンデマンド］				
シラバス執筆（全員）	松井　妙実				
シラバス執筆（主）	松井　妙実				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

健康は、人々にとって幸福や平和などと同様に高く価値づけられている。また、健康はその人が生活する社会の影響を大きく受け、健康に対する考え方や文化、風習、生活様式、政策、さらには経済状況により大きな違いがある。本講義では我が国の国民の健康・生活の全体像を理解し、健康を左右する生活との関係について概説し、健康増進の在り方について考える。講義での中では、小児期、成人期、老年期の健康づくり対策について具体的に考え、健康増進に向けてのパンフレットやポスターを作成し、健康増進への具体的取り組みについて理解を深める。さらに自分の健康課題と解決策について考える。
★この授業は、オンデマンド型の授業になります。リアルタイム型の遠隔授業ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を指定期日内に提出していただく形で実施する予定です。

到達目標

１．健康の概念について説明できるようになる。
２．健康観には様々な考え方があることを説明できるようになる。
３．主要な公的資料の結果から、国民全体の健康と生活像について説明できるようになる。
４．自分の健康課題について説明できるようになる。
５．健康増進に対する関わり方について応用できるようになる。

授業計画

【第１回】オリエンテーション
【第２回】健康のとらえ方１：健康とは何か、障害とは何か
【第３回】健康のとらえ方２：生活と疾患、障害の予防、健康とＱＯＬ
【第４回】国民の健康状態
【第５回】国民のライフサイクル
【第６回】小児期の健康問題の現状と課題
【第７回】小児期の健康づくり対策
【第８回】小児期の健康増進をはかるための取り組みの実際
【第９回】成人期の健康問題の現状と課題
【第10回】成人期の健康づくり対策
【第11回】成人期の健康増進をはかるための取り組みの実際
【第12回】老年期の健康問題の現状と課題
【第13回】老年期の健康づくり対策
【第14回】老年期の健康増進をはかるための取り組みの実際
【第15回】まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

第1回
【事前】シラバスを確認し、授業構成を理解する。1.0時間
【事後】「自分が健康だと思うこと」について考え、ノートに記述する。2.0時間
第2回
【事前】ＷＨＯの健康の定義について調べ、ノートに記述する。2.0時間
【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第３回
【事前】「障害の予防」について考え、ノートに記述する。2.5時間
【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第４回
【事前】健康状態を反映する統計について調べ、ノートに記述する。2.5時間
【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第５回
【事前】平均寿命について調べ、日本が世界でも長寿国である理由を考え、ノートに記述する。2.5時間
【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第６回
【事前】小学生時代に罹患した疾患について思い出し、その時の気持ちや受けた医療や看護について、ノートに記述する。2.5時間
【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第7回
【事前】小児期の健康づくり対策について調べ、ノートに記述する。2.5時間
【事後】小児期の健康づくりに必要な媒体を考える。2.5時間
第8回
【事前】小児期の健康づくりに必要な媒体を作成する。2.5時間

【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第9回
【事前】過去1年間の自分の健康状態について、ノートに記述する。2.5時間
【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第10回
【事前】成人期の健康づくり対策について調べ、ノートに記述する。2.5時間
【事後】成人期の健康づくりに必要な媒体を考える。2.5時間
第11回
【事前】成人期の健康づくりに必要な媒体を作成する。2.5時間
【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第12回
【事前】自分が70歳になったと想定し、自分の健康がどのように変化するかについて考え、ノートに記述する。2.5時間
【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第13回
【事前】老年期の健康づくり対策について調べ、ノートに記述する　２.5時間
【事後】老年期の健康づくりに必要な媒体を考える　2.5時間
第14回
【事前】老年期の健康づくりに必要な媒体を作成する。２.5時間
【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第15回
【事前】授業資料、ノートを復習し、不明な点について質問できるように準備する。1.5時間
【事後】健康増進の必要性について、ノートに記述する。1.5時間

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題について採点し、評価結果については希望者に開示する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す通り、授業中に実施する課題・レポートと期末試験（レポート）の評価結果に基づき評価し、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由のない欠席６回以上、または課題・定期試験に代わるレポートを未提出の場合は評価対象外とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業内で課される課題(30) 授業終了時に記述する受講レポート(40)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	講義終了後に実施する定期試験に代わるレポート課題(30)	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 テキストに代わる資料として、Google Classroom を通じて授業資料を配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	日頃からニュースなどを見て、健康に関する知識を身につけておくことが望ましい。 正当な理由のない6回以上の欠席で評価対象外とする。 Goggle Classroom のクラスコードは開講までに UNIPA を通じて掲示するので、開講が近づいたら確認しておくこと。 第１回の講義に必ず出席して講義の進め方に関する注意事項を確認すること。 講義内で課す課題を提出することにより出席を確認する。課題提出の締め切りは講義動画の公開から原則として1週間とする。

授業コード	20002301	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	人権教育論　［対面］				
シラバス執筆(全員)	長澤　敦士				
シラバス執筆(主)	長澤　敦士				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

【概要】　「深夜3時の人権論」
　例えば、この社会には深夜3時になると明日を生きることではなく、いま・ここで自ら命を絶つという選択をしようとする人たちがいます。少なくとも、わたしの人生ではそういう他者（ひと）とかかわる機会が何度かありました。わたしは彼ら／彼女らとどれだけかかわっても、彼ら／彼女らがそう思うに至る背景を説明するための道筋をつくることが出来ずにいます。なぜなら、彼ら／彼女らのことを「理解する」道筋には、いくつもの困難が付きまとうからです。それでも、わたしは彼ら／彼女らの背景にあるものを「理解」したいとは思っています。
　ところで、一般的に人権とは「人が生きるためにどうしても必要なもの、奪われてはならないもの」（森田2000：31）と言われています。今日の社会では、この意味での「人権」が実現されるためにさまざまな法律や政策が制定／策定され施行／実施されています。そうした法律や政策はとても大切です。しかし、これらの法律や政策はときにわたしたちの日常において「人権」を実現しようとすることの弊害になることがあるのも事実です。そこで、この講義では「そもそも「人権」を日常の中で保障するとはどういうことなのか」という問いを基盤にして、例えば、深夜3時に自ら命を絶つという選択しようとしたけれども、最終的に明日を生きることを選択した人を「メンヘラ」や「躁鬱病」といった名前を付けて理解してしまうのではなく（もちろん、そうした理解の可能性も残しつつ。）、そうした人々の個別具体的な人生や生活に光を当てることで日常的実践（≠政策や法律）として実現される「人権」の在り処（ありか）を受講生のみなさんと一緒に探究します。
【講義形態】　この講義は基本的に講義形式で行う予定ですが、受講者数によっては受講生同士のディスカッションを中心とした形式で行う可能性があります。

到達目標

1. 人権にかかわる社会問題についての基本的な事項を自分の言葉で説明することができる。
2. 人権にかかわる社会問題について複眼的に考え、自分なりの意見を述べることができる。

授業計画

【第1回】　はじめに　――　この社会に絶望することについて
キーワード　「答え」のない問い、複眼的思考
【第2回】　「人間らしくある」とはどのようなことか　――　理想／理念としての人権について考える
キーワード　世界人権宣言、国際人権規約、社会権と自由権
【第3回】　「思いやり」で差別はなくなるのか　――　差別/排除について考える
キーワード　差別／排除、マイノリティとマジョリティ、差別の日常
【第4回】　なぜオフィスでラブなのか　――　性について考える①
キーワード　ジェンダー、性別役割分業、フェミニズム
【第5回】　みんな違って、みんないい、のか？　――　性について考える②
キーワード　LGBT＋、SOGIE、アセクシュアル/アロマンティック
【第6回】　『カランコエの花』　――　性について考える③
キーワード　カミングアウト、アウティング、ALLY
【第7回】　「別れるなら死ぬ」という暴言　――　「加害者になること」について考える①
キーワード　DV、ハラスメント、二次加害/二次被害
【第8回】　“No means No!”でいいのか　――　「加害者になること」について考える②
キーワード　中絶/避妊、性的同意、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
【第9回】　無駄とされる人々　――　障害について考える①
キーワード　障害の社会モデル、当事者主権、生活自立運動
【第10回】　「愛と正義を否定」された先に何をどうすればいいのか　――　障害について考える②
キーワード　障害児・者支援、合理的配慮、インクルーシブ社会
【第11回】　ホームレスにすらなれない女性たち　――　貧困について考える①
キーワード　絶対的貧困／相対的貧困、世帯の中に隠れた貧困、社会的排除
【第12回】　家族に足を引っ張られる人生　――　貧困について考える②
キーワード　子ども・若者の貧困、貧困の連鎖（貧困の世代的再生産）、生活保護制度
【第13回】　「移民」でも、「難民」でもなく　――　外国にもつながりがある人々について考える
キーワード　移民／難民、非正規移民、同化主義/多文化主義
【第14回】　「メンヘラ」と呼ばれる人々をつくりだすもの　――　「深夜3時の人権論」の応用問題
キーワード　パパ活、自傷行為（リストカット）、依存症、売春防止法
【第15回】　おわりに　――　この社会で希望を持つことについて
キーワード　トラウマの環状島、レジリエンス、生活史法
※上記に示したものはあくまで予定であり、受講生の関心や興味に合わせて講義内容は変更する可能性があります。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：自らの日々の日常生活（例えば、サークル活動やバイト、ボランティア、家族、パートナー、など）に潜む差別や排除にまつわる事象に敏感になること。各回で2時間程度。
事後学習：講義で共有したことや考えたことを念頭に、改めて自らの日々の日常生活を「人権」の視点で捉え返すこと。必要に応じて講義内で紹介した参考書籍なども読むこと。各回で2時間程度。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたコメントシートに対しては、適宜、講義内でコメントを付します。
また、実施した課題について採点後、希望者についてはコメントを付して返却することも考えています。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す授業内外での評価及びレポート試験により総合的に判断し、100点満点で60点以上を合格とします。
正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、評価の対象とせず「Ｋ」評価とします。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業内での発言、毎回の授業後に提出するコメントシート	1，2
授業外での評価	10	中間レポート	1，2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	全授業終了後に実施するレポート試験	1，2
その他	0		

テキスト	特に指定はありません。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介します。ただし、以下の書籍は本講義との関連で参考になるものです。①と②の書籍は本学の図書館で借りることができます。興味のある方は手に取ってみてください。 ① 森山至貴（2020）『10代から知っておきたい　あなたを閉じこめる「ずるい言葉」』、WAVE出版。 ② 宮地尚子（2013）『トラウマ』、岩波書店。 ③ 小川たまか（2018）『「ほとんどない」ことにされている側から見た社会の話を。』、タバブックス。
履修条件・他の科目との関連	履修条件はとくに指定しませんが、社会問題について自分なりの視点から考える意欲のある学生を歓迎します。 また、講義資料は授業終了後にGoogle Classroomにアップロードするので、必要に応じて確認してください。

授業コード	20002302	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	人権教育論　［対面］				
シラバス執筆(全員)	長澤　敦士				
シラバス執筆(主)	長澤　敦士				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的･概要

■講義のテーマ　「”当事者”として考える人権教育/保育論」
■講義の目的・概要
　この社会には、さまざまな〈生きづらさ〉を抱えさせられている子ども・若者がいます。例えば、貧困の中にある子ども・若者、虐待がある家庭で育つ/育った子ども・若者、セクシュアル・マイノリティを自認する子ども・若者、自傷行為をする子ども・若者などはしばしば〈生きづらさ〉を抱えさせられている子ども・若者の例としてメディアなどで取り上げられます。そして、これらの〈生きづらさ〉はひろく「人権」にかかわる社会問題と深く関わっています。一方で、子ども・若者とかかわる現場にいる大人に目を転じてみると、大人もまたさまざまな〈生きづらさ〉を抱えさせられていることに気が付きます。例えば、DVの中にある人やハラスメントがある組織で働く人、働き過ぎによってバーンアウトする人などは大人の〈生きづらさ〉としてしばしばメディアなどで取り上げられます。これらの〈生きづらさ〉もまたひろく「人権」にかわる社会問題と深く関わっていることは言うまでもありません。このような〈生きづらさ〉を少しでもマシにするために、児童福祉（保育を含む。）や幼児教育の現場ではどのような取り組みが求められているのでしょうか。
　この講義では、これらの〈生きづらさ〉について「当事者」の視点から考えます。「当事者」とは、「社会問題を自分ごとにして、社会問題に取り組む人たち」のことを意味する言葉です。この講義では、とりわけ、「子ども」・「養育者」・「保育者」を児童福祉や幼児教育の現場にかかわる「当事者」と定め、それぞれの視点から児童福祉や幼児教育の現場で起きている「人権」にかかわる社会問題を受講生のみなさんと共有します。その上で、これまでの人権教育/保育の実践や思想に学びながら、これからの社会で求められる人権教育/保育の可能性を受講生のみなさんと一緒に探求します。

到達目標

1. 人権教育/保育の意義・目的について自分の言葉で説明できる。
2. 人権教育/保育の歴史・思想とその背景にある人権の思想・歴史について自分の言葉で説明できる。
3. 子どもや若者の権利を保障する教育や福祉の法的・制度的仕組みについて自分の言葉で説明できる。
4. 現代の子ども・若者の権利にかかわる社会問題について複眼的に考え、自分なりの意見を展開できる。

授業計画

【第1回】　はじめに　――　社会に“わたし”をひらくということ
キーワード　子ども・若者の社会問題、当事者、人権
【第2回】　「子どもらしくある」ために必要なこと　――　子どもの権利の歴史・思想について考える
キーワード　世界人権宣言、子どもの権利条約、子どもの最善の利益
【第3回】　子どもを“産まない”ことのジレンマ　――　「養育者」の視点から社会問題を考える①
キーワード　DV、中絶/避妊、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、包括的性教育
【第4回】　子どもを育てることが「罰」になるとき　――　「養育者」の視点から社会問題を考える②
キーワード　児童虐待、性別役割分業、隠れ保育費（隠れ教育費）、特定妊婦
【第5回】　「自分らしさ」を抑圧するもの　――　「子ども」の視点から社会問題を考える①
キーワード　ジェンダー、LGBT＋/SOGIE、隠れたカリキュラム
【第6回】　みんな違って、みんないい、のか？　――　「子ども」の視点から社会問題を考える②
キーワード　障害の個人モデル/社会モデル、合理的配慮、インクルーシブ保育
【第7回】　さまざまなコミュニケーションの方法　――　「子ども」の視点から社会問題を考える③
キーワード　移民/難民、同化主義/多文化主義、多文化共生保育
【第8回】　中間レポートの振り返り　――　「人権」に関する絵本を紹介しよう！
キーワード　子どもの権利、人権問題、絵本
【第9回】　子どもにかかわる仕事の「やりがい」とは？　――　「保育者」の視点から社会問題を考える①
キーワード　労働者としての「保育者」、同僚という存在、ピアカウンセリング
【第10回】　「そんなつもりじゃなかった」という言い訳　――　「保育者」の視点から社会問題を考える②
キーワード　不適切保育、感情労働、バーンアウト
【第11回】　子どものために“なれない”わたしたち　――　「保育者」の視点から社会問題を考える③
キーワード　やりがい搾取、ハラスメント、二次被害/二次加害
【第12回】　やめたくても、やめられないこと　――　「子ども」の視点から社会問題を考える④
キーワード　非行、自傷行為（リストカット）、スティグマ
【第13回】　もうひとつのクリスマス　――　「子ども」の視点から社会問題を考える⑤
キーワード　絶対的貧困/相対的貧困、貧困の連鎖（貧困の世代的再生産）、生活保護制度
【第14回 】　わたしの子ども、わたしたちの子ども　――　人権教育/保育の歴史・思想について考える
キーワード　地域社会、「居場所づくり」、レジリエンス
【第15回】　おわりに　――　社会を“わたし”がひらくということ
キーワード　人権教育/人権保育、ケア、共生/共在

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：子ども・若者にかかわる社会問題にメディア（テレビ、新聞、SNSなど）を通じて触れること。各回2時間程度。
事後学習：講義で共有したことや考えたことを念頭に、改めて自らの日常生活を「人権」の視点で捉え返すこと。必要に応じて講義内で紹介した参考資料を読んだり、見たりすること。各回2時間程度。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたコメントシートに対しては、適宜、講義内でコメントを付します。
提出された中間レポートは講義内で受講生と共有する時間を設けます。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定します。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とします。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業内での発言、授業後に提出するコメントシート	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	中間レポート	1, 2, 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	全授業終了後に実施するレポート試験	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	使用しません。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介します。ただし、以下の書籍は本講義との関連で参考になるものです。 ① 桜井智恵子（2012）『子どもの声を社会へ：子どもオンブズの挑戦』、岩波書店。 ② 森山至貴（2020）『10代から知っておきたい　あなたを閉じこめる「ずるい言葉」、WAVE出版。 ③ 法務省・文部科学省編（2024）『人権教育・人権啓発白書（令和6年版）』（リンク：https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken04_00292.html　）
履修条件・他の科目との関連	この講義は幼稚園教諭免許の取得のために必要な科目です。 講義資料は授業終了後にGoogle Classroomにアップロードするので、必要に応じて確認してください。 関連科目として、「教育原理」があります。

授業コード	20002401	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	生涯スポーツ論　［対面］				
シラバス執筆（全員）	佐藤　光子				
シラバス執筆（主）	佐藤　光子				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

スポーツには一人一人の健康だけでなく、地域社会再生・経済発展・国際平和貢献など重要な意義と効果があることが期待されている。わが国のスポーツ基本法（2011年制定）をはじめ世界の多くの国では、スポーツを世界共通の人類の文化であるとし、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことはすべての人々の権利であると謳っている。これらのことをふまえて、スポーツを生涯の友として豊かに暮らすための知識と考察を深めよう。
本講義では、映像や画像資料などを用いて講義を行い、理解度テストを実施して採点返却する。
これまでのあなたの人生で出会ったスポーツを振り返ることから始めるが、競技としてのスポーツだけでなく、健康や楽しみのためのスポーツ、様々な工夫を加えた新たなスポーツなども解説する。スポーツを歴史的・社会的な観点や、医学的・科学的な観点などから幅広く考えることができるよう、様々な資料を提供する。
長年に亘り、ランニング学会認定上級指導者として、また日本トレイルランナーズ協会理事として、一般市民のスポーツ指導に携わっている実務家教員としての経験をもとに講義を進めたい。

到達目標

１．スポーツの歴史をふまえて、現代のスポーツの定義を説明できる
２．スポーツと健康、ケガ、病気、子どもの成長などについて医療と発達科学の観点から説明できる
３．様々な種類のスポーツについて、その内容を説明できる
４．スポーツと平和、人権、マナーなどについて、その問題点を説明できる
５．講義で得た知見に加えて、自身で調べたことや考えについて述べられる
６．講義で得た知見をふまえて、自身のスポーツ観について述べられる

授業計画

この授業は対面授業です。
【第1回】オリエンテーション
講義の主題、受講や課題提出の方法、到達目標と評価方法について確認する
【第2回】スポーツとは何か
現代社会におけるスポーツの定義について考える
【第3回】スポーツの歴史
古代オリンピックから近代スポーツまでの変遷を学ぶ
【第4回】スポーツと健康
スポーツと健康との基本的な関係について理解する
【第5回】有酸素運動
呼吸循環機能を維持向上させる有酸素運動について理解する
【第6回】レジスタンス運動
筋力を維持向上させるレジスタンス運動について理解する
【第7回】スポーツと病気
貧血などの慢性障害、心停止や熱中症などの急性障害を知り、感染症対策についても理解する
【第8回】スポーツとケガ
捻挫などの急性障害、疲労骨折などの慢性障害を知り、応急処置を身につける
※中間レポート　ここまでの講義の中で強く関心を持った内容についてレポートを提出する
【第9回】子どもの成長とスポーツ
成長期の子どもの身体の特徴を知り、スポーツにおける留意点を理解する
【第10回】スポーツの楽しみ方
スポーツを「みる」楽しみとして、スポーツを題材とした小説、映画、マンガなどの作品を探してみる
【第11回】アダプテッドスポーツ
ルールや用具などを参加者の状況に合わせたスポーツ、アダプテッドスポーツの概念を理解する
【第12回】多様化するスポーツ
既存の競技を簡便にしたもの、昔の遊びをスポーツ化したもの、まったく新たな発想で生まれたスポーツなど、現代の様々なスポーツについて調べる
【第13回】スポーツと平和
スポーツと平和や人権について、社会で話題になった事例などをもとに考える
【第14回】スポーツのルールとマナー
厳しい自然の中のアウトドアスポーツを事例としてルールとマナーについて考える
【第15回】講義のまとめ
第10回授業での「スポーツを題材とした作品」の投票結果の発表と講評のほか、講義全体を総括する
※最終レポート　すべての講義を通じて強く関心を持った内容、または講義全体を通じてのレポートを提出する

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、翌週の講義テーマについて自ら調べ、概要を把握しておくこと。
事後学習としては、授業で紹介したものだけでなく自ら調べた書籍やインターネット情報などを活用し、理解を

深めること。特に理解度テストで間違えた事柄についてはきちんと調べておこう。
毎回の授業につき、事前学習1.5時間程度、事後学習2.5時間程度が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

毎回講義後に理解度テストを実施するが、提出期限後に採点し返却する。
２回のレポートも、提出期限後に採点し返却する。
評価に対する質問があれば授業時に直接尋ねること。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする（６回以上の欠席はこれに該当する）。

これらの条件を満たしたうえで、以下に示す評価方法により60点以上獲得したものを合格とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	毎回の授業後に行う理解度テスト(70)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	15	全講義の前半を終えた時点で提出する中間レポート(15)	5, 6
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	全講義終了後に提出する最終レポート(15)	5, 6
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない。
参考書	講義内で適宜紹介する。
履修条件・他の科目との関連	特になし。

授業コード	20002402	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	生涯スポーツ論　［対面］				
シラバス執筆(全員)	仲村　直人				
シラバス執筆(主)	仲村　直人				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的･概要

スポーツには一人一人の健康だけでなく、地域社会再生・経済発展・国際平和貢献など重要な意義と効果があることが期待されている。わが国のスポーツ基本法(2011年制定)をはじめ世界の多くの国では、スポーツを世界共通の人類の文化であるとし、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことはすべての人々の権利であると謳っている。これらのことをふまえて、スポーツを生涯の友として豊かに暮らすための知識と考察を深める。これまでの人生で出会ったスポーツを振り返ることから始めるが、競技としてのスポーツだけでなく、健康や楽しみのためのスポーツ、様々な工夫を加えた新たなスポーツなども解説する。スポーツを歴史的・社会的な観点や医学的・科学的な観点などから幅広く考えることができるよう、長年にわたりプロスポーツの世界で活動を続けてきた実務家教員として、様々な資料を提供しつつ授業を展開していく。

到達目標

1. スポーツの歴史をふまえて、現代のスポーツの定義を説明できる
2. スポーツと健康、ケガ、病気、子供の成長などについて医療と発達科学の観点から説明できる
3. 様々な種類のスポーツについて、その内容を説明できる
4. スポーツと平和、人権、マナーなどについてその問題点を説明できる
5. 講義で得た知見に加えて、自信で調べたことや考えについて述べられる
6. 講義で得た知見をふまえて、自信のスポーツ観について述べられる

授業計画

【第1回】オリエンテーション
講義の主題、受講や課題提出の方法、到達目標と評価方法について確認する
【第2回】人間にとって「動く」とは何か？
人間にとって体を動かすことがどのような意味をもっているかを解説する
【第3回】スポーツの始まりと変遷
スポーツとは何か、その始まりについて解説する
【第4回】文化としてのスポーツ
スポーツを文化としてとらえることの意味を解説する
【第5回】オリンピックと国際理解
オリンピズム、オリンピックムーブメントについて解説する
【第6回】」スポーツと経済
スポーツの経済波及効果について具体的に解説する
【第7回】ドーピングとスポーツ倫理
スポーツ倫理が求められる理由について解説する
【第8回】生涯スポーツの見方・考え方
ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方を解説する
【第9回】ライフスタイルに応じたスポーツ
多様なスポーツとのかかわり方を解説する
【第10回】日本のスポーツ振興
国や地方自治体がおこなっているさまざまなスポーツ振興の施策を解説する
【第11回】スポーツと環境
スポーツの発展につれ環境にさまざまな影響を与えていることを解説する
【第12回】スポーツの技術と戦術
技術と技能の違いや技能の発揮の仕方を解説する
【第13回】技能と体力
技能と体力の関係について解説する
【第14回】運動やスポーツでの安全確保
運動やスポーツによるケガや病気の原因について解説する
【第15回】講義のまとめ
第1回から第14回の講義内容について確認をする

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、翌週の講義のテーマについて自ら調べ、概要を把握しておくこと。
事後学習としては、授業で紹介したものだけでなく自ら調べた書籍やインターネット情報などを活用し、理解を深めること。特に理解度テストで間違えた事柄についてはきちんと調べておこう。

課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法

毎回講義後に理解度テストを実施し、解答例は翌週の講義冒頭で提示する。
評価に対する質問があれば授業時に直接尋ねること。

成績評価の方法・基準（方針）
●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。 ●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	毎回の授業後に行う理解度テスト(75)	1,2,3,4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	全講義終了後に実施するレポート課題 (25)	5,6
その他	0		

テキスト	テキストを使用せず必要に応じてプリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	特になし

授業コード	20002403	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	生涯スポーツ論　［対面］				
シラバス執筆（全員）	西村　真由子				
シラバス執筆（主）	西村　真由子				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

2011年に制定されたわが国のスポーツ基本法では、スポーツを世界共通の人類の文化であるとし、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことはすべての人々の権利であると謳っている。またスポーツには健康・地域社会再生・経済発展・国際平和貢献など重要な意義と効果があることも期待されている。これらのことをふまえて、スポーツを生涯の友として豊かに暮らすための知識と考察を深める。
※授業では、担当教員のスポーツアナリストとしての実務経験を活かしながら、全15回のうち２回は、実際に身体を動かしてスポーツを実践する授業を行うものとする。

到達目標

１．スポーツの歴史と現状を学び、スポーツを文化として理解し説明することができる。
２．成人の健康を維持向上させるスポーツへの取り組み方を説明できる。
３．子どもの心身の成長を促すスポーツへの取り組み方を説明できる。
４．生涯にわたって運動することの大切さを説明できる。

授業計画

第　１回　スポーツとは何か（授業の進め方、現代社会におけるスポーツの定義・意義について）
第　２回　スポーツの概念と歴史（スポーツの多様性、国際共通語としてのスポーツについて）
第　３回　子どもの成長とスポーツ①（成長期の身体の特徴とスポーツとの関連について）
第　４回　子どもの成長とスポーツ②（注意すべきスポーツ障害について）
第　５回　子どもの成長とスポーツ③（スポーツが心の健康に及ぼす影響について）
第　６回　中高年者とスポーツ（生活習慣病の予防、精神的効果、加齢に伴う身体機能の変化について）
第　７回　女性とスポーツ（女性の健康づくりについて）
第　８回　成人の健康とスポーツ①柔軟性について（柔軟運動、ストレッチの実践について）
第　９回　成人の健康とスポーツ②身体組成について（体重、体脂肪率、筋肉量などについて）
第10回　成人の健康とスポーツ③有酸素運動（呼吸循環機能の維持向上について、有酸素運動について）
第11回　成人の健康とスポーツ④レジスタンス運動（筋力の維持向上について、レジスタンス運動について）
第12回　スポーツの実践①日常生活の中で実践できる運動として有酸素運動を実際にやってみる
　　※運動に適した服装、靴が必要である。講義場所：1号館地下トレーニングルーム
第13回　スポーツの実践②日常生活の中で実践できる運動としてレジスタンス運動を実際にやってみる
　　※運動に適した服装、靴が必要である。講義場所：1号館地下トレーニングルーム
第14回　トレーニングの原理原則
第15回　まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。
各回講義テーマについて事前に自ら調べ、概要を把握しておく。また、事後には授業プリント・ノートを確認し、講義内容を復習する。興味や疑問をもった内容について、調べる、専門書を読むなど学びを深める。
スポーツ全般に関心を持ち、時事的話題などについて自ら収集する姿勢を求める。

課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法

毎時の確認テストの正答例やよい解答、質問などについては、次回授業の冒頭で紹介をし、解説する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、期末レポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する 。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	毎時授業後の確認テスト内容にて評価	1、2、3、4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	25	全授業終了後に実施するレポート課題	4
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、プリントを配布。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	トレーニングルームを使用し、スポーツを実践する回もあるので、運動に適した服装と靴を用意しておくことが必要。詳細は初回講義で説明する。 欠席した場合、配布資料で復習をしておくこと。

授業コード	20000901	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	英語Ⅰ（Basic Conversation）　[対面]				
シラバス執筆(全員)	宮本　佳奈				
シラバス執筆(主)	宮本　佳奈				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:
1 develop the ability to converse about various everyday topics.
2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
テーマ：Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Unit 1: How are you?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 1 Dialog & pair work.
【第2回】
テーマ：Unit 1: How are you?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 1 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.
【第3回】
テーマ：Unit 2: Do you understand?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 2 Dialog & pair work.
【第4回】
テーマ：Unit 2: Do you understand?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 1 & 2 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test
【第5回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 1, 2)
内容・方法： Practice test Units 1 & 2. Unit 1 & 2 Games
【第6回】
テーマ： Unit 3: This is my room
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 3 Dialog & pair work.
【第7回】
テーマ：Unit 3: This is my room
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 3 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第8回】
テーマ： Unit 4: When do you get up?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 4 Dialog & pair work.
【第9回】
テーマ：Unit 4: When do you get up?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 4 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第10回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 3, 4)
内容・方法： Practice test Units 3 & 4. Unit 3 & 4 Games
【第11回】
テーマ： Unit 5: Who's that?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 5 Dialog & pair work.
【第12回】
テーマ：Unit 5: Who's that?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 5 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第13回】
テーマ： Unit 6: That's a great shirt!
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 6 Dialog & pair work.
【第14回】

テーマ：Unit 6: That's a great shirt!
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 6 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第15回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 5, 6)
内容・方法： Practice test Units 5 & 6. Unit 5 & 6 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.
【第1回】
①事前学修課題：Buy a textbook.
②事後学修課題：Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 1
【第2回】
①事前学修課題：Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 1. Do the unit test.
【第3回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 2 Vocabulary and read dialog 2. Practice dialog 1.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 2.
【第4回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 1 & 2. Do the unit test.
【第5回】
①事前学修課題：Review Unit 1 & 2 for a test. Practice and memorize dialogs 1 & 2 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments.
【第6回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 3 Vocabulary and dialog 3.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 3.
【第7回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 3. Do the unit test.
【第8回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 4 Vocabulary and dialog 4. Practice dialog 3.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 4.
【第9回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 3 & 4. Do the unit test.
【第10回】
①事前学修課題：Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 3 & 4 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments.
【第11回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 5 Vocabulary and dialog 5.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 5.
【第12回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 5. Do the unit test.
【第13回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 6 Vocabulary and dialog 6. Practice dialog 5.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 6.
【第14回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 5 & 6. Do the unit test.
【第15回】
①事前学修課題：Review Unit 5 & 6 for a test. Practice and memorize dialogs 5 & 6 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。

●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点 以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:
1) Participation and class activities (10%)
2) Dialog performance tests (30%)
2) Homework and unit tests (20%)
3) 3 Review tests (30%)
4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld. (5/E) Student Book, Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
参考書	Introduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	Attendance Policy & Notes: 1) You will get more information from the teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。 2) You are expected to attend EVERY class and arrive on time. It will be difficult to pass the course if you are absent more than three times. 授業には毎回出席し、時間通りに来ることが求められます。3回以上欠席すると合格は難しくなります。 3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回として みなされる。 4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできるが、欠席扱いとなる。 5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD – 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。

授業コード	20000903	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	英語Ⅰ（Basic Conversation）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	T.ピート				
シラバス執筆(主)	T.ピート				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:
1 develop the ability to converse about various everyday topics.
2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
テーマ：Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Unit 1: How are you?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 1 Dialog & pair work.
【第2回】
テーマ：Unit 1: How are you?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 1 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.
【第3回】
テーマ：Unit 2: Do you understand?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 2 Dialog & pair work.
【第4回】
テーマ：Unit 2: Do you understand?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 1 & 2 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test
【第5回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 1, 2)
内容・方法： Practice test Units 1 & 2. Unit 1 & 2 Games
【第6回】
テーマ： Unit 3: This is my room
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 3 Dialog & pair work.
【第7回】
テーマ：Unit 3: This is my room
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 3 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第8回】
テーマ： Unit 4: When do you get up?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 4 Dialog & pair work.
【第9回】
テーマ：Unit 4: When do you get up?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 4 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第10回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 3, 4)
内容・方法： Practice test Units 3 & 4. Unit 3 & 4 Games
【第11回】
テーマ： Unit 5: Who's that?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 5 Dialog & pair work.
【第12回】
テーマ：Unit 5: Who's that?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 5 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第13回】
テーマ： Unit 6: That's a great shirt!
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 6 Dialog & pair work.
【第14回】

テーマ：Unit 6: That's a great shirt!
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 6 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第15回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 5, 6)
内容・方法： Practice test Units 5 & 6. Unit 5 & 6 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.
【第1回】
①事前学修課題：Buy a textbook.
②事後学修課題：Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 1
【第2回】
①事前学修課題：Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 1. Do the unit test.
【第3回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 2 Vocabulary and read dialog 2. Practice dialog 1.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 2.
【第4回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 1 & 2. Do the unit test.
【第5回】
①事前学修課題：Review Unit 1 & 2 for a test. Practice and memorize dialogs 1 & 2 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments.
【第6回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 3 Vocabulary and dialog 3.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 3.
【第7回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 3. Do the unit test.
【第8回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 4 Vocabulary and dialog 4. Practice dialog 3.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 4.
【第9回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 3 & 4. Do the unit test.
【第10回】
①事前学修課題：Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 3 & 4 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments.
【第11回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 5 Vocabulary and dialog 5.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 5.
【第12回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 5. Do the unit test.
【第13回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 6 Vocabulary and dialog 6. Practice dialog 5.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 6.
【第14回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 5 & 6. Do the unit test.
【第15回】
①事前学修課題：Review Unit 5 & 6 for a test. Practice and memorize dialogs 5 & 6 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。

●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点 以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:
1) Participation and class activities (10%)
2) Dialog performance tests (30%)
2) Homework and unit tests (20%)
3) 3 Review tests (30%)
4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld. (5/E) Student Book, Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
参考書	Introduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	Attendance Policy & Notes: 1) You will get more information from the teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。 2) You are expected to attend EVERY class and arrive on time. It will be difficult to pass the course if you are absent more than three times. 授業には毎回出席し、時間通りに来ることが求められます。3回以上欠席すると合格は難しくなります。 3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回として みなされる。 4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできるが、欠席扱いとなる。 5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD – 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。

授業コード	20000904	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	英語Ⅰ（Basic Conversation）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	J.C.デン				
シラバス執筆(主)	J.C.デン				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:
1 develop the ability to converse about various everyday topics.
2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
テーマ：Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Unit 1: How are you?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 1 Dialog & pair work.
【第2回】
テーマ：Unit 1: How are you?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 1 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.
【第3回】
テーマ：Unit 2: Do you understand?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 2 Dialog & pair work.
【第4回】
テーマ：Unit 2: Do you understand?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 1 & 2 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test
【第5回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 1, 2)
内容・方法： Practice test Units 1 & 2. Unit 1 & 2 Games
【第6回】
テーマ： Unit 3: This is my room
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 3 Dialog & pair work.
【第7回】
テーマ：Unit 3: This is my room
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 3 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第8回】
テーマ： Unit 4: When do you get up?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 4 Dialog & pair work.
【第9回】
テーマ：Unit 4: When do you get up?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 4 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第10回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 3, 4)
内容・方法： Practice test Units 3 & 4. Unit 3 & 4 Games
【第11回】
テーマ： Unit 5: Who's that?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 5 Dialog & pair work.
【第12回】
テーマ：Unit 5: Who's that?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 5 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第13回】
テーマ： Unit 6: That's a great shirt!
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 6 Dialog & pair work.
【第14回】

テーマ：Unit 6: That's a great shirt!
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 6 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第15回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 5, 6)
内容・方法： Practice test Units 5 & 6. Unit 5 & 6 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.
【第1回】
①事前学修課題：Buy a textbook.
②事後学修課題：Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 1
【第2回】
①事前学修課題：Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 1. Do the unit test.
【第3回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 2 Vocabulary and read dialog 2. Practice dialog 1.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 2.
【第4回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 1 & 2. Do the unit test.
【第5回】
①事前学修課題：Review Unit 1 & 2 for a test. Practice and memorize dialogs 1 & 2 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments.
【第6回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 3 Vocabulary and dialog 3.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 3.
【第7回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 3. Do the unit test.
【第8回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 4 Vocabulary and dialog 4. Practice dialog 3.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 4.
【第9回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 3 & 4. Do the unit test.
【第10回】
①事前学修課題：Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 3 & 4 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments.
【第11回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 5 Vocabulary and dialog 5.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 5.
【第12回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 5. Do the unit test.
【第13回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 6 Vocabulary and dialog 6. Practice dialog 5.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 6.
【第14回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 5 & 6. Do the unit test.
【第15回】
①事前学修課題：Review Unit 5 & 6 for a test. Practice and memorize dialogs 5 & 6 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。

●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点 以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:
1) Participation and class activities (10%)
2) Dialog performance tests (30%)
2) Homework and unit tests (20%)
3) 3 Review tests (30%)
4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld. (5/E) Student Book, Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
参考書	Introduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	Attendance Policy & Notes: 1) You will get more information from the teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。 2) You are expected to attend EVERY class and arrive on time. It will be difficult to pass the course if you are absent more than three times. 授業には毎回出席し、時間通りに来ることが求められます。3回以上欠席すると合格は難しくなります。 3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回として みなされる。 4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできるが、欠席扱いとなる。 5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD – 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。

授業コード	20000905	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	英語Ⅰ（Basic Conversation）　[対面]				
シラバス執筆(全員)	I.M.アレンズワース				
シラバス執筆(主)	I.M.アレンズワース				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:
1 develop the ability to converse about various everyday topics.
2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
テーマ：Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Unit 1: How are you?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 1 Dialog & pair work.
【第2回】
テーマ：Unit 1: How are you?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 1 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.
【第3回】
テーマ：Unit 2: Do you understand?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 2 Dialog & pair work.
【第4回】
テーマ：Unit 2: Do you understand?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 1 & 2 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test
【第5回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 1, 2)
内容・方法： Practice test Units 1 & 2. Unit 1 & 2 Games
【第6回】
テーマ： Unit 3: This is my room
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 3 Dialog & pair work.
【第7回】
テーマ：Unit 3: This is my room
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 3 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第8回】
テーマ： Unit 4: When do you get up?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 4 Dialog & pair work.
【第9回】
テーマ：Unit 4: When do you get up?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 4 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第10回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 3, 4)
内容・方法： Practice test Units 3 & 4. Unit 3 & 4 Games
【第11回】
テーマ： Unit 5: Who's that?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 5 Dialog & pair work.
【第12回】
テーマ：Unit 5: Who's that?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 5 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第13回】
テーマ： Unit 6: That's a great shirt!
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 6 Dialog & pair work.
【第14回】

テーマ：Unit 6: That's a great shirt!
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 6 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第15回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 5, 6)
内容・方法： Practice test Units 5 & 6. Unit 5 & 6 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.
【第1回】
①事前学修課題：Buy a textbook.
②事後学修課題：Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 1
【第2回】
①事前学修課題：Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 1. Do the unit test.
【第3回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 2 Vocabulary and read dialog 2. Practice dialog 1.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 2.
【第4回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 1 & 2. Do the unit test.
【第5回】
①事前学修課題：Review Unit 1 & 2 for a test. Practice and memorize dialogs 1 & 2 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments.
【第6回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 3 Vocabulary and dialog 3.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 3.
【第7回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 3. Do the unit test.
【第8回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 4 Vocabulary and dialog 4. Practice dialog 3.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 4.
【第9回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 3 & 4. Do the unit test.
【第10回】
①事前学修課題：Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 3 & 4 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments.
【第11回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 5 Vocabulary and dialog 5.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 5.
【第12回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 5. Do the unit test.
【第13回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 6 Vocabulary and dialog 6. Practice dialog 5.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 6.
【第14回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 5 & 6. Do the unit test.
【第15回】
①事前学修課題：Review Unit 5 & 6 for a test. Practice and memorize dialogs 5 & 6 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。

●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点 以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:
1) Participation and class activities (10%)
2) Dialog performance tests (30%)
2) Homework and unit tests (20%)
3) 3 Review tests (30%)
4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld. (5/E) Student Book, Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
参考書	Introduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	Attendance Policy & Notes: 1) You will get more information from the teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。 2) You are expected to attend EVERY class and arrive on time. It will be difficult to pass the course if you are absent more than three times. 授業には毎回出席し、時間通りに来ることが求められます。3回以上欠席すると合格は難しくなります。 3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回として みなされる。 4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできるが、欠席扱いとなる。 5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD – 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。

授業コード	20000906	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	英語Ⅰ（Basic Conversation）　[対面]				
シラバス執筆(全員)	S.D.ラーダー				
シラバス執筆(主)	S.D.ラーダー				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:
1 develop the ability to converse about various everyday topics.
2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
テーマ：Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Unit 1: How are you?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 1 Dialog & pair work.
【第2回】
テーマ：Unit 1: How are you?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 1 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.
【第3回】
テーマ：Unit 2: Do you understand?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 2 Dialog & pair work.
【第4回】
テーマ：Unit 2: Do you understand?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 1 & 2 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test
【第5回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 1, 2)
内容・方法： Practice test Units 1 & 2. Unit 1 & 2 Games
【第6回】
テーマ： Unit 3: This is my room
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 3 Dialog & pair work.
【第7回】
テーマ：Unit 3: This is my room
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 3 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第8回】
テーマ： Unit 4: When do you get up?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 4 Dialog & pair work.
【第9回】
テーマ：Unit 4: When do you get up?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 4 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第10回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 3, 4)
内容・方法： Practice test Units 3 & 4. Unit 3 & 4 Games
【第11回】
テーマ： Unit 5: Who's that?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 5 Dialog & pair work.
【第12回】
テーマ：Unit 5: Who's that?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 5 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第13回】
テーマ： Unit 6: That's a great shirt!
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 6 Dialog & pair work.
【第14回】

テーマ：Unit 6: That's a great shirt!
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 6 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第15回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 5, 6)
内容・方法： Practice test Units 5 & 6. Unit 5 & 6 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.
【第1回】
①事前学修課題：Buy a textbook.
②事後学修課題：Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 1
【第2回】
①事前学修課題：Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 1. Do the unit test.
【第3回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 2 Vocabulary and read dialog 2. Practice dialog 1.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 2.
【第4回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 1 & 2. Do the unit test.
【第5回】
①事前学修課題：Review Unit 1 & 2 for a test. Practice and memorize dialogs 1 & 2 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments.
【第6回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 3 Vocabulary and dialog 3.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 3.
【第7回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 3. Do the unit test.
【第8回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 4 Vocabulary and dialog 4. Practice dialog 3.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 4.
【第9回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 3 & 4. Do the unit test.
【第10回】
①事前学修課題：Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 3 & 4 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments.
【第11回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 5 Vocabulary and dialog 5.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 5.
【第12回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 5. Do the unit test.
【第13回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 6 Vocabulary and dialog 6. Practice dialog 5.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 6.
【第14回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 5 & 6. Do the unit test.
【第15回】
①事前学修課題：Review Unit 5 & 6 for a test. Practice and memorize dialogs 5 & 6 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。

●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点 以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:
1) Participation and class activities (10%)
2) Dialog performance tests (30%)
2) Homework and unit tests (20%)
3) 3 Review tests (30%)
4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld. (5/E) Student Book, Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
参考書	Introduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	Attendance Policy & Notes: 1) You will get more information from the teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。 2) You are expected to attend EVERY class and arrive on time. It will be difficult to pass the course if you are absent more than three times. 授業には毎回出席し、時間通りに来ることが求められます。3回以上欠席すると合格は難しくなります。 3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回として みなされる。 4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできるが、欠席扱いとなる。 5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD – 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。

授業コード	20001001	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	英語Ⅱ（Basic Conversation）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	宮本　佳奈				
シラバス執筆(主)	宮本　佳奈				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:
1 develop the ability to converse about various everyday topics.
2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
テーマ：Course orientation. Google Classroom orientation and explanation.
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 7 Dialog & pair work.
【第2回】
テーマ：Unit 7: I love weekends!
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 7 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.
【第3回】
テーマ：Unit 8: Let's eat!
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 8 Dialog & pair work.
【第4回】
テーマ：Unit 8: Let's eat!
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 7 & 8 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test
【第5回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 7,8)
内容・方法： Practice test Units 7 & 8. Unit 7 & 8 Games
【第6回】
テーマ： Unit 9: I really enjoy it!
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 9 Dialog & pair work.
【第7回】
テーマ： Unit 9: I really enjoy it!
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 9 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第8回】
テーマ： Unit 10: welcome to my home.
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 10 Dialog & pair work.
【第9回】
テーマ：Unit 10: welcome to my home.
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 10 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第10回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 9, 10)
内容・方法： Practice test Units 9 & 10. Unit 9 & 10 Games
【第11回】
テーマ： Unit 11: Where did you go?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 11 Dialog & pair work.
【第12回】
テーマ：Unit 11: Where did you go?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 11 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第13回】
テーマ： Unit 12: Will I be famous?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 12 Dialog & pair work.
【第14回】

テーマ：Unit 12: Will I be famous?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 12 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第15回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 11, 12)
内容・方法： Practice test Units 11 & 12. Unit 11 & 12 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.
【第1回】
①事前学修課題：Buy a textbook.
②事後学修課題：Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 7
【第2回】
①事前学修課題：Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 7. Do the unit test.
【第3回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 8 Vocabulary and read dialog 8. Practice dialog 7.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 8.
【第4回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 7 & 8. Do the unit test.
【第5回】
①事前学修課題：Review Unit 7 & 8 for a test. Practice and memorize dialogs 7 & 8 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments.
【第6回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 9 Vocabulary and dialog 9.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 9.
【第7回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 9. Do the unit test.
【第8回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 10 Vocabulary and dialog 10. Practice dialog 9.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 10.
【第9回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 9 & 10. Do the unit test.
【第10回】
①事前学修課題：Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 9 & 10 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments.
【第11回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 11 Vocabulary and dialog 11.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 11.
【第12回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 11. Do the unit test.
【第13回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 12 Vocabulary and dialog 12. Practice dialog 11.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 12.
【第14回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 11 & 12. Do the unit test.
【第15回】
①事前学修課題：Review Unit 11 & 12 for a test. Practice and memorize dialogs 11 & 12 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点 以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:
1) Participation and class activities (10%)
2) Dialog performance tests (30%)
2) Homework and unit tests (20%)
3) 3 Review tests (30%)
4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access.Student Book with MyMobileWorl。(5/E), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
参考書	Intorduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	Attendance Policy & Notes: 1) You will get more information from the teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。 2) You are expected to attend EVERY class and arrive on time. It will be difficult to pass the course if you are absent more than three times. 授業には毎回出席し、時間通りに来ることが求められます。3回以上欠席すると合格は難しくなります。 3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回として みなされる。 4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできるが、欠席扱いとなる。 5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。

授業コード	20001003	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	英語Ⅱ（Basic Conversation）　［対面］				
シラバス執筆（全員）	T.ピート				
シラバス執筆（主）	T.ピート				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:
1 develop the ability to converse about various everyday topics.
2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
テーマ：Course orientation. Google Classroom orientation and explanation.
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 7 Dialog & pair work.
【第2回】
テーマ：Unit 7: I love weekends!
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 7 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.
【第3回】
テーマ：Unit 8: Let's eat!
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 8 Dialog & pair work.
【第4回】
テーマ：Unit 8: Let's eat!
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 7 & 8 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test
【第5回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 7,8)
内容・方法： Practice test Units 7 & 8. Unit 7 & 8 Games
【第6回】
テーマ： Unit 9: I really enjoy it!
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 9 Dialog & pair work.
【第7回】
テーマ： Unit 9: I really enjoy it!
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 9 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第8回】
テーマ： Unit 10: welcome to my home.
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 10 Dialog & pair work.
【第9回】
テーマ：Unit 10: welcome to my home.
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 10 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第10回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 9, 10)
内容・方法： Practice test Units 9 & 10. Unit 9 & 10 Games
【第11回】
テーマ： Unit 11: Where did you go?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 11 Dialog & pair work.
【第12回】
テーマ：Unit 11: Where did you go?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 11 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第13回】
テーマ： Unit 12: Will I be famous?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 12 Dialog & pair work.
【第14回】

テーマ：Unit 12: Will I be famous?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 12 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第15回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 11, 12)
内容・方法： Practice test Units 11 & 12. Unit 11 & 12 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.
【第1回】
①事前学修課題：Buy a textbook.
②事後学修課題：Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 7
【第2回】
①事前学修課題：Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 7. Do the unit test.
【第3回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 8 Vocabulary and read dialog 8. Practice dialog 7.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 8.
【第4回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 7 & 8. Do the unit test.
【第5回】
①事前学修課題：Review Unit 7 & 8 for a test. Practice and memorize dialogs 7 & 8 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments.
【第6回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 9 Vocabulary and dialog 9.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 9.
【第7回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 9. Do the unit test.
【第8回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 10 Vocabulary and dialog 10. Practice dialog 9.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 10.
【第9回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 9 & 10. Do the unit test.
【第10回】
①事前学修課題：Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 9 & 10 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments.
【第11回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 11 Vocabulary and dialog 11.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 11.
【第12回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 11. Do the unit test.
【第13回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 12 Vocabulary and dialog 12. Practice dialog 11.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 12.
【第14回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 11 & 12. Do the unit test.
【第15回】
①事前学修課題：Review Unit 11 & 12 for a test. Practice and memorize dialogs 11 & 12 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点 以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:
1) Participation and class activities (10%)
2) Dialog performance tests (30%)
2) Homework and unit tests (20%)
3) 3 Review tests (30%)
4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access.Student Book with MyMobileWorl。(5/E), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
参考書	Intorduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	Attendance Policy & Notes: 1) You will get more information from the teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。 2) You are expected to attend EVERY class and arrive on time. It will be difficult to pass the course if you are absent more than three times. 授業には毎回出席し、時間通りに来ることが求められます。3回以上欠席すると合格は難しくなります。 3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回として みなされる。 4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできるが、欠席扱いとなる。 5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。

授業コード	20001004	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	英語Ⅱ（Basic Conversation）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	J.C.デン				
シラバス執筆(主)	J.C.デン				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:
1 develop the ability to converse about various everyday topics.
2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
テーマ：Course orientation. Google Classroom orientation and explanation.
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 7 Dialog & pair work.
【第2回】
テーマ：Unit 7: I love weekends!
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 7 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.
【第3回】
テーマ：Unit 8: Let's eat!
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 8 Dialog & pair work.
【第4回】
テーマ：Unit 8: Let's eat!
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 7 & 8 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test
【第5回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 7,8)
内容・方法： Practice test Units 7 & 8. Unit 7 & 8 Games
【第6回】
テーマ： Unit 9: I really enjoy it!
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 9 Dialog & pair work.
【第7回】
テーマ： Unit 9: I really enjoy it!
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 9 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第8回】
テーマ： Unit 10: welcome to my home.
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 10 Dialog & pair work.
【第9回】
テーマ：Unit 10: welcome to my home.
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 10 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第10回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 9, 10)
内容・方法： Practice test Units 9 & 10. Unit 9 & 10 Games
【第11回】
テーマ： Unit 11: Where did you go?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 11 Dialog & pair work.
【第12回】
テーマ：Unit 11: Where did you go?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 11 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第13回】
テーマ： Unit 12: Will I be famous?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 12 Dialog & pair work.
【第14回】

テーマ：Unit 12: Will I be famous?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 12 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第15回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 11, 12)
内容・方法： Practice test Units 11 & 12. Unit 11 & 12 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.
【第1回】
①事前学修課題：Buy a textbook.
②事後学修課題：Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 7
【第2回】
①事前学修課題：Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 7. Do the unit test.
【第3回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 8 Vocabulary and read dialog 8. Practice dialog 7.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 8.
【第4回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 7 & 8. Do the unit test.
【第5回】
①事前学修課題：Review Unit 7 & 8 for a test. Practice and memorize dialogs 7 & 8 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments.
【第6回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 9 Vocabulary and dialog 9.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 9.
【第7回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 9. Do the unit test.
【第8回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 10 Vocabulary and dialog 10. Practice dialog 9.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 10.
【第9回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 9 & 10. Do the unit test.
【第10回】
①事前学修課題：Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 9 & 10 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments.
【第11回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 11 Vocabulary and dialog 11.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 11.
【第12回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 11. Do the unit test.
【第13回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 12 Vocabulary and dialog 12. Practice dialog 11.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 12.
【第14回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 11 & 12. Do the unit test.
【第15回】
①事前学修課題：Review Unit 11 & 12 for a test. Practice and memorize dialogs 11 & 12 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点 以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:
1) Participation and class activities (10%)
2) Dialog performance tests (30%)
2) Homework and unit tests (20%)
3) 3 Review tests (30%)
4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access.Student Book with MyMobileWorl。(5/E), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
参考書	Intorduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	Attendance Policy & Notes: 1) You will get more information from the teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。 2) You are expected to attend EVERY class and arrive on time. It will be difficult to pass the course if you are absent more than three times. 授業には毎回出席し、時間通りに来ることが求められます。3回以上欠席すると合格は難しくなります。 3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回として みなされる。 4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできるが、欠席扱いとなる。 5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。

授業コード	20001005	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	英語Ⅱ（Basic Conversation）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	I.M.アレンズワース				
シラバス執筆(主)	I.M.アレンズワース				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:
1 develop the ability to converse about various everyday topics.
2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
テーマ：Course orientation. Google Classroom orientation and explanation.
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 7 Dialog & pair work.
【第2回】
テーマ：Unit 7: I love weekends!
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 7 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.
【第3回】
テーマ：Unit 8: Let's eat!
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 8 Dialog & pair work.
【第4回】
テーマ：Unit 8: Let's eat!
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 7 & 8 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test
【第5回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 7,8)
内容・方法： Practice test Units 7 & 8. Unit 7 & 8 Games
【第6回】
テーマ： Unit 9: I really enjoy it!
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 9 Dialog & pair work.
【第7回】
テーマ： Unit 9: I really enjoy it!
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 9 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第8回】
テーマ： Unit 10: welcome to my home.
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 10 Dialog & pair work.
【第9回】
テーマ：Unit 10: welcome to my home.
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 10 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第10回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 9, 10)
内容・方法： Practice test Units 9 & 10. Unit 9 & 10 Games
【第11回】
テーマ： Unit 11: Where did you go?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 11 Dialog & pair work.
【第12回】
テーマ：Unit 11: Where did you go?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 11 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第13回】
テーマ： Unit 12: Will I be famous?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 12 Dialog & pair work.
【第14回】

テーマ：Unit 12: Will I be famous?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 12 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第15回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 11, 12)
内容・方法： Practice test Units 11 & 12. Unit 11 & 12 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.
【第1回】
①事前学修課題：Buy a textbook.
②事後学修課題：Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 7
【第2回】
①事前学修課題：Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 7. Do the unit test.
【第3回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 8 Vocabulary and read dialog 8. Practice dialog 7.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 8.
【第4回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 7 & 8. Do the unit test.
【第5回】
①事前学修課題：Review Unit 7 & 8 for a test. Practice and memorize dialogs 7 & 8 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments.
【第6回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 9 Vocabulary and dialog 9.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 9.
【第7回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 9. Do the unit test.
【第8回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 10 Vocabulary and dialog 10. Practice dialog 9.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 10.
【第9回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 9 & 10. Do the unit test.
【第10回】
①事前学修課題：Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 9 & 10 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments.
【第11回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 11 Vocabulary and dialog 11.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 11.
【第12回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 11. Do the unit test.
【第13回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 12 Vocabulary and dialog 12. Practice dialog 11.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 12.
【第14回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 11 & 12. Do the unit test.
【第15回】
①事前学修課題：Review Unit 11 & 12 for a test. Practice and memorize dialogs 11 & 12 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点 以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:
1) Participation and class activities (10%)
2) Dialog performance tests (30%)
2) Homework and unit tests (20%)
3) 3 Review tests (30%)
4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld。(5/E), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
参考書	Intorduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	Attendance Policy & Notes: 1) You will get more information from the teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。 2) You are expected to attend EVERY class and arrive on time. It will be difficult to pass the course if you are absent more than three times. 授業には毎回出席し、時間通りに来ることが求められます。3回以上欠席すると合格は難しくなります。 3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回として みなされる。 4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできるが、欠席扱いとなる。 5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD – 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。

授業コード	20001006	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	英語Ⅱ（Basic Conversation）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	S.D.ラーダー				
シラバス執筆(主)	S.D.ラーダー				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:
1 develop the ability to converse about various everyday topics.
2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
テーマ：Course orientation. Google Classroom orientation and explanation.
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 7 Dialog & pair work.
【第2回】
テーマ：Unit 7: I love weekends!
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 7 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.
【第3回】
テーマ：Unit 8: Let's eat!
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 8 Dialog & pair work.
【第4回】
テーマ：Unit 8: Let's eat!
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 7 & 8 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test
【第5回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 7,8)
内容・方法： Practice test Units 7 & 8. Unit 7 & 8 Games
【第6回】
テーマ： Unit 9: I really enjoy it!
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 9 Dialog & pair work.
【第7回】
テーマ： Unit 9: I really enjoy it!
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 9 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第8回】
テーマ： Unit 10: welcome to my home.
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 10 Dialog & pair work.
【第9回】
テーマ：Unit 10: welcome to my home.
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 10 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第10回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 9, 10)
内容・方法： Practice test Units 9 & 10. Unit 9 & 10 Games
【第11回】
テーマ： Unit 11: Where did you go?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 11 Dialog & pair work.
【第12回】
テーマ：Unit 11: Where did you go?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 11 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第13回】
テーマ： Unit 12: Will I be famous?
内容・方法：Vocabulary building; Listening. Unit 12 Dialog & pair work.
【第14回】

テーマ：Unit 12: Will I be famous?
内容・方法：Vocabulary review quiz. Unit 12 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.
【第15回】
テーマ：Review & Dialog Performance Tests (Units 11, 12)
内容・方法： Practice test Units 11 & 12. Unit 11 & 12 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.
【第1回】
①事前学修課題：Buy a textbook.
②事後学修課題：Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 7
【第2回】
①事前学修課題：Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 7. Do the unit test.
【第3回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 8 Vocabulary and read dialog 8. Practice dialog 7.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 8.
【第4回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 7 & 8. Do the unit test.
【第5回】
①事前学修課題：Review Unit 7 & 8 for a test. Practice and memorize dialogs 7 & 8 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments.
【第6回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 9 Vocabulary and dialog 9.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 9.
【第7回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 9. Do the unit test.
【第8回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 10 Vocabulary and dialog 10. Practice dialog 9.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 10.
【第9回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 9 & 10. Do the unit test.
【第10回】
①事前学修課題：Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 9 & 10 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments.
【第11回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 11 Vocabulary and dialog 11.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 11.
【第12回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 11. Do the unit test.
【第13回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Read Unit 12 Vocabulary and dialog 12. Practice dialog 11.
②事後学修課題：Practice and memorize dialog 12.
【第14回】
①事前学修課題：Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.
②事後学修課題：Practice and memorize dialogs 11 & 12. Do the unit test.
【第15回】
①事前学修課題：Review Unit 11 & 12 for a test. Practice and memorize dialogs 11 & 12 for a test.
②事後学修課題：Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点 以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:
1) Participation and class activities (10%)
2) Dialog performance tests (30%)
2) Homework and unit tests (20%)
3) 3 Review tests (30%)
4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld。(5/E), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
参考書	Intorduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	Attendance Policy & Notes: 1) You will get more information from the teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。 2) You are expected to attend EVERY class and arrive on time. It will be difficult to pass the course if you are absent more than three times. 授業には毎回出席し、時間通りに来ることが求められます。3回以上欠席すると合格は難しくなります。 3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回として みなされる。 4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできるが、欠席扱いとなる。 5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD – 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。

授業コード	20002701	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	中国語Ⅰ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	沈　恩明				
シラバス執筆（主）	沈　恩明				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

前期の授業において,初級程度の中国語の総合的な運用能力を身につけることを目的で,中国語の発音やピンイン表記（発音を表すもの）に関する基礎知識及び簡単な会話を学習します。特に「聴く」と「話す」能力の向上に重点を置いて学習します。本科目は,授業中のいろんな練習によって、日常の簡単なコミュニケーションにおける中国語を正確かつ自然に運用できる段階まで学習するもので,履修生が将来各自の専門領域やキャリアプランの中で中国語を活かすために、独学で中国語能力をさらに向上させる良い基盤になります。

到達目標

1.中国語の発音を正確にできること
2.中国語で自己紹介ができること
3.基礎的な文法事項を習得すること

授業計画

【第1回】中国語の基礎知識。
【第2回】単母音と声調の学習。
【第3回】子音と鼻母音
【第4回】発音の規則、いろんな呼び方、日常の挨拶表現
【第5回】人称代名詞、「是」と否定を表す「不」及び疑問を表す「吗」
【第6回】指示代名詞、形容詞述語文、疑問詞「怎么样」、「的」
【第7回】場所代名詞、動詞述語文、疑問詞疑問文、省略疑問文「呢」、時を表す言葉の使い方
【第8回】第1課～第3課の復習
【第9回】助動詞「想」、選択疑問文「还是」、副詞「也」、動詞の重ね型、語気助詞「吧」
【第10回】数、量詞、反復疑問文、人民元の数え方
【第11回】所有を表す「有」、所在を表す「在」、前置詞の「离」、方位詞
【第12回】連動文（去＋場所＋動詞＋目的語）、「什么」＋名詞、完了の「了」の表現、疑問詞「怎么」
【第13回】第4課～第7課の復習
【第14回】前期のまとめと全体の復習
【第15回】復習としての聞き取り、翻訳練習を行う

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】
事前：教科書の「はじめに」を読む
事後：講義の内容を復習する
【第2回】
事前：教科書の単母音と声調のところを予習する。
事後：授業中学んだ内容を復習する
【第3回】
事前：教科書の子音と鼻母音のところを予習する。
事後：授業中学んだ内容を復習する
【第4回】
事前：それまで学んだ発音を復習し、また教科書にある発音の規則を予習する
事後：授業中の練習した内容を復習する
【第5回】
事前：第1課のポイントと本文の単語及びテキストの予習
事後：授業中の学んだ内容の復習
【第6回】
事前：第2課のポイントと本文の単語及びテキストの予習
事後：授業中の学んだ内容の復習
【第7回】
事前：第3課のポイントと本文の単語及びテキストの予習
事後：授業中の学んだ内容の復習
【第8回】
事前：第1課から第3課までの文法のポイント及び本文の復習
事後：授業中の練習を復習する
【第9回】
事前：第4課のポイントと本文の単語及びテキストの予習
事後：授業中の学んだ内容の復習
【第10回】
事前：第5課のポイントと本文の単語及びテキストの予習

事後：授業中の学んだ内容の復習
【第11回】
事前：第6課のポイントと本文の単語及びテキストの予習
事後：授業中の学んだ内容の復習
【第12回】
事前：第7課のポイントと本文の単語及びテキストの予習
事後：授業中の学んだ内容の復習
【第13回】
事前：第4課から第7課までの文法のポイント及び本文の復習
事後：授業中の練習を復習する
【第14回】
事前：第1課から第7課までの各課の文法を復習
事後：授業中のまとめた内容を復習する
【第15回】
事前：これまで学んだ内容の復習
事後：授業中で行った練習内容を復習する

課題に対するフィードバックの方法

課題提出状況に基づいて、注意すべき点を伝える。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

定期試験、課題提出状況、受講態度で、総合的に評価します。
正当な理由のない欠席5回以上、または課題を未提出の場合、評価の対象とせず、「K」の評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	受講態度（授業中の質問への応答状況、私語の状態を含めるきちんと受講しているか）	1, 2, 3
授業外での評価	30	Google　Classに出した課題（計8回）	3
定期試験	50	定期試験を実施する。	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	1冊めの中国語ー会話クラス 劉 穎、喜多山 幸子、松田 かのこ 白水社 2,300 978-4-560-06918-9
参考書	必要に応じて紹介する
履修条件・他の科目との関連	特にない

授業コード	20002801	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	中国語Ⅱ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	沈　恩明				
シラバス執筆（主）	沈　恩明				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

後期の授業において、初級程度の中国語の総合的な運用能力を身につけることを目的とした本コースのうち,前期に引き続き,「聴く」と「話す」能力の向上及び日常的な会話能力の向上に重点を置いて学習する。本科目は,授業中のいろんな練習によって、日常の簡単なコミュニケーションにおける中国語を正確かつ自然に運用できる段階まで学習するもので,履修生が将来各自の専門領域やキャリアプランの中で中国語を活かすために、独学で中国語能力をさらに向上させる良い基盤になります。

到達目標

この科目の後期到達目標は、学生が
① 後期では、より多くの単語と文法の習得
② 簡単な中国語の文章を見る際に、読める及び意味が分かる。
③ 簡単な会話を聞いて分かる。
④ 後期では、よりコミュニケーションを取れる

授業計画

【第1回】ガイダンス、会話の形で、前期の学んだ内容を復習する
【第2回】変化を表す「了」、存在を表す「有」、前置詞の「在」
【第3回】できることを表す「可以」、「会」、「能」、動詞の「喜欢」、前置詞の「给」
【第4回】第8課～第9課の復習、関連する映像によって、いろんな場面における中国語の会話を学ぶ
【第5回】時刻の言い方、経験を表す「过」、動作の回数を表す言い方、方向補語
【第6回】主述述語文、「有点儿」、強調文、比較の表現
【第7回】第10課～第11課の復習、関連する映像によって、いろんな場面における中国語の会話を学ぶ
【第8回】結果補語、起点と終点を表す表現、二重目的語の表現
【第9回】「 是」の省略表現、使役文、番号の言い方
【第10回】第12課～第13課の復習、関連する映像によって、いろんな場面における中国語の会話を学ぶ
【第11回】様態補語、動作の進行表現
【第12回】間近な将来を表す表現、主述構造の目的語、名詞を修飾する語、前置詞の「为」
【第13回】第14課～第15課の復習、関連する映像によって、いろんな場面における中国語の会話を学ぶ
【第14回】後期の学んだ単語及び各種の表現のまとめ、総合練習をする
【第15回】復習としての聞き取り、翻訳練習を行う

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】
事前：前期の文法を復習する
事後：当日授業に学んだ内容を復習する
【第2回】
事前：第8課のポイントと本文の単語及びテキストの予習
事後：授業中の学んだ内容の復習
【第3回】
事前：第9課のポイントと本文の単語及びテキストの予習
事後：授業中の学んだ内容の復習
【第4回】
事前：第8課と第9課の単語、文法をまとめて復習する
事後：当日の授業でした練習及び映像から学んだ内容の復習
【第5回】
事前：第10課のポイントと本文の単語及びテキストの予習
事後：授業中の学んだ内容の復習
【第6回】
事前：第11課のポイントと本文の単語及びテキストの予習
事後：授業中の学んだ内容の復習
【第7回】
事前：第10課と第11課の単語、文法をまとめて復習する
事後：当日の授業でした練習及び映像から学んだ内容の復習
【第8回】
事前：第12課のポイントと本文の単語及びテキストの予習
事後：授業中の学んだ内容の復習
【第9回 】
事前：第13課のポイントと本文の単語及びテキストの予習
事後：授業中の学んだ内容の復習

【第10回】
事前：第12課と第13課の単語、文法をまとめて復習する
事後：当日の授業でした練習及び映像から学んだ内容の復習
【第11回】
事前：第14課のポイントと本文の単語及びテキストの予習
事後：授業中の学んだ内容の復習
【第12回】
事前：第15課のポイントと本文の単語及びテキストの予習
事後：授業中の学んだ内容の復習
【第13回】
事前：第14課と第15課の単語、文法をまとめて復習する
事後：当日の授業でした練習及び映像から学んだ内容の復習
【第14回】
事前：第８課から第15課の単語と文法をまとめて復習する
事後：授業中のまとめた内容を復習する
【第15回】
事前：これまで学んだ内容の復習
事後：授業中で行った練習内容を復習する

課題に対するフィードバックの方法

課題を提出する期限の後、課題を授業中に解説する

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

下に示したように、定期試験、課題、受講態度を三つの要素で、総合的に評価します。
正当な理由のない欠席5回以上、または課題を未提出の場合、評価の対象とせず、「K」の評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	受講態度（授業中の質問への応答状況、私語の状態を含めるきちんと受講しているか）	3
授業外での評価	30	Google　Classに出した課題（計8回）	4
定期試験	50	定期試験を実施する。	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	1冊めの中国語ー会話クラス 劉 穎、喜多山　幸子、松田　かの子 白水社 2,300 978-4-560-06918-9
参考書	必要に応じて紹介する
履修条件・他の科目との関連	なるべく前期の履修したことがある

授業コード	20001301	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	韓国語Ⅰ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	鄭　徳姫				
シラバス執筆（主）	鄭　徳姫				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

韓国語をはじめて学ぶ学生を対象とする科目であり、聞き・読み・書き・話す機能を基礎から総合的に養うことに主眼を置く。今期は、ハングル文字の母音と子音の成り立ちや仕組みから、自己紹介の表現などを学ぶことで、韓国語の基本的な骨格を身につけることを目指す。

到達目標

①韓国語の文字を覚え、②正しく発音できるようになること。また、③簡単な自己紹介ができるようになること。

授業計画

【第1回】
テーマ：ガイダンス
内容・方法：基礎第1課　韓国語の特徴及び創製原理。
【第2回】
テーマ：基礎第2課　出会いの挨拶と基本母音。
内容・方法：文字と発音。
【第3回】
テーマ：基礎第3課　別れの挨拶と基本子音。
内容・方法：激音・濃音。
【第4回】
テーマ：基礎第4課　感謝の表現と複合母音。
内容・方法：文字と発音。
【第5回】
テーマ：基礎第5課　謝罪の表現とパッチム。
内容・方法：終音。
【第6回】
テーマ：基礎第6課　発音の変化。
内容・方法：有声音化・激音化・濃音化。
【第7回】
テーマ：前半のまとめと小テスト。
内容・方法：基礎第1課から6課までの復習。
【第8回】
テーマ：第1課　私は浅井ゆかりです。
内容・方法：簡単な自己紹介。
【第9回】
テーマ：第2課　出身はソウルですか。
内容・方法：～ですか。
【第10回】
テーマ：第3課　図書館ではありません。
内容・方法：否定文。
【第11回】
テーマ：第4課　時間がありますか。
内容・方法：あります/ありません。
【第12回】
テーマ：第5課　何をしますか。
内容・方法：します/しますか。
【第13回】
テーマ：第6課　貿易会社で働いています。
内容・方法：います/あります。
【第14回】
テーマ：第7課　服を買います。
内容・方法：動詞、形容詞。
【第15回】
テーマ：後半のまとめと自己紹介。
内容・方法：自分の紹介ができるように練習する。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

毎回の授業では、事前・事後学習として1時間から1時間半の学習が必要です。
【第1回】

事前学習課題：授業の概要と基礎第1課を読んでおくこと。0.5時間
事後学習課題：復習でわからなかったところをよくおさらいしておくこと。0.5時間
【第2回】
事前学習課題：教科書基礎第2課を読んでおくこと。0.5時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
【第3回】
事前学習課題：教科書基礎第3課を読んでおくこと。0.5時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
【第4回】
事前学習課題：教科書基礎第4課を読んでおくこと。0.5時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
【第5回】
事前学習課題：教科書基礎第５課を読んでおくこと。0.5時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
【第6回】
事前学習課題：教科書基礎第６課を読んでおくこと。0.5時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
【第7回】
事前学習課題：教科書基礎第1課から６課までを読んでおくこと。0.5時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
【第8回】
事前学習課題：教科書本文第1課を読んでおくこと。0.5時間
事後学習課題：わからなかったところをよくおさらいしておくこと。0.5時間
【第9回】
事前学習課題：教科書本文第２課を読んでおくこと。0.5時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
【第10回】
事前学習課題：教科書本文第３課を読んでおくこと。0.5時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
【第11回】
事前学習課題：教科書本文第４課を読んでおくこと。0.5時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
【第12回】
事前学習課題：教科書本文第５課を読んでおくこと。0.5時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
【第13回】
事前学習課題：教科書本文第６課を読んでおくこと。0.5時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
【第14回】
事前学習課題：教科書本文第７課を読んでおくこと。0.5時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
【第15回】
事前学習課題：教科書本文第1課から第７課のインタビューテストの勉強をしておくこと。0.5時間
事後学習課題：教科書本文第1課から第７課を読んでおくこと。0.5時間

課題に対するフィードバックの方法

授業中に実施した小テストを返却し、間違った箇所を確認して覚えなおす。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

授業への参加態度と小テスト（課題点）、インタビューテスト及び最終レポートの結果から総合的に評価する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	課題点	①②③
授業外での評価	20	レポート課題	①
定期試験	0	なし	なし
定期試験に代わるレポート等	30	最終レポート点	①②③
その他	0	なし	なし

テキスト	基礎から学ぶ「韓国語講座」初級[改訂版]/木内明 著/国書刊行会/978-4-336-05750-1
参考書	適宜、教員が紹介する。
履修条件・他の科目との関連	外国語の習得は毎回の授業の積み重ねが必須であることから、授業に積極的に参加すること。

授業コード	20001302	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	韓国語Ⅰ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	金　文洙				
シラバス執筆（主）	金　文洙				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

韓国語をはじめて学ぶ学生を対象とする科目であり、聞き・読み・書き・話す機能を基礎から総合的に養うことに主眼を置く。今期は、ハングル文字の母音と子音の成り立ちや仕組みから、自己紹介の表現などを学ぶことで、韓国語の基本的な骨格を身につけることを目指す。

到達目標

①韓国語の文字を覚え、②正しく発音できるようになること。また、③簡単な自己紹介ができるようになること。

授業計画

【第1回】
テーマ：ガイダンス
内容・方法：基礎第1課　韓国語の特徴及び創製原理。
【第2回】
テーマ：基礎第2課　出会いの挨拶と基本母音。
内容・方法：文字と発音。
【第3回】
テーマ：基礎第3課　別れの挨拶と基本子音。
内容・方法：激音・濃音。
【第4回】
テーマ：基礎第4課　感謝の表現と複合母音。
内容・方法：文字と発音。
【第5回】
テーマ：基礎第5課　謝罪の表現とパッチム。
内容・方法：終音。
【第6回】
テーマ：基礎第6課　発音の変化。
内容・方法：有声音化・激音化・濃音化。
【第7回】
テーマ：前半のまとめと小テスト。
内容・方法：基礎第1課から6課までの復習。
【第8回】
テーマ：第1課　私は浅井ゆかりです。
内容・方法：簡単な自己紹介。
【第9回】
テーマ：第2課　出身はソウルですか。
内容・方法：～ですか。
【第10回】
テーマ：第3課　図書館ではありません。
内容・方法：否定文。
【第11回】
テーマ：第4課　時間がありますか。
内容・方法：あります/ありません。
【第12回】
テーマ：第5課　何をしますか。
内容・方法：します/しますか。
【第13回】
テーマ：第6課　貿易会社で働いています。
内容・方法：います/あります。
【第14回】
テーマ：第7課　服を買います。
内容・方法：動詞、形容詞。
【第15回】
テーマ：後半のまとめと自己紹介。
内容・方法：自分の紹介ができるように練習する。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

毎回の授業では、事前・事後学習として1時間から1時間半の学習が必要です。
【第1回】

事前学習課題：授業の概要と基礎第1課を読んでおくこと。0.5時間
事後学習課題：復習でわからなかったところをよくおさらいしておくこと。0.5時間
【第2回】
事前学習課題：教科書基礎第2課を読んでおくこと。0.5時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
【第3回】
事前学習課題：教科書基礎第3課を読んでおくこと。0.5時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
【第4回】
事前学習課題：教科書基礎第4課を読んでおくこと。0.5時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
【第5回】
事前学習課題：教科書基礎第５課を読んでおくこと。0.5時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
【第6回】
事前学習課題：教科書基礎第６課を読んでおくこと。0.5時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
【第7回】
事前学習課題：教科書基礎第1課から６課までを読んでおくこと。0.5時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
【第8回】
事前学習課題：教科書本文第1課を読んでおくこと。0.5時間
事後学習課題：わからなかったところをよくおさらいしておくこと。0.5時間
【第9回】
事前学習課題：教科書本文第２課を読んでおくこと。0.5時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
【第10回】
事前学習課題：教科書本文第３課を読んでおくこと。0.5時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
【第11回】
事前学習課題：教科書本文第４課を読んでおくこと。0.5時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
【第12回】
事前学習課題：教科書本文第５課を読んでおくこと。0.5時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
【第13回】
事前学習課題：教科書本文第６課を読んでおくこと。0.5時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
【第14回】
事前学習課題：教科書本文第７課を読んでおくこと。0.5時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
【第15回】
事前学習課題：教科書本文第1課から第７課のインタビューテストの勉強をしておくこと。0.5時間
事後学習課題：教科書本文第1課から第７課を読んでおくこと。0.5時間

課題に対するフィードバックの方法

授業中に実施した小テストを返却し、間違った箇所を確認して覚えなおす。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

授業への参加態度と小テスト（課題点）、インタビューテスト及び最終レポートの結果から総合的に評価する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	課題点	①②③
授業外での評価	20	レポート課題	①
定期試験	0	なし	なし
定期試験に代わるレポート等	30	最終レポート点	①②③
その他	0	なし	なし

テキスト	基礎から学ぶ「韓国語講座」初級[改訂版]/木内明 著/国書刊行会/978-4-336-05750-1
参考書	適宜、教員が紹介する。
履修条件・他の科目との関連	外国語の習得は毎回の授業の積み重ねが必須であることから、授業に積極的に参加すること。

授業コード	20001401	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	韓国語Ⅱ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	鄭　徳姫				
シラバス執筆（主）	鄭　徳姫				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

韓国語を初歩から学ぶ学生を対象とする科目であり、前期の韓国語Ⅰに続く内容である。聞き・読み・書き・話す力を総合的に養うことを主眼とする。今期は、家族や日常生活、好き嫌い、将来の目標などの表現やそれに関連する語彙を習得し、身の回りのことが一通り韓国語で述べられるようになることを目指す。

到達目標

様々な場面で使える表現を学ぶ中で、①コミュニケーション能力や②隣国への関心を高めること。

授業計画

【第1回】
テーマ：ガイダンス。
内容・方法：韓国語の読み・書きの復習。
【第2回】
テーマ：第8課　スーパーでよく買います。
内容・方法：用言のヨ体　～です/～ます。
【第3回】
テーマ：第9課　2万5千ウォンです。
内容・方法：漢数詞。
【第4回】
テーマ：第10課　今、何時ですか。
内容・方法：固有数詞。
【第5回】
テーマ：第11課　日本語を話されますか。
内容・方法：敬語。
【第6回】
テーマ：第12課　バスは行きません。
内容・方法：否定文。
【第7回】
テーマ：第13課　いつ韓国に来ましたか。
内容・方法：過去形。
【第8回】
テーマ：第14課　一緒にお昼を食べましょう。
内容・方法：勧誘の言葉。
【第9回】
テーマ：第15課　パーティーの準備をしています。
内容・方法：現在進行形。
【第10回】
テーマ：第16課　何も食べられませんでした。
内容・方法：可能/不可能表現。
【第11回】
テーマ：第17課　陶磁器が見たいです。
内容・方法：～したい。
【第12回】
テーマ：第18課　写真を撮ってもいいですか。
内容・方法：禁止の表現。
【第13回】
テーマ：第19課　帰国しなければいけません。
内容・方法：義務の表現。
【第14回】
テーマ：第20課　手紙を書きますよ。
内容・方法：意志・推量・未来。
【第15回】
テーマ：韓国語座談。
内容・方法：決めたテーマについて発表できるように練習する。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

毎回の授業では、事前・事後学習として1時間から1時間半の学習が必要です。
【第1回】
事前学習課題：授業の概要を読んでおくこと。0.5時間～1時間

事後学習課題：復習でわからなかったところをよくおさらいしておくこと。0.5時間～1時間
【第2回】
事前学習課題：教科書本文第８課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
【第3回】
事前学習課題：教科書本文第9課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
【第4回】
事前学習課題：教科書本文第１０課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
【第5回】
事前学習課題：教科書本文第１１課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
【第6回】
事前学習課題：教科書本文第１２課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
【第7回】
事前学習課題：教科書本文第１３課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
【第8回】
事前学習課題：教科書本文第１４課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
事後学習課題：わからなかったところをよくおさらいしておくこと。0.5時間～1時間
【第9回】
事前学習課題：教科書本文第15課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
【第10回】
事前学習課題：教科書本文第１６課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
【第11回】
事前学習課題：教科書本文第17課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
【第12回】
事前学習課題：教科書本文第１８課を読んでおくこと。0.5時間～１時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
【第13回】
事前学習課題：教科書本文第１９課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
【第14回】
事前学習課題：教科書本文第20課を読んでおくこと。0.5時間～１時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～１時間
【第15回】
事前学習課題：教科書本文第８課から第20課のインタビューテストの準備をしておくこと。0.5時間～1時間
事後学習課題：教科書本文第８課から第２０課を読んでおくこと。0.5時間～１時間

課題に対するフィードバックの方法

授業中に実施した小テストを返却し、間違った箇所を確認して覚えなおす。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

授業への参加態度と小テスト（課題点）、インタビューテスト及び最終レポートの結果から総合的に評価する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	課題点	①②
授業外での評価	20	レポート課題	①②
定期試験	0	なし	なし
定期試験に代わるレポート等	30	最終レポート点	①②
その他	0	なし	なし

テキスト	基礎から学ぶ「韓国語講座」初級[改訂版]/木内明 著/国書刊行会/978-4-336-05750-1
参考書	適宜、教員が紹介する。
履修条件・他の科目との関連	外国語の習得は毎回の授業の積み重ねが必須であることから、授業に積極的に参加すること。

授業コード	20001402	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	韓国語Ⅱ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	金　文洙				
シラバス執筆（主）	金　文洙				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

韓国語を初歩から学ぶ学生を対象とする科目であり、前期の韓国語Ⅰに続く内容である。聞き・読み・書き・話す力を総合的に養うことを主眼とする。今期は、家族や日常生活、好き嫌い、将来の目標などの表現やそれに関連する語彙を習得し、身の回りのことが一通り韓国語で述べられるようになることを目指す。

到達目標

様々な場面で使える表現を学ぶ中で、①コミュニケーション能力や②隣国への関心を高めること。

授業計画

【第1回】
テーマ：ガイダンス。
内容・方法：韓国語の読み・書きの復習。
【第2回】
テーマ：第8課　スーパーでよく買います。
内容・方法：用言のヨ体　～です/～ます。
【第3回】
テーマ：第9課　2万5千ウォンです。
内容・方法：漢数詞。
【第4回】
テーマ：第10課　今、何時ですか。
内容・方法：固有数詞。
【第5回】
テーマ：第11課　日本語を話されますか。
内容・方法：敬語。
【第6回】
テーマ：第12課　バスは行きません。
内容・方法：否定文。
【第7回】
テーマ：第13課　いつ韓国に来ましたか。
内容・方法：過去形。
【第8回】
テーマ：第14課　一緒にお昼を食べましょう。
内容・方法：勧誘の言葉。
【第9回】
テーマ：第15課　パーティーの準備をしています。
内容・方法：現在進行形。
【第10回】
テーマ：第16課　何も食べられませんでした。
内容・方法：可能/不可能表現。
【第11回】
テーマ：第17課　陶磁器が見たいです。
内容・方法：～したい。
【第12回】
テーマ：第18課　写真を撮ってもいいですか。
内容・方法：禁止の表現。
【第13回】
テーマ：第19課　帰国しなければいけません。
内容・方法：義務の表現。
【第14回】
テーマ：第20課　手紙を書きますよ。
内容・方法：意志・推量・未来。
【第15回】
テーマ：韓国語座談。
内容・方法：決めたテーマについて発表できるように練習する。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

毎回の授業では、事前・事後学習として1時間から1時間半の学習が必要です。
【第1回】
事前学習課題：授業の概要を読んでおくこと。0.5時間～1時間

事後学習課題：復習でわからなかったところをよくおさらいしておくこと。0.5時間～1時間
【第2回】
事前学習課題：教科書本文第８課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
【第3回】
事前学習課題：教科書本文第9課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
【第4回】
事前学習課題：教科書本文第１０課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
【第5回】
事前学習課題：教科書本文第１１課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
【第6回】
事前学習課題：教科書本文第１２課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
【第7回】
事前学習課題：教科書本文第１３課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
【第8回】
事前学習課題：教科書本文第１４課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
事後学習課題：わからなかったところをよくおさらいしておくこと。0.5時間～1時間
【第9回】
事前学習課題：教科書本文第15課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
【第10回】
事前学習課題：教科書本文第１６課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
【第11回】
事前学習課題：教科書本文第17課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
【第12回】
事前学習課題：教科書本文第１８課を読んでおくこと。0.5時間～１時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
【第13回】
事前学習課題：教科書本文第１９課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
【第14回】
事前学習課題：教科書本文第20課を読んでおくこと。0.5時間～１時間
事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～１時間
【第15回】
事前学習課題：教科書本文第８課から第20課のインタビューテストの準備をしておくこと。0.5時間～1時間
事後学習課題：教科書本文第８課から第２０課を読んでおくこと。0.5時間～１時間

課題に対するフィードバックの方法

授業中に実施した小テストを返却し、間違った箇所を確認して覚えなおす。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

授業への参加態度と小テスト（課題点）、インタビューテスト及び最終レポートの結果から総合的に評価する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	課題点	①②
授業外での評価	20	レポート課題	①②
定期試験	0	なし	なし
定期試験に代わるレポート等	30	最終レポート点	①②
その他	0	なし	なし

テキスト	基礎から学ぶ「韓国語講座」初級[改訂版]/木内明 著/国書刊行会/978-4-336-05750-1
参考書	適宜、教員が紹介する。
履修条件・他の科目との関連	外国語の習得は毎回の授業の積み重ねが必須であることから、授業に積極的に参加すること。

授業コード	20000301	授業形態	実習	実務家教員	ー
授業科目名	スタディアブロードⅠ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	久木　久美子				
シラバス執筆(主)	久木　久美子				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的･概要

スタディアブロードでは、海外での生活体験・学習体験・職業体験を通じた総合的学習、異文化理解やコミュニケーション能力の向上、日本社会や日本文化を捉えなおすことにより、グローバルマインドを持ちながら社会で活躍できる人材を育成することを目的としている。
研修メニューとして、
・語学研修としての海外チャレンジ研修（アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリスなど20か国地域）
・フィールドワークやボランティアを行うグローバル短期研修（インドネシア、シンガポール、カンボジアなど）
・ハワイ食文化研修（１単位）
・海外異文化研修（韓国）（1単位）
などがある。
※上記研修メニューは、変更されることがある。

到達目標

1.　研修を通して異文化の理解を深め、日本の社会や文化との違いが説明できる。
2.　日本語や外国語を使ってコミュニケーションができる。
3.　現地におけるプレゼンテーションやボランティア活動について準備し、実行することができる。
4.　海外で体験したことを、自分の言葉に換え、相手が理解しやすいよう表現することができる（帰国後のレポート作成や帰国報告会での発表）。

授業計画

【前期出発（8月・9月出発）】
＜5月中旬～下旬＞説明会：研修内容の確認、申込書の作成、提出
＜6月中旬～7月上旬＞オリエンテーション（生活、ホームステイ、危機管理など）
＜8月上旬＞最終オリエンテーション（病気・怪我、渡航手続きなど）
＜8月中旬～9月中旬＞各研修プログラムでのアクティビティ・ワークショップの実施
＜10月下旬＞帰国後レポート及び日報の提出、帰国報告会での発表

【後期出発（2月・3月出発）】
＜10月中旬～下旬＞説明会：研修内容の確認、申込書の作成、提出
＜11月中旬～2月上旬＞オリエンテーション（生活、ホームステイ、危機管理など）
＜2月中旬＞最終オリエンテーション（病気・怪我、渡航手続きなど）
＜2月下旬～3月下旬＞各研修プログラムでのアクティビティ・ワークショップ実施
＜4月下旬＞帰国後レポート及び日報の提出、帰国報告会での発表

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

【事前研修】
担当教員等より現地事情や現地活動の準備のための事前研修が行われるので、質問ができるよう書籍やインターネットを使い現地事情について事前に調べておく。また、研修会において学んだことはノートに書きとめ、さらに、現地での学びを深めるための学習を自ら行っておく。さらに、事前研修会において出された課題については、期限までに完成させ担当教員等のチェックを受ける。
【現地研修】
担当教員の指示に従い、現地活動記録としての日報を作成する。帰国後レポートを作成する。
【事後研修】
担当教員等の指示に従い、帰国報告会の発表準備と練習を行う。

課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法

事前研修における課題、現地活動中の日報、帰国後のレポート等の提出物ついては、コメントや講評を記して返却する。

成績評価の方法･基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示すとおり、事前研修・現地研修・事後研修の成績評価を総合的に判定の上、60点以上を合格とし、単位を認定する。
但し、定期試験に代わる「帰国後レポート」が期限までに提出されなかった場合は評価不能「K」とする。

【事前研修】
・事前研修の積極的な取り組み姿勢（10%）
【現地研修】
・現地での活動の積極性や協力度（50%）
・現地での活動記録（日報）の内容（10%）
【事後研修】
・帰国後レポートの内容（定期試験に代わる課題）（20%）
・帰国報告会の発表における取り組み姿勢（10%）

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	帰国後レポートの内容について評価する（20）	1, 4
その他	80	事前研修の積極的な取り組み姿勢について評価する（10） 現地での活動の積極性や協力度について評価する（50） 現地での活動記録（日報）の内容について評価する（10） 帰国報告会の発表における取り組み姿勢について評価する（10）	1, 2, 3, 4

テキスト	なし
参考書	参考図書は、各研修ごとにオリエンテーション中に紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・スタディアブロードⅠ、スタディアブロードⅡの「Ⅰ」、「Ⅱ」は参加回数を表す。初めて参加したプログラムで単位認定された場合はスタディアブロードⅠ、2回目はスタディアブロードⅡとなる。 ・スタディアブロードの説明会は、国際交流センターもしくは学科から掲示などにより案内があるので、履修希望者は注意すること。 ・スタディアブロードに参加する場合は、別途研修参加費用が必要となるので、説明会で研修内容、費用などを必ず確認すること。 ・スタディアブロードは国際交流センターまたは教学・教職センターが申し込み窓口となっているが、説明会にて必ず確認すること。 ・履修希望者は申し込みの後、スタディアブロード参加の許可に関する選考がある。 ・選考結果により奨学金を得ることが可能である。 ・事前研修の出席が不良の場合は現地での研修を許可しない場合がある。

授業コード	20000401	授業形態	実習	実務家教員	ー
授業科目名	スタディアブロードⅡ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	久木　久美子				
シラバス執筆（主）	久木　久美子				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

スタディアブロードでは、海外での生活体験・学習体験・職業体験を通じた総合的学習、異文化理解やコミュニケーション能力の向上、日本社会や日本文化を捉えなおすことにより、グローバルマインドを持ちながら社会で活躍できる人材を育成することを目的としている。
研修メニューとして、
・語学研修としての海外チャレンジ研修（アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリスなど20か国地域）
・フィールドワークやボランティアを行うグローバル短期研修（インドネシア、シンガポール、カンボジアなど）
・ハワイ食文化研修（１単位）
・海外異文化研修（韓国）（1単位）
などがある。
※上記研修メニューは、変更されることがある。

到達目標

1.　研修を通して異文化の理解を深め、日本の社会や文化との違いが説明できる。
2.　日本語や外国語を使ってコミュニケーションができる。
3.　現地におけるプレゼンテーションやボランティア活動について準備し、実行することができる。
4.　海外で体験したことを、自分の言葉に換え、相手が理解しやすいよう表現することができる（帰国後のレポート作成や帰国報告会での発表）。

授業計画

【前期出発（8月・9月出発）】
＜5月中旬～下旬＞説明会：研修内容の確認、申込書の作成、提出
＜6月中旬～7月上旬＞オリエンテーション（生活、ホームステイ、危機管理など）
＜8月上旬＞最終オリエンテーション（病気・怪我、渡航手続きなど）
＜8月中旬～9月中旬＞各研修プログラムでのアクティビティ・ワークショップの実施
＜10月下旬＞帰国後レポート及び日報の提出、帰国報告会での発表

【後期出発（2月・3月出発）】
＜10月中旬～下旬＞説明会：研修内容の確認、申込書の作成、提出
＜11月中旬～2月上旬＞オリエンテーション（生活、ホームステイ、危機管理など）
＜2月中旬＞最終オリエンテーション（病気・怪我、渡航手続きなど）
＜2月下旬～3月下旬＞各研修プログラムでのアクティビティ・ワークショップ実施
＜4月下旬＞帰国後レポート及び日報の提出、帰国報告会での発表

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

【事前研修】
担当教員等より現地事情や現地活動の準備のための事前研修が行われるので、質問ができるよう書籍やインターネットを使い現地事情について事前に調べておく。また、研修会において学んだことはノートに書きとめ、さらに、現地での学びを深めるための学習を自ら行っておく。さらに、事前研修会において出された課題については、期限までに完成させ担当教員等のチェックを受ける。
【現地研修】
担当教員の指示に従い、現地活動記録としての日報を作成する。帰国後レポートを作成する。
【事後研修】
担当教員等の指示に従い、帰国報告会の発表準備と練習を行う。

課題に対するフィードバックの方法

事前研修における課題、現地活動中の日報、帰国後のレポート等の提出物ついては、コメントや講評を記して返却する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示すとおり、事前研修・現地研修・事後研修の成績評価を総合的に判定の上、60点以上を合格とし、単位を認定する。
但し、定期試験に代わる「帰国後レポート」が期限までに提出されなかった場合は評価不能「K」とする。

【事前研修】
・事前研修の積極的な取り組み姿勢（10%）
【現地研修】
・現地での活動の積極性や協力度（50%）
・現地での活動記録（日報）の内容（10%）
【事後研修】
・帰国後レポートの内容（定期試験に代わる課題）（20%）
・帰国報告会の発表における取り組み姿勢（10%）

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	帰国後レポートの内容について評価する（20）	1, 4
その他	80	事前研修の積極的な取り組み姿勢について評価する（10） 現地での活動の積極性や協力度について評価する（50） 現地での活動記録（日報）の内容について評価する（10） 帰国報告会の発表における取り組み姿勢について評価する（10）	1, 2, 3, 4

テキスト	なし
参考書	参考図書は、各研修ごとにオリエンテーション中に紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・スタディアブロードⅠ、スタディアブロードⅡの「Ⅰ」、「Ⅱ」は参加回数を表す。初めて参加したプログラムで単位認定された場合はスタディアブロードⅠ、2回目はスタディアブロードⅡとなる。 ・スタディアブロードの説明会は、国際交流センターもしくは学科から掲示などにより案内があるので、履修希望者は注意すること。 ・スタディアブロードに参加する場合は、別途研修参加費用が必要となるので、説明会で研修内容、費用などを必ず確認すること。 ・スタディアブロードは国際交流センターまたは教学・教職センターが申し込み窓口となっているが、説明会にて必ず確認すること。 ・履修希望者は申し込みの後、スタディアブロード参加の許可に関する選考がある。 ・選考結果により奨学金を得ることが可能である。 ・事前研修の出席が不良の場合は現地での研修を許可しない場合がある。

授業コード	20000101	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	コンピュータ基礎演習Ⅰ（ワープロ）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	岸田　由紀子				
シラバス執筆(主)	岸田　由紀子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

ビジネス社会においてはもちろん、大学の授業においても、情報を自由に加工し、制作物を作成して他者に発信することが必要になってきた。その際には、スマートフォンやタブレット端末ではなく、複数のウィンドウを同時に開いて作業をしたり、キーボードを使って効率的に文章を作成したりできるパソコンが必要となる。また、現在では、インターネットへの常時接続が可能となり、いつでも、どこでも、データや画面を共有できるようになり、授業や会議もオンラインで行われるようになってきた。
　そこで、本授業では、まず、パソコン操作の基本、全ての授業で利用するツールの使い方について解説する。次に、代表的な文書作成ソフトであるWordの基礎について概説し、効率的な文字入力及びかな漢字変換、文章の校正、書式の設定ができるように指導する。続いて、図や表入りの文書の作成、ビジネス文書の作成、ビジュアルな文書の作成に必要な機能と操作方法を解説する。さらに、情報化社会において知っておくべき情報セキュリティや情報倫理について事例を交えて解説する。最後に、プレゼンテーションソフトを用いて簡単なプレゼンテーション資料（スライド）が作成できるように指導する。
　授業の形態は、各機能の操作方法の解説及びコンピュータ演習を組み合わせたものである。

到達目標

1. パソコンの基本操作ができる。
2. 電子メールの基本操作ができる。
3. eラーニングシステム（Google Classroom）の基本操作ができる。
4. Web会議ツール（Zoom）の基本操作ができる。
5. キーボードを見ずにタイピングができる。
6. 効率的なかな漢字変換ができる。
7. 図や表をバランスよく配置した文書の作成ができる。
8. ワープロソフトに関する基本的用語の意味について説明できる。
9. ビジネス文書の構成について説明できる。
10. 簡単なビジネス文書の作成ができる。
11. IDとパスワードの重要性について説明できる。
12. ネット上のルールとマナーについて説明できる。
13. プレゼンテーションとは何かを説明できる。
14. 簡単なプレゼンテーション資料の作成ができる。

授業計画

第1回　パソコン利用ガイド１（授業の進め方・受講ルール、Googleへのログイン、OIUメール、Google Classroom、Zoomの基本的な使い方）
第2回　パソコン利用ガイド２（作成したデータの保存場所、Google Classroom、OIUメール、Zoomの高度な使い方、在学生ポータルサイトの紹介、タイピングの練習）
第3回　Wordの基本操作と文章の入力（Wordの起動、日本語の入力、文章の入力と校正、タイピング練習等）
第4回　文書作成と書式（文書の入力、文字書式、段落書式、書式のクリア、タイピング練習等）
第5回　ビジネス文書とページ書式（ページ書式、ビジネス文書の基本形式、文書の印刷、タイピング練習等）
第6回　表作成（表の構成、表の作成、表への文字入力、表の範囲選択、表の編集、タイピング練習等）
第7回　社外ビジネス文書（社外ビジネス文書の基本形式、同窓会案内状の作成・編集、タイピング練習等）
第8回　図形描画・ビジュアルな文書の作成（図形の挿入、図形の基本操作、ワードアート、オブジェクトの配置、タイピング練習等）
第9回　Wordの学習のまとめ（これまでの学習内容の整理、中間課題等）
第10回　情報セキュリティと情報倫理（IDとパスワードの重要性、パスワードの変更、著作権、ネット上のルールとマナー）
第11回　プレゼンテーションとPowerPointの基礎（プレゼンテーションとは、PowerPointとは、アウトラインの設計等）
第12回　プレゼンテーションの構成とスライドのデザイン（プレゼンテーションの構成、デザインのテーマ等）
第13回　表・図・画像の挿入（表の利用、SmartArtの利用、画像の挿入、画像の編集等）
第14回　アニメーションの設定とスライドショーの実行（アニメーションの設定・詳細、スライドショーの実行等）
第15回　PowerPointによる終了課題の作成（終了課題のテーマ設定、終了課題の作成）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

・事前には、1～2回目はシラバスの内容を、3～8回目、11～14回目は各回に対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておくこと、9回目はそれまでに習ったWordの機能を復習しておくこと、10回目はあらかじめ提示された資料を読んで理解しておくこと、15回目は必要な画像等のデータを準備しておくこと。
・事後には、授業中に出題された課題を完成させておくこと。
・各回につき0.5時間以上の事前学習および0.5時間以上の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

・授業内の課題については、机間巡視により理解度を把握し、間違いや優れた点の指摘、助言等を行う。
・定期試験に代わるレポートの評価結果については希望があれば開示する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

・以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
・正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	演習課題の達成度	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 14
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート試験	8, 9, 11, 12, 13
その他	0		

テキスト	コンピューターリテラシー Microsoft Office Word＆PowerPoint編［改訂版］、花木泰子・浅里京子著、オーム社、2,640円（本体2,400円＋税）、ISBN：978-4-274-22919-0
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・第1回目は全授業に関わる非常に重要な内容なので、必ず出席すること。 ・本科目履修後、「コンピュータ基礎演習II（表計算基礎）」を履修することが望ましい。 ・欠席した場合、その回の教材（演習課題等）を指定されている場所（Google Classroomのトピックなど）よりダウンロードし、復習しておくこと。

授業コード	20000102	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	コンピュータ基礎演習Ⅰ（ワープロ）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	浅里　京子				
シラバス執筆(主)	浅里　京子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

ビジネス社会においてはもちろん、大学の授業においても、情報を自由に加工し、制作物を作成して他者に発信することが必要になってきた。その際には、スマートフォンやタブレット端末ではなく、複数のウィンドウを同時に開いて作業をしたり、キーボードを使って効率的に文章を作成したりできるパソコンが必要となる。また、現在では、インターネットへの常時接続が可能となり、いつでも、どこでも、データや画面を共有できるようになり、授業や会議もオンラインで行われるようになってきた。
　そこで、本授業では、まず、パソコン操作の基本、全ての授業で利用するツールの使い方について解説する。次に、代表的な文書作成ソフトであるWordの基礎について概説し、効率的な文字入力及びかな漢字変換、文章の校正、書式の設定ができるように指導する。続いて、図や表入りの文書の作成、ビジネス文書の作成、ビジュアルな文書の作成に必要な機能と操作方法を解説する。さらに、情報化社会において知っておくべき情報セキュリティや情報倫理について事例を交えて解説する。最後に、プレゼンテーションソフトを用いて簡単なプレゼンテーション資料（スライド）が作成できるように指導する。
　授業の形態は、各機能の操作方法の解説及びコンピュータ演習を組み合わせたものである。

到達目標

1. パソコンの基本操作ができる。
2. 電子メールの基本操作ができる。
3. eラーニングシステム（Google Classroom）の基本操作ができる。
4. Web会議ツール（Zoom）の基本操作ができる。
5. キーボードを見ずにタイピングができる。
6. 効率的なかな漢字変換ができる。
7. 図や表をバランスよく配置した文書の作成ができる。
8. ワープロソフトに関する基本的用語の意味について説明できる。
9. ビジネス文書の構成について説明できる。
10. 簡単なビジネス文書の作成ができる。
11. IDとパスワードの重要性について説明できる。
12. ネット上のルールとマナーについて説明できる。
13. プレゼンテーションとは何かを説明できる。
14. 簡単なプレゼンテーション資料の作成ができる。

授業計画

第1回　パソコン利用ガイド１（授業の進め方・受講ルール、Googleへのログイン、OIUメール、Google Classroom、Zoomの基本的な使い方）
第2回　パソコン利用ガイド２（作成したデータの保存場所、Google Classroom、OIUメール、Zoomの高度な使い方、在学生ポータルサイトの紹介、タイピングの練習）
第3回　Wordの基本操作と文章の入力（Wordの起動、日本語の入力、文章の入力と校正、タイピング練習等）
第4回　文書作成と書式（文書の入力、文字書式、段落書式、書式のクリア、タイピング練習等）
第5回　ビジネス文書とページ書式（ページ書式、ビジネス文書の基本形式、文書の印刷、タイピング練習等）
第6回　表作成（表の構成、表の作成、表への文字入力、表の範囲選択、表の編集、タイピング練習等）
第7回　社外ビジネス文書（社外ビジネス文書の基本形式、同窓会案内状の作成・編集、タイピング練習等）
第8回　図形描画・ビジュアルな文書の作成（図形の挿入、図形の基本操作、ワードアート、オブジェクトの配置、タイピング練習等）
第9回　Wordの学習のまとめ（これまでの学習内容の整理、中間課題等）
第10回　情報セキュリティと情報倫理（IDとパスワードの重要性、パスワードの変更、著作権、ネット上のルールとマナー）
第11回　プレゼンテーションとPowerPointの基礎（プレゼンテーションとは、PowerPointとは、アウトラインの設計等）
第12回　プレゼンテーションの構成とスライドのデザイン（プレゼンテーションの構成、デザインのテーマ等）
第13回　表・図・画像の挿入（表の利用、SmartArtの利用、画像の挿入、画像の編集等）
第14回　アニメーションの設定とスライドショーの実行（アニメーションの設定・詳細、スライドショーの実行等）
第15回　PowerPointによる終了課題の作成（終了課題のテーマ設定、終了課題の作成）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

・事前には、1～2回目はシラバスの内容を、3～8回目、11～14回目は各回に対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておくこと、9回目はそれまでに習ったWordの機能を復習しておくこと、10回目はあらかじめ提示された資料を読んで理解しておくこと、15回目は必要な画像等のデータを準備しておくこと。
・事後には、授業中に出題された課題を完成させておくこと。
・各回につき0.5時間以上の事前学習および0.5時間以上の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

・授業内の課題については、机間巡視により理解度を把握し、間違いや優れた点の指摘、助言等を行う。
・定期試験に代わるレポートの評価結果については希望があれば開示する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

・以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
・正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	演習課題の達成度	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 14
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート試験	8, 9, 11, 12, 13
その他	0		

テキスト	コンピューターリテラシー Microsoft Office Word＆PowerPoint編［改訂版］、花木泰子・浅里京子著、オーム社、2,640円（本体2,400円＋税）、ISBN：978-4-274-22919-0
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・第1回目は全授業に関わる非常に重要な内容なので、必ず出席すること。 ・本科目履修後、「コンピュータ基礎演習II（表計算基礎）」を履修することが望ましい。 ・欠席した場合、その回の教材（演習課題等）を指定されている場所（Google Classroomのトピックなど）よりダウンロードし、復習しておくこと。

授業コード	20000103	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	コンピュータ基礎演習Ⅰ（ワープロ）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	三宅　香代子				
シラバス執筆(主)	三宅　香代子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

ビジネス社会においてはもちろん、大学の授業においても、情報を自由に加工し、制作物を作成して他者に発信することが必要になってきた。その際には、スマートフォンやタブレット端末ではなく、複数のウィンドウを同時に開いて作業をしたり、キーボードを使って効率的に文章を作成したりできるパソコンが必要となる。また、現在では、インターネットへの常時接続が可能となり、いつでも、どこでも、データや画面を共有できるようになり、授業や会議もオンラインで行われるようになってきた。
　そこで、本授業では、まず、パソコン操作の基本、全ての授業で利用するツールの使い方について解説する。次に、代表的な文書作成ソフトであるWordの基礎について概説し、効率的な文字入力及びかな漢字変換、文章の校正、書式の設定ができるように指導する。続いて、図や表入りの文書の作成、ビジネス文書の作成、ビジュアルな文書の作成に必要な機能と操作方法を解説する。さらに、情報化社会において知っておくべき情報セキュリティや情報倫理について事例を交えて解説する。最後に、プレゼンテーションソフトを用いて簡単なプレゼンテーション資料（スライド）が作成できるように指導する。
　授業の形態は、各機能の操作方法の解説及びコンピュータ演習を組み合わせたものである。

到達目標

1. パソコンの基本操作ができる。
2. 電子メールの基本操作ができる。
3. eラーニングシステム（Google Classroom）の基本操作ができる。
4. Web会議ツール（Zoom）の基本操作ができる。
5. キーボードを見ずにタイピングができる。
6. 効率的なかな漢字変換ができる。
7. 図や表をバランスよく配置した文書の作成ができる。
8. ワープロソフトに関する基本的用語の意味について説明できる。
9. ビジネス文書の構成について説明できる。
10. 簡単なビジネス文書の作成ができる。
11. IDとパスワードの重要性について説明できる。
12. ネット上のルールとマナーについて説明できる。
13. プレゼンテーションとは何かを説明できる。
14. 簡単なプレゼンテーション資料の作成ができる。

授業計画

第1回　パソコン利用ガイド１（授業の進め方・受講ルール、Googleへのログイン、OIUメール、Google Classroom、Zoomの基本的な使い方）
第2回　パソコン利用ガイド２（作成したデータの保存場所、Google Classroom、OIUメール、Zoomの高度な使い方、在学生ポータルサイトの紹介、タイピングの練習）
第3回　Wordの基本操作と文章の入力（Wordの起動、日本語の入力、文章の入力と校正、タイピング練習等）
第4回　文書作成と書式（文書の入力、文字書式、段落書式、書式のクリア、タイピング練習等）
第5回　ビジネス文書とページ書式（ページ書式、ビジネス文書の基本形式、文書の印刷、タイピング練習等）
第6回　表作成（表の構成、表の作成、表への文字入力、表の範囲選択、表の編集、タイピング練習等）
第7回　社外ビジネス文書（社外ビジネス文書の基本形式、同窓会案内状の作成・編集、タイピング練習等）
第8回　図形描画・ビジュアルな文書の作成（図形の挿入、図形の基本操作、ワードアート、オブジェクトの配置、タイピング練習等）
第9回　Wordの学習のまとめ（これまでの学習内容の整理、中間課題等）
第10回　情報セキュリティと情報倫理（IDとパスワードの重要性、パスワードの変更、著作権、ネット上のルールとマナー）
第11回　プレゼンテーションとPowerPointの基礎（プレゼンテーションとは、PowerPointとは、アウトラインの設計等）
第12回　プレゼンテーションの構成とスライドのデザイン（プレゼンテーションの構成、デザインのテーマ等）
第13回　表・図・画像の挿入（表の利用、SmartArtの利用、画像の挿入、画像の編集等）
第14回　アニメーションの設定とスライドショーの実行（アニメーションの設定・詳細、スライドショーの実行等）
第15回　PowerPointによる終了課題の作成（終了課題のテーマ設定、終了課題の作成）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

・事前には、1～2回目はシラバスの内容を、3～8回目、11～14回目は各回に対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておくこと、9回目はそれまでに習ったWordの機能を復習しておくこと、10回目はあらかじめ提示された資料を読んで理解しておくこと、15回目は必要な画像等のデータを準備しておくこと。
・事後には、授業中に出題された課題を完成させておくこと。
・各回につき0.5時間以上の事前学習および0.5時間以上の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

・授業内の課題については、机間巡視により理解度を把握し、間違いや優れた点の指摘、助言等を行う。
・定期試験に代わるレポートの評価結果については希望があれば開示する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

・以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
・正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	演習課題の達成度	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 14
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート試験	8, 9, 11, 12, 13
その他	0		

テキスト	コンピューターリテラシー Microsoft Office Word＆PowerPoint編［改訂版］、花木泰子・浅里京子著、オーム社、2,640円（本体2,400円＋税）、ISBN：978-4-274-22919-0
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・第1回目は全授業に関わる非常に重要な内容なので、必ず出席すること。 ・本科目履修後、「コンピュータ基礎演習II（表計算基礎）」を履修することが望ましい。 ・欠席した場合、その回の教材（演習課題等）を指定されている場所（Google Classroomのトピックなど）よりダウンロードし、復習しておくこと。

授業コード	20000104	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	コンピュータ基礎演習Ⅰ（ワープロ）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	新谷　廣一				
シラバス執筆(主)	新谷　廣一				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

ビジネス社会においてはもちろん、大学の授業においても、情報を自由に加工し、制作物を作成して他者に発信することが必要になってきた。その際には、スマートフォンやタブレット端末ではなく、複数のウィンドウを同時に開いて作業をしたり、キーボードを使って効率的に文章を作成したりできるパソコンが必要となる。また、現在では、インターネットへの常時接続が可能となり、いつでも、どこでも、データや画面を共有できるようになり、授業や会議もオンラインで行われるようになってきた。
　そこで、本授業では、まず、パソコン操作の基本、全ての授業で利用するツールの使い方について解説する。次に、代表的な文書作成ソフトであるWordの基礎について概説し、効率的な文字入力及びかな漢字変換、文章の校正、書式の設定ができるように指導する。続いて、図や表入りの文書の作成、ビジネス文書の作成、ビジュアルな文書の作成に必要な機能と操作方法を解説する。さらに、情報化社会において知っておくべき情報セキュリティや情報倫理について事例を交えて解説する。最後に、プレゼンテーションソフトを用いて簡単なプレゼンテーション資料（スライド）が作成できるように指導する。
　授業の形態は、各機能の操作方法の解説及びコンピュータ演習を組み合わせたものである。

到達目標

1. パソコンの基本操作ができる。
2. 電子メールの基本操作ができる。
3. eラーニングシステム（Google Classroom）の基本操作ができる。
4. Web会議ツール（Zoom）の基本操作ができる。
5. キーボードを見ずにタイピングができる。
6. 効率的なかな漢字変換ができる。
7. 図や表をバランスよく配置した文書の作成ができる。
8. ワープロソフトに関する基本的用語の意味について説明できる。
9. ビジネス文書の構成について説明できる。
10. 簡単なビジネス文書の作成ができる。
11. IDとパスワードの重要性について説明できる。
12. ネット上のルールとマナーについて説明できる。
13. プレゼンテーションとは何かを説明できる。
14. 簡単なプレゼンテーション資料の作成ができる。

授業計画

第1回　パソコン利用ガイド１（授業の進め方・受講ルール、Googleへのログイン、OIUメール、Google Classroom、Zoomの基本的な使い方）
第2回　パソコン利用ガイド２（作成したデータの保存場所、Google Classroom、OIUメール、Zoomの高度な使い方、在学生ポータルサイトの紹介、タイピングの練習）
第3回　Wordの基本操作と文章の入力（Wordの起動、日本語の入力、文章の入力と校正、タイピング練習等）
第4回　文書作成と書式（文書の入力、文字書式、段落書式、書式のクリア、タイピング練習等）
第5回　ビジネス文書とページ書式（ページ書式、ビジネス文書の基本形式、文書の印刷、タイピング練習等）
第6回　表作成（表の構成、表の作成、表への文字入力、表の範囲選択、表の編集、タイピング練習等）
第7回　社外ビジネス文書（社外ビジネス文書の基本形式、同窓会案内状の作成・編集、タイピング練習等）
第8回　図形描画・ビジュアルな文書の作成（図形の挿入、図形の基本操作、ワードアート、オブジェクトの配置、タイピング練習等）
第9回　Wordの学習のまとめ（これまでの学習内容の整理、中間課題等）
第10回　情報セキュリティと情報倫理（IDとパスワードの重要性、パスワードの変更、著作権、ネット上のルールとマナー）
第11回　プレゼンテーションとPowerPointの基礎（プレゼンテーションとは、PowerPointとは、アウトラインの設計等）
第12回　プレゼンテーションの構成とスライドのデザイン（プレゼンテーションの構成、デザインのテーマ等）
第13回　表・図・画像の挿入（表の利用、SmartArtの利用、画像の挿入、画像の編集等）
第14回　アニメーションの設定とスライドショーの実行（アニメーションの設定・詳細、スライドショーの実行等）
第15回　PowerPointによる終了課題の作成（終了課題のテーマ設定、終了課題の作成）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

・事前には、1～2回目はシラバスの内容を、3～8回目、11～14回目は各回に対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておくこと、9回目はそれまでに習ったWordの機能を復習しておくこと、10回目はあらかじめ提示された資料を読んで理解しておくこと、15回目は必要な画像等のデータを準備しておくこと。
・事後には、授業中に出題された課題を完成させておくこと。
・各回につき0.5時間以上の事前学習および0.5時間以上の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

・授業内の課題については、机間巡視により理解度を把握し、間違いや優れた点の指摘、助言等を行う。
・定期試験に代わるレポートの評価結果については希望があれば開示する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

・以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
・正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	演習課題の達成度	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 14
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート試験	8, 9, 11, 12, 13
その他	0		

テキスト	コンピューターリテラシー Microsoft Office Word＆PowerPoint編［改訂版］、花木泰子・浅里京子著、オーム社、2,640円（本体2,400円＋税）、ISBN：978-4-274-22919-0
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・第1回目は全授業に関わる非常に重要な内容なので、必ず出席すること。 ・本科目履修後、「コンピュータ基礎演習II（表計算基礎）」を履修することが望ましい。 ・欠席した場合、その回の教材（演習課題等）を指定されている場所（Google Classroomのトピックなど）よりダウンロードし、復習しておくこと。

授業コード	20000105	授業形態	演習	実務家教員	―
授業科目名	コンピュータ基礎演習Ⅰ（ワープロ）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	内藤　富美子				
シラバス執筆(主)	内藤　富美子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

ビジネス社会においてはもちろん、大学の授業においても、情報を自由に加工し、制作物を作成して他者に発信することが必要になってきた。その際には、スマートフォンやタブレット端末ではなく、複数のウィンドウを同時に開いて作業をしたり、キーボードを使って効率的に文章を作成したりできるパソコンが必要となる。また、現在では、インターネットへの常時接続が可能となり、いつでも、どこでも、データや画面を共有できるようになり、授業や会議もオンラインで行われるようになってきた。
　そこで、本授業では、まず、パソコン操作の基本、全ての授業で利用するツールの使い方について解説する。次に、代表的な文書作成ソフトであるWordの基礎について概説し、効率的な文字入力及びかな漢字変換、文章の校正、書式の設定ができるように指導する。続いて、図や表入りの文書の作成、ビジネス文書の作成、ビジュアルな文書の作成に必要な機能と操作方法を解説する。さらに、情報化社会において知っておくべき情報セキュリティや情報倫理について事例を交えて解説する。最後に、プレゼンテーションソフトを用いて簡単なプレゼンテーション資料（スライド）が作成できるように指導する。
　授業の形態は、各機能の操作方法の解説及びコンピュータ演習を組み合わせたものである。

到達目標

1. パソコンの基本操作ができる。
2. 電子メールの基本操作ができる。
3. eラーニングシステム（Google Classroom）の基本操作ができる。
4. Web会議ツール（Zoom）の基本操作ができる。
5. キーボードを見ずにタイピングができる。
6. 効率的なかな漢字変換ができる。
7. 図や表をバランスよく配置した文書の作成ができる。
8. ワープロソフトに関する基本的用語の意味について説明できる。
9. ビジネス文書の構成について説明できる。
10. 簡単なビジネス文書の作成ができる。
11. IDとパスワードの重要性について説明できる。
12. ネット上のルールとマナーについて説明できる。
13. プレゼンテーションとは何かを説明できる。
14. 簡単なプレゼンテーション資料の作成ができる。

授業計画

第1回　パソコン利用ガイド１（授業の進め方・受講ルール、Googleへのログイン、OIUメール、Google Classroom、Zoomの基本的な使い方）
第2回　パソコン利用ガイド２（作成したデータの保存場所、Google Classroom、OIUメール、Zoomの高度な使い方、在学生ポータルサイトの紹介、タイピングの練習）
第3回　Wordの基本操作と文章の入力（Wordの起動、日本語の入力、文章の入力と校正、タイピング練習等）
第4回　文書作成と書式（文書の入力、文字書式、段落書式、書式のクリア、タイピング練習等）
第5回　ビジネス文書とページ書式（ページ書式、ビジネス文書の基本形式、文書の印刷、タイピング練習等）
第6回　表作成（表の構成、表の作成、表への文字入力、表の範囲選択、表の編集、タイピング練習等）
第7回　社外ビジネス文書（社外ビジネス文書の基本形式、同窓会案内状の作成・編集、タイピング練習等）
第8回　図形描画・ビジュアルな文書の作成（図形の挿入、図形の基本操作、ワードアート、オブジェクトの配置、タイピング練習等）
第9回　Wordの学習のまとめ（これまでの学習内容の整理、中間課題等）
第10回　情報セキュリティと情報倫理（IDとパスワードの重要性、パスワードの変更、著作権、ネット上のルールとマナー）
第11回　プレゼンテーションとPowerPointの基礎（プレゼンテーションとは、PowerPointとは、アウトラインの設計等）
第12回　プレゼンテーションの構成とスライドのデザイン（プレゼンテーションの構成、デザインのテーマ等）
第13回　表・図・画像の挿入（表の利用、SmartArtの利用、画像の挿入、画像の編集等）
第14回　アニメーションの設定とスライドショーの実行（アニメーションの設定・詳細、スライドショーの実行等）
第15回　PowerPointによる終了課題の作成（終了課題のテーマ設定、終了課題の作成）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

・事前には、1～2回目はシラバスの内容を、3～8回目、11～14回目は各回に対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておくこと、9回目はそれまでに習ったWordの機能を復習しておくこと、10回目はあらかじめ提示された資料を読んで理解しておくこと、15回目は必要な画像等のデータを準備しておくこと。
・事後には、授業中に出題された課題を完成させておくこと。
・各回につき0.5時間以上の事前学習および0.5時間以上の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

・授業内の課題については、机間巡視により理解度を把握し、間違いや優れた点の指摘、助言等を行う。
・定期試験に代わるレポートの評価結果については希望があれば開示する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

・以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
・正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	演習課題の達成度	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 14
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート試験	8, 9, 11, 12, 13
その他	0		

テキスト	コンピューターリテラシー Microsoft Office Word＆PowerPoint編［改訂版］、花木泰子・浅里京子著、オーム社、2,640円（本体2,400円＋税）、ISBN：978-4-274-22919-0
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・第1回目は全授業に関わる非常に重要な内容なので、必ず出席すること。 ・本科目履修後、「コンピュータ基礎演習II（表計算基礎）」を履修することが望ましい。 ・欠席した場合、その回の教材（演習課題等）を指定されている場所（Google Classroomのトピックなど）よりダウンロードし、復習しておくこと。

授業コード	20000201	授業形態	演習	実務家教員	―
授業科目名	コンピュータ基礎演習Ⅱ（表計算基礎）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	三宅　香代子				
シラバス執筆(主)	三宅　香代子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

情報化社会では、多くのオフィスにおいてパソコンが導入され、様々なデータ処理がなされている。そのような現場で、よく利用されているものに表計算ソフトウェアがある。この授業では、代表的な表計算ソフトウェアであるExcelを用いたデータ処理演習を行う。Excelにおける表形式データの作成と編集、四則演算や関数によるデータ処理、データの並べ替えや抽出、条件に応じた判断処理、表形式データのグラフ化などについて、それらの機能と操作方法を解説する。また、各種演習課題を与え、Excelを用いて具体的な事例に対して情報処理ができるよう指導する。
　授業の形態は、講義及びコンピュータ演習を組み合わせたものである。

到達目標

1. Excelを用いて表形式データの作成と編集を行うことができる。
2. Excelを用いて簡単な計算処理を行うことができる。
3. Excelを用いて判断処理を行うことができる。
4. Excelを用いてグラフ作成を行うことができる。
5. Excelを用いて印刷処理を行うことができる。
6. Excelの基本的な機能を理解し活用することができる。

授業計画

第1回　表計算の概要（授業の進め方・受講ルール、表計算処理の概要、Excelの画面構成等）
第2回　データ入力と数式作成（データの入力・修正・削除、四則演算、オートフィル機能等）
第3回　書式設定と行・列の操作（行・列の操作、罫線、フォント設定、配置制御、小数点制御等）
第4回　基本的な関数（関数の概要、関数の入力、集計等を行う基本的関数等）
第5回　相対参照と絶対参照（相対参照と絶対参照、絶対参照を含む数式のオートフィル等）
第6回　複合演習（テキスト第1～5章に解説されている機能・関数を用いた複合的な演習等）
第7回　基本的なグラフ作成（１）（グラフの概要、グラフの作成・変更、グラフの書式設定等）
第8回　基本的なグラフ作成（２）（円グラフの作成・編集、グラフ作成演習等）
第9回　並べ替えとデータ抽出（１）（データベース機能概要、並べ替え、フィルターによるデータ抽出等）
第10回　並べ替えとデータ抽出（２）（複雑なデータ抽出、印刷の各種設定等）
第11回　判断処理（二分岐処理、IF関数の文法、判断条件の書き方、様々な判断処理等）
第12回　複数シートの利用（別シートのセル参照、シート間の集計等）
第13回　総合応用演習（１）（テキスト第1～5章に解説されている機能・関数を用いた応用）
第14回　総合応用演習（２）（テキスト第6～9章に解説されている機能・関数を用いた応用）
第15回　学習のまとめ（これまでの学習内容の整理、最終課題等）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

・事前には、各回に対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておくこと。
・事後には、学んだ例題・演習課題を一部改変した問題を自ら作成し、その解答を作成すること。
・各回につき0.5時間以上の事前学習および0.5時間以上の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

・課題の演習時に机間巡視を行い、各学生の演習内容について、間違い及び優れた点の指摘と助言等を行う。
・定期試験に代わるレポートの評価結果については希望があれば開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

・以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
・正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	演習課題の達成度	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート試験	6
その他	0		

テキスト	コンピューターリテラシー Microsoft Office Excel編［改訂版］、多田憲孝・内藤富美子 著、オーム社、2,640円（本体2,400円＋税）、ISBN：978-4-274-22920-6
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	欠席した場合、その回の教材（演習課題等）を指定されている場所（Google Classroomのトピックなど）よりダウンロードし、復習しておくこと。

授業コード	20000202	授業形態	演習	実務家教員	―
授業科目名	コンピュータ基礎演習Ⅱ（表計算基礎）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	野村　孝久				
シラバス執筆(主)	野村　孝久				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

情報化社会では、多くのオフィスにおいてパソコンが導入され、様々なデータ処理がなされている。そのような現場で、よく利用されているものに表計算ソフトウェアがある。この授業では、代表的な表計算ソフトウェアであるExcelを用いたデータ処理演習を行う。Excelにおける表形式データの作成と編集、四則演算や関数によるデータ処理、データの並べ替えや抽出、条件に応じた判断処理、表形式データのグラフ化などについて、それらの機能と操作方法を解説する。また、各種演習課題を与え、Excelを用いて具体的な事例に対して情報処理ができるよう指導する。
　授業の形態は、講義及びコンピュータ演習を組み合わせたものである。

到達目標

1. Excelを用いて表形式データの作成と編集を行うことができる。
2. Excelを用いて簡単な計算処理を行うことができる。
3. Excelを用いて判断処理を行うことができる。
4. Excelを用いてグラフ作成を行うことができる。
5. Excelを用いて印刷処理を行うことができる。
6. Excelの基本的な機能を理解し活用することができる。

授業計画

第1回　表計算の概要（授業の進め方・受講ルール、表計算処理の概要、Excelの画面構成等）
第2回　データ入力と数式作成（データの入力・修正・削除、四則演算、オートフィル機能等）
第3回　書式設定と行・列の操作（行・列の操作、罫線、フォント設定、配置制御、小数点制御等）
第4回　基本的な関数（関数の概要、関数の入力、集計等を行う基本的関数等）
第5回　相対参照と絶対参照（相対参照と絶対参照、絶対参照を含む数式のオートフィル等）
第6回　複合演習（テキスト第1～5章に解説されている機能・関数を用いた複合的な演習等）
第7回　基本的なグラフ作成（１）（グラフの概要、グラフの作成・変更、グラフの書式設定等）
第8回　基本的なグラフ作成（２）（円グラフの作成・編集、グラフ作成演習等）
第9回　並べ替えとデータ抽出（１）（データベース機能概要、並べ替え、フィルターによるデータ抽出等）
第10回　並べ替えとデータ抽出（２）（複雑なデータ抽出、印刷の各種設定等）
第11回　判断処理（二分岐処理、IF関数の文法、判断条件の書き方、様々な判断処理等）
第12回　複数シートの利用（別シートのセル参照、シート間の集計等）
第13回　総合応用演習（１）（テキスト第1～5章に解説されている機能・関数を用いた応用）
第14回　総合応用演習（２）（テキスト第6～9章に解説されている機能・関数を用いた応用）
第15回　学習のまとめ（これまでの学習内容の整理、最終課題等）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

・事前には、各回に対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておくこと。
・事後には、学んだ例題・演習課題を一部改変した問題を自ら作成し、その解答を作成すること。
・各回につき0.5時間以上の事前学習および0.5時間以上の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

・課題の演習時に机間巡視を行い、各学生の演習内容について、間違い及び優れた点の指摘と助言等を行う。
・定期試験に代わるレポートの評価結果については希望があれば開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

・以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
・正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	演習課題の達成度	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート試験	6
その他	0		

テキスト	コンピューターリテラシー Microsoft Office Excel編［改訂版］、多田憲孝・内藤富美子 著、オーム社、2,640円（本体2,400円＋税）、ISBN：978-4-274-22920-6
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	欠席した場合、その回の教材（演習課題等）を指定されている場所（Google Classroomのトピックなど）よりダウンロードし、復習しておくこと。

授業コード	20000203	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	コンピュータ基礎演習Ⅱ（表計算基礎）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	新谷　廣一				
シラバス執筆(主)	新谷　廣一				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

情報化社会では、多くのオフィスにおいてパソコンが導入され、様々なデータ処理がなされている。そのような現場で、よく利用されているものに表計算ソフトウェアがある。この授業では、代表的な表計算ソフトウェアであるExcelを用いたデータ処理演習を行う。Excelにおける表形式データの作成と編集、四則演算や関数によるデータ処理、データの並べ替えや抽出、条件に応じた判断処理、表形式データのグラフ化などについて、それらの機能と操作方法を解説する。また、各種演習課題を与え、Excelを用いて具体的な事例に対して情報処理ができるよう指導する。
　授業の形態は、講義及びコンピュータ演習を組み合わせたものである。

到達目標

1. Excelを用いて表形式データの作成と編集を行うことができる。
2. Excelを用いて簡単な計算処理を行うことができる。
3. Excelを用いて判断処理を行うことができる。
4. Excelを用いてグラフ作成を行うことができる。
5. Excelを用いて印刷処理を行うことができる。
6. Excelの基本的な機能を理解し活用することができる。

授業計画

第1回　表計算の概要（授業の進め方・受講ルール、表計算処理の概要、Excelの画面構成等）
第2回　データ入力と数式作成（データの入力・修正・削除、四則演算、オートフィル機能等）
第3回　書式設定と行・列の操作（行・列の操作、罫線、フォント設定、配置制御、小数点制御等）
第4回　基本的な関数（関数の概要、関数の入力、集計等を行う基本的関数等）
第5回　相対参照と絶対参照（相対参照と絶対参照、絶対参照を含む数式のオートフィル等）
第6回　複合演習（テキスト第1～5章に解説されている機能・関数を用いた複合的な演習等）
第7回　基本的なグラフ作成（１）（グラフの概要、グラフの作成・変更、グラフの書式設定等）
第8回　基本的なグラフ作成（２）（円グラフの作成・編集、グラフ作成演習等）
第9回　並べ替えとデータ抽出（１）（データベース機能概要、並べ替え、フィルターによるデータ抽出等）
第10回　並べ替えとデータ抽出（２）（複雑なデータ抽出、印刷の各種設定等）
第11回　判断処理（二分岐処理、IF関数の文法、判断条件の書き方、様々な判断処理等）
第12回　複数シートの利用（別シートのセル参照、シート間の集計等）
第13回　総合応用演習（１）（テキスト第1～5章に解説されている機能・関数を用いた応用）
第14回　総合応用演習（２）（テキスト第6～9章に解説されている機能・関数を用いた応用）
第15回　学習のまとめ（これまでの学習内容の整理、最終課題等）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

・事前には、各回に対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておくこと。
・事後には、学んだ例題・演習課題を一部改変した問題を自ら作成し、その解答を作成すること。
・各回につき0.5時間以上の事前学習および0.5時間以上の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

・課題の演習時に机間巡視を行い、各学生の演習内容について、間違い及び優れた点の指摘と助言等を行う。
・定期試験に代わるレポートの評価結果については希望があれば開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

・以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
・正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	演習課題の達成度	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート試験	6
その他	0		

テキスト	コンピューターリテラシー Microsoft Office Excel編［改訂版］、多田憲孝・内藤富美子 著、オーム社、2,640円（本体2,400円＋税）、ISBN：978-4-274-22920-6
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	欠席した場合、その回の教材（演習課題等）を指定されている場所（Google Classroomのトピックなど）よりダウンロードし、復習しておくこと。

授業コード	20001501	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	基礎演習Ⅰ（日本語表現）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	苅野　正美				
シラバス執筆(主)	苅野　正美				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的･概要

日本語の特色や構造を理解した上で、言葉による表現力を向上させ、社会に適応できる国語表現力を身につけることを目標とする。
日本語は「話し言葉」と「書き言葉」に大別できる。「話し言葉」に関しては、日本語特有の表現や敬語の基本を体系づけて学習した後、社会生活を営む上で必要となる言葉遣いや接遇表現について、場面を想定しながら学ぶ。さらに、社会で乱用されている誤用表現や敬語の誤用についてもシーン別に考え、国語表現力を身につける。「書き言葉」に関しては、制限時間のもと制限字数（800字）の小論文を作成し、私文書作成も行う。
また、日本語の基礎的な能力を確認するために、毎時間、授業の最初に配付する「ワークシート」に取り組み、翌週にはフィードバックして、さらに基礎を固める。

到達目標

1. 国語（漢字・熟語・慣用句）の基本を理解し、応用できる。
2. 「話し言葉」と「書き言葉」について理解し、日本語の特色や構造が説明できる。
3. 日本語特有の言葉遣いや「敬語」について習得し、表現できる。
4. レポートや小論文のルールや作成方法が説明できる。
5. 私文書や小論文が作成できる。

授業計画

第１回　オリエンテーション
（半年間の講義内容、国語力向上のための取り組み（ワークシート）、授業に対する姿勢、成績算出方法などを説明する。）
第２回　日本語の特色と構造
（日本語の歴史を学び、日本語の特色や文章の特性について説明する。漢字シートNo.1に取り組む。）
第３回　「書き言葉」と「話し言葉」
（「書き言葉」と「話し言葉」の相違点を説明する。漢字シートNo.1のフィードバックをしてNo.2に取り組む。）
第４回　「書き言葉」編：文章の種類と構成（三段・四段構成）の立て方
（文章の種類、三段構成と四段構成、構成の立て方について説明する。漢字シートNo.2のフィードバックをしてNo.3に取り組む。）
第５回　「書き言葉」編：文脈の乱れと文体の統一、文章表現の適切な修正方法
（文章を作成する際の「文体の統一」、「文脈のねじれ」が生じないための留意点、文章表現の適切な修正方法を説明する。漢字シートNo.3のフィードバックをしてNo.4に取り組む。）
第６回　「書き言葉」編：要約文の作成方法と引用のルール
（要約文について解説を加え、実際に作成する。また、レポート作成の際の引用文の用い方を説明する。漢字シートNo.4のフィードバックをしてNo.5に取り組む。）
第７回　「書き言葉」編：レポート・小論文の作成方法
（前回までの作成方法をもとに、レポートや小論文の作成手順・留意点を説明する。漢字シートNo.5のフィードバックをしてNo.6に取り組む。漢字シートNo.1～5の振り返り をGoogle Classroomを用いて行う。）
第８回　「書き言葉」編：小論文（800字）作成の実践
（第4回から第7回までの文章作成の方法に留意しながら小論文（800字）を制限時間内に作成する。）
第９回　「話し言葉」編：接遇場面における言葉遣い、日本語特有の表現
（接遇表現や言葉遣い、また、日本語特有の表現についても解説する。漢字シートNo.6のフィードバックをしてNo.7に取り組む。）
第10回　「話し言葉」編：敬語の基本と表現方法
（敬語の基本的な考え方について図式を用いて説明する。漢字シートNo.7のフィードバックをしてNo.8に取り組む。）
第11回　「話し言葉」編：敬語表現の種類
（尊敬語、謙譲語、丁寧語、美化語の用法について説明する。漢字シートNo.8のフィードバックをしてNo.9に取り組む。）
第12回　「話し言葉」編：敬語表現の誤用表現（日常編）
（日常生活において誤って用いられている敬語の表現について説明する。漢字シートNo.9のフィードバックをしてNo.10に取り組む。）
第13回　「話し言葉」編：敬語表現の誤用表現（ビジネス編）
（ビジネス場面において誤って用いられている敬語表現について説明する。漢字シートNo.10のフィードバックをしてNo.11に取り組む。）
第14回　小論文の振り返り、私文書（手紙文）の作成方法
（作成した小論文（800字）を返却する。各自、間違った箇所を確認し、就職活動の小論文作成に役立つように解説する。私文書の書き方の基本を理解し作成する。漢字シートNo.11のフィードバックの後、No.6～No.11の振り返りをGoogle Classroomを用いて行う。）
第15回　接遇表現、敬語、漢字シートの振り返り
（今までに学習した接遇表現、漢字シートの振り返りを行い、より深く理解できるように解説する。）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第１回】
①事前学習課題：本講義のシラバス内容を読んでおくこと。
②事後学習課題：配付したワークシートに基本となる情報を書き込み、次回の授業で提出すること。
【第２回】
①事前学習課題：テキストを購入して、ワークシートに国語に関する基本情報を書き込むこと。
②事後学習課題：漢字シートNo.1で間違えた箇所を覚えなおし、復習すること。
【第３回】
①事前学習課題：漢字シートNo.1が完璧に出来るように復習すること。
②事後学習課題：漢字シートNo.2で間違えた箇所を覚えなおし、復習すること。
【第４回】
①事前学習課題：漢字シートNo.2が完璧に出来るように復習すること。
②事後学習課題：漢字シートNo.3で間違えた箇所を覚えなおし、復習すること。
【第５回】
①事前学習課題：漢字シートNo.3が完璧に出来るように復習すること。
②事後学習課題：漢字シートNo.4で間違えた箇所を覚えなおし、復習すること。
【第６回】
①事前学習課題：漢字シートNo.4が完璧に出来るように復習すること。
②事後学習課題：漢字シートNo.5で間違えた箇所を覚えなおし、復習すること。
【第７回】
①事前学習課題：漢字シートNo.5が完璧に出来るように復習すること。
②事後学習課題：第4回から第7回までの作成手順を復習し、時間配分も確認すること。
【第８回】
①事前学習課題：小論文作成の手順を再確認し、時間配分なども念頭に入れておくこと。
②事後学習課題：漢字シートNo.6で間違えた箇所を覚えなおし、復習すること。
【第９回】
①事前学習課題：漢字シートNo.6が完璧に出来るように復習すること。
②事後学習課題：漢字シートNo.7で間違えた箇所を覚えなおし、復習すること。
【第10回】
①事前学習課題：漢字シートNo.7が完璧に出来るように復習すること。
②事後学習課題：漢字シートNo.8で間違えた箇所を覚えなおし、復習すること。
【第11回】
①事前学習課題：漢字シートNo.8が完璧に出来るように復習すること。
②事後学習課題：漢字シートNo.9で間違えた箇所を覚えなおし、復習すること。
【第12回】
①事前学習課題：漢字シートNo.9が完璧に出来るように復習すること。
②事後学習課題：漢字シートNo.10で間違えた箇所を覚えなおし、復習すること。
【第13回】
①事前学習課題：漢字シートNo.10が完璧に出来るように復習すること。
②事後学習課題：漢字シートNo.11で間違えた箇所を覚えなおし、復習すること。
【第14回】
①事前学習課題：漢字シートNo.11が完璧に出来るように復習すること。
②事後学習課題：漢字シートNo.6～No.11、敬語シートや敬語表現を見直すこと。
【第15回】
①事前学習課題：接遇表現や敬語表現、漢字シートや敬語シートを見直すこと。
②事後学習課題：就職活動や就職試験の際に役立つ表現が多くあるため、配付プリントを見直すようにすること 。

課題に対するフィードバックの方法

課題として取り組んだワークシート（漢字シートを含む）を翌週の授業でフィードバックする。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価により総合的に判定のうえ、60点以上を合格として、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	小テスト計２回（10）、ワークシート（20）	1，2，3
授業外での評価	30	レポート課題：私文書（10）、小論文（20）	4，5
定期試験	40	筆記試験	1，2，3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『新版　日本語表現法（「書く」「話す」「伝える」ための技法）』/西尾宣明編著、苅野正美・奈良崎

テキスト	英穂他/樹村房/1,900円+税/ISBN978-4-88367-221-9
参考書	保坂弘司著『レポート・小論文・卒論の書き方』講談社 その他、必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	毎時間、ワークシートを配付するのでファイルを用意すること。欠席した学生は、配付資料をGoogle Classroomで提示するので、必ず確認すること。

授業コード	20001503	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	基礎演習Ⅰ（日本語表現）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	村田　菜穂子				
シラバス執筆(主)	村田　菜穂子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的･概要

私たちが日常の言語活動において使用している日本語は一様ではなく、「書き言葉」と「話し言葉」、「あらたまった場面」と「日常的な場面」、「敬いの気持ち」と「くだけた気持ち」など、日本語が使用される条件や状況の違いによってさまざまな日本語を使い分けられている。本授業では、「書く」ことに重点をおく中、これまでに学んだ日本語の基本的な知識を土台として、より高度な日本語表現技術を各回の演習において学習し、大学生らしい論理的なレポートの作成ができるようになるための知識と技術の修得を目的とする。

到達目標

1. 「書き言葉」と「話し言葉」の違いについて理解し、日本語の特色について説明できる
2. 目的に応じた文体で日本語の文章を書くことができる
3. ルールに則った体裁のレポートを書くことができる
4. 日本語で書かれた文章を正確に読み解き、説明することができる

授業計画

【第1回】
テーマ：ガイダンス（授業の概要、授業の進め方、評価の方法などに関する説明）
【第2回】
テーマ：「書き言葉」と「話し言葉」（アカデミックワードと日常語）
【第3回】
テーマ：Eメールの書き方
【第4回】
テーマ：分かりやすい日本語を書く【１】句読点、見やすい表記
【第5回】
テーマ：分かりやすい日本語を書く【２】語順、接続表現
【第6回】
テーマ：注意すべき日本語表現（あいまいな文、文のねじれ）
【第7回】
テーマ：大学生に求められているレポートとは
【第8回】
テーマ：（１）先行研究、（２）事実と意見
【第9回】
テーマ：レポートの基本構成（序論・本論・結論）
【第10回】
テーマ：　アウトラインを考える
【第11回】
テーマ：序論　テーマに関する背景、問題提起、研究目的
【第12回】
テーマ：本論【１】研究方法、調査の概要と結果、引用の方法
【第13回】
テーマ：本論【２】データの分析・考察、注の書き方
【第14回】
テーマ：結論　まとめ、今後に関して、参考文献の書き方
【第15回】
テーマ：総括（後期授業のポイントの整理）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

※毎回の授業において、事前学習（1.5時間）と事後学習（2.5時間）が必要である。
【第1回】
①事前学習課題：あらかじめ本授業のシラバスを確認する。
②事後学習課題：受講における留意点を再確認する。
【第2回】～【第5回】、【第7回】【第8回】および【第11回】～【第13回】
①事前学習課題：授業テーマに即した部分の教材を読むとともに、できる限り問題を解いて授業に臨む。
②事後学習課題：授業で提示した課題に取り組むとともに、授業で学んだポイントを整理する。
【第６回】【第9回】【第10回】【第14回】
①事前学習課題：配布されたプリントをよく読み、あらかじめ内容をおさえておくとともに、できる限り問題を解いて授業に臨む。
②事後学習課題：授業で提示した課題に取り組むとともに、授業で学んだポイントを整理する。
【第15回】

①事前学習課題：これまでに学んだこと振り返り、理解の不十分な点について、質問できるように準備しておく。
②事後学習課題：後期授業のポイントを整理しまとめる。

課題に対するフィードバックの方法

課題については、模範となる解答を示すとともに、正しい日本語のルールやポイントとなる点について繰り返し解説を行って理解の深化を促す。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す通り、授業内において課せる課題、授業外において課せる課題、また定期試験に代わるレポートの評価結果に基づいて総合的な判定のうえ、６０点以上を合格とし、所定の単位を認定する。なお、正当な理由がない欠席５回以上、またはレポート試験が未提出の場合は評価対象外となり、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内に実施する課題（30）	１，２，３，４
授業外での評価	25	事前・事後の学習において課せる課題（25）	１，２，３，４
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	45	レポート（45）	１，２，３
その他	0		

テキスト	大学生のための日本語表現トレーニング　ドリル編/安部朋世・福嶋健伸・橋本修編著/三省堂/1,900円(本体)/ISBN:9784385363271
参考書	『論文ワークブック』浜田麻里・平尾得子・由井紀久子著　くろしお出版 このほか、参考書は必要応じて紹介します。 また、指定したテキストのほかに必要に応じて補助教材のプリントを配布します。
履修条件・他の科目との関連	１．必ず、事前学習を行って授業に臨むとともに、授業内容を振り返りながら事後学習に努めること ２．本授業は頻繁に課題が課せられるので積極的に取り組むこと ３．受講にあたり、特別な配慮を必要とする場合は申し出ること

授業コード	20001601	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	基礎演習Ⅱ（プレゼンテーション）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	辻　有美子				
シラバス執筆(主)	辻　有美子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

実社会では、求められる力のひとつに「コミュニケーション能力」があります。仕事を行っていくうえで対人コミュニケーションや情報を適切に伝えるスキルは重要です。ビジネスの現場では、情報を効果的に伝えるためにスライドを使用したプレゼンテーションの機会が増えており、その能力が求められています。ビジネスに必要な情報提供を行い、相互理解のためのコミュニケーションをとる事、視覚的効果のあるプレゼンテーションを実施することは円滑に業務を行っていく上で大変有益です。
本講義では、プレゼンテーションとは何かを学び、「自分の考えを効果的に伝える」豊かな表現と効果的なプレゼンテーションを行うための知識や技術を身に付け、その意義を学びます。さらに、聞き手に内容を理解してもらうため、わかりやすい発表資料を作成するためのパワーポイントの操作技術を習得します。実際にプレゼンテーションを行うことにより、実践的なプレゼンテーションスキルを習得します。

到達目標

1. プレゼンテーション・スキルの重要性について説明することができる。
2. パワーポイントの活用によりプレゼンテーション資料を作成することができる。
3. パワーポイントを用いて、プレゼンテーションをすることができる。

授業計画

【第1回】　オリエンテーション（授業の概要、進め方、評価の方法、到達目標について説明を行う）
【第2回】　プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションで重要なことについて説明する
【第3回】　プレゼンテーションの概要、プレゼンテーション能力の活用について説明する
【第4回】　プレゼンテーションのストーリーについて説明する
【第5回】　視覚資料の作成について説明する
【第6回】　演習：プレゼンテーション実習課題
【第7回】　パワーポイントの基本操作について説明する
【第8回】　プレゼンテーション資料を作成する
【第9回】　プレゼンテーション資料をブラッシュアップする
【第10回】プレゼンテーション資料の視覚効果を高める
【第11回】プレゼンテーション本番の準備をする、表現力を説明する
【第12回】発表演習（1）：プレゼンテーションの実施、評価、改善、総評を実施する
【第13回】発表演習（2）：プレゼンテーションの実施、評価、改善、総評を実施する
【第14回】発表演習（3）：プレゼンテーションの実施、評価、改善、総評を実施する
【第15回】学習のまとめ（これまでの学習内容の整理、最終課題等）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。各回に対応するテキストの内容を事前に熟読し概要を理解しておくこと。また、授業中に出された課題についてまとめ、提出する。

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題について、授業時に全般的な解説・講評を行う。最終発表の後、質疑応答を行い、スライドや発表に関しての詳細をコメントする。定期試験に代わるレポートの結果については希望者に個別にフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく6回以上欠席した場合や最終発表を欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業期間中に実施される課題(20)、最終発表の内容(30)	1,2,3
授業外での評価	0		

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート試験（30）	1
その他	20	グループワークでの貢献度（20）	1,2,3

テキスト	『30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint 2021（Windows11対応）』、実教出版企画開発部（編集）、実教出版、1,000円+税、ISBN：978-4-407-35941-1
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	「セミナーⅡa」「セミナーⅡb」における、発表の基礎を学ぶことができる科目です。積極的な受講を期待します。

授業コード	20002101	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	社会生活の基礎　［対面］				
シラバス執筆（全員）	加藤　淳一				
シラバス執筆（主）	加藤　淳一				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

私たちは家族として、生活者として、消費者として、労働者として、納税者として、地域住民として、有権者としてなど、私たちは様々な形で「社会」と関わりながら生活している。
短大生という時期は、「学生」から、自立した「社会人」への移行期であり、社会に生きる一人としての準備を行う大切な期間である。
そこで本講義では、税金、社会保障、介護・福祉、労働・雇用など、社会的自立に向けて必要な基本的知識を伝えるとともに、地域活動、政治参加など広義の社会生活にも視野を広げて講義し、学生一人ひとりが社会生活の様々な側面について理解を深め、自身が社会にどのように関わっていくか考える機会を提供する。
また、この講義では主体的に内容を理解していくため、適宜グループワークも行う予定である。

到達目標

1.社会的自立に向けて必要な基本的知識を説明できる。
2.幅広い社会生活のあり方とその意義について判断できる。
3.社会に生きる一人としての自身のあり方について考えを深め応用できる。

授業計画

【第1回】　オリエンテーション：授業の概要や進め方、事前・事後学修の方法や成績評価方法などについて説明する。
【第2回】　「社会生活」とは何か？について概説する。
【第3回】　「家族」としての社会生活①：子育て・結婚に関するしくみについて概説する。
【第4回】　「家族」としての社会生活②：介護保険のしくみについて概説する。
【第5回】　「労働者」としての社会生活：様々な働き方、労働に関する基礎知識について概説する。
【第6回】　「納税者」としての社会生活：税金のしくみについて概説する。
【第7回】　「生活者」としての社会生活①：年金と健康保険のしくみについて概説する。
【第8回】　「生活者」としての社会生活②：住まいに関するしくみについて概説する。
【第9回】　「消費者」としての社会生活①：お金と正しくつきあう方法について概説する。
【第10回】「消費者」としての社会生活②：消費者としての選択について概説する。
【第11回】「地域住民」としての社会生活：災害に備える方法について概説する。
【第12回】「有権者」としての社会生活：選挙や政治に関するしくみについて概説する。
【第13回】「情報社会に生きる者」としての社会生活：情報を読み解くリテラシーについて概説する。
【第14回】「社会生活」についての振り返りを行う。
【第15回】授業全体を通しての振り返りとまとめを行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

初回については事後学習2.5時間、第2回から第14回については事前学習各1時間、事後学習各2.5時間を要する（内容は初回講義で伝える）。
この他、授業全体の振り返りやまとめ、および最終レポート作成として15時間程度の学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

全体に向け、課題やレポートに対しての振り返りとフィードバックを行うと共に、必要に応じて個人に対し、課題やレポートのコメントなどをClassroomやOIUメール、または直接口頭で行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、正当な理由なく、欠席の回数が授業回数の1/3を超える（6回以上欠席）の場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	45	授業内で取り組むワークシートへの記入状況や内容を評価（20） 全体を通してのまとめテスト（25）	1, 2, 3

授業外での評価	15	レポート課題や振り返りシートの記入・提出状況や内容を評価	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	授業で扱った基本的語句の説明、内容の理解、記述説明等における最終レポートの内容を評価	1, 2, 3
その他	20	授業に関する発言・質問、受講態度・マナーを評価	1, 2, 3

テキスト	テキストを使用しない。 必要に応じて、プリントを配布する。
参考書	必要に応じて、授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	本授業では、小グループでの議論などを取り入れることがあるので、積極的に参加する姿勢を望む。 進行によっては、授業計画の順序や内容を変更することがある。 なお、欠席者に対しては、次回の出席時に授業の前後で個別にてフォローを行なうと共に、配布物があった場合は、配布する。

授業コード	20003501	授業形態	演習・実習	実務家教員	ー
授業科目名	サービスラーニング　［対面］				
シラバス執筆（全員）	加藤　淳一、横山　誠				
シラバス執筆（主）	加藤　淳一				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は、地域・社会貢献活動（ボランティア活動＝サービス）での経験と、関連した学習（ラーニング）を通して、視野を広げ、学びを深めることを目指す授業であり、事前研修・ボランティア活動・事後研修から構成される。事前研修では、ボランティアに関する基礎的理解や心構えの確認に加え、各自が参加する活動の背景や関連する問題について調べ、理解を深める。その後、各自で一定時間以上のボランティア活動を実施するとともに、日誌の記入や担当教員とのやり取り、中間振り返り会等を通じて学びや内省を深める。事後研修では、各々の活動の成果や学びを振り返り、活動報告を行う。

到達目標

1. ボランティアやサービスラーニングに関する基礎的事項について説明できる。
2. 自分が行うボランティア活動の社会的背景や関連する問題について説明できる。
3. ボランティア活動での学びを、その後にどのように活かしていくか説明できる。
4. 自分がどのように地域や社会に参加・貢献していきたいか説明できる。

＊そのほか、各自が設定した具体的な目標の達成に向けて、内省や自己評価をしながら自律的・主体的に活動を進めていくことが期待される。

授業計画

第1回　事前研修1（ガイダンス、自己紹介／関係づくり、ボランティア／サービスラーニングとは何か）
第2回　事前研修2（活動の背景や関連する問題の調査）
第3回　事前研修3（活動の背景や活動を通して学びたいことを発表する）
第4回　事前研修4（ボランティア参加にあたっての心構え、手続きなど）
第5回～第8回　ボランティア活動の実施（前半）　＊活動日誌に記入しながら学びや内省を深める
第9回　中間振り返り会
第10回～第12回　ボランティア活動の実施（後半）　＊活動日誌に記入しながら学びや内省を深める
第13回　事後研修1（活動の振り返り）
第14回　事後研修2（活動報告の準備）
第15回　まとめと総括

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

ボランティア活動前は、事前研修の内容に沿って、活動に関する調査や予復習等の課題を課す（計16時間）。ボランティア活動中は、活動の準備や、活動日誌の記入を通じた振り返りに取り組む。ボランティア活動後は、活動報告の発表準備やまとめのレポートの作成を課す（計14時間）。

課題に対するフィードバックの方法

ボランティアの計画段階から実施中の報告、事後レポート等、対面指導やその他個別指導を中心に行います。事前学習、事後学習もレポートだけでなく、自らの言葉でしっかりと評価できるよう心がけて下さい。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	事前研修・事後研修等での課題や発表（20）	1, 2, 3, 4
授業外での評価	50	ボランティア活動への取り組み状況（30）、活動日誌（20）	1, 2, 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	口頭試問（15）、総括レポート（15）	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない。適宜プリントや資料等を提示する。
参考書	授業内で適宜紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・授業開始に先立ち、説明会を実施する（4月後半を予定）。履修希望者は必ず参加すること。実施方法（対面／遠隔）や日時・場所・参加方法等については、UNIPAの掲示等を確認すること。 ・一定の責任感をもって参加することが求められる。活動はもちろん、事前研修・事後研修等においても、無断欠席をした場合や、受講態度が著しく不適切な場合は、単位を認めないことがある。 ・学外での活動は、授業内で示す所定の手続きを行った場合のみ認定されるため、必ず事前の承認手続きが必要となる。 ・質問や相談があれば、担当教員宛にメールで連絡するか、研究室に来室すること。 横山 誠（m-yoko@oiu.jp）研究室：1号館523教室 加藤 淳一（j-kato@oiu.jp）研究室：4号館517号室

授業コード	22039301	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	井上　幹太				
シラバス執筆(主)	井上　幹太				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

短期大学での学習は、高等学校までの受動的な学習から自らが課題を見つけ、課題を解決していく能動的な学習への移行に向けて必要なスタディスキル（学修のための技能）であるノートテイキング、文章の要約方法、レポートの書き方や新しい人間関係を形成するために必要なソーシャルスキル（社会生活を送るための技能）であるコミュニケーション力、表現力をグループワークによる栄養士に係る諸課題に取り組む演習を通して習得することを目指す。さらに、就職・進学対策としてキャリアサポートセンターガイドツアー、一般常識対策試験などを実施する。
授業の形態は主に演習である。

到達目標

1. 短期大学部での学習に必要とされるスタディスキルを習得し、専門教育での学習に活用することができる。
2. 短期大学部での学習に必要とされるソーシャルスキルを習得し、好ましい人間関係を形成するために活用することができる。

授業計画

第1回　短大・栄養学科の教育目的及び栄養学科の学習成果についての説明、学修ポートフォリオの説明、セミナーＩａの運営説明、履修指導
第2回　他己紹介、短大生活の目標設定（個人、グループワーク）、事務連絡（OIUメール、欠席の取り扱い、学年歴、課題の説明）
第3回　PROGテスト（社会人基礎力測定テスト「PROG」を受検する）
第4回　GPAの説明（成績評価、栄養士免許）
第5回　栄養士校外実習履修のための条件についての説明、一般常識対策試験のためのラインズドリルの活用法についての説明
第6回　PROGテスト（社会人基礎力測定テスト「PROG」の結果を解説する）
第7回　一般常識対策試験（第1回基礎学力テストの受験）
第8回　ライブラリーツアー（図書館の利用方法、図書の検索について演習する）
第9回　課題の作成（発表テーマの設定および構想）、個人面談
第10回　課題の作成（パワポを使用したまとめ方を学ぶ）、個人面談
第11回　地域共催イベント参加
第12回　キャリアサポートセンターガイドツアー（キャリアサポートセンターの役割、利用のしかたについて説明する）
第13回　一般常識対策試験（第1回OIU/OICドリル確認テストの受験）
第14回　課題発表会（パワーポイントを使用した発表）
第15回　前期セミナーの振り返り、各種連絡（定期試験、成績公開、後期授業などについて）

（状況により授業内容が前後する場合がある）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業外において積極的に図書館やキャリアサポートセンターを活用すること。
一般常識対策試験の前には、各自試験範囲について、OIU/OICドリル名を活用し自主学習をすること。

課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法

提出された課題については、適宜コメントを付記し返却する。
課題発表会については、自他評価を実施する。

成績評価の方法･基準(方針)

全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・正当な理由なく定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法･割合	評価対象となる到達目標

授業内での評価	50	一般常識対策試験の結果1回（10） 第1回OIU/OICドリル確認テスト（10） 発表内容（30）	1, 2
授業外での評価	20	地域共催イベント参加レポートの評価（20）	1
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	課題レポートの内容を評価(10)	1, 2
その他	20	セミナーでの積極的な発言（10）、自主性を評価(10)	2

テキスト	栄養士・管理栄養士を目指す人の文章術ハンドブック　西川真理子著　化学同人　本体2,000円＋税　978-4759814774
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	「卒業必修科目」である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 後期にセミナーＩbを履修すること。 授業を欠席した場合は、セミナー担任に連絡を取り、対応を確認すること。 全体の連絡事項、配布資料については、クラスルームを確認すること。

授業コード	22039302	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	海老澤　薫				
シラバス執筆(主)	海老澤　薫				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

短期大学での学習は、高等学校までの受動的な学習から自らが課題を見つけ、課題を解決していく能動的な学習への移行に向けて必要なスタディスキル（学修のための技能）であるノートテイキング、文章の要約方法、レポートの書き方や新しい人間関係を形成するために必要なソーシャルスキル（社会生活を送るための技能）であるコミュニケーション力、表現力をグループワークによる栄養士に係る諸課題に取り組む演習を通して習得することを目指す。さらに、就職・進学対策としてキャリアサポートセンターガイドツアー、一般常識対策試験などを実施する。
授業の形態は主に演習である。

到達目標

1. 短期大学部での学習に必要とされるスタディスキルを習得し、専門教育での学習に活用することができる。
2. 短期大学部での学習に必要とされるソーシャルスキルを習得し、好ましい人間関係を形成するために活用することができる。

授業計画

【第1回】短大・栄養学科の教育目的及び栄養学科の学習成果についての説明、学修ポートフォリオの説明、セミナーＩａの運営説明、履修指導
【第２回】自己紹介に関するプレゼンテーションを実施する、就職試験対策①（SPI非言語分野）
【第3回】PROGテスト（社会人基礎力測定テスト「PROG」を受検する）
【第4回】GPAの説明（成績評価、栄養士免許）
【第５回】栄養士校外実習履修のための条件についての説明、一般常識対策試験のためのラインズドリルの活用法についての説明
【第6回】PROGテスト（社会人基礎力測定テスト「PROG」の結果を解説する）
【第7回】一般常識対策試験（第1回基礎学力テストの受験）
【第8回】ライブラリーツアー（図書館の利用方法、図書の検索について演習する）
【第9回】就職試験対策②（SPI非言語分野）、個人面談を実施する
【第10回】就職試験対策③（SPI言語分野）
【第11回】地域共催イベント参加
【第12回】キャリアサポートセンターガイドツアー（キャリアサポートセンターの役割、利用のしかたについて説明する）
【第13回】一般常識対策試験（第1回OIU/OICドリル確認テストの受験）
【第14回】就職試験対策④（SPI言語分野）
【第15回】前期セミナーの振り返り、各種連絡（定期試験、成績公開、後期授業などについて）
（状況により授業内容が前後する場合がある）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業外において積極的に図書館やキャリアサポートセンターを活用すること。
一般常識対策試験の前には、各自試験範囲について、OIU/OICドリル名をを活用し自主学習をすること。

課題に対するフィードバックの方法

プレゼンテーションや課題については添削および講評を行い、フィードバックする。
小テストについては採点し解説する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・正当な理由なく定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	社会人基礎力を身につけるための取り組み①(プレゼンテーション)について完成度を評価する(20)	1,2

		社会人基礎力を身につけるための取り組み②（SPI対策）について点数に応じて評価する（20）	
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポートを課し、完成度に応じて評価する（10）	1，2
その他	50	OIU/OICドリルの達成度について評価する（10） OIU/OICドリル確認テストの点数に応じて評価する（20） 基礎学力テストの点数に応じて評価する（20）	1，2

テキスト	『栄養士・管理栄養士を目指す人の文章術ハンドブック』 西川真理子著 化学同人 本体2,000円＋税 ISBN 978-4759814774
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	「卒業必修科目」である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 後期にセミナーＩbを履修すること。 授業を欠席した場合は、セミナー担任に連絡を取り、対応を確認すること。 全体の連絡事項、配布資料については、クラスルームを確認すること。

授業コード	22039303	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	坂井　孝				
シラバス執筆(主)	坂井　孝				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

短期大学での学習は、高等学校までの受動的な学習から自らが課題を見つけ、課題を解決していく能動的な学習への移行に向けて必要なスタディスキル（学修のための技能）であるノートテイキング、文章の要約方法、レポートの書き方や新しい人間関係を形成するために必要なソーシャルスキル（社会生活を送るための技能）であるコミュニケーション力、表現力をグループワークによる栄養士に係る諸課題に取り組む演習を通して習得することを目指す。
さらに、就職・進学対策としてキャリアサポートセンターガイドツアー、一般常識対策試験などを実施する。
授業の形態は主に演習である。

到達目標

1. 短期大学部での学習に必要とされるスタディスキルを習得し、専門教育での学習に活用することができる。
2. 短期大学部での学習に必要とされるソーシャルスキルを習得し、好ましい人間関係を形成するために活用することができる。

授業計画

第1回　短大・栄養学科の教育目的及び栄養学科の学習成果についての説明、学修ポートフォリオの説明、セミナーＩａの運営説明、履修指導
第2回　友達作りをしよう（個人ワーク、ペアワーク）、短大生活の目標を設定する
第3回　PROGテスト（社会人基礎力測定テスト「PROG」を受検する）
第4回　GPAの説明（成績評価、栄養士免許）
第5回　栄養士校外実習履修のための条件についての説明、一般常識対策試験のためのラインズドリルの活用法についての説明
第6回　PROGテスト（社会人基礎力測定テスト「PROG」の結果を解説する）
第7回　一般常識対策試験（第1回基礎学力テストの受験）
第8回　ライブラリーツアー（図書館の利用方法、図書の検索について演習する）
第9回　自分の興味・関心のあることを見つけよう（テーマを設定しよう）
第10回　自分の興味・関心のあることを見つけよう（インターネットや図書館資料を活用して、まとめる）
第11回　地域共催イベント参加
第12回　キャリアサポートセンターガイドツアー（キャリアサポートセンターの役割、利用のしかたについて説明する）
第13回　一般常識対策試験（第1回OIU/OICドリル確認テストの受験）
第14回　自分の興味・関心のあることを発表しよう（パワーポイントを使って発表する）
第15回　前期セミナーの振り返り、各種連絡（定期試験、成績公開、後期授業などについて）
（状況により授業内容が前後する場合がある）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業外において積極的に図書館やキャリアサポートセンターを活用すること。
一般常識対策試験の前には、各自試験範囲について学習をすること。

課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法

提出された課題については、コメントを付記し返却する。

成績評価の方法･基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法･割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	一般常識対策試験の結果(10) 第1回OIU/OICドリル確認テスト(10) 発表内容(50)	1, 2

授業外での評価	20	地域共催イベント参加レポートの評価（20）	1
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	振り返り課題レポートの内容を評価（10）	1，2
その他	0		

テキスト	栄養士・管理栄養士を目指す人の文章術ハンドブック　西川真理子著　化学同人　本体1800円＋税　978-4759814774
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	「卒業必修科目」である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 後期にセミナーＩbを履修すること。 欠席した授業回については、classroomを確認して自主学習をすること。

授業コード	22039304	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	土井　玲奈				
シラバス執筆(主)	土井　玲奈				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

短期大学での学習は、高等学校までの受動的な学習から自らが課題を見つけ、課題を解決していく能動的な学習への移行に向けて必要なスタディスキル（学修のための技能）であるノートテイキング、文章の要約方法、レポートの書き方や新しい人間関係を形成するために必要なソーシャルスキル（社会生活を送るための技能）であるコミュニケーション力、表現力をグループワークによる栄養士に係る諸課題に取り組む演習を通して習得することを目指す。さらに、就職・進学対策としてキャリアサポートセンターガイドツアー、一般常識対策試験などを実施する。
授業の形態は主に演習である。

到達目標

1. 短期大学部での学習に必要とされるスタディスキルを習得し、専門教育での学習に活用することができる。
2. 短期大学部での学習に必要とされるソーシャルスキルを習得し、好ましい人間関係を形成するために活用することができる。

授業計画

第1回　短大・栄養学科の教育目的及び栄養学科の学習成果についての説明、学修ポートフォリオの説明、セミナーＩａの運営説明、履修指導
第2回　短期大学の目標を設定しよう（個人ワーク）、個人面談
第3回　PROGテスト（社会人基礎力測定テスト「PROG」を受検する）
第4回　GPAの説明（成績評価、栄養士免許）
第5回　栄養士校外実習履修のための条件についての説明、一般常識対策試験のためのラインズドリルの活用法についての説明
第6回　PROGテスト（社会人基礎力測定テスト「PROG」の結果を解説する）
第7回　一般常識対策試験（第1回基礎学力テストの受験）
第8回　ライブラリーツアー（図書館の利用方法、図書の検索について演習する）
第9回　レポート作成（図書・インターネットを使用して正しい情報収集の方法を学ぶ）、個人面談
第10回　レポート作成（レポートのまとめ方について学ぶ）
第11回　地域共催イベント参加
第12回　キャリアサポートセンターガイドツアー（キャリアサポートセンターの役割、利用のしかたについて説明する）
第13回　一般常識対策試験（第1回OIU/OICドリル確認テストの受験）
第14回　課題レポートの作成（収集した資料に基づき作成し、提出する。）
第15回　前期セミナーの振り返り、各種連絡（定期試験、成績公開、後期授業などについて）

※状況により授業内容が前後する場合がある

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業外において積極的に図書館やキャリアサポートセンターを活用すること。
一般常識対策試験の前には、各自試験範囲についてOIU/OICドリルを用いて学習をすること。

課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法

提出された課題については、コメントを付記し返却する。

成績評価の方法･基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法･割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	一般常識対策試験の結果(10) 第1回OIU/OICドリル確認テスト(10)	1,2

授業外での評価	20	地域共催イベント参加レポートの評価（20）	1
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	課題レポートの内容を評価（40）	1,2
その他	20	セミナーでの積極的な発言（10） 他人とのコミュニケーションをとる姿勢（10）	2

テキスト	栄養士・管理栄養士を目指す人の文章術ハンドブック　西川真理子著　化学同人　本体1800円＋税　978-4759814774
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	「卒業必修科目」である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 後期にセミナーＩbを履修すること。 授業を欠席した場合は、セミナー担任に連絡を取り、対応を確認すること。 全体の連絡事項、配布資料については、クラスルームを確認すること。

授業コード	22039401	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩｂ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	井上　幹太				
シラバス執筆(主)	井上　幹太				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

栄養学科の学生として、学生生活を有意義かつ積極的に送るために、セミナーＩaに引き続き、スタディスキルおよびソーシャルスキルについて演習を通じて習得することを目指す。
さらに、就職・進学対策として、進路ガイダンス、出張面接講座、一般常識対策試験などを実施する。加えて、セミナー活動として、国民健康栄養調査などの統計データを用いた演習（グループワーク）を行う。
授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 短期大学部での学習に必要とされるスタディスキルを習得し、専門教育での学習に活用することができる。
2. 短期大学部での学習に必要とされるソーシャルスキルを習得し、好ましい人間関係を形成するために活用することができる。
3. 卒業後の進路について、自分の考えをまとめ、それに向けて準備することができる。

授業計画

第1回　セミナーの運営方針等の説明、履修指導（履修修正について指導を行う）、GPAの確認、学修ポートフォリオの結果確認と入力（これまでの振り返りとこれからの目標について記入する）
第2回　セミナー活動①健康に関する統計データについて学ぶ、個人面談
第3回　一般常識対策試験（第2回OIU/OIC確認テストの受験）、個人面談
第4回　セミナー活動②健康に関するテーマについてのグループディスカッション
第5回　全学映画会（全学共通の映画の上映を行う）、一般常識対策試験を活用した振り返り
第6回　就職活動のための取り組み①（自己分析）
第7回　就職活動のための取り組み②（業界・企業について学ぶ）
第8回　就職活動のための取り組み③（マナー・接遇について学ぶ）
第9回　就職対策講座（CSC主催：卒業生の話を聞く）
第10回　就職対策講座（CSC主催：履歴書の書き方についての演習）
第11回　就職対策講座（CSC主催：出張面接講座、面接への臨み方の基本について解説を行い、面接練習を行う）
第12回　就職対策講座（学科主催：内定した2年生の体験談をインタビュー形式で聞く）
第13回　一般常識対策試験（第2回基礎学力テストの受験）、就職活動を行うにあたってのポイントまとめ
第14回　セミナーⅡ活動発表会参加
第15回　セミナーⅡ説明会　各種の連絡（後期終講にあたっての各種の連絡を行う。また、2年次に向けての留意事項や課題などについて説明を行う）

（状況により授業内容が前後する場合がある）
＊大学祭で活動する場合は、準備についてセミナー活動の中に取り入れる。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業外において積極的に図書館やキャリアサポートセンターを活用すること。
セミナー時間内で完了できなかった課題については、次のセミナーの時間までに仕上げ提出すること。
一般常識対策試験に向け、OIU/OICドリルを少しずつ勉強すること。
栄養士校外実習報告会、進路ガイダンスなどのレポートは授業終了後にまとめ期限までに提出すること。

課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法

提出された課題については、適宜コメントを付記し返却する。

成績評価の方法･基準(方針)

全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・正当な理由なく定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法･割合	評価対象となる到達目標

授業内での評価	30	一般常識対策試験（第2回OIU/OIC確認テスト）の結果（15） 一般常識対策試験（第2回基礎学力テスト）の結果（15）	1
授業外での評価	40	栄養士校外実習報告会のレポートの評価（10） 進路対策講座のレポートの評価（5×4） 事前事後学習の取り組みを評価(10)	1，3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	全授業終了後に実施するレポート課題(20)	1，3
その他	10	セミナーへの取り組み姿勢を評価(10)	2

テキスト	栄養士実力認定試験一問一答 第3版　女子栄養大学出版部978-4789524513　1,300円＋税
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	「卒業必修科目」である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 前期のセミナーＩaを履修していること。 授業を欠席した場合は、セミナー担任に連絡を取り、対応を確認すること。 全体の連絡事項、配布資料については、クラスルームを確認すること。

授業コード	22039402	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩｂ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	海老澤　薫				
シラバス執筆(主)	海老澤　薫				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

栄養学科の学生として、学生生活を有意義かつ積極的に送るために、セミナーＩaに引き続き、スタディスキルおよびソーシャルスキルについて演習を通じて習得することを目指す。
さらに、就職・進学対策として、進路ガイダンス、出張面接講座、一般常識対策試験などを実施する。加えて、セミナー活動として、国民健康栄養調査などの統計データを用いた演習（グループワーク）を行う。
授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 短期大学部での学習に必要とされるスタディスキルを習得し、専門教育での学習に活用することができる。
2. 短期大学部での学習に必要とされるソーシャルスキルを習得し、好ましい人間関係を形成するために活用することができる。
3. 卒業後の進路について、自分の考えをまとめ、それに向けて準備することができる。

授業計画

【第1回】セミナーの運営方針等の説明、履修指導（履修修正について指導を行う）、GPAの確認、学修ポートフォリオの結果確認と入力（これまでの振り返りとこれからの目標について記入する）
【第2回】就職試験対策①　言語分野の強化
【第3回】一般常識対策試験（第2回OIU/OIC確認テストの受験）および解説
【第4回】就職試験対策②　非言語分野の強化
【第5回】全学映画会（全学共通の映画の上映を行う）、就職に向けた企業研究を行う
【第6回】就職試験対策③　面接、エントリーシート対策1
【第7回】就職試験対策④　面接、エントリーシート対策2
【第8回】就職試験対策⑤　まとめテスト
【第9回】就職対策講座（CSC主催：卒業生の話を聞く）
【第10回】就職対策講座（CSC主催：履歴書の書き方についての演習）
【第11回】就職対策講座（CSC主催：出張面接講座、面接への臨み方の基本について解説を行い、面接練習を行う）
【第12回】就職対策講座（学科主催：内定した2年生の体験談をインタビュー形式で聞く）
【第13回】一般常識対策試験（第2回基礎学力テストの受験）、就職に向けた企業研究を行う
【第14回】セミナー活動報告会参加
【第15回】セミナーⅡ説明会　各種の連絡（後期終講にあたっての各種の連絡を行う。また、2年次に向けての留意事項や課題などについて説明を行う）
（状況により授業内容が前後する場合がある）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業外において積極的に図書館やキャリアサポートセンターを活用すること。
セミナー時間内で完了できなかった課題については、次のセミナーの時間までに仕上げ提出すること。
一般常識対策試験に向け、OIU/OICドリルを少しずつ勉強すること。
栄養士校外実習報告会、進路ガイダンスなどのレポートは授業終了後にまとめ期限までに提出すること。

課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法

課題については提出後、コメントを付して返却する。
就職試験対策については採点後、返却する。また、解説を行う。

成績評価の方法･基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・正当な理由なく定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法･割合	評価対象となる到達目標

授業内での評価	40	就職試験対策①（言語分野）について点数に応じて評価する（10） 就職試験対策②（非言語分野）について点数に応じて評価する（10） 就職試験対策③（面接、エントリーシート）について取り組み姿勢に応じて評価する（10） 就職試験対策④（面接、エントリーシート）について取り組み姿勢に応じて評価する（10）	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポートを課し、完成度について評価する（10）	1, 2, 3
その他	50	OIU/OICドリルの達成度について評価する（10） OIU/OICドリル確認テストの点数に応じて評価する（20） 基礎学力テストの点数に応じて評価する（20）	1, 2, 3

テキスト	『栄養士実力認定試験　一問一答　第3版』 女子栄養大学出版部 ISBN 978-4-7895-2451-3 本体価格1,300円（税別）
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	「卒業必修科目」である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 前期のセミナーⅠaを履修していること。 授業を欠席した場合は、セミナー担任に連絡を取り、対応を確認すること。 全体の連絡事項、配布資料については、クラスルームを確認すること。

授業コード	22039403	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩｂ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	坂井　孝				
シラバス執筆(主)	坂井　孝				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

栄養学科の学生として、学生生活を有意義かつ積極的に送るために、セミナーＩaに引き続き、スタディスキルおよびソーシャルスキルについて演習を通じて習得することを目指す。
さらに、就職・進学対策として、進路ガイダンス、出張面接講座、一般常識対策試験などを実施する。加えて、セミナー活動として、国民健康栄養調査などの統計データを用いた演習（グループワーク）を行う。
授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 短期大学部での学習に必要とされるスタディスキルを習得し、専門教育での学習に活用することができる。
2. 短期大学部での学習に必要とされるソーシャルスキルを習得し、好ましい人間関係を形成するために活用することができる。
3. 卒業後の進路について、自分の考えをまとめ、それに向けて準備することができる。

授業計画

第1回　セミナーの運営方針等の説明、履修指導（履修修正について指導を行う）、GPAの確認、学修ポートフォリオの結果確認と入力（これまでの振り返りとこれからの目標について記入する）
第2回　セミナー活動（統計データの読み込み）
第3回　一般常識対策試験（第2回OIU/OIC確認テストの受験）
第4回　セミナー活動（統計データの読み込み）
第5回　全学映画会（全学共通の映画の上映を行う）
第6回　セミナー活動（就職活動のための取り組み：企業研究について学ぶ）
第7回　セミナー活動（就職活動のための取り組み：PROGテスト結果を活用した自己理解をする）
第8回　就職対策講座（CSC主催：卒業生の話を聞く）
第9回　就職対策講座（CSC主催：履歴書の書き方についての演習）
第10回　就職対策講座（CSC主催：出張面接講座、面接への臨み方の基本について解説を行い、面接練習を行う）
第11回　セミナー活動（発表資料の作成）
第12回　就職対策講座（学科主催：内定した2年生の体験談をインタビュー形式で聞く）
第13回　一般常識対策試験（第2回基礎学力テストの受験）　セミナー活動発表
第14回　セミナー活動（２年生）報告会参加
第15回　セミナーⅡ説明会　各種の連絡（後期終講にあたっての各種の連絡を行う。また、2年次に向けての留意事項や課題などについて説明を行う）
（状況により授業内容が前後する場合がある）
＊大学祭で活動する場合は、準備についてセミナー活動の中に取り入れる。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業外において積極的に図書館やキャリアサポートセンターを活用すること。
セミナー時間内で完了できなかった課題については、次のセミナーの時間までに仕上げ提出すること。
一般常識対策試験に向け、ラインズドリルを少しずつ勉強すること。
栄養士校外実習報告会、進路ガイダンスなどのレポートは授業終了後にまとめ期限までに提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については内容を確認後、必要に応じコメントを入れ返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示すとおり、評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
定期試験に代わるレポート等の課題が未提出の場合は、「K」評価となる。
5回を超えて欠席した場合は、「K」評価となる（例えば、欠席5回、遅刻1回で「K」評価）。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	一般常識対策試験の成績2回分(20) セミナー活動に関する発表(40) 就職活動のための活動に関する課題(10)	1, 2, 3

授業外での評価	20	就職ガイダンス関連の振り返りレポート（10） 栄養士校外実習報告会レポート（10）	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	セミナー振り返りレポート（10）	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	栄養士実力認定試験　一問一答　第3版　川端輝江・岩間範子／監修　女子栄養大学出版部 ISBN-978-4-7895-2451-3 本体価格1300円＋税
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	「卒業必修科目」である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 前期にセミナーＩaを履修すること。 欠席した授業回については、classroomを確認して自主学習をすること。

授業コード	22039404	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩｂ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	土井　玲奈				
シラバス執筆(主)	土井　玲奈				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

栄養学科の学生として、学生生活を有意義かつ積極的に送るために、セミナーＩaに引き続き、スタディスキルおよびソーシャルスキルについて演習を通じて習得することを目指す。
さらに、就職・進学対策として、進路ガイダンス、出張面接講座、一般常識対策試験などを実施する。加えて、セミナー活動として、国民健康栄養調査などの統計データを用いた演習（グループワーク）を行う。
授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 短期大学部での学習に必要とされるスタディスキルを習得し、専門教育での学習に活用することができる。
2. 短期大学部での学習に必要とされるソーシャルスキルを習得し、好ましい人間関係を形成するために活用することができる。
3. 卒業後の進路について、自分の考えをまとめ、それに向けて準備することができる。

授業計画

第1回　セミナーの運営方針等の説明、履修指導（履修修正について指導を行う）、GPAの確認、学修ポートフォリオの結果確認と入力（これまでの振り返りとこれからの目標について記入する）
第2回　セミナー活動① 食育に関する取り組みを調べる
第3回　一般常識対策試験（第2回OIU/OIC確認テストの受験）、個人面談
第4回　セミナー活動② 食育に関する取り組みを調べて、レポートにまとめる。
第5回　全学映画会（全学共通の映画の上映を行う）、個人面談
第6回　セミナー活動③指導媒体の作成
第7回　セミナー活動④指導媒体の作成
第8回　セミナー活動④食育活動の実践・振り返り
第9回　就職対策講座（CSC主催：卒業生の話を聞く）
第10回　就職対策講座（CSC主催：履歴書の書き方についての演習）
第11回　就職対策講座（CSC主催：出張面接講座、面接への臨み方の基本について解説を行い、面接練習を行う）
第12回　就職対策講座（学科主催：内定した2年生の体験談をインタビュー形式で聞く）
第13回　一般常識対策試験（第2回基礎学力テストの受験）、個人面談
第14回　セミナーⅡ活動発表会参加
第15回　セミナーⅡ説明会　各種の連絡（後期終講にあたっての各種の連絡を行う。また、2年次に向けての留意事項や課題などについて説明を行う）

状況により授業内容が前後する場合がある。
＊大学祭で活動する場合は、準備についてセミナー活動の中に取り入れる。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業外において積極的に図書館やキャリアサポートセンターを活用すること。
セミナー時間内で完了できなかった課題については、次のセミナーの時間までに仕上げ提出すること。
一般常識対策試験に向け、OIU/OICドリルを少しずつ勉強すること。
栄養士校外実習報告会、進路ガイダンスなどのレポートは授業終了後にまとめ期限までに提出すること。

課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法

提出された課題については内容を確認後、必要に応じコメントを入れ返却する。

成績評価の方法･基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法･割合	評価対象となる到達目標

授業内での評価	20	一般常識対策試験の結果（10） 第1回OIU/OICドリル確認テスト（10）	1,2
授業外での評価	20	地域共催イベント参加レポートの評価（20）	1
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	課題レポートの内容を評価（40）	1,2
その他	20	セミナーでの積極的な発言（10） 他人とのコミュニケーションをとる姿勢（10）	2

テキスト	栄養士・管理栄養士を目指す人の文章術ハンドブック　西川真理子著　化学同人　本体1800円＋税　978-4759814774
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	「卒業必修科目」である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 前期にセミナーＩaを履修すること。 授業を欠席した場合は、セミナー担任に連絡を取り、対応を確認すること。 全体の連絡事項、配布資料については、クラスルームを確認すること。

授業コード	22039501	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	井上　幹太				
シラバス執筆(主)	井上　幹太				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

セミナーでの活動を通して、社会人として行動する際に必要な「自分で考える力」や「自分自身の計画を実行する能力」、および人間関係を円滑にする「コミュニケーション能力」などを身につけることを目的とする。具体的には、地域共催イベントにおいて、食育（お楽しみコーナー）の企画、準備、実践を行う。
また、将来の栄養士や食に携わる職業人として必要な専門知識を広げていく。
授業の形態は、グループワーク・演習・発表を取り交えたものである。

到達目標

1.　各自に与えられたテーマについてインターネットや図書館等で文献検索を行い、情報収集できる。
2.　得られた情報を基にレシピやイベントを考えることができる。
3.　積極的にコミュニケーションをとりながら、他者と協力できる。
4.　栄養士の実務に関して必要な専門的知識や技術を身につけている。

授業計画

第1回　オリエンテーション（セミナー運営方針の説明、履修指導、GPAの確認、個人面談用資料作成）、学修ポートフォリオの結果確認と入力（これまでの振り返りとこれからの目標について）
第2回　栄養士実力認定試験に向けた学習方法について、個人面談
第3回　建学の精神、栄養学科のDP、CPの再確認について
第4回　地域共催ベントの準備①（イベントに関する説明、テーマ設定、グループ活動）、個人面談、
第5回　地域共催ベントの準備②（グループ活動）、栄養士必須学力強化＜調理・給食＞（個人）
第6回　地域共催ベントの準備③（グループ活動）、栄養士必須学力強化＜食品学＞（個人）
第7回　地域共催ベントの準備④（グループ活動）、栄養士必須学力強化＜栄養学＞（個人）
第8回　地域共催ベントの準備⑤（グループ活動）、栄養士必須学力強化＜生理学＞（個人）
第9回　地域共催ベントの準備⑥（グループ活動）、個人面談、栄養士必須学力強化＜生化学＞（個人）
第10回　地域共催ベントの準備⑦（グループ活動）、栄養士必須学力強化（個人）
第11回　地域共催イベント
第12回　地域共催イベントの振り返り（グループおよび個人）、個人面談（就職活動状況の確認、学習指導）
第13回　栄養士実力認定試験対策（総合試験）
第14回　栄養士実力認定試験対策（総合試験）の復習（個人）
第15回　前期セミナーの振り返り

＊進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。
＊大学祭で活動する場合は、準備についてセミナー活動の中に取り入れる。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

地域共催イベントの準備のための事前調査、資料検索に5時間以上を確保する。
栄養士必須学力強化のための学習に8時間以上を確保する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については内容を確認後、必要に応じコメントを入れ返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・正当な理由なく定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	栄養士必須学力強化の点数35(7回×5)	1,2,3,4
授業外での評価	10	地域共催イベントの振り返りレポートの内容を評価	1,2,3,4

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	セミナーⅡa振り返りレポート	1,2,3,4
その他	35	地域共催イベントの取り組み（15）セミナーでの積極的な発言（10）、自主性を評価(10)	1,2,3,4

テキスト	栄養士実力認定試験　一問一答　第3版　川端輝江・岩間範子／監修　女子栄養大学出版部 ISBN-978-4-7895-2451-3 本体価格1300円＋税
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	「卒業必修科目」である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 土日に地域共催イベントを実施することがある。 後期にセミナーⅡbを履修すること。

授業コード	22039502	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	海老澤　薫				
シラバス執筆(主)	海老澤　薫				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

セミナーでの活動を通して、社会人として行動する際に必要な「自分で考える力」や「自分自身の計画を実行する能力」、および人間関係を円滑にする「コミュニケーション能力」などを身につけることを目的とする。具体的には、地域共催イベントにおいて、食育（お楽しみコーナー）の企画、準備、実践を行う。
また、将来の栄養士や食に携わる職業人として必要な専門知識を広げていく。
授業の形態は、グループワーク・演習・発表を取り交えたものである。

到達目標

1.　各自に与えられたテーマについてインターネットや図書館等で文献検索を行い、情報収集できる
2.　得られた情報を基にレシピやイベントを考えることができる
3.　積極的にコミュニケーションをとりながら、他者と協力できる
4.　栄養士の実務に関して必要な専門的知識や技術を身につけている

授業計画

第1回　セミナー運営方針の説明、履修指導、学修ポートフォリオの結果確認と入力
第2回　卒業研究のテーマ決めと地域共催イベントに向けたスケジュールの作成
第3回　建学の精神、栄養学科のDP、CPの再確認について、栄養士実力認定試験対策テスト
第4回　卒業研究に関する調査、栄養士実力認定試験対策テスト
第5回　地域共催イベントのための調査①（イベント内容についての事前調査）、栄養士実力認定試験対策テスト、個人面談
第6回　地域共催イベントのための調査②（イベント内容についての話し合い、企画書作成）、栄養士実力認定試験対策テスト
第7回　地域共催イベントの準備①（イベント内容についての予備実験）、栄養士実力認定試験対策テスト
第8回　地域共催イベントの準備②（イベント内容についての予備実験）、栄養士実力認定試験対策テスト
第8回　地域共催イベントの準備③（イベント内容についての掲示物の作成）、栄養士実力認定試験対策テスト
第9回　地域共催イベントの準備④（イベント内容についての掲示物の作成）、栄養士実力認定試験対策テスト、個人面談
第10回　地域共催イベントの準備⑤（イベント内容についての掲示物の作成）、栄養士実力認定試験対策テスト
第11回　地域共催イベントの準備⑥（イベントについて予行演習）、栄養士実力認定試験対策テスト
第12回　地域共催イベントの準備⑦（イベントについて予行演習）、栄養士実力認定試験対策テスト
第13回　地域共催イベント
第14回　地域共催イベントの振り返り（レポートの作成）、栄養士実力認定試験対策テスト（前期のまとめ）
第15回　前期セミナーの振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：栄養士実力認定試験対策については予定に従い、じゅうぶんに予習を行うこと。また、地域共催イベントについてはセミナー時間内に円滑に進むように予め準備を行い授業に臨むこと。
事後学習：栄養士実力認定試験対策の結果に基づいて、じゅうぶんに復習を行うこと。

課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法

提出された課題については、コメントを付記し返却する。
栄養士実力認定試験対策課題については採点した後、返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・正当な理由なく定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	卒業研究についての課題達成度について評価する(10) 地域共催イベントについての完成度について評価する	1, 2, 3, 4

		（40）	
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポートを課し、完成度について評価する（10）	1, 2
その他	40	栄養士実力認定試験対策テストの点数に応じて評価する。（30） 地域共催イベントの振り返りレポートの完成度を評価する。（10）	1, 2, 4

テキスト	『栄養士実力認定試験　一問一答　第3版』 女子栄養大学出版部 ISBN 978-4-7895-2451-3 本体価格1,300円（税別）
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	卒業必修科目である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 後期にセミナーⅡbを履修すること。

授業コード	22039503	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	坂井　孝				
シラバス執筆(主)	坂井　孝				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

セミナーでの活動を通して、社会人として行動する際に必要な「自分で考える力」や「自分自身の計画を実行する能力」、および人間関係を円滑にする「コミュニケーション能力」などを身につけることを目的とする。具体的には、地域共催イベントにおいて、食育（お楽しみコーナー）の企画、準備、実践を行う。
また、将来の栄養士や食に携わる職業人として必要な専門知識を広げていく。
授業の形態は、グループワーク・演習・発表を取り交えたものである。

到達目標

1.　各自に与えられたテーマについてインターネットや図書館等で文献検索を行い、情報収集できる
2.　得られた情報を基にレシピやイベントを考えることができる
3.　積極的にコミュニケーションをとりながら、他者と協力できる
4.　栄養士の実務に関して必要な専門的知識や技術を身につけている

授業計画

第1回　オリエンテーション（セミナー運営方針の説明、履修指導、GPAの確認、個人面談用資料作成）、学修ポートフォリオの結果確認と入力（これまでの振り返りとこれからの目標について）
第2回　地域共催ベントの準備（テーマ設定、グループ活動）、個人面談
第3回　建学の精神、栄養学科のDP、CPの再確認について
第4回　地域共催ベントの準備（グループ活動）、個人面談、栄養士必須学力強化＜栄養学＞（個人）
第5回　地域共催ベントの準備（グループ活動）、栄養士必須学力強化＜食品学＞（個人）
第6回　地域共催ベントの準備（グループ活動）、栄養士必須学力強化＜生理学＞（個人）
第7回　地域共催ベントの準備（グループ活動）、栄養士必須学力強化＜生化学＞（個人）
第8回　地域共催ベントの準備（グループ活動）、栄養士必須学力強化＜調理・給食＞（個人）
第9回　地域共催ベントの準備（グループ活動）、個人面談、栄養士必須学力強化＜復習＞（個人）
第10回　地域共催ベントの準備（グループ活動）、栄養士必須学力強化（個人）
第11回　地域共催イベント
第12回　地域共催イベントの振り返り（グループおよび個人）
第13回　守口市中学校給食献立作成への取り組み（資料準備）
第14回　守口市中学校給食献立作成への取り組み（テーマ設定）
第15回　前期セミナーの振り返り
＊進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。
＊地域での課外活動（食育）を行う場合はその分の授業を振替ことがある。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

地域共催イベントの準備のための事前調査に5時間以上を確保する。
守口市中学校給食献立作成の準備のために事前調査、資料検索に3時間以上を確保する。
栄養士必須学力強化のための学習に7時間以上を確保する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については、コメントを付記し返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
定期試験に代わるレポート等の提出がない場合は、「K」評価とする。
5回を超えて欠席した場合は、「K」評価とする（例：欠席5回、遅刻1回となった場合「K」評価となる）。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	栄養士必須学力強化の点数35(7回×5)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	地域共催イベントの振り返りレポートの内容を評価	1, 2, 3, 4
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	20	セミナーⅡa振り返りレポート	1, 2, 3, 4
その他	35	地域共催イベントの取り組み	1, 2, 3, 4

テキスト	栄養士実力認定試験　一問一答　第3版　川端輝江・岩間範子／監修　女子栄養大学出版部 ISBN-978-4-7895-2451-3 本体価格1300円＋税
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	「卒業必修科目」である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 土日に地域での食育活動を実施することがある。 後期にセミナーⅡbを履修すること。

授業コード	22039504	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	土井　玲奈				
シラバス執筆(主)	土井　玲奈				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

セミナーでの活動を通して、社会人として行動する際に必要な「自分で考える力」や「自分自身の計画を実行する能力」、および人間関係を円滑にする「コミュニケーション能力」などを身につけることを目的とする。
具体的には、地域共催イベントにおいて、調理実習を含めた食育の企画、準備、実践を行う。
また、将来の栄養士や食に携わる職業人として必要な専門知識を広げていく。
授業の形態は、グループワーク・演習・発表を取り交えたものである。

到達目標

1.　各自に与えられたテーマについてインターネットや図書館等で文献検索を行い、情報収集できる
2.　得られた情報を基にレシピやイベントを考えることができる
3.　積極的にコミュニケーションをとりながら、他者と協力できる
4.　栄養士の実務に関して必要な専門的知識や技術を身につけている

授業計画

第1回　オリエンテーション（セミナー運営方針の説明、履修指導、GPAの確認、個人面談用資料作成）、学修ポートフォリオの結果確認と入力（これまでの振り返りとこれからの目標について）
第2回　地域共催イベントの概要説明、個別面談
第3回　建学の精神、栄養学科のDP、CPの再確認について
第4回　情報収集（食育についての情報収集）
第5回　地域共催イベントの準備（テーマ・内容について決定）
第6回　地域共催イベントの準備（発注書の作成、作業工程表の作成）
第7回　地域共催イベントの準備（試作①）
第8回　地域共催イベントの準備（献立の修正、発注書の作成）
第9回　地域共催イベントの準備（試作②、最終調整）、個別面談
第10回　地域共催イベントの準備（配布レシピ・掲示物の作成）
第11回　地域共催イベント
第12回　地域共催イベントの振り返り、守口市中学校給食献立作成についての説明
第13回　守口市中学校給食献立作成への取り組み（情報収集・資料準備）
第14回　守口市中学校給食献立作成への取り組み（テーマ設定）
第15回　前期セミナーの振り返り

＊進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。
＊栄養士の実務に関して必要な専門知識定着のため、セミナーとして栄養士実力認定試験対策の取り組みを行う。
＊地域での課外活動（食育）を行う場合はその分の授業を振替ことがある。（状況により授業内容が前後する場合がある）
＊大学祭で活動する場合は、準備についてセミナー活動の中に取り入れる。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各自のイベント準備についてはそれぞれ事前学習、事後学習（まとめ）を行うこと。
栄養士実力認定試験対策として、過去問題への解答、小テストを実施するので準備と復習を行う。
守口市中学校給食献立作成の準備のために事前に資料検索を行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題はコメントを加えて返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合	評価方法・割合	評価対象となる到達目標

	（%）		
授業内での評価	60	セミナーにおける受講姿勢（10） 地域共催イベントの準備・制作物（30） 栄養士実力認定試験対策の取り組み評価（20）	1～4
授業外での評価	20	地域共催イベント（当日）での取り組み姿勢（20）	1～4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	セミナーⅡa振り返りレポート（10）	1～4
その他	10	他人とのコミュニケーションをとる姿勢（10）	3,4

テキスト	栄養士実力認定試験　一問一答　第3版　川端輝江・岩間範子／監修　女子栄養大学出版部 ISBN-978-4-7895-2451-3 本体価格1300円＋税
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	「卒業必修科目」である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 後期にセミナーⅡbを履修すること。 授業を欠席した場合は、セミナー担任に連絡を取り、対応を確認すること。 全体の連絡事項、配布資料については、クラスルームを確認すること。

授業コード	22039505	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	久木　久美子				
シラバス執筆(主)	久木　久美子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

セミナーでの活動を通して、社会人として行動する際に必要な「自分で考える力」や「自分自身の計画を実行する能力」、および人間関係を円滑にする「コミュニケーション能力」などを身につけること、また、将来の栄養士や食に携わる職業人として必要な専門知識を広げていくことを目的とする。具体的には、食や栄養に係わる食育テーマでグループで定め、そのテーマに基づきイベントを企画し、食育の場（地域共催イベントの）で実践する力をつける。
授業の形態は、グループワーク・演習・発表を取り交えたものである。

到達目標

1.　各自に与えられたテーマについてインターネットや図書館等で文献検索を行い、情報収集できる。
2.　得られた情報を基にレシピを作成し、イベントを計画することができる。
3.　積極的にコミュニケーションをとりながら、他者と協力できる。
4.　栄養士の実務に関して必要な専門的知識や技術を活用することができる。

授業計画

第1回　セミナー運営方針の説明、履修指導
　学修ポートフォリオの結果確認と入力（これまでの振り返りとこれからの目標について）
　栄養士実力認定試験受験に向けた取り組みについての説明
第2回　　地域共催イベントの概要説明
第3回　　建学の精神、栄養学科のDP、CPの再確認について
　地域共催イベントのグループとテーマの決定
第4回　地域共催イベントの取り組み①　献立作成のための資料収集
　面談週
第5回　地域共催イベントの取り組み②　献立作成、発注表の作成・提出
第6回　地域共催イベントの取り組み③　試作
第7回　地域共催イベントの取り組み④　献立の改善、発注表の作成・提出
第8回　地域共催イベントの取り組み⑤　試作と最終決定
第9回　地域共催イベントの取り組み⑥　配付用レシピの作成
　面談週
第10回　地域共催イベントの取り組み⑦　説明原稿の作成、当日の役割分担の決定
第11回　地域共催イベントの取り組み⑧　リハーサル
第12回　地域共催イベント前日準備（食品検収、テーブル・説明ボードのセッティング等）
第13回　地域共催イベントの当日準備
第14回　地域共催イベントの実施・片付け
第15回　前期セミナーの振り返り、各種連絡
※第2回目から第15回目まで、栄養士実力認定試験受験に向けた取り組みを行う。
※授業計画を変更する場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回を通じて、
【事前・事後学習】
・セミナーの時間内で完了できなかったものについては、次のセミナーまでには完成させておくこと
・「栄養士実力認定試験一問一答　女子栄養大出版部」の問題を解き、間違えたところを覚える

課題に対するフィードバックの方法

提出された献立や課題については、内容を確認後、必要に応じコメントを入れ返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	セミナーにおける受講姿勢について評価（10） 地域共催イベントの取り組み姿勢について評価　（30） 栄養士実力認定試験受験のための取り組み姿勢について評価（30）	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	地域共催イベント（前日・当日）の取り組み姿勢について評価　（20）	3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	地域共催イベントの振り返りレポートの内容を評価（10）	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	『栄養士実力認定試験一問一答　第3版』川端輝江,岩間範子／監修　女子栄養大学出版部 1,430円　ISBN：978-4-7895-2451-3
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	卒業必修科目である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 後期にセミナーⅡbを履修すること。

授業コード	22039601	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡｂ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	井上　幹太				
シラバス執筆（主）	井上　幹太				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

セミナーⅡaに引き続き、セミナーでの活動を通して、社会人として行動する際に必要な「自分で考える力」や「自分自身の計画を実行する能力」、および人間関係を円滑にする「コミュニケーション能力」などを身につけることを目的とする。
具体的には、いくつかのグループに分かれ、運動選手向けのメニューや補食などの提案を行う。同時に将来の栄養士や食に携わる職業人として必要な専門知識を広げていく。授業の形態は、グループワーク・演習・発表を取り交えたものである。

到達目標

1.　自ら考え、計画的に物事を進めることができる。
2.　自らの意見を述べることができる。
3.　積極的にコミュニケーションをとりながら、他者と協力できる。
4.　他者に伝わる文章表現、プレゼンテーションができる。
5.　栄養士の実務に関して必要な専門的知識や技術を身につけている。

授業計画

状況により内容が変更される場合がある。
第1回　オリエンテーション（セミナー運営方針の説明、履修指導、GPAの確認）、学修ポートフォリオの結果確認と入力（これまでの振り返りとこれからの目標について）、セミナー活動（個人テーマの設定）
第2回　運動選手向けのメニューや補食の立案、栄養士実力認定試験対策①、個人面談
第3回　栄養士実力認定試験対策②、個人面談、運動選手向けのメニューや補食に関する情報収集、個人面談
第4回　運動選手向けのメニューや補食（試作）、栄養士実力認定試験対策テスト③
第5回　栄養士実力認定試験対策④、個人面談
第6回　全学映画会（全学共通の映画の上映を行う）
第7回　運動選手向けのメニューや補食内容の再検討、リーフレット作成
第8回　PROGテスト
第9回　セミナー活動（中間発表会）
第10回　栄養士実力認定試験対策（模擬試験）
第11回　PROGテスト解説会
第12回　セミナー活動（発表用スライド作成）、個人面談
第13回　セミナー活動（発表用スライド作成）、個人面談
第14回　セミナー活動発表会のリハーサル、報告書の作成
第15回　セミナー活動発表会、セミナー振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

専門知識の強化のための自主学習に1時間以上（10回合計10時間以上）を確保すること。
セミナー活動に関する事前準備に5時間以上を確保すること。
運動選手向けのメニューや補食の立案・調理に関する事前準備について5時間以上を確保すること。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については、適宜コメントを付記し返却する。
セミナー活動発表会については、自他評価を実施する。

成績評価の方法・基準（方針）

全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・正当な理由なく定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	卒業研究についての取り組み姿勢について評価する（20） 業研究報告会でのプレゼンテーションについて評価する	1,2,3,4

		(20) 栄養士実力認定試験対策の点数(4回×4) 栄養士実力認定試験対策(模擬試験)の点数(4)	
授業外での評価	20	卒業研究についての取り組み姿勢について評価する(20)	1,2,3,4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	全授業終了後に実施するレポート課題(10)	1,2,3,4
その他	10	セミナーにおける受講姿勢(セミナーのメンバーとの協力姿勢も含む)について評価する(10)	1,2,3,4

テキスト	栄養士実力認定試験　一問一答　第3版　川端輝江・岩間範子／監修　女子栄養大学出版部 ISBN-978-4-7895-2451-3 本体価格1300円＋税
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	「卒業必修科目」である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 土日に運動選手に対する栄養サポートを実施することがある。 前期のセミナーⅡaを履修していること。 授業を欠席した場合は、セミナー担任に連絡を取り、対応を確認すること。 全体の連絡事項、配布資料については、クラスルームを確認すること。

授業コード	22039602	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡｂ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	海老澤　薫				
シラバス執筆（主）	海老澤　薫				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

セミナーⅡaに引き続き、セミナーでの活動を通して、社会人として行動する際に必要な「自分で考える力」や「自分自身の計画を実行する能力」、および人間関係を円滑にする「コミュニケーション能力」などを身につけることを目的とする。具体的には、研究テーマのもと、文献調査や現地調査を行い自ら問題を提起して、解決方法を探り卒業研究を行う。最終的には卒業論文の形としてまとめ発表を行う。
同時に将来の栄養士や食に携わる職業人として必要な専門知識を広げていく。
授業の形態は、グループワーク・演習・発表を取り交えたものである。

到達目標

1.　自ら考え、計画的に物事を進めることができる。
2.　自らの意見を述べることができる。
3.　積極的にコミュニケーションをとりながら、他者と協力できる。
4.　他者に伝わる文章表現、プレゼンテーションができる。
5.　栄養士の実務に関して必要な専門的知識や技術を身につけている。

授業計画

第1回　後期セミナー運営方針の説明、履修指導、学修ポートフォリオの結果確認と入力
第2回　2年生後期の学修計画、卒業研究テーマと研究計画の確認、栄養士実力認定試験対策テスト
第3回　研究テーマについての調査および研究、栄養士実力認定試験対策テスト
第4回　研究テーマについての調査および研究、栄養士実力認定試験対策テスト
第5回　研究テーマについての調査および研究、栄養士実力認定試験対策テスト
第6回　全学映画会（全学共通の映画の上映を行う）、栄養士実力認定試験対策テスト、個人面談
第7回　研究テーマについての調査および研究、栄養士実力認定試験対策テスト
第8回　PROGテストの受験
第9回　研究テーマについての調査および研究、栄養士実力認定試験対策テスト
第10回　研究テーマについての調査および研究、栄養士実力認定試験対策テスト
第11回　卒業論文の作成、栄養士実力認定試験対策テスト
第12回　卒業論文の作成、栄養士実力認定試験対策テスト、個人面談
第13回　卒業論文発表会資料の作成
第14回　卒業論文発表会
第15回　セミナー活動報告会

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：セミナー時間内に卒業研究が円滑に進むように事前に準備を行うこと。栄養士実力認定試験対策に向けて予習を行う。
事後学習：栄養士実力認定試験対策の結果に基づき、じゅうぶんに復習を行う。

課題に対するフィードバックの方法

卒業研究に関連する課題については提出後、コメントを付して返却する。
栄養士実力認定試験対策問題については採点後、返却する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・正当な理由なく定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	卒業研究における課題達成度について評価する。(20)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポートを課し、完成度について評価する（10）	1, 2, 4, 5
その他	70	卒業論文の完成度に応じて評価する。（30） 卒業論文発表会資料の完成度に応じて評価する。（10） 栄養士実力認定試験対策テストの点数に応じて評価する。（30）	1, 2, 3, 4, 5

テキスト	『栄養士実力認定試験　一問一答　第3版』 女子栄養大学出版部 ISBN 978-4-7895-2451-3 本体価格1,300円（税別）
参考書	必要に応じて紹介する。 なお、卒業研究を行うにあたり、栄養士免許関連科目で使用したテキストを使う場合がある。
履修条件・他の科目との関連	卒業必修科目である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 後期にセミナーⅡaを履修していること。

授業コード	22039603	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡｂ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	坂井　孝				
シラバス執筆(主)	坂井　孝				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

セミナーⅡaに引き続き、セミナーでの活動を通して、社会人として行動する際に必要な「自分で考える力」や「自分自身の計画を実行する能力」、および人間関係を円滑にする「コミュニケーション能力」などを身につけることを目的とする。
具体的には、いくつかのグループに分かれ、守口市中学校給食の献立メニュー提案を行う。
同時に将来の栄養士や食に携わる職業人として必要な専門知識を広げていくために、各自テーマを設定し、調査・整理を行い発表する。
授業の形態は、グループワーク・演習・発表を取り交えたものである。

到達目標

1.　自ら考え、計画的に物事を進めることができる。
2.　自らの意見を述べることができる。
3.　積極的にコミュニケーションをとりながら、他者と協力できる。
4.　他者に伝わる文章表現、プレゼンテーションができる。
5.　栄養士の実務に関して必要な専門的知識や技術を身につけている。

授業計画

状況により内容が変更される場合がある。
第1回　オリエンテーション（セミナー運営方針の説明、履修指導、GPAの確認）、学修ポートフォリオの結果確認と入力（これまでの振り返りとこれからの目標について）、セミナー活動（個人テーマの設定）
第2回　中学校給食（献立作成）、栄養士実力認定試験対策（栄養学関係）、個人面談
第3回　栄養士実力認定試験対策（生理学・生化学関係）、個人面談、セミナー活動（情報収集）
第4回　中学校給食（試作）、栄養士実力認定試験対策（食品学関係）
第5回　栄養士実力認定試験対策（調理・給食関係）、個人面談
第6回　全学映画会（全学共通の映画の上映を行う）
第7回　中学校給食（献立再検討）
第8回　PROGテスト
第9回　セミナー活動（中間発表会）
第10回　栄養士実力認定試験対策（模擬試験）
第11回　PROGテスト解説会
第12回　セミナー活動（発表用スライド作成）、個人面談
第13回　中学校給食（まとめ）
第14回　セミナー活動発表会のリハーサル、報告書の作成
第15回　セミナー活動発表会、セミナー振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

専門知識の強化のための自主学習に1時間以上（7回合計7時間以上）を確保すること。
セミナー活動に関する事前準備に5時間以上を確保すること。
献立作成に関する事前準備について5時間以上を確保すること。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については、コメントを付記し返却する。
セミナー活動発表会については、自他評価を実施する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
定期試験に代わるレポート等が未提出の場合は、「Ｋ」評価とする。
5回を超えて欠席した場合は、「K」評価とする（欠席5回、遅刻1回となった場合「K」評価となる）。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	栄養士必須専門知識の修得(20) セミナー活動発表会(20)	1, 2, 3, 4, 5

授業外での評価	20	セミナー活動報告書（20）	1, 2, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	セミナー活動に関するレポート	1, 2, 4
その他	30	献立作成（中学校給食）に関する取り組み（30）	1, 2, 3, 4, 5

テキスト	栄養士実力認定試験　一問一答　第3版　川端輝江・岩間範子監修女子栄養大学出版部 ISBN-978-4-7895-2451-3 本体価格1300円+税
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	「卒業必修科目」である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 試作のため、セミナー時間外で自宅または学内での調理実習を行うことがある。 前期にセミナーⅡaを履修すること。

授業コード	22039604	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡｂ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	土井　玲奈				
シラバス執筆(主)	土井　玲奈				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

セミナーⅡaに引き続き、セミナーでの活動を通して、社会人として行動する際に必要な「自分で考える力」や「自分自身の計画を実行する能力」、および人間関係を円滑にする「コミュニケーション能力」などを身につけることを目的とする。
具体的には、いくつかのグループに分かれ、守口市中学校給食の献立作成のメニュー提案を行う。
同時に将来の栄養士や食に携わる職業人として必要な専門知識を広げていく。
授業の形態は、グループワーク・演習・発表を取り交えたものである。

到達目標

1.　自ら考え、計画的に物事を進めることができる。
2.　自らの意見を述べることができる。
3.　積極的にコミュニケーションをとりながら、他者と協力できる。
4.　他者に伝わる文章表現、プレゼンテーションができる。
5.　栄養士の実務に関して必要な専門的知識や技術を身につけている。

授業計画

状況により内容が変更される場合がある。
第1回　オリエンテーション（セミナー運営方針の説明、履修指導、GPAの確認）、学修ポートフォリオの結果確認と入力（これまでの振り返りとこれからの目標について）、セミナー活動（個人テーマの設定）
第2回　中学校給食（献立作成）、食育に関連する研究テーマ設定、個人面談
第3回　中学校給食（試作準備）、研究テーマに関する情報収集、個人面談
第4回　中学校給食（試作）
第5回　中学校給食（試作の振り返り）、指導計画の立案、個人面談
第6回　全学映画会（全学共通の映画の上映を行う）
第7回　中学校給食（献立再検討）
第8回　PROGテスト
第9回　食育教材の作成
第10回　栄養士実力認定試験対策（模擬試験）
第11回　PROGテスト解説会
第12回　セミナー活動発表会の資料作成・発表準備、個人面談
第13回　中学校給食（まとめ）
第14回　セミナー活動発表会のリハーサル、報告書の作成
第15回　セミナー活動発表会、セミナー振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

守口市中学校給食の献立作成について、事前に情報収集を行うこと。
食育教材作成について、事前に準備を行っておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については、コメントを付記し返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	守口市中学校給食:献立作成・試作・試作振り返りレポート(40) 食育指導案・食育教材・活用(20) セミナー活動発表会(20)	1～4

授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	セミナーⅡb振り返りレポート	1～4
その他	10	セミナーにおける受講姿勢（積極的な発言やグループで協力する姿勢）	2,3,4

テキスト	栄養士実力認定試験　一問一答　第3版　川端輝江・岩間範子／監修　女子栄養大学出版部 ISBN-978-4-7895-2451-3 本体価格1300円＋税
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	「卒業必修科目」である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 前期にセミナーⅡaを履修すること。 授業を欠席した場合は、セミナー担任に連絡を取り、対応を確認すること。 全体の連絡事項、配布資料については、クラスルームを確認すること。

授業コード	22039605	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡｂ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	久木　久美子				
シラバス執筆（主）	久木　久美子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

セミナーでの活動を通して、社会人として行動する際に必要な「自分で考える力」や「自分自身の計画を実行する能力」、および人間関係を円滑にする「コミュニケーション能力」などを身につけること、また、将来の栄養士や食に携わる職業人として必要な専門知識を広げていくことを目的とする。具体的には、食や栄養に係わる研究テーマを自分で定め、そのテーマについての研究を実施する、また、研究成果を卒業研究報告会で発表し、報告書としてまとめる事ができるようになることである。さらに大学祭への参加を通しグループで活動する力をつける。
授業の形態は、グループワーク・演習・発表を取り交えたものである。

到達目標

1.　卒業研究のテーマについてインターネットや図書館等で文献検索を行い、情報収集することができる。
2.　得られた情報を基に卒業研究のテーマに即したレシピの作成や調査の計画をたてることができる。
3.　積極的にコミュニケーションをとりながら、他者と協力できる。
4.　栄養士の実務に関して必要な専門的知識や技術を活用することができる。
5.　研究成果をまとめ、卒業研究報告会で発表できる。
6.　卒業研究報告会で発表した内容を報告書としてまとめ、完成させることができる。

授業計画

第1回　後期セミナー運営方針の説明、履修指導
　　学修ポートフォリオの結果確認と入力（これまでの振り返りとこれからの目標について）
第2回　卒業研究の取り組みについて説明
第3回　卒業研究：研究テーマの決定
第4回　卒業研究：研究テーマに関する情報の検索（図書館、インターネット）
第5回　卒業研究：①卒業料理製作（テーマに沿った献立の作成）　②調査研究（資料、文献調べ）
第6回　全学映画会（全学共通の映画の上映を行う）
　　面談週
第7回　卒業研究：①卒業料理製作（献立の見直し）　②調査研究（調査）
第8回　PROGテストの受験
第9回　卒業研究：①卒業料理製作（試作）　②調査研究（分析）
第10回　卒業研究：①卒業料理製作（献立の改善）　②調査研究（分析）
第11回　PROGテストの解説
第12回　卒業研究：報告会にむけたスライドと読み原稿を作成する
　　面談週
第13回　卒業研究：報告会の最終原稿チェック
第14回　卒業研究報告会（予定：1月20日（月）1限目）
第15回　セミナー活動報告会（栄養学科全体会）　発表、各種連絡

※授業計画を変更する場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

卒業研究に対する取り組みとして、
【事前・事後学習】
セミナーの時間内では、卒業研究の進捗状況の確認、内容のチェック、アドバイス等を主とする。
したがって、事前事後の学習として、セミナー時間内でアドバイスされた事は研究内容に反映し、作業が遅れた箇所については、次のセミナーまでに仕上げておくこと、さらに、報告会にむけての発表練習はしっかりと事前に行い、原稿を読まずともプレゼンできるように準備する。

課題に対するフィードバックの方法

卒業研究に関する課題については、内容を確認後フィードバックする

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合

・定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	セミナーにおける受講姿勢（セミナーのメンバーとの協力姿勢も含む）について評価する （10） 卒業研究についての取り組み姿勢について評価する（20） 卒業研究報告会でのプレゼンテーションについて評価する（20）	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	30	卒業研究についての取り組み姿勢について評価する（30）	1, 2, 4, 5, 6
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	卒業研究報告書の内容について評価する（20）	1, 2, 4, 5, 6
その他	0		

テキスト	栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック　西川真理子著　化学同人　本体価格1800円　978-4759814774
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	卒業必修科目である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 前期にセミナーⅡaを履修すること。

授業コード	22014401	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	自己開発演習　［対面］				
シラバス執筆（全員）	村田　菜穂子				
シラバス執筆（主）	村田　菜穂子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的･概要

本演習は、自分の良さや強みを発見し、人間関係構築のための基盤となる知識と技術を修得すること目的とする。個人ワーク、ペアワーク及びグループワークの形式の演習を行う。テーマとして「自分自身」、「対人関係の中の自分」、「集団の中での自分」などを取り上げる。ペアワークやグループワークにおいては演技をする、意見を述べる、相談する、発表するなどの形態を伴うが、積極的に参加することで自分の良さ、他の人の良さ及び自分の強みを見つけることができるように実施する。様々なワークによって得た自己分析結果やコミュニケーション能力は生活場面でも活用できるように振り返りを行う。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
A　栄養士として求められる基本的な資質・能力
A-1　プロフェッショナリズム
④使命感と責任感をもって職務を遂行するためのコミュニケーションができる
A-4　栄養・食の選択と決定を支援するコミュニケーション能力
③対象者と適切なコミュニケーションができる

到達目標

１．自分および他者の良さ、強みを伝えることができる。
２．人間関係構築のための基礎となる知識と技術を用いて、生活場面で活用できる。

授業計画

【第1回】
テーマ：ガイダンスおよびイントロダクション
【第2回】
テーマ：「自分自身」（１）自己理解（私を分析する）
【第3回】
テーマ：「自分自身」（２）自己紹介
【第4回】
テーマ：「自分自身」（３）自己把握、私のパーソナリティ（性格・個性）
【第5回】
テーマ：「自分自身」（４）自分の中の「親」「大人」「子ども」
【第6回】
テーマ：「自分自身」のまとめ（アイデンティティ、私は何者か）
【第7回】
テーマ：「対人関係の中の自分」（１）自己表現
【第8回】
テーマ：「対人関係の中の自分」（２）人とのかかわり方
【第9回】
テーマ：「対人関係の中の自分」（３）コミュニケーション（アサーティブ・コミュニケーション）
【第10回】
テーマ：「対人関係の中の自分」（４）話し上手・聴き上手・頼り上手
【第11回】
テーマ：「対人関係の中の自分」のまとめ（より良い人間関係の構築）
【第12回】
テーマ：「集団の中の自分」（１）リーダー、リーダーシップ
【第13回】
テーマ：「集団の中の自分」（２）ファシリテーション
【第14回】
テーマ：「集団の中の自分」（３）未来の私
【第15回】
テーマ：総括（自分自身の持ち味・強み）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】
・事前：シラバスを確認する。
・事後：ガイダンスおよびイントロダクションの内容について、重要なポイントをノート・資料にまとめる。
【第２回】
・事前：自分自身を理解するにはどのような方法があるかについて調べておく。
・事後：授業で提示した「自分自身」についての課題に取り組む。
【第３回】

・事前：他者に自分のことを知ってもらうための自己紹介を考える。
・事後：授業で提示した「自分自身」についての課題に取り組む。
【第４回】
・事前：「パーソナリティ」について調べ、自分自身を振り返り、自分自身の「パーソナリティ」を書き出す。
・事後：授業で提示した「自分自身」についての課題に取り組む。
【第５回】
・事前：自分の心の「親」的な側面、「大人」的な側面、「子ども」的な側面を振り返り、書き出す。
・事後：授業で提示した「自分自身」についての課題に取り組む。
【第６回】
・事前：「アイデンティティ」について調べ、自分自身を振り返り、自分自身の「アイデンティティ」を書き出す。
・事後：個人ワークにおいて行ってきた自己分析結果を振り返り、自分の良さや強みについて整理する。
【第７回】
・事前：自分の考えや気持ちを他者に伝える際に、難しく感じていることについて振り返り、書き出す。
・事後：授業で提示した「対人関係の中の自己」についての課題に取り組む。
【第８回】
・事前：他者とかかわるうえで、気を付けていること、大切にしていること、難しいと感じていることについて振り返り、書き出す。
・事後：授業で提示した「対人関係の中の自己」についての課題に取り組む。
【第９回】
・事前：日常生活における自分自身のコミュニケーションの特徴について振り返り、書き出す。
・事後：授業で提示した「対人関係の中の自己」についての課題に取り組む。
【第10回】
・事前：話すことが上手な人、聴くことが上手な人、また、他者に頼ることが上手な人を思い浮かべて、その特徴を書き出す。
・事後：授業で提示した「対人関係の中の自己」についての課題に取り組む。
【第11回】
・事前：より良い人間関係をつくるためには、どういった点に配慮することが必要かを考え、書き出す。
・事後：第7回～第10回において学んだ内容を振り返り、より良い人間関係をつくるための知識と技術について整理する。
【第12回】
・事前：「リーダー、リーダーシップ」について調べ、これまでの心に残る「リーダー」にまつわる経験を振り返り、書き出す。
・事後：授業で提示した「集団の中の自分」についての課題に取り組む。
【第13回】
・事前：「ファシリテーション」について調べ、その概要をまとめて書き出す。
・事後：授業で提示した「集団の中の自分」についての課題に取り組む。
【第14回】
・事前：これからの日本社会、世界の中の日本を思い浮かべて、その様相をまとめる。
・事後：授業で提示した「集団の中の自分」についての課題に取り組む。
【第15回】
・事前：第1回～第14回の授業を振り返り、自分自身の持ち味・強みを整理する。
・事後：定期試験に代わるレポートに向け、様々なワークによって修得した人間関係構築の基盤となる知識と技術を整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題は授業内でフィードバックを行います。また、レポートについては評価基準に基づき自己採点ができるように説明する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・正当な理由なく欠席が5回を超えた場合
・正当な理由なく「定期試験にかわるレポート」を指定した期限までに提出しなかった場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	授業内において実施する課題（計15回）	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	レポート課題（25）	1, 2
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	1．必ず、事前学習を行って授業に臨むとともに、授業内容を振り返りながら事後学習に努めること 2．本授業は、頻繁に課題が課せられるので積極的に取り組むこと 3．受講にあたり、特別な配慮を必要とする場合は申し出ること

授業コード	22039901	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	マナー演習　［対面］				
シラバス執筆(全員)	栗栖　美帆				
シラバス執筆(主)	栗栖　美帆				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業は演習である。日本における「マナー」は他者への気遣いが根底にある。社会生活のさまざまな視点から自分らしさが最大限に発揮でき、さらに好感が持たれるマナーについて知り、社会生活において通用する基礎的なマナーを身につけることを目的とする。具体的には、自己表現法（あいさつ、身だしなみ、立ち振る舞い、話し方など）、正しい言葉遣い、来客対応のマナー（受付対応、名刺の渡し方）、電話のマナー（かけ方、受け方、取り次ぎ方）、冠婚葬祭のマナー、文書のマナー、食事のマナーなど働く人すべてが必要とするマナーについての演習を実施する。
【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
A　栄養士として求められる基本的な資質・能力
A-1　プロフェッショナリズム
A-4　栄養・食の選択と決定を支援するコミュニケーション能力
③対象者と適切なコミュニケーションができる

以下の項目とも関連する
A-8　生涯に渡って自律的に学ぶ能力
③専門職として、自らのキャリアデザインができる

到達目標

１．社会生活で通用するマナーを理解し、身に付け、実践することができる。
２．首尾一貫した美しい言葉遣いや立ち振る舞いを通して、円滑で適切なコミュニケーションを取ることができる。
３．ペアワークやグループワークに積極的に参加し、協調性、協働性を身に付け、他者への思いやりの精神やホスピタリティマインドを育む。

授業計画

第1回　オリエンテーション（授業の進め方・授業概要・評価基準説明・自己紹介）
第2回　マナーの歴史と意味
第3回　社会人に必要なマナー①（話し方・聴き方・美しい言葉遣い・敬語）
第4回　小テスト（敬語）・良い第一印象の決め方・美しい立ち振る舞い
第5回　実技演習（お辞儀・椅子の座り方/立ち方）
第6回　社会人に必要なマナー②（服装のマナー・喜ばれる贈答品・手紙のマナー）②・レポート課題/提出
第7回　ビジネスシーンのマナー①（社会人としての心構え・名刺の扱い方）
第8回　実技演習（名刺交換）・ビジネスシーンのマナー②（電話対応）
第9回　ビジネスシーンのマナー③（トラブル対応・来客応対・席次）
第10回　ビジネスシーンのマナー④（ビジネス文書）・レポート課題/提出
第11回　食事のマナー①食事の作法の基本・和食のマナー
第12回　食事のマナー②　西洋料理のマナー・中国料理・各国料理のマナー
第13回　冠婚葬祭①「冠」のしきたり・「婚」のしきたり
第14回　冠婚葬祭②「葬」のしきたり・「祭」のしきたり
第15回　小テスト・総括

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：毎回、その回のテーマのテキスト箇所に目を通して授業に出席する。
事後学習：各回、学んだ内容を復習し、授業の振り返り学習をする。また、内容によっては、繰り返し声に出して復習することや実技の反復練習を実施することで、知識の定着を図り、実践で活かすことができるようにする。

課題に対するフィードバックの方法

実技演習や実技テストの結果や授業で課した課題に関しては、授業内でフィードバック・指導する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合

・正当な理由なく定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	実技テスト（2回）（20）/　小テスト（2回）（20）	1, 2, 3
授業外での評価	20	レポート(2回)(手紙/ビジネス文書)(20)	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	レポート（当該授業終了後）（20）	1, 2
その他	20	授業内の質問・発言・取り組み姿勢(20)	1, 2, 3

テキスト	『マナー＆プロトコールの基礎知識』/ NPO法人日本・マナープロトコール協会著/NPO法人日本マナー・プロトコール協会発行/ 1650円（税込） ISBN 978-4-9913-0500-9
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・実践で役立つマナーを身に付けることができるように積極的に授業に臨む。 ・授業で配付資料がある場合、欠席した場合は次回出席した際に配布する。

授業コード	22043601	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	基礎生物化学　［対面］				
シラバス執筆(全員)	海老澤　薫				
シラバス執筆(主)	海老澤　薫				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的･概要

栄養士専門科目のうち「人体の構造と機能」、「食品と衛生」、「栄養と健康」分野を学修する上で生物学、化学の基礎的理解は必須である。本講義では、これら生物学、化学の基礎を理解し修得することを目的とする。具体的には、生物学分野では身体の仕組み（細胞から器官まで）および構成成分、呼吸、血液循環のしくみ、栄養素の消化・吸収、タンパク質合成、血液成分、恒常性の維持について説明する。化学分野では、元素の種類、原子の構造、化学反応の種類、pH、濃度や生体内化学反応における計算や数的処理について説明する。さらに、単位の概念、バイオテクノロジーについても理解を深められるように概説する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
C 食事の管理を中心とした栄養管理の実践のための基礎科学
C-1 人体の構造と機能
1-1）生体成分，細胞，組織，臓器・器官の構造と機能
1-2）生体内代謝
1-3）個体の調節機構
C-2 栄養と栄養素等のはたらき
2-1）　栄養の意義
2-3）栄養素等の消化・吸収のメカニズム

到達目標

1.身体の仕組み（細胞から器官まで）および構成成分、呼吸、血液循環のしくみ、栄養素の消化・吸収、タンパク質合成、血液成分、恒常性の維持について説明ができる
2.元素の種類、原子の構造、化学反応の種類、pH、濃度や生体内化学反応における計算や数的処理について説明できる。
3.栄養価計算や濃度など栄養士業務に必要な計算のための加減乗除を実践できる。
4.単位の概念を理解でき、単位の変換に応用できる。
5.食や健康とバイオテクノロジーの関連性について説明できる。

授業計画

【第1回】テーマ：栄養士になるために必要な生物・化学・数学
内容・方法等：食、健康、バイオテクノロジー、環境について学ぶ上で必要な生物、化学、数学と科目間のつながりについて学ぶ
【第2回】テーマ：生物、化学を理解する上で必要な計算と単位
内容・方法等：加減乗除、指数・対数計算、有効数字、単位の意味と変換方法について学ぶ
【第3回】テーマ：生物学分野①
内容・方法等：呼吸器官、循環器官、消化器官、排泄器官について学ぶ
【第4回】テーマ：生物学分野②
内容・方法等：細胞、血液、免疫の種類について学ぶ
【第5回】テーマ：生物学分野③
内容・方法等：栄養素の代謝、水分の代謝、恒常性の維持について学ぶ
【第6回】テーマ：生物学分野④
内容・方法等：植物の光合成、色素、嗜好性成分、機能性成分の合成について学ぶ
【第7回】テーマ：化学分野①
内容・方法等：物質のなりたち、原子のなりたち、元素記号、周期表について学ぶ
【第8回】テーマ：化学分野②
内容・方法等：電子配列、電離、イオンについて学ぶ
【第9回】テーマ：化学分野③
内容・方法等：様々な化学結合と分子間に働く力について学ぶ
【第10回】テーマ：化学分野④
内容・方法等：粒子の質量、数え方（原子量、分子量、式量、物質量、アボガドロ定数、モル質量）について学ぶ
【第11回】テーマ：化学分野⑤
内容・方法等：モル濃度と濃度計算について学ぶ
【第12回】テーマ：化学分野⑥
内容・方法等：酸と塩基、水素イオン濃度とpHの計算、について学ぶ
【第13回】テーマ：化学分野⑦
内容・方法等：酸化と還元、無機物と有機物、官能基について学ぶ
【第14回】テーマ：化学分野⑧
内容・方法等：脂質、タンパク質の構造と有機化合物の化学反応、酵素反応について学ぶ
【第15回】テーマ：まとめ
内容・方法等：第1～14回の学修内容のまとめを行う

※進捗状況に応じて、順番が前後することがある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：授業に先立ち、授業内容についてあらかじめテキストを読む等予習を行う。
事後学習：授業内容について、テキスト、講義資料、確認テストから復習を行う。

課題に対するフィードバックの方法

各回の学修内容の理解の確認として、確認テストや課題を課す。
提出された課題については採点および講評を行い、フィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・正当な理由なく定期試験を欠席した場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	15	授業への取り組み姿勢（15） 問題行動（私語、居眠り、非協力的態度）等は減点対象とする。	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	25	確認テスト（25） 講義内容に応じて確認テストを実施する。達成度に応じて評価する。	1, 2, 3, 4, 5
定期試験	60	定期試験の得点に応じて評価する（60）	1, 2, 3, 4, 5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『栄養士・管理栄養士をめざす人の基礎トレーニングドリル』 小野 廣紀、日比野 久美子、吉澤 みな子 著 化学同人 1,800円（税別） ISBN：9784759819410 テキストは毎回持参すること。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。 プリントも適宜授業内に配布する。
履修条件・他の科目との関連	栄養学科の必履修科目である。 〈他の科目との関連〉 本授業は、2年間の栄養士免許に必要な科目を学修する上で基礎と生物、化学、数学について学ぶ。 特に、1年生前期で履修する食品学総論、食品学実験、調理学、基礎栄養学Ⅰ、解剖生理学と関連する。 〈欠席時の配付資料の受け取りについて〉 配布時に欠席した場合には、教員まで配付資料の有無を確認して受け取りについて申し出ること

授業コード	22043701	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	栄養士基礎演習　［対面］				
シラバス執筆(全員)	土井　玲奈、海老澤　薫、井上　幹太、坂井　孝、久木　久美子				
シラバス執筆(主)	土井　玲奈				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的･概要

（全体の概要）
　本演習は、栄養士免許取得を目指す学生に対する導入教育として設定しており、授業を通じて学生自身が栄養士の仕事や使命を理解し、各自の目的意識を明確にすることを目的とする。具体的には、社会における栄養士の責務や職業倫理について説明する、ゲストティーチャーによる講演では医療・福祉・学校・企業などにおける栄養士の役割と業務について説明する。また、栄養士業務に必要な報告書や実習記録の作成など基礎知識・技能についても修得することである。
（オムニバス方式／全15回）
（1.坂井孝／1回）
建学の精神について説明する。
（2.久木久美子／2回）
レポート作成と栄養価計算についての演習を行う。
（3.土井玲奈／6回）
栄養士の使命と役割を概説し、福祉分野や学校・企業などにおける栄養士の役割と業務について演習を行う。また、栄養士免許取得に向けて学生自らが将来の目標像を明確するための演習を行う。
（4.　井上幹太／3回）
福祉・医療分野の栄養士の役割と業務について演習を行う。また、栄養士業務に必要な知識の確認を行う。
（5.海老澤薫／3回）
食品衛生や食文化などの栄養士業務に必要な知識を得るための演習を行う。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
A 栄養士として求められる基本的な資質・能力
A-1 プロフェッショナリズム
① 栄養士制度の歴史をふまえ，人々の健康と幸福に貢献する食事の管理を中心とした栄養の専門職であることを説明できる.
② 食事の管理を中心とした栄養の専門職としての職業倫理を説明できる.

A-6 連携と協働
①幅広い分野，業種における栄養士の役割を説明できる
A-8 生涯にわたって自律的に学ぶ能力
① 食事の管理を中心とした栄養の専門職として誇りを持ち，生涯にわたり自己研鑽する必要性を説明できる.
② 自律的に学び続ける能力を修得する.

到達目標

1.栄養士に必要なレポートの作成が実践できる。
2.栄養価計算について説明できる。
3.社会における栄養士の責務や職業倫理について説明できる。
4.栄養士の役割と業務について説明できる。
5.栄養士の使命を説明できる。

授業計画

【第1回】オリエンテーション、栄養士課程のカリキュラム構成について（担当：土井玲奈）
【第2回】栄養士に必要な基礎知識や技能① 実習のレポート作成方法と栄養価計算について解説する。（担当：久木久美子）
【第3回】本学の学びについて 建学の精神、栄養学科DP、CPについて解説する。（担当：坂井孝）
【第4回】栄養士に必要な基礎知識や技能③ レポート作成の基礎について解説する。（担当：久木久美子）
【第5回】栄養士に必要な基礎知識や技能② 食品を取り扱う現場での食品衛生の基礎について解説する。（担当：海老澤薫）
【第6回】栄養士の役割と業務① 児童福祉施設の栄養士について解説する。（担当：海老澤薫）
【第7回】栄養士の役割と業務② 児童福祉施設の実際を見学する。（担当：土井玲奈）
【第8回】栄養士の役割と業務③ 高齢者施設の栄養士について解説する。（担当：土井玲奈）
【第9回】栄養士の役割と業務④ 病院の栄養士について解説する。（担当：井上幹太）
【第10回】 栄養士の役割と業務⑤ 給食会社の栄養士について解説する。（担当：井上幹太）
【第11回】 栄養士の役割と業務⑥ 学校給食の栄養士について解説する。（担当：土井玲奈）
【第12回】 スポーツ栄養について スポーツ分野における栄養士のかかわりについて解説する。（担当：井上幹太）
【第13回】 食文化について解説する。（担当：海老澤薫）
【第14回】 自分の食生活を見直そう。（担当：土井玲奈）
【第15回】 まとめ 栄養士になるために何が必要か振り返りを行う。（担当：土井玲奈）

※進行によっては、授業計画（担当者を含む）を変更する場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前事後学習に要する時間をそれぞれ2時間以上確保すること。
各回で課題があるので時間をかけて作成し、締め切り日までに提出すること。
配付する「授業まとめノート」に各回目標達成度の自己評価表を付けているので、毎回の授業で各項目「満足」となるよう予習をし、積極的に授業に臨むこと。

課題に対するフィードバックの方法

各回で課される課題（レポート）は担当教員が評価および解説を行い、返却する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・定期試験に代わるレポート等の課題が未提出の場合
「各回の授業の達成度」は、出されたレポート課題の完成度や授業での積極姿勢等で評価を行う。
「授業まとめノート」は、ノートの出来栄えや目標達成度の自己評価表により評価を行う。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	毎回の授業の達成度（75）	1～5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	授業まとめノートの提出（25）	1～5
その他	0		

テキスト	図解 栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック/西川 真理子 著/化学同人/定価2,200円/9784759814774
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	〈履修条件ほか〉 この科目は卒業必修科目である。 やむを得ず欠席した場合は、登学後速やかに担当教員に申し出ること。授業内容を確認し、自宅で学習をすること。 〈他の科目との関連〉 本科目は、2年間の栄養士の学びの基礎となるものである。 栄養価計算、食品衛生については「調理学実習Ⅰ・Ⅱ」「調理学」「食品衛生学」「給食管理」と関連する。 栄養士の役割と業務①～⑥については「栄養士校外実習」や卒業後の進路との関わりが深い。

授業コード	22030102	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	心理学　［対面］				
シラバス執筆(全員)	森上　幸夫				
シラバス執筆(主)	森上　幸夫				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的･概要

人間の健全な食行動を形成するためには、食をコントロールするスキルを修得することが必要であり、その一端を担うのが心理学である。本講義は、個人的特性・発達段階・精神的健康・社会的影響における心理的機制から食行動を理解することを目的とする。具体的には、健全な食行動を形成するために考慮すべき「学習、認知、発達、加齢、ストレス、こころの病、人間関係、集団、社会」といった心理学的要因について説明することで、健全な食行動に関する理解の促進を目指している。なお、心理学の授業で得た知識は、臨床栄養学、応用栄養学、実践栄養学などの理解を深め、将来における医療・福祉の現場で活用することが望まれる。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
A　栄養士として求められる基本的な資質・能力
A-1　プロフェッショナリズム
④使命感と責任感をもって職務を遂行するためのコミュニケーションができる
A-4　栄養・食の選択と決定を支援するコミュニケーション能力
①対象者の栄養・食に関する主体的な意思決定を尊重することができる
③対象者と適切なコミュニケーションができる
以下の項目とも関連する
E　ライフステージ別の食事の管理を中心とした栄養管理のうち、ライフステージ毎の生理的・身体的特徴

到達目標

１．健全な食行動を形成するために必要な心理学的要因について説明できる。
２．食行動と心理学の関係について説明できる。

授業計画

【第01回】
テーマ：イントロダクション「食行動から見た心理学とは何か？」
【第02回】
テーマ：学習理論「食べることは本能か？」
・食行動が学習の過程であることを理解する
【第03回】
テーマ：認知処理「“おいしい”と言われるものを食べたいのか？」
・食行動に影響する認知の働きを理解する
【第04回】
テーマ：環境要因「名店の料理は高級なのか？」
・環境からの刺激が食行動に及ぼす効果を理解する。
【第05回】
テーマ：感覚と知覚「味は見えるのか、聞こえるのか？」
・複数の感覚器官による味わい方を理解する。
【第06回】
テーマ：人間関係「家庭の味ってあるのか？」
・身近な人間関係が食行動に及ぼす効果を理解する。
【第07回】
テーマ：こころの健康「サイコヘルシーな食生活とは何か？」
・食行動とこころの健康の関連を理解する。
【第08回】
テーマ：こころの病「精神を病んだ食生活とは何か？」
・食行動とこころの病の関連を理解する。
【第09回】
テーマ：発達と加齢「年代により食は変わるのか？」
・食行動の成長と変化を理解する。
【第10回】
テーマ：社会と文化「流行から見た食行動1」
・食行動がファッションの1つであることを理解する。
【第11回】
テーマ：社会と文化「流行から見た食行動2」
・食行動の流行の過程を理解する。
【第12回】
テーマ：社会と文化「国民食と地元飯から見た食行動1」
・食行動のパターン化を理解する。
【第13回】
テーマ：社会と文化「国民食と地元飯から見た食行動2」
・食行動の独自性を理解する。
【第14回】

テーマ：社会と文化「個食・孤食から見た食行動」
・食行動の個別化の影響を理解する。
【第15回】
テーマ：コンクルージョン「心理学から見た食行動とは何か？」

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第01回】
・事前：シラバスを熟読し授業の目的・概要等を確認する。
・事後：イントロダクションの内容をふまえ、食行動と心理学の関連性を考察する。
【第02回】
・事前：自らの食行動の形成について振り返り、まとめる。
・事後：授業で述べた学習と食行動の関連の課題に取り組む。
【第03回】
・事前：自らの食行動に関する考え方や捉え方について振り返り、まとめる。
・事後：授業で述べた認知と食行動と認知の関連の課題に取り組む。
【第04回】
・事前：自らの食行動にまつわる環境について振り返り、まとめる。
・事後：授業で述べた環境と食行動の関連の課題に取り組む。
【第05回】
・事前：自らの外界の刺激の感じ方・受け方について振り返り、まとめる。
・事後：授業で述べた感覚・知覚のメカニズムと食行動の関連の課題に取り組む。
【第06回】
・事前：自らの親密な人間関係の特徴について振り返り、まとめる。
・事後：授業で述べた人間関係と食行動の関連の課題に取り組む。
【第07回】
・事前：自らのこころの健康の状態について振り返り、まとめる。
・事後：授業で述べたこころの健康と食行動の関連の課題に取り組む。
【第08回】
・事前：自らのこころの病（もしくは見聞きした他者のこころの病）について振り返り、まとめる。
・事後：授業で述べたこころの病と食行動の関連の課題に取り組む。
【第09回】
・事前：自らの各年代での食行動の特徴について振り返り、まとめる。
・事後：授業で述べた発達と食行動の関連の課題に取り組む。
【第10回】
・事前：流行した「食」の種類に関する記事を検索して調べて、まとめる。
・事後：授業で述べた流行と食行動の課題に取り組む。
【第11回】
・事前：流行した「食」の普及の仕方に関する記事を検索して調べて、まとめる。
・事後：授業で述べた流行と食行動の課題に取り組む。
【第12回】
・事前：国民食に関する特徴を示した記事を検索して調べて、まとめる。
・事後：授業で述べた国民食と食行動の課題に取り組む。
【第13回】
・事前：地元飯に関する特徴を示した記事を検索して調べて、まとめる。
・事後：授業で述べた地元飯と食行動の課題に取り組む。
【第14回】
・事前：個食もしくは孤食に関する問題を取り上げた記事を検索して調べて、まとめる。
・事後：授業で述べた個食・孤食といった食行動の課題に取り組む。
【第15回】
・事前：第01回から第14回までの内容をまとめる。
・事後：到達度確認テストの結果を総括する。

課題に対するフィードバックの方法

・毎回実施する授業内課題に対して次回の授業内で解説します。
・到達度確認テストは、自己採点ができるように採点基準を公開します。
・レポートは、評価基準表にもとづく評価結果をフィードバックします。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・正当な理由なく定期試験を欠席した場合（または、定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合）

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	・毎回の授業内で課す課題（計15回・各4）	1,2

		・第15回に実施する到達度確認テスト（20）	
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	レポート（20）	1,2
その他	0		

テキスト	テキストは使用しません。必要に応じて資料を配付します。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介します。
履修条件・他の科目との関連	・配付資料はGoogleClassroomにてアップロードできるようにするので、欠席した場合は各自ダウンロードして補完的に学習してください。 ・授業内容が分かりにくい場合（欠席して補完的学習が分かりにくい場合）、教員へ質問するようにしてください。 ・受講上、特別な配慮を要する場合は教員へ相談してください。

授業コード	22013001	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	公衆衛生学　［対面］				
シラバス執筆(全員)	宮嵜　潤二				
シラバス執筆(主)	宮嵜　潤二				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的･概要

本講義は、健康の考え方、環境と健康、我が国における健康の現状、疫学の方法、主要疾患の疫学と対策について説明できることを目的とする。公衆衛生学の基礎知識を講義形態で学ぶ。具体的には、健康の維持・増進、 疾病の予防ならびに健康格差や健康に関する社会環境要因、環境汚染と健康影響、主な保健統計指標の定義、意義、用途について説明する。また、平均余命・平均寿命や健康寿命、人口静態統計による人口構成、死因別死亡等の現状と変遷について説明する。さらに疫学の基礎的な方法、疫学情報の収集方法とエビデンスレベルについて概説する。がん、脳卒中、心疾患、糖尿病の現状と対策、栄養・食生活との関わり、近年の感染症の動向、感染症の内容ならびに精神保健の現状、自殺、不慮の事故等の現状と対策について説明する。
【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
B-1社会および環境と健康の関わり
1-1）健康の考え方
1-2）環境と健康
1-3）我が国における健康の現状
B-3科学的根拠に基づく栄養の実践のための疫学の理解
3-1）疫学の方法
3-2）主要疾患の疫学と対策

以下の項目とも関連する
A-7科学的態度の形成と科学的探究

到達目標

SBOs
1.健康の維持・増進、 疾病の予防ならびに健康格差や健康に関する社会環境要因について説明できる
2.環境汚染と健康影響について説明できる
3.主な保健統計指標の定義、意義、用途について説明できる
4.平均余命・平均寿命や健康寿命について説明できる
5.人口静態統計による人口構成、死因別死亡等の現状と変遷について説明できる
6.疫学の基礎的な方法について概説できる
7.疫学情報の収集方法とエビデンスレベルについて説明できる
8.がん、脳卒中、心疾患、糖尿病の現状と対策、栄養・食生活との関わりについて説明できる
9.近年の感染症の動向、感染症の内容ならびに精神保健の現状、自殺, 不慮の事故等の現状と対策について説明できる

授業計画

*授業計画 講義資料から課題や確認演習等を毎時間提出させることにより進める。

第1回：公衆衛生の概念と社会的意義について説明できる。SBO①
ガイダンス、公衆衛生学の概念、公衆衛生の歴史、健康の定義
第2回：保健医療行政と疾病予防の方略について概説できる。 SBO①
保健行政、保健医療制度、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションの展開、ポピュレーションアプローチ
第3回：主な保健医療統計や健康指標を用いてわが国の健康状況を説明できる。SBO③④⑤
人口動態統計、人口静態統計、比率と割合
第4回：主な保健医療統計や健康指標を用いてわが国の健康状況を説明できる。SBO③④⑤
死因統計
第5回：疫学的手法による疾病要因の解明の方法論を説明できる。SBO⑥⑦
疫学の考え方とその手法、疾病発症のリスク要因の解明、交絡因子、感度・特異度
第6回：疫学的手法による疾病要因の解明の方法論を説明できる。SBO⑥⑦⑧
疫学調査と現在の健康に対する現状と課題
第7回：環境問題とその健康への影響について説明できる。SBO②
環境問題の変遷と現状、そして課題
第8回：環境問題とその健康への影響について説明できる。 SBO②
物理化学的要因（大気、水）、生物学的環境要因、生活社会的環境
第9回：感染症について、その成立、予防、対策について説明できる。SBO⑨
感染症について、感染症の動向
第10回：感染症について、その成立、予防、対策について説明できる。SBO⑨
疾病予防の概念とその予防対策
第11回：わが国の様々な保健行政の役割について理解し概説できる。SBO⑨
精神保健,メンタルヘルス
第12回：生活習慣病の現状と対策、栄養と食生活の関りについて概説できる。SBO①⑧
生活習慣病に関する疫学、要因、問題点
第13回：生活習慣病の現状と対策、栄養と食生活の関りについて概説できる。SBO①⑧
社会経済格差による健康の社会的決定要因

第14回：国際保健の組織と役割について概説できる。SBO①
国際保健活動、WHO、災害保健
第15回： まとめ
講義の振り返り、演習によるまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。
1回の授業につき事前事後あわせて４時間の学習が必要です。
【第1回】
事前学修課題 身近な公衆衛生の取り組みについて調べておく。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。
【第2回】
事前学修課題 プライマリヘルスケアについて調べる。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。
【第3回】
事前学修課題 厚労省や総務省で公表されている統計を閲覧してみる。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。
【第4回】
事前学修課題 日本における死因について年齢別に調べる
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。
【第5回】
事前学修課題 感染症アウトブレイクの際の検査の意義について調べる。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。
【第6回】
事前学修課題 日本の大規模疫学調査について調べる。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。
【第7回】
事前学修課題 特に関心のある環境問題について調べる。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。
【第8回】
事前学修課題 日本における身近な環境の問題点について調べる。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。
【第9回】
事前学修課題 ウイルスと最近の違いは何か調べる。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。
【第10回】
事前学修課題 感染症予防の方策について調べる。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。
【第11回】
事前学修課題 ダルクについて調べる。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。
【第12回】
事前学修課題 生活習慣病とは何か調べる。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。
【第13回】
事前学修課題 社会経済的地位とは何か調べる。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。
【第14回】
事前学修課題 SDGｓについて調べる。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。
【第15回】
事前学修課題 これまでの講義を振り返りまとめる。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。

課題に対するフィードバックの方法

*課題に対するフィードバックの方法 レポートやミニッツペーパーを使用して、毎講義終了後に振り返りの記述をまとめて、次講義時に講評する。
毎講義の関連項目の演習問題により振り返りと解説を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する
正当な理由なく定期試験を欠席した場合、欠席回数が5回をこえた場合「K」評価となる。（欠席5回,遅刻1回となった場合は「K」評価となる）

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	15	講義毎のテーマについて理解度を確認するための確認テストを毎回提出 15%	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9

授業外での評価	15	講義毎のテーマについて理解度を確認するためのフィードバックコメントを毎回提出　15%	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9
定期試験	70		1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	公衆衛生がみえる 2024-2025(メディックメディア)　¥4,620-　ISBN978-4-89632-858-5
参考書	シンプル公衆衛生学 基礎から学ぶ楽しい疫学 わかりやすいEBNと栄養疫学
履修条件・他の科目との関連	日常においても、健康や環境についてのニュースや医療情報について注意し興味を持っておくこと。また、分からない医学用語については、常に調べるような習慣を付けておくこと。関連項目を学習したときに他の分野についても想起するよう心がけること。 栄養士免取得のための必須科目である。

授業コード	22015101	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	社会福祉概論　［対面］				
シラバス執筆(全員)	奥山　峰幸				
シラバス執筆(主)	奥山　峰幸				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的･概要

本講義は、健康の考え方、社会保障制度・衛生法規と保健活動、傷病者、要介護者および障がい者に対する栄養士の役割について説明できることを目的とする。社会福祉の役割や時代背景、そして現在の社会福祉の制度や仕組みについての知識を講義形態で学ぶ。具体的には、国民の健康づくりにおける保健・医療・福祉の位置づけと相互の連携、社会保障の定義と歴史および社会保障と公衆衛生の関連ならびに健康づくりに関する諸制度、地域保健に関する行政組織、関連機関等の役割と相互の連携、関連法規に基づく保健活動、地域包括ケアシステムならびに老人福祉法、介護保険法の概要について説明する。また、社会福祉施設の種類、障がい者福祉の制度、在宅ケアおよび訪問看護、公衆栄養に係る法律制定に至る背景と意義および内容について説明する。
【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
B-1社会および環境と健康の関わり
1-1）健康の考え方
B-2健康・栄養に関わる社会制度・法規と保健活動
2-1）社会保障制度・衛生法規と保健活動
F-2食事の管理を中心とした栄養管理のための傷病者，要介護者および障がい者の理解
2-1）傷病者，要介護者および障がい者に対する栄養士の役割

以下の項目とも関連する
A-1プロフェッショナリズム
A-2栄養学の知識と課題対応能力
A-8生涯にわたって自律的に学ぶ能力

到達目標

1.国民の健康づくりにおける保健・医療・福祉の位置づけと相互の連携について説明できる
2.社会保障の定義と歴史および社会保障と公衆衛生の関連ならびに健康づくりに関する諸制度ついて説明できる
3.地域保健に関する行政組織、関連機関等の役割と相互の連携について説明できる
4.関連法規に基づく保健活動について説明できる
5.地域包括ケアシステムならびに老人福祉法、　介護保険法の概要について説明できる
6.社会福祉施設の種類、障がい者福祉の制度、　在宅ケアおよび訪問看護について説明できる
7.公衆栄養に係る法律制定に至る背景と意義および内容を説明できる

授業計画

第1回　オリエンテーション、社会福祉とは何か　：社会福祉の意味、社会福祉の考え方を学ぶ
第2回　社会福祉の歴史　：イギリス・アメリカ・日本の社会福祉の歴史、発展について学ぶ
第3回　社会福祉の基本的枠組み　：憲法や社会福祉法の法制度について学ぶ
第4回　社会保障制度と公的扶助　：医療保険・年金保険・雇用保険・介護保険等の社会保障制度と生活保護について学ぶ
第5回　児童・家庭の福祉　：児童福祉法と子ども家庭福祉や制度について学ぶ
第6回　高齢者の福祉　：高齢者問題と老人福祉法・介護保険法について学ぶ
第7回　障害者福祉　：障がい者福祉の考え方・障害者総合支援法について学ぶ
第8回　地域福祉　：地域福祉と社会福祉協議会について学ぶ
第9回　社会福祉の担い手　：社会福祉従事者・資格とボランティアについて学ぶ
第10回　社会福祉の実践と方法　：ソーシャルワーク・社会福祉実践の課題・認知症の人への対応について学ぶ
第11回　介護問題と介護保険制度の課題　：社会問題としての介護問題・介護保険制度とその問題点について学ぶ
第12回　保育をめぐる課題と子育て支援制度　：保育の歴史と現代の子育て支援制度と事業について学ぶ
第13回　医療問題と社会福祉　：医療制度と医療における専門職の役割・認知症の理解（ユマニチュード）について
第14回　災害と社会福祉　：災害と社会福祉の関係・災害リスクと社会福祉・災害派遣福祉チーム（DWAT）について学ぶ
第15回　社会福祉概論のまとめ　：地域包括ケアシステムとこれからの生活に役立つ社会福祉制度について

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習として、テキストをよく読み、また、日ごろからニュースやインターネットで社会福祉に関する記事を読み、社会福祉の現状について理解を深める時間として学習すること。
事後学習として、テキストやノート・配布資料の読み返しや課題として出す実力認定試験対策問題のやり直し、制度の学習・専門用語の復習を行い、日常生活に必要な知識や認定試験・テストなどに必要な知識の整理をすること。

課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法

小テストの模範解答を配布し、講義の中で解説を行う。試験に代わる課題レポートに対する採点結果が知りたい場合は、個別に対応する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。
●成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業内理解度確認小テスト	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	全授業終了後に実施するレポート課題	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
その他	0		

テキスト	ふくろう出版『～基礎と課題から学ぶ～　新時代の社会福祉』、監修杉本敏夫、ふくろう出版、本体価格2,100円+税　ISBN 978-4-86186-785-9 授業時にプリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	栄養士免許必修科目である。 資料を配布した授業を欠席した場合は、次の授業時に資料を取りに来ると資料を渡します。

授業コード	22038401	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	疾病の成り立ち　[対面]				
シラバス執筆(全員)	楠　隆				
シラバス執筆(主)	楠　隆				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的･概要

本講義は、傷病者の食事の管理を中心とした栄養管理の実践のために、疾病の原因、病態、症状、症候について、人体の構造と機能に関連づけて理解することを目的とする。具体的には、人体の構造や機能と関連づけて、疾病の成り立ち（循環障害、炎症と創傷、浮腫、脱水、嘔吐、下痢など）について理解を深める、各疾患（栄養障害、代謝・内分泌系疾患、消化器系疾患、腎・尿路系疾患、血液系疾患、運動器系（筋・骨格）疾患など）の原因、病態、症状、診断、治療について解説する、個体の調節機構（ホメオスタシス、生体防御機構など）について理解を深めることで、基本的な病態のメカニズムを理解し、適切な栄養管理の実践に結びつけることができるように解説する。
【栄養学教育モデル・コアカリキュラムとの関連性】
F-1　疾病の成り立ち
1-1）疾病の成り立ち
1-2）疾患の症候と診断・治療の概要
F-3　病態に応じた食事の管理を中心とした栄養管理
3-1）栄養障害
3-2）代謝・内分泌系疾患
3-3）消化器系疾患
3-4）循環器系疾患
3-5）腎・尿路系疾患
3-6）血液系疾患
3-7）運動器系（筋・骨格）の疾患
3-8）食物アレルギー
C-1　人体の構造と機能
1-3）個体の調節機構
A-2　栄養学の知識と課題対応能力
A-7　科学的態度の形成と科学的探究

到達目標

1.疾病の成り立ち（循環障害、炎症と創傷、浮腫，脱水，嘔吐，下痢など）が説明できる
2.栄養障害の症候と診断・治療の概要が説明できる
3.代謝・内分泌系疾患の症候と診断・治療の概要が説明できる
4.消化器系疾患の症候と診断・治療の概要が説明できる
5.循環器系疾患の症候と診断・治療の概要が説明できる
6.腎・尿路系疾患の症候と診断・治療の概要が説明できる
7.血液系疾患の症候と診断・治療の概要が説明できる
8.運動器系（筋・骨格）の疾患の症候と診断・治療の概要が説明できる
9.食物アレルギーの症候と診断・治療の概要が説明できる
10.個体の調節機構（ホメオスタシス、生体防御機構など）について説明できる

授業計画

第1回　疾患診断・治療の概要
第2回　疾患による細胞・組織の変化
第3回　栄養と代謝
第4回　消化器疾患の病態
第5回　循環器系疾患の病態
第6回　腎・尿路系疾患の病態
第7回　内分泌系疾患の病態
第8回　悪性腫瘍の病態
第9回　神経・精神系疾患の病態
第10回　呼吸器系疾患の病態
第11回　血液・造血器・リンパ系疾患の病態
第12回　運動器系疾患の病態
第13回　感染症の病態
第14回　免疫・アレルギー疾患の病態
第15回　復習・予備日

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：各回で学習する項目に関連する事項についての予習課題を行う(1.5時間)
事後学習：学習内容の定着にむけた復習課題を行う(2.5時間)

課題に対するフィードバックの方法
課題提出後の授業内および授業後に課題の内容に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）
●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。 ●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。 ---------- 成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。 【「K」評価となる場合】 ・5回を超えて欠席した場合 ・正当な理由なく定期試験を欠席した場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内容に関する小テスト	1～10
授業外での評価	30	予習課題、復習課題の達成度	1～10
定期試験	40	定期試験	1～10
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	竹中優　編　疾病の成因・病態・診断・治療　第2版　医歯薬出版　3850円　ISBN 978-4-263-70586-5 C3047
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	解剖生理学についてしっかりと復習しておくこと。 栄養士免許必修科目である。

授業コード	22033901	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	解剖生理学　［対面］				
シラバス執筆(全員)	楠　隆				
シラバス執筆(主)	楠　隆				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、栄養と健康との関連性を理解するために必要な人体の構造および個体の調節機構について理解することを目的とする。具体的には、人体の構造と機能（生体構成成分（糖質、脂質、アミノ酸・たんぱく質）、細胞と組織の基本的な構造と機能、各臓器・器官の形態、体内での位置および主要臓器の構造、運動器系、循環器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、血液・造血器系など）について説明する。さらに、個体の調節機構（神経による情報伝達機構、細胞間情報伝達物質、ホルモンによる恒常性の維持、体温・呼吸・血圧の調節など）について説明する。
【栄養学教育モデル・コアカリキュラムとの関連性】
C-1　人体の構造と機能
1-1）生体成分、細胞、組織、臓器・器官の構造と機能
1-3）個体の調節機構
A-2　栄養学の知識と課題対応能力

以下の項目とも関連する
C-2　栄養と栄養素等のはたらき
2-3）栄養素等の消化・吸収のメカニズム
2-9）水・電解質の栄養学的役割

到達目標

1.生体成分（糖質、脂質、アミノ酸・たんぱく質）の構造と機能について説明できる
2.細細胞と組織の基本的な構造と機能について説明できる
3.各臓器・器官の形態、体内での位置および主要臓器の構造について説明できる
4.運動器系の構造と機能について説明できる
5.循環器系の構造と機能について説明できる
6.消化器系の構造と機能について説明できる
7.泌尿器系の構造と機能について説明できる
8.内分泌系の構造と機能について説明できる
9.血液・造血器系の構造と機能について説明できる
10.神経による情報伝達について説明できる
11.ホルモンによる恒常性の維持について説明できる
12.体温・呼吸・血圧の調節について説明できる

授業計画

第1回　細胞から人間まで
第2回　神経系1（神経系と神経組織、中枢神経系総論）
第3回　神経系2（中枢神経系各論、神経伝導路、末梢神経）
第4回　運動器系
第5回　感覚器系
第6回　循環器系
第7回　血液と生体防御機構
第8回　呼吸器系
第9回　泌尿器系
第10回　消化器系1（口腔、食道、胃）
第11回　消化器系2（小腸、消化酵素、大腸）
第12回　消化器系3（膵臓、肝臓、代謝）
第13回　消化器系4（脂質、たんぱく質）
第14回　内分泌系、体温と生体リズム
第15回　復習・予備日

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：各回で学習する項目に関連する事項についての予習課題を行う(1.5時間)
事後学習：学習内容の定着にむけた復習課題を行う(2.5時間)

課題に対するフィードバックの方法

授業内容に関する小テストや復習課題については、終了後に解説する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。

●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・正当な理由なく定期試験を欠席した場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内容に関する小テスト	1～12
授業外での評価	30	予習課題、復習課題の達成度	1～12
定期試験	40	定期試験	1～12
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	人体の構造と機能　第6版　上田晃ほか著　医歯薬出版　3300円　ISBN 978-4-263-71061-6 C3047
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	解剖生理学は栄養学を学ぶ上で最も基本となる科目の一つです。理解するためには高等学校の理科の知識が必要です。必要な理科の知識を再学習し、そのうえで地道に反復学習することが大切です。 栄養士免許必修科目です。

授業コード	22018001	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	生化学　［対面］				
シラバス執筆(全員)	坂井　孝				
シラバス執筆(主)	坂井　孝				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的･概要

本講義は、栄養と健康との関連性を理解するために必要となる栄養素の生体内代謝について理解することを目的とする。具体的には、代謝（異化、同化）の意味、生体内代謝に必要な酵素と補酵素の働きについて説明する。また、生体内の各種代謝（解糖系、クエン酸回路、電子伝達系と酸化的リン酸化、熱産生、糖新生経路、グリコーゲンの合成・分解経路、脂肪酸の合成、β酸化、ケトン体の代謝、トリアシルグリセロールの代謝、コレステロールの合成と利用、たんぱく質の合成と分解、アミノ酸の分解経路（アミノ基転移反応、尿素回路、炭素骨格の代謝）とアミノ酸の利用）について、さらに遺伝子の発現について概説する。
【栄養学教育モデル・コアカリキュラムとの関連性】
C-1　人体の構造と機能
1-2）生体内代謝
A-2　栄養学の知識と課題対応能力

以下の項目とも関連する
C-1　人体の構造と機能
1-1）生体成分、細胞、組織、臓器・器官の構造と機能
C-2　栄養と栄養素等のはたらき
2-4）炭水化物の栄養学役割
2-5）脂質の栄養学的役割
2-6）たんぱく質の栄養学的役割
2-7）ビタミンの栄養学的役割
2-8）ミネラル（無機質）の栄養学的役割

到達目標

１．代謝（異化,同化）について説明できる
２．酵素と補酵素の働きについて説明できる
３．解糖系,クエン酸回路,電子伝達系と酸化的リン酸化，熱産生について説明できる
４．糖新生経路,グリコーゲンの合成・分解経路について説明できる
５．脂肪酸の合成,β酸化,ケトン体の代謝について説明できる
６．トリアシルグリセロールの代謝を説明できる
７．コレステロールの合成と利用について説明できる
８．たんぱく質の合成と分解,アミノ酸の分解経路（アミノ基転移反応,尿素回路，炭素骨格の代謝）とアミノ酸の利用について説明できる
９．遺伝子の発現について説明できる

授業計画

【第1回】
テーマ：なぜ、食べなければいけなのか①
内容・方法：代謝とはなにか　生体恒常性とは何かについて学ぶ（講義）
【第2回】
テーマ：なぜ、食べなければいけないのか②
内容・方法：生命活動を支えるエネルギー物質について学ぶ（講義）
【第3回】
テーマ：生体内の酵素の働き
内容・方法：栄養素の代謝に欠かせない酵素について学ぶ（講義）
【第4回】
テーマ：なぜ、甘いものを食べたくなるのか①
内容・方法：糖質の基本性質・構造について学ぶ（講義）
【第5回】
テーマ：なぜ、甘いのもを食べたくなるのか②
内容・方法：糖質の代謝について学ぶ（講義）
【第6回】
テーマ：油は本当に健康を害するのか①
内容・方法：脂質の基本性質・構造について学ぶ（講義）
【第7回】
テーマ：油は本当に健康を害するのか②
内容・方法：脂質代謝について学ぶ（講義）
【第8回】
テーマ：なぜ、食べすぎるとなぜ太るのか
内容・方法：糖質代謝と脂質代謝の関係について学ぶ（講義）
【第9回】
テーマ：コレステロールは体に悪いのか。
内容・方法：コレステロールの代謝、栄養学的意義について学ぶ（講義）

【第10回】
テーマ：生活習慣病と生化学
内容・方法：健康者と糖尿病患者の代謝の違いについて学ぶ（講義）
【第11回】
テーマ：なぜ、身体にはたんぱく質が必要なのか①
内容・方法：たんぱく質、アミノ酸の基本性質・構造について学ぶ（講義）
【第12回】
テーマ：なぜ、身体にはたんぱく質が必要なのか②
内容・方法：たんぱく質、アミノ酸の代謝について学ぶ（講義）
【第13回】
テーマ：なぜ、親子は似るのか①
内容・方法：遺伝子を構成する核酸の基本性質と役割について学ぶ（講義）
【第14回】
テーマ：なぜ、親子は似るのか②
内容・方法：遺伝子の働き　たんぱく質はどのようにして作られるのか（講義、DVD視聴）
【第15回】
テーマ：生化学のまとめ
内容・方法：身の回りにおこる現象について、生化学側面から考える（演習レポート）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：授業をまとめた動画をクラスルームにUPするので視聴する（1時間）。
事後学習：学習内容の理解を深るために復習を行い、確認テストに向けて準備をする（3時間）。

課題に対するフィードバックの方法

授業内容に関する確認テストは、終了後解答解説を行い、間違えた部分の確認を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・正当な理由なく定期試験を欠席した場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内容に関する確認テスト(40) DVD視聴レポート(10)	1～9
授業外での評価	10	演習レポート(10)	1～9
定期試験	40	定期試験(40)	1～9
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	ヒトの基礎生化学　編著川上浩　アイ・ケイコーポレーション　3,000＋税 ISBN978-4-87492-332-0
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	前期に履修した解剖生理学や基礎栄養学Ⅰ、及び食品学総論で学んだ内容と関連させて授業を進行するので、関連する内容について必ず復習をしておくこと。 授業に必要な資料等は授業時間中又はクラスルームを通じて配付します。欠席した場合は、各自クラスルームから入手すること。 「栄養士免許必修科目である」

授業コード	22034001	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	運動生理学　［対面］				
シラバス執筆(全員)	織田　修輔				
シラバス執筆(主)	織田　修輔				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、解剖生理学、生化学を基礎とし、運動による身体各機能の変化・適応について理解することを目的とする。具体的には、日常的な身体活動を題材として、筋収縮のメカニズムやエネルギー供給経路、呼吸機能の調節、循環器系の適応、運動に対する内分泌系の応答、運動能力（酸素摂取量、最大酸素摂取量、無酸素性作業閾値など）および三大栄養素とエネルギー代謝について解説する。また、これらの知識を活かして、健康や運動に関連する幅広い知識を修得できるように解説する。
【栄養学教育モデル・コアカリキュラムとの関連性】
C-1　人体の構造と機能
1-1）生体成分、細胞、組織、臓器・器官の構造と機能
1-2）生体内代謝
1-3)個体の調節機能
C-2　栄養と栄養素等のはたらき
2-10）エネルギー代謝
以下の項目とも関連する
A.栄養士として求められる基本的な資質・能力
A-6.連携と協働
①幅広い分野、業種における栄養士の役割を説明できる。

到達目標

1.健康のねらいとその内容を理解できるようになる。
2.栄養士と健康領域の関係について理解できるようになる。
3.生活習慣の形成を支える援助ついて理解できるようになる。
4.生活習慣病予防の大切さについて説明できる。

授業計画

第1回：運動の必要性と健康との関わりについて
第2回：運動が及ぼす骨強度への貢献について
第3回：筋肉の種類を把握し、それぞれの名前と機能について
第4回：筋肉の収縮メカニズムについて
第5回：　体温調節機能と熱中症対策について
第6回：血液の循環と運動との関わりについて
第7回：血液成分とその役割について
第8回：呼吸の仕組みについて
第9回：呼吸商について
第10回：神経と脳について
第11回：神経系の仕組みと運動との関係性について
第12回：エネルギー供給機構について
第13回：食べ物の消化吸収について
第14回：吸収した栄養の利用について
第15回：脂質代謝のメカニズムについて

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回の授業後に内容を振り返り、自分の言葉で説明することができるようにする。

課題に対するフィードバックの方法

小テストの答案は、模範解答と採点基準を付して返却する。
また、小テストの実施方法においては授業内で解答を提示する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

1.　5回を超えての欠席（欠席5回、遅刻1回）はK評価となる。
2.　正当な理由なく定期試験を欠席した場合はＫ評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標

授業内での評価	20	小テスト	1, 2, 4
授業外での評価	0		
定期試験	70	授業で扱った全ての内容より理解度を評価	1, 2, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	10	授業中における発言を評価	1, 3

テキスト	テキストは使用せず資料を配布する
参考書	「運動生理学20講」、勝田 茂・征矢 英昭(編)、朝倉書店 「入門運動生理学　第4版」、勝田　茂、杏林書院
履修条件・他の科目との関連	1. 栄養士免許必修科目である。 2. 欠席した場合は、資料をGoogle　Classroomに載せるため必ず自身で確認すること(試験内容に反映されるため)。 3. 解剖生理学の授業と関係があるため、その内容を復習しておくことが望ましい。

授業コード	22039001	授業形態	実験	実務家教員	ー
授業科目名	生理・生化学実験　［対面］				
シラバス執筆(全員)	坂井　孝				
シラバス執筆(主)	坂井　孝				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

本実験は、生化学、栄養学、解剖生理学および食品学で学修した基礎知識を実験により確認し、人体の仕組みや調節機構について理解を深めることを目的とする。具体的には、生理学領域は、自己を被験者として身体計測（身長、体重、体脂肪率、筋肉量、皮下脂肪厚測定など）による体格測定、血圧の調節、重量感覚や反射、唾液アミラーゼ測定による作業ストレス反応や人工腸を用いた栄養素の吸収メカニズムなどの実験を行う。生化学領域は、酵素特性（基質特異性、至適温度、至適pH）に関する実験、酵母を用いた糖質代謝実験、生化学的手技を用いて食品からDNAの抽出および電気泳動法を用いた食品タンパク質の分離実験を通じて生体内での生化学的変化について実験を行う。

【栄養学教育モデル・コアカリキュラムとの関連性】
C-1　人体の構造と機能
1-2）生体内代謝
1-3）個体の調節機構
C-2　栄養と栄養素等のはたらき
2-3）栄養素等の消化・吸収のメカニズム
2-10）エネルギー代謝

以下の項目とも関連する
A 栄養士として求められる基本的な資質・能力
A-2　栄養学の知識と課題対応能力

到達目標

１．基本的な実験器具の操作ができる
２．実験班の中で、責任を持って役割を分担することができる
３．基礎的な実験レポートが作成できる
４．実験課題と対応する授業での項目について関連を理解し、考察に導くことができる
５．栄養素摂取と生化学的・生理学的パラメータ及び疾患との関連について概説できる

授業計画

授業計画は入れ替わる場合がある。
【第1回】
テーマ：【実験全般】実験ガイダンス
内容・方法：実験の心構えと心得　実験レポートの書き方、生理学領域の復習
【第2回】
テーマ：【生理学領域①】栄養アセスメント評価に関する実験
内容・方法：身体計測（身長、体重、JARD2001）による評価について学ぶ
【第3回】
テーマ：【生理学領域②】感覚器系と皮膚に関する実験
内容・方法：痛覚、重量感覚に関する実験　Weber-Fechnerの法則について学ぶ
【第4回】
テーマ：【生理学領域③】循環器系に関する実験
内容・方法：血圧に関する実験　体位・寒冷による血圧の変化から循環器系の反射について学習する
【第5回】
テーマ：【生理学領域④】呼吸器系に関する実験
内容・方法：呼吸器に関する実験　肺の呼吸運動やヘモグロビンの役割について学ぶ
【第6回】
テーマ：【生理学領域⑤】恒常性に関する実験
内容・方法：体温に関する実験　体温調節機能について学ぶ
【第7回】
テーマ：【生理学領域⑥】内分泌系に関する実験
内容・方法：疲労に関する実験　さまざまな疲労やストレスとホルモンの関係について学ぶ
【第8回】
テーマ：【生理学領域⑦】実験まとめ
内容・方法：生理学領域の復習
【第9回】
テーマ：【生化学領域①】実験ガイダンス
内容・方法：実験器具の基本操作についての再学習、生化学領域の復習
【第10回】
テーマ：【生化学領域②】核酸に関する実験
内容・方法：DNAの可視化実験、DNA、RNAについて学ぶ
【第11回】
テーマ：【生化学領域③】アミノ酸、タンパク質の化学

内容・方法：タンパク質の定性実験　タンパク質の電気泳動による分離方法について学ぶ
【第12回】
テーマ：【生化学領域④】酵素化学(1)
内容・方法：唾液アミラーゼによるでんぷん分解実験　酵素作用について学ぶ
【第13回】
テーマ：【生化学領域⑤】酵素化学(2)
内容・方法：唾液アミラーゼによるでんぷん分解実験　酵素の性質について学ぶ
【第14回】
テーマ：【生化学領域⑥】代謝実験
内容・方法：酵母を用いたグルコース代謝実験　解糖系について学ぶ
【第15回】
テーマ：【生化学領域⑦】実験まとめ
内容・方法：生化学領域の復習

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

実験内容に関する内容について、1年次に活用した教科書やノートを参考に事前学習を行うこと。
実験終了後は、参考図書等を活用し、レポート作成を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートにはコメントをつけて返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・正当な理由なく定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	復習レポート(20)	4, 5
授業外での評価	60	実験レポートの完成度(60)	1, 2, 3, 4, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	実験内容に関するレポート課題の到達度(10)	4, 5
その他	10	実験中の取り組み状況(10)	1, 2

テキスト	オリジナルの実験テキストファイルを配布する。
参考書	基礎栄養学、生化学及び解剖生理学で使用した教科書
履修条件・他の科目との関連	基礎栄養学、生化学及び解剖生理学以外に食品学実験や食品衛生学実験で学んだ実験手技に関する内容は復習をしておくこと。 毒性のある試薬を扱うので、実験に対しては真摯な態度で臨むこと。 実験衣及び実習用シューズを忘れた場合、実験には参加させないこともあります(別テーマを課します)。 受講態度の悪い学生に対しては退出を命ずることもあります。 「栄養士免許必修科目」である

授業コード	22017301	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	食品学総論　［対面］				
シラバス執筆(全員)	海老澤　薫				
シラバス執筆(主)	海老澤　薫				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的･概要

本講義は、対象者に対して安全でおいしく、適切な食事を提供するうえで必要となる食事の基本や食品の知識を学び、食品に含まれるさまざまな成分の性質や所在を理解することを目的とする。本講義での学修内容と栄養成分の体内での動態、調理工程における食品の化学的変化、食品の衛生的な加工保存とを関連させて理解できるよう解説する。具体的には、人間と食行動、食料自給率や食品ロスなどの食をめぐる諸問題、食品の分類、食品の機能性、特別用途食品、保健機能食品、五大栄養素（炭水化物・脂質・たんぱく質・無機質・ビタミン）および嗜好成分（色素成分・呈味成分・香気成分）の性質と化学的特徴、食品成分間反応（酵素・非酵素的反応）について説明する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
C-3. 食事・食べ物の基本
3-1）食事の理解
3-2）食品の主要な成分と特性
D-1. 食べ物と健康の関連の理解
1-1）食品成分表
1-2）食材の特徴と調理・加工
1-6）食品の機能性
1-7）特別用途食品・保健機能食品・いわゆる健康食品

到達目標

1.人間と食行動について説明できる
2.食料自給率や食品ロスなどの食をめぐる諸問題について説明できる
3.食品の分類について説明できる
4.食品の機能性について説明できる
5.特別用途食品について説明できる
6.保健機能食品について説明できる
7.五大栄養素（炭水化物・脂質・たんぱく質・無機質・ビタミン）の性質と化学的特徴について説明できる
8.嗜好成分（色素成分・呈味成分・香気成分）の性質と化学的特徴について説明できる
9.食品成分間反応（酵素・非酵素的反応）について説明できる

授業計画

【第1回】 オリエンテーション、食と人間、食をめぐる諸問題
【第2回】 食品の機能、特別用途食品、保健機能食品
【第3回】 水の特徴、食品中の水
【第4回】 炭水化物(1)　糖質の種類、単糖類の構造と特徴、オリゴ糖
【第5回】 炭水化物(2)　多糖類、糖誘導体、甘味料
【第6回】 脂質(1)　脂質の分類と構成成分、脂肪酸の構造と命名法
【第7回】 脂質(2)　油脂の物理的性質および化学的性質
【第8回】 タンパク質(1)　タンパク質の構造、アミノ酸の種類と特徴
【第9回】 タンパク質(2)　タンパク質の種類と性質
【第10回】ミネラル　ミネラルの種類と食品における役割、酸性食品とアルカリ性食品
【第11回】ビタミン　ビタミンの種類と特徴
【第12回】嗜好性成分(1)　呈味成分、基本味とは、味の相互作用
【第13回】嗜好性成分(2)　香気成分、調理や加工における香り成分の生成について
【第14回】嗜好性成分(3)　食品中の色、色素の種類と化学的特徴
【第15回】食品成分間反応　食品の酸化と劣化、酵素による食品成分の変化、非酵素的褐変反応、食品学総論のまとめ

※場合によっては順番が前後する場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：講義に先立ち、教科書を読んでおくこと。
事後学習：配布資料や教科書を読み、各自ノートをまとめること。
事前事後ともに食品関連に関するニュースについて、随時情報を求め授業内容と関連させること。
事前、事後学習を合わせ4時間程度の学習を必要とする。

課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法

授業内に行う確認テストおよび課題レポートについては、採点および解説を行い返却する。

成績評価の方法・基準（方針）
●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。 ●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。 ---------- 成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。 【「K」評価となる場合】 ・5回を超えて欠席した場合 ・正当な理由なく定期試験を欠席した場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	5	授業への取り組み姿勢（5） 問題行動（私語、居眠り、非協力的態度）等は減点対象とする。	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9
授業外での評価	35	確認テスト（30） 講義内容に応じて確認テストを実施する。達成度に応じて評価する。 課題レポート（5） 講義内容に応じて課題レポートを課す。完成度に応じて評価する。	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9
定期試験	60	試験を課し得点および完成度を評価する（60）	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『栄養科学イラストレイテッド　食品学Ⅰ　改訂第2版　食べ物と健康　食品の成分と機能を学ぶ』 水品善之,菊﨑泰枝,小西洋太郎／編、 羊土社 2,600円（税別） ISBN978-4-7581-1365-6 テキストは毎回持参すること。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。 プリントも適宜授業内に配布する。
履修条件・他の科目との関連	卒業必修科目である。 栄養士免許必修科目である。 〈他の科目との関連〉 食品学実験、食品学各論Ⅰ、Ⅱ（加工学を含む）、食品衛生学、調理学、基礎栄養学Ⅰと関連する。 〈欠席時の配付資料の受け取りについて〉 配布時に欠席した場合には、教員まで配付資料の有無を確認して受け取りについて申し出ること

授業コード	22017101	授業形態	実験	実務家教員	ー
授業科目名	食品学実験　［対面］				
シラバス執筆(全員)	海老澤　薫				
シラバス執筆(主)	海老澤　薫				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本実験は、理化学実験に必要な基本的な知識と実験手技、データ解析について理解し、自ら実験を遂行できる力を修得すること、さらに食品学総論で学んだ知識を定着させることを目的とする。具体的には、実験を行う上での心構え（安全、環境への配慮と対策）、定性実験と定量実験の意味するもの、実験結果の観察およびデータの解析と報告書の作成方法、試薬の取り扱い（秤量と調製）、食品成分（糖質、たんぱく質、脂質、色素、香気、酸度）に関する定性・定量実験および公定法に基づく食品の一般成分分析について理解し、実践できるように説明および実験を実施する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
D-1. 食べ物と健康の関連の理解
1-1）食品成分表
1-2）食材の特徴と調理・加工
A-7. 科学的態度の形成と科学的探究″

到達目標

1.実験を行う上での心構え（安全、環境への配慮と対策）および定性実験と定量実験の意味するものが説明できる
2.実験結果の観察およびデータの解析を行い報告書が作成できる
3.試薬の取り扱い（秤量と調製）ができる
4.食品成分（糖質、たんぱく質、脂質、色素、香気、酸度）に関する定性・定量実験および公定法に基づく食品の一般成分分析ができる

授業計画

【第1回】
テーマ：実験オリエンテーション、実験器具の種類および洗浄方法
内容：実験を行う上での心構え、実験ノート、レポートの書き方および注意事項、実験器具の取扱方法について学ぶ。
【第2回】
テーマ：糖質に関する実験(1)　デンプンの定性実験
内容：様々な食品についてデンプンの有無および所在を確認する。
【第3回】
テーマ：糖質に関する実験(2)　糖の定性実験
内容：数種類の定性反応を用いて、糖の判別を行う。
【第4回】
テーマ：タンパク質およびアミノ酸に関する実験(1)　タンパク質の分離
内容：小麦粉および牛乳からタンパク質を分離し、定性反応を行う。
【第5回】
テーマ：タンパク質およびアミノ酸に関する実験(2) アミノ酸、タンパク質の定性反応
内容：アミノ酸およびタンパク質の定性反応を利用して、未知試料について種類を判別する。
【第6回】
テーマ：色素に関する実験(1)
内容：アントシアン色素、フラボノイド色素を食品から抽出し、pHの違いや金属イオンが与える影響を観察する。
【第7回】
テーマ：色素に関する実験(2)
内容：食品中の緑色色素について、薄層クロマトグラフィーの手法から色素を分離する。
【第8回】
テーマ：食品の酸度に関する実験(1)
内容：酸度測定に用いる水酸化ナトリウム水溶液の調製および力価測定を行う。試薬の調製方法およびビュレットの使い方について学ぶ。
【第9回】
テーマ：食品の酸度に関する実験(2)
内容：第9回で調製した試薬を用いて、食品の酸度を中和滴定法により求める。
【第10回】
テーマ：リンの定量
内容：モリブデンブルー法を用いて食品中のリンを定量する。分光光度計の操作および検量線作成について習得する。
【第11回・第12回】
テーマ：水分、灰分、脂質の定量
内容：2週にわたり、水分、灰分、脂質の定量を行う。栄養表示のための公定法について理解する。
【第13回】
テーマ：嗅覚に関する実験および食品中の香気成分の抽出

内容：嗅覚に関する検査および嗜好飲料や香辛料から香気成分を抽出し、香りを比較する。
【第14回】
テーマ：実験成果発表会
内容：第2～13回に実施した実験から1つを選び、実験成果についてプレゼンテーションを行う。
【第15回】
テーマ：食品学実験のまとめ、確認テスト
内容：第14回までの実験内容について確認テストを実施し、解説を行う。

※実験の順番は進捗状況に応じて、前後することがある。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

実験は事前の準備（予習）を怠ると、正しい結果が得られないだけではなく事故や怪我にもつながる。
実験ノートに沿って実験当日までに十分な予習を行い、実験の流れをシミュレーションすること。
予習にあたっては、「食品学総論」の講義内容と関連させること。
食品学実験では、器具や試薬の名称など専門用語も多く使われる。不明な用語はそのままにせず、自分の言葉で説明できるよう調べること。
実験で得られた知識を食品学総論や調理学、その他の栄養士専門科目とリンクして考えられるようにすること。

課題に対するフィードバックの方法

実験ノートや課題レポートについては提出を求め、添削後評価を付して返却する。
実験成果発表会については、発表スライドについて講評を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・4回を超えて欠席した場合
・正当な理由なく定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合
・正当な理由なく実験ノートが期限までに提出できなかった場合
・正当な理由なく実験成果発表会のスライドデータが提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	実験15回目に到達度テストを実施して点数に応じて評価する（35） 実験に対する態度（積極性や協調性を含む）について評価する（15）	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポートを課し、完成度について評価する（10）	1, 2, 3, 4
その他	40	実験ノートの完成度を評価する（30） 実験成果発表会用のスライドの完成度について評価する（10）	1, 2, 3, 4

テキスト	・『はじめようHACCP HACCPの考え方を取り入れた衛生管理のための手引書』 著者・出版　日本食品衛生協会 700円（税別） ISBN 978-4-88925-097-8 ・プリント（実験書、実験ノート）をテキストとして予め配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する ・食品学総論で指定したテキスト ・食品成分表
履修条件・他の科目との関連	栄養士免許必修科目である。 〈履修条件ほか〉 実験を行う上で相応しい身なり（実験用白衣・実験靴・手拭き・頭髪）で受講すること。 実験用白衣、実験靴などを忘れた場合には当日の実験には参加できず、欠席となるので注意すること。 実験上の安全や衛生に関する取り決めを守れない場合、退室してもらう場合がある。 〈他の科目との関連〉

履修条件・他の科目との関連	食品学総論、食品学各論Ⅰ、食品学各論Ⅱ（加工学を含む）と関連する。 〈欠席時の配付資料の受け取りについて〉 配布時に欠席した場合には、教員まで配付資料の有無を確認して受け取りについて申し出ること

授業コード	22016701	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	食品衛生学　［対面］				
シラバス執筆(全員)	海老澤　薫				
シラバス執筆(主)	海老澤　薫				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的･概要

本講義は、食品の安全の確保や衛生管理を実施するために必要な法規や制度、食品のリスクや病原性微生物、有害物質による食品の汚染と防止法、食品衛生の観点からの食品の調理・加工における原理や食品成分の変化について理解し、安全な食品・食事を提供するための基礎を身につけることを目的とする。具体的には、食品衛生行政および食品衛生に関連する法律、食中毒の分類および特徴（細菌、ウイルス、自然毒、化学物質など）、食物アレルギー、有害物質による食品汚染、食品添加物の種類と規格基準、食品の器具・容器・包装、遺伝子組換え食品、衛生管理基準やHACCP、食品の劣化原因およびその防止方法について説明ができ、食品の安全性に関する最新情報や法律改正について自ら情報を求めることができるように説明を行う。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
D-1. 食べ物と健康の関連の理解
1-2）食材の特徴と調理・加工
1-3）食品の安全性
1-4）病原性微生物，有害物質による食品の汚染とその防止
1-5）食品添加物

以下の項目とも関連する
A-5.　栄養・食の質と安全の管理
B-1. 社会および環境と健康の関わり
1-2）環境と健康

到達目標

1.食品衛生行政および食品衛生に関連する法律について説明ができる。
2.食中毒の分類および特徴（細菌、ウイルス、自然毒、化学物質など）について説明ができる。
3.食物アレルギーについて説明ができる。
4.有害物質による食品汚染について説明ができる。
5.食品添加物の種類と規格基準について説明ができる。
6.食品の器具・容器・包装について説明ができる。
7.遺伝子組換え食品について説明ができる。
8.衛生管理基準やHACCPについて説明ができる。
9.食品の劣化原因およびその防止方法について説明ができる。
10.食品の安全性に関する最新情報や法律改正について自ら情報を求めることができる。

授業計画

【第1回】　オリエンテーション、食品衛生の概念
【第2回】　食品衛生に関わる法律および食品衛生行政
【第3回】　食品と微生物
【第4回】　食中毒(1)　食中毒の分類、細菌性食中毒
【第5回】　食中毒(2)　ウイルス性食中毒、化学性食中毒
【第6回】　食中毒(3)　自然毒食中毒、化学物質による食中毒
【第7回】　食品媒介による感染症
【第8回】　有害物質による食品汚染(1)　カビ毒、重金属
【第9回】　有害物質による食品汚染(2)　食物アレルゲン、食品成分変化および調理加工中に生じる有害物質
【第10回】有害物質による食品汚染(3)　農薬、動物用医薬品と飼料添加物、放射性物質
【第11回】食品添加物(1)　食品添加物の概要、規格・基準、指針など
【第12回】食品添加物(2)　食品添加物の種類と用途
【第13回】食品の器具と容器・包装、遺伝子組換え食品
【第14回】食品製造における衛生管理基準（HACCP）、マスターテーブル法
【第15回】食品衛生学のまとめ

※進捗状況に応じて、順番が前後することがある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：講義に先立ち、教科書を読んでおくこと。
事後学習：配布資料や教科書を読み、各自ノートをまとめること。
事前事後ともに食品衛生に関するニュースについて、随時情報を求め授業内容と関連させること。
事前、事後学習を合わせ4時間程度の学習を必要とする。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に行う確認テストについては、採点および解説を行い返却し、自学習へフィードバックさせる。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・正当な理由なく定期試験を欠席した場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	5	授業への取り組み姿勢（5） 問題行動（私語、居眠り、非協力的態度）等は減点対象とする。	1～10
授業外での評価	35	確認テスト（30） 講義内容に応じて確認テストを実施する。達成度に応じて評価する。 課題レポート（5） 講義内容に応じて課題レポートを課す。完成度に応じて評価する。	1～10
定期試験	60	試験を課し、点数および完成度に応じて評価する。（60）	1～10
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『栄養科学イラストレイテッド　食品衛生学　改訂第3版』 田﨑達明／編 羊土社 2,900円（税別） ISBN978-4-7581-1372-4 『はじめようHACCP HACCPの考え方を取り入れた衛生管理のための手引書』※ 著者・出版　日本食品衛生協会 700円（税別） ISBN 978-4-88925-097-8 テキストは授業時に毎回持参すること。 ※のテキストは前期の食品学実験でもテキストとして指定している。 テキストは毎回持参すること。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。 プリントも適宜授業内に配布する。
履修条件・他の科目との関連	卒業必修科目である。 栄養士免許必修科目である。 〈他の科目との関連〉 食品衛生学実験、食品学総論、給食管理、給食管理実習、実践給食管理実習と関連する。 〈欠席時の配付資料の受け取りについて〉 配布時に欠席した場合には、教員まで配付資料の有無を確認して受け取りについて申し出ること

授業コード	22016801	授業形態	実験	実務家教員	ー
授業科目名	食品衛生学実験　［対面］				
シラバス執筆(全員)	海老澤　薫				
シラバス執筆(主)	海老澤　薫				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

本実験は、食品衛生学で学んだ病原性微生物、有害物質による食品の汚染と防止法および安全な食品・食事を提供するための知識を活用し、食品衛生に関する実験技術を修得することを目的とする。具体的には、水質検査、食品残留成分、洗剤の残存度、食物アレルギー物質の判定、食物アレルギー様物質（ヒスタミン）、食品添加物、油脂の変敗、微生物検査に関する実験が実践できるよう説明を行う。さらに、本実験で身につけた知識および技術を大量調理施設衛生管理マニュアルの実践や食品の調理・加工の際に活用し、調理現場における課題の発見へとつなげられるよう実験を展開する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
D-1. 食べ物と健康の関連の理解
1-3) 食品の安全性
1-4) 病原性微生物, 有害物質による食品の汚染とその防止
1-5) 食品添加物

以下の項目とも関連する
A-5.　栄養・食の質と安全の管理
A-7. 科学的態度の形成と科学的探究

到達目標

1.水質検査に関する実験ができる
2.食品残留成分に関する実験ができる
3.洗剤の残存度に関する実験ができる
4.食物アレルギー物質の判定に関する実験ができる
5.食物アレルギー様物質（ヒスタミン）に関する実験ができる
6.食品添加物に関する実験ができる
7.油脂の変敗に関する実験ができる
8.残留農薬に関する実験ができる
9.微生物検査に関する実験ができる

授業計画

【第1回】
テーマ：実験オリエンテーション
内容：実験を行う上での心構え、実験ノート、レポートの書き方、衛生管理について学ぶ
【第2回】
テーマ：水質検査
内容：パックテストを用いて数種の水の水質基準項目を判定する。硬度についてはキレート滴定によって測定する。
【第3回】
テーマ：食器等の洗浄度
内容：タンパク質、デンプン、脂質、洗剤の残存度合いについて判定する。
【第4回】
テーマ：食物アレルギー物質の判定
内容：食品に含まれるアレルギー物質（アレルゲン）の有無を市販の簡易キットを用いて検出する。
【第5回】
テーマ：食物アレルギー様物質の判定
内容：魚肉中に含まれるヒスタミンについて検出を行う。
【第6回】
テーマ：食品添加物の分析(1)　着色料の分析
内容：食品に含まれる合成着色料を毛糸染色法を用いて抽出し薄層クロマトグラフィーによって定性を行う。
【第7回】
テーマ：食品添加物の分析(2)亜硝酸塩、漂白剤、ソルビン酸の分析
内容：亜硝酸塩、漂白剤、ソルビン酸について市販の検査紙も併用しながら定性を行う。
【第8回】
テーマ：油脂の変敗(1)　酸価の測定
内容：変敗の指標である酸価ついて滴定法より測定を行う。
【第9回】
テーマ：油脂の変敗(2)　過酸化物価、油脂劣化度の測定
内容：過酸化物価について滴定法より測定を行う。また、簡易試験紙、キットを用いて油脂劣化度を判定する。
【第10回】
テーマ：残留農薬検査、加熱による食品内部の温度変化
内容：市販のキットを用いて、食品（主に野菜類）中の残留農薬の有無を判定する。食品の加熱による内部温度の変化について測定する。

【第11・12・13回】
テーマ：微生物検査
内容：微生物実験を行う上のでの諸注意、手洗いチェック、スタンプ法による手指の一般細菌検出、拭き取り法による食品表面の一般細菌の検出、市販食品に含まれる細菌の培養およびグラム染色を行う。
【第14回】
テーマ：　実験成果発表会および確認テスト
内容：グループ毎に後期に学んだ実験テーマから1つを選び、プレゼンテーションを行う。また、食品衛生学実験第13回目までの内容について確認テストを行う。
【第15回】
食品衛生学実験のまとめおよび確認テストの解説
内容：食品衛生学実験の内容について復習を行う。また、確認テストについて解説を行う。

※実験の順番は進捗状況に応じて、前後することがある。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

実験は事前の準備（予習）を怠ると、正しい結果が得られないだけではなく事故や怪我にもつながる。
実験ノートに沿って実験当日までに十分な予習を行い、実験の流れをシミュレーションすること。
予習にあたっては、「食品衛生学」の講義内容と関連させること。
食品衛生学実験では、器具や試薬の名称など専門用語も多く使われる。不明な用語はそのままにせず、自分の言葉で説明できるよう調べること。
実験で得られた知識を食品衛生学、調理学実習、給食管理実習等、他の栄養士専門科目とリンクして考えられるようにすること。

課題に対するフィードバックの方法

実験ノートや課題レポートについては提出を求め、添削後評価を付して返却する。
実験成果発表会については、発表スライドについて講評を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・4回を超えて欠席した場合
・正当な理由なく定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合
・正当な理由なく実験ノートが期限までに提出できなかった場合
・正当な理由なく実験成果発表会のスライドデータが提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	実験15回目に到達度テストを実施して点数に応じて評価する（35） 実験に対する態度（積極性や協調性を含む）について評価する（15）	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポートを課し、完成度について評価する（10）	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9
その他	40	実験ノートの完成度を評価する（30） 実験成果発表会用のスライドの完成度について評価する（10）	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9

テキスト	・『はじめようHACCP HACCPの考え方を取り入れた衛生管理のための手引書』 著者・出版　日本食品衛生協会 700円（税別） ISBN 978-4-88925-097-8 ・プリント（実験書、実験ノート）をテキストとして予め配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する その他、食品衛生学で指定したテキストを参考書とすることがある。
履修条件・他の科目との関連	栄養士免許必修科目である。 〈履修条件ほか〉 実験を行う上で相応しい身なり（実験用白衣・実験靴・手拭き・頭髪）で受講すること。 実験用白衣、実験靴などを忘れた場合には当日の実験には参加できず、欠席となるので注意する

履修条件・他の科目との関連	こと。 実験上の安全や衛生に関する取り決めを守れない場合、退室してもらう場合がある。 〈他の科目との関連〉 食品衛生学、食品学総論、調理学実習Ⅰ・Ⅱ、給食管理、給食管理実習、実践給食管理実習と関連する。 〈欠席時の配付資料の受け取りについて〉 配布時に欠席した場合には、教員まで配付資料の有無を確認して受け取りについて申し出ること。

授業コード	22032201	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	食品学各論Ⅰ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	海老澤　薫				
シラバス執筆(主)	海老澤　薫				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的･概要

本講義は、食品成分表における食品の分類法、食材各種の特徴ならびに食品の調理・加工における原理や食品成分の変化を理解すること、特別用途食品・保健機能食品・いわゆる健康食品の制度や表示を学び、それらの違いを理解することを目的とする。具体的には、農産物（穀類、イモ類、種実類、マメ類、野菜類、果実類、キノコ類）、水産物（海藻類）の特徴およびその加工食品・加工原理、特別用途食品および保健機能食品（特定保健用食品）について説明する。食品学総論と併せて学ぶことにより、それぞれの食品について総合的に理解し、調理加工や献立作成の際に活用する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
C-3. 食事・食べ物の基本
3-2）食品の主要な成分と特性
D-1. 食べ物と健康の関連の理解
1-1）食品成分表
1-2）食材の特徴と調理・加工
1-7）特別用途食品・保健機能食品・いわゆる健康食品

到達目標

1.穀類の特徴およびその加工食品・加工原理、食品成分の変化について説明できる
2.イモ類の特徴およびその加工食品・加工原理、食品成分の変化について説明できる
3.種実類の特徴およびその加工食品・加工原理、食品成分の変化について説明できる
4.マメ類の特徴およびその加工食品・加工原理、食品成分の変化について説明できる
5.野菜類の特徴およびその加工食品・加工原理、食品成分の変化について説明できる
6.果実類の特徴およびその加工食品・加工原理、食品成分の変化について説明できる
7.キノコ類の特徴およびその加工食品・加工原理、食品成分の変化について説明できる
8.水産物（海藻類）の特徴およびその加工食品・加工原理、食品成分の変化について説明できる
9.特別用途食品および保健機能食品（特定保健用食品）が説明できる

授業計画

【第1回】動物性食品と植物性食品の特徴を学ぶ。食品学各論Ⅰで学ぶことを知る。米について学ぶ
【第2回】米以外の穀類について学ぶ
【第3回】イモ類の特性とその加工品について学ぶ
【第4回】種実類の特性とその加工品について学ぶ
【第5回】豆類の特性とその加工品について学ぶ　大豆とその加工品について学ぶ
【第6回】豆類の特性とその加工品について学ぶ　大豆以外の豆類（小豆、インゲン豆、そら豆、緑豆など）とその加工品について学ぶ
【第7回】野菜類の特性と加工品について学ぶ　野菜類の種類、栄養成分、特徴を学ぶ　葉菜類について特性とその加工品について学ぶ
【第8回】野菜類の特性と加工品について学ぶ　茎菜類、根菜類、果菜類について特性とその加工品について学ぶ
【第9回】野菜類の特性と加工品について学ぶ　花菜類の特性とその加工品について学ぶ　野菜類の機能性について学ぶ
【第10回】果実類の特性とその加工品について学ぶ
【第11回】キノコ類の特性とその加工品について学ぶ
【第12回】海藻類の特性とその加工品について学ぶ
【第13回】食品の保存と規格について学ぶ　　さまざまな食品の保存法とその理論を学ぶ
【第14回】食品の保存と規格について学ぶ　　食品の規格基準と表示、保健機能食品などについて学ぶ
【第15回】授業の総まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：授業終了時に予習すべき内容を伝えるので、教科書、配布資料を熟読すること
事後学習：授業プリント、教科書を読み返すこと。また、確認テストの振り返りを行うこと。

課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法

課題については、解説および評価を付して返却する。

成績評価の方法･基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・正当な理由なく定期試験を欠席した場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	5	授業への取り組み姿勢(5) 問題行動(私語、居眠り、非協力的態度)等は減点対象とする。	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9
授業外での評価	35	確認テスト(30) 講義内容に応じて確認テストを実施する。達成度に応じて評価する。 課題レポート(5) 講義内容に応じて課題レポートを課す。完成度に応じて評価する。	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9
定期試験	60	試験を課し、点数および完成度に応じて評価する。	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	・『栄養科学イラストレイテッド　食品学Ⅱ　改訂第2版　食べ物と健康　食品の分類と特性、加工を学ぶ』 栢野新市, 水品善之, 小西洋太郎／編 羊土社 2,700円(税別) ISBN 978-4-7581-1366-3 テキストは毎回持参すること。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。 プリントも適宜授業内に配布する。 その他、『食品解説つき　八訂準拠ビジュアル成分表2025』を使用することがある。
履修条件・他の科目との関連	卒業必修科目である。 栄養士免許必修科目である。 〈他の科目との関連〉 食品学総論、食品学実験、食品学各論Ⅱ(加工学を含む)、食品衛生学、調理学、基礎栄養学Ⅰと関連する。 〈欠席時の配付資料の受け取りについて〉 配布時に欠席した場合には、教員まで配付資料の有無を確認して受け取りについて申し出ること

授業コード	22038701	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	食品学各論Ⅱ(加工学を含む)　[対面]				
シラバス執筆(全員)	海老澤　薫				
シラバス執筆(主)	海老澤　薫				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、食材各種の特徴ならびに食品の調理・加工における原理や食品成分の変化を理解すること、保健機能食品・いわゆる健康食品の制度や表示を学び、それらの違いを理解することを目的とする。具体的には、畜産物、卵類、乳類、水産物（魚介類）の特徴やその加工食品・加工原理、調味料、甘味料、香辛料、発酵食品、保健機能食品（機能性表示食品）・いわゆる健康食品などの特徴、加工食品の特徴とその原理、特別用途食品、保健機能食品（機能性表示食品、栄養機能性食品）、いわゆる健康食品について説明する。食品学各論Ⅰ、食品学総論と併せて学修し、それぞれの食品について総合的に理解し、調理加工や献立作成の際に活用する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
C-3. 食事・食べ物の基本
3-2) 食品の主要な成分と特性
D-1. 食べ物と健康の関連の理解
1-1) 食品成分表
1-2) 食材の特徴と調理・加工
1-7) 特別用途食品・保健機能食品・いわゆる健康食品
D-2. 食事と調理の科学の理解
2-2) 食べ物のおいしさの評価と応用

到達目標

1.畜産物の特徴やその加工食品・加工原理を説明できる
2.卵類の特徴やその加工食品・加工原理を説明できる
3.乳類の特徴やその加工食品・加工原理を説明できる
4.水産物（魚介類）の特徴やその加工食品・加工原理を説明できる
5.調味料の特徴について説明できる
6.甘味料の特徴について説明できる
7.香辛料の特徴について説明できる
8.発酵食品の特徴について説明できる
9.特別用途食品、保健機能食品（機能性表示食品、栄養機能性食品）、いわゆる健康食品などの特徴について説明できる
10.加工食品の特徴とその原理を説明できる

授業計画

【第1回】肉類の特性と加工について学ぶ-食肉の構造と成分、牛肉の特性と加工について-
【第2回】豚肉類・鶏肉類の特性と加工について学ぶ
【第3回】魚介類の特性と加工について学ぶ①-魚介類の種類と構造、成分について学ぶ-
【第4回】魚介類の特性と加工について学ぶ②-魚類の死後硬直、鮮度判定について学ぶ-
【第5回】魚介類の特性と加工について学ぶ③-主な魚介類の特性と加工について学ぶ-
【第6回】卵類の特性と加工について学ぶ-卵類の構造、成分、貯蔵による成分変化、加工について学ぶ-
【第7回】乳類の特性と加工について学ぶ①-牛乳の成分と種類、特性について学ぶ-
【第8回】乳類の特性と加工について学ぶ②-牛乳の加工,、種類、製造工程について学ぶ-
【第9回】調味料類、油脂の種類と特性について学ぶ-食用油脂の種類と特性、調味料の種類について学ぶ-
【第10回】調味料類、甘味料の種類と特性について学ぶ-甘味料の種類と特性を学ぶ-
【第11回】調味料類、塩、味噌、香辛料について学ぶ-塩、味噌、香辛料の製造工程、特性などを学ぶ-
【第12回】発酵食品の種類とその特性について学ぶ-発酵食品(味噌、アルコール飲料、漬物など)の製造工程、微生物について学ぶ-
【第13回】健康食品について学ぶ-保健機能食品の種類と特性について学ぶ-
【第14回】機能性食品について学ぶ-期の異性食品についてその種類と特性について学ぶ-
【第15回】授業の総まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：講義に先立ち、教科書を読んでおくこと。
事後学習：配布資料や教科書を読み、各自ノートをまとめること。
事前事後ともに食品関連に関するニュースについて、随時情報を求め授業内容と関連させること。
事前、事後学習を合わせ4時間程度の学習を必要とする。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に行う確認テストおよび課題レポートについては、採点および解説を行い返却する。

成績評価の方法・基準（方針）
●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。 ●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。 ---------- 成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。 【「K」評価となる場合】 ・5回を超えて欠席した場合 ・正当な理由なく定期試験を欠席した場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	5	授業への取り組み姿勢（5） 問題行動（私語、居眠り、非協力的態度）等は減点対象とする。	1～10
授業外での評価	35	確認テスト（30） 講義内容に応じて確認テストを実施する。達成度に応じて評価する。 課題レポート（5） 講義内容に応じて課題レポートを課す。完成度応じて評価する。	1～10
定期試験	60	試験を課し得点および完成度を評価する（60）	1～10
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『食品学Ⅱ　改訂第2版』※ 栢野新市，水品善之，小西洋太郎／編 羊土社 2,700円（税別） ISBN 978-4-7581-1366-3 ※1年次の食品学各論Ⅰにて購入した学生は新規に購入する必要はない。 『食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表2023』 新しい食生活を考える会編著 大修館書店 1,600円（税別） ISBN 9784469270167 ※1年次に購入した学生は新規に購入する必要はない。 テキストは毎回持参すること。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。 プリントも適宜授業内に配布する。
履修条件・他の科目との関連	栄養士免許必修科目である。 〈他の科目との関連〉 食品学総論、食品学実験、食品学各論Ⅰ、食品衛生学、調理学、基礎栄養学Ⅰと関連する。 〈欠席時の配付資料の受け取りについて〉 配布時に欠席した場合には、教員まで配付資料の有無を確認して受け取りについて申し出ること

授業コード	22043801	授業形態	実習	実務家教員	ー
授業科目名	食品学実習（加工学を含む）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	尾関　清子				
シラバス執筆(主)	尾関　清子				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本実習は、調理学、食品学総論、食品学各論Ⅰ、食品学各論Ⅱ（加工学を含む）で学んだ食材各種の特徴ならびに食品の調理・加工における原理や食品成分の変化の知識を活用し、食品を適切に調理・加工ができる技術を身につけることを目的とする。具体的には、米の種類と食味の違いについて説明できる、小麦粉の種類に適した加工ができる、みその製造ができる、肉の軟化法について説明できる、卵液の凝固法について説明できる、凝固剤および膨化剤の種類と違いについて説明できる、牛乳を用いた乳製品の加工ができる、ジャムの加工ができることである。
【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
A-7. 科学的態度の形成と科学的探究
D-1. 食べ物と健康の関連の理解
1-2) 食材の特徴と調理・加工

到達目標

1.米の種類と食味の違いについて説明できる
2.小麦粉の種類に適した加工ができる
3.みその製造ができる
4.肉の軟化法について説明できる
5.卵液の凝固法について説明できる
6.凝固剤および膨化剤の種類と違いについて説明できる
7.牛乳を用いた乳製品の加工ができる
8.ジャムの加工ができる
9.チームで協働して、加工品の製造ができる

授業計画

第1回　オリエンテーション　実習の進め方、レポートの書き方、心構え
　　加工食品の種類について学ぶ
第2回　味噌　塩麹の加工を学ぶ
第3回　小麦粉の種類とうどんの製造を学ぶ
第4回　リンゴジャム、フルーツ大福の製造を学ぶ
第5回　米粉と小麦粉でケーキを焼く
第6回　肉の軟化実験(塩麹は第2回の実習で製造したもの)と凝固剤の特徴を知る
第7回　卵の加熱と卵液の特徴を学ぶ
第8回　乳製品(アイスクリーム、バター)の製造を学ぶ
第9回　豆の加工と米粉の加工
第10回　ロールパンの製造（9回で製造した餡を使用）
第11回　ホットケーキの色の変化とイモの種類の実験
第12回　食品の乾燥について学ぶ
第13回　ピザを焼く(トマトピューレは4回で製造したもの)
第14回　米の種類を比較するとともに炊飯について学ぶ
第15回　第2回目に製造した味噌と乾燥野菜を使用してみそ汁を作る。五平餅(味噌は2回に製造)を作る

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前学習：授業終了時に予習すべき内容を伝えるので、教科書等で学習しておくこと
事後学習：実習後は、実習あるいは実験結果をレポートにまとめて提出する。
また、各回レポートと課題を課すので、課題提出もすること

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは、実習時間内の待ち時間等に行う。
プリントによって行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

授業内での評価：実習への取り組み姿勢を評価(実習内容の理解、班員との協力姿勢など)　1～9すべて
レポート課題：レポートの内容で評価　1～8すべて
　　課題の提出と内容を評価　1～8すべて

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・正当な理由なく定期試験を欠席した場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	実習への取り組み姿勢を評価　実習態度(30) 実習内容の理解(10) 班員との協力姿勢(10)	1～9
授業外での評価	30	レポートの内容で評価 （15） 課題の提出と内容を評価 （15）	1～9
定期試験	20	実習で学んだ内容、課題内容から定期試験を行う（20）	1～8
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	なし 各回プリントを用意します 欠席した学生については、次週に配布しますので、申し出てください。
参考書	必要に応じ紹介する
履修条件・他の科目との関連	栄養士免許必修科目である。 実習には、白衣、実習帽が必要です。忘れた場合は、実習できません。 栄養士にとって食品についての知識は重要である。 どんな食品からできているか、またどのようにできているか、なぜその食品を使うのか、食品の知識をすべて取り出して総合的に判断できる力を身につけてほしい 欠席した学生については、前回のテキストは次回に配布しますので、申し出てください。

授業コード	22032401	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	基礎栄養学Ⅰ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	坂井　孝				
シラバス執筆(主)	坂井　孝				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的･概要

本講義は、栄養素の種類と働きおよび栄養素（特に糖質・脂質・たんぱく質）の消化・吸収・ 代謝（異化・同化）について、栄養素別に理解することを目的とする。具体的には、栄養の意義、摂食調節のしくみ、栄養素の消化・吸収メカニズムとその体内動態、栄養素（炭水化物、脂質、たんぱく質）の栄養学的役割と相互連関について説明する。また、人体における栄養素の消化・吸収にかかわる器官（消化器系、特に小腸）の構造と機能を学び、消化・吸収機能の維持の重要性について説明し、健康の保持･増進、生活習慣病の発症予防・重症化予防における栄養素の基礎的役割を理解できるように概説する。

【栄養学教育モデル・コアカリキュラムとの関連性】
C-1　人体の構造と機能
1-1）生体成分、細胞、組織、臓器・器官の構造と機能
C-2　栄養と栄養素等のはたらき
2-1）栄養の意義
2-2）摂食行動の仕組み
2-3）栄養素等の消化・吸収のメカニズム
2-4）炭水化物の栄養学役割
2-5）脂質の栄養学的役割
2-6）たんぱく質の栄養学的役割

以下の項目とも関連する
A-2　栄養学の知識と課題対応能力

到達目標

１．栄養と栄養素について説明できる
２．栄養と健康の関わりについて説明できる
３．摂食行動の調節機構について説明できる
４．炭水化物の栄養学的役割について説明できる
５．脂質の栄養学的役割について説明できる
６．たんぱく質・アミノ酸の栄養学的役割について説明できる

授業計画

【第1回】
テーマ：栄養の概念
内容・方法：栄養とは何か　栄養と栄養素について学ぶ（講義）
【第2回】
テーマ：食物の摂取
内容・方法：「食べる」を考える（グループワーク）
【第3回】
テーマ：食べた栄養素はどのように消化・吸収されるのか①
内容・方法：消化酵素の働き、消化器官との関係について学ぶ（講義）
【第4回】
テーマ：食べた栄養素はどのように消化・吸収されるのか②
内容・方法：栄養素の吸収機構について学ぶ（講義）
【第5回】
テーマ：食べた栄養素はどのように消化・吸収されるのか③
内容・方法：消化・吸収されない栄養素は体にとって必要なのかを考える（講義）
【第6回】
テーマ：糖質の栄養①
内容・方法：糖質の種類と栄養学的役割について学ぶ（講義）
【第7回】
テーマ：糖質の栄養②
内容・方法：血糖値とは何か　食事と血糖値の関係について学ぶ（講義）
【第8回】
テーマ：糖質の栄養③
内容・方法：糖質の栄養のまとめ（演習レポート）
【第9回】
テーマ：脂質の栄養①
内容・方法：脂質の種類と栄養学的役割について学ぶ（講義）
【第10回】
テーマ：脂質の栄養②
内容・方法：脂質の体内動態（吸収後のゆくえ）について学ぶ（講義）
【第11回】

テーマ：脂質の栄養③
内容・方法：脂質の栄養のまとめ（演習レポート）
【第12回】
テーマ：たんぱく質・アミノ酸の栄養①
内容・方法：たんぱく質・アミノ酸の種類と栄養学的役割について学ぶ（講義）
【第13回】
テーマ：たんぱく質・アミノ酸の栄養②
内容・方法：たんぱく質・アミノ酸の体内動態（合成と分解）について学ぶ（講義）
【第14回】
テーマ：たんぱく質・アミノ酸の栄養③
内容・方法：たんぱく質・アミノ酸の栄養のまとめ（演習レポート）
【第15回】
テーマ：基礎栄養学Ｉの総まとめ
内容・方法：栄養素の役割について、食事による体内変化について考える（演習）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後あわせて90時間（授業時間30時間、事前事後学習時間60時間）必要です。
事前学習：授業をまとめた動画を視聴する（1.0時間）
事後学習：各回の内容について動画を活用し復習し（1.5時間）、確認テストの勉強をする（1.5時間）。

課題に対するフィードバックの方法

各回の確認テスト：テスト終了後に解答解説を行い、間違えた部分の確認を行う。
演習レポート：コメントを付記し、返却する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・正当な理由なく定期試験を欠席した場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	確認テストの点数30（各回10点満点の確認テストを実施、総得点を30点満点としたときの点数に換算する）	1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	15	演習レポート15（3回×5点）	1, 2, 3, 4, 5, 6
定期試験	40	定期試験期間中の試験の得点（40）	1, 2, 3, 4, 5, 6
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	15	学習ノートの活用（15）	1, 2, 3, 4, 5, 6

テキスト	栄養科学イラストレイテッド　基礎栄養学第5版　編／田地陽一　羊土社　2,800＋税 ISBN978-4-7581-1377-9
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	食品学総論と関連した内容が多いので、両科目を横断的に学習すること。 1回目の授業時に学習ノート（オリジナルで教科書に準じたもの）を配布します。事前・事後学習に活用すること（提出あり）。 【講義を欠席する（した）場合】プリント類はクラスルームに保存しておくので、自分でダウンロードすること。 「卒業必修科目」 「栄養士免許必修科目」

授業コード	22032501	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	基礎栄養学Ⅱ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	本田　杏奈				
シラバス執筆(主)	本田　杏奈				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的･概要

本講義は、栄養素の種類と働き、水分代謝、エネルギー代謝および食事摂取基準について理解することを目的とする。具体的には、ビタミンの栄養学的役割と他の栄養素との関係、ミネラル（無機質）の栄養学的役割と他の栄養素との関係、水・電解質の代謝と栄養学的役割、エネルギー代謝（エネルギー代謝の概念、基礎代謝、安静時代謝、活動時代謝、食事誘発性熱産生、エネルギー代謝の測定法、エネルギー出納）について説明する。さらに、「日本人の食事摂取基準」の策定の基本を学び、エネルギーや各栄養素の摂取基準の科学的根拠と、使用されている指標の意味および適切な活用について、これまでに学んだことを基礎として演習を組み入れ、健康の保持･増進、生活習慣病の発症予防・重症化予防における栄養管理・栄養指導に関わる基礎的知識を身につけられるように展開する。

【栄養学教育モデル・コアカリキュラムとの関連性】
C-2　栄養と栄養素等のはたらき
2-7）ビタミンの栄養学的役割
2-8）ミネラル（無機質）の栄養学的役割
2-9）水・電解質の栄養学的役割
2-10）エネルギー代謝
C-4　食事の管理を中心とした栄養管理の基本
4-2）日本人の食事摂取基準の理解
A 栄養士として求められる基本的な資質・能力
A-2　栄養学の知識と課題対応能力
A-7　科学的態度の形成と科学的探究

到達目標

１．ビタミンの栄養学的役割と他の栄養素との関係について説明できる。
２．ミネラル（無機質）の栄養学的役割と他の栄養素との関係について説明できる。
３．水・電解質の代謝と栄養学的役割について説明できる。
４．エネルギー代謝（エネルギー代謝の概念、基礎代謝、安静時代謝、活動時代謝、食事誘発性熱産生、エネルギー代謝の測定法、エネルギー出納）について説明できる。
５．日本人の食事摂取基準（考え方と活用法、指標、摂取基準策定）について説明できる。

授業計画

【第1回】ビタミンの栄養①
脂溶性ビタミンについて学ぶ（講義）
【第2回】ビタミンの栄養②
水溶性ビタミンについて学ぶ（講義）
【第3回】ミネラルの栄養①
多量ミネラルの生体内での働きについて学ぶ（講義）
【第4回】テーマ：ミネラルの栄養②
微量ミネラルの生体内での働きについて学ぶ（講義）
【第5回】水について①
水の生体内での働きについて学ぶ（講義）
【第6回】水について②・電解質代謝と栄養
浮腫・脱水と電解質代謝について学ぶ（講義）
【第7回】エネルギー代謝①
エネルギーの概念　エネルギー代謝について学ぶ（講義）
【第8回】エネルギー代謝②
エネルギー消費量について学ぶ（講義）
【第9回】エネルギー代謝③
エネルギー代謝量測定法について学ぶ（講義）
【第10回】エネルギー消費量を計算する
エネルギー消費量を各自で算出する（演習）
【第11回】食事摂取基準と健康①
日本人の食事摂取基準の概要について学ぶ（講義）
【第12回】食事摂取基準と健康②
日本人の食事摂取基準の指標について学ぶ（講義・演習）
【第13回】食事摂取基準と健康③
日本人の食事摂取基準を使用するための対象を理解する（講義・演習）
【第14回】栄養素摂取と健康④
各自の栄養素摂取状況を評価する
【第15回】基礎栄養学Ⅱのまとめ
基礎栄養学Ⅱに関するまとめ

※授業計画が前後する場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：教科書を事前に読んでおく。（各回１時間）
事後学習：各回の内容について復習を行い、確認テストに備えておく。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に返却し解説等を実施予定

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示すとおり、評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、「K」評価となる（欠席5回、遅刻1回で「K」評価）。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	25	確認テスト(25)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	25	授業中の課題(25)	1, 2, 3, 4, 5
定期試験	50	筆記試験(50)	1, 2, 3, 4, 5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	栄養科学イラストレイテッド　基礎栄養学第4版/編著　田地陽一/羊土社/2,800＋税/ISBN978-4-7581-1360-1
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	この科目は、卒業必修科目、栄養士免許必修科目である。 「基礎栄養学Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。やむを得ず欠席した場合は、次の回までに授業内容を確認し、自宅学習すること。 欠席時の配付プリントは、次回授業時に申し出てください。 5回を超えて欠席した場合は、K評価となる。 ＜他科目との関連＞ 「生化学」と関連した内容が多いので、両科目を横断的に学習すること。

授業コード	22032601	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	応用栄養学　［対面］				
シラバス執筆(全員)	藤井　久美子				
シラバス執筆(主)	藤井　久美子				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的･概要

本講義は、ライフステージ（妊娠期、授乳期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人期、更年期、高齢期）別に、身体的・生理的特徴を理解し、それぞれの対象者にあった食事の管理を中心とした栄養管理について説明できることを目的とする。具体的には、ライフステージ別の生理的・身体的特徴、身体発育曲線および体格指数を用いた栄養評価、「日本人の食事摂取基準」を用いた食事の管理を中心とした一般的な栄養管理、ライフステージ別に特徴的な疾病とその予防のための栄養管理について説明する。
管理栄養士として栄養教育・栄養相談を行ってきた経験をもとに、実務家教員として、具体的な事例を交えて授業を展開する。
【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
E-1　ライフステージ別の食事の管理を中心とした栄養管理
1-1）妊娠期，授乳期の食事の管理を中心とした栄養管理
1-2）新生児期，乳児期の食事の管理を中心とした栄養管理
1-3）幼児期，学童期，思春期の食事の管理を中心とした栄養管理
1-4）成人期，更年期の食事の管理を中心とした栄養管理
1-5）高齢期の食事の管理を中心とした栄養管理

到達目標

1.ライフステージ別の生理的・身体的特徴について説明できる。
2.身体発育曲線および体格指数を用いた栄養評価について説明できる。
3.「日本人の食事摂取基準」を用いた食事の管理を中心とした一般的な栄養管理について説明できる。
4.ライフステージ別に特徴的な疾病を理解し、その予防のための栄養管理について説明できる。

授業計画

【第1回】　オリエンテーション,食事摂取基準の基礎的理解
【第2回】成長,発達,加齢
【第3回】妊娠期,授乳期の栄養管理①　妊娠期,授乳期の生理的特徴
【第4回】妊娠期,授乳期の栄養管理②　妊娠期,授乳期の栄養ケア・マネジメント
【第5回】　新生児期,乳児期の栄養管理①　新生児期,乳児期の生理的特徴
【第6回】新生児期,乳児期の栄養管理②　新生児期,乳児期の栄養ケア・マネジメント
【第7回】幼児期の栄養管理
【第8回】学童期,思春期の栄養管理
【第9回】成人期の栄養管理①　成人期の生理的特徴
【第10回】成人期の栄養管理②　成人期の栄養ケア・マネジメント
【第11回】高齢期の栄養管理①　高齢期の生理的特徴
【第12回】高齢期の栄養管理②　高齢期の栄養ケア・マネジメント
【第13回】運動・スポーツと栄養管理
【第14回】環境と栄養管理
【第15回】栄養ケア・マネジメント
※授業計画が前後する場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：授業終了時に予習すべき内容を伝えるので、教科書を読んでおくこと。（1時間）
事後学習：各回の内容について復習を行い、確認テストに向けて準備をする。（2時間）
各ライフステージの食事や栄養・健康問題に関する情報を、新聞やweb等で収集し、課題レポートに取り組む。（1時間）
※必要に応じてClassroomも活用予定

課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法

各回の授業で実施する確認テストまたは課題レポートについては、翌週以降にフィードバックを行う。
授業内で適宜コメントやアドバイスを行う。

成績評価の方法･基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
提出物の期限が超えた場合は減点する。

【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・正当な理由なく定期試験を欠席した場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	各章ごとの課題や確認テスト（20）	1,2,3,4
授業外での評価	20	課題レポート（20）	1,4
定期試験	60	筆記試験（60）	1,2,3,4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	栄養科学イラストレイテッド応用栄養学 第3版 /編著 栢下 淳・上西一弘 /羊土社 3,000＋税 /ISBN 978-4-7581-1379-3
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	卒業必修科目である。 栄養士免許必修科目である。 本講義を学習するための基礎となる科目は「基礎栄養学」「調理学」「食品学」である。基礎科目の内容が関わってくるので、特に前期の「基礎栄養学Ⅰ」「調理学」「食品学総論」、同時進行の「基礎栄養学Ⅱ」「食品学各論Ⅰ」についても復習しておくこと。 授業を欠席した場合は、授業内容を確認し、教科書を読んで自宅学習をすること。 欠席時の配付プリントは次回の授業時に申し出ること。（必要に応じてClassroomも活用予定）

授業コード	22032701	授業形態	実習	実務家教員	○
授業科目名	応用栄養学実習　［対面］				
シラバス執筆(全員)	藤井　久美子				
シラバス執筆(主)	藤井　久美子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本実習は、応用栄養学で学んだ知識を基に、ライフステージ別の食事の管理を中心とした栄養管理を実践するための知識と技術を修得することを目的とする。具体的には、妊娠期、授乳期、幼児期、学童期、思春期の食事の管理を中心とした栄養管理、授乳・離乳の支援ガイドとそれに沿った離乳食の調理、成人期の食事計画および調理、高齢期の食事の管理を中心とした栄養管理、摂食嚥下機能、消化機能に応じた食事計画および調理ができるよう、実習を行う。
管理栄養士として栄養教育・栄養相談を行ってきた経験をもとに、実務家教員として、具体的な事例を交えて授業を展開する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
E-1　ライフステージ別の食事の管理を中心とした栄養管理
1-1）妊娠期，授乳期の食事の管理を中心とした栄養管理
1-2）新生児期，乳児期の食事の管理を中心とした栄養管理
1-3）幼児期，学童期，思春期の食事の管理を中心とした栄養管理
1-4）成人期，更年期の食事の管理を中心とした栄養管理
1-5）高齢期の食事の管理を中心とした栄養管理

到達目標

1.妊娠期、授乳期の食事の管理を中心とした栄養管理について説明できる。
2.授乳・離乳の支援ガイドについて説明できる。
3.授乳・離乳の支援ガイドに沿った離乳食の調理ができる。
4.幼児期、学童期、思春期の食事の管理を中心とした栄養管理について説明できる。
5.成人期の食事計画および調理ができる。
6.高齢期の食事の管理を中心とした栄養管理について説明できる。
7.摂食嚥下機能、消化機能に応じた食事計画、および調理ができる。

授業計画

【第 1回】オリエンテーション・咀嚼嚥下体験
【第 2回】乳児期の栄養① 乳汁栄養（調乳）
【第 3回】乳児期の栄養② 離乳食（初期・中期）
【第 4回】乳児期の栄養③ 離乳食（後期・手づかみ食べ）
【第 5回】幼児期の栄養① 幼児食
【第 6回】幼児期の栄養② おやつ・食物アレルギー
【第 7回】学童期の栄養 学校給食
【第 8回】思春期の栄養
【第9回】成人期の栄養
【第 10回】妊娠期・授乳期の栄養
【第11回】高齢期の栄養① 低栄養・骨粗鬆症の予防
【第12回】高齢期の栄養② 嚥下困難の食事
【第13回】災害時の食事
【第14回】まとめ・グループディスカッション
【第15回】グループ発表・まとめ・振り返り
※進行によっては、授業計画を変更する場合がある。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

実習前に教科書を読んで予習を行う。
復習は、教科書の内容と実際の調理を結び付けること、実習で行った献立を家庭で練習することも含む。

課題に対するフィードバックの方法

各実習後のレポートは点検・確認後に返却する。再提出となった場合は、再確認を受ける。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
3回を超えて欠席した場合には、その旨の連絡をすること。別途課題を課す。

【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合（欠席5回、遅刻1回）
・正当な理由なく「定期試験にかわるレポート」が期限までに提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	班で協力し、調理及びグループ発表に取り組む姿勢を評価する(30) 小テスト(筆記)(5)	1.2.3.4.5.6.7
授業外での評価	50	各実習後のレポートの内容を評価する	1.2.3.4.5.6.7
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	学習内容に関する振り返りレポートの内容を評価する	1.2.3.4.5.6.7
その他	0		

テキスト	栄養科学イラストレイテッド応用栄養学 改訂第2版 /編著 栢下 淳・上西一弘 /羊土社 2,800＋税 / ISBN978-4-7581-1364-9(1年後期「応用栄養学」のテキスト) 食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表/新しい食生活を考える会編著/大修館書店/1,540/ 9784469270129 (「調理学」「給食計画論」等のテキスト)
参考書	調理のためのベーシックデータ 第5版/女子栄養大学出版部(「給食計画論」等のテキスト) 毎日の食事のカロリーガイド 第3版/監修 香川明夫/女子栄養大学出版(「栄養指導論実習Ⅰ」のテキスト) 日本食品成分表2025　八訂/医歯薬出版(栄養価計算に使用)
履修条件・他の科目との関連	栄養士免許必修科目である。 本実習を学習するための基礎になる科目は「調理学」「調理学実習Ⅰ、Ⅱ」「基礎栄養学Ⅰ、Ⅱ」である。 「応用栄養学」を履修済みであることが望ましい。 調理の基本的技術や衛生管理が身についていることを前提で進める。 やむを得ず欠席した場合は、実習助手の先生へプリントをもらいに行き、次の回までに授業内容を確認し、自宅学習してください。また課題がある場合は行う。 わからないことがあれば担当教員に確認すること。

授業コード	22048201	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	実践栄養学　［対面］				
シラバス執筆(全員)	小橋　真弓				
シラバス執筆(主)	小橋　真弓				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的･概要

本講義は、本学の就職先の実情を踏まえ、応用栄養学・臨床栄養学のうち子ども分野（乳児期、幼児期、学童期）と高齢者分野について身体的・生理的特徴をより深く理解できるよう、それぞれの対象者にあった食事の管理を中心とした栄養管理について説明する。子ども分野では乳幼児・学童期の咀嚼・嚥下機能の発達や現在の子どもの食生活における問題点への対応について、さらに保育園や幼稚園で行う食育についても概説する。高齢者分野では加齢による身体的（フレイルやサルコペニアを含む）・心理的変化とその対応や高齢期に特徴的な生活習慣病への対応について説明する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
1-2）新生児期，乳児期の食事の管理を中心とした栄養管理
1-3）幼児期，学童期，思春期の食事の管理を中心とした栄養管理
1-5）高齢期の食事の管理を中心とした栄養管理
F-3病態に応じた食事の管理を中心とした栄養管理
3-7）運動器系（筋・骨格）の疾患

到達目標

1.子ども分野では乳幼児・学童期の咀嚼・嚥下機能の発達について説明できる。
2.現在の子どもの食生活における問題点への対応について説明できる。
3.保育園や幼稚園で行う食育について説明できる。
4.高齢者分野では加齢による身体的（フレイルやサルコペニアを含む心理的変化とその対応について説明できる。
5.高齢期に特徴的な生活習慣病への対応について説明できる。

授業計画

【第1回】　オリエンテーション、乳幼児期の発達
【第2回】　乳幼児期の栄養（乳汁・離乳食・幼児食）
【第3回】　乳幼児の食生活の現状
【第4回】　特別な配慮を要する食事
【第5回】　食育（食育基本法と保育所や学校における食育の推進）
【第6回】　給食と栄養士の業務
【第7回】　高齢者の現状（加齢による身体的・精神的変化）
【第8回】　高齢者への対応①　味覚低下と栄養サポート
【第9回】　高齢者への対応②　咀嚼・嚥下機能低下と栄養サポート
【第10回】　高齢者への対応③　脱水予防のための水分管理
【第11回】　高齢者への対応④　排泄と栄養サポート
【第12回】　高齢者への対応⑤　認知症患者の食行動と栄養サポート
【第13回】　高齢者への対応⑥　高齢期の生活習慣病
【第14回】　高齢者への対応⑦　高齢者の栄養管理
【第15回】　授業のまとめ
※授業計画は進行状況によって変更することがある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業が始まるまでに「応用栄養学」「臨床栄養学」を復習しておく。（5時間以上）
【事前学習】教科書や配布プリントがある場合にはプリント読んでおく（各回1時間以上）、
【事後学習】プリントや教科書を用いて復習をして、確認テストに備えておく（各回１時間以上）。

課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法

各回の振り返りレポート・確認テストについては授業内で解説するので復習しておくこと。

成績評価の方法･基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・正当な理由なく、「定期試験にかわるレポート」が決められた期限までに提出できなかった場合も「K」評価と

する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	各回の振り返りレポート（30） 「食育課題」レポート（15） 「高齢者に関する課題」レポート（15） 確認テスト（30）	1.2.3.4.5.
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	授業まとめレポート（10）	1.2.3.4.5.
その他	0		

テキスト	カラー図解 高齢者の栄養管理ガイドブック/下田妙子/文光堂/2,860円/978-4-8306-6037-5 必要に応じて資料を配付する。
参考書	必要に応じ、紹介する。
履修条件・他の科目との関連	栄養学科の必履修科目である。 ＜履修条件＞ 栄養士校外実習を履修する者は、本科目を履修し受講することが条件である。 但し、1年次科目を再履修しなければいけない者についてはこの限りではない。 また「応用栄養学」「臨床栄養学」を深めた科目であるため、事前に履修済みであることが望ましい。 更に基礎科目の内容を理解できていることが前提となるため、特に「応用栄養学」「臨床栄養学」については常に復習を続けること。

授業コード	22045701	授業形態	実習	実務家教員	ー
授業科目名	実践栄養学実習　［対面］				
シラバス執筆(全員)	小橋　真弓				
シラバス執筆(主)	小橋　真弓				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

本実習は、応用栄養学や臨床栄養学、実践栄養学で学んだ知識を基に、子どもと高齢者における食事の管理を中心とした栄養管理を実践するための知識と技術を修得することを目的とする。なお、対象者にあった適切な食事を提供するためには、献立を作成する能力を向上させることが重要となる。したがって、この授業では、献立作成に関わる演習を実施した上で、子ども分野では食物アレルギー対応食や子どものおやつを提案できるように実習を行う。高齢者分野では咀嚼、嚥下障害、低栄養に対応した食事について理解し提案できるように実習を行う。さらに、一般食から特別食への展開方法について理解できるように実習を通じて説明する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
D-2　食事と調理の科学の理解
2-3）主食・主菜・副菜を組み合わせた日常食を計画し、調理・食事を提供する力を身につける。
E-1　ライフステージ別の食事の管理を中心とした栄養管理
1-3）幼児期，学童期，思春期の食事の管理を中心とした栄養管理
1-4）成人期，更年期の食事の管理を中心とした栄養管理
1-5）高齢期の食事の管理を中心とした栄養管理
F-3病態に応じた食事の管理を中心とした栄養管理
3-4）循環器系疾患
3-8）食物アレルギー

到達目標

1.主食・主菜・副菜の料理構成から献立を組み立てることができる。
2. 食事摂取基準を活用して対象者に応じた食事計画ができる。
3. 食事計画に基づいた適切な献立作成ができる。
4. 食物アレルギー対応の調理・食事提供ができる。
5. 子どものおやつの調理・提供ができる。
6. 咀しゃく、嚥下障害に対応した調理・食事提供ができる。
7. 生活習慣病、低栄養に対応した調理・食事提供ができる。
8.一般食から特別食への展開方法が実践できる。

授業計画

【第1回】　演習　オリエンテーション、対象者に合わせた栄養・食事計画について
【第2回】　演習　献立作成の実際について（主食・主菜・副菜・汁物・デザート）
【第3回】　演習　病院・高齢者施設①：常食から形態別の治療食への献立の展開
【第4回】　演習　病院・高齢者施設②：常食から病態別の治療食への献立の展開
【第5回】　実習　病院・高齢者施設③：常食から軟菜食への展開
【第6回】　実習　病院・高齢者施設④：常食から特別食への展開
【第7回】　実習　子どもの食事①：アレルギー食（卵・小麦・乳アレルギー対応）
【第8回】　実習　子どもの食事②：（その他のアレルギーの対応）
【第９回】　実習　子どもの食事③：間食・おやつ
【第10回】　実習　生活習慣病予防のための食事①：減塩の工夫
【第11回】　実習　生活習慣病予防のための食事②：カルシウムを効果的に摂る工夫
【第12回】　実習　生活習慣病予防のための食事③：３・１・２弁当箱法で1食の適量・栄養バランスを学ぶ
【第13回】　実習　高齢者の食事①：低栄養予防のための食事の工夫
【第14回】　実習　高齢者の食事③：咀嚼・嚥下困難に対応した食事（ゼリー食・ペースト食・ムース食）の工夫
【第15回】　実習　災害時の食事、まとめ

※授業の進行状況や材料の納入状況により、授業内容やスケジュールを変更することがある。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前に配布した実習プリントを読み、わからないところは調べておく。
事後は振り返り課題を行い、実習内容における食品や調理上のポイント、感想をまとめる等の各自の実習プリントを作成すること。
なお、各回の「課題」は、指定された期限までに提出すること。

課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法

「課題」は点検・確認後、コメントを記入して返却する。再提出となった場合は、再度取り組み、再確認を受けること。

成績評価の方法・基準（方針）
●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。 ●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。 ---------- 成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。 【「K」評価となる場合】 ・5回を超えて欠席した場合 ・正当な理由なく、「定期試験にかわるレポート」が決められた期限までに提出できなかった場合も「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業内での貢献度、積極的な受講姿勢を評価する（45）　3点×15回 課題の達成状況を評価する（45）　3点×15回	1.2.3.4.5.6.7.8.
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	「授業まとめレポート」の内容について評価する（10）	1.2.3.4.5.6.7.8.
その他	0		

テキスト	担当教員の指示に従うこと。 ただし、食品成分表（1年次使用のもの）は常に持参すること。 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	必要に応じ、紹介する。
履修条件・他の科目との関連	栄養学科の必履修科目である。 ＜履修条件＞ 栄養士校外実習を履修する者は、本科目を履修し、受講することが条件である。 但し、1年次科目を再履修しなければいけない者についてはこの限りではない。 ＜他の科目との関連＞ 「応用栄養学」、「臨床栄養学」を深めた科目であり、「臨床栄養学実習」、「応用栄養学実習」を履修済みであることが望ましい。 「調理学実習Ⅰ」、「調理学実習Ⅱ」で習得した調理技術及び「臨床栄養学」、「応用栄養学」などで学習したライフステージ別の特性や疾病等の知識が必要となる。必ず復習しておくこと。 ＜欠席した場合の対応について＞ やむを得ず欠席する場合は、事前に担当教員まで連絡をし、実習内容、課題、プリント類についての指示に従うこと。 また、欠席時の授業内容を確認し、課題（自宅学習）をし、期日を守って提出のこと。（わからないことがあれば担当教員に確認する）。

授業コード	22048301	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	臨床栄養学　［対面］				
シラバス執筆(全員)	石川　英子				
シラバス執筆(主)	石川　英子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的･概要

本講義は、疾病の成り立ち、傷病者、要介護者および障がい者の栄養管理、病態に応じた栄養管理について身に付けることを目的とする。傷病者の栄養状態や検査値を理解し、栄養評価、栄養補給、治療食の提供や栄養指導を行うための知識を講義形態で概説する。具体的には、循環障害を説明する、炎症と創傷について説明する、浮腫、脱水、嘔吐、下痢を説明する、臨床検査、 血液生化学検査の種類と意義を説明する、医療や介護領域における栄養士の役割について説明する、飢餓、たんぱく質・エネルギー栄養障害の病態と栄養管理を説明する、メタボリックシンドロームの栄養管理を説明する、口腔疾患の病態と栄養管理を説明する、肝疾患の病態と栄養管理を説明する、外科的・内科的治療および緩和ケアにおける栄養管理の必要性を説明する、骨粗鬆症の病態と栄養管理を説明する、サルコペニアの病態と栄養管理を説明する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
F-1　疾病の成り立ち
1-1）疾病の成り立ち
1-2）疾患の症候と診断・治療の概要
F-2食事の管理を中心とした栄養管理のための傷病者，要介護者および障がい者の理解
2-1）傷病者，要介護者および障がい者に対する栄養士の役割
F-3病態に応じた食事の管理を中心とした栄養管理
3-1）栄養障害
3-2）代謝・内分泌系疾患
3-3）消化器系疾患
3-7）運動器系（筋・骨格）の疾患

以下の項目とも関連する
B-3科学的根拠に基づく栄養の実践のための疫学の理解
3-1）疫学の方法
C-4食事の管理を中心とした栄養管理の基本
4-3）食事の管理を中心とした栄養管理の手法
D-1食べ物と健康の関連の理解
1-3）食品の安全性″

到達目標

1.循環障害を説明できる。
2.炎症と創傷について説明できる。
3.浮腫、脱水、嘔吐、下痢を説明できる。
4.臨床検査、血液生化学検査の種類と意義を説明できる。
5.医療や介護領域における栄養士の役割について説明できる。
6.飢餓、たんぱく質・エネルギー栄養障害の病態と栄養管理を説明できる。
7.メタボリックシンドロームの栄養管理を説明できる。
8.口腔疾患の病態と栄養管理を説明できる。
9.肝疾患の病態と栄養管理を説明できる。
10.外科的・内科的治療および緩和ケアにおける栄養管理の必要性を説明できる。
11.骨粗鬆症の病態と栄養管理を説明できる。
12.サルコペニアの病態と栄養管理を説明できる。″

授業計画

［第1回］
テーマ：臨床栄養学の概念
内容・方法：オリエンテーション、臨床栄養学の意義と目的、栄養ケアマネジメント、医療制度
［第2回］
テーマ：臨床栄養学の概念
内容・方法：医療と臨床栄養、福祉・介護と臨床栄養
［第3回］
テーマ：栄養補給法
内容・方法：栄養・食事療法と栄養補給法の特徴、経腸（経口）補給法
［第4回］
テーマ：栄養補給法、代謝疾患
内容・方法：経腸（経管）栄養補給法・経静脈栄養法、肥満、メタボリックシンドローム
［第5回］
テーマ：代謝疾患の疾患の概要、栄養食事療法と基本的な検査値、小テスト（栄養補給法）
内容・方法：PEM、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症（痛風）
［第6回］
テーマ：消化器疾患の疾患の概要、栄養食事療法と基本的な検査値、小テスト（代謝疾患）

内容・方法：胃炎、胃・十二指腸潰瘍、過敏性腸症候群、炎症性腸症候群、下痢・便秘
［第7回］
テーマ：消化器疾患の疾患の概要、栄養食事療法と基本的な検査値
内容・方法：急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、脂肪肝、膵炎、胆石症、胆のう炎
［第8回］
テーマ：循環器疾患の疾患の概要、栄養食事療法と基本的な検査値、小テスト（消化器疾患）
内容・方法：高尿酸血症、動脈硬化症、虚血性心疾患、脳血管障害
［第9回］
テーマ：腎疾患の疾患の概要、栄養食事療法と基本的な検査値 、小テスト（循環器疾患）
内容・方法：CKD、急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎
［第10回］
テーマ：腎疾患の疾患の概要、栄養食事療法と基本的な検査値
内容・方法：ネフローゼ症候群、腎不全、糖尿病性腎症、透析療法期
［第11回］テーマ：血液疾患・骨疾患の疾患の概要、栄養食事療法と基本的な検査値、小テスト（腎疾患）
内容・方法：鉄欠乏性貧血、骨粗鬆症、骨軟化症、変形性関節炎
［第12回］
テーマ：高齢者疾患の疾患の概要、栄養食事療法と基本的な検査値
内容・方法：摂食嚥下障害、褥瘡、認知障害
［第13回］
テーマ：高齢者疾患の疾患の概要、食物アレルギーの概要、栄養食事療法と基本的な検査値
内容・方法：サルコペニア、ロコモティブシンドローム、転倒、フレイル
［第14回］
テーマ：術前・術後、緩和ケア
内容・方法：緩和ケアの定義、栄養食事療法
［第15回］
テーマ：臨床栄養学全般の総復習
内容・方法：炎症と創傷、浮腫、脱水、嘔吐、下痢、口腔疾患の病態と栄養管理

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

［第1回］
事前学修課題：医療現場でのケアとマネジメントを教科書にて概ね把握する。(目安時間:2時間)
事後学修課題：医療現場でのケアとマネジメントを具体的な現状も含め理解する。(目安時間:2時間)
［第2回］
前学修課題：医療現場での患者の状況を知る。(目安時間:2時間)
事後学修課題：臨床栄養学で用いられる用語と意味について理解する。(目安時間:2時間)
［第3回］
事前学修課題：栄養補給法を教科書にて概ね把握する。(目安時間:2時間)
事後学修課題：栄養補給の対象者の状態を把握し、現状を踏まえたルート選択を理解する。
［第4回］
事前学修課題：代謝疾患の病態（肥満、メタボリックシンドローム）を把握する。(目安時間:2時間)
事後学修課題：静脈栄養法の対象者の状態を理解する。(目安時間:2時間)
［第5回］
事前学修課題：PEM、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症（痛風）の病態を把握。(目安時間:2時間)
事後学修課題：PEM、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症（痛風）の食事療法を具体的に理解する。(目安時間:2時間)
［第6回］
事前学修課題：消化器疾患の疾患（胃炎、胃・十二指腸潰瘍、過敏性腸症候群、炎症性腸症候群、下痢・便秘）病態の把握。
(目安時間:2時間)
事後学修課題：胃炎、胃・十二指腸潰瘍、過敏性腸症候群、炎症性腸症候群、下痢・便秘の栄養食事療法を具体的に理解する。
(目安時間:2時間)
［第7回］
事前学修課題：急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、脂肪肝、膵炎、胆石症、胆のう炎の病態把握。(目安時間:2時間)
事後学修課題：急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、脂肪肝、膵炎、胆石症、胆のう炎の栄養食事療法を具体的に理解する。
(目安時間:2時間)
［第8回］
事前学修課題：高尿酸血症、動脈硬化症、虚血性心疾患、脳血管障害の病態把握。(目安時間:2時間)
事後学修課題：高尿酸血症、動脈硬化症、虚血性心疾患、脳血管障害の栄養食事療法を具体的に理解する。(目安時間:2時間)
［第9回］
事前学修課題：CKD、急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎の病態の違いを理解する。(目安時間:2時間)
事後学修課題：CKD、急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎の栄養食事療法を理解して応用力をつける。(目安時間:2時間)
［第10回］
事前学修課題：ネフローゼ症候群、腎不全、糖尿病性腎症、透析療法期の病態の違いを理解する。(目安時間:2時間)
事後学修課題：ネフローゼ症候群、腎不全、糖尿病性腎症、透析療法期の栄養食事療法を理解して応用力をつける。(目安時間:2時間)
［第11回］

事前学修課題：鉄欠乏性貧血、骨粗鬆症、骨軟化症、変形性関節炎の病態把握。（目安時間:2時間）
事後学修課題：鉄欠乏性貧血、骨粗鬆症、骨軟化症、変形性関節炎の栄養食事療法を具体的に理解する。（目安時間:2時間）
［第12回］
事前学修課題：摂食嚥下障害、褥瘡、認知障害の病態の把握。（目安時間:2時間）
事後学修課題：摂食嚥下障害、褥瘡、認知障害の栄養食事療法を具体的に理解する。（目安時間:2時間）
［第13回］
事前学修課題：サルコペニア、ロコモティブシンドローム、転倒、フレイル、食物アレルギーの病態の把握。（目安時間:2時間）
事後学修課題：サルコペニア・フレイルの対策に何ができるかを考える。（目安時間:2時間）
［第14回］
事前学修課題：緩和ケアの定義や介入時期等を把握。（目安時間:2時間）
事後学修課題：緩和ケアにおいて食べやすい食事内容について具体的に理解する。（目安時間:2時間）
［第15回］
事前学修課題：口腔疾患（特に歯周病と糖尿病との関係）の病態把握。（目安時間:2時間）
事後学修課題：炎症と創傷、浮腫、脱水、嘔吐、下痢、口腔疾患の病態と栄養管理の具体的に理解する。（目安時間:2時間）

課題に対するフィードバックの方法

授業開始時に前回の振り返りを通し、課題について把握できていたかを確認する。
小テストを用いて、課題について把握できていたかを確認する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
授業内での評価：発言内容が適切な発言回数を評価する、提出課題の内容から要点を理解している場合に評価する。 授業外での評価：課題提出内容
定期試験：定期試験での正答率
【「K」評価となる場合】
欠席回数が5回を超えた場合「K」評価となる。
正当な理由なく定期試験を欠席した場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	15	発言内容および事前学習の課題の状況により評価する。レポート提出により、授業内容の理解度を評価する。	1～12
授業外での評価	45	定期的に授業に沿った問題（小テスト）を3択問題を授業中に行う。	1～12
定期試験	40	1～15回目の授業内容において記述式（テキスト、ノート、資料持ち込み可、電子機器は不可）の試験を実施する。	1～12
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	Nブックス臨床栄養学概論 第2版（建帛社） 渡邉早苗・本間和宏・佐藤智英　編著 ISBN: 978-4-7679-0691-1
参考書	糖尿病食事療法のための食品交換表第7版　編著日本糖尿病学会　文光堂　ISBN978-4-8306-6046-7 日本食品成分表
履修条件・他の科目との関連	＜履修条件＞ 栄養士免許必修科目である ＜欠席学生の対応＞ 欠席をした学生は、授業で配布した資料を授業後pdfで周知しますので、印刷をして穴埋め（友人等にお聞きください）をする。理解が出来なかった所は、授業前に聞きに来てください。 本科目は、食事管理を中心とした栄養管理の実践のための基礎科学（C）および社会と健康（B）、食べ物をベースとした食事の管理を中心とした栄養管理の実践（D）で学ぶ知識や技術を身につけていることが前提となる。

授業コード	22025501	授業形態	実習	実務家教員	ー
授業科目名	臨床栄養学実習　［対面］				
シラバス執筆（全員）	石川　英子				
シラバス執筆（主）	石川　英子				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

【授業の目的・概要】
本実習は、疾病の成り立ちについて説明し、病態に応じた食事の管理を中心とした栄養管理を実践できることを目的とする。疾患をふまえた献立や調理法、医療用特殊食品の利用方法や常食から各治療食への展開法、腎臓病や糖尿病における食品交換表の使い方について実習形態で実践する。具体的には、病歴情報と全身状態を把握できるよう実習を行う、肥満症・糖尿病におけるエネルギーコントロール食を実践できるよう実習を行う、脂質異常症における脂質コントロール食を実践できるよう実習を行う、胃・腸疾患における栄養管理を実践できるよう実習を行う、炎症性腸疾患における栄養管理を実践できるよう実習を行う、膵臓疾患における栄養管理を実践できるよう実習を行う、高血圧症におけるナトリウムコントロール食を実践できるよう実習を行う、虚血性心疾患や脳血管障害における栄養管理を実践できるよう実習を行う、慢性腎臓病、糖尿病性腎症、慢性腎不全におけるたんぱく質・ナトリウムコントロール食を実践できるよう実習を行う、貧血における栄養管理を実践できるよう実習を行う。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
F-1疾病の成り立ち
1-2）疾患の症候と診断・治療の概要
F-3病態に応じた食事の管理を中心とした栄養管理
3-2）代謝・内分泌系疾患
3-3）消化器系疾患
3-4）循環器系疾患
3-5）腎・尿路系疾患
3-6）血液系疾患

以下の項目とも関連する
D-2食事と調理の科学の理解
2-1）調理の基本
C-4食事の管理を中心とした栄養管理の基本
4-3）食事の管理を中心とした栄養管理の手法
D-1食べ物と健康の関連の理解
1-3）食品の安全性″

到達目標

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
F-1疾病の成り立ち
1-2）疾患の症候と診断・治療の概要
F-3病態に応じた食事の管理を中心とした栄養管理
3-2）代謝・内分泌系疾患
3-3）消化器系疾患
3-4）循環器系疾患
3-5）腎・尿路系疾患
3-6）血液系疾患

以下の項目とも関連する
D-2食事と調理の科学の理解
2-1）調理の基本
C-4食事の管理を中心とした栄養管理の基本
4-3）食事の管理を中心とした栄養管理の手法
D-1食べ物と健康の関連の理解
1-3）食品の安全性

【到達目標】
1.病歴情報と全身状態を把握できる。
2.肥満症・糖尿病におけるエネルギーコントロール食を実践できる。
3.脂質異常症における脂質コントロール食を実践できる。
4.胃・腸疾患における栄養管理を実践できる。
5.炎症性腸疾患における栄養管理を実践できる。
6.膵臓疾患における栄養管理を実践できる。
7.高血圧症におけるナトリウムコントロール食を実践できる。
8.虚血性心疾患や脳血管障害における栄養管理を実践できる。
9.慢性腎臓病、糖尿病性腎症、慢性腎不全におけるたんぱく質・ナトリウムコントロール食を実践できる。
10.貧血における栄養管理が実践できる。

授業計画

［1回目］
テーマ：病歴情報からの一般食および栄養補給法の選択　方法：実習
内容：オリエンテーション、基本的な栄養補給方法の考え方、一般食の主食（重湯から全粥食）の作り方
［2回目］
テーマ：特別治療食（易消化食）の基礎　　方法：実習
内容：胃腸の働き、クローン病の食事と調理
［3回目］一般食（嚥下調整食3）　方法：講義および実習
内容：摂食嚥下機能の低下により用いる食材、嚥下調整食3の食事と調理
［4回目］特別治療食（エネルギーコントロール食）の基礎　方法：演習
内容：糖尿病の概要と栄養食事療法、糖尿病の食品交換表の使い方
［5回目］特別治療食（エネルギーコントロール食）の基礎　方法：実習
内容：高尿酸血症の疾患の概要・栄養食事療法、常食と糖尿病食1200kcalの食事と調理
［6回目］特別治療食（エネルギーコントロール食）の基礎　方法：実習
内容：脂質異常症の疾患の概要・栄養食事療法、高LDLコレステロール血症1,500kcalの食事と調理
［7回目］特別治療食（エネルギー・ナトリウムコントロール食）の基礎　方法：実習
内容：高血圧の疾患の概要・栄養食事療法、塩分比較（すまし汁、おにぎり、焼肉）
［8回目］特別治療食（エネルギー・ナトリウムコントロール食）の基礎　方法：実習
内容：心不全の疾患の概要・栄養食事療法、高血圧食・心不全食の食事と調理
［9回目］特別治療食（たんぱく質・ナトリウムコントロール食）の基礎　方法：演習
内容：慢性腎不全、糖尿病性腎症の疾患の概要・栄養食事療法
［10回目］特別治療食（たんぱく質・ナトリウムコントロール食）の基礎　方法：実習
内容：常食からの展開食の慢性腎不全（低たんぱく米）を使用した食事と調理
［11回目］特別治療食（たんぱく質・ナトリウムコントロール食）の基礎　方法：実習
内容：肝不全の疾患の概要・栄養食事療法、肝不全の食事と調理
［12回目］常食から糖尿病1200kcalと慢性腎不全食への展開（食品成分表を用いて算出）　方法：演習
内容：糖尿病と腎臓病食の特徴を理解し、展開食をグループで1献立ずつ作成、食材の発注する。
［13回目］特別治療食（脂質コントロール食）の基礎　方法：実習
内容：膵炎の疾患の概要・栄養食事療法、膵炎食の食事と調理
［14回目］特別治療食（エネルギー、たんぱく質・ナトリウムコントロール食）の応用　方法：実習
内容：12回目で作成した各グループの献立に基づいた調理実習を行う。
［15回目］小テスト10問、特別治療食（高たんぱく食・高鉄添加食）の基礎　方法：実習
内容：鉄欠乏性貧血およびサルコペニアの概要・栄養食事療法の食事と調理

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

［1回目］
事後学習：流動食～全粥食の主食200gの栄養価計算、流動食について調べる。
［2回目］
事前学習：クローン病の疾患の定義についてまとめる（A4版0.5枚程度）。
事後学習：実習献立の栄養計算と考察。
［3回目］
事前学習：嚥下食に適した食材と適さない食材および理由（A4版1枚程度）。
事後学習：実習内での考察（かっぱえびせん、お茶ゼリーと嚥下調整食3）。
［4回目］
事前学習：糖尿病の「感受性の低下＝抵抗性が高くなる」についてまとめる（A4版0.5枚程度）。
事後学習：糖尿病の食品交換表の単位法の展開について学ぶ。
［5回目］
事前学習：高尿酸血症について疾患の概要についてまとめる（A4版0.5枚程度）。
事後学習：実習献立の常食と糖尿病食1200kcalの昼食分の栄養計算。
［6回目］
事前学習：脂質異常症の疾患の概要についてまとめる（A4版0.5枚程度）。
事後学習：実習での高LDLコレステロール血症食の飽和脂肪酸、一価不飽和脂肪酸、多価不飽和脂肪酸、コレステロール量の栄養価計算
［7回目］
事前学習：高血圧の疾患の概要と減塩の方法についてまとめる（A4版1枚程度）。
事後学習：塩分比較（実習）の考察。
［8回目］
事前学習：心不全の疾患の概要についてまとめる（A4版0.5枚程度）。
事後学習：実習献立の栄養価計算（E,P,F,塩分）。
［9回目］
事前学習：慢性腎不全の疾患についてまとめる（A4版0.5枚程度）。
事後学習：腎臓病の食品交換表の単位法の展開について学ぶ。
［10回目］
事前学習：低たんぱく米を美味しくするための工夫について調べる。
事後学習：実習献立の栄養価計算（E,P,F,塩分）。
［11回目］
事前学習：肝不全の疾患の概要についてまとめる（A4版0.5枚程度）。
事後学習：肝不全食から慢性肝炎食の展開食を作成する。
［12回目］
事前学習：糖尿病食と腎臓病食の違いについてまとめる（A4版1枚程度）。
事後学習：常食からの糖尿病食と腎臓病食の展開食の献立作成および栄養計算。
［13回目］
事前学習：急性膵炎の疾患の概要についてまとめる（A4版0.5枚程度）。

事後学習：14回目の調理実習に必要な食材、作業工程の注意点などをグループごとでまとめる。
［14回目］
事前学習：14回目に必要な調理技術、導線、発注書等の帳票類を作成する。
事後学習：調理実習の栄養価計算（E,P,F,塩分）および考察。
［15回目］
事前学習：鉄が多く含まれる食品とサルコペニアについてまとめる（A4版1枚程度）。
事後学習：実習献立の栄養価計算（鉄分、ビタミンC）と考察。

課題に対するフィードバックの方法

事後学習のレポートに対しての記述内容を確認、返却をする。
事前学習のレポートに対しては、「自分言葉で記述できているか」、「見返すことができるように丁寧に作成しているか」を評価する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により、総合的に判定し、60点以上を合格として単位認定をする。
実習態度（衛生検査含む）：30%、提出物（事前、事後学習のレポート）：60%、口頭試問（授業内）10%
成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合（欠席5回、遅刻1回となった場合は「K」評価となる。）
・定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	チーム（班）で協力し、調理に取り組む姿勢。（25） 授業に関する質問、発言（5） 15回目の小テスト（10）	1～10
授業外での評価	50	事前の学修レポートの完成度および速やかな提出（20） 事後の学修レポートの完成度および速やかな提出（30）	1～10
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	定期テストに代わる臨床栄養学実習に関する課題	1～10
その他	0		

テキスト	糖尿病食事療法のための食品交換表第7版　編著日本糖尿病学会　文光堂　ISBN978-4-8306-6046-7 （金額:990円）
参考書	日本食品成分表 臨床栄養学概論（第2版）　建帛社　ISBN978-4-7679-0691-1
履修条件・他の科目との関連	＜履修条件＞　栄養士免許必修科目である ＜欠席学生の対応＞ 欠席した学生は、配布（欠席日）した資料を印刷の上、穴埋め部分は同学年の友人に見せてもらい予復習をして授業に臨んでください。 資料はpdfで全員に授業後、送付致します。 本科目は、食事管理を中心とした栄養管理の実践のための基礎科学（C）および社会と健康（B）、食べ物をベースとした食事の管理を中心とした栄養管理の実践（D）で学ぶ知識や技術を身につけていることが前提となる。

授業コード	22008101	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	栄養指導論　［対面］				
シラバス執筆(全員)	土井　玲奈				
シラバス執筆(主)	土井　玲奈				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的･概要

本講義は、対象者を望ましい行動変容に導くための基本的な知識や、多様な場における対象者のライフステージや生理的・身体的特徴をふまえ、栄養指導が実践できるための基本的な知識・技術の修得を目的とする。具体的には、生活の質の向上や健康の維持・増進に向けた望ましい食習慣の形成のために、行動科学を中心とした代表的な理論・モデル・概念とその必要性を理解する、栄養カウンセリングの基本と技法を概説する、栄養士が行う栄養指導の意義や目的、行動変容に関する理論等を統合した栄養指導について説明する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
C－5人間の行動変容に関する理論
5-1）行動変容に関する理論・モデル・概念
5-2）栄養カウンセリングの基本の理解
E－2栄養指導の進め方と多様な場での展開
2-1）栄養指導の意義と進め方
A-4栄養・食の選択と決定を支援するコミュニケーション能力
以下の項目とも関連する
Ｅ－１．ライフステージ別の食事の管理を中心とした栄養管理
1-1）妊娠期，授乳期の食事の管理を中心とした栄養管理
1-2）新生児期，乳児期の食事の管理を中心とした栄養管理
1-3）幼児期，学童期，思春期の食事の管理を中心とした栄養管理
1-4）成人期，更年期の食事の管理を中心とした栄養管理
1-5）高齢期の食事の管理を中心とした栄養管理

到達目標

1.行動科学を中心とした代表的な理論・モデル・概念とその必要性を説明できる
2.栄養カウンセリングの基本と技法を説明できる
3.栄養士が行う栄養指導の意義や目的を説明できる
4.行動変容に関する理論等を統合した栄養指導を説明できる
5.ライフステージごとの栄養指導の展開を説明することができる

授業計画

【第1回】栄養教育・栄養指導の概念
内容・方法：　栄養教育の意義、目標について解説する。
【第2回】栄養指導の変遷
内容・方法：　栄養士制度の歴史、それに応じた栄養士業務や活動分野などを解説する。
【第3回】栄養教育・指導と関連法規
内容・方法：　栄養士法、健康増進法など栄養指導に関連する法律とその内容について解説する。
【第4回】栄養教育のための理論的基礎
内容・方法：　行動科学を中心とした代表的な理論やモデルについて解説する。
【第5回】栄養カウンセリング
内容・方法：　栄養カウンセリングについて解説する。
【第6回】食環境と栄養教育・栄養指導
内容・方法：　食環境整備と食行動変容との関連について解説する。
【第7回】栄養教育マネジメント（アセスメント）
内容・方法：　栄養教育マネジメントの概念、栄養アセスメントについて解説する。
【第8回】栄養教育マネジメント（目標設定・計画）
内容・方法：　栄養教育の目標設定と計画立案について解説する。
【第9回】栄養教育マネジメント（教材の選択）
内容・方法：　栄養教育の教材と学習形態について解説する。
【第10回】栄養教育マネジメント（学習方法の種類と選択）
内容・方法：栄養教育における学習形態や方法について解説する。
【第11回】栄養教育マネジメント（栄養教育の評価）
内容・方法：　栄養教育の評価方法について解説する。
【第12回】ライフステージ別栄養教育（妊娠・授乳期）
内容・方法：　妊娠・授乳期の食生活上の課題、栄養教育方法について解説する。
【第13回】ライフステージ別栄養教育（乳幼児期・学童期・思春期）
内容・方法：　乳幼児期・学童期・思春期の食生活上の課題、栄養教育方法について解説する。
【第14回】ライフステージ別栄養教育（高齢期）
内容・方法：　高齢期の食生活上の課題、栄養教育方法について解説する。
【第15回】　学習のまとめ
内容・方法：　栄養指導論の総まとめを行う。

※進行によっては、授業計画を変更する場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：教科書を読んでおく。
事後学習：資料や課題レポートを整理し、ノートにまとめる。確認テストの内容を復習しておく。

課題に対するフィードバックの方法

各回の授業で実施する確認テストまたは課題レポートについては、翌週以降にフィードバックを行う。授業内で適宜コメントやアドバイスを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・正当な理由なく定期試験を欠席した場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	確認テスト(40)、授業内レポート(20)	1～5
授業外での評価	0		
定期試験	40	定期試験	1～5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	イラスト 栄養教育・栄養指導論/城田 知子ほか著/東京教学社/定価2,640円/9784808260927
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	栄養士免許必修科目である。 栄養士としての技術・能力をより向上させるためには、他の栄養士関連科目も単位取得、履修していることが望ましい。 欠席した場合は、速やかに教員までプリント受け取りについて申し出ること。

授業コード	22048401	授業形態	実習	実務家教員	ー
授業科目名	栄養指導論実習Ⅰ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	土井　玲奈				
シラバス執筆(主)	土井　玲奈				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

本実習は、栄養指導論で身につけた栄養指導の知識を活かし、対象者を望ましい行動変容に導くための基本的なスキルを身につけることを目的とする。具体的には、「日本人の食事摂取基準」の基本的な考え方、食事調査法（食行動、食環境を含む）の活用と評価、栄養カウンセリングの基本と技法、栄養士が行う栄養指導の意義や目的、生活の質の向上や健康の維持・増進に向けた望ましい食習慣の形成のために、行動科学を中心とした代表的な理論・モデル・概念とその必要性を説明し、それらを用いて栄養指導を展開する実習を行う。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
C-4　食事の管理を中心とした栄養管理の基本
4-4）食事摂取量，食行動，食環境の評価
C-5 人間の行動変容に関する理論
5-2）栄養カウンセリングの基本の理解
E-2 栄養指導の進め方と多様な場での展開
2-1）栄養指導の意義と進め方
A-1プロフェッショナルリズム
A-2栄養学の知識と課題対応能力
A-4栄養・食の選択と決定を支援するコミュニケーション能力

以下の項目とも関連する
C-4　食事の管理を中心とした栄養管理の基本
4-2）日本人の食事摂取基準の理解

到達目標

1.食事調査法（食行動,食環境を含む）の活用と評価を説明することができる
2.栄養カウンセリングの基本と技法を説明することができる
3.栄養士が行う栄養指導の意義や目的を説明できる
4.行動科学を中心とした代表的な理論・モデル・概念とその必要性を理解し，栄養指導を展開することができる
5.使命感と責任感をもって職務を遂行するためのコミュニケーションができる

授業計画

【第1回】オリエンテーション・栄養教育の意義
内容・方法：　栄養教育の意義、目標について解説する。
【第2回】話し方の練習
内容・方法：設定された課題についてスピーチ発表を行い、人前に立って相手に分かりやすく話す技法を学ぶ。
【第3回】身体活動調査①
内容・方法：身体活動調査の進め方
【第4回】身体活動調査②
内容・方法：自身の身体活動状況を把握する。
【第5回】日本人の食事摂取基準の活用
内容・方法：日本人の食事摂取基準の算定方法について
【第6回】食事調査（24時間思い出し法）
内容・方法：　24時間思い出し法による食事調査を実践する。
【第7回】食事調査（秤量法）
内容・方法：事前に実施した秤量法による食事調査の結果を確認する。
【第8回】食事調査（データ集計）
内容・方法：食事調査結果のデータをとりまとめる。
【第9回】食事調査（データ評価、市販食品の評価）
内容・方法：食品構成、出現食品による評価を行う。
【第10回】計量実習
内容・方法：日常摂取する食品の重量を計量し、栄養指導の資料としてまとめる。
【第11回】栄養カウンセリング
内容・方法：栄養士と対象者に扮して栄養カウンセリングを実践する。
【第12回】集団を対象とする方法（討議方法）
内容・方法：討議法（ブレイン・ストーミング）を実践する。
【第13回】栄養指導の実際①
内容・方法：グループで栄養指導案を作成する。
【第14回】栄養指導の実際②
内容・方法：グループで栄養指導を実施する。
【第15回】まとめ・確認テスト
内容・方法：振り返り、確認テストを行う。

※進行によっては、授業計画を変更する場合がある。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前・事後に取り組む課題については、必要に応じて指示する。
なお、各回の課題は指定された期限までに取り組み、提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

各回の授業で実施する課題レポートについては、翌週以降にフィードバックを行う。授業内で適宜コメントやアドバイスを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・3回を超えて欠席した場合
・定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	課題レポート(50)、確認テスト(10)、栄養指導の実施(10)	1～5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終レポート(20)	1～5
その他	10	授業時間中の積極的な発言、グループでコミュニケーションを取りながら取り組む姿勢(10)	5

テキスト	毎日の食事のカロリーガイド第3版/香川 明夫 監修/女子栄養大学出版部/定価1,870円/9784789506298 食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表2025(2025年3月10日出版)新しい食生活を考える会編著/大修館書店/税込価格1,760円/9784469270181 調理のためのベーシックデータ第6版/女子栄養大学調理学研究室 女子栄養大学短期大学部調理学研究室 監修/定価2,200円/9784789503259 イラスト 栄養教育・栄養指導論/城田 知子ほか著/東京教学社/定価2,640円/9784808260927
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	栄養士免許必修科目である。 本授業では栄養・食生活に関する調査を、グループワークによって進めることがあります。自分の考えや意見を積極的に述べ、積極的な態度で取り組んでください。 欠席した場合は、登学後速やかに教員までプリント受け取りや課題の提出について申し出ること。

授業コード	22048501	授業形態	実習	実務家教員	ー
授業科目名	栄養指導論実習Ⅱ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	土井　玲奈				
シラバス執筆(主)	土井　玲奈				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

本実習は、多様な場における対象者のライフステージや生理的・身体的特徴をふまえた栄養指導の知識をもとに、マネジメントサイクルに基づいた栄養指導の実践能力を身につけることを目的とする。具体的には、保育園・こども園・幼稚園における栄養指導、小・中・高等学校における栄養指導、職域・地域における栄養指導について実習する。疫学を用いた資料および報告書を読み、地域・職域の健康・栄養活動に活用されていることを説明する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
E-2栄養指導の進め方と多様な場での展開
2-1）栄養指導の意義と進め方
2-2）多様な場における栄養指導の実践
E-4公衆栄養活動の実践のための理論と展開
4-1）疫学の地域・職域の健康・栄養対策への活用
A-1プロフェッショナルリズム
A-2栄養学の知識と課題対応能力
A-4 栄養・食の選択と決定を支援するコミュニケーション能力

以下の項目とも関連する
C-4食事の管理を中心とした栄養管理の基本
4-4）食事摂取量，食行動，食環境の評価

到達目標

1.栄養指導のマネジメントサイクルを説明できる.
2.保育園・こども園・幼稚園における栄養指導を実践できる.
3.小・中・高等学校における栄養指導を実践できる.
4.職域・地域における栄養指導を実践できる.
5.疫学を用いた資料および報告書を読み，　地域・職域の健康・栄養活動に活用されていることを説明できる.
6.チームとして行動するために必要なコミュニケーションを取ることができる

授業計画

【第1回】栄養指導論実習の概要とオリエンテーション
内容・方法：栄養指導論実習Ⅰの復習、栄養指導の教材や媒体の活用方法について学ぶ。
【第2回】栄養指導案および栄養媒体作成計画書の作成
内容・方法：発表グループを決定する。各自で栄養指導案を作成し、グループ内でプレゼンを行い、グループの栄養指導案を決定する。
【第3回】栄養指導教材・媒体の作成、栄養指導模擬指導の台本の作成①
内容・方法：グループ内で、栄養指導教材・媒体作成と栄養指導の模擬指導の台本を作成する。
【第4回】栄養指導教材・媒体の作成、栄養指導模擬指導の台本の作成②
内容・方法：グループ内で、栄養指導教材・媒体作成と栄養指導の模擬指導の台本を作成する。リハーサルに向けた準備を行う。
【第5回】栄養教育プレゼンテーション（リハーサル）
内容・方法：作成した栄養指導教材・媒体を使用して発表する（リハーサル）。
【第6回】栄養指導教材・媒体の修正、台本の修正
内容・方法：リハーサルでの改善点を修正し、本番に向けて練習する。
【第7回】栄養指導プレゼンテーション（本番）と評価
内容・方法：媒体を用いた模擬指導を実際に行う。他グループの発表を聞き、評価する。
【第8回】栄養いろはカルタの作成
内容・方法：栄養標語を用い、いろはカルタを作成する。
【第9回】栄養疫学演習
内容・方法：　栄養・健康に関する出版物や文献、国民健康・栄養調査の結果をもとに評価する演習を行う。
【第10回】集団対象の質問紙法による調査
内容・方法：クラスを対象者と想定し、調査票を作成する。
【第11回】質問紙調査の実施・集計
内容・方法：質問紙法による調査を実施し、集計作業を行う。
【第12回】質問紙調査の集計
内容・方法：集計データをもとに統計処理、図表の作成を行い、まとめる。
【第13回】栄養指導の実践①
内容・方法：発表グループを決定する。グループ内でテーマを設定し栄養指導案を作成する。
【第14回】栄養指導の実践②
内容・方法：PowerPointを 用いた模擬指導を実際に行う。他グループの発表を聞き、評価する。
【第15回】　まとめ
内容・方法：栄養指導論実習Ⅱの振り返り、まとめを行う。

※進行によっては、授業計画を変更する場合がある。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前・事後に取り組む課題については、必要に応じて指示する。
普段から、栄養・食に関するニュースを確認しておく。
なお、各回の課題は指定された期限までに取り組み、提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は、回収後、授業内での解説、コメントを付けて返却する。授業内で適宜コメントやアドバイスを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・3回を超えて欠席した場合
・定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	課題提出物:栄養指導案・教材作成(20)、プレゼンテーション(10)、課題レポート(20)、アンケート作成(10)、情報処理(10)	1～6
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終レポート(20)	1～6
その他	10	授業時間中の積極的な発言、グループでコミュニケーションを取りながら取り組む姿勢(10)	6

テキスト	プリント(資料)を配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	栄養士免許必修科目である。 本授業では栄養・食生活に関する調査を、グループワークによって進めることがあります。自分の考えや意見を積極的に述べ、積極的な態度で取り組んでください。 欠席した場合は、登学後速やかに教員までプリント受け取りや課題の提出について申し出ること。

授業コード	22033001	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	公衆栄養学　［対面］				
シラバス執筆(全員)	土井　玲奈				
シラバス執筆(主)	土井　玲奈				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的･概要

本講義は、我が国における疾病構造や栄養課題の変化の理解をとおして、公衆栄養学の意義・役割、および健康づくり対策の変遷について学ぶ。さらに国際レベルでの健康・栄養課題や、これらに関わる機関の役割を理解して、公衆栄養活動を実践するための知識や技術を修得することを目的とする。具体的には、公衆栄養学の意義・役割、我が国における疾病構造や栄養課題の変化について、我が国における疾病構造、栄養課題、社会状況の変化に伴う健康・栄養対策の変遷を概説する、国民の健康・栄養・食ならびに食料需給の状況を継続的に把握する意義やその方法について説明する、世界おける健康・栄養課題を理解し、これに関わる機関の役割を説明する、公衆栄養活動の実践のため疫学の活用方法および食環境整備について学び、科学的態度の形成と科学的探究への理解を深めることである。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
E-3 日本と世界の公衆栄養の現状の理解
3-1) 公衆栄養学の概念
3-2) 我が国における国民の健康・栄養・食の現状
3-3) 我が国における健康づくり対策の推移と展開
3-4) 国民の健康・栄養・食の実態把握の方法
3-5) 国際栄養の理解

E-4 公衆栄養活動の実践のための理論と展開
4-1) 疫学の地域・職域の健康・栄養対策への活用
4-2) 地域・職域における食環境整備
4-3) 災害時の栄養対策

以下の項目とも関連する
B-1 社会および環境と健康の関わり
1-1) 健康の考え方
1-3) 我が国における健康の現状
B-2 健康・栄養に関わる社会制度・法規と保健活動
2-1) 社会保障制度・衛生法規と保健活動
B-3 科学的根拠に基づく栄養の実践のための疫学の理解
3-1) 疫学の方法
3-2) 主要疾患の疫学と対策
E-2 栄養指導の進め方と多様な場での展開
2-1) 栄養指導の意義と進め方
C-4 食事の管理を中心とした栄養管理の基本
4-2) 日本人の食事摂取基準の理解

到達目標

1. 公衆栄養学の意義・役割を説明できる
2. 我が国における疾病構造や栄養課題の変化について説明できる
3. 我が国における疾病構造，栄養課題，社会状況の変化に伴う健康・栄養対策の変遷を説明できる
4. 国民の健康・栄養・食ならびに食料需給の状況を継続的に把握する意義やその方法を説明できる
5. 世界おける健康・栄養課題を理解し，これに関わる機関の役割を説明できる
6. 公衆栄養活動の実践のため疫学の活用方法および食環境整備を説明できる

授業計画

【第1回】公衆栄養の概念
内容・方法：公衆栄養の意義・目的と公衆栄養活動の方向性を解説する。
【第2回】健康・栄養問題（1）
内容・方法：社会環境・疾病構造の変化について解説する。
【第3回】健康・栄養問題（2）
内容・方法：栄養素・食品摂取量、食生活の現状と課題について解説する。
【第4回】健康・栄養問題（3）
内容・方法：食環境の変化、食料自給率について解説する。
【第5回】栄養政策（1）
内容・方法：公衆栄養活動と組織、栄養士制度について解説する。
【第6回】栄養政策（2）
内容・方法：国民健康・栄養調査の概要について解説する。
【第7回】栄養政策（3）
内容・方法：食生活指針、食事バランスガイドについて解説する。
【第8回】健康日本21、食育推進基本計画
内容・方法：健康日本21、食育推進基本計画について解説する。

【第9回】諸外国の健康・栄養問題
内容・方法：諸外国の健康・栄養問題と施策について解説する。
【第10回】日本人の食事摂取基準（1）
内容・方法：日本人の食事摂取基準の概要について解説する。
【第11回】日本人の食事摂取基準（2）
内容・方法：日本人の食事摂取基準の活用について解説する。
【第12回】栄養疫学（1）
内容・方法：栄養疫学の概要、栄養疫学の手法について解説する。
【第13回】栄養疫学（2）
内容・方法：食事調査の方法について解説する。
【第14回】公衆栄養マネジメント
内容・方法：疫学の地域・職域の健康・栄養対策への活用について解説する。
【第15回】災害時の栄養対策・まとめ
内容・方法：災害時の栄養対策について解説する。公衆栄養学の総まとめを行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：教科書を読んでおく。
事後学習：資料を整理し、ノートにまとめる。確認テストが実施された場合は内容を復習しておく。

課題に対するフィードバックの方法

授業で実施する確認テストについては、翌週以降にフィードバックを行う。授業内で適宜コメントやアドバイスを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・正当な理由なく定期試験を欠席した場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	確認テスト(40)	1～6
授業外での評価	0		
定期試験	60	定期試験	1～6
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	六訂 公衆栄養学 第4版/井上浩一 小林実夏 編著/建帛社/定価3,080円/9784767907666
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	栄養士免許必修科目である。 栄養士としての技術・能力をより向上させるためには、他の栄養士関連科目も単位取得、履修していることが望ましい。 欠席した場合は、速やかに教員までプリント受け取りについて申し出ること。

授業コード	22033101	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	栄養士実務演習Ⅰ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	土井　玲奈				
シラバス執筆(主)	土井　玲奈				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

本演習は、栄養士実務の要となる「栄養管理」の基礎について、演習を通じて理解することを目的とする。具体的には、栄養士の職務内容について、食品成分表の利用方法、栄養量の算出方法、基本的な献立作成について概説する。さらに、良質で安全な食事の管理を中心とした栄養管理および栄養指導の知識及び技術の理解につながる基礎を修得するようにする。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
C-3食事・食べ物の基本
3-1）食事の理解
3-2）食品の主要な成分と特性
D-1食べ物と健康の関連の理解
1-1）食品成分表
1-2）食材の特徴と調理・加工
D-2食事と調理の科学の理解
2-3）食事計画と調理・食事提供

次の項目とも関連する
C-2栄養と栄養素等のはたらき
2-4）炭水化物の栄養学役割
2-5）脂質の栄養学的役割
2-6）たんぱく質の栄養学的役割
2-7）ビタミンの栄養学的役割
2-8）ミネラル（無機質）の栄養学的役割

到達目標

1.栄養士の職務内容について説明することができる
2.食品成分表を利用することができる
3.栄養量を算出することができる
4.料理の組み合わせについて理解し，基本的な献立作成について説明することができる

授業計画

【第1回】栄養士の仕事・職務内容について
【第2回】献立の組み立て方と献立の配膳方法について
【第3回】食品成分表の見方、使い方、食品群について
【第4回】食品成分表の食品別収載食品について（食品成分表に記載されている食品群、特徴や特性）
【第5回】栄養価計算の基本事項・食品成分表の各食品群についての説明（砂糖及び甘味類・種実類）
【第6回】食品成分表の各食品群についての説明（穀類・いも及びでんぷん類・豆類）
【第7回】食品成分表の各食品群についての説明（野菜類・果実類・きのこ類）
【第8回】食品成分表の各食品群についての説明（藻類・魚介類・肉類）
【第9回】食品成分表の各食品群についての説明（卵類・乳類・油脂類・その他の食品群）
【第10回】各食品群についての小テスト実施、解答解説
【第11回】ナトリウム換算係数の計算
【第12回】調味パーセントの計算
【第13回】栄養価計算の演習（食品成分表を使って一食分の献立（ひなまつり食）の栄養価を計算する）
【第14回】最終確認テスト
【第15回】総まとめ

※演習の進行具合などで実施内容が変更になる場合があります。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：授業内で紹介する予定に従い、予習すべき内容について教科書の当該箇所を読んでから授業に臨むこと。
事後学習：授業内で学んだ知識を指定された教科書、配布資料を読み返し、必要に応じ書き込む。また、確認テストを実施するので､しっかりと復習をすること。

課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法

提出された課題は、回収後、授業内での解説をする、授業内での講評をするなどのフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）
●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。 ●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。 ---------- 成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。 【「K」評価となる場合】 ・5回を超えて欠席した場合 ・定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	授業における課題提出率・課題完成度で評価する（30） 授業における確認テスト（20）最終確認テスト(30)の点数で評価する。	1～4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	レポート課題の完成度を評価する。	1～4
その他	0		

テキスト	食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表2025（2025年3月10日出版）新しい食生活を考える会編著/大修館書店/税込価格1,760円/9784469270181 調理のためのベーシックデータ第6版/女子栄養大学調理学研究室 女子栄養大学短期大学部調理学研究室 監修/定価2,200円/9784789503259 栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎/坂本　裕子 森　美奈子 編/化学同人/定価1,870円/ 9784759818260
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	栄養士免許必修科目である。 栄養士免許関連科目の基礎となる重要な内容です。 欠席した場合は、速やかに教員までプリント受け取りについて申し出ること。

授業コード	22033201	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	栄養士実務演習Ⅱ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	土井　玲奈				
シラバス執筆(主)	土井　玲奈				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

コンピュータは、栄養・食事管理のみならず、多くの栄養士業務に活用されており、基本的な文書の作成・データの集計などのコンピュータの活用能力を身につける必要がある。本演習では、栄養士実務演習Ⅰをはじめとする栄養士実務に関する科目で身につけた栄養管理・栄養指導・給食運営管理の知識を基に、コンピュータを活用した栄養計画、給食管理及び栄養指導の科学（疫学）的な評価方法を学び、実践力を身につけることを目的とする。具体的には、栄養士業務で必要となるインターネットの基本的な使い方、ワードの基本的な使い方、エクセルの基本的な使い方、パワーポイントの基本的な使い方を説明し、活用できるようにする。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
A-2栄養学の知識と課題対応能力
A-7科学的態度の形成と科学的探究

以下の項目とも関連する
D-3給食と給食運営管理の理解
3-3）給食施設における栄養管理と品質管理
E-2栄養指導の進め方と多様な場での展開
2-2）多様な場における栄養指導の実践
E-4公衆栄養活動の実践のための理論と展開
4-1）疫学の地域・職域の健康・栄養対策への活用

到達目標

1.栄養士業務で必要となるインターネットの基本的な使い方を習得・活用できる
2.栄養士業務で必要なワードの基本的な使い方を習得・活用できる
3.栄養士業務で必要なエクセルの基本的な使い方を習得・活用できる
4.栄養士業務で必要なパワーポイントの基本的な使い方を習得・活用できる

授業計画

【第1回】オリエンテーション・栄養価計算ソフトのインストール
【第2回】栄養価計算ソフトの使用方法・ソフトを用いた栄養価計算の実践
【第3回】ソフトを用いた栄養価計算の実践
【第4回】エクセル　エクセルを用いた献立表の作成
【第5回】確認テスト・ワード リーフレットの作成①(ライフステージ別栄養教育)
【第6回】ワード リーフレットの作成②(ライフステージ別栄養教育)
【第7回】パワーポイントの使い方(ライフステージ別栄養教育)
【第8回】エクセル　基本的な関数
【第9回】エクセル　アンケートの集計とグラフの使い方
【第10回】エクセル　表計算関数の活用（VLOOKUP関数の使い方）
【第11回】エクセル　表計算関数の活用（HLOOKUP関数の使い方）
【第12回】エクセル　　表計算の活用（VLOOKUP関数とHLOOKUP関数を用いたデータ集計）
【第13回】エクセル　課題作成
【第14回】確認テスト
【第15回】総まとめ

※演習の進行具合などで実施内容の変更、入れ替えとなる場合があります。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：授業内で紹介する予定に従い、予習すべき内容について教科書の当該箇所を読んでから授業に臨むこと。
事後学習：授業内で学んだ知識を配布資料など読み返し、必要に応じ書き込む。

課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法

提出された課題は回収後、授業内での解説をする、授業内での講評をするなどのフィードバックを行う。

成績評価の方法･基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定

する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	課題提出率・課題完成度(10点×5回)(50) 確認テスト(10点×2回)(20)で評価する。	1～4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	レポート課題の完成度で評価する。(20)	2
その他	10	受講姿勢(10)	1～4

テキスト	30時間でマスター　Word&Excel2021(Windows11対応)/実教出版企画開発部 編/実教出版/定価1,100円/9784407359398 日本食品成分表2025 栄養計算ソフト・電子版付/医師薬出版/定価1,870円/978-4-263-70149-2
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	栄養士免許必修科目である。 「コンピューター基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を履修していること、またはそれと同等の実力が認められることが望ましい。 栄養士実務に必要な書類作成・栄養教育の教材作成等が自由に行えるようなレベルを目指すので、パソコンの基本操作を苦手とする学生は事前に基本練習を積んだ上で演習に取り組むこと。 欠席した場合は、課題や配布資料について速やかに申し出ること。

授業コード	22048601	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	栄養士総合演習Ⅰ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	海老澤　薫、諏訪　清二、坂井　孝				
シラバス執筆(主)	海老澤　薫				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本演習は、栄養士免許取得必要な栄養士の専門科目のうち、
特に基礎分野の知識の整理と定着をはかること、
および社会のニーズに合った専門的知識と技能の修得を目的とする。
具体的には、食品学・食品衛生学分野、栄養学分野を中心とした演習、
および特別講師を招聘して防災に関する演習などを行う。
（オムニバス方式／全15回）
（1.海老澤薫/7回）食品学総論、食品学各論（加工学含む）、食品衛生学について演習を行う。
（2.坂井孝/5回）基礎栄養学、生化学、解剖生理学について演習を行う。
（3.諏訪清二/3回）防災について演習を行う。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
A-1. プロフェッショナリズム
A-6. 連携と協働

到達目標

1.「食べる」ことによる身体の変化について説明できる
2.「生きる」ために必要な生体組織の役割について説明できる
3.「生きる」ために必要なエネルギーについて説明できる
4.五大栄養素および嗜好成分の性質と化学的特徴、食品成分間反応について説明できる
5.食品の分類法、食材各種の特徴ならびに食品の調理・加工・保存性との関連性が説明できる
6.食中毒および食品の腐敗や劣化の原因ならびに防止方法ついて説明できる
7.一般衛生管理やHACCP、大量調理施設衛生管理マニュアルについて説明できる
8.自然・人・社会と災害の関係性を広い視点でとらえ、説明できる。
9.ハザード別に、正しい備えの方法を理解し、実行できる。
10.ハザード別に、災害発生時の正しい対応の仕方を理解し、説明できる。

授業計画

第1回　ガイダンス、食品衛生学分野①：食中毒・腐敗・劣化の分類と原因、防止方法について　（担当：海老澤薫）
第2回　食品衛生分野②：調理施設における一般的衛生管理およびHACCPについて（担当：海老澤薫）
第3回　自然災害に関する基礎知識（担当：諏訪清二）
第4回　防災に関する基礎知識（担当：諏訪清二）
第5回　自然災害時に役立つ調理実習（担当：海老澤薫）
第6回　自然災害時における地域との連携について（担当：坂井孝）
第7回　防災に関する演習（担当：諏訪清二）
第8回　「食べる」を科学する：「空腹」による身体の反応について（担当：坂井孝）
第9回　「生きる」を科学する①：生体組織の役割について（担当：坂井孝）
第10回　「生きる」を科学する②：エネルギー代謝について（担当：坂井孝）
第11回　食品学総論・各論分野①：食品の分類法、食材各種の特徴について（担当：海老澤薫）
第12回　食品学総論・各論分野②：食品成分および食材と調理・加工・保存性との関連性について（担当：海老澤薫）
第13回　普通救命講習①：応急手当の基本、心肺蘇生法、AEDの取り扱いについて（担当：海老澤薫）
第14回　普通救命講習②：止血法、気道異物除去法について（担当：坂井孝）
第15回　食品衛生分野③：厨房施設における危害分析とHACCPプランの作成について（担当：海老澤薫）
＊学外で実施する場合がある
＊状況により授業内容が前後する場合がある

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：指定された教科書または資料の予習を行い、不明点を明らかにする。
事後学習：授業内で解説した教科書、プリント、配信課題等の問題を再度解き、講義内容の要点をまとめる等、授業の振り返りを行う。また、授業で課された課題は、提出期限までに提出する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については採点および講評を行い、フィードバックする。
小テストについては、採点を行い解答および解説を提示し、フィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・正当な理由なく定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	毎回の授業で出される小テストや課題等の達成度（取り組み姿勢も含む）ついて評価する。 海老澤担当（45） 坂井担当（30） 諏訪担当（15）	1～10
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポート課題	1～10
その他	0		

テキスト	海老澤担当：1年次で使用した食品学総論、食品学各論Ⅰ、食品衛生学、の教科書および配布資料を使用する。 坂井担当：1年次で使用した基礎栄養学、解剖生理学、生化学の教科書を使用する。 諏訪担当：使用しない。
参考書	必要に応じて紹介または配信する。
履修条件・他の科目との関連	栄養学科の必履修科目である。 栄養士免許の取得を目指す学生は、本科目を履修し受講すること。 この科目は1年次に履修した栄養学、食品学、食品衛生学、調理学分野の知識の整理および再確認を行い、2年次履修科目の理解を深めるためのものである。 それぞれの科目は密接に関連しているため、予習・復習を確実に行い、各回の授業に臨むこと。 出欠確認や課題の提出期限等については、各回の担当教員の指示に従うこと。 授業を欠席した場合は、Classroomを確認して自主学習を行うこと（資料等もこちらから入手すること）。 学外で実習（演習）を行うことがある。

授業コード	22048701	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	栄養士総合演習Ⅱ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	坂井　孝、海老澤　薫、土井　玲奈、井上　幹太、久木　久美子				
シラバス執筆（主）	坂井　孝				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本演習は、栄養士免許取得に必要な栄養士専門科目について、各科目をオムニバス形式（教員5名）で実施し、知識の整理と定着をはかり、栄養士としての総合力を強化することを目的とする。授業は、実際に出題された栄養士実力認定試験問題を中心に解くことで分野毎の学習すべき点を整理して知識を定着する。（オムニバス方式／全15回）
（1.海老澤薫／3回）
（2.坂井孝／6回）
（3.井上幹太／1回）
（4.土井玲奈／4回）
（5.久木久美子／1回）

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
A-1. プロフェッショナリズム
A-6. 連携と協働

到達目標

1.栄養士としての専門知識が説明できる。
2.栄養士としての総合力を強化し、実践できる。
3.即戦力として多様な栄養士としての実務に応用できる。

授業計画

【第1回】オリエンテーション・2年次前期の栄養士実力認定試験対策の復習テストを行う。（担当：坂井孝）
【第2回】栄養士実力認定試験過去問題を解く1-①
（公衆衛生学、社会福祉概論、解剖生理学、生化学、食品学総論、食品学各論、食品衛生学）（担当：久木久美子）
【第3回】栄養士実力認定試験過去問題を解く1-②
（栄養学総論、栄養学各論、臨床栄養学概論、栄養指導論、公衆栄養学概論、調理学、給食管理論、総合力問題）（担当：海老澤薫）
【第4回】栄養士実力認定試験過去問題を解く1-③
（①、②の確認テストを解く）（担当：土井玲奈）
【第5回】栄養士実力認定試験過去問題を解く2-①
（公衆衛生学、社会福祉概論、解剖生理学、生化学、食品学総論、食品学各論、食品衛生学）（担当：坂井孝）
【第6回】栄養士実力認定試験過去問題を解く2-②
（栄養学総論、栄養学各論、臨床栄養学概論、栄養指導論、公衆栄養学概論、調理学、給食管理論、総合力問題）（担当：海老澤薫）
【第7回】栄養士実力認定試験過去問題を解く2-③
（①、②の確認テストを解く）（担当：井上幹太）
【第8回】栄養士実力認定試験過去問題を解く3-①
（公衆衛生学、社会福祉概論、解剖生理学、生化学、食品学総論、食品学各論、食品衛生学）（担当：坂井孝）
【第9回】栄養士実力認定試験過去問題を解く3-②
（栄養学総論、栄養学各論、臨床栄養学概論、栄養指導論、公衆栄養学概論、調理学、給食管理論、総合力問題）（担当：土井玲奈）
【第10回】栄養士実力認定試験過去問題を解く3-③
（①、②の確認テストを解く）（担当：海老澤薫）
【第11回】栄養士実力認定試験過去問題を解く4-①
（公衆衛生学、社会福祉概論、解剖生理学、生化学、食品学総論、食品学各論、食品衛生学）（担当：坂井孝）
【第12回】栄養士実力認定試験過去問題を解く4-②
（栄養学総論、栄養学各論、臨床栄養学概論、栄養指導論、公衆栄養学概論、調理学、給食管理論、総合力問題）（担当：土井玲奈）
【第13回】栄養士実力認定試験過去問題を解く4-③
（①、②の確認テストを解く）（担当：土井玲奈）
【第14回】栄養士実力認定模擬試験を行う。（担当：坂井孝）
【第15回】栄養士実力認定試験を行う。（担当：坂井孝）
※進行によっては、授業計画（担当者を含む）を変更する場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：各科目の教科書または指定された資料の予習を行い、不明点を明らかにする。（各回2時間以上）。
事後学習：講義内容（誤答部分）の修正を行い、要点をまとめるなどの授業を振り返り、知識の定着を図る（各回2時間以上）。

課題に対するフィードバックの方法

課題・模擬問題については解説を行うので復習すること。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

栄養士免許取得を希望している学生は必ず履修し受講すること。
但し、1年次科目を再履修しなければならない場合は、この限りではない。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
「各回の授業の達成度」は、レポート課題や模擬問題による小テストなど担当教員により異なる。各回の案内を確認すること。
※5回を超えての欠席はK評価となる。また、正当な理由なく「定期試験に代わるレポート課題」が決められた期限までに提出しなかった場合もK評価となる。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	第1～13回の授業達成度について③の確認テストの得点を反映する（40） 第14回栄養士実力認定試験模擬試験の受験結果を反映する（30） 第15回栄養士実力認定試験の受験結果を反映する（20）	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	第15回の栄養士実力認定試験に関するレポートについて達成状況を評価する（10）	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	『栄養士実力認定試験一問一答　第3版』 川端輝江,岩間範子／監修 女子栄養大学出版部1,430円 ISBN：978-4-7895-2451-3 その他、必要に応じてプリントを配付する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	〈他の科目との関連〉 本科目は、1年次、2年次に履修した栄養士免許関連科目と関連する。 授業開始までに指定のテキスト（栄養士実力認定試験一問一答　第3版）、これまでの各科目で使用した教材および栄養士実力認定試験対策資料を用いて、履修済みの科目について復習を行うこと。 〈欠席時の配付資料の受け取りについて〉 配布時に欠席した場合には、教員まで配付資料の有無を確認して受け取りについて申し出ること

授業コード	22019401	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	調理学　［対面］				
シラバス執筆(全員)	久木　久美子				
シラバス執筆(主)	久木　久美子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、安全でおいしく、利用者に対して適切な食事を提供するために、食事を構成する各食材料についての調理性およびその調理操作、さらに食べ物の嗜好性を理解することを目的とする。具体的には、調理の意義、植物性食品、動物性食品、油脂類、ゲル化剤・とろみ剤、調味料・香辛料、嗜好飲料の調理性、さらに加熱調理操作・非加熱調理操作、調理器具の原理や使用法、おいしさに関与する要因について説明する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
D-2食事と調理の科学の理解
2-1）調理の基本
2-2）食べ物のおいしさの評価と応用

到達目標

1.　調理の意義を説明できる。
2.　植物性食品の調理性が説明できる。
3.　動物性食品の調理性が説明できる。
4.　油脂類の調理性が説明できる。
5.　ゲル化剤・とろみ剤の調理性が説明できる。
6.　調味料・香辛料の調理性が説明できる。
7.　嗜好飲料の調理性が説明できる。
8.　加熱調理操作と加熱用器具・要点が説明できる
9.　非加熱調理操作と非加熱用器具の原理や要点が説明できる。
10.　おいしさに関与する客観的要因（化学的・物理的要因）・主観的要因（食文化・食環境・身体状況）について説明できる。

授業計画

第1回　調理の目的
　　調理文化　（映像の視聴）
　　食べ物のおいしさ
第2回　調理操作（非加熱調理操作、加熱調理操作）
第3回　米の調理科学
第4回　小麦粉の調理科学
第5回　いもの調理科学
第6回　豆類の調理科学
第7回　野菜の調理科学（DVD等の視聴）
第8回　果実・キノコ類・藻類の調理科学
第9回　肉類・魚介類の調理科学（DVD等の視聴）
第10回　卵の調理科学
第11回　乳類・油脂類　調理科学
第12回　油脂類・ゲル化剤の調理科学
第13回　ゲル化剤・とろみ剤の調理科学
第14回　味・色・香り（香辛料）の調理科学
第15回　調味料・嗜好飲料の調理科学、調理機器

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回を通じて、
【事前】授業終了時に予習すべき内容を伝えるので、教科書を読んでおくこと。
【事後】授業内で学んだ知識を実践の場である調理学実習Ｉで生かすため、授業ノート、教科書を読み返し、必要に応じ実習書に書き込む。また､確認テストを実施するので､しっかりと勉強をすること。

課題に対するフィードバックの方法

①DVD等の視聴によるレポートは授業時間内で完成させ点検を受ける。内容が不十分な場合は、再度映像を視聴し、追記・修正後再提出する。
②確認テストは、グーグルフォームにより実施するので、学生はノートパソコンから回答する。
確認テストの結果はすぐにわかるようになっている。また、正しい解答を示しているので、間違えた問題と正しい答えをノートに書き写し、復習に役立てる。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。

●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・正当な理由なく定期試験を欠席した場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	レポートの完成度について評価（20） 確認テストの結果について評価（30）	1～10
授業外での評価	0		
定期試験	50	定期試験の結果について評価（50）	2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	はじめて学ぶ　健康・栄養教科書シリーズ　10　調理学　久木久美子他　化学同人 9784759814507　本体価格2100円 食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表2023（2023年10月16日出版）新しい食生活を考える会編著、大修館書店　9784469270167　本体価格1,760円
参考書	必要に応じ紹介する。
履修条件・他の科目との関連	卒業必修科目である。また、栄養士免許必修科目でもある。 食品のことを知らなければ調理することはできない。日頃から食品売り場に行き、色々な食品を見て回ることが大切である。 この授業は調理学実習Iと連動した科目のため、調理学実習Ⅰの実習内容により、授業内容が前後することがある。

授業コード	22019501	授業形態	実習	実務家教員	ー
授業科目名	調理学実習Ⅰ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	久木　久美子				
シラバス執筆(主)	久木　久美子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

本実習は、安全でおいしく、利用者に対して適切な食事を提供する際に必要な知識（各食材の特徴・調理性、安全性、食中毒、食品成分表）を活用し、基本的な調理技術と実務能力を身につけることを目的とする。具体的には、非加熱調理操作および加熱調理操作の基本的な調理や各食材を適切に調理する、調理器具を適切に調理に活用する、だしのおいしさについて評価する、食品成分表を用い基本的な栄養価計算を行う、チームとして行動するためのコミュニケーションを図るなど、調理で必要とされるスキルを獲得するための実習を行う。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
D-2食事と調理の科学の理解
2-1）調理の基本
2-2）食べ物のおいしさの評価と応用
A-4プロフェッショナルリズム
A-5栄養・食の質と安全の管理
A-6連携と協働

以下の項目とも関連する
D-1　食べ物と健康の関連の理解
1-1）食品成分表
1-2）食材の特徴と調理・加工
1-3）食品の安全性
1-4）病原性微生物,有害物質による食品の汚染とその防止

D-2食事と調理の科学の理解
2-3）食事計画と調理・食事提供
2-4）食文化と調理

到達目標

１．非加熱調理操作（はかる、洗う、漬ける、切るなど）の基本的な調理ができる
２．加熱調理操作（湿式加熱：ゆでる、煮る、蒸す、炊く　乾式加熱：焼く、炒める、揚げる）の基本的な調理ができる
３．各食材（植物性食品、動物性食品、ゲル化剤・とろみ剤、だし、調味料・香辛料）を適切に調理できる
４．調理器具を適切に調理に活用できる
５．だしのおいしさについて評価できる
６．食品成分表を用い基本的な栄養価計算ができる
７．チームとして行動するために必要なコミュニケーションを取ることができる

授業計画

第3～13回目の実習後に「実習レポート」の提出を求める（オリエンテーション時に担当提出回を決定する）。
【第1回】 オリエンテーション
　実習の進め方、当番の仕事、出席・遅刻・早退の扱いについて　他
【第2回】 調理の基本を学ぶ①
　炊飯、だしの取り方（かつおだし）、野菜の切り方（せん切り、短冊切り 他）、あくの取り方
【第3回】 調理の基本を学ぶ②
　炊飯（おにぎり）、だし巻き卵焼き、野菜の切り方（小口切り：酢の物）、計量カップ・計量スプーンの使い方
【第4回】 調理の基本を学ぶ③
　炊き込みご飯（塩味）、炒め物（きんぴらごぼう）、だしの取り方（いりこ）、切り方（いちょう切り、千六本）
【第5回】 製菓の基本を学ぶ①
　スポンジケーキ、生クリームの取り扱い、紅茶の入れ方
【第6回】 調理の基本を学ぶ④
　焼き物（フライパンで焼く）、野菜の切り方（みじん切り、せん切り、くし形切り他）
　野菜の切り方テスト
【第7回】 調理の基本を学ぶ⑤、製菓の基本を学ぶ②
　焼き物（卵料理 オムレツ）、ポタージュの基本、クッキー
【第8回】 調理の基本を学ぶ⑥
　日本料理：魚の下処理・姿焼き、煮物、アガーの取り扱い
【第9回】 調理の基本を学ぶ⑦
　中国料理：野菜の切り方、片栗粉で濃度をつける、粉寒天の取り扱い
【第10回】調理の基本を学ぶ⑧
　西洋料理：オーブン料理、ホワイトソース、トマトの湯向き、ドレッシングの作り方、粉ゼラチンの取り扱い
【第11回】調理の基本を学ぶ⑨

中国料理：揚げ物（から揚げ）、中華スープ、甘酢漬け、蒸し物（カステラ）、蒸し器の使い方
【第12回】調理の基本を学ぶ⑩
日本料理：揚げ物（衣揚げ）、和え物（青菜）、澄まし汁、だしの取り方（一番だし）
【第13回】調理の基本を学ぶ⑪
日本料理：茹でる、煮る（そうめん、鶏肉、温泉卵、田楽みそ、わらびもち）、焼く（焼きなす）
【第14回】調理技術確認テスト
【第15回】製菓の基本を学ぶ③
メレンゲの作成（シフォンケーキ）、アイスコーヒーの入れ方

※材料の納入状況等により実習内容を変更する場合がある。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

各回を通じて、
【事前】レシピに目を通し、必要事項を記入し、作業がわからない内容については質問できるように準備しておく。また、参考になる動画をClassroomにアップロードするので、繰り返し動画を視聴し、動画で学んだことを必ずレシピのところに書き込んでおく。

【事後】実習中に学んだ調理の要点、試食した感想、栄養価を計算し、献立作成に役立つよう実習記録をつけておく（実習レポート及び実習ノートの作成）。

課題に対するフィードバックの方法

実習レポートは内容を点検し、コメントを記入し次の週に返却する。「再提出」とされた場合は、内容を見直し再度点検を受ける。
なお、実習レポートは、「学籍番号、名前が記入されていること」、「実習レシピがそろっていること」、「栄養価計算をしていること」、「レポートの左上をホッチキスで留めていること」が提出する際の条件となる。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
成績評価に示された各評価の合格レベルは、オリエンテーション時に説明する。
【「K」評価となる場合】
・3回を超えて欠席した場合
・定期試験にかわる実習ノートが期限までに提出できなかった場合
・実習レポートが、指定された期限までに既定された提出回数を満たしていない場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	65	実習への取り組み姿勢を評価（45） 調理技術確認テストの結果を評価（10） 班員との協力姿勢等を評価（10）	1, 2, 3, 4, 5, 7
授業外での評価	20	実習レポート（栄養価計算を含む）の完成度を評価（15） 自宅での調理に取り組む姿勢を評価（5）	1, 2, 3, 4, 5, 6
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	実習ノートの完成度（15）	1, 2, 3, 4, 5, 6
その他	0		

テキスト	レシピ（プリント）は配付する。 栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎　坂本他　化学同人　本体価格1500円　9784759818260 食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表2023（2023年10月16日出版）新しい食生活を考える会編著　大修館書店　本体価格1,760円　9784469270167
参考書	はじめようHACCP　HACCPの考え方を取り入れた衛生管理のための手引き書　公益社団法人日本食品衛生協会　本体価格700円: 9784889250978 そのほか、必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	栄養士免許必修科目である。 この授業は調理学と連動した科目である。調理学でしっかりと理論を学び、実習で技術力を身につける。 なお、技術力を定着させるためには、自宅での調理経験を積むことが大切である。 実習を欠席した場合は、Classroomにレシピ（プリント）をアップロードしておくので印刷をし予習をしておくこと。

授業コード	22019601	授業形態	実習	実務家教員	ー
授業科目名	調理学実習Ⅱ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	久木　久美子				
シラバス執筆(主)	久木　久美子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

本実習は、調理学実習Ｉで身につけた基本的な調理技術と実務能力をさらに向上させ定着させることを目的とする。具体的には、IH調理台・圧力鍋・オーブン・蒸し器・フードプロセッサーなどの調理器具を活用しながら、日常食・行事食・郷土料理・世界各国の料理の基本的な調理を行う。また、食べ物の嗜好性について評価し、改善するとともにチームで協働し調理工程作業を組み立て、定められた時間内で料理を仕上げる力をつけるための実習を実施する。さらに、食品成分表を用いてより実際に即した栄養価計算スキルを獲得するために、必要に応じ実習時やClassroomを用い説明する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
D-2食事と調理の科学の理解
2-1）調理の基本
2-2）食べ物のおいしさの評価と応用
2-3）食事計画と調理・食事提供
2-4）食文化と調理
A-4プロフェッショナルリズム
A-5栄養・食の質と安全の管理
A-6連携と協働

以下の項目とも関連する。
D-1　食べ物と健康の関連の理解
1-3）食品の安全性
1-4）病原性微生物、有害物質による食品の汚染とその防止

到達目標

1.　食材を指定された切り方で時間内に切ることができる
2.　定められた時間内で料理を仕上げることができる。
3.　日常的な食事の配膳ができる
4.　一人分の適正な分量と調味料の使用量が説明できる
5.　IH調理台・圧力鍋・フードプロセッサーなどの調理器具が使用できる
6.　食べ物の嗜好性（視覚、味覚）について評価し、改善することができる
7.　食品成分表を用いてより実際に即した栄養価計算ができる
8.　チームで協働し調理工程作業を組み立て実施することができる

授業計画

第1～12回目の実習後に「実習レポート」の提出を求める(オリエンテーション時に担当提出回を決定する)。

【第1回】オリエンテーション、基本調理の確認
【第2回】もち米料理（炊きおこわ）、乾物料理3種（ひじき、高野豆腐、切り干し大根）
【第3回】煮込み料理(チキンスープストックの取り方）、蒸し焼き料理（パピヨット）、サラダ
【第4回】日本料理：炊き込みご飯（しょうゆ味）、魚の照り焼き、煮浸し、糸寒天の取り扱い
【第5回】西洋料理：パスタ料理、コールスローサラダ、バスク風チーズケーキ（フードプロセッサーの使い方）
　　調理技術確認テスト
【第6回】中国料理：焼き餃子、蒸し鶏のピリ辛サラダ、春雨のスープ、さつまいものあめ衣
【第7回】魚料理：いわしの手開き（フライ）、黒豆おこわ、マヨネーズサラダ（いも類）
【第8回】中国料理：甘酢あん（酢豚）、酢の物（くらげの酢の物）、卵蒸し料理（中華風茶碗蒸し）、もち菓子（ごまあん団子）
【第9回】魚料理：魚の三枚おろし（ムニエル）、汁物（豆腐）、黄身酢和え
【第10回】日本料理：巻きずし(厚焼き卵）、潮汁
【第11回】日本料理：雑煮、おせち料理　１
【第12回】日本料理：七草がゆ、おせち料理　２
【第13回】おもてなし料理：ビーフストロガノフ、ミネストローネ、ジャマンポテト、パウンドケーキ
【第14回】調理技術確認テスト
【第15回】軽食、大掃除

※材料の納入状況、班編制により実習内容を変更する場合がある。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

各回を通じて、

【事前】レシピに目を通し、必要事項を記入し、作業がわからない内容については質問できるように準備しておく。また、参考となる動画をClassroomにアップロードするので、繰り返し動画を視聴し、必ずレシピのところに書き込んでおく。

【事後】実習中に学んだ調理の要点、試食した感想、栄養価を計算し、献立作成に役立つよう実習記録をつけておく（実習レポート及び実習ノートの作成）。

課題に対するフィードバックの方法

実習レポートは内容を点検し、コメントを記入し次の週に返却する。「再提出」とされた場合は、内容を見直し再度点検を受ける。
なお、実習レポートは、「学籍番号、名前が記入されていること」、「実習レシピがそろっていること」、「栄養価計算をしていること」、「レポートの左上をホッチキスで留めていること」が提出する際の条件である。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
成績評価に示された各評価の合格レベルは、オリエンテーション時に説明する。
【「K」評価となる場合】
・3回を超えて欠席した場合
・定期試験にかわる実習ノートが期限までに提出できなかった場合
・実習レポートが、指定された期限までに既定された提出回数を満たしていない場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	実習への取り組み姿勢を評価（45） 調理技術確認テストの結果を評価（15） 班員との協力姿勢等を評価（10）	1, 2, 3, 4, 5, 6, 8
授業外での評価	15	実習レポート（栄養価計算を含む）の完成度を評価（15）	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	実習ノートの完成度（15）	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
その他	0		

テキスト	レシピ（プリント）は配付する。 栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎　坂本他　化学同人　本体価格1500円　9784759818260 食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表2023（2023年10月16日出版）新しい食生活を考える会編著　大修館書店　本体価格1,760円　9784469270167
参考書	はじめようHACCP　HACCPの考え方を取り入れた衛生管理のための手引き書　公益社団法人日本食品衛生協会　本体価格700円: 9784889250978 そのほか、必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	栄養士免許必修科目である。 調理学実習Ｉからの積み上げ科目である。調理学実習Ｉでしっかりと基礎の技術力を身につけておくこと。 実習を欠席した場合は、Classroomにレシピ（プリント）をアップロードしておくので、次の実習までに印刷し、予習をしておくこと。

授業コード	22033401	授業形態	実習	実務家教員	ー
授業科目名	調理学実習Ⅲ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	西尾　幸子				
シラバス執筆(主)	西尾　幸子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

本実習は、調理学実習Ⅱで身につけた調理技術や知識を活かし、利用者に対して安心・安全でおいしい食事を提供するための実践力を身につけることを目的とする。具体的には、市場に出回っている多くの食材や調味料の特徴を活かし適切な調理法を選択し、季節感（旬の食材）を大切に調理をする、味付け・盛り付け・配膳まで気を配り調理する、食事を安心・安全に提供するための調理を実践する。
【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
D-2食事と調理の科学の理解
2-1）調理の基本
2-2）食べ物のおいしさの評価と応用
2-3）食事計画と調理・食事提供
2-4）食文化と調理
D-1　食べ物と健康の関連の理解
1-3）食品の安全性
1-4）病原性微生物,有害物質による食品の汚染とその防止

次の項目とも関連する
A-4プロフェッショナルリズム
A-5栄養・食の質と安全の管理
A-6連携と協働

到達目標

1. 市場に出回っている多くの食材や調味料の特徴を活かし、適切な調理法を選択することができる
2. 季節感(旬の食材)を大切に調理することができる
3. 味付け・盛り付け・配膳まで気を配り調理することができる
4. 食事を安心・安全に提供できるための調理法を実践できる

授業計画

【第1回】オリエンテーション、調理の基本と復習
：基本の切り方、実習の手順と進め方、盛り付け・配膳・料理の演出、箸の持ち方

【第2回】基本の調理技術の確認テスト
：包丁の扱い・切り方確認テスト

【第3回】魚の下処理、煮魚のコツ、だしの種類と取り方の復習、飾り切り、合わせ酢の種類と用途　（日本料理）
：さつま芋ご飯、魚の煮つけ、蛇腹きゅうりの生姜酢、沢煮椀

【第4回】肉種の応用、えびの下処理、大豆もやしと青菜の茹で方、とろみのつけ方の復習　（中国料理）
：にらまんじゅう、大豆もやしと青菜のナムル、中華風コーンスープ

【第5回】パスタの種類と用途、貝の扱いと保存　（西洋料理）
：ペンネ・オルトラーナ（菜園風）、あさりのチャウダー、豆乳のデザート

【第6回】圧力鍋の扱いと注意点、春雨について（エスニック風料理）
：しょうがご飯、圧力鍋を使った煮込み、春雨のタイ風サラダ、卵とオクラのスープ

【第7回】調理技術確認テスト

【第8回】季節の蒸し物、和え衣について、酒かすの扱い 、裏ごしの使い方（日本料理）
：れんこんご飯、白身魚のかぶら蒸し、春菊の白和え、酒かす汁

【第9回】ハンバーグ材料の応用、マッシュポテトの作り方、ブイヨンとコンソメについて　（西洋料理）
：シェパードパイ、蒸し豆とトマトのサラダ、もち麦入りスープ

【第10回】おもてなし料理　（中国料理）
：中華おこわ、海鮮のレタス包み、酸辣湯、中華クッキー

【第11回】おもてなし料理　（西洋料理）
：バターライス、ローストポーク、キノコのスープ、簡単ティラミス

【第12回】お正月料理　　（飾り切り、半月盆の盛りの盛り方）

：みぞれ雑煮、若竹きゅうり、２色きんとん、伊達巻、豚肉の味噌風味、れんこんの炒めなます

【第13回】クリスマス料理
：フリカッセ・ド・プーレ（鶏肉の白い煮込み）、フレッシュチーズのサラダ、クレープ・リンゴのキャラメリゼ添え

【第14回】おもてなし料理　（日本料理）
：梅の香ご飯、牛肉の柚子こしょう風味、さつま芋と果物のおろし和え、茶わん蒸し、和菓子

【第15回】軽食（中国料理）、授業のまとめ、掃除
：天津飯、鶏手羽のスープ

※　授業計画は、食材の入荷状況、授業の進行状況によって変更する場合があります

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

授業（１回につき３時間として計算）と事前事後を合わせて１単位あたり45時間が必要です。
【事前の学習】：配付した実習プリントを熟読し、必要箇所に記入しておく。わからないところは質問できるようにしておく。
【事後の学習】：実習レポート(振り返りシート)を作成し、完成させておく。
学んだ調理上のポイント、食品や調味料などの特徴、感想、考察などの実習記録をまとめる。
毎回の課題について検索し、まとめておく。

課題に対するフィードバックの方法

各回の実習レポート（振り返りシート）、課題レポートを点検、確認し、コメントを記入して次回に返却する。
再提出となった場合は、再確認を受ける。
実技については、技術不足を個別で指導する。
やむを得ず欠席した場合は、別課題を出題し、レポートを作成する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格点とし、所定の単位を認定する。

※　正当な理由がなく５回を超えての欠席（欠席5回、遅刻1回）は「 K 」評価となる。
※　正当な理由がなく「定期試験に代わるレポート」を指定した期限までに提出しなかった場合は「K」評価となる。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	実習への取り組み姿勢、実習態度を評価　(35) 班員との協力姿勢の評価　(10) 調理技術確認テストの結果を評価　(15)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	30	実習レポート(振り返りシート)の完成度を評価(30)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポート課題の結果を評価(10)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、プリントを配付する
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	栄養士免許必修科目である。 「調理学実習Ⅰ・Ⅱ」からの積み上げ科目です。「調理学実習Ⅰ・Ⅱ」が履修できていないと「調理学実習Ⅲ」を受講できません。 基本の切り方、調理法をしっかりと理解し、普段から調理をする機会を作り、基本的な調理技術を身につけておく。 やむを得ず欠席した場合は、Classroomに配付された次回の資料を熟読し予習をしておくこと。 （次回の実習プリントは、教員・教職センターまで取りに来ること。）

授業コード	22011301	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	給食管理　［対面］				
シラバス執筆(全員)	井上　幹太				
シラバス執筆(主)	井上　幹太				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的･概要

本講義は、給食の概念、給食運営のマネジメント、給食施設における栄養管理と品質管理、食材料管理、給食の生産・提供における衛生管理、給食の生産管理、給食施設における事故対策の基本について説明できることを目的とする。給食の意義・役割を理解し、利用者に適切な食事を提供するための給食運営に必要な実践的な知識や技術を講義形態で概説する。具体的には、食品の安全の確保や衛生管理に必要な法規や制度を説明する、食品の汚染と防止法を説明する、特定給食施設の種類別の目的と特徴を説明する、給食運営における管理業務とマネジメントサイクルを説明する、給食の品質管理の意義とその方法について説明する、衛生管理プログラムと HACCP システムとの関連を説明する、給食施設により生産・提供システムが異なることを説明する、給食施設における事故対策の必要性について説明する。
担当教員が社会福祉施設や給食会社に勤務した経験をもとに、実務家教員として、理論と実務をつなげる授業を行う。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
D-1食べ物と健康の関連の理解
1-3）食品の安全性
1-4）病原性微生物，有害物質による食品の汚染とその防止
D-3給食と給食運営管理の理解
3-1）給食の概念
3-2）給食運営のマネジメント
3-3）給食施設における栄養管理と品質管理
3-4）食材料管理
3-5）給食の生産・提供における衛生管理
3-6）給食の生産管理
3-7）給食施設における事故対策の基本

以下の項目とも関連する
A-3対象者の理解と食事の管理を中心とした栄養管理の実践
A-2栄養学の知識と課題対応能力
A-5栄養・食の質と安全の管理
A-6連携と協働
C-4食事の管理を中心とした栄養管理の基本

到達目標

1.食品の安全の確保や衛生管理に必要な法規や制度を説明できる。
2.食品の汚染と防止法を説明できる。
3.特定給食施設の種類別の目的と特徴を説明できる。
4.給食運営における管理業務とマネジメントサイクルを説明できる。
5.給食の品質管理の意義とその方法について説明できる。
6.衛生管理プログラムと HACCP システムとの関連を説明できる。
7.給食施設により生産・提供システムが異なることを説明できる。
8.給食施設における事故対策の必要性について説明できる。

授業計画

【第1回】オリエンテーション：オリエンテーション・給食の概念について学ぶ
【第2回】栄養・食事管理：給食を管理するための食事計画や栄養教育、ＰＤＣＡを学ぶ
【第3回】給食の品質：品質管理・献立の標準化・ＩＳＯ
【第4回】給食の生産①：食材料の管理について学ぶ
【第5回】給食の生産②：生産（調理）と提供、大量調理の特性や少量調理の違い、方法を学ぶ
【第6回】給食の安全・衛生①：食中毒やＨＡＣＣＰについて学ぶ
【第7回】給食の安全・衛生②：大量調理施設衛生管理マニュアルを学ぶ
【第8回】給食の安全・衛生③：検食の意味、保存食の重要性を学ぶ
【第9回】給食の安全・衛生④：事故や災害時における給食の役割・対応について学ぶ
【第10回】給食の施設・設備：給食施設の設備やその基準と関連法規を学ぶ
【第11回】経営管理：給食経営に必要な資源や組織について学ぶ
【第12回】給食の人事・事務、会計・原価について学ぶ
【第13回】各種給食施設①：病院や介護福祉施設等の特性について学ぶ
【第14回】各種給食施設②：学校や事業所、その他の給食施設の特性について学ぶ
【第15回】まとめ　1～14の振り返り

※進行によっては、授業計画が前後する場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：授業終了時に予習すべき内容を伝えるので、教科書を読んでおくこと。
事後学習：授業内で学んだ知識を授業ノート、教科書を読み返し、必要に応じ実習書に書き込む。
小テストを実施するので、しっかり勉強すること。
定期的にノート提出のため、しっかりまとめておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

小テストについて、翌週以降に適宜授業内で解説する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・正当な理由なく定期試験を欠席した場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	授業における発表姿勢・内容を評価する（15） 授業における小テストの点数で評価する（20：1回5点で4回実施）	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8
授業外での評価	15	ノートの完成度を評価する（15：1回5点で3回実施）	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8
定期試験	50	筆記試験（50）	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	「新・実践　給食経営管理論＜第4版＞」―栄養・安全・経済面のマネジメント―、藤原政嘉・田中俊治・赤尾正　編、株式会社みらい、3,080円（税込・予価）、ISBN未記載（図書改定のため） 「日本食品成分表2025 八訂　栄養計算ソフト・電子版付 」医歯薬出版　編、定価 1,870円（本体 1,700円＋税10%）、ISBN978-4-263-70149-2
参考書	適宜紹介する。
履修条件・他の科目との関連	本科目は栄養士免許必修科目である。 授業を欠席した場合は、次の回までに授業内容を確認し自宅学習をすること。 欠席時の配付プリントは次回の授業までに申し出ること。 〈他の科目との関連〉 基礎栄養学、食品学、応用栄養学、調理学、食品衛生学と関連する。

授業コード	22033601	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	給食計画論　［対面］				
シラバス執筆(全員)	井上　幹太				
シラバス執筆(主)	井上　幹太				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的･概要

本講義は、食事計画と調理・食事提供、給食施設における栄養管理と品質管理、食品成分表について身に付けることを目的とする。給食の意義・役割を理解し、利用者に適切な食事を提供するための給食運営に必要な実践的な知識や技術を講義形態で概説する。具体的には、食品成分表の利用における留意点を説明する、主食・主菜・副菜を組み合わせた日常食の計画を説明する、食品成分表を食事計画に活用する方法を説明する、「日本人の食事摂取基準」を活用して対象者に応じた食事計画を説明する、調味パーセントを活用した調味の標準化を説明する、給食施設の給与栄養目標量を算出できるよう説明する。給食の運営業務における給食計画や給食施設の特性に基づいた生産管理について、食事の計画や献立作成、評価、調理を含めた給食計画に関することを総合的に説明する。
担当教員が社会福祉施設や給食会社に勤務した経験をもとに、実務家教員として、理論と実務をつなげる授業を行う。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
D-1食べ物と健康の関連の理解
1-1）食品成分表
D-2食事と調理の科学の理解
2-3）食事計画と調理・食事提供
D-3給食と給食運営管理の理解
3-3）給食施設における栄養管理と品質管理

以下の項目とも関連する
A-1プロフェッショナリズム
A-2栄養学の知識と課題対応能力
A-3対象者の理解と食事の管理を中心とした栄養管理の実践
A-5栄養・食の質と安全の管理

到達目標

1.食品成分表の利用における留意点を説明できる。
2.主食・主菜・副菜を組み合わせた日常食を計画できる。
3.食品成分表を食事計画に活用できる。
4.食事摂取基準を活用して対象者に応じた食事計画ができる。
5.調味パーセントを活用した調味の標準化ができる。
6.給食施設の給与栄養目標量を算出できる。

授業計画

【第1回】オリエンテーション-：オリエンテーション、給食計画の目的について学ぶ
【第2回】献立作成の基本：主食・主菜・副菜について、メニューの組み合わせについて、食材の重量感覚、塩分濃度、戻し率について学ぶ
【第3回】給与栄養目標量の設定①：給与栄養目標量の算出方法を学ぶ
【第4回】給与栄養目標量の設定②：給与栄養目標量の作成方法について学ぶ
【第5回】食品群別加重平均成分表の作成：食品群別加重平均成分表の作成方法を学ぶ
【第6回】食品構成表の作成①：穀類と動物性食品の決定方法を学ぶ
【第7回】食品構成表の作成②：植物性食品と調味料・油脂・砂糖の算出方法を学ぶ
【第8回】食品構成表の作成③：食品構成表の栄養価計算をまとめる
【第9回】献立計画①：献立計画表の作成方法を学ぶ
【第10回】献立計画②：週間献立計画表の作成方法を学ぶ
【第11回】献立計画③：食品廃棄率の計算、発注量の計算を学ぶ
【第12回】献立作成①：主菜・副菜・汁物の料理一覧表の作成、
【第13回】献立作成②：料理一覧表から料理を選び、献立を組み立てる
【第14回】献立作成③：3日間の献立作成
【第15回】まとめ：授業内容,課題のまとめ

※進行によっては、授業計画が前後する場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：授業終了時に予習すべき内容を伝えるので、教科書を読んでおくこと。
事後学習：授業内で学んだ知識を授業ノート、教科書を読み返し、必要に応じ実習書に書き込む。
小テストを実施するので、しっかり勉強すること。
定期的にノート提出のため、しっかりまとめておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

課題について、翌週以降に適宜授業内で解説する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・5回を超えて欠席した場合
・正当な理由なく定期試験を欠席した場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業における発表姿勢・内容を評価する（30）	1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	20	ノートの完成度を評価する（20：1回10点で2回実施）	1, 2, 3, 4, 5
定期試験	50	筆記試験（50）	1, 2, 3, 4, 5, 6
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	「新・実践　給食経営管理論＜第4版＞」―栄養・安全・経済面のマネジメント―、藤原政嘉・田中俊治・赤尾正　編、株式会社みらい、3,080円（税込・予価）、ISBN未記載（図書改定のため） 「食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表2023」（2023年10月16日出版）新しい食生活を考える会編著、大修館書店、1,760円（本体1,600円＋税10%）、9784469270167 「日本食品成分表2025 八訂　栄養計算ソフト・電子版付 」医歯薬出版　編、定価 1,870円（本体 1,700円＋税10%）、ISBN978-4-263-70149-2
参考書	適宜紹介する。
履修条件・他の科目との関連	本科目は栄養士免許必修科目である。 授業を欠席した場合は、次の回までに授業内容を確認し自宅学習をすること。 欠席時の配付プリントは次回の授業までに申し出ること。 〈他の科目との関連〉 基礎栄養学、食品学、応用栄養学、調理学、食品衛生学と関連する。

授業コード	22048801	授業形態	実習	実務家教員	○
授業科目名	給食管理実習　［対面］				
シラバス執筆(全員)	井上　幹太				
シラバス執筆(主)	井上　幹太				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的･概要

本実習は、給食施設における献立作成と栄養管理、品質管理、食材料管理、給食の生産・提供における衛生管理、給食の生産管理について実践できることを目的とする。大量調理の献立計画から調理・提供までの給食の運営、大量調理施設衛生管理マニュアルに基づく衛生管理を含めた給食経営管理業務の基礎について実習形態で実践する。具体的には、各食材料について適切な調理法を実施・説明する、主食・主菜・副菜を組み合わせた日常食を計画の方法を説明する、大量調理に適した献立作成を説明する、給食の目的に応じた食材料の選択を実施・説明する、衛生管理基準に沿った調理工程の衛生管理を実施する、調理機器を使用して給食の生産・提供を実施・説明する。また、実習前には喫食者の栄養指導に向けた媒体を作成し、実習終了後はアンケート調査の集計、帳票類の作成を行うことで、給食の意義・役割を理解し、利用者に適切な食事を提供するための給食運営に必要な実践的な知識や技術を実施・説明する。
担当教員が社会福祉施設や給食会社に勤務した経験をもとに、実務家教員として、理論と実務をつなげる授業を行う。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
D-2食事と調理の科学の理解
2-1）調理の基本
2-3）食事計画と調理・食事提供
D-3給食と給食運営管理の理解
3-3）給食施設における栄養管理と品質管理
3-4）食材料管理
3-5）給食の生産・提供における衛生管理
3-6）給食の生産管理

以下の項目とも関連する
A-3対象者の理解と食事の管理を中心とした栄養管理の実践
A-4栄養・食の選択と決定を支援するコミュニケーション能力
A-5栄養・食の質と安全の管理
A-6連携と協働

到達目標

1.各食材料について適切な調理ができる。
2.主食・主菜・副菜を組み合わせた日常食を計画できる。
3.大量調理に適した献立作成ができる。
4.給食の目的に応じた食材料の選択ができる。
5.衛生管理基準に沿った調理工程の衛生管理を実践できる。
6.調理機器を使用して給食の生産・提供ができる。

授業計画

授業計画
【第1回】オリエンテーション：オリエンテーション、献立の決定、調理技術実技テスト、給食管理実習室見学・役割分担決め
【第2回】大量基礎実習：食材検収、大量基礎実習
【第3回】試作1：試作・献立の改善
【第4回】改善献立の発注：献立の修正、栄養価算出、作業工程表、発注
【第5回】試作2：改善献立試作
【第6回】改善献立の発注：改善献立の修正、栄養価算出、作業工程表、発注
【第7回】帳票類の作成：作業工程表、ポスター、アンケート用紙
【第8回】大量調理実習実施にあたっての打合せ
【第9回】大量調理実習①：食材検収、学生が考案（主菜の主材料・調理方法、料理様式）した献立の調理および提供
【第10回】大量調理実習②：食材検収、学生が考案（主菜の主材料・調理方法、料理様式）した献立を調理および提供
【第11回】大量調理実習③：食材検収、学生が考案（主菜の主材料・調理方法、料理様式）した献立を調理および提供
【第12回】大量調理実習④：食材検収、学生が考案（主菜の主材料・調理方法、料理様式）した献立を調理および提供
【第13回】大量調理実習⑤：食材検収、学生が考案（主菜の主材料・調理方法、料理様式）した献立を調理および提供
【第14回】大量調理実習⑥：食材検収、学生が考案（主菜の主材料・調理方法、料理様式）した献立を調理および提供
【第15回】実務への展開：実習後資料整理、学習課題整理、まとめ

※進行によっては、授業計画が前後する場合がある。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

実習前には作業工程表に目を通し、必要事項を記入しておく。また作業がわからない内容については質問できるよう準備しておく。体調管理、自己の衛生管理を行っておく。
実習後は実習中に学んだ大量調理の要点、献立作成に役立つよう実習記録をつけておく。

課題に対するフィードバックの方法

実習課題は内容を点検し、適宜コメントを記入し返却する。
なお、実習課題は「必要な内容を記入していること」が提出の条件となる。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・3回を超えて欠席した場合
・定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	実習資料作成(30)　実習役割実践(30)	1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	10	課題(10)	4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート課題(30)	2, 3, 4
その他	0		

テキスト	「新・実践　給食経営管理論＜第4版＞」―栄養・安全・経済面のマネジメント―、藤原政嘉・田中俊治・赤尾正　編、株式会社みらい、3,080円(税込・予価)、ISBN未記載(図書改定のため) 「食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表2023」(2023年10月16日出版) 　新しい食生活を考える会編著、大修館書店、1,760円(本体1,600円＋税10%)、9784469270167 「調理のためのベーシックデータ 第6版」、女子栄養大学調理学研究室女子栄養大学短期大学部調理学研究室／監修、女子栄養大学出版部、2,200円(本体2,000＋税10%)、978-4-7895-0325-9 「日本食品成分表2025 八訂　栄養計算ソフト・電子版付 」医歯薬出版　編、定価 1,870円(本体 1,700円＋税10%)、ISBN978-4-263-70149-2
参考書	適宜紹介する。
履修条件・他の科目との関連	栄養士免許必修科目である。 月曜日、火曜日ともに授業であるため、どちらも必ず出席すること。どちらか、一方でも遅刻もしくは欠席した場合は、遅刻もしくは欠席として扱う。 実習の際は、実習用白衣、前掛け、帽子、シューズ、着替えを持参し、身支度を整えてくること。 実習を欠席した場合には、教員までプリント配付の有無を確認して受け取りについて申し出ること。 〈他の科目との関連〉 基礎栄養学、食品学、応用栄養学、調理学、食品衛生学、給食管理、給食計画論と関連する。

授業コード	22048901	授業形態	実習	実務家教員	○
授業科目名	実践給食管理実習　［対面］				
シラバス執筆（全員）	井上　幹太				
シラバス執筆（主）	井上　幹太				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本実習は、給食管理実習の発展科目としてライフステージ別に様々な給食形態での大量調理を行うことで実践力を修得することを目的とする。具体的には、保育所、幼稚園、中学校、事業所、高齢者福祉施設を想定した献立を説明する、弁当・選択食・行事食・カフェテリア方式などの給食形態について説明する、併設の認定こども園の園児を対象にした給食提供を通して子どもの現状を説明する、それぞれの給食形態の違いやその特性を理解し活用できるようにする。
担当教員が社会福祉施設や給食会社に勤務した経験をもとに、実務家教員として、理論と実務をつなげる授業を行う。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
D-2. 食事と調理の科学の理解
2-3）食事計画と調理・食事提供
D-3. 給食と給食運営管理の理解
3-3）給食施設における栄養管理と品質管理
3-4）食材料管理
3-5）給食の生産・提供における衛生管理
3-6）給食の生産管理

到達目標

1.保育所、幼稚園、高齢者福祉施設を想定した献立を考えることができる。
2.弁当や行事食などの給食形態について説明できる。
3.併設の認定こども園の園児を対象とした給食提供を通して、子どもの現状を説明できる。
4.栄養士として給食現場での作業を理解することや、それぞれの給食形態の違いやその特性を理解し対応できる。
5.安全な給食を提供するための適切な衛生管理ができる。
6.給食を実施する上で必要な書類を作成できる。

授業計画

【第1回】オリエンテーション、厨房見学、機器類の使い方
【第2回】献立作成①実習献立決定、試作の発注、献立作成、栄養価算出、出庫計画、帳票作成
【第3回】献立作成②試作の発注、献立作成、栄養価算出、出庫計画、帳票作成
【第4回】試作①、食材検収、献立修正・改善献立の作成、発注、帳票作成
【第5回】試作②、食材検収、献立修正・改善献立の作成、発注、帳票作成
【第6回】実習献立の発注（実習献立の発注、出庫計画、帳票作成、媒体作成）
【第7回】大量調理実習①：食材検収、指定献立を提供
【第8回】大量調理実習②：食材検収、学生が考案（主菜の主材料・調理方法、料理様式）した献立を提供
【第9回】大量調理実習③：食材検収、学生が考案（主菜の主材料・調理方法、料理様式）した献立を提供
【第10回】食教育の媒体作成、実習資料整理
【第11回】大量調理実習④：食材検収、学生が考案（主菜の主材料・調理方法、料理様式）した献立を提供
【第12回】大量調理実習⑤：食材検収、学生が考案（主菜の主材料・調理方法、料理様式）した献立を提供
【第13回】大量調理実習⑥：食材検収、学生が考案（主菜の主材料・調理方法、料理様式）した献立を提供
【第14回】実習の目標達成度の評価、学習課題整理、実習室整理

※進行によっては、授業計画が前後する場合がある。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

実習前には作業工程表に目を通し、必要事項を記入しておく。また作業がわからない内容については質問できるよう準備しておく。体調管理、自己の衛生管理を行っておく。
実習後は実習中に学んだ内容等について、実習記録をつけておく。

課題に対するフィードバックの方法

実習課題は内容を点検し、適宜コメントを記入し返却する。
なお、実習課題は「必要な内容を記入していること」が提出の条件となる。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・3回を超えて欠席した場合
・定期試験にかわるレポートが期限までに提出できなかった場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	献立表作成(30) 実習書類(帳票類や食育媒体等)作成(10)　実習役割実践(30)	1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート等(30)	2, 3, 4
その他	0		

テキスト	「新・実践　給食経営管理論＜第4版＞」―栄養・安全・経済面のマネジメント―、藤原政嘉・田中俊治・赤尾正　編、株式会社みらい、3,080円（税込・予価）、ISBN未記載（図書改定のため） 「食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表2023」（2023年10月16日出版）新しい食生活を考える会編著、大修館書店、1,760円（本体1,600円＋税10%）、9784469270167 「調理のためのベーシックデータ 第6版」、女子栄養大学調理学研究室女子栄養大学短期大学部調理学研究室／監修、女子栄養大学出版部、2,200円（本体2,000＋税10%）、978-4-7895-0325-9 「日本食品成分表2025 八訂　栄養計算ソフト・電子版付」医歯薬出版　編 定価 1,870円（本体 1,700円＋税10%）、ISBN978-4-263-70149-2
参考書	適宜紹介する。
履修条件・他の科目との関連	栄養学科の必履修科目である。 ＜履修条件＞ 栄養士校外実習を履修する者は、本科目を履修し受講することが条件である。但し、1年次科目を再履修しなければいけない者についてはこの限りではない。 水曜日、木曜日ともに授業であるため、どちらも必ず出席すること。どちらか、一方でも遅刻もしくは欠席した場合は、遅刻もしくは欠席として扱う。 実習の際は、実習用白衣、前掛け、帽子、シューズ、着替えを持参し、身支度を整えてくること。 実習を欠席した場合には、教員までプリント配付の有無を確認して受け取りについて申し出ること。

授業コード	22039101	授業形態	実習	実務家教員	ー
授業科目名	栄養士校外実習　［対面］				
シラバス執筆(全員)	井上　幹太、土井　玲奈				
シラバス執筆(主)	井上　幹太				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本実習は、学外の特定給食施設において約1週間の実習を行うことで、給食施設における栄養士の役割を理解し、利用者の栄養管理の課題を関連部門・多職種と共有し、給食提供に展開するための力を修得することを目的とする。具体的には、事前学習を通じて校外実習の目標・ねらいを説明する、栄養士の職業倫理について給食の運営の中で説明する、利用者および多職種とのコミュニケーションを実施・説明する、給食施設の特性を理解し、献立計画を説明する、給食施設の特性を理解し、調理・提供を説明する、給食施設における多職種との連携による利用者の栄養管理を説明する。さらに、事後学習では実習記録をもとに資料を作成し、栄養士校外実習報告会を通じて、実習内容の整理や共有を行い、プレゼンテーション能力を活用できるようにする。
担当教員が社会福祉施設や給食会社に勤務した経験をもとに、実務家教員として、理論と実務をつなげる授業を行う。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
G-1 給食施設の利用者への食事の管理を中心とした栄養管理の実践。

到達目標

1.事前学習を通じて校外実習の目標・ねらいを説明できる。
2.栄養士の職業倫理について給食の運営の中で説明できる。
3.利用者および多職種とのコミュニケーションを実践できる。
4.給食施設の特性を理解し、献立計画を実践できる。
5.給食施設の特性を理解し、調理・提供を実践できる。
6.給食施設における多職種との連携による利用者の栄養管理を説明できる。

授業計画

＜事前学習＞
第 1 回　栄養士校外実習の概要について（目的や内容、実習の心構えと注意事項）
第 2 回　栄養士校外実習の心構えと注意事項（卒業生による栄養士校外実習体験談、質疑応答）
第 3 回　実習先の施設別説明、実習課題の作成（施設別の栄養士業務の内容を把握）
第 4 回　学習目標の設定、実習先との電話連絡
（目標管理シートを作成、施設に応じた課題献立を作成する、事前訪問の際の電話連絡の仕方）
第 5 回　調理技術実技テスト（野菜の切り方）
第 6 回　給食施設における衛生管理の復習（給食運営に必要な衛生管理について確認テストを行い、その後解説する）
第 7 回　栄養士校外実習ノート（冊子）の記入方法について
（実習ノートに記載されている内容の確認と、実習ノートの必要箇所の記入方法　を把握する）
第 8 回　携行物品の配布、最終チェック（学外での施設実習にふさわしい服装や持ち物について把握し、確認を行う）
第 9 回　礼状の作成（手紙の書式を知り、各施設に応じた礼状を作成する）

＜事後学習＞
第10回　栄養士校外実習報告会資料の作成1（報告会で使用するパワーポイントを作成する）
第11回　栄養士校外実習報告会資料の作成2（報告会で使用する読み原稿を作成する）
第12回　栄養士校外実習報告会資料の作成3（プレゼンテーションを行い不備のあった箇所を加筆修正する）
第13回　栄養士校外実習報告会予行演習　（報告会の予行演習をする）
第14回　栄養士校外実習報告会（報告会でプレゼンテーションを行う）
第15回　栄養士校外実習報告会の振り返り、実習先での取り組みに対する自己評価、まとめ

※進行によっては、授業計画が前後する場合がある。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前・事後学習に要する時間を十分に確保すること。
学外での施設実習を行う目的、課題、学外での施設実習後の発表等、事前・事後学習ともに作業は多い。時間をかけて準備すること。

課題に対するフィードバックの方法

確認テスト（筆記）は返却するので復習すること。
栄養士校外実習報告会での発表は講評するので振り返ること。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

「成績評価の種類」に示す評価方法により判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
以下に、学外での給食施設での実習を受講することができる条件と評価不能「K」となる場合を示す。

＜給食施設での実習を受講することができる条件＞
学内での事前学習において、①～③すべてを満たすことで受講できる。
①栄養士校外実習の開始時点までにおいて5分の4以上出席していること。
②事前課題及び目標管理シートなどの提出物が指定された期限までに提出していること（未提出がない）。
③確認テストの成績が合格基準に達していること。

なお、本学の規則に違反し又は学生としての本分に反する行為をした者については、学外での実習の受講を認めない（学則第38条）。

＜評価不能「K」となる場合＞
①事前・事後学習の出席が5回以上欠席した場合。
②栄養士校外実習先で規定時間実習を行えなかった場合。
③栄養士校外実習報告会で発表できなかった場合。
④定期試験に代わるレポートを期限までに提出しなかった場合。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	45	事前・事後学習に関する評価 ＜事前指導＞授業回数9回 ・事前課題、目標管理シートなど提出物（10） ・実技テスト（5） ・確認テスト（5） ＜事後指導＞授業回数6回 ・お礼状や報告会資料の作成（15） ・栄養士校外実習報告会（10）	1, 2, 4
授業外での評価	50	栄養士校外実習に関する評価 ・実習ノート（冊子）（10） ・校外実習先の総合評価（40）	1, 2, 3, 5, 6
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	5	振り返りレポート（5）	1, 2, 6
その他	0		

テキスト	プリントを配付する。専用ファイルを配付するので必ず整理して綴じておき、校外実習先の施設には持参すること。
参考書	適宜紹介する。
履修条件・他の科目との関連	栄養士免許必修科目である。 ＜栄養士校外実習の履修条件＞ 栄養士校外実習の履修に関わる条件については、「栄養士免許取得のための科目履修に係る申し合わせ」に定められている。 (1)学則第38条の懲戒の対象となった場合、栄養士校外実習を履修することができない。 (2)栄養士基礎演習（栄養学科卒業必修科目）の単位が未修得の場合、栄養士校外実習を履修することができない。 (3)(1)、(2)に加え、下記 1)、2)の事項を充たさなければ栄養士校外実習を履修することができない。 1) 原則として、2年次前期までに開講される栄養士免許に関わる必修科目において、GPA1.8以上であること。 2) 2年次前期までに開講される栄養士免許に関わる必修科目は事前に単位の修得ができていること。ただし、単位の未修得科目があっても、2 年次後期に取得見込みである科目が2科目以下であればこの限りでない。 ＜その他の履修条件＞ 栄養士校外実習を履修する者は、「実践栄養学」、「実践栄養学実習」、「実践給食管理実習」を履修し、受講しなければならない。

授業コード	22037901	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	表計算演習　［対面］				
シラバス執筆（全員）	安達　康生				
シラバス執筆（主）	安達　康生				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

企業において、業績の評価や意思決定を行うには、的確な情報分析及びシミュレーションが不可欠である。この授業では、ビジネスに関するデータ分析ならびにシミュレーション手法について解説する。また、各種演習課題を与え、表計算ソフトウェアExcelを活用し具体的なモデルに対して問題解決ができるよう指導する。
授業の形態は、講義及びコンピュータ演習を組み合わせたものである。

到達目標

1. ビジネスに関する各種データ分析手法を説明できる。
2. ビジネスに関する各種シミュレーション手法を説明できる。
3. ビジネスに関する分析やシミュレーションに必要な表計算ソフトウェアの機能を理解し活用することができる。
4. 表計算ソフトウェアを用いて、簡単なデータ分析を行うことができる。
5. 表計算ソフトウェアを用いて、簡単なシミュレーションを行うことができる。

授業計画

第1回　ビジネスシミュレーションの概要（授業の進め方・受講ルール、シミュレーションの概要）
第2回　表計算ソフトウェアの基本操作（四則演算、基本的関数の使い方、判断処理等）
第3回　クロス集計の基礎（ピボットテーブルの操作及び基本的集計）
第4回　クロス集計によるデータ分析（ピボットテーブルによる集計処理及び分析）
第5回　グラフ作成の基礎（表計算ソフトウェアによる各種グラフ作成）
第6回　データの可視化と分析（グラフによるビジネスデータの分析）
第7回　ゴールシークによる数値解法（ゴールシークの操作方法、目標値からの逆算方法、方程式の解法）
第8回　シナリオによるシミュレーション（シナリオの操作、シナリオによる各種検討項目の評価法）
第9回　ソルバーによる数値解法（ソルバーの操作方法、制約条件の設定、目標値からの逆算方法等）
第10回　近似曲線と予測（近似曲線の求め方、各種近似曲線の特色、回帰式による予測）
第11回　Zチャート（Zチャートの概要、移動合計・移動平均、売上動向等への応用）
第12回　ファンチャート（ファンチャートの概要、売上動向等への応用）
第13回　ABC分析（ABC分析の概要、データの並べ替え、商品管理等への応用）
第14回　総合演習（各種ビジネスシミュレーション手法とその応用）
第15回　学習のまとめ（これまでの学習内容の整理、最終課題等）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回に対応するテキストの内容を事前に熟読し概要を理解しておくこと。また事後には、学んだ例題・演習課題を一部改変した問題を自ら作成し、その解答を作成すること。

課題に対するフィードバックの方法

・課題の演習時に机間巡視を行い、各学生の演習内容について、間違い及び優れた点の指摘と助言等を行う。
・定期試験に代わるレポートの評価結果については希望があれば開示する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	演習課題の達成度（60）	3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート試験（30）	1, 2

その他	10	授業中の取り組み（10）	1, 2, 3, 4, 5

テキスト	Excel ビジネスデータ分析 徹底活用ガイド、平井明夫　著、技術評論社、2,480円（税別）、ISBN978-4-297-10300-2
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、一部内容を変更する場合がある。 ・「コンピュータ基礎演習II（表計算基礎）」を履修していること、あるいは同等のスキルがあることを前提とする。 ・「表計算演習」を並行して履修することが望ましい。 ・欠席した場合は、その回の学習内容・課題等をGoogle Classroomで確認し、期日までに課題を提出すること。

授業コード	22039311	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅠａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	苅野　正美				
シラバス執筆(主)	苅野　正美				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

ライフデザイン学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送るために、履修方法、卒業要件、資格取得等について理解しておく必要がある。「セミナーⅠa」では、2年間の履修計画を立て、短期大学での学習や学生生活のアドバイスを行う。
あわせて、建学の精神についても学ぶ。

また、将来社会人として活躍するためには、学生時代に一定の能力を身につけておく必要があるため、レポートの作成法などについての指導を行う。
さらに、就職・進学対策として、キャリアサポートセンター(CSC)ガイドツアー、一般常識対策試験などを実施する。
授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 資格取得の方法や卒業要件について他者に説明することができる
2. 一般常識対策試験・定期試験に代わるレポート等で60点以上の点数を取ることができる
3. PROGテストの結果を踏まえて、自分の特性を他者に説明することができる
4. 大学祭などの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる
5. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる

授業計画

第1回　【合同】オリエンテーション(セミナーⅠの運営説明、「建学の精神」、SNSの留意事項等の説明）。「Cheerfrees」メンバー募集。履修(時間割)指導。
第2回　Eメールの書き方、送り方。各セミナーでのフォロー事項
第3回　【合同】PROGテスト(社会人基礎力測定テスト「PROG」を受検する)
第4回　【合同】地域協働センターの活動紹介。沖縄、海外研修等の紹介
第5回　【合同】基礎学力テスト(学習支援室のテストを使用)
第6回　人権啓発研修(人権に関する動画視聴)、等　(セミナーにより別日実施も可)
第7回　【合同】PROGテスト解説会
第8回　【合同】キャリアサポートセンターガイドツアー(CSCの役割、利用方法を説明する)
第9回　プレゼンテーション①（スライドの作成、発表原稿の作成）
第10回　図書館ツアー(セミナーにより別日実施も可)
第11回　プレゼンテーション②（発表）
第12回　【合同】一般常識対策のための模擬試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき模擬試験を実施)
第13回　(2限に合同)〈推奨〉 2年生のトキエア連携プロジェクトのアイデアコンペ見学(基本、同日3限を休講とする)
第14回　【合同】一般常識対策本試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき本試験を実施)
第15回　前期学習内容の振り返り・夏休み前の事前連絡

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】
事前　オリエンテーションで配布された書類・履修の手引きをよく読んで、履修登録に間違いがないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
事後　指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】
事前　Eメールに関する事前配布の資料を確認しておく
事後　実際にEメールの送信を行ってみる

【第3回】
事前　「社会人基礎力」と「ジェネリックスキル」とは何か調べてくる
事後　テストの回答を思い出し、自分の性格における長所・短所を考えてみる

【第4回】
事前　興味ある体験型研修について考える
事後　体験型研修やボランティアなどの参加を具体的に考える

【第5回】

事前　基礎学力テストの対策を行う(OIU/OICドリルの活用等)
事後　基礎学力テストの結果を確認し、不得手な部分を学習する

【第6回】
事前　人権について考える
事後　人権啓発についての課題の提出

【第7回】
事前　「リテラシー」「コンピテンシー」とは何かを考える
事後　測定項目の個別結果から、自身の強みと弱みを把握する。また解説書を利用して、向上させたい力を考え、向上させるために努力する場面・方法など、具体的な行動目標・行動計画を立てる

【第8回】
事前　キャリアサポートセンターとは何かを調べておく
事後　自分がキャリアサポートセンターを通じてお願いできることは何かを考える

【第9回】
事前　プレゼンテーションのテーマを考える
事後　プレゼンテーションのスライドを完成させ、発表原稿、練習をする

【第10回】
事前　OIU/OICの図書館情報を事前に確認する。
事後　図書館の利用方法、検索方法の確認。実際に借りて感想文を提出

【第11回】
事前　プレゼンテーションの練習をする
事後　プレゼンテーションの反省点を考える

【第12回】
事前　テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
事後　試験の解答を思い出し、本試験に向けて学習する

【第13回】
事前　トキエアについて調べる
事後　トキエアについて学んだことの振り返り

【第14回】
事前　テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
事後　試験の解答を思い出し、不得手な部分を学習する

【第15回】
事前　前期の授業全体を振り返ってくる
事後　全体を振り返り、今後の目標を立てる

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	一般常識対策試験(30)、演習課題(30)、基礎学力テストの基準レベル到達(10)	2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	前期の振り返りレポート	1, 2, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて別途プリントを配布する
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。 ・後期にセミナーⅠbを履修すること。 ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの

履修条件・他の科目との関連	方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039312	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅠａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	林　兵磨				
シラバス執筆(主)	林　兵磨				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

ライフデザイン学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送るために、履修方法、卒業要件、資格取得等について理解しておく必要がある。「セミナーⅠa」では、2年間の履修計画を立て、短期大学での学習や学生生活のアドバイスを行う。
あわせて、建学の精神についても学ぶ。
　また、将来社会人として活躍するためには、学生時代に一定の能力を身につけておく必要があるため、レポートの作成法などについての指導を行う。
さらに、就職・進学対策として、キャリアサポートセンター(CSC)ガイドツアー、一般常識対策試験などを実施する。
授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 資格取得の方法や卒業要件について他者に説明することができる
2. 一般常識対策試験・定期試験に代わるレポート等で60点以上の点数を取ることができる
3. PROGテストの結果を踏まえて、自分の特性を他者に説明することができる
4. 大学祭などの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる
5. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる

授業計画

第1回【合同】オリエンテーション(セミナーⅠの運営説明、「建学の精神」、SNSの留意事項等の説明）。
「Cheerfrees」メンバー募集。履修(時間割)指導。
第2回　Eメールの書き方、送り方。各セミナーでのフォロー事項、　図書館ツアー
第3回【合同】PROGテスト(社会人基礎力測定テスト「PROG」を受検する)
第4回【合同】地域協働センターの活動紹介。沖縄、海外研修等の紹介
第5回【合同】基礎学力テスト(学習支援室のテストを使用)
第6回　人権啓発研修(人権に関する動画視聴)、等　(セミナーにより別日実施も可)
第7回【合同】PROGテスト解説会
第8回【合同】キャリアサポートセンターのガイドツアー(CSCの役割、利用方法を説明する)
第9回　外部講師による講演Ⅰ　(ファイナンシャル・プランニング)
第10回　外部講師による講演Ⅱ (デジタルトランスフォーメーション)
第11回　　外部施設見学
第12回　【合同】一般常識対策のための模擬試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき模擬試験を実施)
第13回　【合同】トキエア連携プロジェクトのアイデアコンペの実施
第14回　【合同】一般常識対策本試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき本試験を実施)
第15回　　前期学習内容の振り返り・夏休み前の事前連絡
なお、諸般の事情により上記授業計画に変更が生じる場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】
事前　オリエンテーションで配布された書類・履修の手引きをよく読んで、履修登録に間違いがないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
事後　指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】
事前　Eメールに関する事前配布の資料を確認しておく
事後　実際にEメールの送信を行ってみる

【第3回】
事前　「社会人基礎力」と「ジェネリックスキル」とは何か調べてくる
事後　テストの回答を思い出し、自分の性格における長所・短所を考えてみる

【第4回】
事前　興味ある体験型研修について考える
事後　体験型研修やボランティアなどの参加を具体的に考える

【第5回】
事前　基礎学力テストの対策を行う(OIU/OICドリルの活用等)

事後　基礎学力テストの結果を確認し、不得手な部分を学習する

【第6回】
事前　人権について考える
事後　人権啓発についての課題の提出

【第7回】
事前　「リテラシー」「コンピテンシー」とは何かを考える
事後　測定項目の個別結果から、自身の強みと弱みを把握する。また解説書を利用して、向上させたい力を考え、向上させるために努力する場面・方法など、具体的な行動目標・行動計画を立てる

【第8回】
事前　キャリアサポートセンターとは何かを調べておく
事後　自分がキャリアサポートセンターを通じてお願いできることは何かを考える

【第9回】
事前　外部講師から指示される事前課題を行う
事後　外部講師による講義内容に関する課題を行う

【第10回】
事前　外部講師から指示される事前課題を行う
事後　外部講師による講義内容に関する課題を行う

【第11回】
事前　外部研修の内容について予備知識を得ておく
事後　施設見学に行った内容をレポートにまとめる

【第12回】
事前　テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
事後　試験の解答を思い出し、本試験に向けて学習する

【第13回】
事前　外部講師の講演内容につき予備知識を得ておく
事後　外部講師の講演を聴いた感想をレポートにまとめる

【第14回】
事前　テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
事後　試験の解答を思い出し、不得手な部分を学習する

【第15回】
事前　前期の授業全体を振り返ってくる
事後　全体を振り返り、今後の目標を立てる

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

・以下に示す方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する
・正当な理由なく、６回以上欠席した場合には「Ｋ」評価となる
・正当な理由なく、期日までに定期試験に代わるレポートを提出しなかった場合には「Ｋ」評価となる

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	基礎学力テストの基準レベル到達(10) 授業中課題(30) Google Classroomにて実施する	2,3
授業外での評価	30	レポート Google Classroomにて実施する	1,2,3,4,5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	定期試験に代わるレポート	1,2,3,4,5
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて別途プリントを配布する
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する

履修条件・他の科目との関連	・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと ・後期に「セミナーＩｂ」を履修すること

授業コード	22039313	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	森田　篤司				
シラバス執筆(主)	森田　篤司				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

ライフデザイン学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送るために、履修方法、卒業要件、資格取得等について理解しておく必要がある。「セミナーＩa」では、2年間の履修計画を立て、短期大学での学習や学生生活のアドバイスを行う。
あわせて、建学の精神についても学ぶ。

また、将来社会人として活躍するためには、学生時代に一定の能力を身につけておく必要があるため、レポートの作成法などについての指導を行う。
さらに、就職・進学対策として、キャリアサポートセンター(CSC)ガイドツアー、一般常識対策試験などを実施する。
授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 資格取得の方法や卒業要件について他者に説明することができる
2. 一般常識対策試験・定期試験に代わるレポート等で60点以上の点数を取ることができる
3. PROGテストの結果を踏まえて、自分の特性を他者に説明することができる
4. 大学祭などの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる
5. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる

授業計画

第1回　【合同】オリエンテーション(セミナーＩの運営説明、「建学の精神」、SNSの留意事項等の説明）。「Cheerfrees」メンバー募集。履修(時間割)指導。
第2回　Eメールの書き方、送り方。各セミナーでのフォロー事項
第3回　【合同】PROGテスト(社会人基礎力測定テスト「PROG」を受検する)
第4回　【合同】地域協働センターの活動紹介。沖縄、海外研修等の紹介
第5回　【合同】基礎学力テスト(学習支援室のテストを使用)
第6回　人権啓発研修(人権に関する動画視聴)、等　(セミナーにより別日実施も可)
第7回　【合同】PROGテスト解説会
第8回　【合同】キャリアサポートセンターガイドツアー(CSCの役割、利用方法を説明する)
第9回　トキエアについての学び
第10回　図書館ツアー　(セミナーにより別日実施も可)
第11回　進路について考える
第12回　【合同】一般常識対策のための模擬試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき模擬試験を実施)
第13回　(2限に合同)〈推奨〉2年生のトキエア連携プロジェクトのアイデアコンペ見学(基本、同日3限を休講とする)
第14回　【合同】一般常識対策本試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき本試験を実施)
第15回　前期学習内容の振り返り・夏休み前の事前連絡

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】
事前　オリエンテーションで配布された書類・履修の手引きをよく読んで、履修登録に間違いがないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
事後　指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】
事前　Eメールに関する事前配布の資料を確認しておく
事後　実際にEメールの送信を行ってみる

【第3回】
事前　「社会人基礎力」と「ジェネリックスキル」とは何か調べてくる
事後　テストの回答を思い出し、自分の性格における長所・短所を考えてみる

【第4回】
事前　興味ある体験型研修について考える
事後　体験型研修やボランティアなどの参加を具体的に考える

【第5回】

事前　基礎学力テストの対策を行う(OIU/OICドリルの活用等)
事後　基礎学力テストの結果を確認し、不得手な部分を学習する

【第6回】
事前　人権について考える
事後　人権啓発についての課題の提出

【第7回】
事前　「リテラシー」「コンピテンシー」とは何かを考える
事後　測定項目の個別結果から、自身の強みと弱みを把握する。また解説書を利用して、向上させたい力を考え、向上させるために努力する場面・方法など、具体的な行動目標・行動計画を立てる

【第8回】
事前　キャリアサポートセンターとは何かを調べておく
事後　自分がキャリアサポートセンターを通じてお願いできることは何かを考える

【第9回】
事前　トキエアについて調べる
事後　トキエアについて学んだことの振り返り

【第10回】
事前　OIU/OICの図書館情報を事前に確認する。
事後　図書館の利用方法、検索方法の確認。実際に借りて感想文を提出

【第11回】
事前　進路について、事前に考える
事後　進路について、事後の検討を行う

【第12回】
事前　テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
事後　試験の解答を思い出し、本試験に向けて学習する

【第13回】
事前　トキエアについて調べる
事後　トキエアについて学んだことの振り返り

【第14回】
事前　テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
事後　試験の解答を思い出し、不得手な部分を学習する

【第15回】
事前　前期の授業全体を振り返ってくる
事後　全体を振り返り、今後の目標を立てる

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する。
また発表については、授業中にフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく、6回以上欠席した場合は「K」評価とする

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	各種レポート(10) 一般常識対策試験(10) 基礎学力テストの基準レベル到達(10) 課題研究(30)	各種レポート:1,3,5一般常識対策試験:2基礎学力テストの基準レベル到達：2課題研究:4,5
授業外での評価	20	課題レポート(10) 課題研究調査(10)	課題レポート:5課題研究調査:5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	前期振り返りのレポート(10)	前期振り返りのレポート:2,5
その他	10	積極的な取組み、発表(10)	積極的な取組み、発表:4,5

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて別途プリントを配布する
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。 ・後期にセミナーＩbを履修すること。 ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039314	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	加藤　淳一				
シラバス執筆(主)	加藤　淳一				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

ライフデザイン学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送るために、履修方法、卒業要件、資格取得等について理解しておく必要がある。「セミナーＩa」では、2年間の履修計画を立て、短期大学での学習や学生生活のアドバイスを行う。
あわせて、建学の精神についても学ぶ。
また、将来社会人として活躍するためには、学生時代に一定の能力を身につけておく必要があるため、レポートの作成法などについての指導を行う。
さらに、就職・進学対策として、キャリアサポートセンター(CSC)ガイドツアー、一般常識対策試験などを実施する。
授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 資格取得の方法や卒業要件について他者に説明することができる
2. 一般常識対策試験・定期試験に代わるレポート等で60点以上の点数を取ることができる
3. PROGテストの結果を踏まえて、自分の特性を他者に説明することができる
4. 大学祭などの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる
5. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる

授業計画

第1回　【合同】オリエンテーション(セミナーＩの運営説明、「建学の精神」、SNSの留意事項等の説明）。「Cheerfrees」メンバー募集。履修(時間割)指導。
第2回　Eメールの書き方、送り方。各セミナーでのフォロー事項
第3回　【合同】PROGテスト(社会人基礎力測定テスト「PROG」を受検する)
第4回　【合同】地域協働センターの活動紹介。沖縄、海外研修等の紹介
第5回　【合同】基礎学力テスト(学習支援室のテストを使用)
第6回　人権啓発研修(人権に関する動画視聴)、等　(セミナーにより別日実施も可)
第7回　【合同】PROGテスト解説会
第8回　【合同】キャリアサポートセンターガイドツアー(CSCの役割、利用方法を説明する)
第9回　プレゼンテーションの基礎①
第10回　図書館ツアー　(セミナーにより別日実施も可)
第11回　プレゼンテーションの基礎②
第12回　【合同】一般常識対策のための模擬試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき模擬試験を実施)
第13回　(2限に合同) 2年生のトキエア連携プロジェクトのアイデアコンペ見学(基本、同日3限を休講とする)
第14回　【合同】一般常識対策本試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき本試験を実施)
第15回　前期学習内容の振り返り・夏休み前の事前連絡

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】
事前　オリエンテーションで配布された書類・履修の手引きをよく読んで、履修登録に間違いがないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
事後　指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】
事前　Eメールに関する事前配布の資料を確認しておく
事後　実際にEメールの送信を行ってみる

【第3回】
事前　「社会人基礎力」と「ジェネリックスキル」とは何か調べてくる
事後　テストの回答を思い出し、自分の性格における長所・短所を考えてみる

【第4回】
事前　興味ある体験型研修について考える
事後　体験型研修やボランティアなどの参加を具体的に考える

【第5回】
事前　基礎学力テストの対策を行う(OIU/OICドリルの活用等)
事後　基礎学力テストの結果を確認し、不得手な部分を学習する

【第6回】
事前　人権について考える
事後　人権啓発についての課題の提出

【第7回】
事前　「リテラシー」「コンピテンシー」とは何かを考える
事後　測定項目の個別結果から、自身の強みと弱みを把握する。また解説書を利用して、向上させたい力を考え、向上させるために努力する場面・方法など、具体的な行動目標・行動計画を立てる

【第8回】
事前　キャリアサポートセンターとは何かを調べておく
事後　自分がキャリアサポートセンターを通じてお願いできることは何かを考える

【第9回】
事前　PowerPointを活用したプレゼンテーションについて調べておく
事後　与えられたテーマのPowerPointを作成する

【第10回】
事前　OIU/OICの図書館情報を事前に確認する
事後　図書館の利用方法、検索方法の確認、実際に借りて感想文を提出

【第11回】
事前　PowerPointを完成させてくる
事後　PowerPointを活用したプレゼンテーションについて振り返る

【第12回】
事前　テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
事後　試験の解答を思い出し、本試験に向けて学習する

【第13回】
事前　トキエアについて調べる
事後　トキエアについて学んだことの振り返り

【第14回】
事前　テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
事後　試験の解答を思い出し、不得手な部分を学習する

【第15回】
事前　前期の授業全体を振り返ってくる
事後　全体を振り返り、今後の目標を立てる

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく、6回以上欠席した場合は「K」評価とする

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	基礎学力テストの基準レベル到達（10） 一般常識対策試験の評価（10） 授業内で作成・指示したPowerPointの内容やプレゼンテーションを評価（10）	2.4.5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	学期末最終レポートの内容を評価	2.5
その他	50	授業に関する発言・質問、授業態度・マナーを評価	1.2.3.4.5

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて別途プリントを配布する
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。 ・後期にセミナーⅠbを履修すること。

履修条件・他の科目との関連	・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039315	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	久保　由加里				
シラバス執筆(主)	久保　由加里				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

ライフデザイン学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送るために、履修方法、卒業要件、資格取得等について理解しておく必要がある。「セミナーＩa」では、2年間の履修計画を立て、短期大学での学習や学生生活のアドバイスを行う。
あわせて、建学の精神についても学ぶ。

また、将来社会人として活躍するためには、学生時代に一定の能力を身につけておく必要があるため、レポートの作成法などについての指導を行う。
さらに、就職・進学対策として、キャリアサポートセンター(CSC)ガイドツアー、一般常識対策試験などを実施する。
授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 資格取得の方法や卒業要件について他者に説明することができる
2. 一般常識対策試験・定期試験に代わるレポート等で60点以上の点数を取ることができる
3. PROGテストの結果を踏まえて、自分の特性を他者に説明することができる
4. 大学祭などの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる
5. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる

授業計画

第1回　【合同】オリエンテーション(セミナーＩの運営説明、「建学の精神」、SNSの留意事項等の説明）。「Cheerfrees」メンバー募集。履修(時間割)指導。
第2回　Eメールの書き方、送り方。各セミナーでのフォロー事項
第3回　【合同】PROGテスト(社会人基礎力測定テスト「PROG」を受検する)
第4回　【合同】地域協働センターの活動紹介。沖縄、海外研修等の紹介
第5回　【合同】基礎学力テスト(学習支援室のテストを使用)
第6回　人権啓発研修(人権に関する動画視聴)、等　(セミナーにより別日実施も可)
第7回　【合同】PROGテスト解説会
第8回　【合同】キャリアサポートセンターガイドツアー(CSCの役割、利用方法を説明する)
第9回　プレゼンテーション演習
第10回　ライブラリーツアー　(セミナーにより別日実施も可)
第11回　プレゼンテーション演習
第12回　【合同】一般常識対策のための模擬試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき模擬試験を実施)
第13回　(2限に合同)2年生のトキエア連携プロジェクトのアイデアコンペ見学(基本、同日3限を休講とする)
第14回　【合同】一般常識対策本試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき本試験を実施)
第15回　前期学習内容の振り返り・夏休み前の事前連絡

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】
事前　オリエンテーションで配布された書類・履修の手引きをよく読んで、履修登録に間違いがないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
事後　指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】
事前　Eメールに関する事前配布の資料を確認しておく
事後　実際にEメールの送信を行ってみる

【第3回】
事前　「社会人基礎力」と「ジェネリックスキル」とは何か調べてくる
事後　テストの回答を思い出し、自分の性格における長所・短所を考えてみる

【第4回】
事前　興味ある体験型研修について考える
事後　体験型研修やボランティアなどの参加を具体的に考える

【第5回】
事前　基礎学力テストの対策を行う(OIU/OICドリルの活用等)

事後　基礎学力テストの結果を確認し、不得手な部分を学習する

【第6回】
事前　人権について考える
事後　人権啓発についての課題の提出

【第7回】
事前　「リテラシー」「コンピテンシー」とは何かを考える
事後　測定項目の個別結果から、自身の強みと弱みを把握する。また解説書を利用して、向上させたい力を考え、向上させるために努力する場面・方法など、具体的な行動目標・行動計画を立てる

【第8回】
事前　キャリアサポートセンターとは何かを調べておく
事後　自分がキャリアサポートセンターを通じてお願いできることは何かを考える

【第9回】
事前　観光に関する研究課題を探す
事後　研究課題に関する文献を読む

【第10回】
事前　OIU/OICの図書館情報を事前に確認する。
事後　図書館の利用方法、検索方法の確認。実際に借りて感想文を提出

【第11回】
事前　プレゼンテーションの準備
事後　プレゼンテーションの発表レポート作成
【第12回】
事前　テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
事後　試験の解答を思い出し、本試験に向けて学習する

【第13回】
事前　トキエアについて調べる
事後　トキエアについて学んだことの振り返り

【第14回】
事前　テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
事後　試験の解答を思い出し、不得手な部分を学習する

【第15回】
事前　前期の授業全体を振り返ってくる
事後　全体を振り返り、今後の目標を立てる

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく、6回以上欠席した場合は「K」評価とする

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	各種レポート(10) 一般常識対策試験(10) 基礎学力テストの基準レベル到達(10) 課題研究プロジェクト(30)	1,2,3,4,5
授業外での評価	20	課題レポート(10) 課題研究プロジェクト調査(10)	5
定期試験	0	0	0
定期試験に代わるレポート等	10	10 課題研究レポート7 前期振り返りのレポート　3	2,5
その他	10	積極的な取り組み、発表	4

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて別途プリントを配布する
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する

履修条件・他の科目との関連	・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。 ・後期にセミナーＩbを履修すること。 ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039316	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	深見　智恵子				
シラバス執筆(主)	深見　智恵子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

ライフデザイン学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送るために、履修方法、卒業要件、資格取得等について理解しておく必要がある。「セミナーＩa」では、2年間の履修計画を立て、短期大学での学習や学生生活のアドバイスを行う。
あわせて、建学の精神についても学ぶ。

また、将来社会人として活躍するためには、学生時代に一定の能力を身につけておく必要があるため、レポートの作成法などについての指導を行う。
さらに、就職・進学対策として、キャリアサポートセンター(CSC)ガイドツアー、一般常識対策試験などを実施する。
授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 資格取得の方法や卒業要件について他者に説明することができる
2. 一般常識対策試験・定期試験に代わるレポート等で60点以上の点数を取ることができる
3. PROGテストの結果を踏まえて、自分の特性を他者に説明することができる
4. 大学祭などの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる
5. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる

授業計画

第1回　【合同】オリエンテーション(セミナーＩの運営説明、「建学の精神」、SNSの留意事項等の説明）。「Cheerfrees」メンバー募集。履修(時間割)指導。
第2回　Eメールの書き方、送り方。各セミナーでのフォロー事項
第3回　【合同】PROGテスト(社会人基礎力測定テスト「PROG」を受検する)
第4回　【合同】地域協働センターの活動紹介。沖縄、海外研修等の紹介
第5回　【合同】基礎学力テスト(学習支援室のテストを使用)
第6回　人権啓発研修(人権に関する動画視聴)＊第10回との兼ね合いで変更あり
第7回　【合同】PROGテスト解説会
第8回　【合同】キャリアサポートセンターガイドツアー(CSCの役割、利用方法を説明する)
第9回　自己理解を深める
第10回　図書館ツアー　(訪問先の都合により変更あり)
第11回　自分の未来を考える
第12回　【合同】一般常識対策のための模擬試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき模擬試験を実施)
第13回　(2限に合同)　2年生のトキエア連携プロジェクトのアイデアコンペ見学(基本、同日3限を休講とする)
第14回　【合同】一般常識対策本試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき本試験を実施)
第15回　前期学習内容の振り返り・夏休み前の事前連絡

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】
事前　オリエンテーションで配布された書類・履修の手引きをよく読んで、履修登録に間違いがないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
事後　指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】
事前　Eメールに関する事前配布の資料を確認しておく
事後　実際にEメールの送信を行ってみる

【第3回】
事前　「社会人基礎力」と「ジェネリックスキル」とは何か調べてくる
事後　テストの回答を思い出し、自分の性格における長所・短所を考えてみる

【第4回】
事前　興味ある体験型研修について考える
事後　体験型研修やボランティアなどの参加を具体的に考える

【第5回】
事前　基礎学力テストの対策を行う(OIU/OICドリルの活用等)

事後　基礎学力テストの結果を確認し、不得手な部分を学習する

【第6回】
事前　人権について考える
事後　人権啓発についての課題の提出

【第7回】
事前　「リテラシー」「コンピテンシー」とは何かを考える
事後　測定項目の個別結果から、自身の強みと弱みを把握する。また解説書を利用して、向上させたい力を考え、向上させるために努力する場面・方法など、具体的な行動目標・行動計画を立てる

【第8回】
事前　キャリアサポートセンターとは何かを調べておく
事後　自分がキャリアサポートセンターを通じてお願いできることは何かを考える

【第9回】
事前　学生時代を振り返り、自分に大切にしてきたことを思い出してまとめる
事後　セミナーメンバーからの意見を参考にしながら、自分の大切な軸を探す

【第10回】
事前　OIU/OICの図書館情報を事前に確認する。
事後　図書館の利用方法、検索方法の確認。実際に借りて感想文を提出

【第11回】
事前　自分の興味あることに通じる業務を考える
事後　未来の自分に必要な資格や学びは何かを考える

【第12回】
事前　テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
事後　試験の解答を思い出し、本試験に向けて学習する

【第13回】
事前　トキエアについて調べる
事後　トキエアについて学んだことの振り返り

【第14回】
事前　テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
事後　試験の解答を思い出し、不得手な部分を学習する

【第15回】
事前　前期の授業全体を振り返ってくる
事後　全体を振り返り、今後の目標を立てる

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく、6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	基礎学力テストの基準レベル到達	2
授業外での評価	20	基礎学力テストや一般常識試験の点数や習熟度、未来を自身で描き、その未来に通じる学ぶ姿勢（履修を含む）や大学行事への参加などの行動や報告活動　等	1.3.4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	テーマは授業中に発表する	1.5
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて別途プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある

履修条件・他の科目との関連	・後期にセミナーⅠbを履修すること ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと Schedules are subject to change without notice.

授業コード	22039411	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩｂ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	苅野　正美				
シラバス執筆(主)	苅野　正美				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

ライフデザイン学科の学生として、学生生活を有意義かつ積極的に送るためには、履修方法、卒業要件、資格取得等について理解しておく必要があるため、これらについて説明するとともに、短期大学での学習や学生生活のアドバイスを行う。

また、将来社会人として活躍するためには、学生時代に一定の能力を身につけておく必要があるため、レポートの作成法などについての指導を行う。
さらに、就職・進学対策として、合同進路ガイダンス、一般常識対策試験などを実施する。
授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 資格取得の方法や卒業要件について他者に説明することができる
2. 一般常識対策試験で60点以上の点数を取ることができる
3. PROGテストの結果を踏まえて、自分の特性を他者に説明することができる
4. 課題研究レポート、学外授業、大学祭などの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる
5. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる

授業計画

第1回　【合同】学修ポートフォリオ、セミナーの運営方針等の説明。履修指導（履修修正に関して指導）、GPAの確認。
第2回　【合同】合同セミナーで情報共有
第3回　9月12日学外研修(ミッドイヤー・オリエンテーション)分の休講予定日(セミナーにより別日の実施も可)
第4回　【合同】課外活動奨励者表彰式
第5回　自己分析（エゴグラム）
第6回　【合同】進路ガイダンス（卒業生の話を聞こう：キャリアサポートセンター主催）
第7回　自分のキャリアを考える（「シャインの3つの問い」）
第8回　【合同】就職対策(履歴書の書き方について説明を受け実践する：キャリアサポートセンター主催)
第9回　【合同】就職対策(面接の受け方について説明を受け実践する：キャリアサポートセンター主催)
第10回　【合同】一般常識対策のための模擬試験（あらかじめ告知した出題範囲に基づき模擬試験を実施）
第11回　【合同】一般常識対策本試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき本試験を実施)
第12回　2年生卒業研究発表会の見学(日時を12月22日の2時間目に振り替えて実施)分の休講予定日(セミナーにより別日実施も可)
第13回　【合同】進路ガイダンス（内定した2年生の体験談をインタビュー形式で聞く）
第14回　【合同】「セミナーⅡa・Ⅱb」説明会（終了後、セミナー希望調査を実施する）
第15回　振り返りおよび諸連絡（後期終講にあたっての各種連絡を行う。また、２年次に向けての留意事項や課題について説明する）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】
事前　前期の成績を確認し、後期に追加・変更が必要な科目がないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
事後　授業で指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】
事前　合同セミナーの内容を事前確認
事後　合同セミナーの内容を事後確認

【第3回】
9月12日学外研修(ミッドイヤー・オリエンテーション)分の休講予定日

【第4回】
事前　前期の資格の獲得状況を振り返る
事後　次回の資格取得に向け、目標を考える

【第5回】
事前　自分の性格や特徴を列挙し、その理由をまとめておくこと

事後　エゴグラムの結果から、今後、どのような自分になってみたいかを明確にしてみる

【第6回】
事前　自分の進路について方向性を考えてくる
事後　先輩の話をもとに将来設計をしてみる

【第7回】
事前　「自分は何が得意なのか」について考え、200字程度でまとめてくる
事後　キャリアに関する課題に取り組み、他者に説明できるようにしておく

【第8回】
事前　履歴書に何を書くか調べてくる
事後　履歴書作成を完成させる

【第9回】
事前　就活時の面接について調べておく
事後　模擬面接で得たことを振り返り、シミュレーションしておく

【第10回】
事前　テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
事後　試験の結果をもとに不得手な部分を学習し、本試験に備える

【第11回】
事前　テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
事後　試験の解答を思い出し、不得手な部分を学習する

【第12回】
事前　2年生の卒業研究発表会について、セミナー担任の連絡内容を確認する
事後　発表を聞いて課題を提出する

【第13回】
事前　自分の就活の方向性を再度考えてくる
事後　先輩の話から自分が何をしたいかさらに導く

【第14回】
事前　自分の将来を考え次年度のセミナーについて適任な担任を選んでおく
事後　セミナー希望調査の結果を仮定して、卒業研究のテーマを考える

【第15回】
事前　振り返り、今後の目標を設定する
事後　全体を振り返り、次年度の目標を設定する

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業中の発言内容・取り組み（50）、一般常識対策試験（20）	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	レポート	2, 5
その他	10	提出物	5

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて別途プリントを配布する
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。 ・前期にセミナーⅠaを履修していること。 ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039412	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩｂ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	林　兵磨				
シラバス執筆(主)	林　兵磨				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

ライフデザイン学科の学生として、学生生活を有意義かつ積極的に送るためには、履修方法、卒業要件、資格取得等について理解しておく必要があるため、これらについて説明するとともに、短期大学での学習や学生生活のアドバイスを行う。
　また、将来社会人として活躍するためには、学生時代に一定の能力を身につけておく必要があるため、レポートの作成法などについての指導を行う。
さらに、就職・進学対策として、合同進路ガイダンス、一般常識対策試験などを実施する。
授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 資格取得の方法や卒業要件について他者に説明することができる
2. 一般常識対策試験で60点以上の点数を取ることができる
3. PROGテストの結果を踏まえて、自分の特性を他者に説明することができる
4. 課題研究レポート、学外授業、大学祭などの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる
5. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる

授業計画

第1回　【合同】学修ポートフォリオ、セミナーの運営方針等の説明。履修指導（履修修正に関して指導）、GPAの確認。
第2回　【合同】合同セミナーで情報共有
第3回　9月12日学外研修(ミッドイヤー・オリエンテーション)分の休講予定日(セミナーにより別日の実施も可)
第4回　【合同】課外活動奨励者表彰式
第5回　外部講師による講演Ⅰ　（ビジネス分野）
第6回　【合同】進路ガイダンス（卒業生の話を聞こう：キャリアサポートセンター主催）
第7回　外部講師による講演Ⅱ　（情報分野）
第8回　【合同】就職対策(履歴書の書き方について説明を受け実践する：キャリアサポートセンター主催)
第9回　【合同】就職対策(面接の受け方について説明を受け実践する：キャリアサポートセンター主催)
第10回　【合同】一般常識対策のための模擬試験（あらかじめ告知した出題範囲に基づき模擬試験を実施）
第11回　【合同】一般常識対策本試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき本試験を実施)
第12回　2年生卒業研究発表会の見学(日時を12月22日の2時間目に振り替えて実施)分の休講予定日(セミナーにより別日実施も可)
第13回　【合同】進路ガイダンス（内定した2年生の体験談をインタビュー形式で聞く）
第14回　【合同】「セミナーⅡa・Ⅱb」説明会（終了後、セミナー希望調査を実施する）
第15回　振り返りおよび諸連絡（後期終講にあたっての各種連絡を行う。また、２年次に向けての留意事項や課題について説明する）
なお、諸般の事情により上記授業計画に変更が生じる場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】
事前　前期の成績を確認し、後期に追加・変更が必要な科目がないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
事後　授業で指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】
事前　合同セミナーの内容を事前確認
事後　合同セミナーの内容を事後確認

【第3回】
9月12日学外研修(ミッドイヤー・オリエンテーション)分の休講予定日

【第4回】
事前　前期の資格の獲得状況を振り返る
事後　次回の資格取得に向け、目標を考える

【第5回】

事前　外部講師から指示される事前課題を行う
事後　外部講師による講義内容に関する課題を行う

【第6回】
事前　自分の進路について方向性を考えてくる
事後　先輩の話をもとに将来設計をしてみる

【第7回】
事前　外部講師から指示される事前課題を行う
事後　外部講師による講義内容に関する課題を行う

【第8回】
事前　履歴書に何を書くか調べてくる
事後　履歴書作成を完成させる

【第9回】
事前　就活時の面接について調べておく
事後　模擬面接で得たことを振り返り、シミュレーションしておく

【第10回】
事前　テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
事後　試験の結果をもとに不得手な部分を学習し、本試験に備える

【第11回】
事前　テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
事後　試験の解答を思い出し、不得手な部分を学習する

【第12回】
事前　2年生の卒業研究発表会について、セミナー担任の連絡内容を確認する
事後　発表を聞いて課題を提出する

【第13回】
事前　自分の就活の方向性を再度考えてくる
事後　先輩の話から自分が何をしたいかさらに導く

【第14回】
事前　自分の将来を考え次年度のセミナーについて適任な担任を選んでおく
事後　セミナー希望調査の結果を仮定して、卒業研究のテーマを考える

【第15回】
事前　振り返り、今後の目標を設定する
事後　全体を振り返り、次年度の目標を設定する

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

・以下に示す方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する
・正当な理由なく、６回以上欠席した場合には「Ｋ」評価となる
・正当な理由なく、期日までに定期試験に代わるレポートを提出しなかった場合には「Ｋ」評価となる

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業中課題	1、2、3、4、5
授業外での評価	30	事後課題（宿題）	1、2、3、4、5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	定期試験に代わるレポート	1、2、3、4、5
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて別途プリントを配布する
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと ・前期に「セミナーＩａ」を履修すること

授業コード	22039413	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩｂ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	森田　篤司				
シラバス執筆(主)	森田　篤司				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

ライフデザイン学科の学生として、学生生活を有意義かつ積極的に送るためには、履修方法、卒業要件、資格取得等について理解しておく必要があるため、これらについて説明するとともに、短期大学での学習や学生生活のアドバイスを行う。

また、将来社会人として活躍するためには、学生時代に一定の能力を身につけておく必要があるため、レポートの作成法などについての指導を行う。
さらに、就職・進学対策として、合同進路ガイダンス、一般常識対策試験などを実施する。
授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 資格取得の方法や卒業要件について他者に説明することができる
2. 一般常識対策試験で60点以上の点数を取ることができる
3. PROGテストの結果を踏まえて、自分の特性を他者に説明することができる
4. 課題研究レポート、学外授業、大学祭などの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる
5. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる

授業計画

第1回　【合同】学修ポートフォリオ、セミナーの運営方針等の説明。履修指導（履修修正に関して指導）、GPAの確認。
第2回　【合同】合同セミナーで情報共有
第3回　9月12日学外研修(ミッドイヤー・オリエンテーション)分の休講予定日(セミナーにより別日の実施も可)
第4回　【合同】課外活動奨励者表彰式
第5回　進路についての個別面談、卒業生への質問を考える
第6回　【合同】進路ガイダンス（卒業生の話を聞こう：キャリアサポートセンター主催）
第7回　就職について考える
第8回　【合同】就職対策(履歴書の書き方について説明を受け実践する：キャリアサポートセンター主催)
第9回　【合同】就職対策(面接の受け方について説明を受け実践する：キャリアサポートセンター主催)
第10回　【合同】一般常識対策のための模擬試験（あらかじめ告知した出題範囲に基づき模擬試験を実施）
第11回　【合同】一般常識対策本試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき本試験を実施)
第12回　2年生卒業研究発表会の見学(日時を12月22日の2時間目に振り替えて実施)分の休講予定日(セミナーにより別日実施も可)
第13回　【合同】進路ガイダンス（内定した2年生の体験談をインタビュー形式で聞く）
第14回　【合同】「セミナーⅡa・Ⅱb」説明会（終了後、セミナー希望調査を実施する）
第15回　振り返りおよび諸連絡（後期終講にあたっての各種連絡を行う。また、２年次に向けての留意事項や課題について説明する）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】
事前　前期の成績を確認し、後期に追加・変更が必要な科目がないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
事後　授業で指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】
事前　合同セミナーの内容を事前確認
事後　合同セミナーの内容を事後確認

【第3回】
9月12日学外研修(ミッドイヤー・オリエンテーション)分の休講予定日

【第4回】
事前　前期の資格の獲得状況を振り返る
事後　次回の資格取得に向け、目標を考える

【第5回】

事前　進路について考える事前準備
事後　進路についての考えを整理する。卒業生への質問を考える

【第6回】
事前　自分の進路について方向性を考えてくる
事後　先輩の話をもとに将来設計をしてみる

【第7回】
事前　就職ガイドブックを確認する
事後　就職ガイドブックの記載を開始する

【第8回】
事前　履歴書に何を書くか調べてくる
事後　履歴書作成を完成させる

【第9回】
事前　就活時の面接について調べておく
事後　模擬面接で得たことを振り返り、シミュレーションしておく

【第10回】
事前　テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
事後　試験の結果をもとに不得手な部分を学習し、本試験に備える

【第11回】
事前　テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
事後　試験の解答を思い出し、不得手な部分を学習する

【第12回】
事前　2年生の卒業研究発表会について、セミナー担任の連絡内容を確認する
事後　発表を聞いて課題を提出する

【第13回】
事前　自分の就活の方向性を再度考えてくる
事後　先輩の話から自分が何をしたいかさらに導く

【第14回】
事前　自分の将来を考え次年度のセミナーについて適任な担任を選んでおく
事後　セミナー希望調査の結果を仮定して、卒業研究のテーマを考える

【第15回】
事前　振り返り、今後の目標を設定する
事後　全体を振り返り、次年度の目標を設定する

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する。
また、発表については授業内にフィードバックする。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	課題レポート(40) 一般常識試験(10) 自己分析、各種就職対策準備(10)	課題レポート:4.5一般常識試験:2自己分析、各種就職対策準備:1,2,3,4,5
授業外での評価	20	就職や進路についてのまとめ(履歴書作成など)(20)	就職や進路についてのまとめ(履歴書作成など):1,5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	後期振り返りのレポート(10)	後期振り返りのレポート:2,3,5
その他	10	積極的な取組み、発表(10)	積極的な取組み、発表:4,5

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて別途プリントを配布する

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。 ・前期にセミナーＩaを履修していること。 ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039414	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩｂ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	加藤　淳一				
シラバス執筆(主)	加藤　淳一				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

ライフデザイン学科の学生として、学生生活を有意義かつ積極的に送るためには、履修方法、卒業要件、資格取得等について理解しておく必要があるため、これらについて説明するとともに、短期大学での学習や学生生活のアドバイスを行う。
また、将来社会人として活躍するためには、学生時代に一定の能力を身につけておく必要があるため、レポートの作成法などについての指導を行う。
さらに、就職・進学対策として、合同進路ガイダンス、一般常識対策試験などを実施する。
授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 資格取得の方法や卒業要件について他者に説明することができる
2. 一般常識対策試験で60点以上の点数を取ることができる
3. PROGテストの結果を踏まえて、自分の特性を他者に説明することができる
4. 課題研究レポート、学外授業、大学祭などの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる
5. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる

授業計画

第1回　【合同】学修ポートフォリオ、セミナーの運営方針等の説明。履修指導（履修修正に関して指導）、GPAの確認。
第2回　【合同】合同セミナーで情報共有
第3回　9月12日学外研修(ミッドイヤー・オリエンテーション)分の休講予定日(セミナーにより別日の実施も可)
第4回　【合同】課外活動奨励者表彰式
第5回　企業研究①（企業研究の必要性を学ぶ）
第6回　【合同】進路ガイダンス（卒業生の話を聞こう：キャリアサポートセンター主催）
第7回　企業研究②（企業研究における情報収集の仕方を学ぶ）
第8回　【合同】就職対策(履歴書の書き方について説明を受け実践する：キャリアサポートセンター主催)
第9回　【合同】就職対策(面接の受け方について説明を受け実践する：キャリアサポートセンター主催)
第10回　【合同】一般常識対策のための模擬試験（あらかじめ告知した出題範囲に基づき模擬試験を実施）
第11回　【合同】一般常識対策本試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき本試験を実施)
第12回　2年生卒業研究発表会の見学(日時を12月22日の2時間目に振り替えて実施)分の休講予定日(セミナーにより別日実施も可)
第13回　【合同】進路ガイダンス（内定した2年生の体験談をインタビュー形式で聞く）
第14回　【合同】「セミナーⅡa・Ⅱb」説明会（終了後、セミナー希望調査を実施する）
第15回　振り返りおよび諸連絡（後期終講にあたっての各種連絡を行う。また、２年次に向けての留意事項や課題について説明する）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】
事前　前期の成績を確認し、後期に追加・変更が必要な科目がないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
事後　授業で指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】
事前　合同セミナーの内容を事前確認
事後　合同セミナーの内容を事後確認

【第3回】
9月12日学外研修(ミッドイヤー・オリエンテーション)分の休講予定日

【第4回】
事前　前期の資格の獲得状況を振り返る
事後　次回の資格取得に向け、目標を考える

【第5回】
事前　企業研究とは何か調べておく
事後　興味のある企業を調べておく

【第6回】
事前　自分の進路について方向性を考えてくる
事後　先輩の話をもとに将来設計をしてみる

【第7回】
事前　企業研究した企業についてまとめておく
事後　企業研究の重要性を理解し、就職活動へつなげる

【第8回】
事前　履歴書に何を書くか調べてくる
事後　履歴書作成を完成させる

【第9回】
事前　就活時の面接について調べておく
事後　模擬面接で得たことを振り返り、シミュレーションしておく

【第10回】
事前　テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
事後　試験の結果をもとに不得手な部分を学習し、本試験に備える

【第11回】
事前　テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
事後　試験の解答を思い出し、不得手な部分を学習する

【第12回】
事前　2年生の卒業研究発表会について、セミナー担任の連絡内容を確認する
事後　発表を聞いて課題を提出する

【第13回】
事前　自分の就活の方向性を再度考えてくる
事後　先輩の話から自分が何をしたいかさらに導く

【第14回】
事前　自分の将来を考え次年度のセミナーについて適任な担任を選んでおく
事後　セミナー希望調査の結果を仮定して、卒業研究のテーマを考える

【第15回】
事前　振り返り、今後の目標を設定する
事後　全体を振り返り、次年度の目標を設定する

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	一般常識対策試験の評価（10） 授業内に作成・指示したPowerPointの内容やプレゼンテーション、グループワークの取り組み姿勢を評価（20）	2.4.5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	学期末最終レポートの内容を評価	4.5
その他	50	授業に関する発言・質問、授業態度・マナーを評価	1.2.3.4.5

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて別途プリントを配布する
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。 ・前期にセミナーⅠaを履修していること。 ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039415	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩｂ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	久保　由加里				
シラバス執筆(主)	久保　由加里				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

ライフデザイン学科の学生として、学生生活を有意義かつ積極的に送るためには、履修方法、卒業要件、資格取得等について理解しておく必要があるため、これらについて説明するとともに、短期大学での学習や学生生活のアドバイスを行う。

また、将来社会人として活躍するためには、学生時代に一定の能力を身につけておく必要があるため、レポートの作成法などについての指導を行う。
さらに、就職・進学対策として、合同進路ガイダンス、一般常識対策試験などを実施する。
授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 資格取得の方法や卒業要件について他者に説明することができる
2. 一般常識対策試験で60点以上の点数を取ることができる
3. PROGテストの結果を踏まえて、自分の特性を他者に説明することができる
4. 課題研究レポート、学外授業、大学祭などの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる
5. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる

授業計画

第1回　【合同】学修ポートフォリオ、セミナーの運営方針等の説明。履修指導（履修修正に関して指導）、GPAの確認。
第2回　【合同】合同セミナーで情報共有
第3回　9月12日学外研修(ミッドイヤー・オリエンテーション)分の休講予定日(セミナーにより別日の実施も可)
第4回　【合同】課外活動奨励者表彰式
第5回　学外研修
第6回　【合同】進路ガイダンス（卒業生の話を聞こう：キャリアサポートセンター主催）
第7回　2年生卒業研究発表の見学
第8回　【合同】就職対策(履歴書の書き方について説明を受け実践する：キャリアサポートセンター主催)
第9回　【合同】就職対策(面接の受け方について説明を受け実践する：キャリアサポートセンター主催)
第10回　【合同】一般常識対策のための模擬試験（あらかじめ告知した出題範囲に基づき模擬試験を実施）
第11回　【合同】一般常識対策本試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき本試験を実施)
第12回　2年生卒業研究発表会の見学(日時を12月22日の2時間目に振り替えて実施)分の休講予定日(セミナーにより別日実施も可)
第13回　【合同】進路ガイダンス（内定した2年生の体験談をインタビュー形式で聞く）
第14回　【合同】「セミナーⅡa・Ⅱb」説明会（終了後、セミナー希望調査を実施する）
第15回　振り返りおよび諸連絡（後期終講にあたっての各種連絡を行う。また、２年次に向けての留意事項や課題について説明する）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】
事前　前期の成績を確認し、後期に追加・変更が必要な科目がないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
事後　授業で指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】
事前　合同セミナーの内容を事前確認
事後　合同セミナーの内容を事後確認

【第3回】
9月12日学外研修(ミッドイヤー・オリエンテーション)分の休講予定日

【第4回】
事前　前期の資格の獲得状況を振り返る
事後　次回の資格取得に向け、目標を考える

【第5回】

事前　学外研修について事前学習をおこなう
事後　学外研修レポートを作成する

【第6回】
事前　自分の進路について方向性を考えてくる
事後　先輩の話をもとに将来設計をしてみる

【第7回】
事前　発表のテーマについて事前学習をおこなう
事後　発表受講レポートを作成する

【第8回】
事前　履歴書に何を書くか調べてくる
事後　履歴書作成を完成させる

【第9回】
事前　就活時の面接について調べておく
事後　模擬面接で得たことを振り返り、シミュレーションしておく

【第10回】
事前　テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
事後　試験の結果をもとに不得手な部分を学習し、本試験に備える

【第11回】
事前　テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
事後　試験の解答を思い出し、不得手な部分を学習する

【第12回】
事前　2年生の卒業研究発表会について、セミナー担任の連絡内容を確認する
事後　発表を聞いて課題を提出する

【第13回】
事前　自分の就活の方向性を再度考えてくる
事後　先輩の話から自分が何をしたいかさらに導く

【第14回】
事前　自分の将来を考え次年度のセミナーについて適任な担任を選んでおく
事後　セミナー希望調査の結果を仮定して、卒業研究のテーマを考える

【第15回】
事前　振り返り、今後の目標を設定する
事後　全体を振り返り、次年度の目標を設定する

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	課題レポート（40） 一般常識試験（10） 自己分析、各種就職対策（10）	1.2.3.4.5
授業外での評価	20	就職や進路についてのまとめ	1,5
定期試験	0	0	0
定期試験に代わるレポート等	10	後期の振り返りのレポート	2.3.5
その他	10	セミナーへの積極的な参画	4

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて別途プリントを配布する
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。 ・前期にセミナーＩaを履修していること。

履修条件・他の科目との関連	・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039416	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩｂ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	深見　智恵子				
シラバス執筆(主)	深見　智恵子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

ライフデザイン学科の学生として、学生生活を有意義かつ積極的に送るためには、履修方法、卒業要件、資格取得等について理解しておく必要があるため、これらについて説明するとともに、短期大学での学習や学生生活のアドバイスを行う。

また、将来社会人として活躍するためには、学生時代に一定の能力を身につけておく必要があるため、レポートの作成法などについての指導を行う。
さらに、就職・進学対策として、合同進路ガイダンス、一般常識対策試験などを実施する。
授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 資格取得の方法や卒業要件について他者に説明することができる
2. 一般常識対策試験で60点以上の点数を取ることができる
3. PROGテストの結果を踏まえて、自分の特性を他者に説明することができる
4. 課題研究レポート、学外授業、大学祭などの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる
5. レポート課題を論理的に組み立てて作成することができる

授業計画

第1回　【合同】学修ポートフォリオ、セミナーの運営方針等の説明。履修指導（履修修正に関して指導）、GPAの確認。
第2回　【合同】合同セミナーで情報共有
第3回　ワークライフバランスとキャリア（１）
第4回　【合同】課外活動奨励者表彰式
第5回　9月12日学外研修(ミッドイヤー・オリエンテーション)分の休講予定日
第6回　【合同】進路ガイダンス（卒業生の話を聞こう：キャリアサポートセンター主催）
第7回　ワークライフバランスとキャリア（２）
第8回　【合同】就職対策(履歴書の書き方について説明を受け実践する：キャリアサポートセンター主催)
第9回　【合同】就職対策(面接の受け方について説明を受け実践する：キャリアサポートセンター主催)
第10回　【合同】一般常識対策のための模擬試験（あらかじめ告知した出題範囲に基づき模擬試験を実施）
第11回　【合同】一般常識対策本試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき本試験を実施)
第12回　現在までの振り返りおよび諸連絡（後期終講にあたっての各種連絡を行う。また２年次に向けての留意事項や課題について説明する）
第13回　【合同】進路ガイダンス（内定した2年生の体験談をインタビュー形式で聞く）
第14回　【合同】「セミナーⅡa・Ⅱb」説明会（終了後、セミナー希望調査を実施する）
第15回　2年生卒業研究発表会の見学(日時を12月22日の2時間目に振り替えて実施)分の休講予定日

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】
事前　前期の成績を確認し、後期に追加・変更が必要な科目がないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
事後　授業で指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】
事前　合同セミナーの内容を事前確認
事後　合同セミナーの内容を事後確認

【第3回】
事前　自分の興味ある業界を調べてみる
事後　自分のこだわりや得意をまとめる

【第4回】
事前　前期の資格の獲得状況を振り返る
事後　次回の資格取得に向け、目標を考える

【第5回】
9月12日学外研修(ミッドイヤー・オリエンテーション)分の休講予定日

【第6回】
事前　自分の進路について方向性を考えてくる
事後　先輩の話をもとに将来設計をしてみる

【第7回】
事前　自分の未来のワークライフバランスを描く
事後　進むべき業界や得意な業務を考える

【第8回】
事前　履歴書に何を書くか調べてくる
事後　履歴書作成を完成させる

【第9回】
事前　就活時の面接について調べておく
事後　模擬面接で得たことを振り返り、シミュレーションしておく

【第10回】
事前　テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
事後　試験の結果をもとに不得手な部分を学習し、本試験に備える

【第11回】
事前　テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
事後　試験の解答を思い出し、不得手な部分を学習する

【第12回】
事前　入学から現在までを振り返り、今後の目標を設定する
事後　全体を振り返り、次年度の目標を設定する

【第13回】
事前　自分の就職活動の方向性を再度考えてくる
事後　先輩の話から自分が何をしたいかさらに導く

【第14回】
事前　2年生の卒業研究発表会について、セミナー担任の連絡内容を確認する
事後　発表を聞いて課題を提出する、また、セミナー希望調査に合わせて卒業研究のテーマを考える

【第15回】
2年生卒業研究発表会の見学(日時を12月22日の2時間目に振り替えて実施)分の休講予定日

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	合同セミナー参加と各試験や研修への取り組み	2.4
授業外での評価	30	試験の点数や習熟度および課題への取り組み	1.3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	テーマは授業中に発表する	1.3.5
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて別途プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある ・前期にセミナーⅠaを履修していること ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと Schedules are subject to change without notice.

授業コード	22039511	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	苅野　正美				
シラバス執筆(主)	苅野　正美				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

当セミナーの目的は実社会における対人関係のいろいろなあり方について考察することである。興味・関心のあるテーマを設定し、研究レポートにまとめていく。研究の手法としては、各自の研究テーマに関する調査（質問紙調査・インタビュー調査など）を実施する。次に、得られたデータをコンピュータで処理・分析し、研究レポートとしてまとめる。卒業研究発表会では、パワーポイントによる口頭発表を行い、研究成果を報告する。
セミナーⅡａ（前期）では、先行研究・テーマ設定・質問項目の検討などを行う。このほかに、受講生の希望に応じて、体験型学習の機会を授業外で提供する。また、前期・後期に個人面談を行い、就職・大学編入学等、受講生の将来の希望をかなえるためのサポートを行う。人や組織に興味・関心のある学生を歓迎する。

到達目標

1. 就職活動（企業研究）や編入学（学部学科選択）の準備ができる。
2. 効果的なエントリーシートや履歴書を作成できる。
3. 目的に応じた文献を収集し、選択できる。
4. 自分の意見や考えを整理し、的確にまとめることができる。
5. 卒業研究についてプレゼンテーションをすることができる。

授業計画

第1回　オリエンテーション（セミナーⅡの運営説明）、「学修ポートフォリオ」の説明。履修(時間割)指導。
第2回　1年次の振り返りと2年次の目標設定
第3回　就職について（個別面談、履歴書の作成等）
第4回　【合同】トキエア連携プロジェクトのアイデアコンペの説明
第5回　図書館ツアー（図書館の利用方法、図書の検索方法を演習する）
第6回　人権啓発研修(人権に関する動画視聴)、等(セミナーにより別日の実施も可)
第7回　卒業研究レポート作成Ⅰ（レポート作成の説明）
第8回　卒業研究レポート作成Ⅱ（テーマ選定に向けての情報収集①）
第9回　卒業研究レポート作成Ⅲ（テーマ選定に向けての情報収集②）
第10回 卒業研究レポート作成Ⅳ（調査研究方法の説明）
第11回　卒業研究レポート作成Ⅴ（テーマの決定）
第12回　卒業研究レポート作成Ⅵ（研究計画の説明、各自テーマで研究計画を作成する）
第13回　【合同】トキエア連携プロジェクトのアイデアコンペの実施
第14回　卒業研究レポート作成Ⅶ　各自テーマの発表
第15回　前期の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】
事前　履修の手引きをよく読んで、履修登録に間違いがないか確認するとともに、疑問点を整理しておくこと
事後　指導された内容や学修ポートフォリオを確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】
事前　1年次の成績の振り返り。2年次の履修の個別相談
事後　2年次の目標を考える

【第3回】
事前　個人面談に備え、希望する就職先・進路に関して自分の考えをまとめておくこと
事後　履歴書の作成（下書き）を完成させること

【第4回】
事前　トキエアについて調べる
事後　アイデアコンペの推進方法について考える

【第5回】
事前　実社会における対人関係のいろいろなことについて、興味・関心のあることを3つ以上、用意しておくこと
事後　図書館を活用した「情報検索」課題の提出

【第6回】
事前　人権について考える
事後　人権啓発についての課題の提出

【第7回】
事前　卒業研究レポート作成の準備として、レポート作成手順に関する書籍に目を通しておくこと
事後　レポート作成手順に関する課題を完成させ、提出する

【第8回】
事前　卒業研究レポートのテーマ選定に関連して、過去にどのようなものがあったかを調べておくこと
事後　卒業研究レポートのテーマ選定の候補を複数、挙げられるようにしておく

【第9回】
事前　卒業研究レポートのテーマ選定に関連して、各自の興味・関心のある資料・書籍等を調べておくこと
事後　授業時に受けたアドバイスに基づき、各自の興味・関心のあるテーマに関連した文献を集めておくおと

【第10回】
事前　各自の興味・関心のあるテーマについて、どのように調べていきたいかをまとめておくこと
事後　授業時に学んだ知識に基づき、レポートテーマの候補を列挙すること

【第11回】
事前　各自の興味・関心のあるテーマについて、何が問題となっているのか、自分の考えをまとめておくこと
事後　授業時に学んだ知識に基づき、レポートテーマの候補を列挙すること

【第12回】
事前　各自の研究テーマについて研究計画（案）を作成しておくこと
事後　授業時に受けたアドバイスに基づき、研究計画を完成させること

【第13回】
事前　アイデアコンペの発表準備
事後　アイデアコンペの振り返り

【第14回】
事前　各自の卒業研究テーマのプレゼンテーション資料、パワーポイントのスライドを準備すること
事後　科目担当者や学生からの質問があれば、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。また、研究計画の見直しが必要であれば、
科目担当者の指導を受け、反映させること

【第15回】
事前　前期の振り返り
事後　後期に向けての目標の確認

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	就職試験対策課題（30）、卒業研究に関する授業内レポート（30）、各自のテーマを発表するプレゼンテーション（10）	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	卒業研究レポートの予備レポート	3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて別途プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。 ・後期にセミナーⅡbも継続して履修すること。 ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039512	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡａ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	林　兵磨				
シラバス執筆（主）	林　兵磨				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本セミナーは、これまでの学習の集大成として、卒業研究レポートの完成させることを目的とする。各自の問題意識に基づいて、資料収集、調査を積極的に行い、執筆と推敲を重ねていきながら論文の完成へとつなげていく。
　また、研究発表会の準備も行い、プレゼンテーション能力の体得もしていくよう指導を行う。授業の形態は演習形式が中心となる。

到達目標

1.　就職活動や編入への下調べを、しっかりできる。（企業研究・学部学科選択）
2. 効果的なエントリーシートや履歴書を作成できる。
3. 卒業研究についてプレゼンテーションをすることができる。
4. 定期試験に代わるレポートで60点以上を取ることができる。

授業計画

第1回　オリエンテーション（セミナーⅡの運営説明）、「学修ポートフォリオ」の説明。履修(時間割)指導
第2回　図書館ツアー
第3回　外部講師による講演Ⅰ（会計専門職）
第4回　【合同】トキエア連携プロジェクトのアイデアコンペの説明
第5回　就職に向けた学力測定
第6回　人権啓発研修（人権に関する動画視聴）
第7回　就職活動講話（雇用問題）
第8回　外部講師による講演Ⅱ　（地域経済）
第9回　外部講師による講演Ⅲ（ファイナンシャルプラニング）
第10回　外部講師による講演Ⅳ　（デジタルトランスフォーメーション）
第11回　外部施設見学
第12回　卒業研究レポート作成　テーマ選定
第13回　【合同】トキエア連携プロジェクトのアイデアコンペの実施
第14回　卒業研究レポート作成Ⅲ　作成方針の決定
第15回　前期の振り返り 卒業研究レポートの進捗報告
なお、諸般の事情により上記授業計画に変更が生じる場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】
事前　履修の手引きをよく読んで、履修登録に間違いがないか確認するとともに、疑問点を整理しておくこと
事後　指導された内容や学修ポートフォリオを確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】
事前　ESの書く内容を考えておく
事後　ESを完成させる

【第3回】
事前　外部講師から指示される事前課題を行う
事後　外部講師の講義内容に関する課題を行う

【第4回】
事前　トキエアについて調べる
事後　アイデアコンペの推進方法について考える

【第5回】
事前　一般常識対策用資料に取り組み
事後　一般常識対策用問題の復習

【第6回】
事前　人権について考える
事後　人権啓発についての課題の提出

【第7回】

事前　卒業研究レポート作成の前段階としてレポート作成手順について関連する書籍に目を通しておく
事後　レポート作成手順に関する工程表を完成させる

【第8回】
事前　外部講師から指示される事前課題を行う
事後　外部講師の講義内容に関する課題を行う

【第9回】
事前　外部講師から指示される事前課題を行う
事後　外部講師の講義内容に関する課題を行う

【第10回】
事前　外部講師から指示される事前学習を行う
事後　外部講師の講義内容に関する課題を行う

【第11回】
事前　施設見学に先立ち、必要となる資料及び文献のリストアップをしておく
事後　施設見学で得た知識についてレポートをまとめる

【第12回】
事前　各自あげたいくつかのレポートテーマについてそれぞれの問題意識（論点）を整理しておく
事後　授業時に受けた指導に基づき複数のレポートテーマ間の比較検討する

【第13回】
事前　アイデアコンペの発表準備
事後　アイデアコンペの振り返り

【第14回】
事前　作成した工程表に基づき文献等資料リストアップを行っていく
事後　授業時に受けた指導に基づき各自の資料収集を行う

【第15回】
事前　前期の振り返り
事後　後期に向けての目標の確認

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

・以下に示す方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する
・正当な理由なく、６回以上欠席した場合には「Ｋ」評価となる
・正当な理由なく、期日までに定期試験に代わるレポートを提出しなかった場合には「Ｋ」評価となる

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	レポート	1,2,3,4
授業外での評価	30	事後課題	1,2,3,4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	定期試験に代わるレポート	1,2,3,4
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて別途プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと ・後期に「セミナーⅡb」を履修すること

授業コード	22039513	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡａ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	森田　篤司				
シラバス執筆（主）	森田　篤司				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

当セミナーでは、受講生一人ひとりが希望する進路を確認し、その業界の特徴についての研究を行うと同時に、エントリーシートの作成や採用面接の準備を行う。
就職活動についての具体的な進め方について指導を行う。また学科の取組みとして、「トキエア連携プロジェクト」に参画するので、メンバーで協力して資料の作成、発表を行う。

到達目標

1. 就職活動や編入学の下調べをしっかりできる（企業研究・学部学科選択）
2. 効果的なエントリーシートや履歴書を作成できる
3. レポートの課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる
4. プロジェクトを推進、発表の効率的な段取りができる

授業計画

第1回　オリエンテーション（セミナーⅡの運営説明）、「学修ポートフォリオ」の説明。履修（時間割）指導。
第2回　１年次の反省と２年次の目標設定
第3回　就職について（個別面談、履歴書の作成等）
第4回　【合同】トキエア連携プロジェクトのアイデアコンペの説明
第5回　課題研究（進路について）
第6回　人権啓発研修（人権に関する動画視聴）、等（セミナーにより別日の実施も可）
第7回　「トキエア連携プロジェクト」の発表資料の作成
第8回　課題研究（将来について考える：山中伸弥教授、スティーブジョブズ等を題材に）
第9回　「トキエア連携プロジェクト」の発表資料の作成
第10回　「トキエア連携プロジェクト」の発表資料の中間チェック
第11回　「トキエア連携プロジェクト」の発表資料の仕上げ
第12回　後期の卒業研究テーマについての概要説明（インドネシアの協定校との共同研究発表を予定）。次週の発表準備
第13回　【合同】トキエア連携プロジェクトのアイデアコンペの実施
第14回　後期の卒業研究テーマを考える
第15回　前期の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】
事前　履修の手引きをよく読んで、履修登録に間違いがないか確認するとともに、疑問点を整理しておくこと
事後　指導された内容や学修ポートフォリオを確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】
事前　１年次の反省と２年次の目標設定の事前準備
事後　目標の修正、整理

【第3回】
事前　就職についての考えの準備
事後　就職についての考えの整理、課題レポートの提出

【第4回】
事前　トキエアについて調べる
事後　アイデアコンペの推進方法について考える

【第5回】
事前　進路についての研究
事後　進路についての考えの整理

【第6回】
事前　人権について考える
事後　人権啓発についての課題の提出

【第7回】
事前　「トキエア連携プロジェクト」の発表資料の構想を練る

事後　「トキエア連携プロジェクト」の発表資料の作成

【第8回】
事前　将来についての考えの整理
事後　課題レポートの提出

【第9回】
事前　「トキエア連携プロジェクト」の発表資料の作成
事後　「トキエア連携プロジェクト」の発表資料の作成

【第10回】
事前　　発表資料の進捗確認
事後　発表資料を仕上げる計画を策定

【第11回】
前学　「トキエア連携プロジェクト」の発表資料の作成
事後　発表資料を完成させる

【第12回】
事前　卒業研究に関連し、協定校であるインドネシアについて調べる
事後　次週の発表準備

【第13回】
事前　　アイデアコンペの発表準備
事後　アイデアコンペの振り返り
【第14回】
事前　後期の卒業研究テーマを考える
事後　後期の卒業研究テーマを考える

【第15回】
事前　前期の振り返り
事後　後期に向けての目標の確認

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する。
また、発表については授業中にフィードバックする。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく、6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	自己PR・模擬面接(10) 就職(進学)希望先の調査・履歴書作成(20) 課題研究プロジェクト(30)	自己PR・模擬面接：1,2 就職(進学)希望先の調査・履歴書作成：1.2課題研究プロジェクト：3,4
授業外での評価	30	各種レポート(20) 課題研究プロジェクト調査(10)	各種レポート：1,2,3,4課題研究プロジェクト調査：3.4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	前期振り返りのレポート(10)	前期振り返りのレポート：1,2,3,4
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて別途プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。 ・後期にセミナーⅡbも継続して履修すること。 ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039514	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	加藤　淳一				
シラバス執筆(主)	加藤　淳一				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

社会人として求められる、「自分の頭で考える力」「自分の考えを的確に伝える 力」「他の人と協力して課題に取り組む力」を高めるために、課題を与え、グループで話し合い、調査を行うよう指導する。
また、得られた結果をレポートやパワーポイントに分かりやすくまとめられるよう指導する。これらは、後期の卒業研究レポートに向けた練習としての位置づけも兼ねる。
このほか、受講者の希望 に応じて、ボランティア活動など授業外での体験的学習の機会も提供する。

到達目標

1.調査の基本的な方法について理解する。
2.自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。
3.グループでの討議を通じて適切に合意形成を行うことができる。
4.話し合いや調査を通じて得たことを、レポートやパワーポイントにて分かりやすくまとめることができる。

授業計画

第1回　オリエンテーション（セミナーⅡの運営説明）、「学修ポートフォリオ」の説明、履修(時間割)指導
第2回　自己紹介と自己PRの練習（各自で自己PRの文章を作成し、それを用いてセミナー内での自己紹介を行い、相互評価する。また、新しいセミナーにおける学生間の交流も兼ねる）
第3回　ライブラリーツアー（図書館の利用方法、図書館での検索等について説明を行う）
第4回　【合同】「新潟・トキエア連携プロジェクト」のアイデアコンペの説明
第5回　調査方法を学ぶ（調査に必要な基本的知識〔一次情報・二次情報など〕を確認し、情報を収集する練習を行う）
第6回　人権啓発研修（人権に関する動画視聴）
第7回　インターネットでの調査（与えられたテーマに沿って、インターネットを利用して適切に情報を収集する練習を行う）
第8回　インターネットでの調査（各自で興味のある分野について、インターネットを利用して適切に情報を収集する練習を行う）
第9回　「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料作成
第10回　「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の中間チェック
第11回　「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料仕上げ
第12回　プレゼンテーションの実践（パワーポイントを用いて、これまでの調査を通じて得られた結果を発表する）
第13回　【合同】「新潟・トキエア連携プロジェクト」のアイデアコンペの実施
第14回　フィールドワークについての検討（フィールドワークの説明と、実施方法などについての打合せを行う）
第15回　前期の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。
この他、授業全体の振り返りやまとめ、および最終レポート作成として、15時間程度の学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

全体に向け、課題やレポートに対しての振り返りとフィードバックを行うと共に、必要に応じて個人に対し、課題やレポートのコメントなどをClassroomやOIUメール、または直接口頭で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、正当な理由なく、欠席の回数が授業回数の1/3を超える（6回以上欠席）の場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	グループワークやプレゼンテーションでの取り組み姿勢を評価	1, 2, 3, 4

授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終レポートの内容を評価	2, 4
その他	50	授業に関する発言・質問、授業態度・マナーを評価	1, 2, 3, 4

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、プリントを配布する。
参考書	必要に応じて、授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。 ・後期にセミナーⅡbも継続して履修すること。 ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039515	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡａ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	久保　由加里				
シラバス執筆（主）	久保　由加里				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

当セミナーでは、「観光学」の学びの実践として学外研修をおこなう。
自己分析をおこない、進路を確認する
またコース全体の取り組みとして、「新潟・トキエア連携プロジェクト」のコンペを実践するので、メンバーで協力して研究・調査・資料の作成・発表をおこなう

到達目標

１．　自己分析をおこない、進路について考え、調査する
２．効果的なエントリーシートや履歴書を作成する
３，文献を調査し、レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表できる
４．プロジェクト発表に向けての研究ができる

授業計画

第1回　オリエンテーション（セミナーⅡの運営説明）、「学修ポートフォリオ」の説明。履修（時間割）指導。
第2回　2年次の目標設定と個別指導
第3回　就職についてのガイダンス
第4回　【合同】トキエア連携プロジェクトのアイデアコンペの説明
第5回　学外研修についての計画
第6回　人権啓発研修（人権に関する動画視聴）、等（セミナーにより別日の実施も可）
第7回　学外研修（前後する可能性あり）
第8回　学外研修（前後する可能性あり）
第9回　　「トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料作成
第10回　「トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料作成
第11回　「トキエア連携プロジェクト」のプレゼン準備
第12回　「トキエア連携プロジェクト」のプレゼン準備
第13回　【合同】トキエア連携プロジェクトのアイデアコンペの実施
第14回　　後期の卒業研究発表テーマを考える
第15回　前期の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】
事前　履修の手引きをよく読んで、履修登録に間違いがないか確認するとともに、疑問点を整理しておくこと
事後　指導された内容や学修ポートフォリオを確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】
事前　2年次の履修の個別相談
事後　2年次の目標を考える

【第3回】
事前　就職についての準備を考える
事後　アイディアコンペ推進方法について考える
【第4回】
事前　トキエアについて調べる
事後　アイデアコンペの推進方法について考える

【第5回】
事前　学外研修先について情報を集める
事後　学外研修先についてさらに調べる

【第6回】
事前　人権について考える
事後　人権啓発についての課題の提出

【第7回】
事前　学外研修先について調べる
事後　学外研修レポートを書く

【第8回】
事前　学外研修先について調べる
事後　学外研修レポートを書く

【第9回】
事前　「トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料作成
事後　「トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料作成

【第10回】
事前　「トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料作成
事後　「トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料作成

【第11回】
事前　「トキエア連携プロジェクト」のプレゼン準備
事後　「トキエア連携プロジェクト」のプレゼン準備

【第12回】
事前　「トキエア連携プロジェクト」のプレゼン準備
事後　「トキエア連携プロジェクト」のプレゼン準備

【第13回】
事前　アイデアコンペの発表準備
事後　アイデアコンペの振り返り
【第14回】
事前　卒業研究テーマを考える
事後　卒業研究テーマを考える

【第15回】
事前　前期の振り返り
事後　後期に向けての目標の確認

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく、6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	プレゼンテーション演習（20） 自己PR・模擬面接（10） 課題研究プロジェクト（30）	1.2.3.4
授業外での評価	30	各種レポート（20） 課題研究プロジェクト調査（10）	1.2.3.4
定期試験	0	0	0
定期試験に代わるレポート等	10	前期振り返りのレポート	1,2,3,4
その他	0	0	0

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて別途プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。 ・後期にセミナーⅡbも継続して履修すること。 ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。 ・積極的に授業に参画すること

授業コード	22039516	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡａ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	深見　智恵子				
シラバス執筆（主）	深見　智恵子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

ゼミナール形式の授業により、自己理解を深め、聴く力や他者への理解・コミュニケーション能力など、主に職業生活や社会生活で必要となる基本的な能力を身につけることを目標にする。

自身の興味がある企業活動に関する事柄、時事的課題等をテーマに取り上げ、その調査や口頭発表の実践により自己発信力を高める。

また、基礎教養知識の向上を図るとともに、コースの特長でもある専門領域の内容活用、的確な意見の述べ方、論理的思考、客観的思考などについても学習し、社会人基礎力の土台を築くことを目指す。

到達目標

１．卒業研究について、自分でテーマを決定し、そのテーマについて詳しく説明できる
２．自己理解を深め、自分の特性や就活の方向性を具体化し、中長期的視点に基づいた未来の姿を自分で描ける力をもつ
３．ホスピタリティマインドを持って、ビジネスマナーの基本を習得し、実践ができる
４．レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる
５．フィールドワークの目的を理解し、自発的に発言や行動をおこなうことができる

授業計画

第1回　オリエンテーション（セミナーⅡの運営説明）、「学修ポートフォリオ」の説明。履修(時間割)指導。
第2回　コミュニケーション①　（1.紹介 2.メンバーを理解する）
第3回　コミュニケーション②　（1.コミュニケーションとは 2.コミュニケーション法やツールを考える 3.新メンバーとのコミュニケーション）
第4回　【合同】トキエア連携プロジェクトのアイデアコンペの説明
第5回　コミュニケーション③　（1.ビジネスにおいてのコミュニケーション　2.就職活動の上での企業とのコミュニケーション方法）
第6回　コミュニケーション④　（1.言語以外のコミュニケーション 2.異文化コミュニケーション 3.ハワイ・カナダ研修紹介）
第7回　フィールドワーク準備
第8回　フィールドワーク
第9回　フィールドワーク報告会
第10回　プレゼンテーション資料作成
第11回　プレゼンテーション資料修正
第12回　プレゼンテーション
第13回　【合同】トキエア連携プロジェクトのアイデアコンペの実施または見学
第14回　人権啓発研修(人権に関する動画視聴)
第15回　前期の振り返りと卒業研究のテーマ確定

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】
事前　履修の手引きをよく読んで、履修登録に間違いがないか確認するとともに、疑問点を整理しておくこと
事後　指導された内容や学修ポートフォリオを確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】
事前　自己紹介の資料を準備をする
事後　新メンバーとのコミュニケーションを考える

【第3回】
事前　コミュニケーションとは何か調べる
事後　心地よい距離感とコミュニケーションツールの利用を考える

【第4回】
事前　トキエアについて調べる
事後　アイデアコンペの推進方法について考える

【第5回】
事前　ビジネスツールとしてのコミュニケーションツールを考える

事後　就職活動に必要なコミュニケーション方法を検討する

【第6回】
事前　言語以外のコミュニケーション方法を考え
事後　興味のある体験型研修やアイデアコンペの参加・ボランティアなどの参加を、具体的に考える

【第7回】
事前　フィールドワークの行先を考える
事後　決定したフィールドワークの行先について調査する

【第8回】
事前　フィールドワークの行先について交通機関を調べる
事後　フィールドワークについて感想を整理する

【第9回】
事前　フィールドワーク実施後の報告準備をする
事後　セミナー内報告会のフィードバックを整理する

【第10回】
事前　プレゼンテーションの資料作成
事後　セミナーでのディスカッションを踏まえて修正点を考える

【第11回】
前学　プレゼンテーションの資料を修正をおこなう
事後　プレゼンテーションの資料を完成させる

【第12回】
事前　プレゼンテーションの準備をする
事後　フィードバックを反映した資料修正をおこなう

【第13回】
事前　アイデアコンペの参加準備
事後　アイデアコンペの振り返り

【第14回】
事前　人権について考える
事後　人権啓発についての課題の提出

【第15回】
事前　前期の振り返りと卒業研究のテーマを考える
事後　後期に向けての目標を確認する

課題に対するフィードバックの方法

・講義内容に関するコメントやレポートを求める
・グループワークやプレゼンテーション実施による発言などを各自でおこなってもらう
・プレゼンテーションや発言についてはコメントバックをおこなう

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく、6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	ディスカッションや発表の参加度、メンバーへのコメントやポジティブフィードバック、授業に臨む態度を考慮する	1.2.3.4
授業外での評価	30	フィールドワークへの参加や自分の役割に対する実践度および課題への取り組み姿勢	3.4.5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	テーマは授業中に指示する（序論・本論・結論でかくこと、構成が出来ていなければ大きく減点となる）	1.2.4
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて指示をおこなう。
参考書	・「聴く技術」が人間関係を決める（宮城まり子）永岡書店

参考書	・1分間で大切なことを伝える技術（斎藤孝）PHP研究所
履修条件・他の科目との関連	・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある ・後期にセミナーⅡbも継続して履修すること ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと Schedules are subject to change without notice.

授業コード	22039611	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡｂ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	苅野　正美				
シラバス執筆(主)	苅野　正美				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

当セミナーの目的は実社会における対人関係のいろいろなあり方について考察することである。興味・関心のあるテーマを設定し、研究レポートにまとめていく。研究の手法としては、各自の研究テーマに関する調査（質問紙調査・インタビュー調査など）を実施する。次に、得られたデータをコンピュータで処理・分析し、研究レポートとしてまとめる。卒業研究発表会では、パワーポイントによる口頭発表を行い、研究成果を報告する。
セミナーⅡb（後期）は各自のテーマにそった調査、分析・結果・考察を行い、レポートを作成し、プレゼンテーション力も身につける。
このほかに、受講生の希望に応じて、体験型学習の機会を授業外で提供する。また、前期・後期に個人面談を行い、就職・大学編入学等、受講生の将来の希望をかなえるためのサポートを行う。人や組織に興味・関心のある学生を歓迎する。

到達目標

1. 就職活動（企業研究）や編入学（学部学科選択）の準備ができる。
2. 効果的なエントリーシートや履歴書を作成できる。
3. 目的に応じた文献を収集し、選択できる。
4. 自分の意見や考えを整理し、的確にまとめることができる。
5. 卒業研究についてプレゼンテーションをすることができる。

授業計画

第 1回　学修ポートフォリオ。履修指導(履修修正に関して指導)、GPAの確認。
第 2回　【合同】合同セミナーで情報共有
第 3回　就職・進路について（個別面談）
第 4回　卒業研究レポートの作成Ⅰ（レポート作成に向けての方針指導）
第 5回　卒業研究レポートの作成Ⅱ（各自設定テーマに基づく調査研究活動①）
第 6回　【合同】PROGテスト実施
第 7回　卒業研究レポートの作成Ⅲ（各自設定テーマに基づく調査研究活動②）
第 8回　卒業研究レポートの作成Ⅳ（レポート執筆開始）
第 9回　【合同】PROGテスト解説会
第10回　卒業研究レポートの作成Ⅴ（レポート作成継続）
第11回　発表資料およびスライドの作成
第12回　セミナー内での研究発表①
第13回　セミナー内での研究発表②
第14回　【合同】全体卒業研究発表会（1年生とも合同）
第15回　まとめ　セミナーの振り返り。2年間の学びについての自己評価(アンケート)。PC必携化アンケート

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】
事前　前期の成績は確認し、後期に追加・変更が必要な科目がないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
事後　授業で指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】
事前　合同セミナーの内容を事前確認する
事後　合同セミナーの内容を事後確認する

【第3回】
事前　個人面談に備え、就職活動や編入学準備の状況を説明できるようにしておくこと
事後　就職活動や編入学に必要な書類の作成（下書き）を完成させること

【第4回】
事前　第1回授業時に示した卒業研究レポートの今後の方針をよく読んで理解しておくこと
事後　各自のテーマに基づく予定の見直しを行うこと

【第5回】
事前　調査研究活動に必要となる資料・文献のリストアップをしておくこと
事後　収集した資料・文献等について考察を進めること

【第6回】
事前　「社会人基礎力」と「ジェネリックスキル」とは何かを調べ、1年次のPROGテストを振り返る
事後　テストの回答を思い出し、自分の性格における長所・短所を考えてみる

【第7回】
事前　調査研究活動に必要となる資料・文献のリストアップをしておくこと
事後　収集した資料・文献等について考察を進めること

【第8回】
事前　収集した資料ごとの要約をまとめる。レポートの構成（章立て）を考えること
事後　レポートの下書きを開始する

【第9回】
事前　Progテスト対策
事後　解説を基に社会人としての行動を考える

【第10回】
事前　レポートの下書きを継続しておくこと
事後　授業時に受けた指導に基づき、レポートの下書きを修正する

【第11回】
事前　下書きに基づき、本文の執筆に入る。また、発表資料およびスライド作成の準備をしておくこと
事後　授業時に受けた指導に基づき、本文およびスライドを加筆修正する

【第12回】
事前　セミナー内での発表の練習を行う。13回目に発表の者はレポート作成を継続する
事後　発表時に受けた質問や意見に基づき、レポートおよび全体卒業研究発表会の準備を行う

【第13回】
事前　セミナー内での発表の練習を行う。発表を終えた者はレポート作成を継続する
事後　発表時に受けた質問や意見に基づき、レポートおよび全体卒業研究発表会の準備を行う
　　発表を前回に終えた者はレポート作成野続を行う

【第14回】
事前　発表者はプレゼン資料を完成させること。その他のメンバーは発表者の研究についてコメントする
事後　発表を参考に自分の卒業研究の再チェックを行う

【第15回】
事前　短大2年間の振り返り。卒業研究レポートの最終チェックを行う
事後　短大2年間を振り返り、総括を行う。また、2年間の学びについての自己評価(アンケート)、PC必携化アンケート
　　に回答すること

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	就職試験対策課題(10)、卒業研究レポートの発表(10)、卒業研究に関する授業内レポート(20)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	10	事前事後学習への取り組み	1, 2, 3, 4, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	卒業研究レポート	3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	・卒業必修科目である。 ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。 ・前期にセミナーⅡaを履修していること。 ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの

履修条件・他の科目との関連	方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039612	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡｂ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	林　兵磨				
シラバス執筆(主)	林　兵磨				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

本セミナーは、これまでの学習の集大成として、卒業研究レポートの完成させることを目的とする。各自の問題意識に基づいて、資料収集、調査を積極的に行い、執筆と推敲を重ねていきながら論文の完成へとつなげていく。
　また、研究発表会の準備も行い、プレゼンテーション能力の体得もしていく。
　授業の形態は各自の執筆作業の他、プレゼンテーションに基づくディスカッションも積極的に実施していく予定である。

到達目標

本科目における受講生の到達目標は下記のとおりとする。
1. 就職活動や四年制大学編入に対する事項(企業研究・学部学科選択）についての下調べができるようになること
2. 効果的なエントリーシートや履歴書を作成できること
3. 卒業研究についてプレゼンテーションをすることができること
4. 定期試験に代わるレポートで60点以上を取ることができること

授業計画

第 1回　学修ポートフォリオ。履修指導(履修修正に関して指導)、GPAの確認
第 2回　【合同】合同セミナーで情報共有
第 3回　外部施設見学Ⅰ
第 4回　ビジネスの基礎講義とワーク
第 5回　外部講師による講演Ⅰ　（ビジネス分野）
第 6回　【合同】PROGテスト実施
第 7回　外部講師による講演Ⅱ　（情報分野）
第 8回　外部講師による講演Ⅲ（金融分野）
第 9回　【合同】PROGテスト解説会
第10回　発表資料及びスライドの作成Ⅰ　準備活動
第11回　発表資料及びスライドの作成Ⅱ　完成後の見直し
第12回　外部施設見学Ⅱ
第13回　セミナー内での研究発表
第14回　【合同】全体卒業研究発表会（1年生とも合同）
第15回　まとめ　セミナーの振り返り 2年間の学びについての自己評価(アンケート）PC必携化アンケート
なお、諸般の事情により上記授業計画に変更が生じる場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】
事前　前期の成績は確認し、後期に追加・変更が必要な科目がないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
事後　授業で指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】
事前　合同セミナーの内容を事前確認する
事後　合同セミナーの内容を事後確認する

【第3回】
事前　施設見学に先立ち、必要となる資料及び文献のリストアップをしておく
事後　施設見学で得た知識についてレポートをまとめる

【第4回】
事前　ビジネス全般に関する知識を整理しておく
事後　授業時のワークをレビューする

【第5回】
事前　外部講師から指示される事前課題を行う
事後　外部講師による講義内容に関する課題を行う

【第6回】

事前　「社会人基礎力」と「ジェネリックスキル」とは何かを調べ、1年次のPROGテストを振り返る
事後　テストの回答を思い出し、自分の性格における長所・短所を考えてみる

【第7回】
事前　外部講師から指示される事前課題を行う
事後　外部講師による講義内容に関する課題を行う

【第8回】
事前　外部講師から指示される事前課題を行う
事後　外部講師による講義内容に関する課題を行う

【第9回】
事前　Progテスト対策
事後　解説を基に社会人としての行動を考える

【第10回】
事前　下書きに基づき本文作成に取り掛かる
事後　授業時に受けた指導に基づき本文を加筆修正を行う
発表資料及びスライドの作成にも取り掛かる

【第11回】
事前　レポート作成を継続していく
事後　今回の解説を基に社会人としての行動を考える

【第12回】
事前　施設見学に先立ち、必要となる資料及び文献のリストアップをしておく
事後　施設見学で得た知識についてレポートをまとめる

【第13回】
事前　セミナー内での発表の練習を行う発表を終えた者はレポート作成の継続を行う
事後　発表時に受けた質問や意見に基づきレポート及び全体卒業研究発表会計の準備を行う
発表を前回に終えた者はレポート作成の続きを行う

【第14回】
事前　発表者はプレゼン資料を完成させること。その他のメンバーは発表者の研究についてコメントする
事後　発表を参考に自分の卒業研究の再チェックを行う

【第15回】
事前　短大2年間の振り返り。卒業研究レポートの提出確認
事後　短大2年間の振り返り。2年間の学びについての自己評価(アンケート)。PC必携化アンケート

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

・以下に示す方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する
・正当な理由なく、６回以上欠席した場合には「Ｋ」評価となる
・正当な理由なく、期日までに定期試験に代わるレポートを提出しなかった場合には「Ｋ」評価となる

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業中課題(レポート)	1,2,3,4
授業外での評価	30	事後課題	1,2,3,4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	定期試験に代わるレポート	1,2,3,4
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと ・前期に「セミナーⅡa」を履修すること

授業コード	22039613	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡｂ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	森田　篤司				
シラバス執筆(主)	森田　篤司				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

国際的な視野の育成のために、セミナーメンバーは、海外協定校と協業する。具体的には、テーマ設定、調査、研究・分析をインドネシアで日本語を学ぶ学生と共同作成を行う。資料を作成すると共に、発表ができるよう指導する。テーマの選定は、社会、文化、生活など幅広い範囲の中から、お互いに興味を持つものを相談のうえ、決定するように導く。また、プロジェクト推進に当たって、目標設定とともに実現に向けて成果物を完成するためのスケジュールを立て、自主的なタイムマネジメントを実践していくよう指導する。

到達目標

1.プレゼンテーションの資料の構想を練ることができる
2.タイムマネジメントができる
3.海外の学生とコミュニケーションができる
4.効果的なプレゼンテーションの資料作成、発表ができる
5.卒業研究レポートを仕上げることができる

授業計画

第 1回　学修ポートフォリオ。履修指導(履修修正に関して指導)、GPAの確認
第 2回　【合同】合同セミナーで情報共有
第 3回　海外協定校との合同研究プロジェクトのグループ分け。研究の構想を練る
第 4回　海外協定校との合同研究プロジェクトの推進プラン策定
第 5回　海外協定校との合同研究プロジェクト資料作成
第 6回　【合同】PROGテスト実施
第 7回　海外協定校との合同研究プロジェクト資料作成
第 8回　海外協定校との合同研究プロジェクト資料作成
第 9回　【合同】PROGテスト解説会
第10回　卒業研究レポート、次週の発表準備
第11回　海外協定校との合同研究プロジェクト発表会
第12回　発表会の振り返りと卒業研究レポートの作成
第13回　卒業研究レポートの仕上げ
第14回　【合同】全体卒業研究発表会（1年生とも合同）
第15回　まとめ　セミナーの振り返り。2年間の学びについての自己評価(アンケート)。PC必携化アンケート

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】
事前　前期の成績は確認し、後期に追加・変更が必要な科目がないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
事後　授業で指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】
事前　合同セミナーの内容を事前確認する
事後　合同セミナーの内容を事後確認する

【第3回】
事前　共同研究の構想を練る。
事後　協定校のメンバーと交信を行う

【第4回】
事前　共同研究発表までの段取りを考える
事後　共同研究発表の分担をとスケジュールを考える

【第5回】
事前　発表資料の作成
事後　発表資料の作成

【第6回】
事前　「社会人基礎力」と「ジェネリックスキル」とは何かを調べ、1年次のPROGテストを振り返る
事後　テストの回答を思い出し、自分の性格における長所・短所を考えてみる

【第7回】
事前　発表資料の作成
事後　発表資料の作成

【第8回】
事前　発表資料の作成
事後　発表資料の作成

【第9回】
事前　Progテスト対策
事後　解説を基に社会人としての行動を考える

【第10回】
事前　発表資料の最終チェック、発表練習
事後　発表準備

【第11回】
事前　発表準備
事後　発表の振り返り

【第12回】
事前　卒業研究レポートの作成
事後　卒業研究レポートの作成

【第13回】
事前　卒業研究レポートの作成
事後　卒業研究レポートの仕上げ

【第14回】
事前　発表者はプレゼン資料を完成させること。その他のメンバーは発表者の研究についてコメントする
事後　発表を参考に自分の卒業研究の再チェックを行う

【第15回】
事前　短大2年間の振り返り。卒業研究レポートの提出確認
事後　短大2年間の振り返り。2年間の学びについての自己評価(アンケート)。PC必携化アンケート

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する。
また、発表については授業内でフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく、6回以上欠席した場合は「K」評価とする

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	海外協定校との合同研究の発表資料の作成(30) 海外協定校との合同研究の発表(20)	海外協定校との合同研究の発表資料の作成:1,4海外協定校との合同研究の発表:1
授業外での評価	30	発表資料のストーリー構築・調査活動(10) タイムマネジメント(10) コミュニケーションの実践(10)	発表資料のストーリー構築・調査活動:4タイムマネジメント:2コミュニケーションの実践:3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	卒業研究レポート作成(20)	卒業研究レポート作成:2,5
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	・卒業必修科目である。 ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。 ・前期にセミナーⅡaを履修していること。 ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの

履修条件・他の科目との関連	方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039614	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡｂ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	加藤　淳一				
シラバス執筆(主)	加藤　淳一				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

2年間の短大での学修の集大成として、卒業研究レポートに取り組ませ、関心を持った内容について深く考える力、知りたい内容について自らの手で調査を計画し実行する力、自身の研究を通じて分かったことを他者にわかりやすく伝える力などを身に付けられるよう指導する。
このほか受講者の希望に応じて、伝統文化体験、大学祭への参加、ボランティア活動など、授業外での体験的学習の機会も提供する。

到達目標

1.自身の関心をもとに、自らの生きる社会の幅広い事柄への視野を広げる。
2.一定期間にわたる卒業研究活動を計画し、それに沿って適切に活動を進めることができる。
3.調査の基本的な方法を理解し、それをもとに実際に調査を計画し実行することができる。
4.自分の意見をレポートやスライドに整理し、わかりやすく他者に伝えることができる。

授業計画

第1回　学修ポートフォリオ。履修指導(履修修正に関して指導)、GPAの確認。
第2回　【合同】コミュニケーション・ワーク。体験型研修の共有、募集
第3回　フィールドワークの準備（フィールドワークの準備に対して、分担し協力して取り組む）
第4回　フィールドワークの実施（フィールドワークを実施する）
第5回　卒業研究レポートの調査（各自のテーマに沿って、卒業研究レポートの調査を進める）
第6回　【合同】PROGテスト実施
第7回　卒業研究レポートの調査（各自のテーマに沿って、引き続き調査を進める）
第8回　卒業研究レポートの執筆（卒業研究レポートの執筆に取り組む）
第9回　【合同】PROGテスト解説会
第10回　卒業研究レポートの執筆（卒業研究レポートをまとめ上げる）
第11回　セミナー内発表（卒業研究レポートの発表を行う）
第12回　セミナー内発表（卒業研究レポートの発表を行う）
第13回　卒業研究レポートの仕上げ
第14回【合同】全体卒業研究発表会（1年生と合同）
第15回　まとめ　セミナーの振り返り、2年間の学びについての自己評価（アンケート）、PC必携化アンケートの実施

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。
この他、授業全体の振り返りやまとめ、および最終レポート作成として、15時間程度の学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

全体に向け、課題やレポートに対しての振り返りとフィードバックを行うと共に、必要に応じて個人に対し、課題やレポートのコメントなどをClassroomやOIUメール、または直接口頭で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、正当な理由なく、欠席の回数が授業回数の1/3を超える（6回以上欠席）の場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	卒業研究レポートのプレゼンテーションを評価	2.3.4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	卒業研究レポートの内容を評価(50) 最終レポートの内容を評価(10)	1.2.3.4

その他	20	授業に関する発言・質問、授業態度・マナーを評価	1.2.3.4

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、プリントを配布する。
参考書	必要に応じて、授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。 ・前期にセミナーⅡaを履修していること。 ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039615	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡｂ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	久保　由加里				
シラバス執筆(主)	久保　由加里				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

「観光学」の学びを実践するために学外研修や海外協定校の学生との交流をおこなうことで
理論を応用する力を身につける。
また、卒業研究のためのテーマを決めて発表する。そのために計画を立てて文献調査をおこない、
発表をおこなう。

到達目標

１．プレゼンテーション資料のための文献調査や研究ができる
２．計画を立て、目標を達成する力を身につける
３．学びを応用する力をつける
４．卒業研究レポートを仕上げることができる

授業計画

第 1回　学修ポートフォリオ。履修指導(履修修正に関して指導)、GPAの確認。
第 2回　【合同】合同セミナーで情報共有
第 3回　学外フィールドワークの企画
第 4回　学外フィールドワーク実施
第 5回　学外フィールドワーク実施
第 6回　【合同】PROGテスト実施
第 7回　卒業研究レポート作成
第 8回　ライブラリーツアー
第 9回　【合同】PROGテスト解説会
第10回　卒業研究レポート中間報告
第11回　卒業研究レポート仕上げ
第12回　卒業研究発表会準備
第13回　卒業研究発表会準備
第14回　【合同】全体卒業研究発表会（1年生とも合同）
第15回　まとめ　セミナーの振り返り。2年間の学びについての自己評価(アンケート)。PC必携化アンケート

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】
事前　前期の成績は確認し、後期に追加・変更が必要な科目がないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
事後　授業で指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】
事前　合同セミナーの内容を事前確認する
事後　合同セミナーの内容を事後確認する

【第3回】
事前　企画したいフィールドワークについて考える
事後　フィールドワーク先について調査する

【第4回】
事前　フィールドワーク先と学ぶ内容について確認する
事後　実施レポートを作成する

【第5回】
事前　フィールドワーク先と学ぶ内容について確認する
事後　実施レポートを作成する

【第6回】
事前　「社会人基礎力」と「ジェネリックスキル」とは何かを調べ、1年次のPROGテストを振り返る
事後　テストの回答を思い出し、自分の性格における長所・短所を考えてみる

【第7回】

事前　卒業研究テーマを決める
事後　テーマに沿って研究する

【第8回】
事前　図書館を利用する
事後　学んだ図書館の利用方法を使って課題をおこなう

【第9回】
事前　Progテスト対策
事後　解説を基に社会人としての行動を考える

【第10回】
事前　卒業レポートを作成する
事後　報告会での指導を踏まえて再度作成する

【第11回】
事前　卒業レポートを作成する
事後　卒業レポートを仕上げる

【第12回】
事前　プレゼン方法について再度確認しておく
事後　プレゼン資料を作成する

【第13回】
事前　プレゼン資料を作成
事後　プレゼン資料を作成

【第14回】
事前　発表者はプレゼン資料を完成させること。その他のメンバーは発表者の研究についてコメントする
事後　発表を参考に自分の卒業研究の再チェックを行う

【第15回】
事前　短大2年間の振り返り。卒業研究レポートの提出確認
事後　短大2年間の振り返り。2年間の学びについての自己評価(アンケート)。PC必携化アンケート

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく、6回以上欠席した場合は「K」評価とする

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	フィールドワークの企画と実施　(30) 卒業研究発表のプレゼンテーション内容と方法(30)	1.2.3.4
授業外での評価	10	タイムマネジメント　(5) コミュニケーションの実践　(5)	2.3
定期試験	0	0	0
定期試験に代わるレポート等	30	卒業研究レポート(30)	1.2.3.4
その他	0	0	0

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	・卒業必修科目である。 ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。 ・前期にセミナーⅡaを履修していること。 ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039616	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡｂ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	深見　智恵子				
シラバス執筆(主)	深見　智恵子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

ゼミナール形式の授業により、2年間の学びのまとめとなる調査・研究をおこなう。
これまでに学習したことを踏まえ、自分のなりの考えを反映し、文献調査・アンケート調査・フィールド調査等を用いながら卒業研究としてまとめ、発表をおこなう。
また、コースの特徴でもある専門領域分野と社会人として必要な基礎知識や、実務に対する基礎教養知識の向上を図る。

到達目標

１．自分のキャリアや興味に沿ったテーマについて卒業研究をおこない、詳しく説明できる
２．自己理解を深め、自分の良さや強みをかして、社会人としての基礎を伸ばす
３．ホスピタリティマインドを持って、ビジネスマナーの基本を習得し、実践ができる
４．研究対象の価値や良さと課題を捉え、自分の意見を論理的にまとめ、発表することができる
５．中期的視点に基づいた未来の姿を分で描き、進むべき道を決める

授業計画

第 1回　学修ポートフォリオ：履修指導(履修修正に関して指導)、GPAの確認
第 2回　【合同】合同セミナーで情報共有
第 3回　卒業研究レポートの書き方① テーマ決定と目的
第 4回　卒業研究レポートの書き方②先行研究調査
第 5回　卒業研究レポートの書き方③研究方法
第 6回　【合同】PROGテスト実施
第 7回　調査対象選定とアプローチ方法検討と準備
第 8回　調査実施
第 9回　【合同】PROGテスト解説会
第10回　調査報告とフィードバック
第11回　卒業研究レポートの構成考察（序論・本論・結論の確認と修正）
第12回　卒業研究レポート中間報告
第13回　卒業研究レポート最終発表
第14回　【合同】全体卒業研究発表会（1年生とも合同）
第15回　まとめ：セミナーの振り返り、2年間の学びについての自己評価(アンケート)およびPC必携化アンケート実施

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】
事前　前期の成績は確認し、後期に追加・変更が必要な科目がないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
事後　授業で指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】
事前　合同セミナーの内容を事前確認する
事後　合同セミナーの内容を事後確認する

【第3回】
事前　自分のテーマを研究する意味と目的を考える
事後　研究の目的と調査方法を考える

【第4回】
事前　先行研究とは何か調べる
事後　自分の卒業研究の先行研究を探す

【第5回】
事前　参考文献とは何か調べる
事後　先行研究や参考文献と自分の意見と異なる点を考える

【第6回】
事前　「社会人基礎力」と「ジェネリックスキル」とは何かを調べ、1年次のPROGテストを振り返る
事後　テストの回答を思い出し、自分の性格における長所・短所を考えてみる

【第7回】
事前　調査対象を決めて、どのような調査ができるか調べる
事後　調査方法を確定する

【第8回】
事前　調査の準備をする
事後　調査を実施する

【第9回】
事前　Progテスト対策
事後　解説を基に社会人としての行動を考える

【第10回】
事前　回収した調査結果をまとめる
事後　フィードバックを反映して結論を考える

【第11回】
事前　卒業研究レポートの構成（序論・本論・結論）を考えてくる
事後　フィードバックを反映して修正をおこなう

【第12回】
事前　卒業研究レポートの作成と中間発表の準備
事後　フィードバックを反映して卒業研究レポートを仕上げる

【第13回】
事前　最終発表の準備
事後　他のメンバーの発表についての考察と卒業研究レポート修正

【第14回】
事前　発表者はプレゼン資料を完成させる、その他のメンバーは発表者の研究についてコメントする
事後　発表を参考に自分の卒業研究の最終チェックをおこなう

【第15回】
事前　短大2年間の振り返り、卒業研究レポートの提出確認
事後　短大2年間の振り返り、2年間の学びについての自己評価（アンケート）とPC必携化アンケートへの回答

課題に対するフィードバックの方法

・毎回、進捗状況の報告を求める
・授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する
・メンバー同士を含めたポジティブフィードバックやコメントをおこなう

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく、6回以上欠席した場合は「K」評価とする

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	ディスカッションや発表の参加度、メンバーへのコメントやポジティブフィードバック、卒業研究レポートの研究目的、調査・考察・結論などについての解説方法、授業に臨む態度や貢献度を考慮する	1.2.3.4.5
授業外での評価	20	試験の点数や習熟度および課題や自分の研究調査への取り組み	2.3.4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	卒業研究レポートのテーマや目的の意義と調査方法、序論・本論・結論について正しく理論的に書かれているか問う（構成が出来ていなければきく減点となる）	1.4.5
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて指示をおこなう。
参考書	・「聴く技術」が間関係を決める（宮城まり子）永岡書店

参考書	・1分で大切なことを伝える技術（斎藤孝） PHP研究所 ・「文化系」学生のレポート・卒論術（渡辺 潤・宮久 恭平）青弓社
履修条件・他の科目との関連	・卒業必修科目である ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある ・前期にセミナーⅡaを履修していること ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと Schedules are subject to change without notice.

授業コード	22021001	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	秘書概論　［対面］				
シラバス執筆（全員）	苅野　正美				
シラバス執筆（主）	苅野　正美				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

秘書は、組織において上司というリーダーを支援し、業務を円滑に進める役割を担うフォロワーであるといえる。この授業では、企業で働く秘書（企業秘書）の業務に着目し、グローバル社会で働くことの意義と目的、「会社」という組織に関連する経営・法律などの基本概念から組織体について概説する。さらに、秘書に必要とされる資質・求められる能力、職場での人間関係、異文化理解など理解することで、適切に上司をフォローできる基盤を築くことができる。

到達目標

1. グローバル社会や日本企業のしくみが説明できる。
2. 「秘書」としての基礎から専門にいたる知識を習得し、実践できる。
3. 社会人としての常識や問題解決能力を身につけ、実践できる。
4. 人生における仕事の持つ意味や社会が求める人間像について説明できる。
5. 自主的なライフデザイン構築の一助となり実行できる。

授業計画

第１回　オリエンテーション
（半年間の講義内容、授業に対する姿勢、成績算出方法などを説明する。）
第２回　秘書の歴史、秘書の概念
（「秘書」が成立した過程を古代から概観する。また、「秘書」の意味を説明し、歴史的に担った役割を大別して、これからの秘書の概念について考える。）
第３回　秘書と急変する企業環境
（組織としての企業をとりまく環境について概説する。）
第４回　秘書と会社組織
（会社の分類・機能、秘書業務の形態について概説する。）
第５回　秘書の職務と職能
（秘書の職務内容、上司と秘書の職能の関係、さらに秘書に求められる能力について概説する。）
第６回　秘書に求められる資質
（秘書の資質として、どのようなパーソナリティが秘書として相応しいかを説明する。）
第７回　秘書と人間関係
（コミュニケーションの要素を分析し、秘書に必要となるコミュニケーションについて概説する。）
第８回　秘書と情報管理
（企業内の秘書業務が情報ネットワークの形成によってどのように変化したかを説明する。）
第９回　秘書教育とキャリアデザイン
（女性の働き方が変わる中で秘書もキャリアデザインしながら未来に向けて変化している事例を挙げ説明する。）
第10回　秘書と法律の知識
（企業で働く秘書にとって必要な法律の知識を概説する。）
第11回　リスク・マネジメント
（秘書業務におけるリスク・マネジメントがどのように行われるのか、事例を挙げて説明する。）
第12回　秘書と異文化理解
（異文化理解とコミュニケーションの方法について概説する。）
第13回　秘書のマナーとプロトコル
（国際儀礼も含む、秘書に求められるマナーについて説明する。）
第14回　秘書とホスピタリティ・これからの秘書
（ホスピタリティとサービスの違い、秘書業務におけるホスピタリティについて概説する。 ）
第15回　振り返りとまとめ
（秘書としての資質・求められる能力・職場での人間関係などが理解できたか、また、実際の業務に必要な法律などの知識が身についたかを総復習する。）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第１回】
①事前学習課題：この授業のシラバス内容を読んでおくこと。
②事後学習課題：自分自身が考える「秘書の理想像」を箇条書きにしておくこと。
【第２回】
①事前学習課題：日本の歴史において有名な秘書的役割を担う人物を調べておくこと。
②事後学習課題：秘書の概念をまとめ、必要となる資質をピックアップしておくこと。
【第３回】
①事前学習課題：企業を取り巻く環境について調べておくこと。
②事後学習課題：秘書をとりまく環境の変化について認識しておくこと。

【第４回】
①事前学習課題：会社の分類・組織、秘書の業務形態について熟読しておくこと。
②事後学習課題：会社の組織構造と秘書の業務形態について理解しておくこと。
【第５回】
①事前学習課題：役員秘書の一日について考えてみること。
②事後学習課題：秘書に求められる能力について理解しておくこと。
【第６回】
①事前学習課題：自分自身のパーソナリティ（性格や特徴など）について説明できるようにしておくこと。
②事後学習課題：「秘書の資質」と自分自身のパーソナリティがどの程度、一致しているのかを理解しておくこと。
【第７回】
①事前学習課題：「バーバル・コミュニケーション」と「ノンバーバル・コミュニケーション」について調べておくこと。
②事後学習課題：秘書としての対人コミュニケーションにおける留意点を整理しておくこと。
【第８回】
①事前学習課題：秘書の情報処理業務について調べておくこと。
②事後学習課題：個人情報の取り扱いについてまとめておくこと。
【第９回】
①事前学習課題：「キャリアデザイン」について調べておくこと。
②事後学習課題：秘書としてのキャリアパスを整理し、自分自身の卒業後の理想的なキャリアについて考えたことをまとめておくこと。
【第10回】
①事前学習課題：「コンプライアンス」について調べておくこと。
②事後学習課題：企業活動に関する法律知識を整理しておくこと。
【第11回】
①事前学習課題：「リスク・マネジメント」について調べておくこと。
②事後学習課題：「リスク・マネジメント」についてまとめておくこと。
【第12回】
①事前学習課題：グローバル社会において秘書が必要かどうかを考えておくこと。
②事後学習課題：国際秘書の役割をまとめておくこと。
【第13回】
①事前学習課題：「マナー」と「プロトコル」について、できるだけ多くの情報を調べておくこと。
②事後学習課題：秘書にとってのマナーとは何か、外国のお客様を迎える際の留意点をまとめておくこと。
【第14回】
①事前学習課題：ホスピタリティとは何か調べておくこと。
②事後学習課題：秘書業務におけるホスピタリティとは何かをまとめておくこと。
【第15回】
①事前学習課題：テキストや配付されたプリントを見直しておくこと。
②事後学習課題：自分が苦手と感じる部分を再度確認しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

課題として取り組んだ提出物は翌週の授業でフィードバックする。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価により総合的に判定のうえ、60点以上を合格として、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業の取り組み姿勢（10）、各授業の振り返り（20）	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	70	筆記試験	1, 2, 3, 4, 5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『企業と秘書』（電子教科書）大窪久代・水原道子編著　苅野正美・小西俊二郎他/樹村房/1,900円+税/ISBN978-4-88367-197-7
参考書	秘書検定関連図書 その他、必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	「秘書士」「上級秘書士」「上級秘書士（メディカル秘書）」資格の必修科目である。

授業コード	22021101	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	秘書実務Ⅰ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	苅野　正美				
シラバス執筆（主）	苅野　正美				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

この授業は、秘書業務の基礎を学び、秘書の役割と働き方を理解した上で、専門知識や実践的なスキルの習得を目的とする。それらの知識をもとに、スキル習得のための演習を繰り返し行うことで、社会の組織に適応し協働していくためのビジネスパーソンを養成する。
ビジネス場面における仕事の取り組み方、良好なコミュニケーションがとれるように言語表現（言葉遣い）、非言語を伴う接遇表現、電話応対、来客応対などを、知識とスキルをあわせて身につける。
また、当授業は秘書技能検定2級の受検対策も兼ねる。
授業の形態は、実技演習やグループワーク・ペアワーク等である。

到達目標

1. 秘書の役割と業務内容を理解し、説明できる。
2. 秘書としての基本行動に必要な社会常識と倫理を理解し、適切に説明できる。
3. 秘書業務の基本スキル（連絡・報告、仕事の進め方、接遇・マナー）を説明できる。
4. コミュニケーションの基礎（電話応対、来客応対、聞き方・話し方）を習得することで、ビジネス場面で適切な対応ができる。

授業計画

第１回　オリエンテーション
（半年間の講義内容、授業に対する姿勢、演習方法、成績算出方法などを説明する。）
第２回　企業とビジネス社会、仕事の進め方
（秘書としての心構えや仕事の計画の立て方・進め方、オフィスワークと企業倫理について説明する。）
第３回　秘書とコミュニケーション（1）
（社会における人間関係と秘書がとるべきコミュニケーションの方法について説明する。）
第４回　秘書とコミュニケーション（2）
（話し方・聞き方について説明する。）
第５回　接遇表現と言葉遣い（1）
（ビジネスで必要となる言葉遣いの基本とさまざまな接遇表現について説明する。）
第６回　接遇表現と言葉遣い（2）
（敬語の基本を再確認し、ビジネスシーンで用いられる基本表現について説明する。）
第７回　接遇表現と言葉遣い（3）
（ビジネスシーンでの誤用表現について説明する。）
第８回　電話応対（1）
（電話応対の基本マナーについて説明する。）
第９回　電話応対（2）
（電話のかけ方・受け方について説明する。）
第10回　電話応対（3）
（電話応対の際に伝言メモを書かなければならない場合の方法について電話応対例をもとに実践する。）
第11回　電話応対（4）
（事前に説明した電話応対の演習を実践する。）
第12回　電話応対テスト
（設定に基づいて電話応対テストを実施する。）
第13回　秘書の来客応対（受付、取り次ぎ、案内、見送り）
（社内のおける応対業務の演習と方法を説明する。）
第14回　秘書の来客応対（茶菓接待、紹介）
（応接室への入室から来客接客の方法などを実践する。）
第15回　振り返りとまとめ
（秘書として、ビジネスパーソンとして実社会に出た時、必要となることの総まとめをする。）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第１回】
①事前学習課題：この講義のシラバス内容を読んでおくこと。
②事後学習課題：自分の日常生活において時間の無駄はないか、時間の有効利用について考えること。
【第２回】
①事前学習課題：テキストpp.11～24を読んでくること。
②事後学習課題：働く上で仕事の取り組み方、職場におけるルールやマナーについてまとめておくこと。
【第３回】
①事前学習課題：テキストの pp.24～32を読んでくること。第一印象の大切さをまとめておくこと。

②事後学習課題：職場における人間関係のマナーの重要性をまとめておくこと。
【第４回】
①事前学習課題：テキストの pp.33～36を読んでくること。
②事後学習課題：接遇における基本的な表現方法を復習して、何度も繰り返し覚えること。
【第５回】
①事前学習課題：テキストの pp.37～36を読んでくること。
②事後学習課題：敬語の基本を理解し、ビジネス場面で乱用されている誤用表現を復習すること。
【第６回】
①事前学習課題：テキストの pp.42～43を読んでくること。
②事後学習課題：ビジネス場面での表現を覚えておくこと。
【第７回】
①事前学習課題：テキストの pp.44～47を読んでくること。
②事後学習課題：ビジネス場面での表現を覚えておくこと。
【第８回】
①事前学習課題：テキストの pp.49～59を読んでくること。
②事後学習課題： 電話応対の基本を復習すること。
【第９回】
①事前学習課題：テキストの pp.52～59を読んでくること。
②事後学習課題：電話のかけ方・受け方について復習すること。
【第10回】
①事前学習課題：テキストの　pp.60～61を読んでくること。
②事後学習課題：電話応対の流れを復習すること。
【第11回】
①事前学習課題：テキストの p.63を読んでくること。
②事後学習課題：授業内で指示した演習課題に取り組んでおくこと。
【第12回】
①事前学習課題：電話テストの設定を頭に入れておくこと。
②事後学習課題：電話テストの振り返りをまとめておくこと。
【第13回】
①事前学習課題：テキストの pp.66～79を読んでくること。
②事後学習課題：来客応対について復習しておくこと。
【第14回】
①事前学習課題：テキストの pp.66～79を読んでくること。
②事後学習課題：来客応対のマナーを再度復習し、実践できるようにすること。
【第15回】
①事前学習課題：これまでの学習内容の復習し、不明な点をメモに書き留めておくこと。
②事後学習課題：これまでの学習内容を復習し、実践できるようにすること。

課題に対するフィードバックの方法

小テスト・演習テストは採点後にフィードバックする。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

・以下の評価割合に基づき総合的に評価し、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	小テスト・演習テスト（30）、ワークシート（30）	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	40	筆記試験	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『新・ビジネスとオフィスワーク』水原道子監修、苅野正美他/樹村房/1,900円+税/ISBN978-4-88367-335-3
参考書	秘書検定図書関連、その他、授業の中で必要に応じて紹介する。
履修条件・他の科目との関連	●演習中心に進めるため、主体的な参加を必須とする。 ●言葉遣いに関しては、「基礎演習Ⅰ（日本語演習）」を履修していることが望ましい。 ●「秘書士」「上級秘書士」「上級秘書士（メディカル秘書）」資格取得の必修科目である。

授業コード	22021201	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	秘書実務Ⅱ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	苅野　正美				
シラバス執筆（主）	苅野　正美				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

この授業は、秘書業務の基礎を学び、秘書の役割と働き方を理解した上で、専門知識や実践的なスキルの習得を目的とする。それらの知識をもとに、スキル習得のための演習を繰り返し行うことで、社会の組織に適応し協働していくためのビジネスパーソンを養成する。
秘書業務の基本となるビジネス文書作成、文書の取り扱い、慶弔業務などの知識やスキルを身につける。さらに、組織における役割を理解し、状況に応じた対応力と円滑なコミュニケーション能力を身につけることを目指し、ビジネス文書作成およびスケジューリングの演習を行う。また、当授業は秘書技能検定2級の受検対策も兼ねる。

到達目標

1. 秘書業務に必要な専門知識や実践スキルを習得し、説明できる。
2. 秘書業務に必要なビジネス文書が作成できる。
3. 郵便の知識、文書の取り扱い、文書管理、ファイリングについて説明できる。
4. 慶弔業務について説明できる。

授業計画

第１回　オリエンテーション
（半年間の講義内容、秘書技能検定への取り組み方法、授業に対する姿勢、演習方法、成績算出方法などを説明する。）
第２回　ビジネスにおける慶弔業務
（ビジネス社会で必要となる冠婚葬祭の「慶事・弔事」について説明する。）
第３回　ビジネスにおける贈答マナー
（ビジネス社会で必要となる「贈答・見舞い」について説明する。）
第４回　秘書の文書業務
（ビジネス文書の種類と基本ルール、文書事務について説明する。）
第５回　ビジネス文書の基礎知識
（ビジネス文書の種類を説明し、社内文書や社外文書の基本的な知識と作成方法を概説する。）
第６回　ビジネス文書作成（書式と基本文例）
（ビジネス文書の書式を説明し、特有の定型文についても概説する。）
第７回　ビジネス文書作成（社内）
（ケースを提示して社内文書を作成し、作成したものを添削指導する。）
第８回　ビジネス文書作成（社外）
（ケースを提示して社外文書を作成し、作成したものを添削指導する。）
第９回　通信業務
（一般的な文書や秘密文書の取り扱いについて説明する。）
第10回　文書管理とファイリング
（ファイリングシステムやファイリングの種類や方法について説明する。）
第11回　スケジューリング
（スケジュール管理の種類と作成方法について説明する。）
第12回　出張業務
（上司の出張時（国内・海外）における秘書業務（出張準備から出張後のサポートまで）について概説する。）
第13回　会議のコーディネート
（会議の種類や運営、会議を開催するまでの流れについて説明する。）
第14回　オフィスの環境整備
（ビジネスパーソンが快適に働くためのオフィス環境について概説する。）
第15回　振り返りと総まとめ
（秘書業務を通して、社会人として実社会で求められる知識・スキルを振り返る。）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第１回】
①事前学習課題：前期の「秘書実務Ⅰ」で学んだ「秘書の役割と仕事」と、シラバスを読んで内容を理解しておくこと。
②事後学習課題：前期の「秘書実務Ⅰ」で学んだ内容の復習をしておくこと。
【第２回】
①事前学習課題：テキストのpp.121～127を読んでくること。
②事後学習課題：賀寿の種類や「表書き」を漢字で書けるように復習すること。
【第３回】
①事前学習課題：テキストの pp.128～134を読んでくること。

②事後学習課題：「贈答・見舞い」の注意点をまとめておくこと。
【第４回】
①事前学習課題：テキストの pp.97～105を読んでくること。
②事後学習課題：文書作成の基本ルールをまとめておくこと。
【第５回】
①事前学習課題：前回の授業で取り上げたビジネス文書の種類と基本ルール（テキスト pp.97～105）について復習してくること。
②事後学習課題：社内文書と社外文書の種類を整理し、各事項の意味合いも確認しておくこと。
【第６回】
①事前学習課題：テキスト pp.97～105を読み、ビジネス文書と私文書における表現の相違点を考えてくること。
②事後学習課題：社内文書と社外文書の書式を理解して、次週には書けるように覚えておくこと。
【第７回】
①事前学習課題：テキスト pp.98～99を読み、社内文書について理解してくること。
②事後学習課題：添削後の間違った箇所を確認しておくこと。
【第８回】
①事前学習課題：テキスト pp.100～104を読み、社外文書について理解してくること。
②事後学習課題： 添削後の間違った箇所を確認しておくこと。
【第９回】
①事前学習課題：テキスト pp.106～108を読み、文書・郵便物の取り扱いについて把握してくること。
②事後学習課題：秘密文書の取り扱い方法をまとめておくこと。
【第10回】
①事前学習課題：テキスト pp.114～120を読み、ファイリングについて理解しておくこと。
②事後学習課題：履修中の講義資料を当授業で学んだファイリング方法に沿って整理してみること。
【第11回】
①事前学習課題：テキスト pp.149～153を読み、スケジューリングについて理解しておくこと。
②事後学習課題：スケジュール管理のポイントをまとめておくこと。
【第12回】
①事前学習課題：テキスト pp.154～160を読み、出張業務について理解を深めてくること。
②事後学習課題：自分自身が出張すると仮定して、どのようなことをチェックするべきか書き上げてくること。
【第13回】
①事前学習課題：テキスト pp.140～144を読み、会議の知識について把握しておくこと。
②事後学習課題：重要語句をまとめて覚えておくこと。
【第14回】
①事前学習課題：日常生活において、不快感だと感じることをリストアップしておき、テキスト pp.145～148の環境整備に関する項目を熟読すること。
②事後学習課題：ビジネス現場において、必要な環境整備をまとめておくこと。
【第15回】
①事前学習課題：テキスト、配付資料を見直しておくこと。
②事後学習課題：間違った箇所を確認しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

小テストは採点後、返却する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

・以下の評価割合に基づき総合的に評価し、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	小テスト（30）、ワークシート・課題（30）	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	40	筆記試験	1, 2, 3, 4, 5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『新・ビジネスとオフィスワーク』水原道子監修、苅野正美他/樹村房/1,900円+税/ISBN978-4-88367-335-3 （「秘書実務Ⅰ」と同じテキスト）
参考書	秘書検定図書関連、その他、授業の中で必要に応じて紹介する。
履修条件・他の科目との関連	●演習中心に進めるため、主体的な参加を必須とする。 ●「秘書実務Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。 ●「上級秘書士」「上級秘書士（メディカル秘書）」資格取得の必修科目である。

授業コード	22014402	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	自己開発演習　［対面］				
シラバス執筆（全員）	村田　菜穂子				
シラバス執筆（主）	村田　菜穂子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本演習は、自分の良さや強みを発見し、人間関係構築のための基盤となる知識と技術を修得すること目的とする。個人ワーク、ペアワーク及びグループワークの形式の演習を行う。テーマとして「自分自身」、「対人関係の中の自分」、「集団の中での自分」などを取り上げる。ペアワークやグループワークにおいては演技をする、意見を述べる、相談する、発表するなどの形態を伴うが、積極的に参加することで自分の良さ、他の人の良さ及び自分の強みを見つけることができるように実施する。様々なワークによって得た自己分析結果やコミュニケーション能力は生活場面でも活用できるように振り返りを行う。

到達目標

１．自分および他者の良さ、強みを伝えることができる。
２．人間関係構築のための基礎となる知識と技術を用いて、生活場面で活用できる。

授業計画

【第1回】
テーマ：ガイダンスおよびイントロダクション
【第2回】
テーマ：「自分自身」（１）自己理解（私を分析する）
【第3回】
テーマ：「自分自身」（２）自己紹介
【第4回】
テーマ：「自分自身」（３）自己把握、私のパーソナリティ（性格・個性）
【第5回】
テーマ：「自分自身」（４）自分の中の「親」「大人」「子ども」
【第6回】
テーマ：「自分自身」のまとめ（アイデンティティ、私は何者か）
【第7回】
テーマ：「対人関係の中の自分」（１）自己表現
【第8回】
テーマ：「対人関係の中の自分」（２）人とのかかわり方
【第9回】
テーマ：「対人関係の中の自分」（３）コミュニケーション（アサーティブ・コミュニケーション）
【第10回】
テーマ：「対人関係の中の自分」（４）話し上手・聴き上手・頼り上手
【第11回】
テーマ：「対人関係の中の自分」のまとめ（より良い人間関係の構築）
【第12回】
テーマ：「集団の中の自分」（１）リーダー、リーダーシップ
【第13回】
テーマ：「集団の中の自分」（２）ファシリテーション
【第14回】
テーマ：「集団の中の自分」（３）未来の私
【第15回】
テーマ：総括（自分自身の持ち味・強み）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】
・事前：シラバスを確認する。
・事後：ガイダンスおよびイントロダクションの内容について、重要なポイントをノート・資料にまとめる。
【第２回】
・事前：自分自身を理解するにはどのような方法があるかについて調べておく。
・事後：授業で提示した「自分自身」についての課題に取り組む。
【第３回】
・事前：他者に自分のことを知ってもらうための自己紹介を考える。
・事後：授業で提示した「自分自身」についての課題に取り組む。
【第４回】
・事前：「パーソナリティ」について調べ、自分自身を振り返り、自分自身の「パーソナリティ」を書き出す。
・事後：授業で提示した「自分自身」についての課題に取り組む。
【第５回】

・事前：自分の心の「親」的な側面、「大人」的な側面、「子ども」的な側面を振り返り、書き出す。
・事後：授業で提示した「自分自身」についての課題に取り組む。
【第６回】
・事前：「アイデンティティ」について調べ、自分自身を振り返り、自分自身の「アイデンティティ」を書き出す。
・事後：個人ワークにおいて行ってきた自己分析結果を振り返り、自分の良さや強みについて整理する。
【第７回】
・事前：自分の考えや気持ちを他者に伝える際に、難しく感じていることについて振り返り、書き出す。
・事後：授業で提示した「対人関係の中の自己」についての課題に取り組む。
【第８回】
・事前：他者とかかわるうえで、気を付けていること、大切にしていること、難しいと感じていることについて振り返り、書き出す。
・事後：授業で提示した「対人関係の中の自己」についての課題に取り組む。
【第９回】
・事前：日常生活における自分自身のコミュニケーションの特徴について振り返り、書き出す。
・事後：授業で提示した「対人関係の中の自己」についての課題に取り組む。
【第10回】
・事前：話すことが上手な人、聴くことが上手な人、また、他者に頼ることが上手な人を思い浮かべて、その特徴を書き出す。
・事後：授業で提示した「対人関係の中の自己」についての課題に取り組む。
【第11回】
・事前：より良い人間関係をつくるためには、どういった点に配慮することが必要かを考え、書き出す。
・事後：第7回～第10回において学んだ内容を振り返り、より良い人間関係をつくるための知識と技術について整理する。
【第12回】
・事前：「リーダー、リーダーシップ」について調べ、これまでの心に残る「リーダー」にまつわる経験を振り返り、書き出す。
・事後：授業で提示した「集団の中の自分」についての課題に取り組む。
【第13回】
・事前：「ファシリテーション」について調べ、その概要をまとめて書き出す。
・事後：授業で提示した「集団の中の自分」についての課題に取り組む。
【第14回】
・事前：これからの日本社会、世界の中の日本を思い浮かべて、その様相をまとめる。
・事後：授業で提示した「集団の中の自分」についての課題に取り組む。
【第15回】
・事前：第1回～第14回の授業を振り返り、自分自身の持ち味・強みを整理する。
・事後：定期試験に代わるレポートに向け、様々なワークによって修得した人間関係構築の基盤となる知識と技術を整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題は授業内でフィードバックを行います。また、レポートについては評価基準に基づき自己採点ができるように説明する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は、以下に示す成績評価の方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【「K」評価となる場合】
・正当な理由なく欠席が5回を超えた場合
・正当な理由なく「定期試験にかわるレポート」を指定した期限までに提出しなかった場合

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	授業内において実施する課題（計15回）	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	レポート課題（25）	1, 2
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	1. 必ず、事前学習を行って授業に臨むとともに、授業内容を振り返りながら事後学習に努めること 2. 本授業は、頻繁に課題が課せられるので積極的に取り組むこと 3. 受講にあたり、特別な配慮を必要とする場合は申し出ること

授業コード	22026001	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	人間関係　［対面］				
シラバス執筆（全員）	大塚　穂波				
シラバス執筆（主）	大塚　穂波				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

私たちは日々他者とさまざまなレベルで関わり合いながら生活している。この授業では、人と人がどのようにつながり、関係を築いているのかについて理解を深めることを目的とし、人間関係の形成プロセスや特徴について、主に発達心理学、社会心理学の知見をもとに概説する。多様な人と良好な人間関係を築き、円滑なコミュニケーションを行う実践的な力を養うために、毎回グループワークや発表を行いながら授業を展開する。

到達目標

1. 人間関係の発達や関連要因について、基本的事項を説明することができる
2. 自身の人間関係を振り返り、他者にわかりやすく伝えることができる
3. 他者とよりよい関係を築く方法を理解し、実践することができる

授業計画

第1回　イントロダクション：他者とのかかわり
第2回　人と人との出会い
第3回　人間関係の発達過程
第4回　対人関係の広がりと深まり
第5回　対人魅力と親密な人間関係の形成
第6回　対人コミュニケーション
第7回　他者からの影響
第8回　オンラインコミュニケーション
第9回　集団の中でのふるまい
第10回　集団間の対立
第11回　対人関係の諸問題
第12回　よりよい人間関係のために
第13回　ストレスと人間関係
第14回　幸福感と人間関係
第15回　まとめと振り返り：自身の人間関係を振り返る

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：シラバスを読んで毎回の授業テーマに該当するテキストの章を通読する。また、テーマに関連する最近のニュースや自身の経験を振り返り、関心を整理しておくこと（2時間程度）。
事後学習：テキスト、ノートをもとに重要語句や要点をまとめたうえで、特に興味を持った内容に関連する研究等を調べ、小レポートにまとめる（2時間程度）。

課題に対するフィードバックの方法

グループワークや発表に対してはその場でコメントする。リアクションペーパーは次回の授業内で紹介する。
レポートの結果については希望者に対して開示する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格として所定の単位を認定する。正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	グループワーク、発表への貢献度（30）課題の達成度（30）リアクションペーパーの内容（10）	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート	1, 2
その他	0		

テキスト	「ワークショップ人間関係の心理学」藤本忠明・東　正訓（編）ナカニシヤ出版，2000円，ISBN：9784888488334
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	欠席した回もテキストを通読してワークに取り組み、内容を理解しておくこと。

授業コード	22030201	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	メディカル秘書概論　［対面］				
シラバス執筆(全員)	苅野　正美				
シラバス執筆(主)	苅野　正美				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的･概要

現代の医療は、高度化・専門化・複雑化が進み、量から質への転換が迫られている。その中で、医療機関における理事長、病院長などの病院経営者や各診療部門の管理者、医局の医師などが本来の業務に専念できるように補佐する医療秘書の果たす役割の重要性が高く認識されてきている。
この授業では、医療機関の組織、医療秘書の役割、必要な知識・スキル、患者や医療従事者・医療スタッフとのコミュニケーション、チーム医療について概説する。また、医師のサポート役として注目されている医師事務作業補助者についても説明する。

到達目標

1. 医療機関の組織について理解し、説明できる。
2. 医療秘書の役割・業務内容を具体的に述べることができる。
3. 医師事務作業補助者の役割・機能を具体的に説明できる。
4. 医療秘書、医師事務作業補助者、医療事務の違いについて説明できる。

授業計画

第１回　医療機関とは
（Hospitalの語源、病院と診療所の違い、医療機関の分類について説明する。）
第２回　医療機関の経営と管理
（病院の組織、医療機関の経営要素、チーム医療を説明する。）
第３回　秘書の定義と歴史
（秘書とは何か、秘書の定義、秘書の歴史的変遷を概説する。）
第４回　秘書の形態
（所属による分類、機能による分類、専門分野による分類について説明する。）
第５回　医療秘書の歴史
（医療秘書の誕生を知る。）
第６回　医療秘書の役割と機能
（医療秘書の定義について考える。）
第７回　医療秘書の形態
（個人つき医療秘書、部門つきの医療秘書、兼務型の医療秘書について説明する。）
第８回　医療秘書の業務
（上司が、大学病院の教授、医療機関の経営者、医師の場合を取り上げ、医療秘書の業務の特徴を理解する。）
第９回　医療秘書に求められる資質と能力
（医療秘書職に求められる資質、能力、スキルについて考える。）
第10回　医療秘書の現状と新たなニーズへの対応
（医師事務作業補助体制加算の新設の背景と現状を概説する。）
第11回　医師事務作業補助者の役割と機能
（医師事務作業補助者の定義について概説する。）
第12回　医師事務作業補助者の業務
（医師事務作業補助者の業務内容について概観する。）
第13回　医療秘書と医師事務作業補助者
（医療秘書、医師事務作業補助者、医療事務の違いについて考える。）
第14回　医療秘書職の呼称、コミュニケーション
（医療秘書と医師事務作業補助者の呼称、医療秘書職に求められるコミュニケーション力について考える。）
第15回　総括、まとめ
（これまでの授業内容を振り返り、医療秘書および医療秘書業務に必要な知識・特徴を整理する。）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前学習】
授業時に指示があった場合、事前に課題について考え、まとめてくること。
【事後学習】
毎回の授業内容で課題を課すので、次回の授業時に提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

課題の提出と返却はGoogle Classroomを活用する。提出された課題に対するフィードバックは、翌週の授業時間内に行う。

成績評価の方法・基準（方針）
●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。 ●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。 ---------- 以下の評価割合に基づき総合的に評価の上、60点以上を合格として、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	ワークシート（20）、リフレクションペーパー（30）	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	50	筆記試験	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『医療秘書』寺田智明・大塚映他/建帛社/2,200円+税/ISBN978-4-7679-3737-3
参考書	『現代医療秘書　役割と実務』 中村健壽監修　西文社 『企業と秘書』大窪久代・水原道子編著　苅野正美・小西俊二郎他/樹村房（「秘書概論」のテキスト）
履修条件・他の科目との関連	「上級秘書士（メディカル）」資格を取得希望の学生は必ず履修すること。

授業コード	22030302	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	メディカル秘書実務　［対面］				
シラバス執筆（全員）	苅野　正美				
シラバス執筆（主）	苅野　正美				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

現代の医療は、高度化・専門化・複雑化が進み、量から質への転換が迫られている。その中で、医療機関における理事長、病院長などの病院経営者や各診療部門の管理者、医局の医師などが本来の業務に専念できるように補佐する医療秘書の果たす役割が高く認識されてきている。
この授業では、医療秘書として日々の業務を円滑かつ効果的に行うために、必要な接遇、電話応対などの知識・スキルを習得する。医療秘書はチーム医療において重要な役割を担っており、演習を通して実践力を身につける。

到達目標

1. 医療秘書としての職場でのマナー、心構えについて説明できる。
2. 医療機関での接遇の基本を理解し、上司や患者、見舞い客などへの対応ができる。
3. チーム医療におけるコミュニケーション能力の重要性を認識し、医療場面において適切な対応ができる。

授業計画

第１回　医療秘書における職場でのマナーと心構え
（挨拶、言葉遣い、敬語、求められる資質とスキルについて概観する。挨拶・言葉遣いの演習を行う。）
第２回　患者応対の心構え①
（外来受付窓口での患者応対の心構えと留意点を説明する。）
第３回　患者応対のケーススタディ①
（外来受付窓口での患者応対についてグループで話し合い、発表する。）
第４回　患者応対の心構え②
（入退院受付・病棟での患者応対の心構えと留意点を説明する。）
第５回　患者応対のケーススタディ②
（入退院受付・病棟での患者応対についてグループで話し合い、発表する。）
第６回　いろいろな接遇
（子ども、高齢者、身体の不自由な方、外国人に対する接遇ポイントを説明する。）
第７回　接遇演習
（子ども、高齢者、身体の不自由な方、外国人に対する接遇演習を行う。）
第８回　クレーム対応
（クレーム時の対応ポイントを説明し、ケーススタディを通して、グループで話し合い、発表する。）
第９回　電話応対
（電話応対の基本、電話のかけ方、電話の受け方、メモの取り方について説明する。）
第10回　電話応対演習①
（患者、患者の家族に対する電話応対の基本と留意点を説明し、演習を行う。）
第11回　電話応対演習②
（外部業者、医師の家族に対する電話応対の基本と留意点を説明し、演習を行う。）
第12回　電話応対演習③
（クレーム対応の基本と留意点を説明し、演習を行う。）
第13回　電話テスト
（設定に応じた電話応対ができるかどうかのテストを実施する。）
第14回　総合演習
（医療現場を想定したロールプレイングを行い、実践的なスキルを身につける。）
第15回　振り返り・まとめ
（これまでの授業を振り返り、内容を整理する。）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前学習】
各回の指示に従って課題等に取り組むこと。
【事後学習】
授業で学んだ範囲について復習し、授業時に課される課題について取り組むこと。

課題に対するフィードバックの方法

演習課題・電話テストについて、授業内で講評を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

・以下の評価割合に基づき総合的に評価し、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	演習課題（40）、電話テスト（20）	1，2，3
授業外での評価	0		
定期試験	40	筆記試験	1，2，3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『医療秘書』寺田智明・大塚映他/建帛社/2,200円+税/ISBN978-4-7679-3737-3 （「メディカル秘書概論」と同じテキスト）
参考書	『現代医療秘書　役割と実務』 中村健壽監修/西文社 『新・ビジネスとオフィスワーク』水原道子監修、苅野正美他/樹村房（「秘書実務Ⅰ」「秘書実務Ⅱ」のテキスト）
履修条件・他の科目との関連	＊「上級秘書士（メディカル）」資格を取得希望の学生は必ず履修すること。 ＊進行によっては、授業計画の順序が変更することがある。

授業コード	22041901	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	情報処理のしくみ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	石川　高行				
シラバス執筆(主)	石川　高行				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

現在の情報社会において、情報は大きな価値を持ち、これらはコンピューターを用いた情報システムにより管理・運用されている。情報システムとは、社会や企業等の活動に必要な情報の利活用に関わるしくみである。情報社会を生きる者にとって、情報を理解しコンピューターを適切に使いこなす能力は不可欠といえよう。
　この授業では、数値・文字・画像などのデータ表現、コンピューターのハードウェアとソフトウェアの構成とその動作原理、情報ネットワークのしくみ、セキュリティー等について解説する。
　また、理論だけではなく実際の操作ができることが望ましいため、PC を用いた実際の作業についても学ぶ。

到達目標

1. コンピュータの仕組みを簡単に説明できる
2. 画像や動画や音のファイルの大きさの違いが発生する理由を説明できる
3. ネットワークの仕組みを説明できる
4. 個人のセキュリティ対策として必要なことを述べることができる
5. 上記に関する基礎的な PC 操作ができる

授業計画

1. コンピュータの世界
2. コンピュータの構成
3. アナログとデジタル
4. 文字の扱い
5. 画像の扱い
6. 動画の扱い
7. 音の扱い
8. 身近なネットワーク
9. インターネットのしくみ
10. 進化するインターネット
11. ネット時代のトラブル
12. 情報セキュリティ対策の必要性
13. 情報セキュリティ対策
14. コンピューターウィルスへの対策
15. データを扱ってみよう

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

標準的な学生であれば復習・作業を含めて90時間で終了できる分量を想定している。事前学習よりも事後学習が大切であるが、自動採点機能を活かして事前学習し授業進度よりも先に進んでも問題ない。
　一部、授業の前日までにやっておくべき作業があり、これは授業内に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

座学部分については Moodle における自動採点機能をほぼ全面的に利用する。自分自身の力で正解が導けるまで何度でも挑戦できるので、分かるまで頑張ること。
　授業時間外に教員へ質問する際は、e-mail にパソコンの画面を貼り付けて科目担当教員へ送ること。特に、実操作が必要な課題は「行き詰った」と感じた画面と説明文の両方があることが望ましい。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

　下記の通り、通常課題と期末レポート課題合わせて 100% で評価するが、それぞれの課題には締切が設定されているため、本来の授業日を大きく過ぎてから課題に取り組もうとしても取り組めないものがある。課題の出来は基本的に Moodle 上で得点として確認することができる。
　教室に来ていても授業に参加しているとは言えない取り組み方をしている場合は原則として減点対象となる。毎回の授業で示される到達目標に達するまで課題に集中しているかどうかによる。
　授業不参加が5回を超えると K 評価とする。ただし公欠・出席停止・やむを得ない欠席については証明画像を提出することで考慮の対象となる。

成績評価の種類	評価割合	評価方法・割合	評価対象となる到達目標

	(%)		
授業内での評価	95	自動採点課題 (85) 作業課題 (10)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	5	期末レポート (5)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	定平誠 著『【改訂第2版】例題100でしっかり学ぶ メディアリテラシー 標準テキスト』(技術評論社, 2022年, ISBN:978-4297132712, 税別1600円) https://gihyo.jp/book/2023/978-4-297-13271-2 (初回授業では持参不要。電子書籍を推奨するが、紙書籍でも問題ない。)
参考書	IT すきま教室 渡辺さき 著『1週間で IT パスポートの基礎が学べる本』(インプレス ブックス, 2021年, ISBN:9784295011620, 税別1360円) https://book.impress.co.jp/books/1120101037 (初回授業では持参不要。電子書籍を推奨するが、紙書籍でも問題ない。)
履修条件・他の科目との関連	授業時間外に科目担当教員とやりとりする際には e-mail を使うため、普段から e-mail を1日1回は読んでおくこと。また Universal Passport も1日1回はログインして内容を確認すること。 e-mail で質問する際は、自分が困っている場面を写真に撮るかスクリーンショットに撮って e-mail に添付すること。 授業は MS-Windows の PC を持参していることを前提に進めるが、MacOS でも殆どの課題に取り組むことが可能である。ただし MacOS の操作などに関しては指導しないので、MacOS を利用する場合は操作などは自分で調べること。 マウスを所持していることを前提に授業を進める。マウスなしでの受講はかなり困難である。 授業資料は全て Moodle にて配布する。授業に欠席した回も、課題は定められた期限までに提出する必要がある。入院などで長期にわたり課題に取り組むことができなくなった場合は教員へ連絡すること。 この授業の後は「情報社会のしくみ」を履修することが望ましい。

授業コード	22021901	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	表現力開発　［対面］				
シラバス執筆（全員）	三次　亜紀子				
シラバス執筆（主）	三次　亜紀子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的･概要

円滑な人間関係を築くためには、最適なコミュニケーション能力や傾聴力が必要である。
この授業は、対人コミュニケーションのしくみや表現方法について、講義と演習を織り交ぜた授業形式にて運営する。
主に、ペアワークやグループワークを行いながら自己表現の手法を体得していくことを目的としている。
自らの意思（意見や思い）を的確に表現して、相手に分かりやすく話す表現能力を身につけるため、就職活動にも役立てることができる。
また、演習を通じて、人前で臆せず話すことのできるスピーチ力の向上を目指しながら、コミュニケーションや自己表現に対する苦手意識を払拭する授業としたい。

到達目標

１．コミュニケーションのしくみやコミュニケーション・サイクルが説明できる
２．相手の話をしっかりと聞き、留意するポイントを説明できる
３．自らの考えをまとめることができ、聞き手に分かりやすく話すことができる
４．自らの意見を明確に表現でき、相手が納得するような話し方が実行できる
５．良好な人間関係を築くための表現方法を理解し、実行できる

授業計画

【第1回】
テーマ：オリエンテーション
内容・方法：講義の内容、自己表現力向上のための取り組み方法、受講姿勢、成績算出方法などを説明する
【第2回】
テーマ：言語コミュニケーション（バーバル・コミュニケーション）
内容・方法：言語によるコミュニケーションについて概説し、グループワークに取り組む
【第3回】
テーマ：非言語コミュニケーション（ノンバーバル・コミュニケーション）
内容・方法：非言語コミュニケーションの種類や効果と重要性を説明し、グループワークに取り組む
【第4回】
テーマ：傾聴力
内容・方法：対人コミュニケーションにおける「傾聴」について説明し、傾聴力を意識したグループディスカッションに取り組む
【第5回】
テーマ：チームワークを意識したグループワーク
内容・方法：チームメンバーとの関わりを通じて、積極性・傾聴力・リーダーシップ・情報を整理する力・柔軟性など自身の強み・弱みを認識しながらグループワークに取り組む
【第6回】
テーマ：共感力
内容・方法：対人コミュニケーションにおける「共感」について説明し、ペアワークに取り組み、相互評価する
【第7回】
テーマ：質問力
内容・方法：対人コミュニケーションにおける「質問」について説明し、ペアワークに取り組む
【第8回】
テーマ：ビジネスコミュニケーション
内容・方法：ビジネスの場で求められるコミュニケーションについて説明し、社会人基礎力を意識したグループワークに取り組む
【第9回】
テーマ：説得力
内容・方法：相手が納得するような話し方について説明し、自らの意見を明確に表現することを意識したグループワークに取り組む
【第10回】
テーマ：ディベートディスカッション
内容・方法：コミュニケーション手法のひとつであるディベートの方法と期待できる効果について説明し、即興ディベートに取り組む
【第11回】
テーマ：協働実感ワーク
内容・方法：「第５回チームワークを意識したグループワーク」での反省点を活かしながら、グループワークに取り組む
【第12回】
テーマ：パブリック・スピーキングの原稿作成
内容・方法：聞き手に分かりやすく伝えるための文章構成について説明し、「第14回・15回 パブリック・スピーキング（スピーチ）の実践① or ② 」に向けたスピーチ原稿を作成する
【第13回】

テーマ：パブリック・スピーキングの練習
内容・方法：学生生活のみならず、就職活動や社会人生活にも役立つ、人前での好感度の高い話し方について説明し、「第14回・15回 パブリック・スピーキング（スピーチ）の実践① or ② 」に向けて、グループにて練習する
【第14回】
テーマ：パブリック・スピーキング（スピーチ）の実践 ①
内容・方法：発表者はパブリック・スピーキング（スピーチ）を実践し、傍観者は与えられたシートに所感を記載する
【第15回】
テーマ：パブリック・スピーキング（スピーチ）の実践 ②
内容・方法：発表者はパブリック・スピーキング（スピーチ）を実践し、傍観者は与えられたシートに所感を記載する

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回、事前学習1.5時間、事後学習2.5時間、合わせて4時間以上の学習を必要とする。

【第1回】
①事前学習課題：本講義のシラバス内容を読んでおくこと
テキストP.8～11「1.コミュニケーションスキルを学ぶ」を熟読すること
②事後学習課題：テキストのP.8、9のシーン1･2に関する所感をまとめること
【第2回】
①事前学習課題：テキストP.14～17「2.コミュニケーションは難しい」を熟読すること
②事後学習課題：テキストのP.14、15のシーン1･2に関する所感をまとめること
テキストのP.13【ワーク2】コミュニケーションにおいて大切なことをまとめること
【第3回】
①事前学習課題：テキストP.20～25「3.メタメッセージを意識する」を熟読すること
②事後学習課題：テキストのP.21【プレワーク】についてまとめること
テキストのP.30、31のシーン1･2に関する所感をまとめてくること
【第4回】
①事前学習課題：テキストP.30～34「4.話を聞くためのスキル：プレワーク、①傾聴、②観察」を熟読すること
②事後学習課題：テキストのP.37【ワーク2】傾聴・観察・共感についてそれぞれのスキルの概略や注意点をまとめること
【第5回】
①事前学習課題：第1回～第4回の復習をすること
②事後学習課題：テキストのP.42、43のシーン1･2に関する所感をまとめること
【第6回】
①事前学習課題：テキストP.34「4.話を聞くためのスキル ③共感」を熟読すること
②事後学習課題：テキストのP.38～39【ワーク3】傾聴・観察・共感の基礎ワーク、●傍観者用チェック項目、●振り返りシートをまとめること
【第7回】
①事前学習課題：テキストP.42～46「5.理解を深めるためのスキル」を熟読すること
②事後学習課題：テキストのP.50、51のシーン1･2に関する所感をまとめてくること
【第8回】
①事前学習課題：テキストP.58～65「7.仕事をスムーズに進めるためのスキル」を熟読すること
②事後学習課題：テキストのP.58、59のシーン1･2に関する所感をまとめてくること
【第9回】
①事前学習課題：テキストP.72～77「8.情報を共有するためのスキル」を熟読すること
②事後学習課題：テキストのP.72、73のシーン1･2に関する所感をまとめてくること
【第10回】
①事前学習課題：傾聴・共感・質問など、今までの授業を振り返っておくこと
②事後学習課題：テキストのP.66【ワーク1】報告（完結編）（1）報告事項を整理し、優先順位を考えながら「報告のための原稿」を作成すること。
【第11回】
①事前学習課題：傾聴・共感・質問など、今までの授業を振り返っておくこと
②事後学習課題：第1回～第11回の振り返りシートの内容を読み返しておくこと
【第12回】
①事前学習課題：第1回～第11回の振り返りシートの内容を読み返しておくこと
②事後学習課題：与えられたテーマのスピーチ原稿を作成し、人前で話せるよう内容を覚えること
【第13回】
①事前学習課題：作成したスピーチ原稿の内容を覚えてくること
②事後学習課題：アイコンタクトや発声、ジェスチャーの練習など、パブリックスピーキングの準備をすること
【第14回】
①事前学習課題：自身の話している姿を動画撮影し、改善点を見つけるなど、パブリックスピーキングの練習をすること
②事後学習課題：発表者は自身のパブリックスピーキングについて振り返ること、未発表者はパブリックスピーキングの準備をすること
【第15回】
①事前学習課題：自身の話している姿を動画撮影し、改善点を見つけるなど、パブリックスピーキングの練習をすること
②事後学習課題：発表者は自身のパブリックスピーキングについて振り返ること、定期試験に代わるレポート課題に取り組むこと

課題に対するフィードバックの方法

各回のワークへの取り組みを、授業内でフィードバックする。
各回の振返りレポートを、次回以降の授業にてフィードバックする。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、正当な理由なく欠席数が5回を超えた場合（出席数が10回未満の場合）は、評価の対象とせず「K」評価とする。
※ 正当な理由なくパブリックスピーキング（第14回、第15回のいずれか）を実施しない場合は、評価できないこともあるので、必ず出席の上発表すること。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	①ペアワークやグループワークへの取り組み姿勢、毎時間の発言点を加算していく（15%） ②各回振り返りレポート（20%） ③テキスト課題の提出（10%） ④第14回 or 第15回　授業内プレゼンテーション（30%）	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	10	パブリックスピーキング（スピーチ）原稿の提出	1, 2, 3, 4, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	（当該授業終講後）レポート提出（Google classroomにて出題）	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	『ワークで学ぶコミュニケーション・スキル』中村健壽、平田祐子 他 /（株）西文社/1500/ ISBN978-4-904540-21-3
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	毎時間、演習形式を取り入れるため、演習への取り組み姿勢や毎回の発言や発表を重視する。

授業コード	22006001	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	ホスピタリティ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	久保　由加里				
シラバス執筆(主)	久保　由加里				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的･概要

グローバル社会において、相互理解力や国際的なコミュニケーション能力は重要な要素である。DX促進やAI活用が進む中でも、人にしかできない付加価値を提供する上で、ホスピタリティは大切な役割を果たす。当授業は「ホスピタリティの概念」をさまざまな視点から考察し、ホスピタリティマインドを発揮するための基本知識を身につけることを目的とする。また、ホスピタリティがサービスやおもてなしとどのように異なるのか、についても明らかにし、ホスピタリティ産業をいわれている業界研究もおこなう。授業では、発表、ディスカッション、またグループワーク等の実践的な手法を取り入れて進める。

到達目標

1. ホスピタリティについて説明できる。
2. ホスピタリティとサービスの違いを説明できる。
3. ホスピタリティの実践について具体的に説明できる。

授業計画

【第1回】ホスピタリティ文化の起源と語源
ホスピタリティの概念となる言葉の起源と語源について概説する。
【第2回】留学生が感じる日本・大阪のホスピタリティ
本学留学生に聞いてみた生の声の蓄積を紹介する
【第３回】サービスとホスピタリティ
サービスとホスピタリティの概念の違いを説明する
【第4回】千利休と、松下幸之助から学ぶホスピタリティ
千利休七則と、松下幸之助の考え方を紹介する。
【第5回】ホスピタリティの基本
マナー、身だしなみ、第一印象、挨拶、笑顔など、当たり前のことが基本であることを認識する。
【第6回】気くばり
コミュニケーション力、機転を利かす力、先読みする力などを養う。
【第7回】心くばり
お客様がしてほしいことを真剣に考え、要望を超えたサービスや予想を上回るサービスが感動につながることを認識する。
【第８回】航空運輸業におけるホスピタリティ
大勢のお客様に短時間でおもてなしの心を表す客室乗務員やグランドスタッフは、どのように対応しているのかを紹介し議論する。
【第9回】宿泊業であるホテル・旅館のホスピタリティ
宿泊業におけるホスピタリティの実例を紹介し議論する。
【第10回】交通運輸業におけるホスピタリティ
交通運輸業におけるホスピタリティの実例を紹介し議論する。
【第11回】学外研修（ホスピタイティ産業について学ぶ）
【第12回】学外研修（ホスピタリティ産業について学ぶ）
【第13回】ホスピタリティのためのケーススタディ
実例の紹介を通して、自分が考えるホスピタリティについて発表する。
【第14回】ホスピタリティを形成する要素
人的なもの以外でも、ホスピタリティを形成する要素となっている。美しい景色、清潔さ、Wi-Fiなどの普及、テクノロジーの発達についても概説する。
【第15回】ホスピタリティ全般
まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。
授業（１回につき２時間として計算）と事前事後のあわせて１単位あたり45時間が必要です。
授業時間（１回につき２時間として計算）と事前・事後学習を含めて90時間の学習が必要である。15週の授業時間で確保される30時間に加えて、事前・事後の学習として60時間が必要であるため、毎回事前・事後をあわせて4時間の学習が必要である。
【事前】各回の授業テーマに関連する内容について、インターネットなどであらかじめ情報収集し、内容をまとめておく。(2時間)
【事後】授業で学んだ内容を振り返り、知識を自分のものにする。(2時間)

課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法

授業内で作成するレポートや発表については、授業中に即座にフィードバックする。

あるいは授業後の早い段階で、Google Classroomでフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
課題提出とその内容(50)
定期試験に代わるレポート等(30)
事前・事後学習(20)
正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	課題提出(20) 課題内容(30)	1, 2, 3
授業外での評価	20	学外研修への参加とレポート提出(20)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	レポート試験(30)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリントを配布するか、授業資料をGoogle Classroomに添付する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	積極的に学び、授業に参加すること ホスピタリティ産業について学ぶ学外研修を予定している。参加を前提として受講すること。

授業コード	22006002	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	ホスピタリティ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	苅野　正美				
シラバス執筆（主）	苅野　正美				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

ホスピタリティ」という言葉はよく耳にするものの、その概念を理解し、実践するまでに至るのは簡単なことではない。
この授業では、ホスピタリティとは何かという基本やホスピタリティ・マインドを形成するために必要な概説を行い、グループワークやペアワークを通してケーススタディを行う。
さらに、各自の意識を高めるために、授業内でのプレゼンテーションの機会も設ける。

到達目標

１．ホスピタリティとは何かを理解し、説明することができる。
２．ホスピタリティ・マインドを身につけ、日頃から実践できるようになる。

授業計画

第１回　ホスピタリティの基本
（ホスピタリティとは何か、ホスピタリティをめぐる言葉について概説する。）
第２回　自分を知る
（ワークを通して自分を知る。）
第３回　ホスピタリティを実践する３つのステップ①
（基本マナーについて学ぶ。）
第４回　ホスピタリティを実践する３つのステップ②
（人間関係を円滑にする上で大切な「気くばり」について考える。）
第５回　ホスピタリティを実践する３つのステップ③
（人間関係を円滑にする上で大切な「心くばり」について考える。）
第６回　ホスピタリティ・マインド
（ホスピタリティ・マインドの高め方を考える。）
第７回　ホスピタリティとコミュニケーション
（ホスピタリティとコミュニケーションのかかわりについて考える。）
第８回　感動体験とリピーター
（感動体験が顧客行動に与える影響について概説し、ホスピタリティとは何かを再考する。）
第９回　ホスピタリティの実践例①
（ディズニーの考え方と取り組みについて概観し、ホスピタリティの特徴をとらえる。）
第10回　ホスピタリティの実践例②
（ザ・リッツ・カールトンの考え方と取り組みについて概観し、ホスピタリティの特徴をとらえる。）
第11回　ケーススタディ①
（ホスピタリティのためのケーススタディを通して実践力を磨く。）
第12回　ケーススタディ②
（ホスピタリティのためのケーススタディを通して実践力を磨く。）
第13回　ケーススタディ③
（ホスピタリティのためのケーススタディを通して実践力を磨く。）
第14回　振り返りとプレゼンテーション準備
第15回　プレゼンテーション

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前学習】
これまでのホスピタリティ体験をメモしておく。また、次回の授業までに日常の中で見つけたホスピタリティをメモしておく。
次回の授業のテーマを確認し、あらかじめ情報収集しておく。
【事後学習】
授業で学んだことを復習し、メモをまとめておく。授業内での指示に基づいて実践報告等をまとめる。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題や授業中に取り組んだケーススタディ、プレゼンテーションについては、授業内で講評する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下の評価割合に基づき総合的に評価の上、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	プレゼンテーション（20）、授業中の発言内容・演習の取り組み（20）	1，2
授業外での評価	40	各回の受講レポート	1，2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポート	1，2
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、授業内で授業資料を提示する。
参考書	『図解版　ホスピタリティの教科書』 林田正光監修　あさ出版 『ホスピタリティ検定　公式テキスト＆問題集』 ホスピタリティ機構監修　経済法令研究会
履修条件・他の科目との関連	進行によっては、授業計画の順序や内容が変更することがある。

授業コード	22030701	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	観光概論　［対面］				
シラバス執筆(全員)	加藤　淳一				
シラバス執筆(主)	加藤　淳一				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

「観光概論」は、他の観光関連授業の基礎となる科目である。また、観光以外の様々な分野とも関連性の高い分野でもある。観光は誰にでも親しみやすい分野であるので、観光学を通して知的好奇心を養い、観光に関する基礎・専門知識について指導するとともに、他の分野でも応用できる汎用性のある思考能力を身につけ、様々な社会的課題を解決できる能力を修得出来るよう、ホテルや旅行業、レジャー観光関連施設など様々な観光関連業務に従事した実務経験をもとに受講生の将来に役立つ講義を実施する。

到達目標

1.観光学に関わる基礎的用語について説明できる。
2.観光とは何か？その現代的意義について説明できる。
3.観光産業の社会的意義について説明できる。
4.観光の現状や課題について判断できる。
5.観光の将来や課題解決について、自ら考え実行し解決できる。

授業計画

【第1回】　オリエンテーション：授業の概要や進め方、テキストの活用方法や事前・事後学習の方法、成績評価方法などについて説明
【第2回】　観光を学ぶ意義と観光の様々な効果：現代社会と観光、観光を学ぶ意義、観光が人間・企業・地域にもたらす効果や影響
【第3回】　観光に関わる言葉：旅と旅行、観光、余暇（レジャー）、レクリエーション、ホスピタリティー
【第4回】　観光のしくみ：観光を構成する要素、観光事業の意味としくみ
【第5回】　観光資源と観光対象：観光資源の意味、観光資源と観光対象、観光対象の特徴
【第6回】　観光産業の構成と特徴：観光産業の定義と種類、観光産業・観光ビジネスの特徴
【第7回】　様々な観光ビジネス（旅行業）：旅行業とは、旅行業の歴史、旅行業の商品と形態、旅行業と地域の関わり
【第8回】　様々な観光ビジネス（宿泊産業）：宿泊産業の歴史と発展、様々な宿泊施設の分類、ホテルの機能と業務
【第9回】　様々な観光ビジネス（交通運輸業）：観光と交通の関わり、交通と交通運輸業、観光交通ビジネスの特性、観光交通への新たな要請
【第10回】様々な観光ビジネス（その他関連産業）：テーマパーク、スキー場、展示・鑑賞施設、観光土産品と土産品業
【第11回】観光と情報：観光行動と情報、観光情報の媒体（ツール）、効果的な観光情報の発信・提供方法
【第12回】観光政策と観光行政：観光政策と観光行政、国・地方の観光政策と観光行政
【第13回】観光のマーケティング：マーケティングと観光への応用、観光マーケティングの対象と観光消費に対象となる「商品」、観光マーケティング活動の実態
【第14回】旅の歴史とこれからの旅行：旅の歴史、マスツーリズムからサスティナブル・ツーリズムへ
【第15回】観光と国際経済・社会・文化（インバウンドと異文化理解）：わが国におけるインバウンドの動向、観光と国際経済の関わり、観光と国際社会・文化の関わり

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前】各回の授業前に、授業テーマに該当するテキスト対応部分に目を通し、「Self Check」を解答しておくこと。
　加えて、関連する内容・役割・動向をインターネットなどで情報収集し、内容を取りまとめておく。
　また毎回グループにてPowerPointによるプレゼンテーションを行うので、指名されたグループのメンバーは、協力して該当するテーマのプレゼンテーション準備を行い、授業前日までに担当教員へPowerPointを送信すること（各2時間）。
【事後】授業で学んだ内容を振り返り、知識の定着を図ると共に、疑問な点を発見した場合は、まず自身で調べ、それでも不明な部分は教員へ連絡する（各1.5時間）。
【定期試験対策】15時間以上の復習を行い、試験に臨む。

課題に対するフィードバックの方法

全体に向け、課題やレポートに対しての振り返りとフィードバックを行うと共に、必要に応じて個人に対し、課題やレポートのコメントなどをClassroomやOIUメール、または直接口頭で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、正当な理由なく、欠席の回数が授業回数の1/3を超える（6回以上欠席）の場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	積極的な取り組み姿勢、グループワークやプレゼンテーションを評価	4, 5
授業外での評価	15	振り返りシートの提出状況や内容を評価	1, 2, 3
定期試験	50	授業で扱った基本的語句の説明、内容の理解、記述説明等における総合的評価	1, 2, 3, 4, 5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	15	授業に関する発言・質問、受講態度・マナーを評価	1, 2, 3

テキスト	観光学基礎（JTB総合研究所、2,750円、978-4902772494）
参考書	必要に応じて、授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	観光実務士の資格取得に必要な必修科目である。 進行によっては、授業計画の順序や内容を変更することがある。 なお、欠席者に対しては、次回の出席時に授業の前後で個別にてフォローを行うと共に、配布物があった場合は、配布する。

授業コード	22049001	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	旅行業実務論　［対面］				
シラバス執筆(全員)	深見　智恵子				
シラバス執筆(主)	深見　智恵子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義では「旅行業」の歴史、現状、経営などを概観したうえで、実際に業務で必要な知識を得ることを目的とする。
また、旅行業務取扱管理者・旅程管理主任者などの関連資格についても詳しく解説をする。

授業は講義と実演（旅行会社のスタッフとしてカウンター業務や電話対応）をペアワーク・グループワークで行う。

観光関連産業で紹介する動画を見たり、ゲスト招き,現場の最新動向及びゲスト自身の業務内容や,観光業界で働くことに対する考えなどの講義を受けたのちに質疑の時間をとる。
ディスカッションは、講義内容に関係した内容を設定して行う。

到達目標

1. 旅行会社の仕事について、理解し説明できる。
2. 旅行会社の種類について、理解し説明できる。
3. 旅行会社のカウンターに必要な資格(旅行業務取扱管理者)について説明ができる。
4. 添乗員の仕事について説明できる。
5. 合わせて日本の観光業関連産業の現状・課題・方向性につて説明ができる。

授業計画

【第1回】　プロローグ(ガイダンス)
【第2回】　旅行業①
【第3回】　旅行業②
【第4回】　旅行業③
【第5回】　旅行業に関するディスカッション
【第6回】　観光関連事業と旅行業のつながり①
【第7回】　観光関連事業と旅行業のつながり②
【第8回】　観光関連事業に関するディスカッション
【第9回】　宿泊業と旅行業のつながり①
【第10回】　宿泊業と旅行業のつながり②
【第11回】　宿泊業に関するディスカッション
【第12回】　交通産業①
【第13回】　交通産業②
【第14回】　交通産業に関するディスカッション
【第15回】　エピローグ(まとめ・質疑応答)

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

前回までの講義内容を確認し復習しておくこと。
また、日頃より観光業界の動向について新聞や専門誌などを用いて情報収集を行うこと。

【第1回】
事前　シラバスを熟読し、旅行業とは何かを調べておく。　2.0時間
事後　旅行会社の行う仕事は何か理解する。　2.0時間

【第2回】
事前　実際に最寄りの旅行会社へ行って事務所に入りパンフレットをもらってくる。　2.0時間
事後　ツアー(企画旅行)とは何か理解する。　2.0時間

【第3回】
事前　以前「旅行代理店」と言われていた経緯を調べる。　2.0時間
事後　旅行会社のカウンターの仕事を理解する。　2.0時間

【第4回】
事前　旅行業の登録について調べる。　2.0時間
事後　旅行会社のカウンターでは行わない仕事を理解する。　2.0時間

【第5回】
事前　旅行会社について自分の意見を考えてくる。　2.0時間
事後　ディスカッションした内容を自分なりに整理する。　2.0時間

【第6回】
事前　旅行業と関連する観光関連産業について調べる。　2.0時間
事後　ツアーに必要な観光関連産業を理解する。　2.0時間

【第7回】
事前　代理と呼ばれた時代の「代理」とは何か再考する。　2.0時間
事後　JRの乗車券類・フェリーの乗船券類・高速バスの乗車券類の販売について理解する。　2.0時間

【第8回】
事前　旅行会社が行っている宿泊の「代理」販売について自分の意見を考えてくる。　2.0時間
事後　ディスカッションした内容を自分なりに整理する。　2.0時間

【第9回】
事前　宿泊業について調べる。　2.0時間
事後　宿泊クーポンと「R」について理解する。　2.0時間

【第10回】
事前　旅行会社がホテル・旅館の販売をする意義を考えてくる。　2.0時間
事後　Web販売について理解する。　2.0時間

【第11回】
事前　宿泊業ついて自分の意見を考えてくる。　2.0時間
事後　ディスカッションした内容を自分なりに整理する。　2.0時間

【第12回】
事前　交通業について調べる。　2.0時間
事後　乗車券類と「コミッション」について理解する。　2.0時間

【第13回】
事前　旅行会社が交通機関の販売をする意義を考えてくる。　2.0時間
事後　Web販売について理解する。　2.0時間

【第14回】
事前　旅行会社が行っている交通の「代理」販売について自分の意見を考えてくる。　2.0時間
事後　ディスカッションした内容を自分なりに整理する。　2.0時間

【第15回】
事前　これまでの全体を振り返り、わからないことをまとめてくる。　2.0時間
事後　旅行業の将来を考える。　2.0時間

課題に対するフィードバックの方法

毎回コメントシートを提出する。
ディスカッションした場合は自分の意見をまとめて、次週提出すること。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

毎回求めるコメント、課題提出、定期試験、授業態度により総合的に判断し、60点以上を合格とする。
正当な理由がない欠席6回以上、課題提出がなされない、定期試験の点数が著しく悪い(100点満点中60点未満)、
などの場合は評価対象とはしない。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	小テスト(10)、ディスカッションや発表の参加(10)、授業内の質問への回答(10)、授業に臨む態度を考慮する	1.2.3.4.5
授業外での評価	20	レポート課題を5回程度課する。テーマは授業中に指示する。	1.2.3.4
定期試験	50	15回の授業内容のまとめとして試験を行う。 試験に欠席した時点で「K」評価となる。	1.2.3.4.5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない
参考書	必要に応じて紹介する
履修条件・他の科目との関連	講義に加えて、ディスカッションや発表も行ってもらう。 特にグループワークやペアワークは、欠席・遅刻・取り組みに対する消極的な姿勢などが他のメンバー

履修条件・他の科目との関連	に迷惑をかけることを自覚すること、また減点の対象とする。 欠席する場合は、欠席する日の配布物の有無を自身で確認し、必要に応じて教員へ連絡すること。 観光関連業界を学ぶ上で「観光ビジネス実務総論」の履修を勧める。 ＊ゲストスピーカーをお呼びしての講義を含む可能性がある、また進行によっては、授業計画の順序が前後したり、一部を変更する場合がある Schedules are subject to change without notice.

授業コード	22049101	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	ホテル実務論　［対面］				
シラバス執筆(全員)	加藤　淳一				
シラバス執筆(主)	加藤　淳一				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

ホテルなどの宿泊業界で働くことを目指す学生を対象にする内容である。
ホテルスタッフとして高いホスピタリティマインドを持って仕事に携わることを目標とするため、宿泊業界の歴史や仕組み、また職種ごとの業務内容について解説し、サービスの基礎や宿泊ビジネスに必要な戦略などについて指導する。
またホテルは、単なる宿泊施設としての機能だけでなく、国際的な催事の会場をはじめ、結婚式やグローバルなコミュニティーの空間として、政治、経済、文化交流の重要な役割を担っている。
このような重要な役割を持って運営されるホテルに、将来携わっていこうとする学生の実務知識に関する理解度を高めるられるよう、ホテルマネジメント業務に従事した実務経験をもとに、受講生の将来に役立つ講義を実施する。

到達目標

1.ホテル業界の基礎知識を説明できる。
2.ホテルの宿泊・料飲・宴会を中心としたサービスオペレーションを体系的に説明できる。
3.即戦力として接客業務に従事する能力を発揮できる。
4.観光実務士やホテルビジネス実務検定試験の受験対策として応用できる。

授業計画

【第1回】　オリエンテーション：授業の概要や進め方、テキストの活用方法や事前・事後学習の方法、成績評価方法などについて説明
【第2回】　ホテルの基礎①：観光産業の概況、ホテル産業の概要
【第3回】　ホテルの基礎②：実務者として必要な基本知識
【第4回】　宿泊部門の業務①：宿泊部門の概要
【第5回】　宿泊部門の業務②：宿泊部門の実務
【第6回】　外部講師による特別講義①：現場の第一線で活躍されているホテリエによる特別講義
【第7回】　料飲部門の業務①：料飲部門の概要
【第8回】　料飲部門の業務②：料飲部門の実務
【第9回】　宴会部門の業務①：宴会部門の概要
【第10回】宴会部門の業務②：宴会部門の実務
【第11回】外部講師による特別講義②：現場の第一線で活躍されているホテリエによる特別講義
【第12回】調理部門の業務①：調理部門の概要
【第13回】調理部門の業務②：調理部門の実務
【第14回】ホテルの基礎③：ホテル英語の基本
【第15回】全体総括とＨ検受験説明：学習した項目の全体総括

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前】各回の授業テーマに該当するテキスト対応部分に目を通し、関連する内容・役割・動向をインターネットなどで情報収集し、内容を取りまとめておく（各2時間）。
【事後】授業で学んだ内容を振り返り、知識の定着を図ると共に、疑問な点を発見した場合は、まず自身で調べ、それでも不明な部分は教員へ連絡する（各1.5時間）。
【期末試験対策】15時間以上の復習を行い、試験に臨む。

課題に対するフィードバックの方法

全体に向け、課題やレポートに対しての振り返りとフィードバックを行うと共に、必要に応じて個人に対し、課題やレポートのコメントなどをClassroomやOIUメール、または直接口頭で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、正当な理由なく、欠席の回数が授業回数の1/3を超える（6回以上欠席）の場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標

授業内での評価	45	理解度を確認するために、毎回小テストを実施（20） 全体を通してのまとめテスト（25）	1, 2, 4
授業外での評価	25	特別講義のレポート提出（10） 振り返りシートの記入・提出状況や内容を評価（15）	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	授業で扱った基本的語句の説明、内容の理解、記述説明等における最終レポートの内容を評価	1, 2, 3, 4
その他	15	授業に関する発言・質問、受講態度・マナーを評価	3, 4

テキスト	ホテルビジネス基礎編（日本ホテル教育センター、5,500円） （各自で「日本ホテル教育センター」のホームページ：https://www.jec-jp.org/hken/textbooks/index.phpより直接購入すること。）
参考書	必要に応じて、授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	観光実務士の資格取得に必要な選択科目であり、ホテルビジネス実務検定試験の受験対策内容を含む。 外部講師による特別講義を予定している。 進行によっては、授業計画の順序や内容を変更することがある。 なお、欠席者に対しては、次回の出席時に授業の前後で個別にてフォローを行うと共に、配布物があった場合は、配布する。

授業コード	22049201	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	エアライン実務論　［対面］				
シラバス執筆(全員)	久保　由加里				
シラバス執筆(主)	久保　由加里				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的･概要

航空業界の歴史や仕組み、また職種ごとの業務内容について理解し、航空ビジネスの基礎知識を習得する。また航空業界と地域活性化、また環境問題に取り組むこれからの航空業界の在り方についても講義する。
「航空サービス」に関する理論を学び、実践力を身に着けることを目標とし、講義・グループワーク・発表などで授業を展開する。担当教員が長年、航空会社における勤務経験があり、多彩な事例を織り交ぜながら、理論とその実践や応用について講義する。

到達目標

１．航空業界の仕組みや航空ビジネスに関する基礎知識を習得し、航空産業についてのみならず、観光学を学ぶ上での知識の基盤をつくることができる
２．航空業務に関連する知識を習得することができる
３．航空業界において求められる人材について研究し、就職活動で応用することができる
４．航空業界におけるサービスとホスピタリティについて考察し、社会において実行することができる

授業計画

【第1回】
テーマ：ガイダンス
航空の歴史・航空機について
内容・方法：航空事業の起源にさかのぼり、主に日本における航空輸送の変遷を講義する。また世界の空港のもつ様々な機能について講義する。
【第2回】
テーマ：航空業界事情
内容・方法：オープンスカイ/規制緩和/IATA
現在の航空業界を取り巻く状況や最新情報を講義する。
発表
【第3回】
テーマ：世界の空港事情
内容・方法：空港が都市化する現象が進んでいる。その現状と、世界の主要な空港の特色、さらには日本の空港のそれぞれの特色と役割について講義する。発表により様々な多様性を学ぶ。
【第4回】
テーマ：航空業界の仕組みⅠ - 世界の航空業界と最新情報
内容・方法：航空同盟　・　共同運航
LCCとレガシーキャリア
【第5回】
テーマ：航空業界の仕組みⅡ- 企業研究を通して
内容・方法：日本の航空会社について
発表
【第6回】
テーマ：空港における出発旅客の流れ
内容・方法：特に国際線出発旅客の搭乗までの流れと関連する法律について講義する。
【第7回】
テーマ：空港における到着旅客の流れ
内容・方法：特に国際線到着旅客の入国までの流れと関連する法律について講義する。
【第8回】
テーマ：空港グランドスタッフの業務
小テスト
内容・方法：特に国際線における旅客の流れの中でグランドスタッフの業務について講義する。
【第9回】
テーマ：空港グランドスタッフの業務　・客室乗務員の業務
内容・方法：・双方の業務の関連性・相違点
・それぞれに求められる人材について講義する。
【第10回】
テーマ：客室乗務員の業務
機内サービス
内容・方法：・機内サービスの変遷・今求められる機内サービス
【第11回】
テーマ：サービスとホスピタリティ
内容・方法：・サービスとホスピタリティの違い・人的サービスと物的サービス
【第12回】
テーマ：航空業界におけるサービスとホスピタリティ
内容・方法：航空業界特有のサービス・ホスピタリティ
【第13回】

テーマ：特別授業
内容・方法：外部講師による、航空業界事情についての特別授業
【第14回】
テーマ：航空業界におけるグローバル・ホスピタリティ
航空産業の魅力
内容・方法：航空業界の特性と魅力
【第15回】
テーマ：まとめ
内容・方法：これまでの総復習をおこなう。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（１回につき２時間として計算）と事前事後のあわせて１単位あたり45時間が必要
授業（１回につき２時間として計算）と事前事後のあわせて１単位あたり60時間が必要
毎回の授業において、2時間の事前学習と2時間の事後学習が必要

【第1回】
①事前学修課題：航空の歴史における１つのトピックを調べる。
②事後学修課題：学んだ箇所をよく復習する。
【第2回】
①事前学修課題：航空業界に関するニュースを取り上げる。講義で発表できるようにまとめる。
②事後学修課題：関心のある空港について調べる。次回の講義で発表する。
【第3回】
①事前学修課題：関心のある空港について調べて発表の準備をする。
②事後学修課題：学んだことをよく復習する。
【第4回】
①事前学修課題：いくつかの航空会社について調べ、まとめる。次回の講義で
発表する。
②事後学修課題：学んだことに関連する書籍を読む。
【第5回】
①事前学修課題：日本の航空会社についていくつか調べ、まとめる。
②事後学修課題：学んだことに関連する書籍を読む。
【第6回】
①事前学修課題：プリントの該当部分をよく読んでおく。
②事後学修課題：学んだ点をよく復習する。
【第7回】
①事前学修課題：前回学んだ点をよく復習する。
②事後学修課題：学んだ点をよく復習する。
【第8回】
①事前学修課題：特に第6.7回の内容を復習しておく。
小テストの実施のため、これまでの総復習をする。
②事後学修課題：小テストにおいて理解が不足していたと思われる部分を復習する。
【第9回】
①事前学修課題：プリントの該当部分を熟読する。
②事後学修課題：学んだ点をよく復習する。
【第10回】
①事前学修課題：プリントの該当部分を熟読する。
②事後学修課題：学んだ点をよく復習する。
接客の立ち居振る舞いを実際に演習する。
【第11回】
①事前学修課題：サービスやホスピタリティについて書かれている図書を読んでくる
②事後学修課題：よいサービスについての事例研究をおこない、レポートにまとめる。（次回提出）
【第12回】
①事前学修課題：これまでに学んだところをよく復習する。
提出レポートを準備する。
②事後学修課題：サービスとホスピタリティについて、さらに様々な文献から研究する
【第13回】
①事前学修課題：新聞記事や専門誌などから最新の航空業界情報を得ておく
②事後学修課題：学んだことについてさらに掘り下げて研究する
【第14回】
①事前学修課題：航空会社を1つ選び、そのサービスやコンセプトについて調べてくる
②事後学修課題：学んだことをよく復習する
【第15回】
①事前学修課題：自主学習としても総復習をおこなう。
②事後学修課題：航空産業についてさらなる研究をおこなう。

課題に対するフィードバックの方法

提出レポートを分析ツールとして用いて授業を展開する

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	10	プレゼンテーション	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	課題問題	1, 2, 3
定期試験	70	期末試験	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	10	授業における発言や質問	1, 2, 3, 4

テキスト	資料配布
参考書	八巻惠子（2013）『国際線客室乗務員の仕事　ー　サービスの経営人類学』 東方出版 井上泰日子　（2019）『第3版　最新　航空事業論　エアライン・ビジネスの未来像』日本評論社 日本航空株式会社　（2022）『エアライン・マネジメント：戦略と実践』インプレス
履修条件・他の科目との関連	「ホスピタリティ」の科目も合わせて受講することが望ましい。

授業コード	22030801	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	観光ビジネス実務総論　［対面］				
シラバス執筆(全員)	深見　智恵子				
シラバス執筆(主)	深見　智恵子				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的･概要

「観光とは何か、観光産業とはどのような産業か、観光ビジネスの特性は何か」など基本的な事柄について解説し、「観光地の現場で実際に起きていること」そして、今後の動きを見通した「観光ビジネスや観光地がどのような対応をしようとしているか、（地域・自治体・国などの単位)」について説明する。

この授業では、観光産業が及ぼす社会的・経済的役割を理解し、観光業を担う旅行業・宿泊業・航空やバスなどの交通運輸業・お土産品業・飲食店業など観光産業全般の実務内容を理解し、基礎的な観光ビジネス知識を解説する。
合わせて歴史を学び、未来を創造していく視点を身に着ける。

到達目標

1, 観光に関する基礎的・基本的な知識・能力を説明できる。
2. 訪日外国人旅行（インバウンド）の業務内容、誘致、特性、課題、方向性などについて説明できる。
3, 旅行業、宿泊業などを中心とした旅行・観光関連産業について関連性を説明できる。
4. MICEについて理解し、説明できる。

授業計画

【第1回】　プロローグ ＆ ガイダンス
【第2回】　観光客数 IN and OUT　(1.訪日観光客数と日本人海外渡航者数比較 2.インバウンド・アウトバウンドとは何か 3.日本の観光についてディスカッションする)
【第3回】　観光資源①（1.観光資源 2.自然資源 3.人文資源 4.観光資源についてディスカッションする)
【第4回】　観光資源②（1.自然遺産 2.文化遺産 3.複合遺産 4.無形遺産 5.日本の世界遺産についてディスカッションする)
【第5回】　観光資源③（1.文化財 2.町並み保存 3.日本の観光資源についてディスカッションする)
【第6回】　観光世界歴史とビジネス（1.オリンピック 2.万博 3.スポーツの祭典 4.世界の観光ビジネスについてディスカッションする)
【第7回】　観光日本歴史とビジネス①（1.日本文化と観光ビジネスの関係性 2.日本の観光の特徴をディスカッションする)
【第8回】　観光日本歴史とビジネス②（3.日本のテーマパーク・温泉と観光ビジネスの関係性 4.日本の観光サービスの特徴をディスカッションする)
【第9回】　旅行業と法律（1.旅行業(旅行会社)の仕事 2.登録制度 3.国内旅行業務取扱管理者 4.総合旅行業務取扱管理者 5.旅行業法 6.旅行業約款)
【第10回】　宿泊業や交通業と法律（1.宿泊業に関する法律 2.交通機関の種類と法律 3.これからの宿泊業や交通業についてディスカッションする)
【第11回】　観光文化①（異文化コミュニケーション)
【第12回】　観光文化②（伝統文化・伝統産業)
【第13回】　観光文化③（食文化)
【第14回】　MICEとビジネス
【第15回】　エピローグ ＆ まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

前回までの講義内容を確認し復習しておくこと。
また,日頃より観光業界の動向について新聞や専門誌などを用いて情報収集を行うこと。

【第1回】
事前　シラバスを熟読し、旅行業とは何かを調べておく。　2.0時間
事後　旅行会社だけでなく観光業の仕事は何か理解する。　2.0時間

【第2回】
事前　インバウンドとは何か調べる。　2.0時間
事後　インバウンド増加の要因を理解する。　2.0時間

【第3回】
事前　観光資源とは何か調べる。　2.0時間
事後　観光資源、自然資源、人文資源の違いを理解する。　2.0時間

【第4回】
事前　世界遺産とは何か調べる。　2.0時間
事後　日本の世界遺産を確認し覚える。　2.0時間

【第5回】
事前　何が観光資源になるか考えてくる。　2.0時間
事後　身近な事例を理解する。　2.0時間

【第6回】
事前　観光の始まり調べる。　2.0時間
事後　世界の観光ビジネスを理解する。　2.0時間

【第7回】
事前　日本の文化と観光の関係性を調べる。　2.0時間
事後　日本国内の観光需要を理解する。　2.0時間

【第8回】
事前　日本のテーマパークや温泉地を調べる。　2.0時間
事後　日本の観光の特徴を理解する。　2.0時間

【第9回】
事前　旅行業の仕事を調べる。　2.0時間
事後　旅行業に関連する法律を理解する。　2.0時間

【第10回】
事前　宿泊業や交通業について調べる。　2.0時間
事後　宿泊先の違いや交通の種類ついて理解する。　2.0時間

【第11回】
事前　異文化とは何か調べる。　2.0時間
事後　異文化コミュニケーションの方法について理解する。　2.0時間

【第12回】
事前　日本の伝統文化・伝統産業と観光との関係について調べる。　2.0時間
事後　日本の伝統文化や伝統産業と観光業との関係を理解する。　2.0時間

【第13回】
事前　観光と食文化の関係について考えてくる。　2.0時間
事後　食文化と観光業との関係を理解する。　2.0時間

【第14回】
事前　SDGsとは何か調べる。　2.0時間
事後　今後の観光のあり方を整理する。　2.0時間

【第15回】
事前　これまでの全体を振り返り、わからないことをまとめてくる。　2.0時間
事後　観光業の将来を考える。　2.0時間

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出するコメントシートに、次回の授業以降（授業内容と関係やタイミング）でフィードバックをおこなう。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

コメントや発表、課題提出、定期試験に代わるレポート、授業への参加姿勢により総合的に判断し、60点以上を合格とする。
正当な理由がない欠席6回以上、課題提出回数が著しく低い、定期試験の欠席、等の場合は評価対象とはしない。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	小テスト(10)、ディスカッションや発表の参加(10)、質問への返答や回答の内容(10)、授業に臨む態度を考慮する。	1.2.3.4
授業外での評価	20	調査レポート課題作成。テーマや締切は授業中に指示する。	2.3.4
定期試験	50	学習した内容全体の範囲から定期試験を行う。	1.2.3.4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない

参考書	必要に応じ紹介する
履修条件・他の科目との関連	ゲストスピーカーをお呼びしての講義を含むため、ゲストのスケジュールにより、講義の順が変更となる可能性がある。 講義とグループディスカッションや発表も行ってもらう。 特にグループワークでは、欠席・遅刻・取り組みに対する消極的な姿勢などが他のメンバーに迷惑をかけることを自覚すること。 欠席する場合は、配布物の有無を確認すること。必要に応じて、自身で教員へ連絡・相談をおこなうこと。 Schedules are subject to change without notice.

授業コード	22030901	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	国内観光資源　［対面］				
シラバス執筆（全員）	深見　智恵子				
シラバス執筆（主）	深見　智恵子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

「国内観光資源」は、観光学を学ぶ上で基礎となる科目である。

観光資源の名称だけではな地域的特徴や文化的背景、歴史などを学び、地図上でのその位置を解説する。。
毎週授業テーマに沿った事前・事後学修を通して、観光資源の位置関係について解説する。
授業では、日本の北海道から順に沖縄まで７つのエリアに区分し、スライドや動画なども活用しながら都道府県毎に重要な観光資源の解説をする。

また、この科目を学ぶことで、合わせて国家試験である「旅行業務取扱管理者（受験科目「国内旅行実務」のうち「国内観光資源」の部分）」と旅行地理検定（2025年6月第58回旅行地理検定実施が最終回）の学習ができる。

到達目標

1. 観光業界で活躍するために必要とされる観光地理の知識を確実なものとする。
2. 各都道府県の観光地を説明できる。
3. 各都道府県の名産品を説明できる。
4. ひとつの観光地だけでなく、観光地を線でつなぎツアープラニングすることができる。

授業計画

【第1回】　プロローグ（ガイダンス）
【第2回】　北海道
【第3回】　東北①（青森・岩手・宮城）
【第4回】　東北②（秋田・山形・福島）
【第5回】　北関東（茨城・栃木・群馬）
【第6回】　首都圏（東京・神奈川・千葉・埼玉）
【第7回】　中部・北陸①（新潟・富山・石川・福井）
【第8回】　中部・北陸②（山梨・長野・岐阜・静岡・愛知）
【第9回】　近畿①（三重・滋賀・京都）
【第10回】　近畿②（大阪・兵庫・奈良・和歌山）
【第11回】　中国（鳥取・島根・岡山・広島・山口）
【第12回】　四国（徳島・香川・愛媛・高知）
【第13回】　九州・沖縄①（福岡・佐賀・長崎・熊本）
【第14回】　九州・沖縄②（大分・宮崎・鹿児島・沖縄）
【第15回】　エピローグ（まとめ・質疑応答）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回学んだ内容を振り返り、知識の定着を図ると共に、疑問な点を発見した場合は、まず自身で調べ、それでも不明な部分は講師へ連絡する（各1.5時間）。

【第1回】
事前　シラバスを熟読し、観光資源とは何かを調べておく。　2.0時間
事後　観光資源の種類について理解する。　2.0時間

【第2回】
事前　北海道の観光資源を調べる。　2.0時間
事後　学習した観光資源について理解する。　2.0時間

【第3回】
事前　青森・岩手・宮城の観光資源を調べる。　2.0時間
事後　学習した観光資源について理解する。　2.0時間

【第4回】
事前　秋田・山形・福島の観光資源を調べる。　2.0時間
事後　学習した観光資源について理解する。　2.0時間

【第5回】
事前　茨城・栃木・群馬の観光資源を調べる。　2.0時間
事後　学習した観光資源について理解する。　2.0時間

【第6回】
事前　東京・神奈川・千葉・埼玉の観光資源を調べる。　2.0時間
事後　学習した観光資源について理解する。　2.0時間

【第7回】
事前　新潟・富山・石川・福井の観光資源を調べる。　2.0時間
事後　学習した観光資源について理解する。　2.0時間

【第8回】
事前　山梨・長野・岐阜・愛知の観光資源を調べる。　2.0時間
事後　学習した観光資源について理解する。　2.0時間

【第9回】
事前　三重・滋賀・京都の観光資源を調べる。　2.0時間
事後　学習した観光資源について理解する。　2.0時間

【第10回】
事前　大阪・兵庫・奈良・和歌山の観光資源を調べる。　2.0時間
事後　学習した観光資源について理解する。　2.0時間

【第11回】
事前　鳥取・島根・岡山・広島・山口の観光資源を調べる。　2.0時間
事後　学習した観光資源について理解する。　2.0時間

【第12回】
事前　徳島・香川・愛媛・高知の観光資源を調べる。　2.0時間
事後　学習した観光資源について理解する。　2.0時間

【第13回】
事前　福岡・佐賀・長崎・熊本の観光資源を調べる。　2.0時間
事後　学習した観光資源について理解する。　2.0時間

【第14回】
事前　大分・島根・宮崎・鹿児島・沖縄の観光資源を調べる。　2.0時間
事後　学習した観光資源について理解する。　2.0時間

【第15回】
事前　これまでの全体を振り返り、わからない観光資源の種類や地域をまとめてくる。　2.0時間
事後　日本地図を頭に入れる。　2.0時間

課題に対するフィードバックの方法

課題や小テストについては、確認・採点後、回答を伝え、必要に応じて説明をおこなう。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

授業内でおこなう小テスト、課題提出、期末レポートの結果と授業態度により総合的に判断し、60点以上を合格とする。
正当な理由がない欠席6回以上、課題提出回数が著しく乏しい、期末試験未受験、これらの場合は評価対象とはしない。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	小テスト(20)、授業での返答や授業に臨む態度（10）を考慮する。	1.2.3.4
授業外での評価	20	課題提出。テーマや課題内容は授業中に指示するので、できる限り欠席しないように。	1.2.3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	授業全体から学んだ視点を踏まえてレポートを作成すること。 与えられたいくつかのテーマから選択し、作成すること。 期限・文字数などは別途指示するので、それに従うこと。	1.2.3.4
その他	0		

テキスト	テキストは授業中に指示する
参考書	U-CAN「国内・総合旅行業務取扱管理者 速習レッスン」（ユーキャンの資格試験シリーズ） 旅行業実務シリーズ「4. 国内旅行実務・国内観光資源」(株)JTB総合研究所） 旅に出たくなる地図：日本（帝国書院）

参考書	すぐに役立つ　国内旅行地理ベーシック300+α第24版(JTB総合研究所) その他、必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	観光実務士の資格取得に必要な選択必修科目で、国内旅行業務取扱管理者試験、日本旅行地理検定の受験対策内容を含む。 「旅行業特講Ⅰ」および「旅行業特講Ⅱ」で用いる参考書を活用する。 講義とグループディスカッション、個人で発表も行ってもらう。 グループワークは、欠席・遅刻・取り組みに対する消極的な姿勢などが他のメンバーに迷惑をかけることを自覚すること。 配布物は、必要な回で配布するため、欠席する場合は連絡を必須とする。 事前連絡が出来なかった場合は、次回の授業日の前日までに連絡をすること。 ＊進行によっては、授業計画の順序が前後したり、一部内容を変更する場合がある Schedules are subject to change without notice.

授業コード	22044301	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	English Communication Ⅰ ［対面］				
シラバス執筆(全員)	森田　篤司				
シラバス執筆(主)	森田　篤司				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

英語を母語としない人々に向け、身近なテーマを取り上げ、オンライン教材も活用し、4技能の中でも特にスピーキングとリスニングを中心とした実践的な演習を行い、正しい発音と語感を身に付けるように指導する。又、授業での双方向のコミュニケーションを通じ、コミュニケーション能力を高めるよう指導する。

到達目標

1.新出単語を使用して文章作成することができる。
2.文法を理解し、それを踏まえコミュニケーションを実践できる。
3.リスニングで内容把握ができる。
4.テキストReadingパートのシャドーイングができる。
5.テキストReadingパートの和訳ができる。
6.英語発音が向上し、音声認識により発話からテキストに変換できる。

授業計画

第1回 オリエンテーション（授業の概要、進め方、評価の方法、到達目標について説明。）
第2回　Unit 1 Meeting New People　自己紹介での会話の演習を実施する
第3回　 Unit1Reading, Writing
第4回　Unit1復習クイズ、Unit 2 School Life　学校での出来事や授業についての演習を実施する
第5回　Unit2 Reading, Writing
第6回　Unit2 復習クイズ、Unit 3 Seeing a Doctor　通院を想定した場面での演習を実施する
第7回　Unit3 Reading, Writing
第8回　Unit3 復習クイズ、Unit 4 Expressing Yourself　感情、性格、趣味等の表現の演習を実施する
第9回　Unit4 Reading, Writing
第10回　Unit4 復習クイズ、 TOEIC対策
第11回　Unit 5 Getting Around　外出先でのさまざまなシチュエーションを説明する
第12回　Unit5 Reding, Writing
第13回　Unit5 復習クイズ、Unit 6 Talking about the Time　時間や予定に関しての表現の演習を実施する
第14回　Unit6 Reding, Writing
第15回　Unit6 復習クイズ、前期の総復習

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

Unit毎に新出する単語やフレーズを調べ、理解し、暗記する。又、テキストReading
パートの「音読」の練習（シャドーイング）を繰り返し実施する
LINGUA PORTAの学習アプリに取り組む（事前・事後学習毎回平均各2時間）。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対する取り組み・レポートや授業内での発表、復習クイズ結果などに対して解説を行う。英語学習アプリ（LINGUA PORTA）を使い、復習を行い、課題達成状況のフィードバックを行う

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により60点以上を合格として単位を認定する
正当な理由無しに5回または、それ以上欠席した場合には原則として評価不能とみなしK評価とする
遅刻3回で欠席1回の扱いとする
正当な理由なく定期試験を欠席した場合はK評価とする

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	Vocabulary Worksheet(10) L&R 演習、発表(10) 復習クイズ(15)	Vocabulary Worksheet:1L&R演習、発表: 1, 3, 4, 5復習クイズ:1, 2, 3, 6
授業外での評価	15	読解演習 (5) LINGUA PORTA総合演習プログラム(10)	読解演習 1, 4, 5LINGUA PORTA総合

			演習プログラム 1, 2, 6
定期試験	50	筆記試験	1, 2, 3, 6
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	Live Escalate Book 1: Base Camp ISBN 978-4-7919-7221-0/角山　照彦 / LiveABC editors/成美堂 / 2,750
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	この授業で使うテキストは後期の「English Communication Ⅱ」でも引き続き使用する。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 授業を欠席した場合は、欠席した授業の内容をクラスメートに確認し、自らフォローアップしておくこと。

授業コード	22043101	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	英語総合演習Ⅰ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	森田　篤司				
シラバス執筆(主)	森田　篤司				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

世界共通語としての英語の4技能をバランスよく修得し、英語の運用能力を高めるよう指導する。英文の速読と精読及びリスニングを行い論旨を理解することはもとより、英語でどのように表現するかを単語レベル、コロケーションレベル、センテンスレベルで理解できるよう指導する。また、授業における双方向コミュニケーションを通じて、実践的な英語でのコミュニケーション能力が高まるように指導する。

到達目標

1. 新出単語を使用して文章作成ができる。
2. 英語の基礎ルールを正しく理解できて応用ができる。
3. 英語の基礎ルールを踏まえコミュニケーションの実践ができる。

授業計画

第1回　オリエンテーション　Unit 1:　be動詞（現在形・過去形）、及び疑問詞に焦点を当てた授業を行う。
第2回　Unit 1:　入国審査に関する英文を聞き読解力を高める演習を行う。
第3回　Unit 2:　一般動詞（現在形）の語尾変化、疑問文、否定文の演習を行う。
第5回　Unit 2:　税関検査に関する英文を聞き読解力を高める演習を行う。
第6回　Unit 3:　一般動詞（過去形）の活用を確認し、英語での自己紹介を行う。
第7回　Unit 3:　空港での出迎えに関する英文を聞き読解力を高める演習を行う。
第8回　Unit 4:　進行形の演習を行う。
第9回　Unit 4:　ホームステイに関する英文を聞き読解力を高める演習を行う。
第10回　Unit 5:　未来表現の演習を行う。
第11回　Unit 5:　語学研修に関する英文を聞き読解力を高める演習を行う。
第12回　Unit 6:　動詞の過去分詞の活用、及び受動態の演習を行う。
第13回　Unit 6:　ホームステイに関する英文を聞き読解力を高める演習を行う。
第14回　Unit 7:　助動詞のバリエーションの理解と演習を行う。
第15回　Unit 7:　レストランに関する英文を聞き読解力を高める演習を行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：新出単語の意味を事前にチェックし、テキストの会話の内容を理解する。
事後学習：授業内にまとめた単語を見直して暗記すると共に、オンラインによるLINGUAPORTA総合演習プログラムを実施する。

課題に対するフィードバックの方法

既習箇所の習熟度を確認するために、既習箇所の復習クイズを行う。復習クイズの結果を授業内で解説する。
LINGUA PORTAは課題の進捗度をフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下の評価方法により60点以上を合格として単位を認定する
正当な理由無しに5回または、それ以上欠席した場合には原則として評価不能とみなしK評価とする
遅刻3回で欠席1回の扱いとする
正当な理由なく定期試験を欠席した場合はK評価とする

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	Dictation Quiz・復習クイズ(20) 音読・内容理解度(10)	1, 2, 3
授業外での評価	10	LINGUA PORTAの演習プログラム(10)	1, 2, 3
定期試験	50	筆記試験	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		

その他	10	積極的な発言・発表・とりくみ(10)	2, 3

テキスト	Let's Read Aloud and Learn English: Going Abroad/角山照彦/成美堂/2530/ ISBN978-4-7919-7226-5
参考書	必要に応じて適宜指示する。
履修条件・他の科目との関連	習熟度チェックの結果によっては授業計画が前後することがある。 授業を欠席した場合は、欠席した授業の内容をクラスメートに確認し、各自でフォローアップしておくこと。

授業コード	22043201	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	英語総合演習Ⅱ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	森田　篤司				
シラバス執筆(主)	森田　篤司				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

企業で一般に使用されるビジネス英語を解説・指導し、ビジネス分野での英語コミュニケーションの基礎力を養う。様々なビジネスシーン・環境の解説を加えながら、テキストに沿いTOEICの問題パターンに慣れるよう演習を実施する。

到達目標

1.新出単語を使用して文章作成することができる。
2.授業で学んだ基礎を身につけ、応用ができる。
3.TOEICの試験の概要とパターンを理解することができる。
4.TOEICを受験しスコア350点以上をとることを到達目標にする。

授業計画

第1回　オリエンテーション（授業の概要、進め方、評価の方法、到達目標について説明する）。
第2回　Unit 1:Travelをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第3回　Unit 1: Travelをテーマとした実用英語の演習を文法（時制）及び読解を中心に行う。
第4回　Unit 2: Dining Outをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第5回　Unit 2: Dining Outをテーマとした実用英語の演習を文法（主述の一致）及び読解を中心に行う。
第6回　Unit 3: Mediaをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第7回　Unit 3: Mediaをテーマとした実用英語の演習を文法（能動態・受動態）及び読解を中心に行う。
第8回　Unit 4: Entertainmentをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第9回　Unit 4:Entertainmentをテーマとした実用英語の演習を文法（動名詞・不定詞）及び読解を中心に行う。
第10回　Unit 5: Purchasingをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第11回　Unit 5: Purchasingをテーマとした実用英語の演習を文法（代名詞）及び読解を中心に行う。
第12回　Unit 6: Clientsをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第13回　Unit 6: Clientsをテーマとした実用英語の演習を文法（品詞）及び読解を中心に行う。
第14回　Unit 7: Recruitingをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第15回　Unit 7: Recruitingをテーマとした実用英語の演習を文法（品詞）及び読解を中心に行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業外課題は主にリスニングと文法を中心に、アプリでの演習を行い、繰り返し学んで身に付ける。
また、授業でのL&R演習の説明ができるよう予習・復習を行う。（事前・事後学習毎回平均各2時間）。

課題に対するフィードバックの方法

既習箇所の習熟度を確認するために毎回復習を行う。毎回の単語課題、L&R演習の取り組み結果、並びに、授業での発表等に対し解説を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により60点以上を合格として所定の単位を認定する
正当な理由無しに５回以上欠席した場合には原則として評価不能とみなしK評価とする
遅刻3回で欠席1回の扱いとする
正当な理由なく定期試験を欠席した場合はK評価とする

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	Vocabulary Worksheet(10) L&R演習、発表(20)	Vocabulary Worksheet:1, 4L&R演習、発表:2, 3, 4
授業外での評価	10	テキストのReadingの演習準備を行う(10)	テキストのReadingの演習準備を行う:2, 3, 4
定期試験	50	筆記試験(Listening & Reading)	1, 2, 3, 4

定期試験に代わるレポート等	0		
その他	10	積極的な発言・発表・取り組み(10)	2, 3

テキスト	The HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST 金星堂/2,200/ISBN978-4-7647-4045-7
参考書	必要に応じて授業の中で別途紹介する。
履修条件・他の科目との関連	進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 授業を欠席した場合は、欠席した授業の内容をクラスメートに確認し、自らフォローアップしておくこと。

授業コード	22012401	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	経営のしくみ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	林　兵磨				
シラバス執筆（主）	林　兵磨				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業では、経営学の基礎的な概念、理論、および実践を学びます。経営資源、組織構造、戦略、マーケティング、リーダーシップなどといった経営学におけるさまざまな分野を幅広くカバーして授業を実施する。そして、企業が直面している課題とその解決策について自身で解答を見出せるよう理解を深めていく。

到達目標

本科目における受講生の到達目標は下記のとおりとする。
１．受講生が、経営学の基礎的な概念を理解した上でその内容を他者に説明できるようになること
２．受講生が、株式会社の組織と経営環境との関係性を説明できるようになること
３．受講生が、現実の企業や事例を通じて理論を応用するスキルを身につけるようになること

授業計画

第１回：　日本的経営の特徴
第２回：　企業論の概要
第３回：　経営管理論①　　伝統的管理論と人間関係論
第４回：　経営管理論②　行動科学的モチベーション論
第５回：　経営管理論③　近代組織論
第６回：　経営組織論①　経営組織の基本構造
第７回：　経営組織論②　経営組織の形態
第８回：　経営組織論③　組織設計
第９回：　経営戦略論①　企業戦略
第10回：　経営戦略論②　多角化戦略
第11回：　経営戦略論③　競争戦略
第12回：　グローバル経営
第13回：　財務管理論
第14回：　リーダーシップ論
第15回：　マーケティング論
なお、諸般の事情により上記授業計画に変更が生じる場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

必要学習時間は、毎回事前学習・事後学習各1.5時間である。また、これに加えて期末試験対策のための学習時間として合計15時間は要する。

第１講
　事前学習　日本的経営の特徴について関連書籍やインターネットで調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第２講
　事前学習　日本の企業の形態について関連書籍やインターネットで調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第３講
　事前学習　テキストの伝統的管理論と人間関係論の箇所について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第４講
　事前学習　テキストの行動科学的モチベーション論の箇所について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第５講
　事前学習　テキストの近代組織論の箇所について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第６講
　事前学習　テキストの経営組織の基本構造の箇所について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第７講
　事前学習　テキストの経営組織の携帯の箇所について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第８講
　事前学習　テキストの組織設計の箇所について調べておくこと
　事後学習　事業時に指示した課題に取り組むこと
第９講
　事前学習　テキストの企業戦略の箇所について調べておくこと

事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第10講
事前学習　テキストの多角化戦略の箇所について調べておくこと
事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第11講
事前学習　テキストの組織戦略の箇所について調べておくこと
事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第12講
事前学習　テキストのグローバル戦略の箇所について調べておくこと
事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第13講
事前学習　テキストの財務管理論の箇所について調べておくこと
事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第14講
事前学習　テキストのリーダーシップ論の箇所について調べておく
事後学習　期末発表の準備作業を完成させること
第15講
事前学習　テキストのマーケティング論の箇所について調べておくこと
事後学習　期末発表のレビューをすること

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業後にGoogle Classroomを通じて課題提出を求める。提出された課題については次の授業にて講評を行う。また、重要と思われる論点については再度、補足説明を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

・下記評価割合に基づいて評価を行い、100点満点中60点以上を合格とする
・正当な理由なく、６回以上欠席した場合には「Ｋ」評価となる
・定期試験に代わるレポートを提出しなかった場合には「Ｋ」評価となる

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業中課題 Google Classroomにて実施する	1、2、3
授業外での評価	30	事後課題(宿題) Google Classroom を用いて実施する。	1、2、3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	定期試験に代わるレポート	1、2、3
その他	0		

テキスト	TAC公務員講座『公務員試験 過去問攻略Vテキスト(12)経営学　新装版 (公務員試験　過去問攻略Vテキスト)』TAC出版、2,090円(税込) ISBN： 978-4300111529
参考書	必要に応じて授業中に指示する。
履修条件・他の科目との関連	・毎回授業中、各自のパソコンのGoogle Classroom に課題を送信して、解答を求める ・やむを得ず授業を欠席した場合には、Google Classroomで授業資料を確認して、授業内容を自身でフォローしておくこと ・他の科目との関連では、「起業概論」の受講を考えている学生は、この「経営のしくみ」の知識が前提となるので、この科目を必ず受講しておくこと ・「簿記会計Ⅰ」、「簿記会計Ⅱ」の受講を考えている学生は、この科目を履修することが望ましい。これは、簿記の対象は企業であるため、経営学と密接につながっているからである。

授業コード	22012601	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	経済のしくみ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	林　兵磨				
シラバス執筆（主）	林　兵磨				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業では、経済学の基本的な概念や理論を指導する。主な学習内容としては、需要と供給、家計の行動、企業の行動、市場のしくみ、などである。このような項目は私たちが過ごす日常生活や社会で直面する問題を理解するための基礎知識を提供するものである。そして、習得した知識に基づいて、現実のさまざまな経済問題を分析し、解決策を提示できる力を養っていく。

到達目標

本授業の到達目標は下記のように定める。
１．受講者が、経済学の基本的な概念と理論を理解し、それを他者に説明できるようになること
２．受講者が、市場の仕組みや経済指標を説明できるようになること
３．受講者が、実際の経済問題について基本的な分析ができるようになること
４．受講者が、経済的な視点から社会問題を考察する能力を身につけ、それを他者に説明できること

授業計画

第１回　経済学の概要と目的
第２回　需要と供給①　基礎理論
第３回　需要と供給②　価格弾力性
第４回　家計の行動①　無差別曲線と予算制約線
第５回　家計の行動②　代替効果と所得効果
第６回　家計の行動③　最適労働供給
第７回　企業の行動①　利潤
第８回　企業の行動②　費用
第９回　企業の行動③　損益分岐点
第10回　独占と寡占①　不完全競争市場
第11回　独占と寡占②　差別価格
第12回　独占と寡占③　ゲーム理論
第13回　パレート最適
第14回　　自由貿易と関税
第15回　市場の失敗と不確実性
なお、諸般の事情により上記授業計画に変更が生じる場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

必要学習時間は、毎回事前学習・事後学習各1.5時間である。また、これに加えて期末試験対策のための学習時間として合計15時間は要する。

第１講
　事前学習　経済学の概要と目的について高校の教科書などから調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第２講
　事前学習　テキストの需要と供給の基礎理論の箇所について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第３講
　事前学習　テキストの価格弾力性の箇所について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第４講
　事前学習　テキストの無差別曲線と予算制約線の箇所について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第５講
　事前学習　テキストの代替効果と所得効果の箇所について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第６講
　事前学習　テキストの最適労働供給の箇所について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第７講
　事前学習　テキストの利潤の箇所について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと

第８講
　事前学習　テキストの費用の箇所について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第９講
　事前学習　テキストの損益分岐点の箇所について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第10講
　事前学習　テキストの不完全競争市場失業の箇所について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第11講
　事前学習　テキストの差別価格の箇所について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第12講
　事前学習　テキストのゲーム理論の箇所について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第13講
　事前学習　テキストのパレート最適の箇所について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第14講
　事前学習　テキストの自由貿易と関税について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第15講
　事前学習　テキストの市場の失敗と不確実性について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業後にGoogle Classroomを通じて課題提出を求める。提出された課題については次の授業にて講評を行う。また、重要と思われる論点については再度、補足説明を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

・下記評価割合に基づいて評価を行い、100点満点中60点以上を合格とする
・正当な理由なく、６回以上欠席した場合には「Ｋ」評価となる
・定期試験に代わるレポートを提出しなかった場合には「Ｋ」評価となる

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業中課題 Google Classroom にて実施する	1、2、3、4、
授業外での評価	30	事後課題(宿題) Google Classroom にて実施する	1、2、3、4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	定期試験に代わるレポート Google Classroom にて実施する	1、2、3、4
その他	0		

テキスト	村尾英俊『最初でつまずかない経済学 ミクロ編(改訂版)』実務教育出版、2,200円(税込) ISBN:978−4788945319
参考書	必要に応じて授業中に指示する。
履修条件・他の科目との関連	・毎回授業中、各自のパソコンのGoogle Classroom に課題を送信して、解答を求める ・やむを得ず授業を欠席した場合には、Google Classroomで授業資料を確認して、授業内容を自身でフォローしておくこと ・前期開講の「現代社会のしくみ」と「経営のしくみ」とは関連性が高いため、合わせて履修することが望ましい

授業コード	22053301	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	起業概論　［対面］				
シラバス執筆（全員）	林　兵磨				
シラバス執筆（主）	林　兵磨				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業では、起業に必要な基本知識とスキルを学びます。起業のアイデア創出、ビジネスモデルの構築、資金調達、マーケティング戦略、チーム形成、事業計画書の作成など、起業に関する重要なトピックを幅広くカバーした授業を展開する。また、実際の起業の事例を通じて、起業に対する学生の理解を深め、学生自身が起業アイデアを具体化する力を養う。授業では実際の起業の経験者や起業活動にアドバイスを提供するコンサルタント等を外部講師に招いて話を聞くことも予定している。本講義は、前期の「経営のしくみ」の後継科目と位置づける。「経営のしくみ」が経営学についての知識を得るインプット学習が中心であり、この「起業概論」は得た知識に基づいて、事業計画を作成するアウトプット学習が中心になるという関係にある。

到達目標

本授業の到達目標を以下のように定める。
１．受講者が、起業のプロセスを理解し、それを他者に説明できるようになること
２．受講者が、ビジネスモデルを構築するためのさまざまなコンピュータツールを用いて事業計画を作成できるようになること
３．受講者が、起業に必要なリーダーシップやチームビルディングの精神を体得し、それを他者に表現できるようになること
４．受講者が、市場調査やマーケティング戦略の立案をできるようになること
５．受講者が、起業家としての視点を持ち、リスクとチャンスを判断する力を獲得すること

授業計画

第１回：　起業の定義
第２回：　起業のアイデア創出と発想法
第３回：　ビジネスモデルキャンバスの活用
第４回：　市場調査と顧客ニーズの分析
第５回：　資金調達方法
第６回：　リーダーシップとチーム形成
第７回：　マーケティング戦略
第８回：　競争分析と差別化戦略
第９回：　財務計画と収支予測
第10回：　企業の失敗事例と成功事例
第11回：　事業計画の構築
第12回：　事業計画書の作成
第13回：　事業計画の発表準備
第14回：　事業計画の発表
第15回：　起業についての最近の動向
なお、諸般の事情により上記授業計画に変更が生じる場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

必要学習時間は、毎回事前学習・事後学習各1.5時間である。また、これに加えて期末試験対策のための学習時間として合計15時間を要する。

第１講
　事前学習　起業とは何かについて調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第２講
　事前学習　起業のアイデア喪失と発想法の基本事項について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第３講
　事前学習　ビジネスモデルキャンバスの基本事項について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第４講
　事前学習　市場調査と顧客ニーズの分析の基本事項について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第５講
　事前学習　資金調達方法の基本事項ついて調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第６講
　事前学習　リーダーシップとチーム形成の基本事項について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと

第７講
　事前学習　マーケティング戦略の基本事項について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第８講
　事前学習　競争分析と差別化戦略の基本事項について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第９講
　事前学習　財務計画と収支予測の基本事項について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第10講
　事前学習　起業の失敗事例と成功事例について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第11講
　事前学習　事業計画の基本事項について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第12講
　事前学習　事業計画書の基本事項について調べておくこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと
第13講
　事前学習　事業計画の発表に向けた作業を行うこと
　事後学習　事業計画の発表に向けた作業を完了させること
第14講
　事前学習　事業計画の発表準備の予行演習を行うこと
　事後学習　利用計画の発表のレビューを行うこと
第15講
　事前学習　これまでのまとめとフィードバックの準備を行うこと
　事後学習　授業時に指示した課題に取り組むこと

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業後にGoogle Classroomを通じて課題提出を求める。提出された課題については次の授業にて講評を行う。また、重要と思われる論点については再度、補足説明を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

・下記の評価割合に基づいて評価を行い、100点満点中60点以上を合格とする
・正当な理由なく６回以上欠席した場合には「Ｋ」評価となる
・定期試験に代わるレポートを提出しなかった場合には「Ｋ」評価となる

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業中課題 Google Classroom にて実施する	1,2,3,4,5
授業外での評価	30	事後課題(宿題) Google Classroom にて実施する	1,2,3,4,5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	定期試験に代わるレポート Google Classroom にて実施する	1,2,3,4,5
その他	0		

テキスト	井上達也『起業を考えたら必ず読む本』明日香出版、1,650円(税込) SBN：978-4756918550
参考書	必要に応じて授業中に指示する。
履修条件・他の科目との関連	・毎回授業中、各自のパソコンのGoogle Classroom に課題を送信して、解答を求める ・やむを得ず授業を欠席した場合には、Google Classroomで授業資料を確認して、授業内容を自身でフォローしておくこと ・この科目の受講にあたっては「経営のしくみ」を履修しておくこと。 ・「経営のしくみ」で使用したテキストを持参すること

授業コード	22053401	授業形態		実務家教員	ー
授業科目名	マーケティング概論　［対面］				
シラバス執筆(全員)	森田　篤司				
シラバス執筆(主)	森田　篤司				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

日本及び海外の企業が取り組んできたマーケティング戦略、活動を具体的な企業のケーススタディとして取り上げ、マーケティングの基礎を解説する。また各企業の歴史や強みを分析する基礎力を育成する。ロングセラー商品についても解説する。

到達目標

1. 企業が取り組んできたマーケティング活動を理解し、他者に説明できるようになる
2. 具体的なケースを学び、マーケティング手法の理解や強みの分析ができるようになる
3. マーケティングに対する自分自身の考え方を整理して、他者に説明できるようになる

授業計画

第1回　オリエンテーション(内容・方法：授業の概要、到達目標、評価の方法について説明する)
第2回　CASIOの「Gショック」のマーケティングについて学ぶ
第3回　パナソニックの「ポケットドルツ」のマーケティングについて学ぶ
第4回　スターバックスとドトールの戦略について学ぶ
第5回　マクドナルドとモスバーガーの戦略について学ぶ
第6回　伊藤園の新製品戦略について学ぶ
第7回　ライオンの流通戦略について学ぶ
第8回　アサヒビールのマーケティング・コミュニケーション戦略について学ぶ
第9回　Pascoの「超熟」のマーケティングについて学ぶ
第10回　加賀屋のサービスマネジメントについて学ぶ
第11回　東京ディズニーランドのマーケティングについて学ぶ
第12回　ライオンの「部屋干しトップ」のマーケティングについて学ぶ
第13回　企業のマーケティング戦略についての研究発表①
第14回　企業のマーケティング戦略についての研究発表②
第15回　まとめと振り返り（授業で学んだマーケティングの手法等）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

課題レポート準備のための事前・事後学習及び授業外課題に対する取り組みのための調査・分析・資料作成を行う。更に、期末試験に代わるレポートの準備のための授業外学習が必要です(毎回平均1.5時間の事前学習と2.5時間の事後学習が必要)

課題に対するフィードバックの方法

講義の中で課題レポートを繰り返し実施し、随時受講生の理解度を確認し、授業内で解説を行う。研究発表についても授業内で解説を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により60点以上を合格として所定の単位を認定する
正当な理由なしに6回以上欠席した場合はK評価とする
遅刻3回で欠席1回の扱いとする
正当な理由なく定期試験に代わるレポートを未提出の場合はK評価とする

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	マーケティング概論研究課題の発表(15) 課題レポート提出 (25)	マーケティング概論研究課題の発表：1,2,3課題レポート提出：1,2
授業外での評価	10	研究課題のプレゼン資料の作成(10)	1.2.3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	レポート	1,2,3

その他	0		

テキスト	イチからわかる!「マーケティング」の基本と実践 ISBN 978-4-7991-1203-8 / 大山秀一 / すばる舎 / 1,760 /
参考書	必要に応じて別途紹介する
履修条件・他の科目との関連	進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更することがある。 【講義を欠席する場合】資料や課題はClassroomを確認すること(原則後日配布はしない) また、欠席した授業の内容をクラスメートに確認し、自らフォローアップを行っておくこと

授業コード	22053501	授業形態		実務家教員	○
授業科目名	ブランディング概論　［対面］				
シラバス執筆(全員)	吉田　隆司				
シラバス執筆(主)	吉田　隆司				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的･概要

本授業は、ディプロマポリシーに示される「批判的思考力」「コミュニケーション能力」「実践的な問題解決能力」を養うことを目的としています。カリキュラムマップにおいて、本授業は「専門知識の習得」と「キャリア形成の基盤づくり」に位置づけられ、学生がブランド戦略の基礎を学び、将来のビジネスシーンで活用できる視点を身につけることを目指します。
本授業では、ブランドの基礎概念から始め、消費者心理、デジタル時代のブランド戦略までを幅広く概説します。教員は、成功事例や失敗事例を交えながら、ブランドが持つ価値やその構築プロセスを分かりやすく説明します。また、学生が主体的に学ぶために、グループワークやプレゼンテーションを通じて、実践的なブランド戦略の立案に取り組む機会を提供します。

主体的な学びの促進
授業を通じて、グループで1つの架空ブランドを構築していただきます。
最終授業で研究発表していただきます。評価対象はその構築したブランドとなります。
グループワーク：学生はグループで架空のブランドを立ち上げ、その戦略を立案します。
プレゼンテーション：グループごとにブランド戦略を発表し、質疑応答を通じて深い学びを促します。
ディスカッション：授業中のディスカッションを通じて、学生同士が意見を交換し、多角的な視点を養います。

　本授業は対面形式で実施しますが、必要に応じてオンラインツール（Zoom、Google Classroomなど）を活用し、柔軟な学びをサポートします。教員は、FMラジオ放送局FM802における、ステーションプロモーション、音楽イベントなどゼネラルプロデューサーとしてステーションブランディングに携わった実務経験を活かし、理論と実践を結びつけた授業を展開します。

到達目標

1.ブランドの定義や重要性を説明できる。
2.ブランドの構成要素（ブランドアイデンティティ、ブランドイメージ、ブランドロイヤルティなど）を具体的に説明できる。
3.成功したブランド事例と失敗したブランド事例を比較し、その要因を分析して説明できる。
4.消費者心理とブランドの関係を理解し、ブランドが消費者に与える影響を具体的に説明できる。
5.デジタル時代におけるブランド戦略（SNS、インフルエンサーマーケティングなど）を理解し、その活用方法を提案できる。
6.自己ブランディングの重要性を理解し、自身のキャリアに活かすための具体的な方法を説明できる。
7.グループワークを通じて、架空のブランド戦略を立案し、その内容をプレゼンテーションできる。
8.他者のブランド戦略を評価し、改善点を指摘できる。

授業計画

週 テーマ 内容
1 イントロダクション/ブランドとは何か？ ブランドの定義、歴史、重要性について学ぶ。
2 ブランドの構成要素 ブランドアイデンティティ、ブランドイメージ、ブランドロイヤルティについて解説。
3 ブランド戦略の基礎 ブランドポジショニング、ブランド価値の創造について学ぶ。
4 消費者心理とブランド ブランドが消費者に与える影響を心理学の観点から解説。
5 成功するブランド事例　国内外の成功ブランド（ex.Apple、Nikeなど）を分析。
6 失敗したブランド事例　失敗事例から学ぶべき教訓を考察。
7 デジタル時代のブランド戦略　SNSやインフルエンサーを活用したブランド構築。
8 自己ブランディング 自分自身をブランドとして捉え、キャリアに活かす方法を学ぶ。
9 事例解説①&グループワーク① 架空のブランドを立ち上げ、コンセプトを考える。
10 事例解説②&グループワーク② ブランド戦略の企画立案を進める。
11 事例解説③&グループワーク③ ブランド戦略のプレゼンテーション準備。
12 事例解説④&グループワーク④ ブランド戦略のプレゼンテーション準備。
13 グループワーク⑤ ブランド戦略のプレゼンテーション準備。
14 ブランドプランコンテストリハーサルと改善。
15 ブランドプランコンテスト グループごとにブランド戦略を発表し、フィードバックを受ける。総括
※受講生の習得度合いに応じて授業項目の変更もありうる

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

週 事前学習
4 自分が好きなブランドについてリストアップしておく（30分）。
7 自身のSNSでフォローしているインフルエンサーをリストアップしておく（30分）。
8 自分の得意なことと好きなこと、長所をまとめておく（30分）。
9 グループワークのアイデアをまとめておく（30分）。

10グループ内でディスカッションできるように要点をまとめておく（１時間）。
週 事後学習
1 授業で学んだブランドの重要性について、具体例を挙げてノートにまとめる（1時間）。
2 授業で学んだ内容を基に、身近なブランドの構成要素を分析する（1時間）。
3 授業で学んだブランドポジショニングについて、具体例を挙げて説明できるようにする（1時間）。
4 授業で学んだ内容を基に、特定のブランドが消費者に与える影響を分析する（1時間）。
5 授業で学んだ事例を基に、その成功要因をノートにまとめる（1時間）。
6 授業で学んだ事例を基に、その失敗要因を分析し、改善策を考える（1時間）。
7 授業で学んだ内容を基に、SNSを活用したブランド戦略の事例を調べる（1時間）。
8 授業で学んだ内容を基に、自己ブランディングの具体的な方法をノートにまとめる（1時間）。
9 グループワークで話し合った内容を整理し、次の授業に向けて準備する（1時間）。
10グループワークで立案したブランド戦略をさらにブラッシュアップする（1時間）。
11プレゼンテーションの準備を行う（1時間）。
12プレゼンテーションの準備を行う（1時間）。
13プレゼンテーションリハーサルの準備を行う（1時間）。
14プレゼンテーションの最終準備を行う（1時間）。
15授業全体の振り返りを行い、学んだ内容を整理し、ブランド戦略の未来について、自分なりの考えをまとめ最終提出資料を整える（1時間）。

課題に対するフィードバックの方法

中間レポートは、評価基準表（ルーブリック）に基づく評価結果を付してフィードバックします。
グループワークの成果は、授業内で講評し、改善点をフィードバックします。
最終授業時に課題に対する全体講評を行います。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績評価は、授業内での評価（50）、授業外での評価（20）、定期試験に代わるレポート（30）の3つで構成されます。
正当な理由なく4回以上欠席した場合は、K評価（評価不能）とします。
定期試験に代わる最終レポートを未提出の場合も、K評価とします。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内でのディスカッション、発言、質問等、積極的な授業参加を評価する。	1.2.3.4.5.6.7.8.
授業外での評価	20	自分の言葉でしっかりと理由が語られている内容を評価。	1.2.
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	期末レポート（研究発表の内容について、内容よりもその過程を評価する。さらに独自性があるものにはプラス評価をする。）	4.5.6.7.8.
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない
参考書	必要に応じて授業のなかで紹介する
履修条件・他の科目との関連	積極的に授業に参加していただくことが高評価につながります。無理せず楽しく学ぶことをモットーに進めさせていただきます。就職活動、卒業後の実務でも役立つ自己ブランディングをキャリアに生かしていただくことを目指します。 また、この科目履修の前後でマーケティングに関する科目を履修することで理解が深まり、スキルアップが期待できます。ぜひご検討ください。

授業コード	22039902	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	マナー演習　［対面］				
シラバス執筆（全員）	苅野　正美				
シラバス執筆（主）	苅野　正美				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的･概要

この授業では、「マナー」をテーマに、社会人として必要な基本および応用について、演習を通して習得する。さらに、グローバル社会での対応も視野に入れ、国際社会で通用するマナーやコミュニケーション力を身につけることを目指す。「なぜマナーが必要になるのか」を常に意識するために、マナーの語源・歴史、印象形成、異文化間コミュニケーションなどを理解してから演習を行う。

到達目標

１．多様な社会と文化を理解し、グローバル社会で通用するマナーを身につけ、実践できる。
２．ビジネスの場だけでなく、あらゆる社会生活において、相手への敬意や配慮を示す言葉遣いと立ち居振る舞いが体現できる。
３．ペアワークやグループワークを通して、協調性・協働性を身につけ、他者への思いやりやホスピタリティマインドを育むことができる。

授業計画

第1回　オリエンテーション
（講義内容、授業の進め方、授業に対する姿勢、成績算出方法などを説明する。）
第2回　マナーの語源、マナーの歴史
（マナーの語源と意味、ヨーロッパ・日本のマナーの歴史について概説する。）
第3回　国際社会で活躍するためのプロトコール
（プロトコールの国際比較を概説し、国際社会で活躍するために必要なプロトコールをグループで話し合い、理解を深める。）
第4回　第一印象と立ち居振る舞い①
（立ち居振る舞いは人の印象を大きく左右する要素の一つである。印象形成の特徴、第一印象を概説する。立ち姿・歩き姿・傾聴姿勢・お辞儀など、立ち居振る舞いの実技演習をペアワークで行う。）
第5回　第一印象と立ち居振る舞い②
（就職のグループ面接試験を想定し、挨拶・お辞儀、部屋の入退室、椅子の座り方・立ち方の実技演習をグループごとで行う。）
第6回　敬語表現の実践①
（敬語の基本・応用の課題をワークシートに記入し、解答・解説を行う。）
第7回　敬語表現の実践②
（敬語表現のロールプレイングを行う。グループで課題について話し合い、適切な敬語表現と動作を表現する。また、グループによる相互評価も行う。）
第8回　異文化理解①
（異文化理解の基本、異文化間コミュケーション、異文化理解の重要性を概説する。）
第9回　異文化理解②
（異文化理解を深める方法について、グループで話し合い、発表する。）
第10回　社会人としての心構え
（学生と社会人の違いについて、グループで話し合い、発表する。）
第11回　ビジネスマナー①
（名刺の役割、名刺交換のマナーを理解し、実技演習を行う。）
第12回　ビジネスマナー②
（電話応対の基本と進め方を解説し、日本語と英語による実技演習を行う。）
第13回　食事のマナー
（和食・洋食のマナー、立食・ビュッフェのマナーについて概説する。）
第14回　冠婚葬祭
（冠婚葬祭の基本、慶事・弔事のマナーとポイントを説明し、ペアワークで演習を行う。）
第15回　実技テスト・総括
（事前に提示した課題について実技テストを実施し、授業の総括を行う。）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（１回につき２時間として計算）と事前事後のあわせて１単位あたり４５時間が必要です。
事前学習：次回の授業テーマを確認し、あらかじめ情報収集しておくこと。
Google Classroomで授業資料や課題を提示するので考えておくこと。
事後学習：授業で学んだことを復習し、ノートにまとめておく。また、内容によっては、繰り返し声に出しての復習や実技の反復練習が必要になる。

課題に対するフィードバックの方法

実技演習や実技テストの結果や授業で課した課題に関しては、授業内でフィードバック・指導する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

Google Classroom経由で課題の提出・返却、小テスト（授業内）を行う。
以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	実技テスト(20)、小テスト(4回)(20)	1, 2, 3
授業外での評価	20	レポート(2回)(20)	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	レポート(当該授業終了後)	1, 2
その他	20	グループワークでの貢献度	1, 2, 3

テキスト	テキストは使用せず、授業内で授業資料を提示する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。

授業コード	22034701	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	秘書実務総合演習　［対面］				
シラバス執筆(全員)	苅野　正美				
シラバス執筆(主)	苅野　正美				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的･概要

この授業では、「秘書概論」や「秘書実務Ⅰ・Ⅱ」で学んだ知識やスキルを活用しながら、ビジネス場面を想定した実践の場で課題が解決できる能力の育成を目的とする。具体的には、PBL（Project-Based Learning）の手法を用いて、問題を発見し、チーム単位で解決すべき課題を明確にする。次にその課題解決のための資料の収集・調査を行い、得られたデータを分析・考察し、解決策を発表する。これらを振り返ることで、学びを深めていく。授業の形態は、グループワーク・発表等である。

到達目標

1. グループで意見交換ができる。
2. 自らの力で問題発見ができる。
3. 秘書が実際に直面する問題点を明確にし、説明できる。
4. 自分自身で問題発見ができ、それを分析して問題解決ができる。
5. 補助資料となるパワーポイントが作成できる。
6. 全員の前でプレゼンテーションができる。

授業計画

第1回　オリエンテーション、PBLの説明、問題解決のための基礎知識
（授業の進め方・留意点、成績算出方法を説明する。PBLの概要説明を行った後、グループ分けを行う。）
第2回　「来客応対」における問題発見、話し合い、役割分担
（来客応対をする際の問題点を発見し、グループワークを通して来客応対時に必要な秘書の心構えや秘書に求められる能力について話し合い、役割を決める。）
第3回　「来客応対」に関する資料収集、パワーポイントの作成
（情報収集した内容をもとに、発表の準備をする。）
第4回　各チームの発表、評価表作成（聴衆）
（チームごとにパワーポイントを用いながら発表し、聴衆は評価シートに記入する。）
第5回　「電話応対」における問題発見、話し合い、役割分担
（電話応対時に必要な秘書の心構えや秘書に求められる能力についてグループで話し合い、役割を決める。）
第6回　「電話応対」に関する資料収集、パワーポイントの作成
（情報収集した内容をもとに、発表の準備をする。）
第7回　「電話応対」に関する各チームの発表、評価表作成（聴衆）
（チームごとにパワーポイントを用いながら発表し、聴衆は評価シートに記入する。）
第8回　「会議のコーディネート」における問題発見、話し合い
（会議コーディネート時に必要な秘書の心構えや秘書に求められる能力についてグループで、役割を決める。）
第9回　「会議のコーディネート」に関する資料収集、パワーポイントの作成
（情報収集した内容をもとに、発表の準備をする。）
第10回　「会議のコーディネート」に関する各チームの発表、評価表作成（聴衆）
（チームごとにパワーポイントを用いながら発表し、聴衆は評価シートに記入する。）
第11回　「出張業務」における問題発見、話し合い、役割分担
（出張業務時に必要な秘書の心構えや秘書に求められる能力についてグループで話し合い、役割を決める。）
第12回　「出張業務」に関する資料収集、パワーポイントの作成
（情報収集した内容をもとに、発表の準備をする。）
第13回　「出張業務」に関する「各チームの発表、評価表作成（聴衆）
（チームごとにパワーポイントを用いながら発表し、聴衆は評価シートに記入する。）
第14回　レポート作成
（「ナレッジワーカーとなるために必要なことは何か」について、今まで調べたり発表したことから考察し、レポートを作成する。）
第15回　結果の発表と全体の評価、まとめ
（４つのテーマのまとめと、これからのビジネスワーカーに必要な事柄をまとめる。）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前学習】
各回の指示に従って課題等に取り組む。
【事後学習】
授業で学んだ範囲について復習し、課される課題に取り組む。授業内容をまとめておくこと。グループでパワーポイントを用いたプレゼンテーションを行うため、各自の役割をよく把握し、調査・発表準備を行うこと。

課題に対するフィードバックの方法
プレゼンテーションの後、質疑応答を行い、スライドや発表内容についての詳細なコメントを行う。

成績評価の方法・基準（方針）
●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。 ●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。 ---------- 評価割合に基づき総合的に評価し、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。 グループワークでの取り組み姿勢、資料作成、プレゼンテーション等で評価する。毎回ワークシートを提出すること。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	グループワークでの取り組み姿勢（30）、資料作成（20）、プレゼンテーション（30）	1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	レポート	2, 3
その他	0		

テキスト	『企業と秘書』大窪久代・水原道子編著　苅野正美・小西俊二郎他/樹村房/1,900円+税/ISBN978-4-88367-197-7 『新・ビジネスとオフィスワーク』水原道子監修、苅野正美他/樹村房/1,900円+税/ISBN978-4-88367-335-3 ※1年次に履修した「秘書概論」と「秘書実務Ⅰ・Ⅱ」のテキストを使用する。
参考書	授業の中で必要に応じて紹介する。
履修条件・他の科目との関連	●2年生後期開始までに、「秘書概論」「秘書実務Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得済みであることが履修条件である。 ●「上級秘書士」の資格取得のための必修科目である。 ●全員がパワーポイントを用いて発表するため、プレゼンテーションの基本として、前期に「基礎演習Ⅱ（プレゼンテーション）」を履修していることが望ましい。 ●授業日に配付する書類は出席や成績の対象となるため、必ず授業が終わるまでに提出すること（後日の提出は受け付けない）。

授業コード	22034801	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	簿記会計Ⅰ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	林　兵磨				
シラバス執筆(主)	林　兵磨				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は、企業が行っている簿記の基本的技法や、さらに簿記の根底にある会計理論を教授することを目的とする。ここで学習する簿記とは、簡単に言うと企業が行う様々な取引(売上げなど)を記録するための記録方法のことを指すが、その記録だけではなく、その記録に基づき１年間のもうけ(利益)の金額を計算し、それを広く社会に報告するという一連の行為までのことをいう。特にこの科目(簿記会計Ⅰ)では、企業が日常的に行っている取引(収入や支出、仕入れや売り上げなど)の記録方法を指導する。
　授業は、毎回担当者による一定のレクチャーを受けた後、各自問題演習を行い、その解答解説を聞いて振り返りを行うという受験勉強のスタイルで進めていく。受講者には簿記検定に合格するという強い意思をもって授業に臨むことが求められる。

到達目標

本科目における受講生の到達目標は下記のとおりとする。
１．受講生が簿記の意義や簿記が現代社会の中で果たしている役割について説明できるようになること
２．受講生が複式簿記の基本原理を理解し、それを他者に説明できるようになること
３．受講生が企業が行現金の収入・支出や商品の仕入れ・売り上げといった日常的な取引について、簿記で正確に記帳ができるようになること

授業計画

第１回　簿記の意義と目的
第２講　簿記一巡の流れ
第３講　簿記の５要素と仕訳の基本
第４講　現金の会計処理
第５講　預金の会計処理
第６講　商品売買の会計処理Ⅰ　商品売買の基本仕訳
第７講　商品売買の会計処理Ⅱ　手形取引、電子記録債権債務
第８講　商品売買の会計処理Ⅲ　前払金及び前受金、クレジット売掛金、受取商品券
第９講　商品売買の会計処理Ⅳ　商品売買に係る補助簿
第10講　その他の債権・債務の会計処理Ⅰ　貸付金及び借入金等
第11講　その他の債権・債務の会計処理Ⅱ　給料関係
第12講　有形固定資産の会計処理Ⅰ　有形固定資産の意義及び特徴等
第13講　有形固定資産の会計処理Ⅱ　有形固定資産の取得及び売却、減価償却
第14講　純資産(資本)の会計処理
第15講　税金関係の会計処理
なお、諸般の事情により上記授業計画に変更が生じる場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回の事前学習・事後学習として各1.5時間必要である。また、これに加えて期末試験対策のための学習時間として合計15時間は要する。

第１講
　事前学習　テキストの「はじめに」の部分をよく読んでおくこと
　事後学習　テキストの第１章の該当箇所の問題取り組むこと
第２節
　事前学習　テキストの「簿記の意義と目的」の章の前半部分をよく読んでおくこと
　事後学習　テキストの「簿記の意義と目的」の該当問題に取り組むこと
第３講
　事前学習　テキストの「簿記の意義と目的」の章の後半部分をよく読んでおくこと
　事後学習　テキストの「簿記の意義と目的」の該当問題に取り組むこと
第４講
　事前学習　テキストの「現金預金」の章の前半部分をよく読んでおくこと
　事後学習　テキストの「現金預金」の該当問題に取り組むこと
第５講
　事前学習　テキストの「現金預金」の章の後半部分をよく読んでおくこと
　事後学習　テキストの「現金預金」の該当問題に取り組むこと
第６講
　事前学習　テキストの「商品売買Ⅰ」の章をよく読んでおくこと
　事後学習　テキストの「商品売買Ⅰ」の該当箇所の問題に取り組むこと
第７講
　事前学習　テキストの「商品売買Ⅱ」の章をよく読んでおくこと

事後学習　テキストの「商品売買Ⅱ」の該当箇所の問題に取り組むこと
第８講
事前学習　テキストの「商品売買Ⅲ」の章をよく読んでおくこと
事後学習　テキストの「商品売買Ⅲ」の該当箇所の問題に取り組むこと
第９講
事前学習　テキストの「商品売買Ⅳ」の章をよく読んでおくこと
事後学習　テキストの「商品売買Ⅳ」の該当箇所の問題に取り組むこと
第10講
事前学習　テキストの「貸付金・借入金」の章をよく読んでおくこと
事後学習　テキストの「貸付金・借入金」の該当箇所の問題に取り組むこと
第11講
事前学習　テキストの「給料関係」の章をよく読んでおくこと
事後学習　テキストの「給料関係」の該当箇所問題に取り組むこと
第12講
事前学習　テキストの「固定資産Ⅰ」の章をよく読んでおくこと
事後学習　テキストの「固定資産Ⅰ」の該当箇所問題に取り組むこと
第13講
事前学習　テキストの「固定資産Ⅱ」の章をよく読んでおくこと
事後学習　テキストの「固定資産Ⅱ」の該当箇所の問題に取り組むこと
第14講
事前学習　テキストの「純資産(資本金)」の章をよく読んでおくこと
事後学習　テキストの「純資産(資本金)」の該当箇所の問題に取り組むこと
第15講
事前学習　テキストの「税金関係」の章をよく読んでおくこと
事後学習　テキストの「税金関係」の該当箇所の問題に取り組むこと

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業後にGoogle class roomを通じて課題提出を求める。課題の解答は採点をして返却する。また、重要と思われる論点については再度次の授業内で補足説明を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

・下記の各評価項目に基づき総合的に判断し、100点満点で60点以上を合格とする
・正当な理由なく６回以上欠席した場合には「Ｋ」評価となる
・定期試験を受験しなかった場合には「Ｋ」評価となる

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業中課題 Google Classroom にて実施する	1,2,3
授業外での評価	30	事後課題(宿題) Google Classroom にて実施する	1、2、3
定期試験	40	定期試験	1、2、3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	林兵磨『簿記会計基本講義』三恵社、2,992円(税込)、2023年／ISBN番号 978486693764-9 また、上記テキストの他に毎授業前にGoogle Classroom を通じて補足資料を載せる さらに授業中において必要に応じプリント配布を行うこともある
参考書	必要に応じて授業中に指示する。
履修条件・他の科目との関連	・毎回授業中、各自のパソコンのGoogle Classroom に課題を送信して、解答を求める ・やむを得ず授業を欠席した場合には、Google Classroomで授業資料を確認して、授業内容を自身でフォローしておくこと ・授業時に電卓を持参すること ・「簿記会計Ⅱ」と合わせて日商簿記検定３級の範囲を網羅するので、「簿記会計Ⅱ」も受講すること ・簿記の学習には企業に関する知識がおおいに役立つので、「経営のしくみ」を受講することが望ましい。

授業コード	22034901	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	簿記会計Ⅱ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	林　兵磨				
シラバス執筆（主）	林　兵磨				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は、企業が行っている簿記の基本的技法や、さらに簿記の根底にある会計理論を教授することを目的とする。ここで学習する簿記とは、簡単に言うと企業が行う様々な取引（売り上げなど）を記録するための記録方法を指すが、その記録のことだけでなく、その記録に基づき１年間のもうけ（利益）の金額を計算し、それを広く社会に報告するという一連の行為までのことをいう。
特にこの科目（簿記会計II）では、利益額を計算するための決算整理仕訳および公表財務諸表の作成について指導を行う。
　　授業は、毎回担当者による一定のレクチャーを受けた後、各自問題演習を行い、その解答解説を聞いて振り返りを行うという受験勉強のスタイルで進めていく。受講者には簿記検定に合格するという強い意思をもって授業に臨むことが求められる。

到達目標

本科目における受講生の到達目標は下記のとおりとする。
１．受講生が簿記の決算手続き及び正確な利益額の算定ができるようになること
２．受講生が公表財務諸表を作成できるようになること
３．受講生が簿記一巡の流れについて総合的な理解ができ、それを他者に説明できるようになること

授業計画

第１講　簿記会計Ⅰの総括、試算表
第２講　決算整理事項Ⅰ　　決算整理の意義と概要
第３講　決算整理事項Ⅱ　売上原価
第４講　決算整理事項Ⅲ　貸倒引当金
第５講　決算整理事項Ⅳ　減価償却費
第６講　決算整理事項Ⅴ　費用の未払い、収益の未収
第７講　決算整理事項Ⅵ　費用の前払い、収益の前受け
第８講　決算整理事項Ⅶ 現金過不足
第９講　決算整理事項Ⅷ その他の事項（当座借越、貯蔵品）
第10講　決算整理後残高試算表
第11講　精算表
第12講　財務諸表
第13講　伝票会計
第14講　証憑（ひょう）
第15講　その他（修正仕訳等）
なお、諸般の事情により上記授業計画に変更が生じる場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

必要学習時間は、毎回事前学習・事後学習各1.5時間である。また、これに加えて期末試験対策のための学習時間として合計15時間は要する。

第１講
　事前学習　テキストの「試算表」の章をよく読んでおくこと
　事後学習　テキストの「試算表」の章の問題に取り組むこと
第２節
　事前学習　テキストの「決算整理の概要」の箇所をよく読んでおくこと
　事後学習　テキストの「決算整理の概要」の該当箇所の問題に取り組むこと
第３講
　事前学習　テキストの「売上原価」の箇所をよく読んでおくこと
　事後学習　テキストの「売上原価」の該当箇所の問題に取り組むこと
第４講
　事前学習　テキストの「貸倒引当金」の箇所をよく読んでおくこと
　事後学習　テキストの「貸倒引当金」の該当箇所の問題に取り組むこと
第５講
　事前学習　テキストの「減価償却費」の箇所をよく読んでおくこと
　事後学習　テキストの「減価償却費」の該当箇所の問題に取り組むこと
第６講
　事前学習　テキストの「費用の未払い・収益の未収」の箇所をよく読んでおくこと
　事後学習　テキストの「費用の未払い・収益の未収」の該当箇所の問題に取り組むこと
第７講
　事前学習　テキストの「費用の前払い・収益の前受け」の箇所よく読んでおくこと

事後学習　テキストの「費用の前払い・収益の前受け」の該当箇所の問題に取り組むこと
第８講
事前学習　テキストの「決算整理事項・現金過不足」の箇所をよく読んでいくこと
事後学習　テキストの「決算整理事項・現金過不足」の該当箇所の問題に取り組むこと
第９講
事前学習　テキストの「決算整理事項・その他の事項」の箇所をよく読んでおくこと
事後学習　テキストの「決算整理事項・その他の事項」の該当箇所の問題に取り組むこと
第10講
事前学習　テキストの「決算整理後残高試算表」の箇所をよく読んでおくこと
事後学習　テキストの「決算整理後残高試算表」の該当箇所の問題に取り組むこと
第11講
事前学習　テキストの「精算表」の箇所をよく読んでおくこと
事後学習　テキストの「精算表」の該当箇所の問題に取り組むこと
第12講
事前学習　テキストの「財務諸表」の箇所をよく読んでおくこと
事後学習　テキストの「財務諸表」の該当箇所の問題に取り組むこと
第13講
事前学習　テキストの「伝票」の箇所をよく読んでおくこと
事後学習　テキストの「伝票」の該当箇所の問題に取り組むこと
第14講
事前学習　テキストの「証憑(ひょう)」の箇所よく読んでおくこと
事後学習　テキストの「証憑(ひょう)」の該当問題の問題に取り組むこと
第15講
事前学習　テキストの「修正仕訳等」の箇所をよく読んでおくこと
事後学習　テキストの「修正仕訳等」の該当箇所の問題に取り組むこと

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業後にGoogle Classroom を通じて課題提出を求める。課題の解答は採点をして返却する。また、重要と思われる論点については再度次の授業内で補足説明を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

・下記の各評価項目に基づき総合的に判断し、100点満点で60点以上を合格とする
・正当な理由なく、６回以上欠席した場合には「Ｋ」評価となる
・定期試験を受験しなかった場合には「Ｋ」評価となる

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業中課題 Google Classroom にて実施する	1,2,3
授業外での評価	30	事後課題(宿題) Google Classroom にて実施する	1,2,3
定期試験	40	定期試験	1,2,3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	林兵磨『簿記会計基本講義』三恵社、2,992円(税込)、2023年／ISBN番号 978486693764-9 また、上記テキストの他に各授業前にGoogle Classroom を通じて資料を提示する さらに授業中においても必要に応じてプリント配布を行うこともある
参考書	必要に応じて授業中に指示する。
履修条件・他の科目との関連	・毎回授業中、各自のパソコンのGoogle Classroom に課題を送信して、解答を求める ・やむを得ず授業を欠席した場合には、Google Classroomで授業資料を確認して、授業内容を自身でフォローしておくこと ・授業時には電卓を持参すること ・この授業は「簿記会計Ｉ」の授業内容が前提となって展開されるため、「簿記会計Ｉ」を履修済みであることを履修条件とする ・簿記の学習には企業に関する知識がおおいに役立つので、「経営のしくみ」を受講することが望ましい

授業コード	22040301	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	簿記会計特講　［対面］				
シラバス執筆（全員）	林　兵磨				
シラバス執筆（主）	林　兵磨				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は、日商簿記検定３級の学習範囲をひととおり学習した学生を対象に、総合問題演習や簿記の背景となる理論的側面の学習を通じて検定試験の合格水準の実力を養成することを目的とする。特に簿記の理論は近年の日商簿記検定でもしばしば出題されているところである。また、簿記の理論的側面は日商簿記検定３級対策のみならず、今後上級の検定を目指す者にとっても有益であるといえる。
　授業は、毎回担当者による一定のレクチャーの後、問題演習と解答解説という受験対策のスタイルで進めていく。受講者には簿記検定に合格するという強い意思をもって授業に臨むことが求められる。

到達目標

本科目における受講生の到達目標は下記のとおりとする。
１．受講生が日商簿記検定３級レベルの仕訳問題をスムーズに解答できる知識を習得し、その説明ができるようになること
２．受講生が日商簿記検定３級の財務諸表を作成できるようになること
３．受講生が会計処理の誤りを発見・訂正して正確な財務諸表の作成ができるようになること

授業計画

第１回　　簿記の基本原理の確認、簿記検定試験の概要
第２講　仕訳問題の再確認Ⅰ　現金取引、商品売買関係⑴
第３講　仕訳問題の再確認Ⅱ　商品売買関係⑵、債権債務関係
第４講　仕訳問題の再確認Ⅲ　給料関係、税金関係、純資産関係
第５講　仕訳問題の再確認Ⅳ　固定資産関係、証憑（ひょう）の読み取り
第６講　訂正仕訳のやり方、「仮の勘定科目」の取り扱いについての再確認
第７講　補助簿関係の再確認
第８講　伝票関係の再確認
第９講　決算振替仕訳の再確認
第10講　総合問題演習Ⅰ　精算表⑴一般
第11講　総合問題演習Ⅱ　精算表⑵推定
第12講　総合問題演習Ⅲ　財務諸表の作成⑴貸借対照表
第13講　総合問題演習Ⅳ　財務諸表の作成⑵損益計算書
第14講　総合問題演習Ⅴ　決算整理後残高試算表
第15講　株式会社に関する知識
なお、諸般の事情により上記授業計画に変更が生じる場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

必要学習時間は、毎回事前学習・事後学習各1.5時間である。また、これに加えて期末試験対策のための学習時間として合計15時間は要する。

第５講
　事前学習　テキストの「固定資産」及び「証憑（ひょう）」の箇所をよく読ん学習しておくこと
　事後学習　テキストの「固定資産」及び「証憑」の該当箇所の問題に取り組むこと
第６講
　事前学習　テキストの「訂正仕訳」及び「仮の勘定科目」の箇所をよく読んで学習しておくこと
　事後学習　テキストの「訂正仕訳」及び「仮の勘定科目」の該当箇所の問題に取り組むこと
第７講
　事前学習　テキストの「補助簿」の箇所をよく読んで学習しておくこと
　事後学習　テキストの「補助簿」の該当箇所の問題に取り組むこと
第８講
　事前学習　テキストの「伝票」の箇所をよく読んで学習おくこと
　事後学習　テキストの「伝票」の該当箇所の問題に取り組むこと
第９講
　事前学習　テキストの「決算振替仕訳」の箇所よく読んで学習しておくこと
　事後学習　テキストの「決算振替仕訳」の該当箇所の問題に取り組むこと
第10講
　事前学習　テキストの「精算表」の前半箇所をよく読んで学習しておくこと
　事後学習　テキストの「精算表」の前半箇所の問題に取り組むこと
第11講
　事前学習　テキストの「精算表」の後半箇所をよく読んで学習しておくこと
　事後学習　テキストの「精算表」の後半箇所の問題に取り組むこと
第12講

事前学習　テキストの「財務諸表」の前半箇所をよく読んで学習しておくこと
事後学習　テキストの「財務諸表」の前半箇所の問題に取り組むこと
第13講
事前学習　テキストの「財務諸表」の後半箇所をよく読んで学習しておくこと
事後学習　テキストの「財務諸表」の後半箇所の問題に取り組むこと
第14講
事前学習　テキストの「決算整理後残高試算表」の箇所をよく読んで学習しておくこと
事後学習　テキストの「決算整理後残高試算表」の該当箇所の問題に取り組むこと
第15講
事前学習　テキストの「株式会社関係」の箇所をよく読んで学習しておくこと
事後学習　テキストの「株式会社関係」の該当箇所の問題に取り組むこと

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業後にGoogle Classroomを通じて課題提出を求める。課題の解答は採点をして返却する。また、重要と思われる論点については再度次の授業内で補足説明を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

・下記の各評価項目に基づき総合的に判断し、100点満点で60点以上を合格とする
・正当な理由なく６回以上欠席した場合には「Ｋ」評価となる
・定期試験を受験しなかった場合は、評価の対象とせず「Ｋ」評価とする

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業中課題 Google Classroomにて実施する	1、2、3
授業外での評価	30	事後課題(宿題) Google Classroomにて実施する	1、2、3
定期試験	40	定期試験	1、2、3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『合格するための本試験問題集 日商簿記3級　2025年SS対策』TAC出版、1,870円(税込)、ISBN：未定 出版予定です
参考書	必要に応じて授業中に指示する。
履修条件・他の科目との関連	・毎回授業中、各自のパソコンのGoogle Classroom に課題を送信して、解答を求める ・やむを得ず授業を欠席した場合には、Google Classroomで授業資料を確認して、授業内容を自身でフォローしておくこと ・授業時には電卓を持参すること ・「簿記会計Ⅰ」及び「簿記会計Ⅱ」を内容を踏まえて授業を行うため、簿記初学者は「簿記会計Ⅰ」及び「簿記会計Ⅱ」を受講すること ・本科目の受講にあたっては「簿記会計Ⅰ」及び「簿記会計Ⅱ」の内容をしっかりと復習していくこと

授業コード	22049301	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	販売実務Ⅰ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	三次　亜紀子				
シラバス執筆(主)	三次　亜紀子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的･概要

ライフデザイン学科で学ぶ学生にとって、企業の接客業務や販売業務等に関わる基本的な知識や対応方法、マナー等を学習・理解しておくことは、ビジネス社会で働く際に不可欠である。また、それらを学ぶことで、消費者としての視点から企業のビジネス活動を学ぶことにもなり、今後の日常生活や消費生活のあり方を考えるうえでも役立つと思われる。テキストを中心に分かりやすく解説し、演習問題等でそれらの能力を育成する。

内容の理解の深化には問題解答演習や課題演習が欠かせない。演習量の不足分は事後学習にて各自が積極的に取り組む必要がある。
特に、学習内容と深く関連し、就職活動を有利に展開する公的な資格として、流通業界だけでなく、幅広い業界に認められている「リテールマーケティング（販売士）検定試験3級（日本商工会議所実施）受験を推奨している。

到達目標

１．小売業の役割が説明できる。
２．マーチャンダイジングの構成要素を理解し、その説明ができる。
３．接客・販売業務の基本について説明できる。
４．感じの良い接客マナーや挨拶、言葉遣いが実践できる
５．商品価格の構成について説明できる。

授業計画

【第1回】
テーマ：オリエンテーション
内容：授業内容、リテールマーケティング（販売士）検定3級の概要、成績算出等の説明、検定合格に向けての勉強の仕方、敬語の知識
【第2回】
テーマ：第1章 小売業の類型①【1-1～1-4】
内容：小売業の役割と形態、組織小売業、フランチャイズについて説明する
【第3回】
テーマ：第1章 小売業の類型②【1-5～1-8】
内容：販売形態の種類と特徴（チェーンストア、インターネットショップとリアルショップ）について説明する
【第4回】
テーマ：第1章 小売業の類型③【1-9～1-13】
内容：店舗形態の種類と特徴（業種と業態、専門店、百貨店、スーパーマーケット）について説明する
【第５回】
テーマ：第1章 小売業の類型④【1-14～1-18】
内容：店舗形態の種類と特徴（ホームセンター、ドラッグストア、コンビニエンスト、アアウトレットストア、COOP）について説明する
【第6回】
テーマ：第1章 小売業の類型⑤【1-19～1-22】
内容：店舗形態の種類と特徴（商店街、ショッピングセンター）について説明する
【第7回】
テーマ：第1回～第6回までの授業のまとめと確認　★理解度確認テスト１回目
内容：第１回～第6回の授業内容の振り返り「第1章 小売業の種類」
【第8回】
テーマ：第2章 マーチャンダイジング①【2-1～2-4】
内容：商品の基本、マーチャンダイジングの基本、コンビニエンスストアのシステムについて説明する
【第9回】
テーマ：第2章 マーチャンダイジング②【2-5～2-8】
内容：コンビニエンスストアのシステム、商品計画の基本（品揃え、仕入など）について説明する
【第10回】
テーマ：第2章 マーチャンダイジング③【2-9～2-12】
内容：商品計画の基本（ディスプレーなど）、仕入れ計画、価格設定の基本の基本について説明する
【第11回】
テーマ：第2章 マーチャンダイジング④【2-13～2-15】
内容：価格政策と利益の構造、在庫管理の基本について説明する
【第12回】
テーマ：第2章 マーチャンダイジング⑤【2-16～2-19】
内容：在庫管理、販売管理の基本、POSシステム・バーコードの仕組みについて説明する
【第13回】
テーマ：第8回～第12回までの授業のまとめと確認　★理解度確認テスト２回目
内容：　第8回～第12回の授業内容の振り返り「第2章 マーチャンダイジング」
【第14回】

テーマ：第5章 販売・経営管理 ①【5-1～5-3】
内容：接客マナー、敬語、クレーム処理について説明する
【第15回】
テーマ：第1回～第14回までの授業のまとめと確認　★理解度確認テスト３回目
内容：第1回～第14回の授業内容の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回、事前学習1.5時間、事後学習2.5時間、合わせて4時間以上の学習を必要とする。

主として、各回とも下記のような事前及び事後の学習を必要とする。詳細は授業内で説明する。
（１）事前学習課題：テキストの指示された個所を読み、内容の理解を心がける。
また、別途与えた課題内容について対応する。（1.5時間）
（２）事後学習課題：学習した内容のテキスト内問題や配布するプリントの問題を解答する。
また、検定頻出用語等を暗記し記憶量を増やす。（2.5時間）

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認テストを実施した際、授業内にて解答と解説等を行う。
課題については提出物等を採点し、他の学生にとって参考となるものは授業時に紹介する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、正当な理由なく欠席数が5回を超えた場合（出席数が10回未満の場合）は、評価の対象とせず、成績評価不能「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	課題の提出状況、取り組み方を評価する（35%） ３回行う理解度確認テストの成績を評価する（15%×3回＝45%）	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	（当該授業終講後）レポート提出（GoogleClassroomにて出題）	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	『1回で合格！リテールマーケティング（販売士）検定3級 テキスト＆問題集』／ 上岡 史郎 著　／ 成美堂出版　／ 1,760円／　978-4-415-23432-8
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	★欠席数が5回を超えた場合（出席数が10回未満の場合）は成績評価不能「K」評価となるので注意すること。 ★「リテールマーケティング（販売士）検定試験」3級受験予定者は、前期開講の「販売実務Ⅱ」「販売実務総合演習」も同時に必ず受講すること。 ★この科目は、「リテールマーケティング（販売士）検定試験」3級受験者にとって、対策学習に適した科目である。 ★上記テキストは、「販売実務Ⅱ」「販売実務総合演習」で使用されるテキストと同じものであるので、重複して購入しないこと。 ★3回実施する理解度確認テストはパソコンを使用するので必ず持参すること。

授業コード	22049401	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	販売実務Ⅱ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	三次　亜紀子				
シラバス執筆（主）	三次　亜紀子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

ライフデザイン学科で学ぶ学生にとって、企業のマーケティングや経営について理解しておくことは、ビジネス社会で働く際に不可欠である。また、それらを学ぶことで、消費者としての視点から企業のビジネス活動を学ぶことにもなり、今後の日常生活や消費生活のあり方を考えるうえでも役立つと思われる。テキストを中心に分かりやすく解説し、演習問題等でそれらの能力を育成する。

内容の理解の深化には問題解答演習や課題演習が欠かせない。演習量の不足分は事後学習にて各自が積極的に取り組む必要がある。
特に、学習内容と深く関連し、就職活動を有利に展開する公的な資格として、流通業界だけでなく、幅広い業界に認められている「リテールマーケティング（販売士）検定試験3級」（日本商工会議所実施）受験を推奨している。

到達目標

１．ストアオペレーションについて理解し、その説明ができる。
２．マーケティングについて理解し、その説明ができる。
３．利益の基本について理解し、計算ができる。
４．感じの良い接客マナーや挨拶、言葉遣いが実践できる

授業計画

【第1回】
テーマ：オリエンテーション
内容：授業内容、リテールマーケティング（販売士）検定3級の概要、成績算出等の説明、検定合格に向けての勉強の仕方、表書きと水引【3-9】について説明する
【第2回】
テーマ：第3章 ストアオペレーション①【3-1～3-5】
内容：ストアオペレーションの基本、レジ係の役割、リーダーの資質、荷受・検収について説明する
【第3回】
テーマ：第3章 ストアオペレーション②【3-6～3-8、3-10】
内容：補充発注、POP広告、包装の基本、ディスプレイの原則について説明する
【第4回】
テーマ：第3章 ストアオペレーション③【3-11～3-13】
内容：ディスプレイの手法と目的について説明する
【第５回】
テーマ：第１回～第4回までの授業のまとめと確認　★理解度確認テスト１回目
内容：第１回～第4回の授業内容の振り返り「第3章 ストアオペレーション」
【第６回】
テーマ：第4章 マーケティング①【4-1～4-4】
内容：マーケティングの基本と顧客満足経営について説明する
【第７回】
テーマ：第4章 マーケティング②【4-5～4-8】
内容：多頻度で買い物する顧客や商圏範囲と立地条件について説明する
【第８回】
テーマ：第4章 マーケティング③【4-9～4-12】
内容：狭域型購買促進、訪日外国人の現状、について説明する
【第９回】
テーマ：第4章 マーケティング④【4-13～4-17】
内容：売り場づくりの基本知識、照明の基本知識について説明する
【第１０回】
テーマ：第6回～第9回までの授業のまとめと確認　★理解度確認テスト２回目
内容：　第6回～第9回の授業内容の振り返り「第4章 マーケティング」
【第１１回】
テーマ：第5章 販売・経営管理①【5-4～5-7】
内容：小売業・販売活動・商品・販売促進に関する法令について説明する
【第１２回】
テーマ：第5章 販売・経営管理②【5-8～5-10】
内容：環境問題に関する法令、計数管理について説明する
【第１３回】
テーマ：第5章 販売・経営管理③【5-11～5-14】
内容：消費税の基本、金銭管理、商品ロス、衛生管理について説明する
【第１４回】
テーマ：第5章 販売・経営管理④
内容：売買損益計算の練習

【第１５回】
テーマ：第11回～第14回までの授業のまとめと確認　★理解度確認テスト３回目
内容：第12回～第14回の授業内容の振り返り「第5章 販売・経営管理」

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回、事前学習1.5時間、事後学習2.5時間、合わせて4時間以上の学習を必要とする。

主として、各回とも下記のような事前及び事後の学習を必要とする。詳細は授業内で説明する。
（１）事前学習課題：テキストの指示された個所を読み、内容の理解を心がける。
また、別途与えた課題内容について対応する。（1.5時間）
（２）事後学習課題：学習した内容のテキスト内問題や配布するプリントの問題を解答する。
また、検定頻出用語等を暗記し記憶量を増やす。（2.5時間）

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認テストを実施した際は、授業内で解答・解説等を行う。
課題については提出物等を採点し、他の学生にとって参考となるものは授業時に紹介する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、正当な理由なく欠席数が5回を超えた場合（出席数が10回未満の場合）は、評価の対象とせず、成績評価不能「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	課題の提出状況、取り組み方を評価する（35%） ３回行う理解度確認テストの成績を評価する（15%×3回＝45%）	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	（当該授業終講後）レポート提出（Google Classroomにて出題）	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	『1回で合格！リテールマーケティング（販売士）検定3級 テキスト＆問題集』／上岡 史郎 著　／成美堂出版　／1,760円／　978-4-415-23432-8
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	★欠席数が5回を超えた場合（出席数が10回未満の場合）は成績評価不能「K」評価となるので注意すること。 ★「リテールマーケティング（販売士）検定試験」3級受験予定者は、前期開講の「販売実務Ⅰ」「販売実務総合演習」も同時に必ず受講すること。 ★この科目は、「リテールマーケティング（販売士）検定試験」3級受験者にとって、対策学習に適した科目である。 ★上記テキストは、「販売実務Ⅰ」「販売実務総合演習」で使用されるテキストと同じものであるので、重複して購入しないこと。 ★3回実施する理解度確認テストはパソコンを使用するので必ず持参すること。

授業コード	22049501	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	販売実務総合演習　［対面］				
シラバス執筆（全員）	三次　亜紀子				
シラバス執筆（主）	三次　亜紀子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

ライフデザイン学科で学ぶ学生にとって、小売店舗経営のしくみや接客・販売技術、利益計画等の知識や態度・考え方等を理解・習得しておくことは、ビジネス社会で働く際に不可欠である。また、それらを学ぶことで、消費者としての視点から企業のビジネス活動を学ぶことにもなり、今後の日常生活や消費生活のあり方を考えるうえでも役立つと思われる。

上記に関する基本的な知識と能力は、「販売実務Ⅰ」及び「販売実務Ⅱ」においてその概略を学習することとなるが、これらの内容の深化と定着を図る目的で当該科目が開講されている。
したがって、１年次前期開講の「販売実務Ⅰ」及び「販売実務Ⅱ」を履修していなければ、この授業の理解は困難である。

テキストの内容に関わる一般知識問題や演習問題、検定の過去問題を中心に授業を行い「リテールマーケティング検定3級」合格レベルの知識獲得を目指し、分かりやすく解説する。
講義では日本商工会議所が実施している「リテールマーケティング検定試験３級」取得を目指して指導しているため、受検することを推奨している。この検定試験は、就職活動を有利に展開する公的な資格として、流通業界だけでなく、幅広い業界に認められている。
なお、内容の理解の深化には問題解答演習や課題演習が欠かせないため、演習量の不足分は事後学習にて各自が積極的に取り組む必要がある。加えて「リテールマーケティング検定３級」を受験し合格を目指す意欲や積極性が大いに必要である。

到達目標

１．小売店舗経営のしくみや接客・販売技術、販売促進等の知識や態度・考え方を理解し、説明できる。
２．日本商工会議所主催の「リテールマーケティング（販売士）検定３級」レベルの内容や解法を理解し実行できる。

授業計画

【第1回】
テーマ：オリエンテーション
内容：授業内容、リテールマーケティング（販売士）検定3級の概要、成績算出等の説明、検定問題の解答の仕方、略語の知識
【第2回】
テーマ：第1章 小売業の類型
内容：第1章 小売業の類型の重要ワードについて解説する
【第3回】
テーマ：第2章 マーチャンダイジング
内容：第2章 マーチャンダイジングの重要ワードについて解説する
【第4回】
テーマ：第3章 ストアオペレーシ
内容：第3章 ストアオペレーシの重要ワードについて解説する
【第5回】
テーマ：第4章 マーケティング
内容：第4章 マーケティングの重要ワードについて解説する
【第6回】
テーマ：第5章 販売経営管理
内容：第5章 販売経営管理の重要ワードについて解説する
【第7回】
テーマ：第1回～第6回までの学習内容の復習　★理解度確認テスト１回目
内容：第1回～第6回までの学習内容の復習
【第8回】
テーマ：リテールマーケティング（販売士）検定3級の問題研究①
内容：第1章小売業の類型　過去問題の解答及び解説
【第9回】
テーマ：リテールマーケティング（販売士）検定3級の問題研究②
内容：第3章ストアオペレーション　過去問題の解答及び解説
【第10回】
テーマ：リテールマーケティング（販売士）検定3級の問題研究③
内容：第4章マーケティング　過去問題の解答及び解説
【第11回】
テーマ：リテールマーケティング（販売士）検定3級の問題研究④
内容：第2章マーチャンダイジング　過去問題の解答及び解説
【第12回】
テーマ：リテールマーケティング（販売士）検定3級の問題研究⑤

内容：第5章 販売経営管理　過去問題の解答及び解説
【第13回】
テーマ：第8回～第12回までの復習　★理解度確認テスト2回目
内容：第8回～第12回までの学習内容の復習
【第14回】
テーマ：リテールマーケティング（販売士）検定3級の問題研究⑦
内容：第1章～第5章の振返りQuiz
【第15回】
テーマ：第1回～第14回までの復習　★理解度確認テスト3回目
内容：第1回～第14回までの学習内容の復習

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回、事前学習1.5時間、事後学習2.5時間、合わせて4時間以上の学習を必要とする。

主として、各回とも下記のような事前及び事後の学習を必要とする。詳細は授業内で説明する。
（１）事前学習課題：テキストの指示された個所を読み、内容の理解を心がける。
また、別途与えた課題内容について対応する。（1.5時間）
（２）事後学習課題：学習した内容のテキスト内問題や問題集の問題を解答する。
また、検定頻出用語等を暗記し記憶量を増やす。（2.5時間）

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認テストを実施した際は、授業内にて解答・解説を行う。
課題については提出物等を採点し、他の学生にとって参考となるものは授業時に紹介する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、正当な理由なく欠席数が5回を超えた場合（出席数が10回未満の場合）は、評価の対象とせず、成績評価不能「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	課題の提出状況、授業の取り組み方を評価する（35%） 3回行う理解度確認テストの成績を評価する（15%×3回＝45%）	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	（当該授業終講後）レポート提出（Google Classroomにて出題）	1, 2
その他	0		

テキスト	『1回で合格！リテールマーケティング（販売士）検定3級 テキスト＆問題集』／上岡 史郎 著　／成美堂出版　／1,760円／　978-4-415-23432-8
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	★欠席数が5回を超えた場合（出席数が10回未満の場合）は成績評価不能「K」評価となるので注意すること。 ★「リテールマーケティング（販売士）検定試験」3級受験予定者は、前期開講の「販売実務Ⅰ」「販売実務Ⅱ」も同時に必ず受講すること。 ★検定試験問題の傾向と対策が中心となる。 ★上記テキストは、「販売実務Ⅰ」「販売実務Ⅱ」で使用されるテキストと同じものであるので、重複して購入しないこと。 ★3回実施する理解度確認テストはパソコンを使用するので必ず持参すること。

授業コード	22040601	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	国際ビジネス　［対面］				
シラバス執筆（全員）	森田　篤司				
シラバス執筆（主）	森田　篤司				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

自動車、食品、流通分野等において日本及び海外の企業が進めてきた国際化に対する取組を、具体的な企業のケーススタディーとして取り上げ企業の基礎分析の方法を指導すると共に、各企業の歴史や現在の立ち位置について分析する基礎力を育成する。マーケティングについても解説する

到達目標

1.グローバル企業が取り組んできた国際化に対する取組を理解し他者に説明できるようになる
2.企業の基礎情報の分析ができるようになる
3.国際ビジネスに対する自分自身の考えを整理して、他者に説明できるようになる

授業計画

第1回　　オリエンテーション　（内容・方法：授業の概要、評価の方法、到達目標について説明する）日本経済の流れと、マーケティングの基礎について学ぶ。
第2回　　日本経済の流れと、マーケティングの基礎と実践活動について学ぶ。
第3回　　日清食品が推進した事業の多角化と時代背景、及び製品の多角化のアプローチについて学ぶ。
第4回　　日清食品が推進した事業の多角化と国際化について学ぶ。
第5回　　マクドナルドの歴史と戦略について学ぶ
第6回　　ユニクロの歴史と戦略について学ぶ
第7回　　コーヒー業界並びにスターバックスの歴史、グローバル戦略について学ぶ。
第8回　　トヨタ自動車の北米への輸出の推進と課題、及び、北米生産の展開及び背景について学ぶ。
第9回　　トヨタ自動車の将来の構想と、自動車業界が進む将来の方向について研究する。
第10回　ネスレ、コカ・コーラのグローバルR&Dについて学ぶ。
第11回　　流通①　日系最大手のイオンとセブン＆アイホールディングスの国際化の現状と課題を研究する。
第12回　流通②　米国大手流通を学ぶ。NIKEの戦略について学ぶ。
第13回　グローバル企業のマーケティング戦略についてのグループ研究発表①
第14回　グローバル企業のマーケティング戦略についてのグループ研究発表②
第15回　授業で学んだ国際ビジネスの意義及び国際企業の多面的な展開、アプローチについて振り返りを実施する

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

課題レポート準備の為の事前・事後学習及び授業外課題に対する取り組みの為の調査・分析・資料作成を行う。
　更に、期末試験に代わるレポートの準備の為の授業外学習が必要です。　（毎回平均1.5時間の事前学習と2.5時間の事後学習が必要）

課題に対するフィードバックの方法

講義の中で課題レポートを繰り返し実施し、随時受講生の理解度を確認し、授業内で解説を行う。研究発表についても、授業内で解説を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により60点以上を合格として所定の単位を認定する
正当な理由無く6回以上欠席した場合は原則として評価不能とみなしK評価とする
遅刻３回で欠席1回の扱いとする
正当な理由なく定期試験に代わるレポート未提出の場合はK評価とする

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	国際ビジネス研究課題の発表（15） 課題レポート提出(20)	国際ビジネス研究課題の発表：1,2,3課題レポート提出：1,2
授業外での評価	15	国際ビジネス研究課題のプレゼン資料の作成(10) 国際ビジネス研究課題のレポート(5)	国際ビジネス研究課題のプレゼン資料のまとめ：1,2,3国際ビジネス研究課題のレポート：1,2,3

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて別途プリントを配布する。
参考書	必要に応じて別途紹介する。
履修条件・他の科目との関連	進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更したりすることがある。 【講義を欠席する場合】資料や課題はClassroomを確認すること（原則後日配布はしない）。 また、欠席した授業の内容をクラスメートに確認し、自らフォローアップを行っておくこと。

授業コード	22039701	授業形態	実習	実務家教員	ー
授業科目名	インターンシップ（国内）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	加藤　淳一、林　兵磨、深見　智恵子				
シラバス執筆(主)	加藤　淳一				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	3単位

授業の目的･概要

本授業は、企業・団体など実社会の仕事現場で、長期休暇期間を中心に就業体験（以下、インターンシップ）を行う実習科目である。
仕事の実践を通じて、職業理解と自己理解を深め、経験からの気づきや学びを、将来の自律的なキャリアデザインに活かしていくことを目的とする。
事前授業では、インターンシップに目的を持って参加し、成長目標を達成していけるよう、インターンシップの参加に必要な事柄と心構えについて解説する。
事後授業では、経験の振り返りと意味づけを行い、インターンシップでの経験を活かしていくための考え方や方法を解説する。
①すべての授業への参加と授業課題の期限内提出
②すべてのエントリープロセスへの参加とエントリー課題の期限内提出
③インターンシップ実習（80時間以上）への参加と実習課題の期限内提出、これらの単位認定要件をすべて満たした者を成績評価の対象とする。
なお、本科目は、集中科目であるため通常の時間割外の時間での活動となる。また、インターンシップ実習（80時間以上）の具体的な日程は受入企業ごとに異なる。

到達目標

1.インターンシップ先企業・団体の産業・業界・職種、事業や仕事の特徴を他者にわかりやすく説明することができる
2.自分の立場と周囲からの期待を理解し、役割を果たし、周囲に貢献することができる
3.目標を掲げ、目標達成に向けて行動し、行動を内省・省察し、行動をより良く変えていくことができる
4.経験に意味を見出し、自分の将来や学生生活にどのように活かしていくか説明することができる

授業計画

授業・実習等の詳細は科目説明会にて説明するので受講希望者は申し込みの上、必ず参加すること。
科目説明会の日時等については、UNIPAにて案内するので、確認すること。

【事前授業⑴】オリエンテーション
授業目的・内容・プログラム・スケジュール・エントリープロセス・単位認定要件・受講条件を理解する
【事前授業⑵】目的目標設定とエントリーシートの作成
自己分析ワークを通じて、実習への参加目的と成長目標を明確にし、エントリーシート作成のための必要な視点を学ぶ
【事前授業⑶】学内選考準備
学内選考として行う教員面談を受けるための準備を行う
【事前授業⑷】事前訪問準備
受け入れ先企業・団体へ事前訪問するための準備を行う
【事前授業⑸】キックオフ研修
インターンシップ実習スタートにあたっての注意事項、実習中の心構え、実習中課題について理解する
【インターンシップ実習】
長期休暇期間を利用し、80時間以上のインターンシップ実習（期間・日時は企業ごとのプログラムによる）を行う。毎日、活動日誌を作成し、1日の振り返りを行う。
【中間授業】中間の振り返り
インターンシップ実習の折り返し地点での振り返りを行う
【事後授業】経験の振り返り
インターンシップ終了後、経験を振り返り、今後のアクションプランを言語化する

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

必要に応じて、担当教員より指示する。
授業（14時間）、インターンシップ実習（80時間以上）以外に合計41時間の事前事後学習が必要である。

【事前授業⑴】
〈事前〉シラバスを熟読の上、授業内容を理解しておくこと
〈事後〉プロフィールシートを作成すること
【事前授業⑵】
〈事前〉エントリーシートに記載が必要な項目を理解しておくこと
〈事後〉エントリーシートを作成すること
【事前授業⑶】
〈事前〉ビジネス上で必要なコミュニケーションにはどのようなものがあるか調べておくこと
〈事後〉面談担当教員に連絡の上、面談を受ける

【事前授業⑷】
〈事前〉教員面談での指導を受け、エントリーシートの内容を再考、修正しておくこと
〈事後〉受入企業担当者に連絡、日程調整の上、事前訪問（オンラインも想定）すること
【事前授業⑸】
〈事前〉企業訪問報告書をまとめておくこと
〈事後〉実習準備を整え、実習直前に企業担当者へ連絡し、最終確認を行う
【インターンシップ実習】
〈事前〉毎回の実習前には、当日の活動内容の確認を行うこと
〈事後〉毎回の実習後には、振り返りの上、活動報告書を作成する
【中間授業】
〈事前〉中間振り返りシートをまとめておくこと
〈事後〉中間振り返りシートの内容を再考すること
【事後授業】
〈事前〉最終振り返りシートをまとめておくこと
〈事後〉修了報告書を作成すること

課題に対するフィードバックの方法

課題は、授業内で講評する。また、必要に応じて個別にコメントを付して、あるいは口頭で直接フィードバックする。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

すべての単位認定要件を満たした者に対し、以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
【単位認定要件】
①すべての授業への参加と授業課題の期限内提出
②すべてのエントリープロセスへの参加とエントリー課題の期限内提出
③インターンシップ実習（80時間以上）への参加と実習課題の期限内提出
【その他、成績評価に関する注意事項】
・正当な理由なく、所定の授業・エントリープロセス・実習に「出席しない」場合は「K評価」とする。
・正当な理由なく、期限までに「必要な課題の提出」がない場合、その時点で、それ以降の受講を認めない。
・正当な理由なく、期限までに「必要な取り組み」を行わない場合、その時点で、それ以降の受講を認めない。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	振り返りシート　20%	1, 2, 3, 4
授業外での評価	50	エントリー課題　40% 活動報告書　10%	1, 2, 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	終了報告書　30%	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、資料を配布する。
参考書	必要に応じて、授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・集中科目であるため、学生は年度当初の履修登録の必要はない ・受講希望者は、科目説明会への参加を必須とする ・科目説明会の詳細は、対象者にUNIPAにて案内する ・科目説明会の参加は申し込みを必須とし、説明会への不参加は、その後の受講を認めない ・科目説明会に参加できなかった場合の事後対応（個別説明）は行わない

授業コード	22029101	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	ライフデザイン論　［対面］				
シラバス執筆（全員）	林　兵磨、加藤　淳一、森田　篤司、苅野　正美、深見　智恵子、久保　由加里				
シラバス執筆（主）	林　兵磨				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、学生が将来の生活や人生設計について考えるための様々な知識や視点を獲得し、それらを活用しながら自身のライフプランを設計する方法を身に付けることをねらいとした、キャリアデザインコースと観光・英語コースの教員8名によるオムニバス講義である。
　具体的にはまず、キャリアデザインの意義や、社会で求められるコミュニケーションスキルについて解説する。次に、資格・働くことの意義・生涯賃金・お金の大切さ等について解説するとともに、自立するとはどういうことか考察する。さらに、企業研究の必要性について解説し、自分自身の強み・弱みについての分析を行う。最後に、学習の集大成として、学生一人ひとりが自身のライフプランを作成し発表できるように指導する。

到達目標

本科目では、以下のように到達目標を定める。

1. 様々な視点から自己や自己を取り巻く社会を捉えることができるようになること
2. 暮らしや生き方をイメージし、デザインする方法を説明することができるようになること
3. 自立した個人として自分らしい人生のあり方を構築することができるようになること
4. 将来の職業を視野に入れたライフプランを設計することができるようになること

授業計画

【第１回】　森田　オリエンテーション（キャリアデザインとは）
【第２回】　　林　　ライフデザイン学の体系
【第３回】　苅野　マナーについて
【第４回】　　林　　社会人として働く意義と資格取得の目的とは
【第５回】　　林　　身近な会計
【第６回】　加藤　ボランティア人生
【第７回】　久保　短大での学びとライフデザイン
【第８回】　久保　異文化理解とライフデザイン
【第９回】　深見　自分ができることを考える
【第10回】　森田　企業研究の必要性
【第11回】　加藤　ホスピタリティについて
【第12回】　深見　社会人としての基礎知識。(D &Iとは)
【第13回】　苅野　マイライフプランの作成
【第14回】　　林　　マイライフプランの発表準備
【第15回】　全員　　マイライフプランの発表

※なお、授業の順番や担当者は変更する場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

・事前事後学習の内容は各回で説明する
・上記の他、発表準備としてさらに1時間を要する

課題に対するフィードバックの方法

各教員が、テーマと授業方法に応じて適切な方法でフィードバックする。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

・各担当教員が授業内で課す課題またはレポートと授業終講後の定期試験に代わるレポートの総合評価とする
・欠席した場合には、その回の担当教員に連絡をして指示を受けること。指示に従わない場合にはその回の点が０点となる
・正当な理由なく、６回以上欠席した場合には「Ｋ」評価となる
・正当な理由がなく「定期試験に代わるレポート」を指定した期限までに提出しなかった場合は「K」評価となる

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標

授業内での評価	85	・各回の担当教員による課題 ・到達目標に照らして、その達成度を各回単位で担当教員が点数評価する ・担当教員が行った各回の評価点を、同じ重み付けで加算する	1,2,3,4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	・定期試験に代わるレポート ・レポートの構成、文字数、論理性、文章の適切さなど、統一基準を設けて実施する。なお、採点にあたっては、各教員がランダムに分担して行う	4
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず資料を配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・授業形式は6名の専任教員によるオムニバス講義である ・欠席した場合には、その回の担当教員に連絡をして指示を受けること ・本科目は必修科目であることに留意すること

授業コード	22039801	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	地域研究　［対面］				
シラバス執筆（全員）	深見　智恵子				
シラバス執筆（主）	深見　智恵子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

急速な社会変化の中で、地域社会には様々な変化が生じている。
グローバル社会において、社会のルールや常識は変化し続けており、企業も個人も変化に対応する力をもつ必要がある。

変化に対応するためには、俯瞰的視点と柔軟な思考力・未来を創造する力と新たな提案力をもつことが重要となる。
この授業ではこうした社会背景を踏まえ、地域の現状を知るとともに地域の魅力や地元企業にあらためて着目する。

地元企業（大阪を中心とした関西発祥の企業）における新たな挑戦や取り組みを調査するとともに、グローバルビジネスへの繋がりを認識できる柔軟な視点を養っていく。
学生が、地域社会や地元企業の魅力や課題を理解する機会を提供し、それぞれが社会の一員として未来の担い手であるという意識と意欲を高めることを目指す。

今年度は大阪万博開催年度となるため、万博に関わる産業やビジネスを理解する。

到達目標

１．地域社会に参加することの意義や重要性を説明できる。
２．本学と繋がりがある都市や地域の魅力や課題について理解し、説明できる。
３．地域社会や地元企業の課題を解決するために、新たな提案をすることができる。

授業計画

【第1回】　プロローグ ＆ ガイダンス
【第2回】　地域文化とビジネスとの繋がり
【第3回】　大阪万博2025に関わる大阪の取り組みと参加企業の取り組み
【第4回】　研究するテーマを決める
【第5回】　グループワークでの学習１（資料等を用いた調査）
【第6回】　グループワークでの学習２（フィールドワークに向けた準備）
【第7回】　グループワークでの学習３（フィールドワーク）
【第8回】　グループワークでの学習４（フィールドワーク結果のまとめと中間発表の準備）
【第9回】　中間発表
【第10回】　グループワークでの学習5（気づいた魅力や課題・改善点等をグループで検討する）
【第11回】　グループワークでの学習6（新たな気づきをまとめて提案へのアイデア出しをおこなう）
【第12回】　グループワークでの学習7（グループの新提案を決める）
【第13回】　グループワークでの学習8（最終発表の準備）
【第14回】　最終発表
【第15回】　エピローグ ＆ まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回の授業で課題を課すので、次回の授業前もしくは授業時に提出すること。

前回までの講義内容を確認し復習しておくこと。
また日頃より、自分のテーマや調査する企業の動向について、新聞や専門誌などを用いて情報収集を行うこと。

【第1回】
事前　シラバスを熟読し、地域研究について調べておく。　2.0時間
事後　本学と繋がりがある地域の取り組みを理解する。　2.0時間

【第2回】
事前　地域文化とは何か調べる。　2.0時間
事後　地域の取り組みだけでなく、地元企業の地域との関りを理解する。　2.0時間

【第3回】
事前　大阪万博とは何か調べる。　2.0時間
事後　大阪万博に関わる地元の企業の取り組みを理解する。　2.0時間

【第4回】
事前　自分の興味があるテーマを考える。　2.0時間

事後　自分のテーマに関わる企業やサービスを理解する。　2.0時間

【第5回】
事前　テーマに関わる企業やサービスの中から調査する内容を考える。　2.0時間
事後　グループディスカッションで出た意見を参考に、グループと個人の調査内容を決める。　2.0時間

【第6回】
事前　自分のテーマの調査方法を考え、まとめる。　2.0時間
事後　グループ内での自分の担当を理解し、調査方法を検討する。　2.0時間

【第7回】
事前　フィールドワークの準備を具体的に考える。　2.0時間
事後　フィールドワークで感じたことや発見をまとめる。　2.0時間

【第8回】
事前　フィールドワークを通じた学びについて、グループメンバーへ伝える内容を決める。　2.0時間
事後　メンバーの意見を理解し、グループとしての意見を明確化し、まとめる。　2.0時間

【第9回】
事前　中間発表の準備をする。　2.0時間
事後　中間発表でもらったフィードバックを理解する。　2.0時間

【第10回】
事前　フィードバックを踏まえて、調査対象の課題・改善点、新たな魅力を見つける。　2.0時間
事後　メンバーの意見を理解し、自分の意見との違いを考える。　2.0時間

【第11回】
事前　グループとして、調査対象へ伝えるべき内容が何かを考える。　2.0時間
事後　メンバーの意見を理解し、自分の意見や提案との繋がりを考える。　2.0時間

【第12回】
事前　自分の意見や提案について、メンバーに伝えるための準備をする。　2.0時間
事後　メンバーの意見を理解し、自分の提案とメンバーの提案と関係について考える。　2.0時間

【第13回】
事前　最終発表に向けて、グループとしての意見を考えてくる。　2.0時間
事後　メンバー最終発表の内容を決定し、自分の担当する発表内容を考える。　2.0時間

【第14回】
事前　最終発表の資料を分担して作成し、担当する発表内容を時間内で話せるよう準備する。　2.0時間
事後　フィードバックを受け、今後の自分のあり方を整理する。　2.0時間

【第15回】
事前　これまでの全体を振り返り、学んだことやわからないことをまとめてくる。　2.0時間
事後　フィールドワークを通じて自分の将来を考える。　2.0時間

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出するコメントシートに、次回の授業以降（授業内容と関係やタイミング）でフィードバックをおこなう。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

コメントや発表、課題提出、定期試験に代わるレポート、授業への参加姿勢により総合的に判断し、60点以上を合格とする。
正当な理由がない欠席6回以上、課題提出回数が著しく低い、定期試験の欠席、等の場合は評価対象とはしない。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	グループディスカッションや発表内容、質問への返答や回答の内容、授業に臨む態度を考慮する。	1.2.3
授業外での評価	30	調査対象に対しての調査やフィールドワークの実施	1.2.3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	グループの発表内容に加えて、自分が担当した内容をまとめてレポートとして提出する	1.2.3
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	第1回目で授業の詳細について説明するため、履修を考えている人は必ず出席すること。 やむをえず出席できない場合は、事前に担当教員まで連絡・相談すること。 グループディスカッションや調査と発表を行ってもらう。 欠席する場合は、事前連絡が基本とし、グループのメンバーへの連絡は必須とする。 自分の担当課題範囲は確実に実施するという責任をもち、履修すること。 特にグループワークでは、欠席・遅刻・取り組みに対する消極的な姿勢などが、他のメンバーに迷惑をかけることを自覚すること。 グループとしての困りごとはメンバーで話し合うこと。また、必要に応じて教員へ連絡・相談をおこなうこと。 ＊進行によっては、授業計画の順序が前後したり、一部内容を変更する場合がある。 Schedules are subject to change without notice.

授業コード	22040701	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	食と生活　［対面］				
シラバス執筆（全員）	尾関　清子				
シラバス執筆（主）	尾関　清子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

　近年、「食」に関する問題が後を絶たない。ライフスタイルの多様化による生活習慣病の増加、食を取り巻く環境の変化による事件、事故など、食生活がもたらす健康への影響が問題視されている。このような状況にある今、「食と生活」について、しっかりしとした意識と見識を持ち、幅広い知識を習得し、総合的にアドバイスできる人材が求められている。
　この授業では、栄養や調理、食品やその衛生面、食マーケットや食に関する経済について解説する。食を通じて適切な助言や指導ができるスペシャリストである「食生活アドバイザー®」３級に合格できる力をつけるよう、講義、演習形式で授業を進める。

到達目標

1. 栄養と健康に関する基礎知識を習得し、食生活アドバイザーの試験問題を解けるようになる。
2. 食文化と食習慣に関する基礎知識を習得し、食生活アドバイザーの試験問題を解けるようになる。
3. 食品学に関する基礎知識を習得し、食生活アドバイザーの試験問題を解けるようになる。
4. 衛生管理に関する基礎知識を習得し、食生活アドバイザーの試験問題を解けるようになる。
5. 食マーケットに関する基礎知識を習得し、食生活アドバイザーの試験問題を解けるようになる。
6. 社会生活に関する基礎知識を習得し、食生活アドバイザーの試験問題を解けるようになる。

授業計画

【第 1回】　食生活アドバイザーについて：はじめに　食生活アドバイザーとは？
【第 2回】　ウェルネス上手になろう（１）　栄養と栄養素
【第 3回】　ウェルネス上手になろう（２）　食生活と病気予防
【第 4回】　ウェルネス上手になろう（３）　栄養と健康のまとめ
【第 5回】　もてなし上手になろう（１）　行事や郷土料理
【第 6回】　もてなし上手になろう（２）　料理法と食事のマナー
【第 7回】　買い物上手になろう（１）　食品の種類
【第 8回】　買い物上手になろう（２）　食品表示
【第 9回】　段取り上手になろう（１）　食中毒の予防
【第10回】　段取り上手になろう（２）　食品の安全性
【第11回】　生き方上手になろう（１）　消費者と食マーケット
【第12回】　生き方上手になろう（２）　流通
【第13回】　やりくり上手になろう（１）　暮らしと経済
【第14回】　やりくり上手になろう（２）　食品と環境問題
【第15回】　まとめ　これまでの授業を振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前学習】（各回につき1.5時間）
受講前にテキストの当該ページを熟読しておく。疑問点を明らかにし、授業で質問できるよう準備をしておく。
【事後学習】（各回につき2.5時間）
受講後の家庭学習としては、テキスト、配付プリントを参照しながら単元ごとの問題を解き、知識の定着を図る。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく5回をこえて授業に欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	課題（まとめプリント・練習問題）（40） 小テスト（30）	1, 2, 3, 4, 5, 6

授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	食生活アドバイザー3級合格に準ずる内容（30）	1, 2, 3, 4, 5, 6
その他	0		

テキスト	2024-2025版[公式]食生活アドバイザー®テキスト＆問題集／一般社団法人FLAネットワーク協会　編／日本能率協会マネジメントセンター／1,980 円（税込）／ISBN：9784800591609
参考書	FLAネットワーク協会編「食生活アドバイザー公式重要用語辞典」日本能率協会マネジメントセンター発行 村井美月著「3ステップで最短合格!食生活アドバイザー検定3級テキスト&模擬問題[第4版]」秀和システム発行
履修条件・他の科目との関連	授業内容の一部分が、前期「クッキング論」や「クッキングの基礎」と重なるため、この2科目を受講していると理解が進みやすい。（本科目のみの受講は可能）

授業コード	22040801	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	クッキング論　［対面］				
シラバス執筆（全員）	有田　真理				
シラバス執筆（主）	有田　真理				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

調理とは、献立作成に始まり、食材の選択入手、それを加工（調理操作）し、できた料理を盛りつけ、テーブルにセッティングするまでの一連の過程をいう。本講義では、食材を加工（調理操作）して料理にする部分を中心に、講義を進める。調理操作には、安全性への注意、栄養性の向上はもとより、おいしくすることすることが求められる。そこで初めに、調理とおいしさについて解説し、それから基本的な調理操作と、それらに必要な調理器具・機器についてと、よく使われる食品の調理特性を、順に、科学的理論をもとに解説する。

到達目標

１．調理の意義を説明できる。
２．おいしさの要因について説明できる。
３．非加熱調理操作と非加熱用器具の原理・要点を説明できる。
４．加熱調理操作と加熱用器具の原理・要点を説明できる。
５．様々な食品の調理性を説明できる。

授業計画

【第1回】
テーマ：本授業について　調理の意義、食事設計
内容・方法：授業の進め方、授業内容、成績評価等について説明する。調理することの意義、食事の意義と分類、献立作成の基本について講義する。
【第2回】
テーマ：食べ物の嗜好性　おいしさの演出
内容・方法：食べ物のおいしさに関与するいろいろな要因について講義する。
【第3回】
テーマ：非加熱調理操作（計量・洗浄・浸漬）と器具、小テスト
内容・方法：非加熱調理操作（計量・洗浄・浸漬）と、使用する器具について講義する。
【第4回】
テーマ：非加熱調理操作（切断・粉砕・磨砕・ろ過・裏ごし・混合・撹拌・成形）と器具
内容・方法：非加熱調理操作（切断・粉砕・磨砕・ろ過・裏ごし・混合・撹拌・成形）と使用する器具について講義する。
【第5回】
テーマ：非加熱調理操作（冷却・凍結・解凍）と機器
内容・方法：非加熱調理操作（冷却・凍結・解凍）と使用する機器について講義する。
【第6回】
テーマ：加熱調理操作（ゆでる・煮る・蒸す・炊く・加圧調理）と器具、小テスト
内容・方法：加熱操作の原理、加熱調理操作（ゆでる・煮る・蒸す・炊く・加圧調理）について講義する。
【第7回】
テーマ：加熱調理操作（焼く・揚げる・炒める）と器具
内容・方法：加熱調理操作（焼く・揚げる・炒める）について講義する。
【第8回】
テーマ：加熱調理操作（電子レンジ加熱・電磁調理器加熱）と機器
内容・方法：その他の加熱調理操作（電子レンジ加熱・電磁調理器加熱）と機器について講義する。
【第9回】
テーマ：調味操作、小テスト
内容・方法：調味料やだしの種類、適塩について講義する。
【第10回】
テーマ：食品素材（炭水化物を多く含む食品）の調理性
内容・方法：炭水化物の調理による変化、炭水化物を多く含む食品（米・小麦粉・雑穀）の調理性について講義する。
【第11回】
テーマ：食品素材（炭水化物を多く含む食品）の調理性
内容・方法：炭水化物を多く含む食品（いも類・豆類）の調理性について講義する。
【第12回】
テーマ：食品素材（たんぱく質を多く含む食品）の調理性
内容・方法：たんぱく質の調理による変化、たんぱく質を多く含む食品（食肉類・魚介類）の調理性について講義する。
【第13回】
テーマ：食品素材（たんぱく質を多く含む食品）と（ビタミン・無機質を多く含む食品）の調理性
内容・方法：たんぱく質を多く含む食品（卵類・牛乳・乳製品）とビタミンを多く含む食品（野菜）の調理性について講義する。
【第14回】
テーマ：食品素材（ビタミン・無機質を多く含む食品）
内容・方法：ビタミン・無機質を多く含む食品（果物・きのこ類・藻類・種実類）の調理特性について講義す

る。
【第15回】
テーマ： 成分抽出素材（でんぷん、ゲル化剤）の調理性、小テスト
内容・方法： ゲル化剤（寒天・ゼラチンなど）の調理特性について講義する。

※授業の進捗状況等により、授業の進行を変更する場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】
①事前学習課題：シラバスを確認し、講義内容を確認しておく
②事後学習課題：講義で説明した食の形態や献立について、日常の食事の中で確認しておく
【第2回】
①事前学習課題：・テキストに目を通しておく
・今までに一番おいしいと感じた時の食べ物とその時の状況を思い出しておく
②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく
・講義で説明した味や味覚について、日常の食事の中で確認しておく
【第3回】
①事前学習課題：・テキストに目を通しておく
・非加熱調理操作（計量・洗浄・浸漬）に使う調理器具の種類や形状等をみておく
②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく
・講義中に出てきた調理器具を自宅及び店頭で確認しておく
【第4回】
①事前学習課題：・テキストに目を通しておく
・非加熱調理操作（切断・粉砕・磨砕・ろ過・裏ごし・混合・撹拌・成形）に使う調理器具の種類や形状等をみておく
②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく
・講義で説明した内容を自宅及び店頭の冷凍冷蔵庫で確認しておく
【第5回】
①事前学習課題：・テキストに目を通しておく
・自宅にある冷凍冷蔵庫の構造や庫内の食品の保管位置確認しておく
②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく
・講義中に出てきた調理器具を自宅及び店頭で確認しておく
【第6回】
①事前学習課題：・テキストに目を通しておく
・加熱調理操作（ゆでる・煮る・蒸す・炊く・加圧調理）に使う器具の種類や使い方を確認しておく
②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく
・講義中に出てきた調理機器を自宅及び店頭で確認しておく
【第7回】
①事前学習課題：・テキストに目を通しておく
・加熱調理操作（焼く・揚げる・炒める）に使う器具の種類や使い方を確認しておく
②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく
・講義中に出てきた食品を自宅及び店頭で確認しておく
【第8回】
①事前学習課題：・テキストに目を通しておく ・自宅にあれば、電子レンジや電磁調理器の操作方法などを確認しておく
②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく
・講義中に出てきた食品を自宅及び店頭で確認しておく
【第9回】
①事前学習課題：・テキストに目を通しておく
・自宅で使っている調味料の種類を調べておく
②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく
・講義中に出てきた食品を自宅及び店頭で確認しておく
【第10回】
①事前学習課題：・テキストに目を通しておく
・米・小麦粉・雑穀、およびそれらの加工品の種類を調べておく
②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく
・講義中に出てきた食品を自宅及び店頭で確認しておく
・2回目課題レポートに取り組む
【第11回】
①事前学習課題：・テキストに目を通しておく
・いも類・豆類、およびそれらの加工品の種類調べておく
②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく
・講義中に出てきた食品を自宅及び店頭で確認しておく
【第12回】
①事前学習課題：・テキストに目を通しておく
・食肉類・魚介類、およびそれらの加工品の種類を調べておく
②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく
・講義中に出てきた食品を自宅及び店頭で確認しておく
【第13回】
①事前学習課題：・テキストに目を通しておく
・卵類・牛乳・乳製品、およびそれらの加工品と野菜類の種類を調べておく
②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく
・講義中に出てきた食品を自宅及び店頭で確認しておく

【第14回】
①事前学習課題：・テキストに目を通しておく
・果物・きのこ類・藻類・種実類の種類を調べておく
②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく
・講義中に出てきた食品を自宅及び店頭で確認しておく
【第15回】
①事前学習課題：・テキストに目を通しておく
・ゲル化剤（寒天やゼラチン）の種類や特徴を調べておく
②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく
・講義中に出てきた食品を自宅及び店頭で確認しておく

課題に対するフィードバックの方法

小テストやアンケートの結果を分析し、解説を行います。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示すとおり、評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する
正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、「K」評価となる

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	小テスト（40：10×4）	1,2,3,4,5
授業外での評価	30	各回の課題・レポート（30）	1,2,3,4,5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	授業まとめレポート（30）	1,2,3,4,5
その他	0		

テキスト	イラスト調理科学（第2版）/ 東京教学社/2,860円（税込）/ISBM: 9784808261016
参考書	必要に応じて、授業中に紹介します
履修条件・他の科目との関連	本講義を通じて、食の大切さ、調理することの楽しさやおもしろさを伝えます。日頃から、食品や調理器具に関心をもち、できるだけ実際に触れ、調理し、食べることを心がけてください。

授業コード	22040901	授業形態	実習	実務家教員	ー
授業科目名	クッキングの基礎　［対面］				
シラバス執筆（全員）	西尾　幸子				
シラバス執筆（主）	西尾　幸子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

クッキングの基礎では、基礎的な調理技術と知識を身につけることを第一の目的とする。調理器具の衛生的な取り扱いや包丁の扱い方、素材の下処理から料理に仕上げるまでの基礎技術を実習を通して習得する。
また、配膳や食事のマナー、後片付けも学ぶとともに、食事の大切さと調理することの楽しさも体験します。

到達目標

1、食材の基本的な扱いができる。（計量、下処理、切り方など）
2、調理器具を適切に調理に活用できる。
3、基本的な調理操作ができる。（ゆでる、煮る、蒸す、炊く、焼く、炒める、揚げる）
4、盛り付け、配膳まで気を配り、調理することができる。

授業計画

【第1回】オリエンテーション・調理の基本及び献立
・調理実習を行うにあたっての心得や注意事項、衛生管理について
・授業の進め方　実習記録の取り方　成績評価について
・調理の基本及び献立について（講義）

【第2回】調理の基本・基本的な焼き菓子(1)
＜内容＞　・調理器具および調理台の扱い方、計量の仕方。
・焼き菓子（クッキー）の基本。
＜実習＞　・絞りだしクッキー

【第3回】基本的な調理（日本料理）
＜内容＞　・炊飯について
・包丁の種類と扱い方
・基本的な切り方①
＜実習＞　・白飯、刻み漬け、汁物

【第4回】基本的な調理（日本料理）
＜内容＞　・塩味ご飯
・だし汁の取り方（いりこだし）
・卵の調理①（焼く時の注意点とポイント）
・青菜の扱いと茹で方
・基本の盛つけと配膳について
＜実習＞　・枝豆ご飯、だし巻き卵、お浸し、みそ汁

【第5回】基本的な調理（西洋料理）
＜内容＞　・肉の調理①、フライパンの扱い方
・基本的な切り方②
・根菜、野菜の茹で方、コンソメについて
＜実習＞　・ハンバーグ、マッシュポテト、コンソメスープ

【第6回】基本的な調理（日本料理）
＜内容＞　・肉の調理②
・だし汁の取り方（混合だし）
・野菜の下処理、合わせ酢の種類と用途
＜実習＞　・白飯、鶏肉の照り焼き、酢のもの、かきたま汁

【第7回】基本的な調理操作（西洋料理）
＜内容＞　・魚の調理①（魚の種類と扱い方）
・ポタージュについて
・ゼラチンの扱い方
＜実習＞　・ムニエル、パンプキンスープ、コーヒーゼリー

【第8回】基本的な調理操作（中国料理）
＜内容＞　・炒め料理の基本（中華鍋の扱いと火加減）
・片栗粉によるとろみのつけ方
・魚介類の下処理（えび、いか）
・基本的な切り方③と飾り切り
＜実習＞　・しょうがご飯、八宝菜、中華和え、スープ

【第9回】基本的な調理操作（日本料理）
＜内容＞　・醤油味ご飯の種類と炊き方
・魚の調理②（煮物）
・基本的な切り方④、すり鉢の扱い方
＜実習＞　・炊き込みご飯、魚の煮つけ、ごま和え、さつま汁

【第10回】基本的な調理（西洋料理）
＜内容＞　・ホワイトソースの作り方と料理の種類
・卵の調理②（茹でる時のポイント）
・パスタの種類と用途
＜実習＞　・マカロニグラタン、ポーチドエッグサラダ、もち麦スープ

【第11回】基本的な調理（中国料理）
＜内容＞　・蒸し料理の基本（蒸し器の扱い方）
・焼売の包み方
・基本的な野菜の切り方⑤と飾り切り
＜実習＞　・肉焼売、涼拌三絲、中華風コーンスープ

【第12回】基本的な調理（日本料理）
＜内容＞　・寿司飯の作り方と具材の準備
・白玉粉の扱い方
・飾り切りの種類と切り方
＜実習＞　・散らし寿司、澄まし汁、白玉のデザート

【第13回】基本の調理確認テスト
＜内容＞　・基本的な調理技術確認テスト（実技テスト）
・基本の調理テスト（筆記小テスト）
＜実習＞　・型抜きクッキー

【第14回】クリスマス料理（西洋料理）
＜内容＞　・各国のクリスマス料理について
・クレープの生地と焼き方
＜実習＞　・鶏肉の白い煮込み、サラダ、クレープ

【第15回】授業のまとめ
＜内容＞　・基本の調理について
・調理技術確認テスト、小テストについて
＜実習＞　・軽食
・調理室の清掃

※　授業計画は、食材の入荷状況、実習の進行状況によって実習内容を一部変更する場合があります。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

授業(1回につき３時間として計算）と事前事後の合わせて１単位当たり45時間が必要です。
【事前学習】：配布した実習プリントを熟読し、分からないところは質問できるようにしておく。
【事後学習】：実習レポート（食材の特徴や学んだ調理上のポイント、感想や考察などを記録する）をまとめ完成させる。
：実習した献立を作る。

課題に対するフィードバックの方法

各回の実習レポート（実習記録）を点検、確認し、理解できていない箇所にコメントを記入して返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格点とし、所定の単位を認定する。

※正当な理由がなく欠席が5回を超えた場合は「K」評価となる。
※正当な理由がなく「定期試験に代わるレポート」を指定した期限までに提出しなかった場合は「K」評価となる。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	実習への取り組み姿勢、実習態度を評価(45) 班員との協力姿勢を評価(10) 調理技術確認テストの結果を評価(実技テスト、実習内での小テスト)(15)	1，2，3，4
授業外での評価	20	実習レポートの完成度を評価	1，2，3

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	課題レポートの結果を評価	1，2，3，4
その他	0		

テキスト	テキストを使用せず、プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・実習費は、別途徴収。 ・調理実習なので、身支度などの衛生面や実習前後の注意事項は守ってもらいます。 ・エプロン、三角巾（バンダナ可）、手拭き用のハンドタオルは各自で準備する。 ・グループ単位の実習です。他の班員に迷惑がかかるため、欠席・遅刻の無いようにしてください。 ・やむを得ず欠席した場合は、後日実習プリントを受け取ること。（欠席する場合は、担当教員までメール連絡する） ・授業の取り組み姿勢、班員との協力姿勢の評価を重視します。

授業コード	22041001	授業形態	実習	実務家教員	ー
授業科目名	スィーツの基礎　［対面］				
シラバス執筆(全員)	喜多野　宣子				
シラバス執筆(主)	喜多野　宣子				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的･概要

家庭にある調理器具を使用して、洋菓子を中心に、簡単な和菓子、中華菓子を作り、それに応じた飲みものや、テーブルセッティングを学び、家庭人として潤いのある生活を送るために、ティータイムの楽しみ方やおもてなしの心を習得する。

到達目標

１．食品を扱う際の衛生管理ができる。
２．食材の特徴を理解し、適切に扱うことができる。
３．製菓に必要な調理理論を理解し、実践（製菓調理）することができる。
４．レシピを読み解き、段取りを自身で考え目的とする製菓を作成することができる。
５．テーブルセッティングを実践することができる。

授業計画

【第1回】
テーマ：スィーツ実習をはじめるにあたって（第1回のみ実習室ではなく普通教室にて実施予定。教室は後日Googleクラスルーム等で連絡）
内容・方法：オリエンテーション、実習室の使用方法、調理器具の取り扱い、食品衛生について、手洗いの方法（スクラブ法）
【第2回】
テーマ：洋菓子の基本1
内容・方法：パンケーキ　　調理器具の扱い方、基本的な食材の扱い方について
【第3回】
テーマ：和菓子の基本1
内容・方法：フルーツ大福、どら焼き
【第4回】
テーマ：洋菓子の基本2
内容・方法：パウンドケーキ、スノーボールクッキー、紅茶の入れ方
【第5回】
テーマ：洋菓子の応用１（イーストを使用した菓子）、氷菓子
内容・方法：ベルギーワッフル、アイスクリーム、コーヒーの入れ方
【第6回】
テーマ：和菓子の基本2（小豆あんの扱い方、米粉の扱い方）
内容・方法：小倉カステラ、みたらし団子、緑茶のいれ方
【第7回】
テーマ：洋菓子の応用2（揚げ菓子、ゲル化菓子）
内容・方法：ドーナツ、オレンジグレープフルーツゼリー、アイスティー
【第8回】
テーマ：中華菓子の基本
内容・方法：杏仁豆腐、中華クッキー、マーラーカオ、中国茶の入れ方
【第9回】
テーマ：ゼラチンを使った洋菓子、
内容・方法：チーズケーキ、アレンジティー
【第10回】
テーマ：チョコレートを使った洋菓子
内容・方法：ブランデーチョコレートブラウニー、ホイップクリーム
【第11回】
テーマ：課題のお菓子制作（基本練習）
内容・方法：スポンジケーキ、プリン、デコレーションのデザイン画作成
【第12回】
テーマ：製パンの基本
内容・方法：発酵パン、紅茶
【第13回】
テーマ：和菓子と抹茶
内容・方法：桜餅、わらびもち、抹茶の立て方
【第14回】
テーマ：課題のお菓子制作（発表）
内容・方法：デコレーションケーキを制作し、発表する（各自）。
【第15回】
テーマ：アフタヌーンティー、清掃
内容・方法：テーブルセッティング、スコーン、焼き菓子、サンドウィッチ、紅茶

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

毎回につき 1.5 時間ほどの事前学習および3時間ほどの事後学習（自宅での調理、レポート作成）が必要である。
【第1回】
①事前学修課題：シラバスを熟読する。
②事後学修課題：実習した内容、ポイント、感想文などをレポートにまとめる。
【第2回】
①事前学修課題：小麦粉の種類、砂糖の種類について調べる。
②事後学修課題：実習した内容、ポイント、感想文などをレポートにまとめる。
【第3回】
①事前学修課題：和菓子の材料である米粉について調べる。
②事後学修課題：実習した内容、ポイント、感想文などをレポートにまとめる。
【第4回】
①事前学修課題：パウンドケーキ（カトルカール）の材料について調べる。
②事後学修課題：実習した内容、ポイント、感想文などをレポートにまとめる。
【第5回】
①事前学修課題：ワッフルの種類について調べる。市販されているアイスクリームの種類について調べる。
②事後学修課題：実習した内容、ポイント、感想文などをレポートにまとめる。
【第6回】
①事前学修課題：あんの種類について調べる。
②事後学修課題：実習した内容、ポイント、感想文などをレポートにまとめる。
【第7回】
①事前学修課題：揚げ油や揚げ菓子について調べる。
②事後学修課題：実習した内容、ポイント、感想文などをレポートにまとめる。
【第8回】
①事前学修課題：中華菓子に使用する食材について調べる。中国茶の種類について調べる。
②事後学修課題：実習した内容、ポイント、感想文などをレポートにまとめる。
【第9回】
①事前学修課題：チーズの種類や調理法について調べる。
②事後学修課題：実習した内容、ポイント、感想文などをレポートにまとめる。
【第10回】
①事前学修課題：チョコレートの性質について調べる。
②事後学修課題：実習した内容、ポイント、感想文などをレポートにまとめる。
【第11回】
①事前学修課題：スポンジケーキの製法と理論について調べる。
②事後学修課題：実習した内容、ポイント、感想文などをレポートにまとめる。
【第12回】
①事前学修課題：発酵パンの理論について調べる。
②事後学修課題：実習した内容、ポイント、感想文などをレポートにまとめる。
【第13回】
①事前学修課題：季節の和菓子について調べる。茶道の基本的な所作について調べる。
②事後学修課題：実習した内容、ポイント、感想文などをレポートにまとめる。
【第14回】
①事前学修課題：作り方について復習しておく。
②事後学修課題：実習した内容、ポイント、感想文などをレポートにまとめる。
【第15回】
①事前学修課題：アフタヌーンティーについて調べる。紅茶の種類について調べる。
②事後学修課題：実習した内容、ポイント、感想文などをレポートにまとめる。

課題に対するフィードバックの方法

オンラインでのレポート返却時にフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。
●以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する

実習時に取り組む態度、実習前後の準備や後片付け、振り返りレポート課題の提出および最終課題（規定課題の製菓作成）によって評価する。
６０点以上を合格とし所定の単位を認定する。
正当な理由なく6 回以上欠席した場合は「K」評価とする。
正当な理由なくテスト実習回および１５回目の実習に欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	実習（事前準備および後片付けも含む）に取り組む態度（30） 実習時間内または期限内に作品（製菓）を仕上げることができる（10） 最終規定課題の制作（30）	1,2,3,4,5
授業外での評価	15	課題レポートの提出（15）	3、4

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	期末レポート課題 （15）	１、２、３、４
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 プリントを配布する。
参考書	適宜紹介する。
履修条件・他の科目との関連	★授業の取り組み・手際を重視します。 ★実習費別途徴収（9000円予定）。実習内容は変更になることがあります。 ★白衣または割烹着などの長袖のもの（エプロン不可）、帽子または頭全体を覆える大きさの三角巾（バンダナ）を各自準備すること。 ★やむを得ず欠席した場合は、後日実習のプリントを受け取り、欠席回の課題レポートを提出していただくことがあります。プリントはGoogleクラスルーム等に掲示する予定です。 ★第14回および15回の実習について：課題のお菓子製作回および最終回の実習室清掃に公欠以外の理由での欠席や無断欠席した場合、単位を認めません。 ★諸事情により菓子の種類および実習回等が変更となる場合があります。 ★実習では小麦、乳製品、卵、ナッツ類を頻回使用することを了承の上受講してください。食物アレルギーの対応等は受講生個人の責任のもと実習にのぞんで下さい。

授業コード	22045801	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	カラーコーディネート　［対面］				
シラバス執筆(全員)	加藤　由佳里				
シラバス執筆(主)	加藤　由佳里				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

現代社会は、色で溢れている。色は心や身体に大きな影響を与えるものであることから、個人の装いはもとより、医療、ビジネスの世界でも重要視されている。この授業では、色の知識を基礎から応用まで概説する。
色は単なる感覚、感性で成り立つものではなく、理論が確立されている。その色の基礎的な知識を得ることによって社会人として、家庭人として、社会や家庭生活の中で応用できるよう、また、将来、色彩やカラーコーディネートの分野で活躍したい人にも役立つよう実務家教員としてカラーコーディネート業務に従事した経験をもとに授業を展開する。
授業形態は、主として講義であるが、課題や配色分析などの実習を通して、色に関する情報収集、分析、整理についても言及する。

到達目標

１．色に関する基本的な事柄を説明できる。
２．色の知識を使って、配色に応用できる。
３．社会人として、家庭人として、適切なカラーコーディネートができる。

授業計画

【第1回】オリエンテーション（色のはたらき）
　　色の表し方１（色の名前）
【第2回】光と色（なぜ色が見えるのか・眼のしくみ・照明と色の見え方・混色）
【第3回】色の表し方２（色の分類）
【第4回】色の表し方３（PCCSの色相・明度・彩度）
【第5回】色の表し方４（PCCSのトーン）
【第6回】【第１回】～【第５回】の復習と実習〈１〉
【第7回】色がもたらす心理的作用（色と心理・視覚効果）
【第8回】配色の調和１（配色の基本・色相からの配色）
【第9回】配色の調和２（トーンからの配色・配色のテクニック）と配色のイメージ（色の３属性と配色イメージ）
【第10回】【第７回】～【第９回】の復習と実習〈２〉
【第11回】ファッションの中の色彩
【第12回】配色分析の実習
【第13回】インテリアの中の色彩
【第14回】配色分析実習作品の解説と講評
【第15回】まとめ
※受講人数により、計画の変更があり得る

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習は、該当回のテキストに目を通しておくことである。（各回１.5時間）
事後学習は、毎回の授業内容を復習し、十分に理解したうえで、必ず、次回までに必要事項を覚えてくること。
また、実習課題は期限内に仕上げておくことである。（各回2.5時間）
それらを怠ると、次回以降の授業内容が理解できなくなる。

課題に対するフィードバックの方法

課題や実習については、 講義終了時もしくは、提出期限までにGoogle Classroomに提出してもらい、コメント欄を使いながらフィードバックを行うとともに疑問点が残らないよう授業内で解説、講評する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。
●配色分析課題の未提出、定期試験の未受験も「K」評価とする。
●以下に示す評価方法により総合的に判定の上、６０点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	課題(12回を予定)(各2)、実習作品<1・2>の達成度(各6)、配色分析実習の達成度(24)	1, 2, 3

授業外での評価	0		
定期試験	40	筆記試験	1, 2
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	1. 最短合格！色彩検定3級　出る順テキスト＆問題集、カラボ色大学、（株）ナツメ社、1,500円＋税、ISBN 978-4-8163-6870-7 2. ファッション＆ビューティーの色彩、大関徹・田原二美・高田葉子、日本色研事業（株）、1,000円＋税、ISBN 978-4-907564-19-3 ※　2については、在庫のある書店が少ない書籍であるため、学内書店での購入が望ましい。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	●実習が含まれるので、のり、はさみ、定規などの文房具、および実習材料を必要に応じて準備すること。

授業コード	22040201	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	フィットネス　［対面］				
シラバス執筆（全員）	殿谷　成子				
シラバス執筆（主）	殿谷　成子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

自らの健康維持増進のために、生活の中に適度な運動を取り入れることが必要です。日常生活の中に運動を取り入れて、身体も心もリフレッシュしましょう。少し意識して身体を動かすだけで、身体だけでなく心や脳の働きにも良い影響があります。まずは正しい姿勢や美しい歩き方を身につけましょう。仲間と一緒に楽しく汗をかきましょう。日常生活でできる簡単な運動を紹介します。授業は実技を中心に行い、健康の大切さを説明し、運動の方法を解説します。

到達目標

1. 良い姿勢を意識し、美しく歩くことができる
2. 自らの健康づくりに関心を持ち、基礎体力の向上に努める
3. 音楽に合わせて軽やかに動くことができる

授業計画

【第1回】
テーマ：オリエンテーションとストレッチ
内容・方法：筋肉や関節を伸ばして、身体をほぐす
【第2回】
テーマ：エアロビックダンス１
内容・方法：リズムに乗って楽しく動く
【第3回】
テーマ：エアロビックダンス２
内容・方法：リズムに乗って楽しく動く
【第4回】
テーマ：エクササイズウォーキング
内容・方法：有酸素運動となる効果的なウォーキングを学ぶ
【第5回】
テーマ：姿勢を美しく
内容・方法：美しい姿勢を身につけるためのトレーニング
【第6回】
テーマ：学外ウォーキング
内容・方法：屋外の空気に触れ、大学周辺の景色を楽しみながら歩く（雨天順延）
【第7回】
テーマ：レクリエーション　ゲーム
内容・方法：コミュニケーションを楽しみながら身体を動かす
【第8回】
テーマ：ジャズダンスの基礎1
内容・方法：アイソレーション（部位運動）　アフタービートの音をとる
【第9回】
テーマ：ジャズダンスの基礎2
内容・方法：簡単なステップ
【第10回】
テーマ：ウォーキングの復習
内容・方法：良い姿勢で美しく歩く
【第11回】
テーマ：ウォーキングのスキルテスト
内容・方法：美しく自分らしく歩く
【第12回】
テーマ：クラシックバレエの基礎　フロアーレッスン
内容・方法：日常生活の立ち振る舞いが美しくなるように全身を意識して動かせる
【第13回】
テーマ：簡単な体力テスト　ダンスステップのテスト
内容・方法：自分の体力を知る　リズミカルに動く
【第14回】
テーマ：エアロビックダンス3
内容・方法：リズムに乗って楽しく動く
【第15回】
テーマ：タオルを使って
内容・方法：身近にあるタオルを使ってストレッチを行う

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

すべての回において、事前学習として、健康づくりについて知識を得る学習を1時間以上、事後学習として、学んだことを日常生活に取り入れることをを３時間以上行う。

課題に対するフィードバックの方法

本人から希望があれば、具体的な点数を伝えて、どのような基準で採点したかを説明する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。
---
1. 以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし所定の単位を認定する
受講態度：授業への取り組み姿勢を評価
ウォーキングのスキルテスト：良い姿勢で美しく歩けているかを評価
簡単な体力テスト：体力テストの判定基準に従う
ダンスステップのテスト：音楽に合わせて軽やかに動けているかを評価
レポート：健康づくりについて、自分の考えを含め、記述できているかを評価
2. 評価不能「K」について、成績評価対象は欠席5回までとする。欠席5回を越えた、遅刻、早退、および欠席はK評価とする

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への取り組み姿勢（60） ウォーキングのスキルテスト（10） 簡単な体力テスト（10） ダンスステップのテスト（10）	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポートの完成度を評価	2
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	体操服・運動靴、あるいはダンスウェア・ダンスシューズを着用すること。 美しくなりたいという意識を持って授業に参加すること。 欠席した場合は、授業中に行った連絡について、友人に自分から聞いて確認すること。

授業コード	22040202	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	フィットネス　［対面］				
シラバス執筆(全員)	本山　彩乃				
シラバス執筆(主)	本山　彩乃				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

自らの健康維持増進のために、運動習慣を身につけることが必要である。
日常生活の中にさまざまな運動を取り入れて、身体や心の変化を深め、基本的な技術を説明する。

到達目標

1.ストレッチや運動を通して自らの身体を理解する
2.運動を通して基礎体力の向上し実行できる
3.仲間とコミュニケーションをとり、互いの表現を判断できる
4.音楽に合わせてリズミカルに動くことができる

授業計画

【第1回】オリエンテーション
授業の概要確認とストレッチ

【第2回】ストレッチと姿勢
心身の緊張をほぐして、自らの身体を知り、向き合う

【第3回】正しい姿勢とウォーキング
正しい姿勢と歩き方を習得する

【第4回】フィットネスエクササイズ①（エアロビックダンス）
音楽に合わせて動き、基礎体力の向上に努める

【第5回】フィットネスエクササイズ②（エアロビックダンス）
音楽に合わせて動き、基礎体力の向上に努める

【第6回】現代的なリズムダンスの基礎（アイソレーション・リズムトレーニング）
現代的リズムダンスに必要な基礎を練習、習得し動きを知る

【第7回】現代的なリズムダンス（HIPHOP）
様々なステップを知り、組み合わせて楽しく踊る

【第8回】現代的なリズムダンス（HIPHOP）
様々なステップを知り、組み合わせて楽しく踊る

【第9回】現代的なリズムダンス（HIPHOP）
身体を動かしながらグループ毎にステップを組み合わせ、仲間とコミュニケーションを取る

【第10回】現代的なリズムダンス（JAZZ）
様々な動きを練習習得し、グループ毎にリズムに乗って楽しく踊る

【第11回】現代的なリズムのダンス（JAZZ）
様々な動きを練習習得し、グループ毎にリズムに乗って楽しく踊る

【第12回】現代的なリズムのダンス（JAZZ）
身体を動かしながらグループ毎に動きを組み合わせ、仲間とコミュニケーションを取る

【第13回】創作
今まで習ってきたものなどを組み合わせ、グループ毎に音楽を選び創作する

【第14回】創作
創作したものをさらに完成度を上げて、発表に持っていけるようにする

【第15回】テスト
それぞれのグループで、みんなの前で発表する

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。
各回に通じて、

【事前】健康な身体作りについて必要な知識を得る学習をしておく。
【事後】学んだことを日常生活に取り入れる。

課題に対するフィードバックの方法

本人から希望があれば、動きをチェックすることや評価を開示することが可能

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、６０点以上を合格とし所定の単位を認定する
欠席が授業回数2/3以上の場合は評価対象外とする
授業開始後30分以降は欠席扱いとする

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	授業に取り組む姿勢（30） 各課題への取り組み姿勢（50）	1.2.3
授業外での評価	10	提出物（10）	1.2.3.4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	理論課題レポート（10）	1.2
その他	0		

テキスト	テキストなし
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	運動に相応しい服装、室内靴を着用すること。

授業コード	22041201	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	住まいと生活　［対面］				
シラバス執筆(全員)	郭　ヤウェン				
シラバス執筆(主)	郭　ヤウェン				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

住まいは地域の自然や歴史、生活様式、文化、慣習などを色濃く反映したものである。生活する時代や社会、また個人の価値観や生活スタイルの影響も受けている。現代のあふれる情報のなかで、また多様な生活様式がある中で、様々な要求に柔軟に対応し得る住まいが求められている。人々の生活と切り離すことが出来ない住まいのことを深く知ることで生活はより豊かなものとなる。本講義では、建物としての住まいだけでなく、そのなかで繰り広げられる日々のくらしについても関心を高め、生活する居住者の立場に立って住まいを見直し、住まいの本質について概説する。時代、気候風土、日本や欧米、アジア等の各地域による住まいの違い等、プリント資料と映像などを用いて説明を行い、様々な角度から住まいと生活について学ぶ。

到達目標

1、住まいや生活にとって本当の豊かさとは何か自分の考えを述べることができる。
2、時代、地域、気候風土、生活文化、価値観など様々なことが住まいに影響していることについて説明できる。
3、日本や海外の各地域による住まいの違いから住まいと生活の多様性について説明できる。
4、「住まいとは何か」について自分の考えを述べることができる

授業計画

第1回：住まいとは何か
内容･方法：住まいの多様化する機能について学ぶ。
第2回：日本の住まいの変遷１
内容･方法：時代とともに移り変わる日本の住まいについて学ぶ。
第3回：日本の住まいの変遷２
内容･方法：オモテとオク、中廊下型住宅、和洋折衷住宅について学ぶ。
第4回：日本の住まいの変遷３
内容･方法：生活改善運動、イス座とユカ座、食寝分離論について学ぶ。
第5回：日本の住まいの変遷４
内容･方法：モダンリビング、ダイニングキッチンの登場について学ぶ。
第6回：日本の住まいの変遷５
内容･方法：標準設計、nLDK型住宅について学ぶ。
第7回：日本の住まいと生活
内容･方法：日本の各地域による住まいと生活の違いを学ぶ。
第8回：海外の住まいと生活１
内容･方法：欧米の住まい、風土による住まいと生活の違いについて学ぶ。
第9回：海外の住まいと生活２
内容･方法：アジアの住まい、風土による住まいと生活の違いについて学ぶ。
第10回：海外の住まいと生活３
内容･方法：その他の地域の住まいと生活について学ぶ。
第11回：環境共生のすまい
内容･方法：自然環境を取り入れた住まいについて学ぶ。
第12回：近代建築家の住まい１（1900年代）
内容･方法：建築家の設計した住まいについて学ぶ。
第13回：近代建築家の住まい２（1900年代）
内容･方法：建築家の設計した住まいについて学ぶ。
第14回：現代建築家の住まい（2000年代）
内容･方法：建築家の設計した住まいについて学ぶ
第15回：住まいのインテリア
内容･方法：内装、家具、照明などについて学ぶ。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。
第1回
事前学習課題：住まいに自分が最も求めるものは何か考えておいてください。
事後学習課題：授業レジメで復習する。
第2回
事前学習課題：人はどんな住まいで暮らしてきたのか調べておいてください。
事後学習課題：授業参考資料等で復習する。
第3回
事前学習課題：日本のオモテとオク、中廊下型住宅、和洋折衷住宅について調べておいてください。
事後学習課題：授業参考資料等で復習する。

第4回
事前学習課題：生活改善運動、イス座とユカ座、食寝分離論について調べておいてください。
事後学習課題：授業参考資料等で復習する。
第5回
事前学習課題：モダンリビング、ダイニングキッチンについて調べておいてください。
事後学習課題：授業参考資料等で復習する。
第6回
事前学習課題：標準設計、nLDK型住宅について調べておいてください。
事後学習課題：授業参考資料等で復習する。
第7回
事前学習課題：日本の地域の住まいについて調べておいてください。
事後学習課題：授業参考資料等で復習する。
第8回
事前学習課題：欧米の地域の住まいについて調べておいてください。
事後学習課題：授業参考資料等で復習する。
第9回
事前学習課題：アジアの地域の住まいについて調べておいてください。
事後学習課題：授業参考資料等で復習する。
第10回
事前学習課題：欧米とアジアの以外の地域の住まいについて調べておいてください。
事後学習課題：授業参考資料等で復習する。
第11回
事前学習課題：環境共生の住まいとはなにか事前に調べておいてください。
事後学習課題：授業参考資料等で復習する。
第12回
事前学習課題：近代の建築家（1900年代）について調べておいてください。
事後学習課題：授業参考資料等で復習する。
第13回
事前学習課題：近代の建築家（1900年代）の設計した住まいについて調べておいてください。
事後学習課題：授業参考資料等で復習する。
第14回
事前学習課題：現代の建築家（2000年代）の設計した住まいについて調べておいてください。
事後学習課題：授業参考資料等で復習する。
第15回
事前学習課題：色は人に大きく影響を与えますが、照明や家具はどうでしょう。調べておいてください。
事後学習課題：授業参考資料等で復習する。

事前1.5時間、事後2.5時間（15×4＝60時間）合計60時間

課題に対するフィードバックの方法

レポート、感想コメント提出期限後、授業内で講評・解説し、教員コメントをフィードバックする。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
授業内容、課題文に対する感想コメント、授業に関する発言、事前事後学習への取組みにて理解度評価。小レポート課題（1回）にて問題意識評価。最終レポート課題にて総合的評価。
また、正当な理由なく、2/3以上（15回中10回）の出席がない場合は「Ｋ」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内容感想コメント(30)、授業に関する発言、事前事後学習への取組み(20)	2、3
授業外での評価	20	レポート課題(1回)	1
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	最終レポート課題	4
その他	0		

テキスト	授業時に適宜レジメ、参考資料等配布予定
参考書	授業時に適宜紹介
履修条件・他の科目との関連	講義で紹介したスライドなどを授業後にクラスルームに公開しますので復習などに役立ててください。授業後半に学外見学を実施し、見学先と日程は授業中に調整する。参加が前提となり、活動することが可能かどうか、十分留意して受講してください。見学料と交通費は自己負担とする。

授業コード	22041601	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	防災と生活　［対面］				
シラバス執筆(全員)	諏訪　清二				
シラバス執筆(主)	諏訪　清二				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的･概要

日本は災害大国である。自然災害に対しては極めて脆弱な国である。ところが市民感覚は、「私は災害に遭わない」「災害に遭ったとしても自分は助かる」といった認識レベルでとどまっている。災害発生後のマスコミのインタビューでは「まさか自分が災害に遭うなんて」という発言がいつも繰り返される。
　阪神・淡路大震災(1995)や東日本大震災(2011)の被災地では、多くの悲劇が発生し、災害からの復旧・復興に多大な努力が注ぎ込まれたが、その事実が日本全国の市民レベルで共有されているとは言えない。
　本講義では、災害時に生き残り（Survivorとなるための防災教育）、他者を支援し（Supporterとなるための防災教育）、何より日常をゆたかに生き、その結果、災害時に生き延びることができ、被災者を支援できる人となる(市民力を育む防災教育)を中心に、災害との向き合い方を考える。
　大阪北部地震など地域災害も取り上げながら、ハザードの理解、災害への備え、正しい対応といった狭義の防災（ミニマム・エッセンシャルズ）から、自然・人・社会との向き合い、災害体験の語り継ぎといった「広義の防災」にも学びを広げる。また、同世代の若者がどのように災害と向き合っているかを全国の実践から学び、災害を生き延びる姿勢を中心に、災害ボランティアに関心を持つ学生、災害を中心に福祉や教育、ボランティアなど、さまざま生分野で災害と向き合える学生を育成することを目指す。
　学生が専攻するライフデザイン、栄養と防災との関連も考察する。

到達目標

到達目標
履修学生は以下の目標に到達することを期待される。
１．災害を発生させるメカニズムを理解し、説明できる。
２．ハザード別に、正しい備えの方法を理解し、実行できる。
３．ハザード別に、災害発生時の正しい対応の仕方を理解し、説明できる。
４．災害体験の語り継ぎを読み(聞き)、災害のシーンに自分を重ねて考え、自分ならどう行動するかを説明できる。
５．自然・人・社会と災害の関係性を広い視点でとらえ、説明できる。
６．学びを通して、災害への備え、災害ボランティアなど、実際のアクションを起こす。

授業計画

【第1回】
　オリエンテーション　阪神・淡路大震災の語り継ぎ①：起こった事実、教訓
【第2回】
　阪神・淡路大震災の語り継ぎ②：こどもたちが体験した震災（DVD、作文）
【第3回】
　東日本大震災の語り継ぎ①：起こった事実、教訓
【第4回】
　東日本大震災の語り継ぎ②：子どもたちの体験「16歳の語り部」
【第5回】
　能登半島地震の課題
【第6回】
　災害の基本：ハザードの理解、災害対応、社会背景と私たちにできること　小テスト①
【第7回】
　ワークショップ①：一日前プロジェクト　明日災害が起こる　今日何をする？
【第8回】
　災害ボランティアを考える
【第9回】
　南海トラフ巨大地震と各地の防災教育、防災体制
【第10回】
　気象災害を考える　近年の水害の事実と教訓
【第11回】
　これから日本を襲う災害　首都直下地震　南海トラフ巨大地震と津波　各地の水害　富士山の噴火　日本は大丈夫なのか　小テスト②
【第12回】
　海外の被災地支援　ネパール地震　中国・四川大地震　インド洋大津波
【第13回】
　ライフデザイン、栄養と災害
【第14回】
　ワークショップ②：時系列ワークショップ「災害発生！どうする？」
【第15回】
　総括　災害多発国日本で、どう生きていくか　小テスト③

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。
事前にGoogle Classroomで配布される資料を読み、関連する分野の書籍で予習しておくこと。事後には質問があれば問い合わせ、かつ、自分で回答を探していく姿勢が必要である。
事前1時間、事後2時間
　別途小テストの勉強5時間、レポート作成10時間
　　（3時間×15回＋5時間＋10時間＝60時間）

課題に対するフィードバックの方法

毎時間、最後に小レポートを書いてもらう。疑問点などを記入してもらえれば、次回の講義の冒頭に回答する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく5回をこえて授業に欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	毎時の小レポート　30% 小テスト　30%	1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	期末レポート	4, 5, 6
その他	0		

テキスト	なし 授業ごとに資料を配布する。
参考書	「高校生、災害と向き合う」(岩波書店) 「夢みる防災教育」(晃洋書房) 「防災教育の不思議な力」(岩波書店) 「16歳の語り部」(ポプラ社) 「図解でわかる　14歳からの自然災害と防災」(太田出版)
履修条件・他の科目との関連	出席を重視し、点数化する。つまり、欠席は減点となる。欠席、遅刻などはしないこと。既定の時数を出席しなければ履修は認めない。

授業コード	22040101	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	育児学　［対面］				
シラバス執筆（全員）	松井　妙実				
シラバス執筆（主）	松井　妙実				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

乳幼児期は成長・発達の著しい時期であるため、日常の育児の在り方が乳幼児の心身の発達に大きな影響を与える。本講義では、将来の育児に役立つよう、乳幼児期の成長・発達の特徴を概説すると共に成長・発達に応じた乳幼児の対応や支援について説明し、「親準備性」を身につけ乳幼児の育児ができる基礎力を育成する。

到達目標

１．乳幼児の成長・発達の特徴について説明できるようになる。
２．乳幼児の日常生活習慣の自立に向けての支援について説明できるようになる。
３．乳幼児期に罹患しやすい疾患の特徴と早期発見・予防について説明できるようになる。
４．救急時の対応や事故防止、安全管理の実際について説明できるようになる。

授業計画

【第１回】オリエンテーション
【第２回】妊娠と出産
【第３回】乳幼児を取り巻く環境
【第４回】乳児の成長・発達（新生児～6か月）
【第５回】乳児の成長・発達（7～12か月）
【第６回】幼児の成長・発達（１歳～５歳）
【第７回】乳幼児の基本的生活習慣の形成（食事・排泄・睡眠）
【第８回】乳幼児の基本的生活習慣の形成（清潔・衣服の着脱・遊び）
【第９回】乳幼児に罹患しやすい疾患とホームケア（発熱・腹痛・頭痛・下痢・嘔吐・咳嗽）
【第10回】乳幼児に罹患しやすい疾患とホームケア（発疹・痙攣・感染症）
【第11回】乳幼児の事故の特徴と事故予防対策
【第12回】乳幼児の事故防止と救急処置（溺水・熱傷・外傷・誤飲・熱中症）
【第13回】乳幼児の事故防止と救急処置（心肺蘇生法・ＡＥＤの使用方法）
【第14回】乳幼児健診と予防接種
【第15回】まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

第１回
【事前】シラバスを確認し、授業構成を理解する。1.0時間
【事後】自分が幼児期に両親からしてもらってうれしかった出来事について、ノートに記述する。2.0時間
第２回
【事前】今までに学習した妊娠についての知識をまとめ、ノートに記述する。2.5時間
【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第３回
【事前】乳幼児に関連した最近のニュースを見つけ、そのニュースについての感想をノートに記述する。2.5時間
【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第４回
【事前】新生児の特徴について調べ、ノートに記述する。2.5時間
【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第５回
【事前】1歳児の特徴について調べ、ノートに記述する。2.5時間
【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第６回
【事前】2歳児の特徴について調べ、ノートに記述する。2.5時間
【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第７回
【事前】乳幼児の食事について調べ、ノートに記述する。2.5時間
【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第８回
【事前】乳幼児の衣服について調べ、レポートを作成する。2.5時間
【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第９回
【事前】乳幼児の発熱がみられる疾患について調べ、ノートに記述する。2.5時間
【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第10回
【事前】乳幼児の発疹がみられる疾患について調べ、ノートに記述する。2.5時間
【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間

第11回
【事前】乳幼児の事故について調べ、ノートに記述する。2.5時間
【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第11回
【事前】乳幼児の事故を防止する対策について考え、ノートに記述する。2.5時間
【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第12回
【事前】最近のニュースで最近の乳幼児の事故の記事を探し、感想をノートに記述する。2.5時間
【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第13回
【事前】今まで学習した心肺蘇生法について想起し、ノートに記述する。2.5時間
【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第14回
【事前】予防接種の種類について調べ、ノートに記述する。2.5時間
【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第15回
【事前】授業資料、ノートを用いて復習し、不明な点について質問できるように準備する。2.5時間
【事後】授業資料、ノートをまとめる。2.5時間

課題に対するフィードバックの方法

実施したレポート、課題について採点し、評価結果については開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す通り、授業中に実施する課題・レポートと定期試験(レポート)の評価結果に基づき評価し、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由のない欠席６回以上、課題・定期試験に代わるレポートが未提出な場合は評価対象外とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業内で課される課題(30) 毎回の授業終了時に記述する受講レポート(40)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全講義終了後に実施する定期試験に代わるレポート課題(30)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	最新初めての育児新百科、高橋孝雄監修、ベネッセコーポレーション、14540円、ISBN-978-8288-7167-7 資料として、Google Classroom を通じて授業資料を適宜配布する。
参考書	必要に応じて、授業中に紹介する。
履修条件・他の科目との関連	日頃から乳幼児に関するニュースや育児雑誌を見て情報を得ておくことが望ましい。 正当な理由のない6回以上の欠席は評価対象外とする。 Goggle Classroom のクラスコードは開講までに UNIPA を通じて掲示するので、開講が近づいたら確認しておくこと。 第１回の講義に必ず出席して講義の進め方に関する注意事項を確認すること。

授業コード	22049701	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	子どもの発達論　［対面］				
シラバス執筆（全員）	雨堤　優介				
シラバス執筆（主）	雨堤　優介				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

子育てや教育において子どもの発達や学習の仕組みについての知識は重要である。心理学、とりわけ発達心理学や教育心理学の分野で各発達段階での子どもの発達や課題に関する知見が蓄積されている。各発達段階の子どもがどういった能力を発達させるのかを大人が知っていれば適切な時期に、妥当な方法で子どもの背中を押すことができる。そのため心理学で蓄積されてきた発達論は子どもを教育する際に役立つといえる。一方で人間には個人差があり、平均的な子どもを想定した理論のみで子どもを理解するには不十分である。発達のばらつき、つまり個人差は子どもの生まれもった特性や置かれた環境によって生まれる。子どもの個人差への気づきや個人差を理解しようとする姿勢は子どもを支援する際に役立つといえる。
本講義では、各発達段階の子どもの特徴や各発達段階で子どもが抱えやすい課題に関わる発達心理学・教育心理学の基礎的な知見について紹介する。フリースクール等での発達支援の経験をもとに、実務家教員として不適応に陥った子どもの心理やその子への支援についても適宜解説していく。授業はパワーポイントと配布資料を用いて講義形式で行う。

到達目標

１．各発達段階の子どもの特徴を説明できる。
２．各発達段階の子どもが抱えやすい課題について説明できる。
３．心理学の基礎的な知識を基に子どもに対する望ましい関わり方について考えることができる。

授業計画

第1回オリエンテーション：本講義について概説する。
第2回発達とは：人間の発達に関する基本的な考え方について説明する。
第3回認知発達①：ピアジェの認知発達段階を中心に子どもの認知発達について説明する。
第4回認知発達②：記憶の発達を中心に子どもの認知発達について説明する。
第5回社会性の発達①：愛着理論を中心に子どもの社会性の発達について説明する。
第6回社会性の発達②：仲間関係を中心に子どもの社会性の発達について説明する。
第7回パーソナリティ発達：人間のパーソナリティ発達について説明する。
第8回適応と不適応：欲求や葛藤を中心に人間の個人内および環境への適応、不適応について説明する。
第9回学習：学習理論について説明する。
第10回動機づけ：動機づけの諸理論について説明する。
第11回乳幼児期の発達：これまでの内容を踏まえながら乳幼児期の発達について説明する。
第12回児童期の発達：これまでの内容を踏まえながら児童期の発達について説明する。
第13回青年期の発達：これまでの内容を踏まえながら青年期の発達について概説する。
第14回発達障害：発達障害について説明する。
第15回子どもの発達とは：これまで学んだ知識の確認と振り返りを行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

第1回
事前：シラバスを読み、本講義の目的・概要や評価方法について理解する。(1時間)
事後：子どもの発達・教育に関するニュース等で気になったことをメモにまとめる。（１時間）
第2回
事前：発達という言葉の意味を自分なりに考えメモしておく。(2時間)
事後：学んだことを踏まえて自分なりの発達観を文章にまとめる。(2時間)
第3回
事前：これまでの経験で気になった赤ちゃんや幼児の行動をメモしておく。(2時間)
事後：自身の幼少期や周囲の乳幼児の行動を振り返り文章にまとめる。(2時間)
第4回
事前：記憶に関して自分の関心事をみつけ、メモしておく。(2時間)
事後：自身の記憶活動について振り返り、自身の記憶活動の特徴を文章にまとめる。(2時間)
第5回
事前：自身の周囲やメディアから子育てに関する情報を集めメモしておく。(2時間)
事後：学んだことを踏まえて発達における愛着の役割についてまとめる。(2時間)
第6回
事前：今までの友達関係や最近の子どもの友達関係で気になったことをメモしておく。(2時間)
事後：学んだことを踏まえて自身や現代の子どもの友達関係について文章にまとめる。(2時間)
第7回
事前：自身で考える自分らしさについて文章にまとめる。(2時間)
事後：学んだことを踏まえて個性をいかに育てるかについて文章にまとめる。(2時間)
第8回
事前：現実の生活で「上手に過ごす」とは何か自身の考えを文章にまとめる。(2時間)

事後：学んだことを踏まえて適応的に過ごすとは何か考えて文章にまとめる。(2時間)
第9回
事前：今まで経験してきた学校での勉強や部活等の練習の仕方について文章にまとめる。(2時間)
事後：学んだことを踏まえて自身の生活に学習理論できるかを考え、文章にまとめる。(2時間)
第10回
事前：どうやったら子どもにやる気を出させるかを考え、文章にまとめる。(2時間)
事後：学んだことを踏まえて自身や他者の動機づけのコントロールについて考えて文章にまとめる。(2時間)
第11回
事前：自身や周囲の赤ちゃんや幼児の生活を振り返り、気になったことをメモしておく。(2時間)
事後：学んだことを踏まえて赤ちゃんや幼児への望ましい関わりを考え、文章にまとめる。(2時間)
第12回
事前：自身や周囲の小学校の生活を振り返り、気になったことをメモしておく。(2時間)
事後：学んだことを踏まえて児童への望ましい関わりを考え、文章にまとめる。(2時間)
第13回
事前：自身や周囲の中学校・高校・現在の生活を振り返り、気になったことをメモしておく。(2時間)
事後：学んだことを踏まえて大人になるとは何か考え、文章にまとめる。(2時間)
第14回
事前：発達障害について書籍やインターネットで調べ、気になったことをメモしておく。(2時間)
事後：学んだことを踏まえて発達障害をもつ人への関わり方について文章にまとめる。(2時間)
第15回
事前：これまでの授業内容を思い返し、学んだ知識を文章にまとめる。(3時間)
事後：学んだことを踏まえて、子どもの発達にとって大事なことや問題を抱えた子どもへの望ましい関わり方について文章にまとめる。(3時間)

課題に対するフィードバックの方法

各回に行う小レポートに関しては、次回講義の冒頭にフィードバックの時間を設ける。小テストやレポート課題に関しては採点後、希望者に開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示すとおり、各授業後に実施される学習内容を確認する小レポート、授業期間中に実施される小テスト、授業期間終了後に実施される習熟度を確認するためのレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席が10回に満たない場合、小テストが２回以上未提出の場合、授業期間後に実施するレポートの提出がない場合は評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	各授業終了後に提出する小レポート(30)、第6回・第11回・第15回授業に実施する小テスト課題(45)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	学習した内容の習熟度を確認するためのレポートを課す	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	授業に対する積極的な姿勢(メモを取る、各授業後に行う小レポートでの質問等)、授業を妨げるような行為をしないことを求める。

授業コード	22030101	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	心理学　［対面］				
シラバス執筆(全員)	森上　幸夫				
シラバス執筆(主)	森上　幸夫				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的･概要

心理学は人間の行動や経験といった心の働きに関する多種多様な知見を体系化してきた。それは心理学的概念としてあらわされたり、また心理学的理論として記述されたりしている。その概念や理論は人間の行動や経験を一般化して、「人間とは何か」という問に対する一定の回答を提示してきたと言えよう。本講義では、自分や他者の心理を理解するために、人間の心の働きを「記述する」ことと「説明する」ことが目的である。
講義はパワーポイントによるプレゼン形式で行い、文字情報および静止画・動画の資料などを提示しながらすすめていく。

到達目標

1. 人間の心の働きを記述することができる
2. 人間の心の働きを説明することができる

授業計画

第1回　授業オリエンテーション
本科目の目的と概要、授業ノートの構成について述べる
第2回　自己の心理1：自己への意識
自己意識理論にもとづく私的側面と公的側面の自己意識を紹介する
第3回　自己の心理2：自己の把握
アイデンティティ、自己概念、自己スキーマの事例を紹介する
第4回　自己の心理3：自己の状態
エゴグラムにおける5つの側面とその特徴を紹介する
第5回　自己の心理4：自己の表出
自己呈示、自己開示、自己モニタリングの特徴と機能を紹介する
第6回　コミュニケーションの心理1：空間とコミュニケーション
コミュニケーションにおける物理的距離と位置関係の意味を紹介する
第7回　コミュニケーションの心理2：非言語のコミュニケーション
言葉以外のコミュニケーションの種類と機能を紹介する
第8回　コミュニケーションの心理3：コミュニケーションのうまさ
コミュニケーションに関する技能の内容と事例を紹介する
第9回　対人関係の心理1：夫婦のトラブル、夫婦の破綻
夫婦間葛藤の心理的要因の分類を紹介する
第10回　対人関係の心理2：青年期の親子、家族の問題と役割
家族機能と親子間葛藤の特徴を紹介する
第11回　対人関係の心理3：想像する恋愛、恋愛の始まり
恋愛のイメージ、一目惚れの心理的要因を紹介する
第12回　対人関係の心理4：恋愛スキル、恋愛の破局
恋愛を促進させる技能、失恋の時期と原因を紹介する
第13回　集団・組織の心理1：集団の条件
集団成立の最低限の要因、集団維持の要因を紹介する
第14回　集団・組織の心理2：集団の愚行
集団による愚かな意思決定の特徴を紹介する
第15回　集団・組織の心理3：リーダーシップ
リーダーシップ理論の概念と種類を紹介する

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

第1回
【事前】授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する　2.0時間
【事後】オリエンテーションの説明内容にもとづき心理学の位置づけを理解し、ノートを準備する　2.0時間
第2回
【事前】「人が自分に注意を向ける」ことに関する文献を読む　1.5時間
【事後】「自己注目」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートに加筆する　2.5時間
第3回
【事前】「人が自分の特性を知る」ことに関する文献を読む　1.5時間
【事後】「自己把握」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートに加筆する　2.5時間
第4回
【事前】「人が有する自我状態の側面」に関する文献を読む　1.5時間
【事後】「エゴグラム」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートに加筆する　2.5時間
第5回
【事前】「人が自分を他者に見せる」ことに関する文献を読む　1.5時間

【事後】「自己表出」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートに加筆する　2.5時間
第6回
【事前】「人が他者と接するときの空間の使い方」に関する文献を読む　1.5時間
【事後】「個人的空間」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートに加筆する　2.5時間
第7回
【事前】「人が言語以外の手段で他者と意思疎通する」ことに関する文献を読む　1.5時間
【事後】「ノンバーバルコミュニケーション」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートに加筆する　2.5時間
第8回
【事前】「人が他者とうまく意思疎通する方法」に関する文献を読む　1.5時間
【事後】「コミュニケーションスキル」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートに加筆する　2.5時間
第9回
【事前】「夫婦、結婚」に関する文献を読む　1.5時間
【事後】「夫婦関係の問題、結婚のストレス」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートに加筆する　2.5時間
第10回
【事前】「親子、家族」に関する文献を読む　1.5時間
【事後】「親子関係の葛藤、家族の機能不全」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートに加筆する　2.5時間
第11回
【事前】「恋愛」に関する文献を読む　1.5時間
【事後】「恋愛の実態調査」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートに加筆する　2.5時間
第12回
【事前】「恋人関係」に関する文献を読む　1.5時間
【事後】「恋愛スキル」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートに加筆する　2.5時間
第13回
【事前】「集団・組織が盛衰する」ことに関する文献を読む　1.5時間
【事後】「集団・組織に必要な要素」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートに加筆する　2.5時間
第14回
【事前】「集団・組織の意思決定」に関する文献を読む　1.5時間
【事後】「集団浅慮」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートに加筆する　2.5時間
第15回
【事前】「集団・組織の運営」に関する文献を読む　1.5時間
【事後】「有能なリーダーと有効なリーダーシップ」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートに加筆する　2.5時間

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題について自己採点が可能になるよう正解（模範解答）を開示する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示すとおり、授業内での評価に関する課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する 。定期試験に代わるレポートを未提出の場合、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	「自己の心理」「コミュニケーションの心理」「対人関係の心理」「集団・組織の心理」それぞれ最終回に実施する課題（4回×10）	1. 2.
授業外での評価	0	0	0
定期試験	0	0	0
定期試験に代わるレポート等	60	全授業終了後に提出するレポート課題	1. 2.
その他	0	0	0

テキスト	なし。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	講義の内容はノートをとることが必要となる。

授業コード	22041701	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	医療事務のしくみ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	兵頭　眞由美				
シラバス執筆（主）	兵頭　眞由美				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

医療機関の多くで行われる保険診療業務において、正確かつ円滑な事務処理が求められている。この科目では、保険診療業務を行う医療事務職員（医療秘書）に必要な保険診療のしくみ、医療関連法規や診療報酬制度について概説する。
また、「医科 医療事務管理士技能認定試験」の合格を目指し、学科問題の対策も兼ねる。

到達目標

１．日本の医療保険制度について説明することができる。
２．日本の医療関連制度について説明することができる。
３．診療報酬請求のしくみについて説明することができる。

授業計画

第１回　医療機関と医療保障制度
（医療機関の種類、日本の医療保障制度）
第２回　医療保険制度
（医療保険制度のしくみ）
第３回　保険給付
（保険給付の範囲と種類、給付割合と患者負担）
第４回　医療保険関係法規
（健康保険法、国民健康保険法、高齢者の医療の確保に関する法律）
第５回　公費負担医療制度
（生活保護法、感染症法、精神保健福祉法、障害者総合支援法、難病法）
第６回　その他の医療保険制度
（労働者災害補償保険、自動車損害賠償保障法）
第７回　保険医療機関と医師
（二重指定制度、DPC制度）
第８回　保険医療機関の指定と保険医の登録
（保険医療機関の指定、保険医の登録、指定・登録の取消し）
第９回　施設基準等
（施設基準等の通則と届出）
第10回　療養担当規則
（保険診療の方針と診療録の作成、保険医療機関の責務）
第11回　診療報酬請求
（診療報酬請求のしくみ、診療報酬の審査制度）
第12回　医療関係法規
（医療法、医師法、薬剤師法、保健師助産師看護師法など）
第13回　演習問題①
（これまでの学修をふりかえり総合問題での演習）
第14回　演習問題②
（認定試験の対策問題で出題傾向を確認する）
第15回　演習問題③
（模擬試験問題で理解度を確認する）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前学習】
次回の授業テーマを確認し、指示されたテキストや配付プリントの範囲を精読しておく。
【事後学習】
授業で学んだ範囲について復習し、授業時に課される課題に取り組む。
授業で学んだ内容をテキストに書き込み、付箋等を貼るなどし、資料作りをしておく。

課題に対するフィードバックの方法

小テストや課題は、採点または添削後に返却する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

・下記の「評価割合」に基づき総合的に評価し、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

・正当な理由なく、５回を超えて授業を欠席した場合や定期試験を欠席した場合は、「必要最低限の学修が確保できていない」とみなす。
・授業への積極的参加（発言等）は加点する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	小テスト	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	50	筆記試験	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	10	課題提出	1, 2, 3

テキスト	『 テキスト1　医療保障制度 （最新版）』 株式会社ソラスト　価格未定 （ISBM なし） ※この科目のテキストは、「医療事務演習Ⅰ」「医療事務演習Ⅱ」「医療事務特講」と併用する。
参考書	『 保険診療　基本法令テキストブック 』 令和7年4月版　社会保険研究所　　未定 （ISBN　未定）
履修条件・他の科目との関連	＊ 進行によっては、授業計画の順序を変更することがある。 ※「医科 医療事務管理士技能認定試験」の合格を目指す学生は、後期開講の「医療事務演習Ⅰ」「医療事務演習Ⅱ」「医療事務特講」の3科目を必ず履修すること。

授業コード	22053601	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	医療事務演習Ⅰ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	兵頭　眞由美				
シラバス執筆（主）	兵頭　眞由美				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

医療事務職員（医療秘書）の重要な業務の一つに診療報酬請求事務がある。適切な診療報酬の算定とレセプト作成および点検のスキルは、医療事務職員（医療秘書）を目指す上で必要不可欠である。この科目では主に、外来時の算定方法について概説する。
また、「医科 医療事務管理士技能認定試験」の合格を目指し、学科問題と実技問題の対策も兼ねる。

到達目標

１．診療報酬請求事務のしくみを説明することができる。
２．外来時の算定ができる。

授業計画

第１回　診療報酬請求事務のしくみ
（診療報酬制度の復習とレセプト作成時のポイント）
第２回　初診料の算定
第３回　再診料の算定
第４回　医学管理料の算定①
（特定疾患療養管理料、特定疾患治療管理料、診療情報提供料）
第５回　医学管理料の算定②
（その他医学管理等の算定方法）
第６回　投薬料の算定①
（薬剤の基礎知識、院内処方）
第７回　投薬料の算定②
（院外処方）
第８回　注射料の算定
（薬剤の基礎知識、注射料の算定）
第９回　検査料の算定①
（検体検査料の算定）
第10回　検査料の算定②
（生体検査料の算定）
第11回　処置料の算定
第12回　手術料の算定
第13回　輸血料の算定
第14回　麻酔料・神経ブロック料の算定
第15回　在宅医療の算定
（在宅患者診療・指導料、在宅療養指導管理料）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前学習】
次回の授業テーマを確認し、指示されたテキストや配付プリントを精読しておく。
【事後学習】
授業で学んだ範囲について復習し、授業時に課される課題に取り組む。
授業で学んだ内容をテキストに書き込み、付箋等を貼るなどして資料作りをしておく。

課題に対するフィードバックの方法

小テストや課題は、採点または添削後に返却する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

・下記の「評価割合」に基づき総合的に評価し、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
・正当な理由なく、５回を超えて授業を欠席した場合や定期試験を欠席した場合は、「必要最低限の学修が確保できていない」とみなす。
・授業への積極的参加（発言等）は加点する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標

授業内での評価	40	小テスト	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	50	筆記試験	1, 2
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	10	課題提出	1, 2

テキスト	『 診療点数早見表 2024年度増補版 』 医学通信社 5,060円（税込）（ISBN 978-4-87058-990-2） 『 医療事務講座 資料ブック （最新版）』 株式会社ソラスト 価格未定 （ISBN なし） ※この科目のテキストは、すべて「医療事務演習Ⅱ」「医療事務特講」と併用する。
参考書	『 レセプト作成テキストブック 』 令和7年4月版 社会保険研究所 4290円（税込）（ISBN 978-4-7894-0930-8） 『 テキスト2 診療報酬の算定（上）』（最新版） 株式会社ソラスト 価格未定 （ISBN なし） 『 テキスト3 診療報酬の算定（下）』（最新版） 株式会社ソラスト 価格未定 （ISBN なし）
履修条件・他の科目との関連	＊原則として、前期「医療事務のしくみ」を履修した学生のみ履修可能とする。 ＊本授業は、「医療事務演習Ⅱ」の内容に関連しているため、必ず「医療事務演習Ⅱ」も履修すること。 ＊ 進行によっては、授業計画の順序を変更することがある。 ※「医科 医療事務管理士技能認定試験」の合格を目指す学生は、前期開講の「医療事務のしくみ」、後期開講の「医療事務演習Ⅱ」「医療事務特講」の3科目を必ず履修すること。

授業コード	22053701	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	医療事務演習Ⅱ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	兵頭　眞由美				
シラバス執筆（主）	兵頭　眞由美				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

医療事務職員（医療秘書）の重要な業務の一つに診療報酬請求事務がある。適切な診療報酬の算定とレセプト作成および点検のスキルは、医療事務職員（医療秘書）を目指す上で必要不可欠である。この科目では主に、「医療事務演習Ⅰ」で学習した外来時の算定方法に基づき、レセプト作成の方法について概説する。
また、「医科 医療事務管理士技能認定試験」の合格を目指し、実技問題の対策も兼ねる。

到達目標

１．診療報酬請求事務のしくみを説明することができる。
２．外来時の算定ができる。
３．外来のレセプト作成ができる。

授業計画

第１回　診療報酬請求事務のしくみ
（レセプトの書き方）
第２回　初診料の算定
（レセプト記入と摘要欄の書き方）
第３回　再診料の算定
（レセプト記入と摘要欄の書き方）
第４回　医学管理料の算定①
（特定疾患療養管理料、特定疾患治療管理料、診療情報提供料のレセプト記入と摘要欄の書き方）
第５回　医学管理料の算定②
（その他医学管理等のレセプト記入と摘要欄の書き方）
第６回　投薬料の算定①
（薬剤の基礎知識、院内処方のレセプト記入と摘要欄の書き方）
第７回　投薬料の算定②
（院外処方のレセプト記入と摘要欄の書き方）
第８回　注射料の算定
（薬剤の基礎知識、注射料の算定のレセプト記入と摘要欄の書き方）
第９回　検査料の算定①
（検体検査料のレセプト記入と摘要欄の書き方）
第10回　検査料の算定②
（生体検査料のレセプト記入と摘要欄の書き方）
第11回　処置料の算定
（レセプト記入と摘要欄の書き方）
第12回　手術料の算定
（レセプト記入と摘要欄の書き方）
第13回　輸血料の算定
（レセプト記入と摘要欄の書き方）
第14回　麻酔料・神経ブロック料の算定
（レセプト記入と摘要欄の書き方）
第15回　在宅医療の算定
（レセプト記入と摘要欄の書き方）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前学習】
次回の授業テーマに関する「医療事務演習Ⅰ」の内容を復習しておくこと。
【事後学習】
授業で学んだ範囲について復習し、授業時に課される課題に取り組む。
授業で学んだ内容をテキストに書き込み、付箋等を貼るなどして資料作りをしておく。

課題に対するフィードバックの方法

小テストや課題は採点または添削後に返却する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

・下記の「評価割合」に基づき総合的に評価し、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
・正当な理由なく、５回を超えて授業を欠席した場合や定期試験を欠席した場合は、「必要最低限の学修が確保できていない」とみなす。
・授業への積極的参加（発言等）は加点する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	小テスト	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	50	筆記試験	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	10	課題提出	1, 2, 3

テキスト	『 診療点数早見表　2024年度増補版 』　医学通信社　5,060円（税込）（ISBN 978-4-87058-930-2） 『 医療事務講座　資料ブック （最新版）』 株式会社ソラスト　価格未定　（ISBN なし） ※この科目のテキストは、すべて「医療事務演習Ⅰ」、「医療事務特講」と併用する。
参考書	『 レセプト作成テキストブック 』 令和7年4月版　社会保険研究所　4290円（税込）（ISBN 978-4-7894-0930-8） 『 テキスト2　診療報酬の算定（上）』（最新版） 株式会社ソラスト　価格未定　（ISBN なし） 『 テキスト3　診療報酬の算定（下）』（最新版） 株式会社ソラスト　価格未定　（ISBN なし）
履修条件・他の科目との関連	＊原則として、前期「医療事務のしくみ」を履修した学生のみ履修可能とする。 ＊本授業は、「医療事務演習Ⅰ」の内容に関連しているため、必ず「医療事務演習Ⅰ」も履修すること。 ＊ 進行によっては、授業計画の順序を変更することがある。 ※「医科 医療事務管理士技能認定試験」の合格を目指す学生は、前期開講の「医療事務のしくみ」、後期開講の「医療事務演習Ⅰ」、「医療事務特講」の3科目も必ず履修すること。

授業コード	22041801	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	医療事務特講　［対面］				
シラバス執筆(全員)	兵頭　眞由美				
シラバス執筆(主)	兵頭　眞由美				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

医療事務職員（医療秘書）の重要な業務の一つに診療報酬請求事務がある。適切な診療報酬の算定とレセプト作成および点検のスキルは、医療事務職員（医療秘書）を目指す上で必要不可欠である。この科目では、「医療事務演習Ⅰ」「医療事務演習Ⅱ」の続きとして、外来・入院時の算定方法について概説し、レセプト作成を行う。また、「医科 医療事務管理士技能認定試験」の合格を目指し、学科問題と実技問題の対策も兼ねる。

到達目標

１．外来・入院ともに診療報酬の算定ができる。
２．外来・入院ともにレセプトの作成および点検ができる。

授業計画

第 1 回　画像診断料の算定
第 2 回　画像診断料のレセプト記入
第 3 回　リハビリテーション料の算定
第 4 回　リハビリテーション料のレセプト記入
第 5 回　精神科専門治療法・放射線治療の算定
第 6 回　精神科専門治療法・放射線治療の算定のレセプト記入
第 7 回　確認テスト①（外来）
第 8 回　入院基本料の算定
第 9 回　入院基本料のレセプト記入
第 10 回　入院料に関する各種算定
第 11 回　確認テスト②（入院）
第 12 回　レセプトの点検方法
第 13 回　総合演習①
第 14 回　確認テスト③（点検）
第 15 回　総合演習②

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前学習】
次回の授業テーマに関連する「医療事務演習Ⅰ」「医療事務演習Ⅱ」の内容を復習しておくこと。
【事後学習】
授業で学んだ範囲について復習し、授業時に課される課題に取り組む。
授業で学んだ内容を点数表に書き込み、付箋等を貼るなどして資料作りをしておく。

課題に対するフィードバックの方法

確認テストは採点後に返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

・下記の「評価割合」に基づき総合的に評価し、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
・正当な理由なく、５回を超えて授業を欠席した場合や定期試験を欠席した場合は、「必要最低限の学修が確保できていない」とみなす。
・授業への積極的参加（発言等）は加点する。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	確認テスト	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	50	筆記試験	1, 2
定期試験に代わるレポート等	0		

その他	10	課題提出	1, 2

テキスト	※この科目のテキストは、「医療事務のしくみ」、「医療事務演習Ⅰ」、「医療事務演習Ⅱ」で使用したテキストをすべて併用する。 ※「医科 医療事務管理士技能認定試験」の受験者へは、別途『問題集』について案内する。
参考書	『 レセプト作成テキストブック 』 令和7年4月版　社会保険研究所　4290円（税込）（ISBN 978-4-7894-0930-8） 『 テキスト2　診療報酬の算定（上）』（最新版） 株式会社ソラスト　価格未定　（ISBN なし） 『 テキスト3　診療報酬の算定（下）』（最新版） 株式会社ソラスト　価格未定　（ISBN なし）
履修条件・他の科目との関連	＊原則として、「医療事務のしくみ」「医療事務演習Ⅰ」「医療事務演習Ⅱ」すべてを履修した学生のみ履修可能とする。 ＊ 進行によっては、授業計画の順序を変更することがある。 ※「医科 医療事務管理士技能認定試験」の合格を目指す学生は、前期開講の「医療事務のしくみ」、後期開講の「医療事務演習Ⅰ」、「医療事務演習Ⅱ」の3科目を必ず履修すること。

授業コード	22010201	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	介護概論　［対面］				
シラバス執筆(全員)	藤田　了				
シラバス執筆(主)	藤田　了				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的･概要

我が国は、少子高齢化社会の進展と障がいなどのために介護を必要とする人も含め、介護の問題は特定の人に対する問題から社会全体の問題となっている。本講義は、当事者である介護が必要な人と、介護者の理解を深め、多種多様な生活課題に対応する制度・政策・サービス・支援について説明する。また、介護に関連する福祉・保健・医療の領域の専門職について概説する。
授業は講義形式が中心であるが、適宜授業の理解を深めるために、DVD等の視聴覚教材の活用、ペアワーク、グループワーク等の演習を行うので主体的に取り組むことが必要である。講義はパワーポイントによる文字情報および静止画・動画の資料などを提示しながらすすめていく。
長年、社会福祉法人等で福祉・介護業界に従事してきた経験をもとに、実務家教員として、将来福祉・介護関係の業務に従事したいと考えている人に対しても実践・理論等役立つ授業を展開する。

到達目標

1. 要介護者の「生活のしづらさ」について個人因子と環境因子の両側面から説明することができる。
2. 介護に関連するフォーマル・インフォーマル支援について実践者として説明することができる。
3. 具体的な居宅サービス、施設サービスについて説明することができる。
4. ICFについて基礎的な事項を説明することができる。

授業計画

【第１回】　授業オリエンテーション（授業の進め方、受講ルール）
【第２回】　高齢化の進展による介護問題
【第３回】　介護の実際：食事介護・入浴介護
【第４回】　介護の実際：排泄介護・その他の介護
【第５回】　介護保険制度：制度の概要
【第６回】　介護保険制度：制度の活用方法
【第７回】　障がい者の運動能力の特徴と運動や活動
【第８回】　介護概論前半のまとめ（中間レポート実施）
【第９回】　居宅（在宅）サービスの概要
【第10回】　居宅（在宅）サービス：訪問系・通所系サービス
【第11回】　居宅（在宅）サービス：さまざまな居宅サービス
【第12回】　施設（入所）サービスの概要
【第13回】　施設（入所）サービス：介護保険施設
【第14回】　施設（入所）サービス：さまざまな高齢者福祉施設
【第15回】　ICFの基礎的理解と活用方法

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

第１回
【事前】　授業のシラバスを確認しておく。　1.0時間
【事後】　授業ルールの確認。ノートを準備する。　2.0時間
第２回
【事前】　介護に関連する記事やニュースなどを視聴し介護の問題を自分なりに考えておく。　1.5時間
【事後】　授業の資料を参照のうえノートを加筆する。　2.5時間
第３回
【事前】　社会における介護の問題を列挙する。　1.5時間
【事後】　授業の資料を参照のうえノートを加筆する。　2.5時間
第４回
【事前】　自身の地域の要介護者について、人数や要介護度を調べておく。　1.5時間
【事後】　要介護者と要支援者が説明できるようノートを加筆する。　2.5時間
第５回
【事前】　介護保険制度の概要について自分なりに調べておく。　1.5時間
【事後】　「介護保険制度」の資料を参照のうえノートを加筆する。　2.5時間
第６回
【事前】　介護保険のサービスについて調べておく。　1.5時間
【事後】　「介護保険制度」の資料を参照のうえノートを加筆する。　2.5時間
第７回
【事前】　これまで学んだことをノートにまとめておく。　1.5時間
【事後】　授業の資料を参照のうえノートを加筆する。　2.5時間
第８回
【事前】　第2回から第7回のノート、資料を復習する。　1.5時間
【事後】　第2回から第7回の授業内容について説明できるようノートを再加筆する。　2.5時間

第９回
【事前】　居宅サービスにはどのような種類があるのか調べておく。　1.5時間
【事後】　「居宅（在宅）サービス」の資料を参照のうえノートを加筆する。　2.5時間
第10回
【事前】　訪問系と通所系のサービスについて調べておく。　1.5時間
【事後】　「居宅（在宅）サービス」の資料を参照のうえノートを加筆する。　2.5時間
第11回
【事前】　これまで学んだ居宅サービス以外にどのようなサービスがあるか調べておく。　1.5時間
【事後】　「居宅（在宅）サービス」の資料を参照のうえノートを加筆する。　2.5時間
第12回
【事前】　施設サービスにはどのような種類があるのか調べておく。　1.5時間
【事後】　「施設（入所）サービス」の資料を参照のうえノートを加筆する。　2.5時間
第13回
【事前】　介護保険施設ついて調べておく。　1.5時間
【事後】　「施設（入所）サービス」の資料を参照のうえノートを加筆する。　2.5時間
第14回
【事前】　これまで学んだ施設以外にどのような施設があるか調べておく。　1.5時間
【事後】　「施設（入所）サービス」の資料を参照のうえノートを加筆する。　2.5時間
第15回
【事前】　自分自身が考える「自立」とは何かノートにまとめておく。　1.5時間
【事後】　「ICF」の資料を参照のうえノートを加筆する。　4.5時間

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
※授業内に実施される「第8回の中間レポート」は、正当な理由（公欠等）が無い場合の未提出は評価しない。（正当な理由については必ず申し出ること。正当な理由と認められれば欠席課題を課し評価対象とする）
※授業内で課されるレポート課題は、レポートの質、課題への積極性（文章量）などの内容に対して評価を行う。
※授業内で課されるレポート課題は、正当な理由がない未提出分については評価しない。
※正当な理由なく定期試験に代わるレポート等の未提出の場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	・毎回の授業内で課される課題（第1回、第8回以外）：各5／計13回（65） ・第8回：前半のまとめ（中間レポート）（15）	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	学修した内容についてレポートを課す（20）	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず適宜プリント（資料）を配布する。
参考書	NIE介護の基本演習/松井圭三・小倉毅・今井慶宗/大学教育出版/2160+税/ISBN978-4-86692-004-7
履修条件・他の科目との関連	・介護・社会福祉関連の科目を履修していることが望ましい。 ・状況により授業内容の一部および進め方や順番、授業形態などを変更する場合があります。その場合は随時連絡します。

授業コード	22053801	授業形態		実務家教員	―
授業科目名	介護事務演習Ⅰ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	山口　芳久				
シラバス執筆（主）	山口　芳久				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的･概要

介護業界では、ホスピタリティ・マインド（「おもいやり」「いたわり」の心）と経営感覚をもった人材が求められている。
わが国の高齢化率は進行しつつあり、今後も多くの高齢者が介護施設や在宅サービスなどの介護保険サービスを利用すると予測され、今や介護業界は成長産業となっている。介護施設や事業所の職員には、介護保険サービスを利用するための正確な行政手続きや利用者の心身状態・経済状況に合わせた適切な介護サービス・減免制度などの説明をすることが求められる。さらに介護保険サービスは税金や介護保険料など公的な財源によって運営されているので、介護保険法に基づいた専門的な知識と事務能力が必要とされている。
また、介護サービスを必要とする利用者に対するコミュニケーションでは、ホスピタリティ・マネジメントやホスピタリティー・マナーなど、現在では他業界でも必要とされるホスピタリティ・マインドをもった対応が重視される。

本科目では、成長をつづける介護施設・事業所で活躍するためのホスピタリティと経営感覚を修得することを目的に、介護保険制度の概要や介護保険サービスとはどのようなものか、介護サービスに対する報酬（介護報酬）はどのように算定されるかなどを、パワーポイントや動画などを活用しながら学習していく。また、介護サービスのホスピタリティ・スキルを修得するために、老化とはどのような状態なのか、利用者への適切なコミュニケーションのあり方などを学ぶ。

到達目標

１．介護サービスにおけるホスピタリティ・マネジメントやホスピタリティ・マナーを実践することができる。
２．介護保険制度を理解して、介護保険を利用しようとする方に適切な手続きを支援することができる。
３．介護保険制度を理解して、介護保険を利用しようとする方に介護保険サービスを説明することができる。
４．介護報酬に関する知識を修得して、介護保険サービスの対価を計算することができる。
５．介護報酬に関する知識を修得して、利用者の負担金額を計算し支払い免除などを説明することができる。

授業計画

【第１週】オリエンテーション、ホスピタリティ・マインドと介護保険制度
テキスト　介護事務講座１　第１章　介護保険制度の基礎知識

【第２週】介護施設・事業所における行政サービス手続き
テキスト　介護事務講座１　第２章　介護保サービス提供の流れ

【第３週】介護保険サービスの理解①
テキスト　介護事務講座１　第３章　居宅サービス、支援サービス

【第４週】介護保険サービスの理解②
テキスト　介護事務講座１　第３章　施設サービス、地域密着サービス

【第５週】介護報酬の理解①
テキスト　介護事務講座２　第１章　介護報酬の算定
第２章　算定のしかた　居宅サービス・支援サービス①（訪問介護費～居宅療養管理指導費）

【第６週】介護報酬の理解②
テキスト　介護事務講座２　第２章　算定のしかた　居宅サービス・支援サービス②（通所介護費～居宅介護支援費）

【第７週】介護報酬の理解③
テキスト　介護事務講座２　第３章　算定のしかた　施設サービス

【第８週】介護報酬の理解④
テキスト　介護事務講座２　第４章　算定のしかた　地域密着型サービス
第５章　算定のしかた　介護予防

【第９週】介護報酬の理解⑤
テキスト　介護事務講座２　第６章　請求と支払いのしくみ・利用者負担の徴収、他制度との関係

【第１０週】ホスピタリティ・コミュニケーション
事例を通して介護サービスの行政手続き、適切な介護サービスの案内、介護サービス費用と利用者負担の説明、低所得者の減免の案内を演習によって修得する。

【第１１週】介護レセプトの作成①
テキスト　介護事務講座２　第７章　介護レセプト（レセプトの基本知識～居宅サービスの介護レセプト）

テキスト　レセプトの記載ルール

【第１２週】介護レセプトの作成②
テキスト　介護事務講座２　第７章　介護レセプト（支援サービスの介護レセプト）
テキスト　レセプトの記載ルール

【第１３週】介護レセプトの作成③
テキスト　介護事務講座２　第７章　介護レセプト（施設サービスの介護レセプト）
テキスト　レセプトの記載ルール

【第１４週】総復習①
テキスト　介護事務講座１、介護事務講座２、レセプトの記載ルール　全体を振り返り、適切なホスピタリティ・コミュニケーションと介護サービスの算定を演習する。

【第１５週】総復習②
テキスト　介護事務講座１、介護事務講座２、レセプトの記載ルール　全体を振り返り、適切なホスピタリティ・コミュニケーションと介護サービスの算定を演習する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間以外に計１５時間の事前事後学習が必要です。
毎回の授業前にテキストの該当箇所を読んで授業に臨むこと。
毎回の授業で課題を課すので、次回の授業時に提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の活動は評価基準表に基づく評価結果をフィードバックする。
課題は評価基準表に基づく評価結果を付して返却する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的判定のうえ、６０点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業態度(20)、授業内の課題への取り組み(30)。	1.2.3.4.5
授業外での評価	20	授業外の課題。	2.3.4.5
定期試験	30	期末試験。	1.2.3.4.5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	株式会社ソラスト　介護事務管理士技能認定試験対応　介護事務講座1（介護保険のしくみとサービス）、介護事務講座2（介護報酬の算定のしかた）、資料ブック、レセプト記載ルール　計4冊
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	本科目は介護事務演習Ⅱと学習内容が連動しており基礎（演習Ⅰ）と展開（演習Ⅱ）の関係になっている。 欠席者には配付資料を別途アップロードするなどの配慮をおこなう。

授業コード	22053901	授業形態		実務家教員	ー
授業科目名	介護事務演習Ⅱ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	山口　芳久				
シラバス執筆（主）	山口　芳久				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

介護業界では、２つの経営能力をもった人材が求められている。
ひとつは、収入のほとんどをしめる介護報酬が介護保険法を根拠とする行政手続きに基づいておこなわれるため、法令に基づいた専門的な介護報酬請求業務ができる能力を有する人材である。介護保険サービス利用開始の手続きから要介護度の変更申請、訪問介護など居宅サービスから特別養護老人ホームなど施設サービスに至る介護報酬請求、低所得者に対する減免制度や公費制度に至るまで、法律を根拠とする事務処理をする能力が求められる。高齢者が介護サービスを受けながら安心して生活するために、法令を遵守し専門的な事務処理能力ができる人材が必要とされている。
もうひとつは、高齢者の生活（生き方）を創造（シニア・ライフ・デザイン）する知識や技能を有する人材である。心身能力の低下、障害、経済状況、家族環境など、さまざまな要因により支援が必要な利用者に対して、「自分らしく」そして「生きがいのある」生活（生き方）を創造するための介護サービスや社会資源の提供を提案する能力を持った人材が、介護施設・事業所の職員に求められてる。

本科目では、法令に基づく介護報酬請求業務ができる能力と在宅サービス・地域密着サービス・施設サービスなど多様なサービスから「自分らしく」「生きがいのある」サービスをマッチングさせ利用者の生活（人生）を創造する能力の修得を目的とし、多様な介護サービスはどのように違うのか、介護サービス利用の手続きはどのようにおこなうのか、介護報酬請求業務の算定をどのようにするのか、パワーポイントなどを活用して説明し、実際の手続き業務や介護給付費請求書、介護給付費明細書（レセプト）を作成しながら学習していく。また、就職活動の際に介護報酬請求能力があることを証明できるように、技能認定振興協会主催「介護事務管理士認定試験」の資格取得ができるレベルの介護報酬請求業務の修得を目標とする。

到達目標

１．利用者の満足する生活（人生）を創造（シニア・ライフ・デザイン）するため、多様な介護サービスを説明できる。
２．介護保険制度を理解して、施設・事業所の利用手続きをおこなうことができる。
３．介護報酬請求業務を理解して、介護給付費明細書（レセプト）を作成することができる。

授業計画

【第１週】オリエンテーション、ホスピタリティ・コミュニケーションと介護保険制度
テキスト　介護事務講座１　第１章　介護保険制度の基礎知識

【第２週】介護施設・事業所における行政サービス手続き演習
テキスト　介護事務講座１　第２章　介護保サービス提供の流れ

【第３週】介護保険サービス情報演習①
テキスト　介護事務講座１　第３章　居宅サービス、支援サービス

【第４週】介護保険サービス情報演習②
テキスト　介護事務講座１　第３章　施設サービス、地域密着サービス

【第５週】介護報酬算定演習①
テキスト　介護事務講座２　第１章　介護報酬の算定
第２章　算定のしかた　居宅サービス・支援サービス①（訪問介護費～居宅療養管理指導費）

【第６週】介護報酬算定演習②
テキスト　介護事務講座２　第２章　算定のしかた　居宅サービス・支援サービス②（通所介護費～居宅介護支援費）

【第７週】介護報酬算定演習③
テキスト　介護事務講座２　第３章　算定のしかた　施設サービス

【第８週】介護報酬算定演習④
テキスト　介護事務講座２　第４章　算定のしかた　地域密着型サービス
第５章　算定のしかた　介護予防

【第９週】介護報酬算定演習⑤
テキスト　介護事務講座２　第６章　請求と支払いのしくみ・利用者負担の徴収、他制度との関係

【第１０週】利用者が満足する生活（人生）の創造（シニア・ライフ・デザイン）
事例を通してどのような介護サービスがマッチするか、また利用する減免制度・公費制度などの案内を演習によって修得する。

【第１１週】介護レセプト演習①
テキスト　介護事務講座２　第７章　介護レセプト（レセプトの基本知識～居宅サービスの介護レセプト）
テキスト　レセプトの記載ルール

【第１２週】介護レセプト演習②
テキスト　介護事務講座２　第７章　介護レセプト（支援サービスの介護レセプト）
テキスト　レセプトの記載ルール

【第１３週】介護レセプト演習③
テキスト　介護事務講座２　第７章　介護レセプト（施設サービスの介護レセプト）
テキスト　レセプトの記載ルール

【第１４週】総復習①
テキスト　介護事務講座１、介護事務講座２、レセプトの記載ルール　全体を振り返り、適切なホスピタリティ・コミュニケーションと介護サービスの算定を演習する。

【第１５週】総復習②
テキスト　介護事務講座１、介護事務講座２、レセプトの記載ルール　全体を振り返り、適切なホスピタリティ・コミュニケーションと介護サービスの算定を演習する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間以外に計１５時間の事前事後学習が必要です。
毎回の授業前にテキストの該当箇所を読んで授業に臨むこと。
毎回の授業で課題を課すので、次回の授業時に提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の活動は評価基準表に基づく評価結果をフィードバックする。
課題は評価基準表に基づく評価結果を付して返却する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的判定のうえ、６０点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業態度(20)、授業内の課題への取り組み(30)。	1.2.3
授業外での評価	20	授業外の課題。	2.3
定期試験	30	期末試験。	1.2.3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	株式会社ソラスト　介護事務管理士技能認定試験対応　介護事務講座1（介護保険のしくみとサービス）、介護事務講座2（介護報酬の算定のしかた）、資料ブック、レセプト記載ルール　計4冊
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	本科目は介護事務演習Ｉと学習内容が連動しており基礎（演習Ｉ）と展開（演習Ⅱ）の関係になっているので、介護事務演習Ｉを履修することが望まれる。 欠席者には配付資料を別途アップロードするなどの配慮をおこなう。

授業コード	22040001	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	情報社会のしくみ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	石川　高行				
シラバス執筆(主)	石川　高行				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的･概要

現在の情報社会において、情報は大きな価値を持ち、これらはコンピューターを用いた情報システムにより管理・運用されている。特に企業にとっては業務改善に結びつく技術であり、個人にとっては他人との交流に欠かせないものとなっている。
　この授業では、効果的な情報デザイン手法、生活・ビジネス・ものづくりを支える情報システム、情報モラル等について解説する。
　また、理論だけではなく実際の操作ができることが望ましいため、PC を用いた実際の作業についても学ぶ。

到達目標

1. 会社の仕組みとお金の流れを簡単に説明できる
2. 情報システムの有用性を説明できる
3. ネットワーク上のコミュニケーションの留意点を説明できる
4. ネットワーク上の社会的な問題について説明できる
5. 情報を発信したり他人とコミュニケートする基礎的な PC 操作ができる

授業計画

1. ビジネスとは何だろうか
2. インターネットのビジネス利用
3. マーケティングとルール
4. 会社とお金
5. システム開発プロセス
6. 情報資産への脅威と対策
7. 情報の検索と共有
8. 情報の信憑性
9. 悪ふざけによる非常識な投稿，インターネット上でのいじめ
10. 情報の守秘義務
11. メディア，Web コミュニケーション，SNS コミュニケーション
12. 情報セキュリティ関連法規
13. コンピュータ犯罪への対策
14. 知的財産権，著作権
15. 授業のまとめと実技

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

標準的な学生であれば復習・作業を含めて90時間で終了できる分量を想定している。事前学習よりも事後学習が大切であるが、自動採点機能を活かして事前学習し授業進度よりも先に進んでも問題ない。
　一部、授業の前日までにやっておくべき作業があり、これは授業内に指示する。

課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法

座学部分については Moodle における自動採点機能をほぼ全面的に利用する。自分自身の力で正解が導けるまで何度でも挑戦できるので、分かるまで頑張ること。
　授業時間外に教員へ質問する際は、e-mail にパソコンの画面を貼り付けて科目担当教員へ送ること。特に、実操作が必要な課題は「行き詰った」と感じた画面と説明文の両方があることが望ましい。

成績評価の方法･基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

　下記の通り、通常課題と期末レポート課題合わせて 100% で評価するが、それぞれの課題には締切が設定されているため、本来の授業日を大きく過ぎてから課題に取り組もうとしても取り組めないものがある。課題の出来は基本的に Moodle 上で得点として確認することができる
　教室に来ていても授業に参加しているとは言えない取り組み方をしている場合は原則として減点対象となる。毎回の授業で示される到達目標に達するまで課題に集中しているかどうかによる。
　授業不参加が5回を超えると K 評価とする。ただし公欠・出席停止・やむを得ない欠席については証明画像を提出することで考慮の対象となる。

成績評価の種類	評価割合	評価方法･割合	評価対象となる到達目標

	(%)		
授業内での評価	95	自動採点課題 (85) 作業課題 (10)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	5	期末レポート (5)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	IT すきま教室 渡辺さき 著『1週間で IT パスポートの基礎が学べる本』(インプレス ブックス, 2021年, ISBN:9784295011620, 税別1360円) https://book.impress.co.jp/books/1120101037 (初回授業では持参不要。電子書籍を推奨するが、紙書籍でも問題ない。)
参考書	定平誠 著『【改訂第2版】例題100でしっかり学ぶ メディアリテラシー 標準テキスト』(技術評論社, 2022年, ISBN:978-4297132712, 税別1600円) https://gihyo.jp/book/2023/978-4-297-13271-2 (初回授業では持参不要。電子書籍を推奨するが、紙書籍でも問題ない。)
履修条件・他の科目との関連	授業時間外に科目担当教員とやりとりする際には e-mail を使うため、普段から e-mail を1日1回は読んでおくこと。また Universal Passport も1日1回はログインして内容を確認すること。 e-mail で質問する際は、自分が困っている場面を写真に撮るかスクリーンショットに撮って e-mail に添付すること。 授業は MS-Windows の PC を持参していることを前提に進めるが、MacOS でも殆どの課題に取り組むことが可能である。ただし MacOS の操作などに関しては指導しないので、MacOS を利用する場合は操作などは自分で調べること。 マウスを所持していることを前提に授業を進める。マウスなしでの受講はかなり困難である。 授業資料は全て Moodle にて配布する。授業に欠席した回も、課題は定められた期限までに提出する必要がある。入院などで長期にわたり課題に取り組むことができなくなった場合は教員へ連絡すること。 この授業の前に「情報処理のしくみ」を履修することが望ましい。

授業コード	22043501	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	表計算特講　［対面］				
シラバス執筆(全員)	安達　康生				
シラバス執筆(主)	安達　康生				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

MOS Excel 2019 一般レベル合格を目指すための受験対策授業である。
MOSは「Microsoft Office Specialist」という世界共通のビジネス資格であり、Microsoft Office製品の利用スキルを客観的に証明してくれ、就職活動の際などに実力をアピールすることができる。
本授業では、Excelの基礎からMOS Excel 2019 一般レベル合格のためのスキルに至るまでしっかりと指導し、合格を目指す。
具体的には、MOS Excel 2019 一般レベルの出題範囲に沿って、ワークシートやブックの管理、セルやセル範囲のデータの管理、テーブルとテーブルのデータの管理、数式や関数を使用した演算の実行、グラフの管理などについて、それらの機能と操作方法を解説する。また、模擬試験プログラムを用いて合格に必要なスキルを身につけられるよう指導する。
授業の形態は、各機能の操作方法の解説及びコンピュータ演習を組み合わせたものである。

到達目標

1. Excelのワークシートやブックを管理することができる
2. Excelを用いて表形式データの作成と編集を行うことができる
3. Excelを用いてテーブル形式データの作成と編集を行うことができる
4. Excelを用いて簡単な計算処理を行うことができる
5. Excelを用いてグラフの作成と編集を行うことができる
6. Excelの基本的な機能を理解し活用することができる

授業計画

第1回　表計算特講の概要（授業の進め方、MOS Excel 2019の概要、成績評価の方法）
第2回　ワークシートやブックの管理（１）（ブック内の移動、ワークシートやブックの書式設定、オプションと表示のカスタマイズ）
第3回　ワークシートやブックの管理（２）（共同作業のためのコンテンツ設定、ブックへのデータのインポート、確認問題）
第4回　セルやセル範囲のデータの管理（１）（シートのデータの操作、セルやセル範囲の書式の設定）
第5回　セルやセル範囲のデータの管理（２）（名前付き範囲の定義と参照、データの視覚的まとめ、確認問題）
第6回　テーブルとテーブルのデータの管理（１）（テーブルの作成と書式設定、テーブルの変更）
第7回　テーブルとテーブルのデータの管理（２）（テーブルのデータのフィルタリングと並べ替え、確認問題）
第8回　数式や関数を使用した演算の実行（１）（参照の追加、データの計算と加工）
第9回　数式や関数を使用した演算の実行（２）（文字列の変更と書式設定、確認問題）
第10回　グラフの管理（グラフの作成、グラフの変更、グラフの書式設定、確認問題）
第11回　模擬試験プログラムの起動方法、学習方法、使い方の解説、第1回模擬試験の実施、解説
第12回　第2回模擬試験の実施、解説
第13回　第3回模擬試験の実施、解説
第14回　第4回模擬試験の実施、解説
第15回　学習のまとめ（これまでの学習内容の振り返りと整理）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前には、各回に対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておくこと。
事後には、各回で学んだ内容を復習しておくこと。
各回につき2時間以上の事前学習および2時間以上の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

小課題はコメントを付して返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。
正当な理由なく定期試験を欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	小課題	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	50	実技試験	6
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Excel 365 対策テキスト&問題集、FOM出版(富士通エフ・オー・エム株式会社)、2,310円（本体2,100円＋税）、ISBN：978-4-86775-056-8
参考書	コンピューターリテラシーMicrosoft Office Excel編[改訂版]、多田憲孝・内藤富美子 著、オーム社、2,640円 （本体2,400円＋税）、ISBN：978-4-274-22920-6
履修条件・他の科目との関連	「コンピュータ基礎演習II（表計算基礎）」または同等の科目を受講済みであることが望ましい。 テキストは初回授業までに必ず購入しておくこと。

授業コード	22043401	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	ワープロ特講　［対面］				
シラバス執筆(全員)	安達　康生				
シラバス執筆(主)	安達　康生				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

MOS Word 2019 一般レベル合格を目指すための受験対策授業である。
MOSは「Microsoft Office Specialist」という世界共通のビジネス資格であり、Microsoft Office製品の利用スキルを客観的に証明してくれ、就職活動の際などに実力をアピールすることができる。
本授業では、Wordの基礎からMOS Word 2019 一般レベル合格のためのスキルに至るまでしっかりと指導し、合格を目指す。
具体的には、MOS Word 2019 一般レベルの出題範囲に沿って、文書管理、文字・段落・セクションの挿入と書式設定、表やリストの管理、参考資料の作成と管理、グラフィック要素の挿入と書式設定、文書の共同作業の管理などについて、それらの機能と操作方法を解説する。また、模擬試験プログラムを用いて合格に必要なスキルを身につけられるよう指導する。
授業の形態は、各機能の操作方法の解説及びコンピュータ演習を組み合わせたものである。

到達目標

1. Wordを用いて基本的な文書を作成することができる。
2. Wordを用いて表やリストの入った文書を作成することができる。
3. Wordを用いて図やSmartArtなどのグラフィック要素の入った文書を作成することができる。
4. Wordのコメントや変更履歴を利用することができる。
5. Wordの基本的な機能を理解し活用することができる。

授業計画

第1回　ワープロ特講の概要（授業の進め方、MOS Word 2019の概要、成績評価の方法など）
第2回　文書の管理（１）（文書の移動、文書の書式設定）
第3回　文書の管理（２）（文書の保存と共有、文書の検査、確認問題）
第4回　文字、段落、セクションの挿入と書式設定（文字列や段落の挿入、文字列や段落の書式設定、文書のセクション作成と設定、確認問題）
第5回　表やリストの管理（１）（表の作成、表の変更）
第6回　表やリストの管理（２）（リストの作成と変更、確認問題）
第7回　参考資料の作成と管理（参照のための要素の作成と管理、参照のための一覧の作成と管理、確認問題）
第8回　グラフィック要素の挿入と書式設定（１）（図やテキストボックスの挿入、図やテキストボックスの書式設定）
第9回　グラフィック要素の挿入と書式設定（２）（グラフィック要素へのテキスト追加、グラフィック要素の変更、確認問題）
第10回　文書の共同作業の管理（コメントの追加と管理、変更履歴の管理、確認問題）
第11回　模擬試験プログラムの起動方法、学習方法、使い方の解説、第１回模擬試験の実施、解説
第12回　第2回模擬試験の実施、解説
第13回　第3回模擬試験の実施、解説
第14回　第4回模擬試験の実施、解説
第15回　学習のまとめ（これまでの学習内容の振り返りと整理）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前には、各回に対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておくこと。
事後には、各回で学んだ内容を復習しておくこと。
各回につき2時間以上の事前学習および2時間以上の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

小課題はコメントを付して返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。
正当な理由なく定期試験を欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標

授業内での評価	50	小課題	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	50	実技試験	5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Word 365 対策テキスト&問題集、FOM出版(富士通エフ・オー・エム株式会社)、2,310円(本体2,100円＋税)、ISBN:978-4-86775-069-8
参考書	コンピューターリテラシー Microsoft Office Word & PowerPoint編[改訂版]、花木泰子・浅里京子著、オーム社、2,640円 (本体2,400円＋税)、ISBN:978-4-274-22919-0
履修条件・他の科目との関連	「コンピュータ基礎演習I(ワープロ)」または同等の科目を受講済みであることが望ましい。 テキストは初回授業までに必ず購入しておくこと。

授業コード	22027601	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	ビジネスシミュレーション　［対面］				
シラバス執筆(全員)	安達　康生				
シラバス執筆(主)	安達　康生				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

企業において、業績の評価や意思決定を行うには、的確な情報分析及びシミュレーションが不可欠である。この授業では、ビジネスに関するデータ分析ならびにシミュレーション手法について解説する。また、各種演習課題を与え、表計算ソフトウェアExcelを活用し具体的なモデルに対して問題解決ができるよう指導する。
授業の形態は、講義及びコンピュータ演習を組み合わせたものである。

到達目標

1. ビジネスに関する各種データ分析手法を説明できる。
2. ビジネスに関する各種シミュレーション手法を説明できる。
3. ビジネスに関する分析やシミュレーションに必要な表計算ソフトウェアの機能を理解し活用することができる。
4. 表計算ソフトウェアを用いて、簡単なデータ分析を行うことができる。
5. 表計算ソフトウェアを用いて、簡単なシミュレーションを行うことができる。

授業計画

第1回　ビジネスシミュレーションの概要（授業の進め方・受講ルール、シミュレーションの概要）
第2回　表計算ソフトウェアの基本操作（四則演算、基本的関数の使い方、判断処理等）
第3回　クロス集計の基礎（ピボットテーブルの操作及び基本的集計）
第4回　クロス集計によるデータ分析（ピボットテーブルによる集計処理及び分析）
第5回　グラフ作成の基礎（表計算ソフトウェアによる各種グラフ作成）
第6回　データの可視化と分析（グラフによるビジネスデータの分析）
第7回　ゴールシークによる数値解法（ゴールシークの操作方法、目標値からの逆算方法、方程式の解法）
第8回　シナリオによるシミュレーション（シナリオの操作、シナリオによる各種検討項目の評価法）
第9回　ソルバーによる数値解法（ソルバーの操作方法、制約条件の設定、目標値からの逆算方法等）
第10回　近似曲線と予測（近似曲線の求め方、各種近似曲線の特色、回帰式による予測）
第11回　Zチャート（Zチャートの概要、移動合計・移動平均、売上動向等への応用）
第12回　ファンチャート（ファンチャートの概要、売上動向等への応用）
第13回　ABC分析（ABC分析の概要、データの並べ替え、商品管理等への応用）
第14回　総合演習（各種ビジネスシミュレーション手法とその応用）
第15回　学習のまとめ（これまでの学習内容の整理、最終課題等）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回に対応するテキストの内容を事前に熟読し概要を理解しておくこと。また事後には、学んだ例題・演習課題を一部改変した問題を自ら作成し、その解答を作成すること。

課題に対するフィードバックの方法

・課題の演習時に机間巡視を行い、各学生の演習内容について、間違い及び優れた点の指摘と助言等を行う。
・定期試験に代わるレポートの評価結果については希望があれば開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	演習課題の達成度(60)	3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート試験(30)	1, 2

その他	10	授業中の取り組み（10）	1, 2, 3, 4, 5

テキスト	Excel ビジネスデータ分析 徹底活用ガイド、平井明夫　著、技術評論社、2,480円（税別）、ISBN978-4-297-10300-2
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、一部内容を変更する場合がある。 ・「コンピュータ基礎演習II（表計算基礎）」を履修していること、あるいは同等のスキルがあることを前提とする。 ・「表計算演習」を並行して履修することが望ましい。 ・欠席した場合は、その回の学習内容・課題等をGoogle Classroomで確認し、期日までに課題を提出すること。

授業コード	22042201	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	インターネットビジネス　［対面］				
シラバス執筆(全員)	吉田　隆司				
シラバス執筆(主)	吉田　隆司				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業は、ディプロマポリシーに示される「情報リテラシー」「イノベーション創出力」「実践的な問題解決能力」を養うことを目的としています。カリキュラムマップにおいて、本授業は「デジタル時代のビジネススキル習得」に位置づけられ、学生がインターネットビジネスの基礎から応用までを学び、将来のキャリアに活かせる知識とスキルを身につけることを目指します。
　本授業では、インターネットビジネスの基礎知識から始め、EC（電子商取引）、デジタルマーケティング、データ分析、スタートアップ戦略までを幅広く概説します。教員は、実際のビジネス事例を交えながら、インターネットがビジネスに与える影響やその可能性を分かりやすく説明します。また、学生が主体的に学ぶために、グループワークやビジネスプランコンテストを通じて、実践的なスキルを習得する機会を提供します。

主体的な学びの促進
授業を通じて、グループで1つのインターネットを活用した架空のビジネスプランを構築していただきます。
最終授業で研究発表していただきます。評価対象はその構築したビジネスモデルとなります。
グループワーク：学生はグループで架空のインターネットビジネスを立ち上げ、そのビジネスプランを立案します。
プレゼンテーション：グループごとにビジネスプランを発表し、質疑応答を通じて深い学びを促します。
ケーススタディ：実際のインターネットビジネス事例を分析し、成功要因や課題を考察します。

　本授業は対面形式で実施しますが、必要に応じてオンラインツール（Zoom、Google Classroomなど）を活用し、柔軟な学びをサポートします。教員は、FM放送局FM802における、各種インターネットビジネスの起業経験を活かし、理論と実践を結びつけた授業を展開します。

到達目標

1.インターネットビジネスの基礎知識を説明し、その種類や特徴を具体的に説明できる。
2.EC（電子商取引）の仕組みを理解し、成功事例（Amazon、楽天など）を分析して説明できる。
3.デジタルマーケティング（SEO、SNSマーケティング、インフルエンサーマーケティングなど）の基本を理解し、その活用方法を提案できる。
4.オンライン広告（Google広告、Facebook広告など）の仕組みを理解し、その効果的な活用方法を説明できる。
5.サブスクリプションビジネスやプラットフォームビジネスの特徴を理解し、その成功要因を分析して説明できる。
6.インターネットを活用したスタートアップ事例（Uber、Airbnbなど）を理解し、起業の基礎知識を応用できる。
7.データ分析やビッグデータの重要性を理解し、インターネットビジネスにおけるデータ活用の方法を説明できる。
8.グループワークを通じて、インターネットを活用したビジネスプランを立案し、その内容をプレゼンテーションできる。
9.他者のビジネスプランを評価し、改善点を指摘できる。

授業計画

週 テーマ 内容
1 イントロダクション/インターネットビジネスの基礎 インターネットビジネスの種類と歴史を学ぶ。
2 EC（電子商取引）の仕組み Amazonや楽天などの成功事例を分析。
3 デジタルマーケティング入門 SEO、SNSマーケティング、インフルエンサーマーケティングの基礎。
4 オンライン広告の仕組み Google広告、Facebook広告の基本を解説。
5 サブスクリプションビジネス NetflixやSpotifyなどのビジネスモデルを学ぶ。
6 スタートアップと起業 インターネットを活用したスタートアップ事例（Uber、Airbnbなど）。
7 データ分析とビッグデータ インターネットビジネスにおけるデータの重要性と活用方法。
8 オンラインプラットフォームの活用　YouTube、Instagram、TikTokなどSNSを使ったビジネスモデルを学ぶ。
9 事例解説①&グループワーク① 架空のインターネットビジネスを立ち上げ、コンセプトを考える。
10 事例解説②&グループワーク② ビジネスプランの立案を進める。
11 事例解説③&グループワーク③ ビジネスプランのプレゼンテーション準備。
12 事例解説④&グループワーク④ ビジネスプランのプレゼンテーション準備。
13 グループワーク⑤ ビジネスプランのプレゼンテーション準備。
14 ビジネスプランコンテストリハーサルと改善。
15 ビジネスプランコンテスト グループごとにビジネスプランを発表し、フィードバックを受ける。総括
※受講生の習得度合いに応じて授業項目の変更もありうる

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

週 事前学習

2 ECで自分が普段使っているAmazon、楽天などの利点についてまとめておく（30分）。
3 X、instagram、TikTokなどれでもいいのでアカウントを持っていない者はSNSアカウントを作成しておく（30分）。
4 インターネット広告について、最近気になったモノをチェックしておく（30分）。
5 NetflixやSpotifyなどサブスクリプションサービスの利用メリットをまとめておく（30分）。
6 UberやAirbnbなどのオンラインサービスについて調べておく（30分）。
7 授業で学んだ内容を基に、データ活用の具体例を調べる（30分）。
8 授業で学んだ内容を基に、YouTubeやTikTokのビジネスモデルを分析する（30分）。
9 どんなビジネスがいいのかアイデアをまとめておく（30分）。
10グループ内でディスカッションできるように要点をまとめておく（１時間）。
週 事後学習
1 授業で学んだ内容を基に、インターネットビジネスの種類をノートにまとめる（1時間）。
2 授業で学んだ内容を基に、成功事例（Amazon、楽天など）を分析する（1時間）。
3 授業で学んだSEOやSNSマーケティングについて、具体例を挙げて説明できるようにする（1時間）。
4 授業で学んだGoogle広告やFacebook広告について、その効果的な活用方法をノートにまとめる（1時間）。
5 授業で学んだ内容を基に、NetflixやSpotifyのビジネスモデルを分析する（1時間）。 6 授業で学んだ内容を基に、UberやAirbnbの成功要因をノートにまとめる（1時間）。 7 授業で学んだ内容を基に、データ活用の具体例を調べる（1時間）。
8 授業で学んだ内容を基に、YouTubeやTikTokのビジネスモデルを分析する（1時間）。
9 グループワークで話し合った内容を整理し、次の授業に向けて準備する（1時間）。
10グループワークで立案したビジネスプランをさらにブラッシュアップする（1時間）。
11プレゼンテーションの準備を行う（1時間）。
12プレゼンテーションの準備を行う（1時間）。
13プレゼンテーションリハーサルの準備を行う（1時間）。
14プレゼンテーションの最終準備を行う（1時間）。
15プレゼンテーション授業全体の振り返りを行い、学んだ内容を整理し、インターネットビジネスの未来について、自分なりの考えをまとめ最終提出資料を整える（1時間）。

課題に対するフィードバックの方法

中間レポートは、評価基準表（ルーブリック）に基づく評価結果を付してフィードバックします。
グループワークの成果は、授業内で講評し、改善点をフィードバックします。
最終授業時に課題に対する全体講評を行います。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績評価は、授業内での評価（50）、授業外での評価（20）、定期試験に代わるレポート（30）の3つで構成されます。
正当な理由なく4回以上欠席した場合は、K評価（評価不能）とします。
定期試験に代わる最終レポートを未提出の場合も、K評価とします。
成績評価の種類 *評価割合（%） 評価方法・割合 評価対象となる到達目標
授業内での評価 50 授業中のディスカッション・発言 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9を評価。
授業外での評価 20 中間レポート(自分が最も利用しているインターネットサービスとなぜそれを利用しているのかについて) 1, 2, 3, 4, 5, 6を評価。
定期試験 最終研究発表とその資料レポート提出に代える 。
定期試験に代わるレポート等 30 最終発表と資料レポート提出 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9を総合的に評価。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内でのディスカッション、発言、質問等、積極的な授業参加を評価します。	1.2.3.4.5.6.7.8.9.
授業外での評価	20	自分の言葉でしっかりと理由が語られている内容を評価します。	1.2.5.
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	期末レポート(研究発表の内容について、内容よりもその過程を評価する。さらに独自性があるものにはプラス評価をする。)	6.7.8.9
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない
参考書	必要に応じて授業のなかで紹介する
履修条件・他の科目との関連	積極的に授業に参加していただくことが高評価につながります。無理せず楽しく学ぶことをモットーに進めさせていただきます。インターネットで実際に個人でも収益を上げられるような体験もしていただきたいと考えています。 また、この科目履修の前後で「情報社会のしくみ」、マーケティングに関する科目を履修することで理解が深まり、スキルアップが期待できます。ぜひご検討ください。

授業コード	22028301	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	情報総合演習　［対面］				
シラバス執筆(全員)	安達　康生				
シラバス執筆(主)	安達　康生				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

ビジネスで活躍し広く社会の問題解決を行うためには、潜在的な課題を発見し対応していく「課題発見力」や、すでに発生している問題に対して的確な手法をもって解決に導く「問題解決力」が必要不可欠である。このような問題発見や課題解決に取り組む手法の1つに「ロジカルシンキング」がある。
ロジカルシンキングとは、物事を筋道立てて矛盾がないように考える思考法という意味で、この授業では、ロジカルシンキングの考え方・手法について解説し、それらを用いて課題を発見しその解決を図るための演習を個人あるいはグループ単位で行う。
具体的には、MESHというセンサーツールを用いてコンピュータを活用して、試行錯誤をしながら失敗と成功の体験を通してロジカルシンキングを学ぶことを目的とする。また文書やスライドを作成し、問題解決のためのプレゼンテーションができるように指導する。

到達目標

1. 問題発見の基本的な流れを説明できる。
2. 問題解決の一連の流れを説明できる。
3. ロジカルシンキングの概要を説明できる。
4. ExcelやPowerPointのSmartArt機能を使いこなすことができる。
5. PowerPointを用いて分析結果をプレゼンテーション資料としてまとめることができる。

授業計画

第1回　オリエンテーション・ロジカルシンキングの概要
第2回　ロジカルシンキングの基本となる思考
第3回　MESHの基本動作の説明
第4回　各センサーツールの紹介(1)
第5回　各センサーツールの紹介(2)
第6回　MESHとPCの連携
第7回　グループ課題の説明
第8回　問題発見のための情報収集・資料作成
第9回　問題解決プロセスの実践（１）（問題発見）
第10回　問題解決プロセスの実践（２）（原因分析）
第11回　問題解決プロセスの実践（３）（解決手段の検討）
第12回　発表用スライドの作成（１）（スライドの作成）
第13回　発表用スライドの作成（２）（スライドの最適化）
第14回　プレゼンテーションと評価
第15回　プレゼンテーションと評価（予備）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

・事前にはあらかじめ提示された資料を読んで準備をしておくこと。
・事後には、授業中に出題された課題を完成させておくこと。
・第1回については事後学習2.5時間、他の回はそれぞれ事前学習1.5時間、事後学習2.5時間を要する。このほか発表準備としてさらに1.5時間を要する。

課題に対するフィードバックの方法

・授業内の課題については、机間巡視により理解度を把握し、間違いや優れた点の指摘、助言等を行う。
・最終発表と定期試験に代わるレポートの評価結果については希望があれば開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

・以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
・正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	演習課題の達成度(30) プレゼンテーション(40)	4, 5

授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート試験	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・Word、Excel、PowerPointの基本的な使い方を修得していること。 ・欠席した場合、Google Classroomの資料などを見る、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22042401	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	海外観光資源Ⅰ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	加藤　淳一				
シラバス執筆(主)	加藤　淳一				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的･概要

「海外観光資源」は、観光学を学ぶ上で基礎となる科目である。
観光資源の名称だけではなく、その特徴や文化的背景、歴史などとともに、地図上での位置を把握することも重要である。このため、サブノートや白地図を活用しながら各週の授業テーマに沿った事前・事後学習課題を通して、観光資源の位置関係を把握出来るよう指導する。
授業では、スライドや動画等も活用して重要な観光資源の講義と学生のプレゼンテーションで進める。

●海外観光資源Ⅰ（1年後期）では、アジア、南北アメリカ、オセアニアの研究を行う。
●海外観光資源Ⅱ（2年前期）では、ヨーロッパ、中近東、アフリカの研究を行う。

到達目標

1.観光学の土台になる海外観光資源の基礎知識を説明できる。
2.海外の観光資源の名称やその文化的背景・歴史に関する知識を説明できる。
3.事前学習課題で研究・調査したことをプレゼンテーションすることができる。
4.旅行業務取扱管理者試験（国家資格）の受験対策としても応用できる。

授業計画

【第1回】オリエンテーション
　授業の概要や進め方、テキスト・サブノート・白地図の活用方法や事前・事後学習の方法、成績評価方法などについて説明
【第2回】アジアの観光資源①（韓国、中国北部）
　アジアの観光資源についての講義と学生の事前学習課題の発表
【第3回】アジアの観光資源②（中国南部・香港・マカオ・台湾、シルクロード・チベット）
　アジアの観光資源についての講義と学生の事前学習課題の発表
【第4回】アジアの観光資源③（東南アジアⅠ、Ⅱ）
　アジアの観光資源についての講義と学生の事前学習課題の発表
【第5回】アジアの観光資源④（インド・ネパール・スリランカ・モルディブ、パキスタン・アフガニスタン・中央アジア）
　アジアの観光資源についての講義と学生の事前学習課題の発表
【第6回】アジアの観光資源（アジア地域の世界遺産）
　アジアの観光資源についての講義と学生の事前学習課題の発表、小テスト①（アジア地域）
【第7回】北アメリカの観光資源①（米国）
　南北アメリカの観光資源についての講義と学生の事前学習課題の発表
【第8回】北アメリカの観光資源②（ハワイ州、カナダ）
　南北アメリカの観光資源についての講義と学生の事前学習課題の発表
【第9回】中央アメリカの観光資源③（中米）
　南北アメリカの観光資源についての講義と学生の事前学習課題の発表
【第10回】北・中央アメリカの観光資源（北・中央アメリカ地域の世界遺産）
　南北アメリカの観光資源についての講義と学生の事前学習課題の発表、小テスト②（北・中央アメリカ地域）
【第11回】南アメリカの観光資源（カリブ諸島、南米）
　オセアニアの観光資源についての講義と学生の事前学習課題の発表
【第12回】オセアニアの観光資源（オーストラリア、ニュージーランド）
　オセアニアの観光資源についての講義と学生の事前学習課題の発表
【第13回】南太平洋の観光資源（グアム・サイパン・南太平洋）
　オセアニアの観光資源についての講義と学生の事前学習課題の発表
【第14回】南アメリカ・オセアニアの観光資源（南アメリカ・オセアニア地域の世界遺産）
　オセアニアの観光資源についての講義と学生の事前学習課題の発表、小テスト③（南アメリカ・オセアニア地域）
【第15回】全体総括
　アジア、南北アメリカおよびオセアニアをテーマに学習した項目の全体総括

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前】各回の授業テーマに該当するテキスト・サブノート対応部分に目を通し、解答すると共に、関連する内容・役割・動向をインターネットなどで情報収集し、内容を取りまとめておく。
また、毎回PowerPointによるプレゼンテーションを行うので、指名された学生はプレゼンテーションの準備を行い、授業前日までに担当教員へPowerPointを送信すること（各2時間）。
【事後】授業で学んだ内容を振り返り、知識の定着を図ると共に、疑問な点を発見した場合は、まず自身で調べ、それでも不明な部分は教員へ連絡する（各1.5時間）。
この他、授業全体の振り返りやまとめ、および最終レポート作成として、8時間程度の学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

全体に向け、課題やレポートに対しての振り返りとフィードバックを行うと共に、必要に応じて個人に対し、課題やレポートのコメントなどをClassroomやOIUメール、または直接口頭で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、正当な理由なく、欠席の回数が授業回数の1/3を超える（6回以上欠席）の場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	55	理解度を確認するために、小テストを実施(20) プレゼンテーション評価(10) 全体を通してのまとめテスト(25)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	白地図(15)、サブノート(5)の作成内容を評価	1, 2, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	最終レポートの内容を評価	1, 2, 4
その他	15	授業に関する発言・質問、受講態度・マナーを評価	1, 2, 3

テキスト	海外観光資源(JTB総合研究所、3,500円、978-4910578088) 海外観光地理サブノート(JTB総合研究所、1,430円、978-4902772807) 世界白地図(JTB総合研究所、620円)
参考書	旅に出たくなる地図:世界(帝国書院) その他、必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	観光実務士の資格取得に必要な選択科目であり、旅行業務取扱管理者試験の受験対策内容を含む。 海外観光資源の理解を深めるため、「海外観光資源Ⅱ」も履修することが望ましい。 進行によっては、授業計画の順序や内容を変更することがある。 なお、欠席者に対しては、次回の出席時に授業の前後で個別にてフォローを行うと共に、配布物があった場合は、配布する。

授業コード	22042501	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	海外観光資源Ⅱ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	加藤　淳一				
シラバス執筆(主)	加藤　淳一				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的･概要

「海外観光資源」は、観光学を学ぶ上で基礎となる科目である。
観光資源の名称だけではなく、その特徴や文化的背景、歴史などとともに、地図上での位置を把握することも重要である。このため、サブノートや白地図を活用しながら各週の授業テーマに沿った事前・事後学習課題を通して、観光資源の位置関係を把握出来るよう指導する。
授業では、スライドや動画等も活用して重要な観光資源の講義と学生のプレゼンテーションで進める。

●海外観光資源Ⅰ（1年後期）では、アジア、南北アメリカ、オセアニアの研究を行う。
●海外観光資源Ⅱ（2年前期）では、ヨーロッパ、中近東、アフリカの研究を行う。

到達目標

1.観光学の土台になる海外観光資源の基礎知識を説明できる。
2.海外の観光資源の名称やその文化的背景・歴史に関する知識を説明できる。
3.事前学習課題で研究・調査したことをプレゼンテーションすることができる。
4.旅行業務取扱管理者試験（国家資格）の受験対策としても応用できる。

授業計画

【第1回】オリエンテーション
　授業の概要や進め方、テキスト・サブノート・白地図の活用方法や事前・事後学習の方法、成績評価方法などについて説明
【第2回】中近東・アフリカの観光資源①（中東Ⅰ、Ⅱ）
　中近東・アフリカ諸国の観光資源について講義と学生の事前学習課題の発表
【第3回】中近東・アフリカの観光資源②（トルコ、エジプト）
　中近東・アフリカ諸国の観光資源について講義と学生の事前学習課題の発表
【第4回】中近東・アフリカの観光資源③（アフリカ北部、東部）
　中近東・アフリカ諸国の観光資源について講義と学生の事前学習課題の発表
【第5回】中近東・アフリカの観光資源④（南アフリカ・マダガスカル・セーシェル）
　中近東・アフリカ諸国の観光資源について講義と学生の事前学習課題の発表、小テスト①（中東・アフリカ地域）
【第6回】ヨーロッパの観光資源①（英国）
　ヨーロッパ諸国の観光資源について講義と学生の事前学習課題の発表
【第7回】ヨーロッパの観光資源②（北欧、スペイン・ポルトガル）
　ヨーロッパ諸国の観光資源について講義と学生の事前学習課題の発表
【第8回】ヨーロッパの観光資源③（フランス）
　ヨーロッパ諸国の観光資源について講義と学生の事前学習課題の発表
【第9回】ヨーロッパの観光資源④（ベネルクス3国、スイス・オーストリア）
　ヨーロッパ諸国の観光資源について講義と学生の事前学習課題の発表、小テスト②（ヨーロッパ地域（1））
【第10回】ヨーロッパの観光資源⑤（ドイツ）
　ヨーロッパ諸国の観光資源について講義と学生の事前学習課題の発表
【第11回】ヨーロッパの観光資源⑥（イタリア・バチカン市国・サンマリノ・マルタ）
　ヨーロッパ諸国の観光資源について講義と学生の事前学習課題の発表
【第12回】ヨーロッパの観光資源⑦（中欧、東欧）
　ヨーロッパ諸国の観光資源について講義と学生の事前学習課題の発表
【第13回】ヨーロッパの観光資源⑧（ギリシャ、バルト3国）
　ヨーロッパ諸国の観光資源について講義と学生の事前学習課題の発表
【第14回】ヨーロッパの観光資源⑨（ロシア・ウクライナ・ジョージア）
　ヨーロッパ諸国の観光資源について講義と学生の事前学習課題の発表、小テスト③（ヨーロッパ地域（2））
【第15回】全体総括
　中近東・アフリカ諸国およびヨーロッパ諸国をテーマに学習した項目の全体総括

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前】各回の授業テーマに該当するテキスト・サブノート対応部分に目を通し、解答すると共に、関連する内容・役割・動向をインターネットなどで情報収集し、内容を取りまとめておく。
また、毎回PowerPointによるプレゼンテーションを行うので、指名された学生はプレゼンテーションの準備を行い、授業前日までに担当教員へPowerPointを送信すること（各2時間）。
【事後】授業で学んだ内容を振り返り、知識の定着を図ると共に、疑問な点を発見した場合は、まず自身で調べ、それでも不明な部分は教員へ連絡する（各1.5時間）。
この他、授業全体の振り返りやまとめ、および最終レポート作成として、8時間程度の学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

全体に向け、課題やレポートに対しての振り返りとフィードバックを行うと共に、必要に応じて個人に対し、課題やレポートのコメントなどをClassroomやOIUメール、または直接口頭で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、正当な理由なく、欠席の回数が授業回数の1/3を超える（6回以上欠席）の場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	理解度を確認するために、小テストを実施(25) プレゼンテーション評価(10)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	25	白地図(20)、サブノート(5)の作成内容を評価	1, 2, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	最終レポートの内容を評価	1, 2, 4
その他	15	授業に関する発言・質問、受講態度・マナーを評価	1, 2, 3

テキスト	※「海外観光資源Ⅰ」を履修し、下記教材を既に所持している場合は、新たに購入する必要はありません。 海外観光資源(JTB総合研究所、3,500円、978-4910578088) 海外観光地理サブノート(JTB総合研究所、1,430円、978-4902772807) 世界白地図(JTB総合研究所、620円)
参考書	旅に出たくなる地図:世界(帝国書院) その他、必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	観光実務士の資格取得に必要な選択科目であり、旅行業務取扱管理者試験の受験対策内容を含む。 海外観光資源の理解を深めるため、「海外観光資源Ⅰ」を単位取得もしくは履修していることが望ましい。 進行によっては、授業計画の順序や内容を変更することがある。 なお、欠席者に対しては、次回の出席時に授業の前後で個別にてフォローを行うと共に、配布物があった場合は、配布する。

授業コード	22019101	授業形態	演習	実務家教員	○
授業科目名	地域と観光演習　［対面］				
シラバス執筆(全員)	加藤　淳一				
シラバス執筆(主)	加藤　淳一				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

人口増加が期待できない時代において、「観光戦略」は“地方創生”のひとつの大きなテーマとなっている。
実際、“これっ”といった観光資源を有していなかった地域が、知恵と工夫によって人を集め、地域活力を高めている。
地域の観光資源を「発見すること」、そして発見した資源をもとに「活用すること」、そして「実践すること」に取り組むことで、地域観光の担い手としての意欲や能力を高められるような講義を行なう。
また「地域ならではの最大の魅力素材（観光資源）」である地域の暮らしぶりや地域に住む人々の心意気（もてなしの心や人情等）、史跡や神社仏閣、特産物、気候・風土、植生・山里の文化といった、先人たちが地域での営みや自然との関わりの中で連綿と培ってきた風土・暮らしぶりを再認識することで地域の魅力資源を再発見、そして発信出来るよう実務経験をもとに、受講生の将来に役立つ講義を実施する。

到達目標

1.地域観光資源の意義や重要性について判断できる。
2.地域観光資源において、どのような課題が生じているのか説明できる。
3.地域観光資源の課題を解決するための様々な方法を応用できる。

授業計画

【第1回】　オリエンテーション：授業の概要や進め方、成績評価方法などについて説明
【第2回】　PBLとは？（PBLについて学ぶ）
【第3回】　PBLの実践に向けた基本的なグループワーク（身近なテーマについて、グループワークを実施する）
【第4回】　PBLの実践に向けた基本的なグループワーク（身近なテーマについて、グループにてプレゼンテーションする）
【第5回】　地域観光資源を知るための基礎学習（グループワークにて、身近な地域観光資源の課題を見つける）
【第6回】　地域観光資源を知るための基礎学習（グループワークにて、課題解決の方法を検討する）
【第7回】　地域観光資源を知るための基礎学習（グループにて、課題解決策をプレゼンテーションする）
【第8回】　外部講師による特別授業
【第9回】　課題解決策の立案（グループワークにて、地域観光資源の課題について検討する）
【第10回】課題解決策の立案（グループワークにて、課題解決に向けたアイデアを出し合う）
【第11回】課題解決策の立案（グループワークにて、課題解決案を練り上げる）
【第12回】最終発表会の準備
【第13回】最終発表会
【第14回】最終発表会
【第15回】まとめと振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

第1回・第15回は事後学習2時間、第2回～第14回は事前学習各1時間・事後学習各3時間をそれぞれ要する（内容は初回に指示、もしくは各回で説明する）。
このほかレポート作成に4時間を要する。

課題に対するフィードバックの方法

全体に向け、課題やレポートに対しての振り返りとフィードバックを行うと共に、必要に応じて個人に対し、課題やレポートのコメントなどをClassroomやOIUメール、または直接口頭で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、正当な理由なく、欠席の回数が授業回数の1/3を超える（6回以上欠席）の場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	グループワークへの積極的な取り組み姿勢(30)、プレゼンテーション(30)を評価	1, 2, 3

授業外での評価	10	レポートや課題の提出状況や内容を評価	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	最終レポートの内容を評価	1, 2, 3
その他	20	授業に関する発言・質問、受講態度・マナーを評価	1, 2, 3

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、プリントを配布する。
参考書	必要に応じて、授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	観光実務士の資格取得に必要な必修科目である。 グループでの討議や調査、発表などを多く取り入れて進めるので、受け身や消極的な態度ではなく、積極的に参加する姿勢を期待する。 土・日・祝など休日を利用したフィールドワークを行う可能性がある。 進行によっては、授業計画の順序や内容を変更することがある。 なお、欠席者に対しては、次回の出席時に授業の前後で個別にてフォローを行なうと共に、配布物があった場合は、配布する。

授業コード	22025101	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	旅行業特講Ⅰ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	深見　智恵子				
シラバス執筆(主)	深見　智恵子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的･概要

国内旅行業務取扱管理者試験（国家資格）に関連する事項の学習科目。

旅行業界では、「旅行業法」により営業が行われている。また、業務における対価は「旅行業約款」にて決められ収受している。
これら「旅行業法」と「旅行業約款」について説明する。

本講義では旅行業務取扱管理者試験の問題を中心に、「旅行業法」と「旅行業約款」について解説を行う。

到達目標

国内旅行業務取扱管理者試験を受験する際の
1. 基礎的な事項(国家試験の内容や業法の目的など)を説明できる
2. 旅行業で必要な基本知識を持っている
3. 旅行業で必要な能力を身に付けている
これらに加え、
4. 旅行会社の仕事(カウンター業務)に必要な知識をもっている

授業計画

【第1回】　プロローグ(ガイダンス)
【第2回】　旅行業法①（1.目的　2.登録制度）
【第3回】　旅行業法②（1.営業保証金制度 2.供託金）
【第4回】　旅行業法③（1.旅行業務取扱管理者 2.旅程管理者）
【第5回】　旅行業法④（1,旅行取引に関する諸規則 2.契約 3.特約）
【第6回】　旅行業法⑤（1.旅程管理 2.添乗員）
【第7回】　旅行業法⑥（1.禁止 2.業務改善命令）
【第8回】　旅行業法⑦（1.旅行業協会 2.消費者保護）
【第9回】　旅行業約款①（募集型企画旅行）
【第10回】　旅行業約款②（受注型企画旅行）
【第11回】　旅行業約款③（手配旅行）
【第12回】　旅行業約款④（1.旅行相談契約 2.手続代行契約）
【第13回】　旅行業約款⑤（特別保証）
【第14回】　旅行業約款⑥（解除）
【第15回】　エピローグ(まとめ・質疑応答)

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

予習は講義で行ったテキストの、次の単元を事前に学習してくること。
復習は必ず行い、理解できない場合は必ず質問すること。

【第1回】
事前　シラバスを熟読し、旅行業法と旅行業約款は何かを調べておく。　1.5時間
事後　旅行業法の必要性を理解する。　2.5時間

【第2回】
事前　旅行業法の.目的、登録制度は何か調べてくる。　1.5時間
事後　旅行業者と旅行者の違いを理解する。　2.5時間

【第3回】
事前　営業保証金制度、供託金とは何か調べてくる。　1.5時間
事後　保証金と供託金の違いを理解する。　2.5時間

【第4回】
事前　旅行業務取扱管理者、旅程管理者とは何か調べてくる。　1.5時間
事後　旅行業務取扱管理者と旅程管理者の違いを理解する。　2.5時間

【第5回】
事前　旅行取引に関する諸規則、契約、特約につて調べてくる。　1.5時間
事後　旅行取引について契約について理解する。　2.5時間

【第6回】

事前　旅程管理と添乗員について調べてくる。　1.5時間
事後　添乗員の仕事について理解する。　2.5時間

【第7回】
事前　禁止事項、業務改善命令について調べてくる。　1.5時間
事後　旅行業者と旅行者それぞれの禁止事項を理解する。　2.5時間

【第8回】
事前　旅行業協会の仕事について調べてくる。　1.5時間
事後　旅行に関する消費者保護について理解する。　2.5時間

【第9回】
事前　募集型企画旅行とは何か調べてくる。　1.5時間
事後　募集型企画旅行の実例を考える。　2.5時間

【第10回】
事前　受注型企画旅行とは何か調べてくる。　1.5時間
事後　受注型企画旅行の実例を考える。　2.5時間

【第11回】
事前　手配旅行とは何か調べてくる。　1.5時間
事後　手配旅行の実例を考える。　2.5時間

【第12回】
事前　旅行相談契約と手続代行契約とは何か調べてくる。　1.5時間
事後　旅行相談契約と手続代行契約の違いを理解する。　2.5時間

【第13回】
事前　特別保証とは何か調べてくる。　1.5時間
事後　特別保証の種類と内容を理解する。　2.5時間

【第14回】
事前　旅行の解除について調べてくる。　1.5時間
事後　旅行の解除について、旅行業者と旅行者の方法の違いについて理解する。　2.5時間

【第15回】
事前　これまでの全体を振り返り、わからないことをまとめてくる。　1.5時間
事後　国家試験の問題を繰り返し解く。　2.5時間

課題に対するフィードバックの方法

毎回小テストを行う(国家試験の過去問題の場合あり)。
内容は前回の復習、または、当日の復習とする。
後日、解説をおこなう。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

毎回行う小テスト、課題提出、定期試験、授業態度により総合的に判断し、60点以上を合格とする。
正当な理由がない欠席6回以上、課題提出が著しく悪い、定期試験未受験、これらの場合は評価対象とはしない。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	授業内の参加姿勢と質問への返答内容や予習・復習具合(10)、授業内課題等(10)	1.2.3.4
授業外での評価	30	提示される課題を翌週に提出(5)x6回 ＊期日に遅れた場合は減点	1.2
定期試験	50	国家試験形式の問題を含めた筆記試験	1.2.3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	テキストは授業内で指示する
参考書	・U-CAN「国内・総合旅行業務取扱管理者 速習レッスン」(ユーキャンの資格試験シリーズ) ￥3,080- ・旅行業実務シリーズ(㈱JTB総合研究所) 「1. 旅行業法及びこれに基づく命令」￥3,500- 「2. 運送・宿泊約款」¥3,500-

履修条件・他の科目との関連	① 国家試験「国内旅行業務取扱管理者」受験者の必須科目である。国家試験を受験する者が受講してもらいたい。 ② 国家試験を受験する場合は「旅行業特講Ⅱ」「旅行業特講Ⅲ（集中）」も履修すること。 ③ 1回の欠席で理解できなくなるので、気を抜かず必ず全出席すること。 ④ 予習・復習は各自必ず行うこと。 Schedules are subject to change without notice.

授業コード	22044101	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	旅行業特講Ⅱ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	深見　智恵子				
シラバス執筆(主)	深見　智恵子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的･概要

国内旅行業務取扱管理者試験（国家資格）に関連する事項の学習科目。

国内旅行における移動は、鉄道・航空・フェリーを利用する。
団体旅行になれば、これに貸切バスが加わる。
多岐にわたる交通とその料金・運賃計算と旅行業法などについて解説する。

本講義では旅行業務取扱管理者試験の問題を中心に、JR運賃&料金・国内航空運賃・フェリー運賃計算の方法について講義を行う。

到達目標

旅行業務取扱管理者試験における科目の中で、JR・国内航空・フェリー・貸切バスについて、
1. 運賃と料金の違いを説明することができる
2. JR・国内航空・フェリー・貸切バス、それぞれの運賃・料金の異なる点を説明できる
3. JR・国内航空・フェリー・貸切バス、それぞれの運賃・料金の計算ができる
4. 国家試験の問題を解答できる

授業計画

【第1回】　プロローグ(ガイダンス)
【第2回】　国内航空運送約款①（航空運賃・料金の基礎知識）
【第3回】　国内航空運送約款②（割引運賃）
【第4回】　国内航空運送約款③（都市コード(3レターコード)）
【第5回】　貸切バス運送約款①（貸切バスの運賃・料金の基本）
【第6回】　貸切バス運送約款②（計算方法）
【第7回】　フェリー標準運送約款
【第8回】　JR営業規則
【第9回】　JR運賃・料金①（幹線・地方交通線、小児・幼児料金）
【第10回】　JR運賃・料金②（営業キロ・換算キロ・擬制キロ・運賃計算キロ、境界駅）
【第11回】　JR運賃・料金③（営業キロの通算・打ち切り、通過連絡運輸、特定区間、）
【第12回】　JR運賃・料金④（学生割引・往復割引、特急料金、寝台料金、グリーン料金）
【第13回】　JR運賃・料金⑤（新幹線の乗継、在来線の乗継、料金を通算できない特例）
【第14回】　JR運賃・料金⑥（団体旅客扱い、乗車変更、払い戻し）
【第15回】　エピローグ(まとめ・質疑応答)

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

予習は講義で行ったテキストの、次の単元を事前に学習してくること。
復習は必ず行い、理解できない場合は必ず質問すること。

【第1回】
事前　シラバスを熟読し、運賃と料金は何かを調べておく。　1.5時間
事後　JR・航空・フェリーなど公共交通機関の運賃と料金の違いを覚える。　2.5時間

【第2回】
事前　約款に意味は何か調べる。　1.5時間
事後　国内航空運送とJR運送約款の違いを理解する。　2.5時間

【第3回】
事前　国内航空運送約款を調べてくる。　1.5時間
事後　旅客の補償について確認をする。　2.5時間

【第4回】
事前　国内航空運賃について調べてくる。　1.5時間
事後　航空会社ごとの航空運賃につて確認をする。　2.5時間

【第5回】
事前　貸切バスを使う理由を考えてくる。　1.5時間
事後　貸切バスの地域による違いについて理解する。　2.5時間

【第6回】
事前　貸切バスの計算方法を調べてくる。　1.5時間
事後　貸切バスの各種計算問題を行う。　2.5時間

【第7回】
事前　フェリー標準運送約款について調べてくる。　1.5時間
事後　フェリーの各種計算問題を行う。　2.5時間

【第8回】
事前　JR時刻表を入手し、ピンクのページを読んでおく。　1.5時間
事後　運賃と料金の違いを確認する。　2.5時間

【第9回】
事前　実際に最寄りのJR駅の運賃表を調べ、そのもととなるものを考えてくる。　1.5時間
事後　営業キロと運賃の関係を確認する。　2.5時間

【第10回】
事前　営業キロの計算について調べてくる。　1.5時間
事後　運賃計算の各種計算問題を解く。　2.5時間

【第11回】
事前　例外のある場合の運賃計算を調べてくる。　1.5時間
事後　運賃計算の複雑な計算問題を解く。　2.5時間

【第12回】
事前　JR料金の種類につて調べてくる。　1.5時間
事後　料金計算の各種計算問題を解く。　2.5時間

【第13回】
事前　半額になる料金とならない料金について調べてくる。　1.5時間
事後　料金計算の複雑な計算問題を解く。　2.5時間

【第14回】
事前　団体の種類について調べてくる。　1.5時間
事後　団体の計算・払い戻しの計算問題を解く。　2.5時間

【第15回】
事前　これまでの全体を振り返り、わからないことをまとめてくる。　1.5時間
事後　国家試験の問題を繰り返し解く。　2.5時間

課題に対するフィードバックの方法

毎回小テストを行う(国家試験の過去問題の場合あり)。採点後返却する。
内容は前回の復習、または、当日の復習とする。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

毎回授業内で実施する小テストや課題提出、定期試験、授業態度により総合的に判断し、60点以上を合格とする。
正当な理由がない欠席6回以上、課題提出が著しく悪い、定期試験未受験、これらの場合は評価対象とはしない。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	小テストや授業内課題提出等(15)、講義への参加姿勢(5)を含めて判断する。	1.2.3
授業外での評価	20	課題を翌週に提出する(2)x10回	2.3
定期試験	60	国家試験形式の問題を含め筆記試験を行う	3.4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	テキストは授業内で指示する
参考書	・U-CAN「国内・総合旅行業務取扱管理者 速習レッスン」(ユーキャンの資格試験シリーズ)￥3,080- ・JR時刻表(交通新聞社)￥1,375- ・旅行業実務シリーズ「3. 国内運賃・料金」(㈱JTB総合研究所)￥3,500- ＊参考書は指示をするまで購入しないこと。

履修条件・他の科目との関連	① 国家資格試験「国内旅行業務取扱管理者」受験者の必須科目である。 ② 国家資格試験受験希望者は「旅行業特講I」「旅行業特講III（集中）」「国内観光資源」も履修することが望ましい。 ③ 1回の欠席で全く理解できなくなるので、気を抜かず必ず全出席すること。 ④ 復習は各自必ず行うこと。 ⑤ 指示をした日以降は電卓を持参すること。忘れた場合はこの科目に対する受講意思がないものと判断する。 ＊国家資格試験を受験希望する者が履修してほしい ＊進行によっては授業計画の順序が前後したり、一部を変更する場合がある Schedules are subject to change without notice.

授業コード	22044201	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	旅行業特講Ⅲ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	深見　智恵子				
シラバス執筆(主)	深見　智恵子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的･概要

国内旅行業務取扱管理者試験（国家資格）に関連する事項の学習科目。

本講義では、試験科目となる「旅行業法」「旅行業約款」「国内運賃・料金」「国内観光地理」の総復習を集中講義で行う。
そのために「旅行業特講Ⅰ」および「旅行業特講Ⅱ」「国内観光資源」の受講生が望ましい。

国家資格受験を目標とするため、予習と復習が必須であり、自立した学ぶ姿勢を必要とする。
旅行業務取扱管理者試験問題を想定した演習を中心に、毎回テストを実施し解説を行う。

講義は内容は前回の復習内容、または、当日の予習内容とする。
国家資格試験受験対策に必要な課題(宿題)を必要に応じて指示する場合もある。

到達目標

1. 基礎的な事項(国家試験の内容や業法の目的など)を説明できる
2. 旅行業法や旅行業約款について理解し、説明できる
3. JR・国内航空・フェリー・貸切バス、それぞれの運賃・料金の計算ができる
4. 国内観光資源の説明ができる

これらに加え

5. 旅行会社の仕事(カウンター業務)に必要な知識をもっている

授業計画

基本、授業で試験を実施する。
予習・復習は必ずおこなうこと。

【第1回】　旅行業法令 まとめと演習
旅行業法令の重要ポイントの復習

【第2回】　旅行業法令 まとめと演習
旅行業法令の重要ポイントの復習し、演習をおこなう

【第3回】　国内地理 演習・国内旅行業務 （フェリー・貸し切りバス）演習
国内地理、国内旅行業務のそれぞれの演習問題を解く

【第4回】　国内旅行業務 （宿泊・国内航空運賃）演習
国内旅行業務のそれぞれの演習問題を解く

【第5回】　国内旅行業務 （宿泊・国内航空運賃）演習
国内旅行業務のそれぞれの演習問題を解く

【第6回】　国内観光地理 演習
ジャンル別や都道府県別など、様々な側面からの演習問題を解く

【第7回】　国内旅行実務 （JR運賃）まとめと演習
JR運賃計算の重要ポイントの復習し、演習問題を解く

【第8回】　国内旅行実務 （JR運賃）まとめと演習
JR運賃計算の重要ポイントの復習し、演習問題を解く

【第9回】　国内旅行実務 （JR料金）まとめと演習
JR料金計算の重要ポイントの復習し、演習問題を解く

【第10回】　国内旅行実務 （JR料金）まとめと演習
JR料金計算の重要ポイントの復習し、演習問題を解く

【第11回】　国内観光地理 演習
ジャンル別や都道府県別など、様々な側面からの演習問題を解く

【第12回】　約款 まとめと演習
旅行業約款と各種約款の重要ポイントを復習

【第13回】　約款 まとめと演習
旅行業約款と各種約款の重要ポイントを復習

【第14回】　模擬試験
これまでの総復習と疑問点の克服をおこない、本年度の試験に対応した模擬試験問題を本番と同様の環境でおこなう

【第15回】　模擬試験の解答・解説
模擬試験の欠点を検証

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

前回までの講義内容を確認し復習しておくこと。
分からない部分は次回までに理解すること。

【第1回】
事前　国内旅行業務取扱管理者試験の過去問題を数多く行う。　1.5時間
事後　旅行業法の目的を理解する。　2.5時間

【第2回】
事前　旅行業登録・旅程管理・営業保証金を覚えてくる。　1.5時間
事後　旅行業法の全体を理解する。　2.5時間

【第3回】
事前　フェリー・貸切バスについて調べる。　1.5時間
事後　フェリー・貸切バスの運賃料金を理解する。　2.5時間

【第4回】
事前　宿泊約款を調べる。　1.5時間
事後　宿泊について確認し覚える。　2.5時間

【第5回】
事前　国内航空運送約款を調べる。　1.5時間
事後　国内航空について確認し覚える。　2.5時間

【第6回】
事前　国内観光資源を覚えてくる。　1.5時間
事後　都道府県別に観光資源を整理する。　2.5時間

【第7回】
事前　JRの運賃計算の方法を復習する。　1.5時間
事後　幹線・地方交通線・そのミックスの計算方法を理解する。　2.5時間

【第8回】
事前　鉄道会社をまたがる計算を覚えてくる。　1.5時間
事後　複雑な運賃計算ができるようにする。　2.5時間

【第9回】
事前　JRの料金の種類を調べる。　1.5時間
事後　特急料金の種類を覚える。　2.5時間

【第10回】
事前　グリーン料金・寝台料金を調べる。　1.5時間
事後　団体の計算方法を理解する。　2.5時間

【第11回】
事前　国内観光資源を復習してくる。　1.5時間
事後　観光資源の種類ごとに整理する。　2.5時間

【第12回】
事前　旅行業約款を復習してくる。　1.5時間
事後　旅行契約について理解する。　2.5時間

【第13回】
事前　旅程保証を調べる。　1.5時間
事後　旅程保証について補償額を理解する。　2.5時間

【第14回】
事前　過去問題を解いてくる。　1.5時間
事後　不得手な部分のあぶり出しを行う。　2.5時間

【第15回】
事前　解答できなかった部分を復習する。　1.5時間
事後　国家試験受験に向けて学習を続ける。　2.5時間

課題に対するフィードバックの方法

毎回実施するテスト（国家試験の過去問題の場合あり）内容について結果を伝え、必要な解説をおこなう。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

毎回行うテストおよび演習問題、課題の提出、定期試験、授業態度により総合的に判断し、60点以上を合格とする。
正当な理由がない欠席6回以上、課題提出が著しく悪い、定期試験未受験、これらの場合は評価対象とはしない。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	10	毎回のテストの回答結果(5)、課題提出(2)、質問に対する回答と返答(3)、授業内課題への取り組み、講義に真剣に向かっているか姿勢や態度を含めて判断する。	1.2.3.4
授業外での評価	30	毎授業内で提示される課題（レポートや計算問題）を、翌日に提出する。	1.2.3
定期試験	60	国家試験形式の問題を筆記試験で行う。	1.2.3.4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	テキストは授業内で指示する
参考書	・U-CAN「国内・総合旅行業務取扱管理者 速習レッスン 」(ユーキャンの資格試験シリーズ)¥3,080- ・旅行業実務シリーズ(㈱JTB総合研究所) 「1．旅行業法及びこれに基づく命令」¥3,500- 「2．運送・宿泊約款」¥3,500- 「3．国内運賃・料金」¥3,500- 「4．国内観光資源」¥3,500- ・U-CAN「旅行業務取扱管理者 ：観光資源（国内・海外）ポケット問題集・要点まとめ」（ユーキャンの資格試験シリーズ)¥2,090-
履修条件・他の科目との関連	① 国家資格「国内旅行業務取扱管理者」受験者の必須科目である。 ② 受験に必要な知識となる「旅行業特講Ⅰ」「旅行業特講Ⅱ」「国内観光資源」を履修していること。 ＊旅行業界へ就職希望者は、後期「旅行業実務論」「観光ビジネス実務総論」の履修を検討すること ③ 演習中心であるため、予習・復習は各自必ず行ない、集中講義以前にも事前に試験科目の勉強を十分にしておくこと。 ④ 集中講義の日程、模擬試験（ 教学・教職センターへ証紙納入での申込 ）については6月中旬頃、正式に決定する予定のためUNIPA、OIUメールを必ず確認すること。 ⑤ 直前合格対策である。受験希望者のみ受講すること。 ⑥ 体調管理をおこない、気を抜かず必ず全出席すること。 Schedules are subject to change without notice.

授業コード	22049901	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	ブライダル実務論　［対面］				
シラバス執筆(全員)	深見　智恵子				
シラバス執筆(主)	深見　智恵子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的･概要

ブライダル全般についての基本的な知識を総合的に解説する。

ブライダルの歴史と慣習、挙式のスタイル、結婚披露宴のスタイル、披露宴進行と演出や挙式・披露宴におけるスタッフの役割や業務内容と、ブライダルビジネス全体について説明をおこなう。

ブライダル関連産業で紹介する動画鑑賞やブライダル業界よりゲストをお招きし、現場の最新情報やゲスト自身の業務内容・ブライダル業界で働くことに対する考えなどを概説する。

ディスカッションは、講義内容に関係した内容を設定しおこなう。

到達目標

1. ブライダルの仕事について、説明できる。
2. ブライダル産業の種類について、理解できる。
3. ブライダルの仕事で必要な資格(ブライダルコーディネート技能検定)の受験に応用できる。
4. 合わせて日本のブライダル関連産業の現状・課題・方向性について解説できる。

授業計画

【第1回】　プロローグ(ガイダンス)
【第2回】　ブライダルとは何か(仮：業務内容・現状・課題・今後の展望について）＊ゲスト講師講演
【第3回】　ブライダル業界とブライダルビジネス
【第4回】　現代のブライダル分類・婚礼の種類・挙式スタイル(神前、キリスト教、人前)・披露宴の種類＊＊
【第5回】　第1回から第4回までに学んだブライダル業に関するディスカッション

【第6回】　日本の習慣と由来・欧米の習慣と由来＊（仮：日本・海外の習慣比較）＊ゲスト講師講演
【第7回】　挙式および披露宴にまつわる慣習と婚礼に関わるスタッフの役割＊＊
【第8回】　葬儀・法事（宗教による分類、形態、進行とマナー）と葬祭ディレクター
【第9回】　冠婚葬祭に関連する商品やサービス
【第10回】　第6回から第9回までに学んだブライダル業に関するディスカッション

【第11回】　ブライダル商品の企画
【第12回】　ブライダル産業の変遷（仮：ブライダルプランナーに求められる力）＊ゲスト講師講演
【第13回】　第14回プレゼンテーションに向けた資料作成・ディスカッション
【第14回】　ブライダル商品企画のプレゼンテーション＊ゲスト講師参加
【第15回】　エピローグ(まとめ・質疑応答)

＊ゲスト講師をお招きした講演やブライダルの会場見学をおこなう予定のため、日程調整の可能性あり

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

前回までの講義内容を確認し復習しておくこと。また,日頃よりブライダル業界の動向について新聞や専門誌などを用いて情報収集を行うこと。

【第1回】
事前　シラバスを熟読し、ブライダルとは何かを調べておく。　2.0時間
事後　ブライダル(挙式・披露宴)の必要性を理解する。　2.0時間

【第2回】
事前　ブライダル産業・ブライダルビジネスとは何かを調べておく。　2.0時間
事後　現代の挙式・披露宴を理解し、課題の解決策を考える。　2.0時間

【第3回】
事前　ブライダルに関わるビジネスを考えてくる。　2.0時間
事後　ブライダル業界とブライダルビジネスについて理解する。　2.0時間

【第4回】
事前　現代の挙式・披露宴について調べておく。　2.0時間
事後　顧客ニーズの多様性を理解する。　2.0時間

【第5回】
事前　自分が思い描くブライダルをイメージして、実施できる場所を調べておく。　2.0時間
事後　講義で学んだことをまとめ、ディスカッションした内容を振り返る。　2.0時間

【第6回】
事前　海外と日本の結婚式の違いを調べておく。　2.0時間
事後　海外と日本のブライダルの習慣の違いを理解する。　2.0時間

【第7回】
事前　婚礼に関わるの仕事を調べておく。　2.0時間
事後　婚礼に関わるスタッフの役割を理解する。　2.0時間

【第8回】
事前　冠婚葬祭のスタイルと葬儀や葬儀ディレクターについて調べておく。　2.0時間
事後　葬儀の流れと葬祭ディレクター技能審査試験について理解する。　2.0時間

【第9回】
事前　冠婚葬祭に関連する商品やサービスを調べておく。　2.0時間
事後　冠婚葬祭に新たに必要な商品やサービスを考えてみる。　2.0時間

【第10回】
事前　学んだことをまとめ、職種を理解し、自分の希望する職種を見つける。　2.0時間
事後　講義で学んだことをまとめ、ディスカッションした内容を振り返る。　2.0時間

【第11回】
事前　自分が企画するブライダルのイメージを考え、具体化しておく。2.0時間
事後　ブライダルコーディネート技能検定について理解する。　2.0時間

【第12回】
事前　結婚式や披露宴の企画について調べておく。　2.0時間
事後　新しいブライダル商品やサービスの企画を考えてみる。　2.0時間

【第13回】
事前　商品やサービスのデザイン（案）を考え、具体化しておく。　2.0時間
事後　自分のブライダル商品・サービス（案）の提案方法を考えてみる。　2.0時間

【第14回】
事前　提案したいブライダル商品・サービス（案）をまとめる。　2.0時間
事後　自分のブライダル商品・サービス（案）を、もう一度考えてみる。　2.0時間

【第15回】
事前　これまでの全体を振り返り、わからないことをまとめてくる。　2.0時間
事後　ブライダル産業の将来を考える。　2.0時間

課題に対するフィードバックの方法

毎回、講義内容に関係するコメントを求める。コメントに対し、授業内でフィードバックをおこなう。
興味深いテーマを授業内で設定し、グループディスカッションをおこなう。
グループディスカッションおよび発表の機会をもち、全員で考え、意見を出し合う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
また、正当な理由がない欠席6回以上、課題提出が著しく悪い・発表および定期試験に替わるレポートの未提出の場合は評価対象とはしない。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	小テスト(10＝4回)、グループディスカッションへの参加姿勢や発表(10)、授業での発言やクラスメイトへの情報共有姿勢(10)など授業に臨む態度を考慮する。	1.2.3.4
授業外での評価	20	ミニレポート課題5回、テーマは授業中に指示するので、できる限り欠席しないように。	1.2.3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	15回の授業のまとめ　および　自分が提案した内容をまとめてレポートとして提出する。	1.2.3.4

		提出期限を守らない場合は「K」評価となる。	
その他	0		

テキスト	テキストは授業内で指示をする
参考書	必要に応じて紹介する
履修条件・他の科目との関連	第1回目で授業のスケジュールについて説明するため、履修を考えている人は必ず出席すること。 ゲストをお呼びしての講義を含むため、ゲストのスケジュールにより、講義の順が変更となる可能性がある。 講義とグループディスカッション、個人で発表も行ってもらう。 グループワークは、欠席・遅刻・取り組みに対する消極的な姿勢などが他のメンバーに迷惑をかけることを自覚すること。 配布物は、必要な回で配布するため、欠席する場合は連絡を必須とする。 事前連絡が出来なかった場合は、次回の授業日の前日までに連絡をすること。 ＊進行によっては、授業計画の順序が前後したり、一部内容を変更する場合がある Schedules are subject to change without notice.

授業コード	22050001	授業形態	実習	実務家教員	ー
授業科目名	リゾート演習　［対面］				
シラバス執筆(全員)	加藤　淳一				
シラバス執筆(主)	加藤　淳一				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

国内有数のリゾート観光地である「沖縄」にて、観光産業や観光資源、および琉球独特の文化や風習について概説する。
現地では、6泊7日の行程予定で、エアライン研修・ホテル研修・テーマパーク/観光施設見学・世界遺産見学・地域観光資源見学、および事前に各自でテーマを決めたフィールドトリップの実施など、様々な経験を積ませ、研修実施後には、研修内容や学びの発表、および研修報告レポートの作成指導を行う。

到達目標

1.実践的な専門知識を高める。
2.研修先企業や団体の事業内容や業種・職種の特徴を他者にわかりやすく説明することが出来る。
3.リゾート観光の現状や課題について学ぶ。
4.リゾート観光の将来や課題解決について、自ら考え、提案できる能力を身に付ける。

授業計画

本研修参加に際し、5月に研修説明会を実施するので、希望者は申し込みの上、説明会へ参加すること。
研修説明会の日時等は、別途、案内するので、確認すること。

【事前研修】30時間
・オリエンテーション
・沖縄（琉球）について
・研修先企業研究（ホテル・空港・タラソ）
・見学研修先研究（美ら海水族館、沖縄県内世界遺産について）
・フィールドトリップの企画　など

【現地研修】50時間
・エアライン研修
・ホテル研修
・ヘルスツーリズム施設研修
・テーマパーク/観光施設見学
・地域観光資源見学
・フィールドトリップ　など

【事後研修】10時間
・プレゼンテーション準備
・プレゼンテーション実施
・研修報告レポート作成・提出

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

学内での1回の研修に対し、事前・事後学習を合わせ2時間以上の学習を必要とする。
現地での1日の活動に対し、事前・事後学習を合わせ1時間以上の学習を必要とする。

課題に対するフィードバックの方法

全体に向け、課題やレポートに対しての振り返りとフィードバックを行うと共に、必要に応じて個人に対し、課題やレポートのコメントなどをClassroomやOIUメール、または直接口頭で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、正当な理由なく、欠席の回数が授業回数の1/3を超える（6回以上欠席）の場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	事前研修(30)ならびに現地研修(50)における受講態度・マナー、積極的な取組姿勢を評価。	1, 2, 3

授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	研修内容や学びについてのプレゼンテーション（10）、および研修報告レポート（10）を評価	1, 2, 4
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、プリントを配布する。
参考書	必要に応じて、授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	別途、研修参加費用が必要であり、集合・解散は『那覇空港』とするので、早い段階から航空券の手配など、各自の主体的な行動が必要である。 集中科目であるため、年度当初の履修登録の必要はない。 実際に企業や施設にて研修を受けさせて頂くため、目的意識をしっかりと持ち、意欲的・積極的に研修へ参加すること。 必須ではないが、前期科目「観光概論」・「国内観光資源」を履修しておくことが望ましい。 なお、社会情勢や研修先の状況により、研修計画の順序や内容を変更することがある。

授業コード	22042601	授業形態	実習	実務家教員	ー
授業科目名	インターンシップ（海外）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	加藤　淳一、森田　篤司、深見　智恵子				
シラバス執筆(主)	加藤　淳一				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	3単位

授業の目的・概要

海外での研修及びホームステイを通じて、異文化に対する国際的な視野及びコミュニケーション力を育成する。
現地JTBでのインターンシップ体験を通して、海外と日本の観光業の違いに気づくことで、職業意識を養う。また、現地の語学学校では、活きた英語を指導する。
事前学習では、インターンシップ、ホームステイ、危機管理などについて概説する。尚、現地に渡航する前には、十分な事前学習を行う。帰国後は発表を行う。

到達目標

1.実践的な観光専門知識を体得し他者に説明できるようになる。
2.現地での英語学習を通じて英語力を向上させると共に、外国人に対して自主的に話しかける積極性を身に付ける。
3.ホームステイなど現地の人々との交流を通じて、異文化理解、国際的な視野と判断力を身に付ける。

授業計画

【事前学習：10時間】
1. インターンシップとは
2. ホームスティについて
3. チーム（観光資源)研究・中間報告・最終発表
4. 危機管理オリエンテーション
5. 渡航手続きについて（eTA, ESTA申請含む）
6. 英会話（サバイバル英語研修）
7. 同窓会への報告
8. まとめ
9. 結団式

【現地研修：117時間】
1. 語学研修（語学学校集中トレーニング）
2. 観光施設視察
3. ホテル視察
4. フィールドワーク(週末)
5. JTB旅行研修
6. バンクーバー空港視察
8.学びのまとめ発表、修了式

【帰国報告発表：10時間】
1. プレゼンテーション資料作成
2. 帰国報告発表
3. 帰国レポート作成・提出

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。
現地での具体的な目標を事前に立てて、現地では自分の活動を適宜振り返り、目標に対する進捗度合いをチェックする。
現地ではすべての事が初めての貴重な経験となるが、その中でもカギとなる異文化、語学、観光に関する学びについては、必ずその場でメモに記録し、後刻見直す、調べる、覚えるなどの努力を怠らずに実施する。
また、1日の終わりに、ホストファミリーとの交流及び学習の振り返り、現地での目標達成の進捗管理を行い、日誌に記入する。
事前・事後学習時間は、国内の1回の演習に対し前後合わせ平均約1時間、現地での1日の活動につき前後合わせ平均約2時間とする。

課題に対するフィードバックの方法

学内での事前学習においては、研修生の課題進捗を確認しながら適宜助言を与え、指導を行う。
一方、現地では、研修生の活動日誌を通して、引率教員が研修生とのきめ細かいコミュニケーションを図り、必要に応じて、課題や困りごとに対し個別面談を実施する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により60点以上を合格として所定の単位を認定する。
事前学習やオリエンテーションにおいて正当な理由なく欠席率が30%を超える場合は、学習意欲・態度が不十分と判断し、不合格となり、カナダでの実地研修の参加が認められない場合がある。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	カナダ観光業の専門的知識体得（10） 語学学校での評価(英語力の向上と積極性)（50） 現地旅行会社での研修評価（10） 事前学習（自主課題、各種事前研修)（10）	カナダ観光業の専門的知識体得：1語学学校での評価(英語力の向上と積極性)：2, 3現地旅行会社での研修評価：1, 3事前学習（自主課題、各種事前研修)：1, 2
授業外での評価	10	研修日誌	研修日誌：1, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	海外研修帰国レポート・発表	海外研修帰国レポート・発表：1, 2, 3
その他	0		

テキスト	プリントを配布する
参考書	必要に応じて事前研修の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	目的をしっかりと持ち、意欲的・積極的に研修に参加すること。 研修に関連する科目である、英語と観光関連科目は1年次にできるだけ多く履修すること。 研修用のノートを作成すること。 状況によっては授業計画の順序が前後したり、内容が変更したりすることがある。 これまでの授業の出席等も加味し、参加許可については学科で判断する。

授業コード	22046001	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	English Communication Ⅱ ［対面］				
シラバス執筆(全員)	森田　篤司				
シラバス執筆(主)	森田　篤司				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

英語を母語としない人々に向け、身近なテーマを取り上げ、オンライン教材も活用し、4技能の中でも特にスピーキングとリスニングを中心とした実践的な演習を行い、正しい発音と語感を身に付けるように指導する。又、授業での双方向コミュニケーションを通して、コミュニケーション能力を高めるよう指導する。

到達目標

1.新出単語を使用して文章作成することができる。
2.文法を理解し、それを踏まえコミュニケーションを実践できる。
3.リスニングで内容把握ができる。
4.テキストReadingパートのシャドーイングができる。
5.テキストReadingパートの和訳ができる。
6.英語発音が向上し、音声認識により発話からテキストに変換できる。

授業計画

第1回 オリエンテーション（授業の概要、進め方、評価の方法、到達目標について説明。）
第2回　Unit 7 Eating Out　外食での会話の演習を実施する
第3回　　Unit 7 Reading, Writing
第4回　復習クイズ、Unit8 At the Supermarket スーパーでの買い物を想定した場面での演習を実施する
第5回　Unit 8 Reading, Writing
第6回　復習クイズ、Unit9 Hobbies 趣味についての会話の演習を実施する
第7回　Unit 9 Reading, Writing
第8回　復習クイズ、Unit10 Shop Toll you Drop 買い物を想定した場面での演習を実施する
第9回　Unit 10 Reading, Writing
第10回 復習クイズ 、TOEIC対策
第11回 Unit 11 Going on Vacation 休暇についての会話や表現の演習を実施する
第12回　Unit 11 Reading, Writing
第13回　復習クイズ、Unit 12 さまざまなスポーツについての表現を学び、演習を実施する
第14回　Unit 12 Reading, Writing
第15回　復習クイズ、後期の総復習

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

Unit毎に新出する単語やフレーズを調べ、理解し、暗記する。又、テキストReading
パートの「音読」の練習（シャドーイング）を繰り返し実施する
LINGUA PORTAの学習アプリに取り組む。（事前・事後学習毎回平均各2時間）。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対する取り組み・レポートや授業内での発表、復習クイズ結果などに対して解説を行う。授業内で英語学習アプリ（LINGUA PORTA）を使い、復習を行い、課題の達成状況をフィードバックする

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により60点以上を合格として単位を認定する
正当な理由無しに5回または、それ以上欠席した場合には原則として評価不能とみなしK評価とする
遅刻3回で欠席1回の扱いとする
正当な理由なく定期試験を欠席した場合はK評価とする

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	Vocabulary Worksheet(10) L&R 演習、発表(10) 復習クイズ(15)	Vocabulary Worksheet:1L&R演習、発表: 1, 3, 4, 5復習クイズ:1, 2, 3, 6
授業外での評価	15	読解演習 (5) LINGUA PORTA総合演習プログラム(10)	読解演習 1, 4, 5LINGUA PORTA総合

			演習プログラム 1, 2, 6
定期試験	50	筆記試験	1, 2, 3, 6
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	Live Escalate Book 1: Base Camp ISBN 978-4-7919-7221-0/角山　照彦 / LiveABC editors/成美堂 / 2,750 /
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	この授業は"English Communication Ⅰ"からの継続であり、テキストは"English Communication Ⅰ"で使用したものと同一とする。 授業を年間で計画しているので、前期の"Englsih Communication Ⅰ"を受講していることが望ましい。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 授業を欠席した場合は、欠席した授業の内容をクラスメートに確認し、自らフォローアップしておくこと。

授業コード	22044401	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	English Writing Ⅰ ［対面］				
シラバス執筆(全員)	宮本　佳奈				
シラバス執筆(主)	宮本　佳奈				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

文法の基礎知識と英語の構造を解説し、それらを踏まえて短い英文を作成できるように指導します。また、授業での双方向のやり取りを通じて、簡単な英語によるコミュニケーションを実践的に行えるようにします。ペアワークやグループワークを含む授業内での活動や演習により、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの四技能を総合的に高めることを目指します。

到達目標

1. 新出単語を使用して文章を作成できる。
2. 英語の文法・構造を理解できる。
3. 英語の文法・構造を短い英文作成に応用できる。
4. 他者との短い英語でのコミュニケーションを実行できるようになる。

授業計画

第1回　オリエンテーション：Course Overview & Icebreaker
第2回　Unit 1「出身地」：Vocabulary, Warm-up, BE動詞の解説 & Practice
第3回　Unit 1「出身地」：Listening, Speaking, Reading, Writing
第4回　Unit 2「趣味」：Vocabulary, Warm-up, 一般動詞の解説 & Practice
第5回　Unit 2「趣味」：Listening, Speaking, Reading, Writing
第6回　Unit 3「ショッピング」：Vocabulary, Warm-up, 名詞・代名詞の解説 & Practice
第7回　Unit 3「ショッピング」：Listening, Speaking, Reading, Writing
第8回　Unit 4「自然」：Vocabulary, Warm-up, 疑問詞（WH）の解説 & Practice
第9回　Unit 4「自然」：Listening, Speaking, Reading, Writing
第10回 Unit 5「夢の家」：Vocabulary, Warm-up, 前置詞の解説 & Practice
第11回 Unit 5「夢の家」：Listening, Speaking, Reading, Writing
第12回 Unit 6「食べ物」：Vocabulary, Warm-up, 接続詞の解説 & Practice
第13回 Unit 6「食べ物」：Listening, Speaking, Reading, Writing
第14回 Unit 7「初めてのデート」：Vocabulary, Warm-up, 過去形の解説 & Practice
第15回 Unit 7「初めてのデート」：Listening, Speaking, Reading, Writing

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：新出単語を確認し、テーマに関連する基本的な文法を予習してください。
事後学習：学習した単語や文法を復習し、実際に音読練習や英作文を行ってください。授業で学んだ内容を使って、簡単な会話練習も行いましょう。

課題に対するフィードバックの方法

・理解度クイズにはポイントを付与し、返却時に授業内で解説を行います。
・ライティング課題については適宜フィードバックを行います。
・授業中の活動（ペア・グループワーク）については、机間巡視により理解度を把握し、助言等を行います。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下の評価方法により、60点以上を合格とし、所定の単位を認定します。なお、欠席が4回以内の場合のみ成績評価の対象とし、正当な理由なく5回以上欠席した場合は「K」評価となるため、注意してください。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	理解度クイズ(30) Vocabulary Worksheet(10)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	英作文演習	1, 2, 3
定期試験	30	筆記試験	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		

その他	20	授業内の活動への積極的な参加 (10) 振り返りの提出 (10)	1, 2, 3, 4

テキスト	English Ace / Atsuko Yamamoto et al. / SEIBIDO / 2200円 / ISBN978-4-7919-5089-8
参考書	必要に応じて、授業の中で紹介します。
履修条件・他の科目との関連	・この授業で使用するテキストは、後期の「English Writing II」でも引き続き使用します。 ・授業は年間で計画しているので、後期「English Writing II」を受講することが望ましいです。 ・授業資料は授業終了後にGoogle Classroomに提示しますので、欠席した場合は必ず確認してください。

授業コード	22044501	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	English Writing Ⅱ ［対面］				
シラバス執筆(全員)	宮本　佳奈				
シラバス執筆(主)	宮本　佳奈				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

English Writing IIでは、English Writing Iから継続し、さらに英語の知識を深めながら、英文作成能力を向上させます。文法の基礎知識と英語の構造を解説し、それらを踏まえて短い英文を作成できるように指導します。また、授業での双方向のやり取りを通じて、簡単な英語によるコミュニケーションを実践的に行えるようにします。ペアワークやグループワークを含む授業内の活動や演習を通じて、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの四技能を総合的に高めることを目指します。

到達目標

1. 新出単語を使用して文章を作成できる。
2. 英語の文法・構造を理解できる。
3. 英語の文法・構造を短い英文作成に応用できる。
4. 他者との短い英語でのコミュニケーションを実行できるようになる。

授業計画

第1回 オリエンテーション：Course Overview & Review
第2回 Unit 8「推理小説」：Vocabulary, Warm-up, 進行形の解説 & Practice
第3回 Unit 8「推理小説」：Listening, Speaking, Reading, Writing
第4回 Unit 9「キャリア」：Vocabulary, Warm-up, 現在完了の解説 & Practice
第5回 Unit 9「キャリア」：Listening, Speaking, Reading, Writing
第6回 Unit 10「パーティー」：Vocabulary, Warm-up, 未来表現の解説 & Practice
第7回 Unit 10「パーティー」：Listening, Speaking, Reading, Writing
第8回 Unit 11「規則」：Vocabulary, Warm-up, 助動詞の解説 & Practice
第9回 Unit 11「規則」：Listening, Speaking, Reading, Writing
第10回 Unit 12「発明と発見」：Vocabulary, Warm-up, 受動態の解説 & Practice
第11回 Unit 12「発明と発見」：Listening, Speaking, Reading, Writing
第12回 Unit 13「映画評論」：Vocabulary, Warm-up, 形容詞・副詞の解説 & Practice
第13回 Unit 13「映画評論」：Listening, Speaking, Reading, Writing
第14回 Unit 14「世界記録」：Vocabulary, Warm-up, 比較級・最上級の解説 & Practice
第15回 Unit 14「世界記録」：Listening, Speaking, Reading, Writing

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：新出単語を確認し、テーマに関連する基本的な文法を予習してください。
事後学習：学習した単語や文法を復習し、実際に音読練習や英作文を行ってください。授業で学んだ内容を使って、簡単な会話練習も行いましょう。

課題に対するフィードバックの方法

・理解度クイズにはポイントを付与し、返却時に授業内で解説を行います。
・ライティング課題については適宜フィードバックを行います。
・授業中の活動（ペア・グループワーク）については、机間巡視により理解度を把握し、助言等を行います。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下の評価方法により、60点以上を合格とし、所定の単位を認定します。なお、欠席が4回以内の場合のみ成績評価の対象とし、正当な理由なく5回以上欠席した場合は「K」評価となるため、注意してください。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	理解度クイズ(30) Vocabulary Worksheet(10)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	英作文演習	1, 2, 3
定期試験	30	筆記試験	1, 2, 3

定期試験に代わるレポート等	0		
その他	20	授業内の活動への積極的な参加 (10) 振り返りの提出 (10)	1, 2, 3, 4

テキスト	English Ace / Atsuko Yamamoto et al. / SEIBIDO / 2200円 / ISBN978-4-7919-5089-8
参考書	必要に応じて、授業の中で紹介します。
履修条件・他の科目との関連	・この授業は「English Writing Ⅰ」の継続であり、使用するテキストは「English Writing Ⅰ」と同じです。 ・授業を年間で計画しているので、前期「English Writing Ⅰ」を受講していることが望ましいです。 ・授業資料は授業終了後にGoogle Classroomに提示するので、欠席した場合は必ず確認してください。

授業コード	22044601	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	English Listening Ⅰ ［対面］				
シラバス執筆(全員)	J.C.デン				
シラバス執筆(主)	J.C.デン				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

In this course, I will explain how to develop your listening skills. To improve this language skill, you must learn to listen for specific facts, details, and reasons, as well as learn to understand how speakers show interest and understanding. There will be many listening assignments in class and for homework. As strong vocabulary is also necessary for good listening, this course includes vocabulary building. Particular attention is paid to strategy development for listening during testing situations and in academic settings, as well as differentiating specific sounds of English. Course information and homework assignments will be on Google Classroom.

到達目標

By successfully completing this course, students will be able to...
1. Learn a variety of listening strategies for general comprehension of conversations about everyday themes
2. Apply listening strategies to other contexts
3. Practice bottom-up skills through pronunciation, intonation, and dictation exercises
4. Improve grammar and vocabulary for listening

授業計画

【第1回】
テーマ： Unit 1 & Course Introduction. Google Class registration and explanation.
内容・方法： “The Weekend” : Listening and conversation practice
【第2回】
テーマ： Unit 2
内容・方法： “City Transportation” : Listening and conversation practice
【第3回】
テーマ： Unit 3
内容・方法： “Neighbors” : Listening and conversation practice
【第4回】
テーマ： Unit 4
内容・方法： “Celebrations” : Listening and conversation practice
【第5回】
テーマ： Evaluation 1: Units 1-4
内容・方法： Chapter review test.
【第6回】
テーマ： Unit 5
内容・方法： “Restaurants” : Listening and conversation practice
【第7回】
テーマ： Unit 6
内容・方法： “Gifts” : Listening and conversation practice
【第8回】
テーマ： Unit 7
内容・方法： “Air Travel” : Listening and conversation practice
【第9回】
テーマ： Unit 8
内容・方法： “Mishaps” : Listening and conversation practice
【第10回】
テーマ： Evaluation 2: Units 5-8
内容・方法： Chapter review test.
【第11回】
テーマ： Unit 9
内容・方法： “Jobs” : Listening and conversation practice
【第12回】
テーマ： Unit 10
内容・方法： “Keeping Fit” : Listening and conversation practice
【第13回】
テーマ： Unit 11
内容・方法： “Invitations” : Listening and conversation practice
【第14回】
テーマ： Unit 12
内容・方法： “Campus Life” : Listening and conversation practice
【第15回】
テーマ： Evaluation 3: Units 9-12

内容・方法： Chapter review test.
Final Evaluation explanation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】
事前学修課題： Review the syllabus. Purchase the textbook.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第2回】
事前学修課題： Read Unit 2 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第3回】
事前学修課題： Read Unit 3 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第4回】
事前学修課題： Read Unit 4 and check word meanings.
事後学修課題： Review chapters 1-4
【第5回】
事前学修課題： Prepare for Evaluation 1
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第6回】
事前学修課題： Read Unit 5 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第7回】
事前学修課題： Read Unit 6 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第8回】
事前学修課題： Read Unit 7 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第9回】
事前学修課題： Read Unit 8 and check word meanings.
事後学修課題： Review chapters 5-8
【第10回】
事前学修課題： Prepare for Evaluation 2
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第11回】
事前学修課題： Read Unit 9 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第12回】
事前学修課題： Read Unit 10 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments
【第13回】
事前学修課題： Read Unit 11 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第14回】
事前学修課題： Read Unit 12 and check word meanings.
事後学修課題： Review chapters 9-12
【第15回】
事前学修課題： Prepare for Evaluation 3
事後学修課題： Prepare for Final Evaluation

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

Note: The course plan and grading criteria are subject to change. Information about coursework and grading policy will be on Google Classroom.
Active participation in class (10%)
Vocabulary and Dictation quizzes (10%),
Semester evaluations (30%)
Homework assignments (20%)
Self-study units (10%)
Final evaluation exam (20%)

A score of 60% or higher is required to receive credit.
If you are absent 5 or more times without a valid reason, you will be graded 「K」

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	Active participation in class (10%), vocabulary and dictation quizzes (10%) and semester evaluations (30%)	1, 3
授業外での評価	30	Homework assignments (20%) and self-study units (10%)	2, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	20	Final evaluation exam (20%)	3, 4
その他	0	none	

テキスト	Tactics for Listening Developing Student Book,Third Edition: Jack C Richards with Grant Trew; 2011,(Oxford University Press) ISBN: 978-0-19-401385-7
参考書	Introduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	Attendance Policy & Notes: 1) Depending on the number of students enrolled, you may be required to change classes. 履修人数により、クラスが変わる場合があります。 2) You will get more information from the teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。 3) You are expected to attend EVERY class and arrive on time. Frequent absences will make it difficult to pass. If you are absent 5 times or more without a valid excuse, you cannot receive credit for the course. 授業には毎回出席し、時間通りに来ることが求められます。欠席すると合格は難しくなります。5回以上欠席すると、単位を取得することができません。 4) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされます。 5) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできるが、欠席扱いとなります。 6) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD – 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。

授業コード	22044602	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	English Listening Ⅰ ［対面］				
シラバス執筆(全員)	S.D.ラーダー				
シラバス執筆(主)	S.D.ラーダー				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

In this course, I will explain how to develop your listening skills. To improve this language skill, you must learn to listen for specific facts, details, and reasons, as well as learn to understand how speakers show interest and understanding. There will be many listening assignments in class and for homework. As strong vocabulary is also necessary for good listening, this course includes vocabulary building. Particular attention is paid to strategy development for listening during testing situations and in academic settings, as well as differentiating specific sounds of English. Course information and homework assignments will be on Google Classroom.

到達目標

By successfully completing this course, students will be able to...
1. Learn a variety of listening strategies for general comprehension of conversations about everyday themes
2. Apply listening strategies to other contexts
3. Practice bottom-up skills through pronunciation, intonation, and dictation exercises
4. Improve grammar and vocabulary for listening

授業計画

【第1回】
テーマ： Unit 1 & Course Introduction. Google Class registration and explanation.
内容・方法： “The Weekend” : Listening and conversation practice
【第2回】
テーマ： Unit 2
内容・方法： “City Transportation” : Listening and conversation practice
【第3回】
テーマ： Unit 3
内容・方法： “Neighbors” : Listening and conversation practice
【第4回】
テーマ： Unit 4
内容・方法： “Celebrations” : Listening and conversation practice
【第5回】
テーマ： Evaluation 1: Units 1-4
内容・方法： Chapter review test.
【第6回】
テーマ： Unit 5
内容・方法： “Restaurants” : Listening and conversation practice
【第7回】
テーマ： Unit 6
内容・方法： “Gifts” : Listening and conversation practice
【第8回】
テーマ： Unit 7
内容・方法： “Air Travel” : Listening and conversation practice
【第9回】
テーマ： Unit 8
内容・方法： “Mishaps” : Listening and conversation practice
【第10回】
テーマ： Evaluation 2: Units 5-8
内容・方法： Chapter review test.
【第11回】
テーマ： Unit 9
内容・方法： “Jobs” : Listening and conversation practice
【第12回】
テーマ： Unit 10
内容・方法： “Keeping Fit” : Listening and conversation practice
【第13回】
テーマ： Unit 11
内容・方法： “Invitations” : Listening and conversation practice
【第14回】
テーマ： Unit 12
内容・方法： “Campus Life” : Listening and conversation practice
【第15回】
テーマ： Evaluation 3: Units 9-12

内容・方法： Chapter review test.
Final Evaluation explanation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】
事前学修課題： Review the syllabus. Purchase the textbook.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第2回】
事前学修課題： Read Unit 2 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第3回】
事前学修課題： Read Unit 3 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第4回】
事前学修課題： Read Unit 4 and check word meanings.
事後学修課題： Review chapters 1-4
【第5回】
事前学修課題： Prepare for Evaluation 1
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第6回】
事前学修課題： Read Unit 5 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第7回】
事前学修課題： Read Unit 6 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第8回】
事前学修課題： Read Unit 7 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第9回】
事前学修課題： Read Unit 8 and check word meanings.
事後学修課題： Review chapters 5-8
【第10回】
事前学修課題： Prepare for Evaluation 2
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第11回】
事前学修課題： Read Unit 9 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第12回】
事前学修課題： Read Unit 10 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments
【第13回】
事前学修課題： Read Unit 11 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第14回】
事前学修課題： Read Unit 12 and check word meanings.
事後学修課題： Review chapters 9-12
【第15回】
事前学修課題： Prepare for Evaluation 3
事後学修課題： Prepare for Final Evaluation

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

Note: The course plan and grading criteria are subject to change. Information about coursework and grading policy will be on Google Classroom.
Active participation in class (10%)
Vocabulary and Dictation quizzes (10%),
Semester evaluations (30%)
Homework assignments (20%)
Self-study units (10%)
Final evaluation exam (20%)

A score of 60% or higher is required to receive credit.
If you are absent 5 or more times without a valid reason, you wil be graded 「K」

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	Active participation in class (10%), vocabulary and dictation quizzes (10%) and semester evaluations (30%)	1, 3
授業外での評価	30	Homework assignments (20%) and self-study units (10%)	2, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	20	Final evaluation exam (20%)	3, 4
その他	0	none	

テキスト	Tactics for Listening Developing Student Book,Third Edition: Jack C Richards with Grant Trew; 2011,(Oxford University Press) ISBN: 978-0-19-401385-7
参考書	Introduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	Attendance Policy & Notes: 1) Depending on the number of students enrolled, you may be required to change classes. 履修人数により、クラスが変わる場合があります。 2) You will get more information from the teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。 3) You are expected to attend EVERY class and arrive on time. Frequent absences will make it difficult to pass. If you are absent 5 times or more without a valid excuse, you cannot receive credit for the course. 授業には毎回出席し、時間通りに来ることが求められます。欠席すると合格は難しくなります。5回以上欠席すると、単位を取得することができません。 4) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされます。 5) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできるが、欠席扱いとなります。 6) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD – 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。

授業コード	22044701	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	English Listening Ⅱ ［対面］				
シラバス執筆(全員)	J.C.デン				
シラバス執筆(主)	J.C.デン				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

In this course, I will explain how to develop your listening skills. To improve this language skill, you must learn to listen for specific facts, details, and reasons, as well as learn to understand how speakers show interest and understanding. There will be many listening assignments in class and for homework. As strong vocabulary is also necessary for good listening, this course includes vocabulary building. Particular attention is paid to strategy development for listening during testing situations and in academic settings, as well as differentiating specific sounds of English. Course information and homework assignments will be on Google Classroom.

到達目標

By successfully completing this course, students will be able to...
1. Learn a variety of listening strategies for general comprehension of conversations about everyday themes
2. Apply listening strategies to other contexts
3. Practice bottom-up skills through pronunciation, intonation, and dictation exercises
4. Improve grammar and vocabulary for listening

授業計画

【第1回】
テーマ： Unit 13 & Course Introduction.
内容・方法： “Hobbies and Pastimes” : Listening and conversation practice
【第2回】
テーマ： Unit 14
内容・方法： “Shopping Problems” : Listening and conversation practice
【第3回】
テーマ： Unit 15
内容・方法： “Hotel Services” : Listening and conversation practice
【第4回】
テーマ： Unit 16
内容・方法： “Movies” : Listening and conversation practice
【第5回】
テーマ： Evaluation 1: Units 13-16
内容・方法： Chapter review test.
【第6回】
テーマ： Unit 17
内容・方法： “Fears” : Listening and conversation practice
【第7回】
テーマ： Unit 18
内容・方法： “Phone Messages” : Listening and conversation practice
第8回】
テーマ： Unit 19
内容・方法： “Touring a City” : Listening and conversation practice
【第9回】
テーマ： Unit 20
内容・方法： “Airports” : Listening and conversation practice
【第10回】；
テーマ： Evaluation 2: Units 17-20
内容・方法： Chapter review test.
【第11回】
テーマ： Unit 21
内容・方法： “Hotels” : Listening and conversation practice
【第12回】
テーマ： Unit 22
内容・方法： “Traffic” : Listening and conversation practice
【第13回】
テーマ： Unit 23
内容・方法： “Roommates” : Listening and conversation practice
【第14回】
テーマ： Unit 24
内容・方法： “Travel” : Listening and conversation practice
【第15回】
テーマ： Evaluation 3: Units 21-24

内容・方法：　Chapter review test.
Final Evaluation　explanation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】
事前学修課題： Review the syllabus. Purchase the textbook.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第2回】
事前学修課題： Read Unit 14 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第3回】
事前学修課題： Read Unit 15 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第4回】
事前学修課題： Read Unit 16 and check word meanings.
事後学修課題： Review chapters 13-16
【第5回】
事前学修課題： Prepare for Evaluation 1
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第6回】
事前学修課題： Read Unit 17 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第7回】
事前学修課題： Read Unit 18 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第8回】
事前学修課題： Read Unit 19 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第9回】
事前学修課題： Read Unit 20 and check word meanings.
事後学修課題： Review chapters 17-20
【第10回】
事前学修課題： Prepare for Evaluation 2
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第11回】
事前学修課題： Read Unit 21 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第12回】
事前学修課題： Read Unit 22 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments
【第13回】
事前学修課題： Read Unit 23 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第14回】
事前学修課題： Read Unit 24 and check word meanings.
事後学修課題： Review chapters 21-24
【第15回】
事前学修課題： Prepare for Evaluation 3
事後学修課題： Prepare for Final Evaluation

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

Note: The course plan and grading criteria are subject to change. Information about coursework and grading policy will be on Google Classroom.
Active participation in class (10%)
Vocabulary and Dictation quizzes (10%),
Semester evaluations (30%)
Homework assignments (20%)
Self-study units (10%)
Final evaluation exam (20%)

A score of 60% or higher is reqired to receive credit.
If you are absent 5 or more times without a valid reason, you will be draded 「K」

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	Active participation in class (10%), vocabulary and dictation quizzes (10%) and semester evaluations (30%)	1, 3
授業外での評価	30	Homework assignments (20%) and self-study units (10%)	2, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	20	Final evaluation exam (20%)	1, 3, 4
その他	0	none	

テキスト	Tactics for Listening Developing Student Book,Third Edition: Jack C Richards with Grant Trew; 2011,(Oxford University Press) ISBN: 978-0-19-401385-7
参考書	Introduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	Attendance Policy & Notes: 1) Depending on the number of students enrolled, you may be required to change classes. 履修人数により、クラスが変わる場合があります。 2) You will get more information from the teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。 3) You are expected to attend EVERY class and arrive on time. Frequent absences will make it difficult to pass. If you are absent 5 times or more without a valid excuse, you cannot receive credit for the course. 授業には毎回出席し、時間通りに来ることが求められます。欠席すると合格は難しくなります。5回以上欠席すると、単位を取得することができません。 4) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされます。 5) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできるが、欠席扱いとなります。 6) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD – 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。

授業コード	22044702	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	English Listening Ⅱ ［対面］				
シラバス執筆(全員)	S.D.ラーダー				
シラバス執筆(主)	S.D.ラーダー				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

In this course, I will explain how to develop your listening skills. To improve this language skill, you must learn to listen for specific facts, details, and reasons, as well as learn to understand how speakers show interest and understanding. There will be many listening assignments in class and for homework. As strong vocabulary is also necessary for good listening, this course includes vocabulary building. Particular attention is paid to strategy development for listening during testing situations and in academic settings, as well as differentiating specific sounds of English. Course information and homework assignments will be on Google Classroom.

到達目標

By successfully completing this course, students will be able to...
1. Learn a variety of listening strategies for general comprehension of conversations about everyday themes
2. Apply listening strategies to other contexts
3. Practice bottom-up skills through pronunciation, intonation, and dictation exercises
4. Improve grammar and vocabulary for listening

授業計画

【第1回】
テーマ： Unit 13 & Course Introduction.
内容・方法： “Hobbies and Pastimes” : Listening and conversation practice
【第2回】
テーマ： Unit 14
内容・方法： “Shopping Problems” : Listening and conversation practice
【第3回】
テーマ： Unit 15
内容・方法： “Hotel Services” : Listening and conversation practice
【第4回】
テーマ： Unit 16
内容・方法： “Movies” : Listening and conversation practice
【第5回】
テーマ： Evaluation 1: Units 13-16
内容・方法： Chapter review test.
【第6回】
テーマ： Unit 17
内容・方法： “Fears” : Listening and conversation practice
【第7回】
テーマ： Unit 18
内容・方法： “Phone Messages” : Listening and conversation practice
第8回】
テーマ： Unit 19
内容・方法： “Touring a City” : Listening and conversation practice
【第9回】
テーマ： Unit 20
内容・方法： “Airports” : Listening and conversation practice
【第10回】；
テーマ： Evaluation 2: Units 17-20
内容・方法： Chapter review test.
【第11回】
テーマ： Unit 21
内容・方法： “Hotels” : Listening and conversation practice
【第12回】
テーマ： Unit 22
内容・方法： “Traffic” : Listening and conversation practice
【第13回】
テーマ： Unit 23
内容・方法： “Roommates” : Listening and conversation practice
【第14回】
テーマ： Unit 24
内容・方法： “Travel” : Listening and conversation practice
【第15回】
テーマ： Evaluation 3: Units 21-24

内容・方法：　Chapter review test.
Final Evaluation　explanation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】
事前学修課題： Review the syllabus. Purchase the textbook.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第2回】
事前学修課題： Read Unit 14 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第3回】
事前学修課題： Read Unit 15 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第4回】
事前学修課題： Read Unit 16 and check word meanings.
事後学修課題： Review chapters 13-16
【第5回】
事前学修課題： Prepare for Evaluation 1
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第6回】
事前学修課題： Read Unit 17 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第7回】
事前学修課題： Read Unit 18 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第8回】
事前学修課題： Read Unit 19 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第9回】
事前学修課題： Read Unit 20 and check word meanings.
事後学修課題： Review chapters 17-20
【第10回】
事前学修課題： Prepare for Evaluation 2
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第11回】
事前学修課題： Read Unit 21 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第12回】
事前学修課題： Read Unit 22 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments
【第13回】
事前学修課題： Read Unit 23 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
【第14回】
事前学修課題： Read Unit 24 and check word meanings.
事後学修課題： Review chapters 21-24
【第15回】
事前学修課題： Prepare for Evaluation 3
事後学修課題： Prepare for Final Evaluation

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

Note: The course plan and grading criteria are subject to change. Information about coursework and grading policy will be on Google Classroom.
Active participation in class (10%)
Vocabulary and Dictation quizzes (10%),
Semester evaluations (30%)
Homework assignments (20%)
Self-study units (10%)
Final evaluation exam (20%)

A score of 60% or higher is reqiired to receive credit .
If you are absent 5 or more times without a valid reason, you will be graded 「K」

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	Active participation in class (10%), vocabulary and dictation quizzes (10%) and semester evaluations (30%)	1, 3
授業外での評価	30	Homework assignments (20%) and self-study units (10%)	2, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	20	Final evaluation exam (20%)	1, 3, 4
その他	0	none	

テキスト	Tactics for Listening Developing Student Book,Third Edition: Jack C Richards with Grant Trew; 2011,(Oxford University Press) ISBN: 978-0-19-401385-7
参考書	Introduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	Attendance Policy & Notes: 1) Depending on the number of students enrolled, you may be required to change classes. 履修人数により、クラスが変わる場合があります。 2) You will get more information from the teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。 3) You are expected to attend EVERY class and arrive on time. Frequent absences will make it difficult to pass. If you are absent 5 times or more without a valid excuse, you cannot receive credit for the course. 授業には毎回出席し、時間通りに来ることが求められます。欠席すると合格は難しくなります。5回以上欠席すると、単位を取得することができません。 4) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされます。 5) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできるが、欠席扱いとなります。 6) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD – 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。

授業コード	22050101	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	English Reading ［対面］				
シラバス執筆(全員)	宮本　佳奈				
シラバス執筆(主)	宮本　佳奈				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業の主な目的は、インプットスキル、特にリスニングとリーディングの基礎力向上です。授業では身近なテーマ（例：Unit 3 スターバックスが日本で成功した理由）に基づいた文章を、以下の手順で読み進めていきます。① 短めの英文（60～70語程度）を読んで大まかな内容を把握する、② 文章中で使用される英文法を学ぶ、③ 同じトピックについて書かれた、約180語の長めの英文を様々な形式の質問に答えながら読み解く。さらに、リスニング活動と音読練習を繰り返すことで、英語のリズムや発音の特徴をつかみ、まとまった英文を効率的に聴き、読み取る力を養います。

到達目標

1. 基本的な英語の知識（語彙、英文法）を習得し、テキストの英文をより正確に理解することができる。
2. テキストの英文を正しい発音でスムーズに音読することができる。
3. 英語のリズムや発音の特徴をつかみ、まとまった英文を効率よく聴いたり読んだりできる。
4. テキストの英文内容を理解し、テーマについての知識を広げたり理解を深めたりできる。

授業計画

【第1回】　Course Orientation 授業の目標、進め方、評価方法など / Unit 1-(1) Who Is Pepper? [現在形]
【第2回】　Unit 1-(2)
【第3回】　Unit 2-(1) What’s It Like to Be a Self-Sufficient Family? [代名詞]
【第4回】　Unit 2-(2)
【第5回】　Review Quiz ① / Unit 3-(1) Why Did Starbucks Become a Hit in Japan? [過去形]
【第6回】　Unit 3-(2)
【第7回】　Unit 4-(1) How Do Americans Celebrate Halloween? [可算名詞・不可算名詞]
【第8回】　Unit 4-(2)
【第9回】　Review Quiz ② / Unit 5-(1) Do You Want to Travel Back in Time to a Roman Thermae? [時と場所を表す前置詞]
【第10回】Unit 5-(2)
【第11回】Unit 6-(1) Are You Going Cashless? [進行形]
【第12回】Unit 6-(2)
【第13回】Unit 7
【第14回】Unit 8-(1) Would You Like to Be a Pioneer Like Coco Chanel? [動名詞・不定詞]
【第15回】Unit 8-(2) / Final Examination（定期試験）の説明

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：テーマを事前に確認しておいてください。
事後学習：単語や英文法の復習を行い、音声を聞きながら自分で音読練習をしてください。また、出された課題は必ず提出してください。

課題に対するフィードバックの方法

・Review Quiz（復習クイズ）にはポイントを付与し、返却時に授業内で解説します。
・授業外の提出課題にはポイントを付与し、適宜フィードバックを行います。
・授業中の活動（ペア・グループワーク、演習）については、机間巡視により理解度を把握し、助言等を行います。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下の評価方法により、60点以上を合格とし、所定の単位を認定します。なお、欠席が4回以内の場合のみ成績評価の対象とし、正当な理由なく5回以上欠席した場合は「K」評価となるため、注意してください。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	Review Quizzes 計2回	1, 3, 4
授業外での評価	10	課題の提出	1, 2, 3, 4

定期試験	30	筆記試験	1, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	20	授業内の活動への積極的な参加 (10) 振り返りの提出 (10)	1, 2, 3, 4

テキスト	Reading Link / Robert Hickling, Misato Usukura / KINSEIDO / 2000円 / ISBN978-4-7647-4100-3
参考書	必要に応じて、授業の中で紹介します。
履修条件・他の科目との関連	・進行状況によっては、授業計画の順序や内容が変更されることがあります。 ・音読練習に必要なので、イヤホンを毎回持参してください。 ・授業資料は授業終了後にGoogle Classroomに掲載します。欠席した場合は必ず確認してください。

授業コード	22046101	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	Travel English ［対面］				
シラバス執筆(全員)	宮本　佳奈				
シラバス執筆(主)	宮本　佳奈				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

海外で安全かつ楽しく旅行するためには、現地でのコミュニケーションが重要です。この授業では、海外旅行中に遭遇するさまざまな場面を想定した英会話表現を学びます。毎回、ペアやグループでロールプレイングを行い、学習した表現を実践的に使用する機会を多く設けます。対話形式の練習を通じて、旅行者としての立場だけでなく、海外からの旅行者に対応するためのフレーズも同時に習得します。異なる文化的背景を持つ人々と自信を持って英語でコミュニケーションできるようになりましょう。

到達目標

1. 観光や旅行に関連する基礎的な単語やフレーズを習得し、それらを使って英会話ができるようになる。
2. 海外旅行時や訪日外国人観光客とのやり取りで、自信を持って英語でコミュニケーションができる。
3. 多文化や異文化、そして自国の文化に関する理解を深め、異文化間のコミュニケーションを円滑に行うことができる。
4. ペアワークやグループワークを通じて、他者と協力し、共同作業を進めることができる。

授業計画

【第1回】オリエンテーション
・コース全体の流れ、授業の目的、進め方、評価基準の説明。
・海外旅行に関するトピック、自己紹介等（Unit 7: Tell me about your country.）。
【第2回】
テーマ：入国審査
テキスト Unit 1: What’s the purpose of your visit?
内容：空港での入国審査における基本的なやりとりを学習する。
【第3回】
テーマ：目的地への移動 / 交通機関 / 乗換案内
テキスト Unit 3: When is the next train to Xi’an?
内容：目的地までの移動手段を尋ねたり答えたりする表現、また交通機関を利用する際に必要な表現や乗換案内の表現を学習する。
【第4回-5回】
テーマ：ホテル
テキスト Unit 4: The TV is broken. / Unit 17: I don’t think this is right.
内容：チェックイン/チェックアウト手続きのやり取りを学習する。また、ホテルへの要望やトラブルの伝え方を覚える。
【第6回-7回】Review Quiz ①
テーマ：観光 / 道案内
テキスト：Unit 5: What is there to see? / Unit 11: Would you like to visit the Temple of Heaven? / Unit 14: Go straight along this road.
内容：旅行先で観光情報（おすすめの観光地、食べ物、アクティビティーなど）を尋ねたり答えたりする表現、道案内の表現を学習する。
【第8回】
テーマ：買い物
テキスト：Unit 2: How much is it?
内容：洋服や小物を選んだり購入したりする際の店員と客とのやり取りを学習する。
【第9-11回】
テーマ：食事
テキスト Unit 10: I’d like a cup of coffee, please. / Unit 13: I’d like a chicken sandwich, please.
内容：レストランでオーダーする時の店員とのやり取り、カフェやファーストフード店でテイクアウトメニューをオーダーする時のやり取りを学習する。
【第12回】Review Quiz ②
テーマ：トラブル
テキスト Unit 9: Does it hurt?
内容：体調不良や怪我をした時の伝え方を学習する。
【第13回】
テーマ：空港でのチェックイン
テキスト Unit 19: Did you pack this bag yourself?
内容：空港のチェックインカウンターでの基本的なやり取りを学習する。
【第14回】
・旅先での別れの挨拶や御礼、連絡先の交換などのやり取りを学習する（Unit 18: Keep in touch!）。
・Speaking演習の準備：これまで学習した場面からひとつ選び、ペアまたはグループでSkit（寸劇）を作る。
【第15回】
・ペアまたはグループのSkit発表
・Final Examinationの説明

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：事前にテーマを確認して授業に参加すること。その際、旅行者としての立場だけでなく、訪日観光客に対応する立場だった場合、どのように説明するかも考えてみましょう。
事後学習：学習した単語や英会話表現を繰り返し声に出して練習し、単語のつづりも覚えましょう。既習内容については、随時Review Quiz（復習テスト）で定着度を確認するので、しっかり復習してください。また、出された課題は確実にこなし、次の授業に備えましょう。

課題に対するフィードバックの方法

・Review Quiz（復習テスト）にはポイントを付与し、返却時にフィードバックを行います。
・授業中の活動（ペア・グループワーク）については、机間巡視を通じて理解度を把握し、適宜助言を行います。
・Speaking演習については、ルーブリックで評価基準を明確にし、発表後にクラスメートと教員からフィードバックを行います。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下の評価方法により、60点以上を合格とし、所定の単位を認定します。なお、欠席が4回以内の場合のみ成績評価の対象とし、正当な理由なく5回以上欠席した場合は「K」評価となるため、注意してください。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	Review Quizzes 計2回 (30) Speaking演習 (20)	1,2,3,4
授業外での評価	0		
定期試験	30	筆記試験（リスニングを含む）	1,2,3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	20	ペア・グループワークへの積極的な参加 (10) 振り返りの提出 (10)	1, 2, 3, 4

テキスト	PASSPORT2 / Angela Buckingham, Lewis Lansford / Oxford University Press / ISBN 978-0-19-471822-6 ※教科書の価格は購入時に確認してください（目安として、2,500円～3,000円程度です）。
参考書	必要に応じて、授業の中で参考書を紹介します。
履修条件・他の科目との関連	・学習した英会話表現を実践的に使えるようになるため、ペア・グループワークに積極的に参加してください。 ・授業資料は授業終了後Google Classroomに提示しますので、欠席した場合は必ず確認してください。

授業コード	22043301	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	英語総合演習Ⅲ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	細井　利枝子				
シラバス執筆(主)	細井　利枝子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

英語総合演習Ⅰから継続して、更に英語の運用能力が向上するよう指導する。英文の構造を理解し構文の中で文法がどのように機能するかを説明する。また、スラッシュリーディングの正確さ、及びリスニングの精度も高めるよう指導する。最終的には、クラスメートとの共同作業を通じて実践的な英語でのコミュニケーション能力及び自分の意思を英語で的確に述べることが出来るよう指導する。

到達目標

1. 語彙力を向上させ、語彙拡大と新出単語を使用して文章作成ができる。
2. 英語の基本ルールを正しく理解し応用力を強化できる。
3. 英語の基本ルールを踏まえコミュニケーションがスムーズに実行できる。
4. 様々な英語資格試験取得の際、4技能を応用できる。

授業計画

第1回　オリエンテーション、及びUnit ８（助動詞）に焦点を当てた演習を行う。
第2回　Unit ８:　「Diraction」を行い、吸収される音に慣れる演習を行う。
第3回　Unit ９:　（形容詞、副詞）の活用及び文脈の理解を深める演習を行う。
第4回　Unit ９:　（機能語）の吸収音をリスニングを通じて演習する。
第5回　Unit 10:　（不定詞）の重要性と、文中での意味を理解し、長文のスラッシュリーディングを行う。
第6回　Unit 10:　リエゾンで消える音の説明を行い、リスニング強化のための演習を実施する。
第7回　Unit8～Unit10の語彙の復習を行い、語彙力の進捗状況を精査する。
第8回　Unit 11:　分詞について演習する。
第9回　Unit 11:　文脈の中での分詞の働きについて演習する。
第10回　Unit 12:　比較級について演習する。
第11回　Unit 12:　比較級、最上級の比較演習を行う。
第12回　Unit 13:　（関係詞）について演習を行う。
第13回　Unit 13:　様々な（関係詞）を文脈で理解する演習を行う。
第14回　Unit 14:　（接続詞）（前置詞）の演習を行う。
第15回　Unit 14:　文脈の中での（接続詞）（前置詞句）の機能を演習する。又、後期学習した全てのUnitの語彙テストを行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

目安として、授業すべての回において、事前学習に1時間、事後学習に3時間の自主学習を行う。

【第1回】
①　事前学習課題：現在完了形について基本文法を予習しておく。
②　事後学習課題：現在完了形と過去形の違いを自分なりの言葉で説明できるようになる。
【第2回】
①　事前学習課題：現在完了形を使用した文法問題が理解できたかどうかを確認しておく。
②　事後学習課題：現在完了形を使用した長文が和訳できる。
【第3回】
①　事前学習課題：形容詞と副詞の違いを確認する。
②　事後学習課題：形容詞、副詞の文中での機能を確認する。
【第4回】
①　事前学習課題：形容詞と副詞が英文に及ぼす役割について自分で調べる。
②　事後学習課題：機能語の吸収音を復習する。
【第5回】
①　事前学習課題：不定詞の基本文法を予習する。
②　事後学習課題：不定詞の3用法を復習する。
【第6回】
①　事前学習課題：不定詞の文法問題を予習する。
②　事後学習課題：不定詞が長文中で果たす役割を復習する。
【第7回】
①　事前学習課題：UNIT8~10までの新出単語を復習する。
②　事後学習課題：現在完了、品詞、不定詞の全ての文法を復習する。
【第8回】
①　事前学習課題：現在分詞、過去分詞の文法を予習する。
②　事後学習課題：分詞の英文中での機能を復習する。
【第9回】
①　事前学習課題：現在分詞、過去分詞の使用例を予習する。

②　事後学習課題：リスニング中での分詞の機能を復習する。
【第10回】
①　事前学習課題：原級、比較級、最上級の基本文法を予習する。
②　事後学習課題：比較級と最上級の構文の違いを復習する。
【第11回】
①　事前学習課題：比較級、最上級の構文の変化を予習する。
②　事後学習課題：長文、リスニングにおける比較級最上級の役割を復習する。
【第12回】
①　事前学習課題：関係詞の基本文法を予習する。
②　事後学習課題：関係代名詞の機能と種類を復習する。
【第13回】
①　事前学習課題：制限用法、非制限用法の違いを予習する。
②　事後学習課題：関係代名詞の前に置かれる前置詞を復習する。
【第14回】
①　事前学習課題：関係詞の構文の中での役割を予習する。
②　事後学習課題：関係詞と分詞の関係性について復習する。
【第15回】
①　事前学習課題：接続詞と前置詞の基本文法を予習する。
②　事後学習課題：構文における文法の機能を総復習する。

課題に対するフィードバックの方法

授業の習熟度を測るための既習箇所の復習テストを毎回行い、採点基準点に達していない場合は、追加課題の提出を求める。
また、授業内での講評を通じて、十分理解て来ていない個所を各自で確認し、その結果を個人スコアーに加算していく。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。
●総合的に判定の上、60点以上を合格として所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	Vocabulary Test (30) Dictation Test (10)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	50	筆記試験	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	10	積極的な質問（5）、意見発表（5）	2, 3, 4

テキスト	Let's Read Aloud and Learn English Going Abroad/角山照彦／成美堂/2530　ISBN978-4-7919-7226-5
参考書	必要に応じて授業の中で別途紹介する。
履修条件・他の科目との関連	この授業は、前期の演習Ⅰからの継続であり、テキストは同一のものを使用する。 授業を通年で計画しているので、前期“英語総合演習Ⅰ”を受講していることが望ましい。 プリントを多用するので、授業を欠席した場合には、内容をクラスメートに確認し、自分自身でフォローアップしておくこと。

授業コード	22046201	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	英語総合演習Ⅳ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	森田　篤司				
シラバス執筆（主）	森田　篤司				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

英語総合演習Ⅱから継続して、企業で一般に使用されるビジネス英語を解説・指導し、ビジネス分野での英語コミュニケーションの基礎力を養う。様々なビジネスシーン・環境の解説を加えながら、テキストに沿いTOEICの問題パターンに慣れるよう演習を実施する。

到達目標

1.新出単語を使用して文章作成することができる。
2.TOEICの試験の概要とパターンを理解できる。
3.授業で学んだ基礎を応用して問題を解く能力を身に付けることができる。
4. TOEICを受験しスコア450点以上をとることを到達目標にする。

授業計画

第1回　オリエンテーション（授業の概要、進め方、評価の方法、到達目標について説明する）。
第2回　Unit 8: Personnelをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第3回　Unit 8: Personnelをテーマとした実用英語の演習を文法（品詞）及び読解を中心に行う。
第4回　Unit 9: Advertisingをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第5回　Unit 9: Advertisingをテーマとした実用英語の演習を文法（比較）及び読解を中心に行う。
第6回　Unit 10: Meetingsをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第7回　Unit 10: Meetingsをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第8回　Unit 12: Officesをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第9回　Unit 12: Officesをテーマとした実用英語の演習を文法（接続詞・前置詞）及び読解を中心に行う。
第10回　Unit 13: Daily Lifeをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第11回　Unit 13: Daily Lifeをテーマとした実用英語の演習を文法(関係代名詞)及び読解を中心に行う
第12回　Unit 14: Sales&Marketingをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第13回　Unit 14: Sales&Marketingをテーマとした実用英語の演習を文法（語彙）及び読解を中心に行う。
第14回　Unit 15: Eventsをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第15回　Unit 15: Eventsをテーマとした実用英語の演習を文法（語彙）及び読解を中心に行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業外課題はリスニングを中心に、アプリでの演習を行う。
また、授業でのL&R演習の説明ができるよう復習を行う。（事前・事後学習毎回平均各2時間）。

課題に対するフィードバックの方法

既習箇所の習熟度を確認するために復習を行う。毎回の単語課題、L&R演習の取り組み結果、並びに、授業での発表等に対し解説を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により60点以上を合格として所定の単位を認定する
正当な理由無しに５回または、それ以上欠席した場合には原則として評価不能とみなしK評価とする
遅刻3回で欠席1回の扱いとする
正当な理由なく定期試験を欠席した場合はK評価とする

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	Vocabulary Worksheet（10） L&R演習、発表（20）	Vocabulary Worksheet：1, 4L&R演習、発表：2, 3, 4
授業外での評価	15	TOEIC English Upgrader(15)	TOEIC English Upgrader：2, 3
定期試験	50	筆記試験（Listening & Reading）	筆記試験: 1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		

その他	5	積極的な発言・発表・取り組み	2, 3

テキスト	The HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST 金星堂/2,200/ISBN978-4-7647-4045-7
参考書	必要に応じて授業の中で別途紹介する。
履修条件・他の科目との関連	本科目は英語総合演習Ⅱの延長の位置付けであるが、今回初めて受講される方でも安心して受講可能である。 テキストも英語総合演習Ⅱと同一のテキストと同一のものを使用する。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 授業を欠席した場合は、欠席した授業の内容をクラスメートに確認し、自らフォローアップしておくこと。

授業コード	22044801	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	夏季特別集中講座　［対面］				
シラバス執筆(全員)	森田　篤司				
シラバス執筆(主)	森田　篤司				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

この夏季集中講座は、実用的な英語を集中的に学ぶことで、総合的な英語力の向上を目指すことを目的とする。
TOEICスコア400点以上を到達目標とする。
テキストは、TOEIC対策教材を使用し、頻出トピックで、単語、文法、リスニング、長文読解の問題パターンに慣れるよう演習を実施する。また、単語と
文法については補助教材も活用しながら基礎力の確認も行う。

到達目標

1. テキストの新出単語の意味を理解することができる
2. TOEICの試験の概要とパターンを理解することができる。
3. TOEICを受験し、スコア400点以上をとることを到達目標にする。

授業計画

第1回　オリエンテーション(授業の概要、進め方、補助教材、評価の方法、到達目標について説明する)
　　文法の基礎についての解説
第2回　エクササイズUNIT1：Restaurant
第3回　エクササイズUNIT2: Offices

第4回　　エクササイズUNIT 3: Daily Life
第5回　エクササイズUNIT 3: Daily Life
第 6回　エクササイズ UNIT 4: Personnel

第7回　エクササイズ UNIT 5: Shopping
第8回　　エクササイズ UNIT 5: Shopping
第9回　エクササイズ UNIT　6: Finances

第10回　エクササイズ UNIT 7: Transportation
第11回　エクササイズUNIT 7: Transportation
第12回　エクササイズUNIT 8: Technology

第13回　エクササイズ UNIT 9: Health
第14回　エクササイズUNIT 9: Health
第15回　エクササイズUNIT 10: Travel

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習として、以下の課題(Homework)に取り組むこと
テキスト補助教材の LINGUA PORTA 演習

課題に対するフィードバックの方法

授業での発表や小テストに対しての解説を行う

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す方法により総合的に判定の上で、60点以上を合格とし、単位を認定する。
正当な理由なく5回、またはそれ以上欠席した場合は「K」評価とする
遅刻3回で、1回の欠席とみなす
正当な理由なく定期試験を欠席した場合はK評価とする

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	Review Quiz (20) テキストの読解・解説 (20)	Review Quiz: 1, 2, 3テキストの読解・解説: 2, 3

授業外での評価	10	LINGUAPORTA 演習 (10)	LINGUAPORTA 演習: 1, 2, 3
定期試験	50	試験(Listening & Reading) (50)	試験(Listening & Reading):1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	A COMMUNICATIVE APPROACH TO THE TOEIC L&R TEST Book1:Elementary 成美堂 / 2,530 /ISBN978-4-7919-7252-4
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	進捗によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更したりすることがある。 夏季特別集中講座開講前の事前課題に取り組むこと(7月頃に連絡予定)

授業コード	22050201	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	時事英語　［対面］				
シラバス執筆(全員)	宮本　佳奈				
シラバス執筆(主)	宮本　佳奈				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業の目的は、時事英語のリスニングを基軸として、4技能（Listening, Speaking, Reading, Writing）のスキルを総合的に向上させることです。授業では、トピックの導入後にニュースの音声や動画を視聴し、クイズ形式で内容理解を深めます。また、リスニングと音読を繰り返すことで英語の音の特徴をつかみ、ニュースの英文を効率よく聞き取り、読み取る力を養います。さらに、インプットからアウトプットへつなげるために、関連トピックについてペアやグループで話し合ったり、短い英文（3～5文程度）を書いたりすることで、様々な問題について自分の考えを英語で伝える演習を行います。なお、ニュース記事はスポーツ、社会、文化など幅広い分野から、身近な話題を取り上げる予定です。

到達目標

1. 英語ニュースを読むための語彙を増やし、ニュース音声を聴いた時にそれらを聴き取ることができる。
2. 英語ニュースを聴いたり読んだりして、大まかな内容を把握することができる。
3. ニュースの原稿(transcript)を正しい発音でスムーズに音読することができる。
4. ニュースに関連した問題について、自分なりの考えを英語で伝えることができる。
5. 世界で起きている様々な課題に対する問題意識を持ち、それらについて考えることができる。

授業計画

【第1回】 Course Orientation
　授業の目的、進め方、評価基準の説明 / 授業のデモンストレーション
【第2回】 News Article 1
　トピックの導入 / 語彙（Vocabulary）の確認 / ニュース音声を繰り返し聴き、内容を把握 / ニュースの英文を読み、クイズ形式で内容理解を深める /
　ニュース音声と原稿（Transcript）を用いた音読練習 / ニュースに関する問いについて、ペアやグループで感想や意見を交換する / （以下同様）
【第3回】　News Article 2
【第4回】　News Article 3
【第5回】　Review Quiz ① / Speaking演習 ①
【第6回】　News Article 4
【第7回】　News Article 5
【第8回】　News Article 6
【第9回】　News Article 7
【第10回】Review Quiz ② / Speaking演習 ③
【第11回】News Article 8
【第12回】News Article 9
【第13回】News Article 10
【第14回】News Article 11
【第15回】Review Quiz ③ / Speaking演習 ③ / Final Assignmentの説明

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：テーマを事前に確認しておいてください。
事後学習：単語の復習を行い、ニュース音声を聞きながら音読練習をしてください。また、出された課題は必ず提出してください。

課題に対するフィードバックの方法

・Review Quiz（復習クイズ）にはポイントを付与し、返却時に授業内で解説を行います。
・授業外の提出課題については、適宜フィードバックを行います。
・Speaking演習については、授業内で適宜フィードバックを行います。
・授業中の活動（ペア・グループワーク）については、机間巡視を通じて理解度を把握し、助言などを行います。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下の評価方法により、60点以上を合格とし、所定の単位を認定します。なお、欠席が4回以内の場合のみ成績評価の対象とし、正当な理由なく5回以上欠席した場合は「K」評価となるため、注意してください。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	Review Quizzes 計3回 (45) Speaking演習 [音読テスト] 計3回 (15)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	10	課題（復習プリント等）の提出	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末課題（テスト形式の課題）	1, 2, 3, 4, 5
その他	20	授業内の活動への積極的な参加 (10) 振り返りの提出 (10)	1, 2, 3, 4, 5

テキスト	テキストは使用せず、適宜資料を配布します。
参考書	必要に応じて、授業の中で紹介します。
履修条件・他の科目との関連	・進行状況によっては、授業計画の順序や内容を変更する場合があります。 ・音読練習に必要なので、イヤホンを毎回持参してください。 ・授業資料は授業終了後にGoogle Classroomに掲載しますので、欠席した場合は必ず確認してください。

授業コード	22044901	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	英語集中演習　［対面］				
シラバス執筆(全員)	森田　篤司				
シラバス執筆(主)	森田　篤司				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

TOEIC受験者の一般的なスコア特性として、リーディングスコアがリスニングスコアを下回る傾向がある。本科目では、苦手とみなされるリーディングの文法と読解を中心に、ビジネス英語力の向上を図ると共に、課題に対し主体的に取り組む姿勢を育成する。

到達目標

1.新出単語を使用して文章を作成することができる
2.TOEIC頻出テーマを取り上げ、応用問題を解く力を身に付いている。
3. TOEICを受験しスコア500点以上をとることを到達目標にする。

授業計画

第1回　オリエンテーション（授業の概要について説明する）。
第2回　UNIT1 Home Appliancesに関する頻出問題対策
第3回　UNIT2 Recreationに関する頻出問題対策①
第4回　UNIT2 Recreationに関する頻出問題対策②
第5回　UNIT3 Restaurantに関する頻出問題対策①
第6回　UNIT3 Restaurantに関する頻出問題対策②
第7回　UNIT4 Supermarket Shoppingに関する頻出問題対策①
第8回　UNIT4 Supermarket Shoppingに関する頻出問題対策②
第9回　 UNIT5 Housingに関する頻出問題対策
第10回　UNIT6 Businessに関する頻出問題対策 ①
第11回　 UNIT6 Businessに関する頻出問題対策 ②
第12回　UNIT7 Bank & Post officeに関する頻出問題対策①
第13回　UNIT7 Bank & Post officeに関する頻出問題対策②
第14回　 UNIT8 Job Huntingに関する頻出問題対策
第15回　 UNIT9 Healthに関する頻出問題対策

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

講義で学んだ内容の復習、並びに講義の最後に提示される翌週の授業の為の授業外課題に着実に取り組み、翌週の授業で個人の取り組みの成果を確認する。　更に、事前学習では、クラス内の他の受講生に対して説明ができる様に事前の深い理解と学びを会得する様に努力する（毎回の平均事前学習３時間、事後学習1時間）。

課題に対するフィードバックの方法

語彙力と読解力の向上に向け、授業外課題への取組みを行う。適宜Review Quizを実施し、授業内で解説を行う。個人の理解度を確認すると共に、必要に応じて個人指導を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により60点以上を合格として所定の単位を認定する
正当な理由無しに5回または、それ以上欠席した場合には原則として評価不能とみなしK評価とする
3回の遅刻で1回の欠席とする
正当な理由なしに定期試験を欠席した場合はK評価とする

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	文法Review Quiz(20) 文法・読解の解説発表(10)	2, 3
授業外での評価	20	Vocabulary Sheet(10) LINGUA PORTA(空所補充)(10)	Vocabulary Sheet:1, 3LINGUA PORTA(空所補充):1, 3
定期試験	50	筆記試験(文法と読解問題)	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		

その他	0		

テキスト	AN AMAZING APPROACH TO THE TOEIC L&R TEST 成美堂 / 2,530 / ISBN978-4-7919-7188-6
参考書	必要に応じて、授業の中で別途紹介する。
履修条件・他の科目との関連	この授業は、予習・復習を着実に行い。実用英語、特にReadingの力の修得を希望する学生の受講が望まれる。 受講に当たっては、英検準2級レベル（又はTOEIC350点）程度の語学力が望ましく、既にクリアしている学生も含め、TOEIC 500点以上を到達目標とする。 授業を欠席した場合は、欠席した授業の内容をクラスメートに確認し、自らフォローアップしておくこと。

授業コード	22011701	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	教育原理（教育制度を含む）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	久保田　健一郎				
シラバス執筆(主)	久保田　健一郎				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的･概要

本授業は、保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）になる上で必要となる教養・知識などを学ぶ授業である。まず、教育の意義・目的、教育と福祉とのつながり、教育と家庭・地域・社会とのつながり、教育の歴史・思想について講義する。そうした基本的概念の理解の上で、教育制度、学校経営、学校と地域との連携、学校安全について講義する。

到達目標

１．教育の意義・目的について説明できる。
２．教育と児童福祉のつながり、家庭・地域・社会との関連性について説明できる。
３．教育の歴史・思想について説明できる。
４．教育制度、学校経営、学校安全について説明できる。
５．現代の教育問題について考え、自分なりの意見を展開できる。

授業計画

第1回　教育原理を学ぶために
第2回　教育の意義
第3回　教育の目的
第4回　教育と児童福祉のつながり
第5回　人間形成と家庭・地域・社会のつながり
第6回　教育制度の基礎
第7回　さまざまな国の教育思想家たち
第8回　日本の教育思想と歴史
第9回　近代教育成立の歴史
第10回　子ども観と教育観の変遷
第11回　教育行政および学校経営の基礎
第12回　教育実践の基礎理論と多様な取り組み
第13回　諸外国の教育事情と教育改革
第14回　生涯学習社会と教育・学校安全の理解と取り組み
第15回　現代の教育課題

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

講義科目であり、毎回の授業で１時間の予習、３時間の復習は必須である。予習はテキストの該当箇所を熟読し、各回の課題を明確にしておく。復習は、テキストと配布資料を用いて各回のポイントを定着させる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対し、授業内で復習と合わせてコメントをする。

成績評価の方法･基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法･割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	課題	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	『いまがわかる教育原理』 西本望編　みらい　2310円（税込み）　ISBN-10：4860154509
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	学科必修科目で、幼稚園教諭免許と保育士資格の取得を前提とした授業である。 欠席した回の資料は、Google Classroomに掲示しておく。

授業コード	22046401	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	保育原理　［対面］				
シラバス執筆（全員）	北村　麻樹				
シラバス執筆（主）	北村　麻樹				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

保育実践の基本的知識や保育の基本を解説する。また、専門職としての保育者の役割や保育の多様なあり方についての理解、保育の現状と今後の方向性等を理解することを目指す。
保育者に求められる資質と社会からの要求、問題点等について具体的に考察する力を身につける。

到達目標

１．保育の意義とその目的について理解し、説明ができる。
２．現代保育の理念とその歴史、及び制度について知り、その意味を理解して説明ができる。
３．保育の基本を理解し、保育目標や内容・方法を考察できる。
４．保育者の意義・役割・職務内容について説明ができる

授業計画

【第１回】保育とは何か
【第２回】子どもの権利と保育
【第３回】保育の社会的意義
【第４回】子どもの発達と子ども理解
【第５回】西欧の保育の思想と歴史
【第６回】わが国の保育の思想と歴史
【第７回】多様化する保育の場
【第８回】保育の目標と内容
【第９回】保育の方法①環境を通して行う保育
【第１０回】保育の方法②生活と遊びを通した総合的な保育
【第１１回】保育の計画
【第１２回】保育者の専門性
【第１３回】子育て支援の必要性
【第１４回】諸外国の保育
【第１５回】保育の現状と課題　振り返りまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：各回の講義のテーマについて、事前にテキストの指定箇所を読み、予習しておくこと。
事後学習：講義で学んだことについて振り返り、理解を深め、内省しながら次の講義につなげること。

課題に対するフィードバックの方法

課題のまとめの評価については希望者に開示する。
授業の学びにおけるフィードバックは、次回の授業の初めに振り返り、学びを深める。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、単位を認定する。

毎回の授業意欲（態度と課題内容）、課題レポート、授業内小テストに対する総合評価とする。
正当な理由なく6回以上欠席した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業への取り組み、課題提出状況や課題内容を評価する（30） 授業内小テスト（20） 授業内容から出題する	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	50	授業内容から出題する（50）	1, 2, 3, 4

定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない。 適宜必要な資料をGoogleClassroomに載せる。
参考書	・咲間まりこ監修『保育原理―はじめて保育の扉をひらくあなたへー』(株式会社みらい)2019 ・厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館)2018 ・文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館)2018 ・内閣府・厚生労働省・文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館)2018
履修条件・他の科目との関連	保育士資格取得のために必要な科目です。 子どもや保育に関するニュースに関心をもち現在の保育の動向について普段から目を向けることが大切です。 0歳～5歳の子どもたちを見かけたら子どもの行動や、親との関わりを観察するようにしましょう。

授業コード	22020301	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	発達心理学Ⅰ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	大塚　穂波				
シラバス執筆（主）	大塚　穂波				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

保育者に求められる発達心理学領域の知識を体系的に理解することを目的として、乳幼児期を中心に子どもの心身の発達過程について概説する。

到達目標

1. 乳幼児期の子どもの認知的・社会的・身体的発達に関する基本的事項を説明することができる
2. 発達的視点から子どもを理解し援助する方法を提案することができる

授業計画

第1回　イントロダクション：発達と保育
第2回　子ども観と発達観・保育観
第3回　発達の規定因：遺伝と環境
第4回　発達にかかわる理論と発達のとらえ方
第5回　身体的機能・運動機能の発達
第6回　自己・情動の発達
第7回　認知の発達(1)：ピアジェの発生的認識論
第8回　認知の発達(2)：自己中心性と心の理論
第9回　社会性の発達
第10回　言葉の発達とコミュニケーション(1)：前言語期からの変化
第11回　言葉の発達とコミュニケーション(2)：幼児期の言語活動
第12回　学びにかかわる理論(1)：条件づけ、観察学習
第13回　学びにかかわる理論(2)：動機づけと自己効力感、原因帰属
第14回　子どもの学びと保育：アタッチメント
第15回　まとめ：主体性を育む保育環境

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

予習としてシラバスを読んで毎回の授業テーマを確認し、自分の関心を整理しておくこと。授業後は配布資料・ノートをもとに授業内容を復習し、疑問点等を整理すること。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーは次回の授業内で紹介する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格として所定の単位を認定する。正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	小テスト(20%)、演習課題(30%)	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	50	試験期間中の試験（持ち込み不可）	1, 2
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず資料を配布する。
参考書	「保育の心理学演習ブック」第2版　松本峰雄監修　ミネルヴァ書房　2021年 その他、必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連	欠席した回の資料はGoogle Classroomよりダウンロードし、自習すること。 「発達心理学Ⅱ」につながる。

授業コード	22050301	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	特別支援教育概論（障害児保育を含む）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	大塚　穂波				
シラバス執筆(主)	大塚　穂波				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

幼稚園教諭および保育士として障害のある子どもや特別な支援を要する子どもの保育を行ううえで身につけておくべき基本的態度や特別支援教育の理念・仕組み、障害に関する基礎的知識について概説する。また、インクルージョンの考え方を念頭に、障害のある子どもや特別な支援を要する子どもを含めた集団の育ちを援助する具体的な方法についても説明する。

到達目標

1. 特別支援教育・障害児保育の制度や理念をふまえ、その重要性について文章化できる
2. 特別の支援を必要とする子どもの特性や心身の発達について、共通性と差異性の両面から説明することができる
3. 個々の子どもの生活上の困難に応じて、集団の育ちを保障する支援計画を提案することができる

授業計画

第1回　イントロダクション：インクルージョンと合理的配慮
第2回　障害の社会モデル
第3回　発達と障害
第4回　特別支援教育の歴史
第5回　肢体不自由の理解と援助
第6回　視覚障害・聴覚障害の理解と援助
第7回　知的障害の理解と援助
第8回　発達障害の理解と援助(1)　自閉スペクトラム症
第9回　発達障害の理解と援助(2)　注意欠如多動症・現局性学習症
第10回　さまざまな配慮を要する子どもの理解と援助
第11回　遊びの援助と集団の育ち
第12回　支援計画の作成
第13回　記録と評価
第14回　保護者や家庭への支援
第15回　職員間および地域・専門機関との連携

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

予習としてシラバスを読んで毎回の授業テーマに該当するテキストの章を通読し、自分の関心を整理しておくこと。授業後はテキスト、ノートをもとに重要語句等を復習すること。

課題に対するフィードバックの方法

グループワークや発表に対してはその場でコメントする。リアクションペーパーは次回の授業内で紹介する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格として所定の単位を認定する。正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	グループワークへの貢献度(20)課題の達成度(20)リアクションペーパーの内容(30)	1,2,3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	定期試験に代わるレポート	1,2,3
その他	0		

テキスト	「演習・保育と障害のある子ども」野田敦史・林　恵（編），みらい，2,860円，ISBM: 9784860156091
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	欠席した回もテキストを通読したうえで課題に取り組み、内容を理解しておくこと。

授業コード	22048101	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	保育者論　［対面］				
シラバス執筆（全員）	久保田　健一郎				
シラバス執筆（主）	久保田　健一郎				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業は、保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）になる上で必要な倫理、意義、専門性、職務内容について学ぶ授業である。
まず保育者の意義、職業的特徴、免許・資格について講義する。そうした基本的な理念や免許の制度の理解の上で、保育者の職務内容、服務、権利、研修、各専門家との連携、加えて保育者の役割、資質能力、専門性について講義する。

到達目標

１．保育者の意義や職業的特徴について説明することができる。
２．保育者の職務内容、服務、権利、研修について説明することができる。
３．保育者の資質能力、役割、専門性について説明することができる。
４．さまざまな教育専門家とその連携について説明することができる。
５．保育者への意欲を明確にし、自分の保育理念を説明することができる。

授業計画

第1回　保育者の意義・倫理・職業的特徴について
第2回　幼稚園教諭免許・保育士資格について
第3回　保育教諭について
第4回　映像から考える現代の保育問題
第5回　法律からみる保育者
第6回　育みたい資質能力と保育者の役割
第7回　保育者の職務内容・服務・権利
第8回　リーダーシップとマネジメント（チーム学校も含む）
第9回　映像から考える現代の子育て問題
第10回　関係機関との連携
第11回　保育の質について
第12回　現代の保育制度とその理解①（子ども・子育て支援新制度など）
第13回　現代の保育制度とその理解②（こども基本法など）
第14回　現代の保育問題（不適切な保育など）
第15回　保育者論を学び終えて

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

講義科目であり、毎回の授業で１時間の予習、３時間の復習は必須である。予習はシラバスを読み各回の課題を明確にしておく。復習は配布資料を用いて行う。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対し、授業内で復習と合わせてコメントをする。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	課題	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	資料を配布する（テキストは使用しない）
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	幼稚園教諭免許と保育士資格の取得を前提とした授業である。 欠席した回の資料はクラスルームに掲示する。

授業コード	22039321	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	古海　忍				
シラバス執筆(主)	古海　忍				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、様々な取り組みを行う。

到達目標

１．建学の精神を理解し、説明することができる。
２．ICT機器の活用、学生・社会人としてのマナー、メモやノートの取り方、レポートの書き方を理解し、実行することができる。
３．レクリエーション、人形劇の鑑賞やワークショップへの参加、季節に応じた行事の開催を通して身に付けた専門的な保育技術を応用することができる。
４．実習に関する説明会・勉強会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

第1回　自己紹介・人間関係の構築
　　学生同士や教員などとの人間関係の構築
第2回　学外実習の事務手続きの完成
　　個人票の確認、学校依頼申込書確認、建学の精神について
第3回　「実習に向けて①」
　　幼稚園・保育所・認定こども園での実習の理解、クラス運営について（役割分担など）
第4回　「実習に向けて②」実習に役立つ遊びの紹介
第5回　建学の精神　OIU/OICドリル
第6回　ICT機器の活用について（マナー講習ABクラス　7-301教室）
第7回　学生・社会人としてのマナー講習（マナー講習CDクラス7-301教室）
第8回　基礎学力テスト・メモやノートの取り方、レポートの書き方（マナー講習EFクラス7-301教室）
第9回　「実習に向けて③」実習に向けた名札づくり
第10回　「実習に向けて④」実習に役立つ遊びの実践
第11回　幼稚園教育実習に向けての説明会
第12回　人形劇の鑑賞とワークショップ
第13回　季節に応じた行事　夏休みに向けて
第14回　幼稚園に関する講演会
第15回　前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第2回、第3回、第4回、第9回、第10回、第11回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
・第13回の季節に応じた行事は、事前に準備をしておく。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法･基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、６０点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法･割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4

授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
参考書	適宜、授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039322	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	織田　恵輔				
シラバス執筆(主)	織田　恵輔				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、様々な取り組みを行う。

到達目標

１．建学の精神を理解し、説明することができる。
２．ICT機器の活用、学生・社会人としてのマナー、メモやノートの取り方、レポートの書き方を理解し、実行することができる。
３．レクリエーション、人形劇の鑑賞やワークショップへの参加、季節に応じた行事の開催を通して身に付けた専門的な保育技術を応用することができる。
４．実習に関する説明会・勉強会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

第1回　自己紹介・人間関係の構築
　　学生同士や教員などとの人間関係の構築
第2回　学外実習の事務手続きの完成
　　個人票の確認、学校依頼申込書確認、建学の精神について
第3回　「実習に向けて①」
　　幼稚園・保育所・認定こども園での実習の理解、クラス運営について（役割分担など）
第4回　「実習に向けて②」実習に役立つ遊びの紹介
第5回　建学の精神　OIU/OICドリル
第6回　ICT機器の活用について（マナー講習ABクラス　7-301教室）
第7回　学生・社会人としてのマナー講習（マナー講習CDクラス7-301教室）
第8回　基礎学力テスト・メモやノートの取り方、レポートの書き方（マナー講習EFクラス7-301教室）
第9回　「実習に向けて③」実習に向けた名札づくり
第10回　「実習に向けて④」実習に役立つ遊びの実践
第11回　幼稚園教育実習に向けての説明会
第12回　人形劇の鑑賞とワークショップ
第13回　季節に応じた行事　夏休みに向けて
第14回　幼稚園に関する講演会
第15回　前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第2回、第3回、第4回、第9回、第10回、第11回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
・第13回の季節に応じた行事は、事前に準備をしておく。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法･基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、６０点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法･割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4

授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
参考書	適宜、授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039323	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	吉田　貴子				
シラバス執筆(主)	吉田　貴子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、様々な取り組みを行う。

到達目標

１．建学の精神を理解し、説明することができる。
２．ICT機器の活用、学生・社会人としてのマナー、メモやノートの取り方、レポートの書き方を理解し、実行することができる。
３．レクリエーション、人形劇の鑑賞やワークショップへの参加、季節に応じた行事の開催を通して身に付けた専門的な保育技術を応用することができる。
４．実習に関する説明会・勉強会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

第1回　自己紹介・人間関係の構築
　　学生同士や教員などとの人間関係の構築
第2回　学外実習の事務手続きの完成
　　個人票の確認、学校依頼申込書確認、建学の精神について
第3回　「実習に向けて①」
　　幼稚園・保育所・認定こども園での実習の理解、クラス運営について（役割分担など）
第4回　「実習に向けて②」実習に役立つ遊びの紹介
第5回　建学の精神　OIU/OICドリル
第6回　ICT機器の活用について（マナー講習ABクラス　7-301教室）
第7回　学生・社会人としてのマナー講習（マナー講習CDクラス7-301教室）
第8回　基礎学力テスト・メモやノートの取り方、レポートの書き方（マナー講習EFクラス7-301教室）
第9回　「実習に向けて③」実習に向けた名札づくり
第10回　「実習に向けて④」実習に役立つ遊びの実践
第11回　幼稚園教育実習に向けての説明会
第12回　人形劇の鑑賞とワークショップ
第13回　季節に応じた行事　夏休みに向けて
第14回　幼稚園に関する講演会
第15回　前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第2回、第3回、第4回、第9回、第10回、第11回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
・第13回の季節に応じた行事は、事前に準備をしておく。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、６０点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4

授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
参考書	適宜、授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039324	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	北村　麻樹				
シラバス執筆(主)	北村　麻樹				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、様々な取り組みを行う。

到達目標

１．建学の精神を理解し、説明することができる。
２．ICT機器の活用、学生・社会人としてのマナー、メモやノートの取り方、レポートの書き方を理解し、実行することができる。
３．レクリエーション、人形劇の鑑賞やワークショップへの参加、季節に応じた行事の開催を通して身に付けた専門的な保育技術を応用することができる。
４．実習に関する説明会・勉強会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

第1回　自己紹介・人間関係の構築
　　学生同士や教員などとの人間関係の構築
第2回　学外実習の事務手続きの完成
　　個人票の確認、学校依頼申込書確認、建学の精神について
第3回　「実習に向けて①」
　　幼稚園・保育所・認定こども園での実習の理解、クラス運営について（役割分担など）
第4回　「実習に向けて②」実習に役立つ遊びの紹介
第5回　建学の精神　OIU/OICドリル
第6回　ICT機器の活用について（マナー講習ABクラス　7-301教室）
第7回　学生・社会人としてのマナー講習（マナー講習CDクラス7-301教室）
第8回　基礎学力テスト・メモやノートの取り方、レポートの書き方（マナー講習EFクラス7-301教室）
第9回　「実習に向けて③」実習に向けた名札づくり
第10回　「実習に向けて④」実習に役立つ遊びの実践
第11回　幼稚園教育実習に向けての説明会
第12回　人形劇の鑑賞とワークショップ
第13回　季節に応じた行事　夏休みに向けて
第14回　幼稚園に関する講演会
第15回　前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第2回、第3回、第4回、第9回、第10回、第11回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
・第13回の季節に応じた行事は、事前に準備をしておく。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、６０点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4

授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
参考書	適宜、授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039325	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	久保田　健一郎				
シラバス執筆(主)	久保田　健一郎				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、様々な取り組みを行う。

到達目標

１．建学の精神を理解し、説明することができる。
２．ICT機器の活用、学生・社会人としてのマナー、メモやノートの取り方、レポートの書き方を理解し、実行することができる。
３．レクリエーション、人形劇の鑑賞やワークショップへの参加、季節に応じた行事の開催を通して身に付けた専門的な保育技術を応用することができる。
４．実習に関する説明会・勉強会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

第1回　自己紹介・人間関係の構築
　　学生同士や教員などとの人間関係の構築
第2回　学外実習の事務手続きの完成
　　個人票の確認、学校依頼申込書確認、建学の精神について
第3回　「実習に向けて①」
　　幼稚園・保育所・認定こども園での実習の理解、クラス運営について（役割分担など）
第4回　「実習に向けて②」実習に役立つ遊びの紹介
第5回　建学の精神　OIU/OICドリル
第6回　ICT機器の活用について（マナー講習ABクラス　7-301教室）
第7回　学生・社会人としてのマナー講習（マナー講習CDクラス7-301教室）
第8回　基礎学力テスト・メモやノートの取り方、レポートの書き方（マナー講習EFクラス7-301教室）
第9回　「実習に向けて③」実習に向けた名札づくり
第10回　「実習に向けて④」実習に役立つ遊びの実践
第11回　幼稚園教育実習に向けての説明会
第12回　人形劇の鑑賞とワークショップ
第13回　季節に応じた行事　夏休みに向けて
第14回　幼稚園に関する講演会
第15回　前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第2回、第3回、第4回、第9回、第10回、第11回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
・第13回の季節に応じた行事は、事前に準備をしておく。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、６０点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4

授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
参考書	適宜、授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039326	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	角地　佳子				
シラバス執筆(主)	角地　佳子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、様々な取り組みを行う。

到達目標

１．建学の精神を理解し、説明することができる。
２．ICT機器の活用、学生・社会人としてのマナー、メモやノートの取り方、レポートの書き方を理解し、実行することができる。
３．レクリエーション、人形劇の鑑賞やワークショップへの参加、季節に応じた行事の開催を通して身に付けた専門的な保育技術を応用することができる。
４．実習に関する説明会・勉強会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

第1回　自己紹介・人間関係の構築
　　学生同士や教員などとの人間関係の構築
第2回　学外実習の事務手続きの完成
　　個人票の確認、学校依頼申込書確認、建学の精神について
第3回　「実習に向けて①」
　　幼稚園・保育所・認定こども園での実習の理解、クラス運営について（役割分担など）
第4回　「実習に向けて②」実習に役立つ遊びの紹介
第5回　建学の精神　OIU/OICドリル
第6回　ICT機器の活用について（マナー講習ABクラス　7-301教室）
第7回　学生・社会人としてのマナー講習（マナー講習CDクラス7-301教室）
第8回　基礎学力テスト・メモやノートの取り方、レポートの書き方（マナー講習EFクラス7-301教室）
第9回　「実習に向けて③」実習に向けた名札づくり
第10回　「実習に向けて④」実習に役立つ遊びの実践
第11回　幼稚園教育実習に向けての説明会
第12回　人形劇の鑑賞とワークショップ
第13回　季節に応じた行事　夏休みに向けて
第14回　幼稚園に関する講演会
第15回　前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第2回、第3回、第4回、第9回、第10回、第11回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
・第13回の季節に応じた行事は、事前に準備をしておく。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法･基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、６０点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法･割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4

授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
参考書	適宜、授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039421	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩｂ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	古海　忍				
シラバス執筆（主）	古海　忍				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

１．保育に関する研究、季節に応じた行事、２年次卒業研究発表鑑賞を通して、専門的な保育技術を身に付け、実践することができる。
２．実習に関する説明会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

第1回　実習の報告会（幼稚園）
第2回　保育実習Ｉ（保育所）に向けての説明会
第3回　保育実習や後期授業に向けた課題の明確化と取り組み方
第4回　人権映画鑑賞、学修ポートフォリオについて
第5回　保育に関する研究
第6回　季節に応じた行事・準備
第7回　大学祭に向けての準備
第8回　実習の報告会（保育所）
第9回　季節に応じた行事・セミナー内での発表
第10回　就職ガイダンス　公務員試験の説明、活動スケジュールの説明、２年生の講話など
第11回　保育実習Ｉ（施設）に向けての説明会
第12回　２年次卒業研究発表鑑賞①　鑑賞
第13回　２年次卒業研究発表鑑賞②　鑑賞とレポート作成
第14回　後期及び1年間の振り返り
第15回　保育に関する講演会（施設）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第1回、第8回の実習の報告会は、事前に報告したい内容をまとめておく。
・第2回、第3回、第11回、第15回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しべておく。
・第9回の季節に応じた行事は、事前に準備をしておく。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、６０点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度（45） 課題への取り組みと提出（45）	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2
その他	0		

テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
参考書	適宜、授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039422	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩｂ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	織田　恵輔				
シラバス執筆（主）	織田　恵輔				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

１．保育に関する研究、季節に応じた行事、２年次卒業研究発表鑑賞を通して、専門的な保育技術を身に付け、実践することができる。
２．実習に関する説明会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

第1回　実習の報告会（幼稚園）
第2回　保育実習Ｉ（保育所）に向けての説明会
第3回　保育実習や後期授業に向けた課題の明確化と取り組み方
第4回　人権映画鑑賞、学修ポートフォリオについて
第5回　保育に関する研究
第6回　季節に応じた行事・準備
第7回　大学祭に向けての準備
第8回　実習の報告会（保育所）
第9回　季節に応じた行事・セミナー内での発表
第10回　就職ガイダンス　公務員試験の説明、活動スケジュールの説明、２年生の講話など
第11回　保育実習Ｉ（施設）に向けての説明会
第12回　２年次卒業研究発表鑑賞①　鑑賞
第13回　２年次卒業研究発表鑑賞②　鑑賞とレポート作成
第14回　後期及び1年間の振り返り
第15回　保育に関する講演会（施設）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第1回、第8回の実習の報告会は、事前に報告したい内容をまとめておく。
・第2回、第3回、第11回、第15回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しべておく。
・第9回の季節に応じた行事は、事前に準備をしておく。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、６０点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度（45） 課題への取り組みと提出（45）	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2
その他	0		

テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
参考書	適宜、授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039423	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩｂ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	吉田　貴子				
シラバス執筆（主）	吉田　貴子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

１．保育に関する研究、季節に応じた行事、２年次卒業研究発表鑑賞を通して、専門的な保育技術を身に付け、実践することができる。
２．実習に関する説明会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

第1回　実習の報告会（幼稚園）
第2回　保育実習Ｉ（保育所）に向けての説明会
第3回　保育実習や後期授業に向けた課題の明確化と取り組み方
第4回　人権映画鑑賞、学修ポートフォリオについて
第5回　保育に関する研究
第6回　季節に応じた行事・準備
第7回　大学祭に向けての準備
第8回　実習の報告会（保育所）
第9回　季節に応じた行事・セミナー内での発表
第10回　就職ガイダンス　公務員試験の説明、活動スケジュールの説明、２年生の講話など
第11回　保育実習Ｉ（施設）に向けての説明会
第12回　２年次卒業研究発表鑑賞①　鑑賞
第13回　２年次卒業研究発表鑑賞②　鑑賞とレポート作成
第14回　後期及び1年間の振り返り
第15回　保育に関する講演会（施設）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第1回、第8回の実習の報告会は、事前に報告したい内容をまとめておく。
・第2回、第3回、第11回、第15回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しべておく。
・第9回の季節に応じた行事は、事前に準備をしておく。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、６０点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度（45） 課題への取り組みと提出（45）	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2
その他	0		

テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
参考書	適宜、授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039424	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩｂ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	北村　麻樹				
シラバス執筆（主）	北村　麻樹				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

１．保育に関する研究、季節に応じた行事、２年次卒業研究発表鑑賞を通して、専門的な保育技術を身に付け、実践することができる。
２．実習に関する説明会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

第1回　実習の報告会（幼稚園）
第2回　保育実習Ｉ（保育所）に向けての説明会
第3回　保育実習や後期授業に向けた課題の明確化と取り組み方
第4回　人権映画鑑賞、学修ポートフォリオについて
第5回　保育に関する研究
第6回　季節に応じた行事・準備
第7回　大学祭に向けての準備
第8回　実習の報告会（保育所）
第9回　季節に応じた行事・セミナー内での発表
第10回　就職ガイダンス　公務員試験の説明、活動スケジュールの説明、２年生の講話など
第11回　保育実習Ｉ（施設）に向けての説明会
第12回　２年次卒業研究発表鑑賞①　鑑賞
第13回　２年次卒業研究発表鑑賞②　鑑賞とレポート作成
第14回　後期及び1年間の振り返り
第15回　保育に関する講演会（施設）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第1回、第8回の実習の報告会は、事前に報告したい内容をまとめておく。
・第2回、第3回、第11回、第15回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しべておく。
・第9回の季節に応じた行事は、事前に準備をしておく。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、６０点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度（45） 課題への取り組みと提出（45）	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2
その他	0		

テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
参考書	適宜、授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039425	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩｂ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	久保田　健一郎				
シラバス執筆（主）	久保田　健一郎				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

１．保育に関する研究、季節に応じた行事、２年次卒業研究発表鑑賞を通して、専門的な保育技術を身に付け、実践することができる。
２．実習に関する説明会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

第1回　実習の報告会（幼稚園）
第2回　保育実習Ｉ（保育所）に向けての説明会
第3回　保育実習や後期授業に向けた課題の明確化と取り組み方
第4回　人権映画鑑賞、学修ポートフォリオについて
第5回　保育に関する研究
第6回　季節に応じた行事・準備
第7回　大学祭に向けての準備
第8回　実習の報告会（保育所）
第9回　季節に応じた行事・セミナー内での発表
第10回　就職ガイダンス　公務員試験の説明、活動スケジュールの説明、２年生の講話など
第11回　保育実習Ｉ（施設）に向けての説明会
第12回　２年次卒業研究発表鑑賞①　鑑賞
第13回　２年次卒業研究発表鑑賞②　鑑賞とレポート作成
第14回　後期及び1年間の振り返り
第15回　保育に関する講演会（施設）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第1回、第8回の実習の報告会は、事前に報告したい内容をまとめておく。
・第2回、第3回、第11回、第15回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しべておく。
・第9回の季節に応じた行事は、事前に準備をしておく。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、６０点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度（45） 課題への取り組みと提出（45）	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2
その他	0		

テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
参考書	適宜、授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039426	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーＩｂ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	角地　佳子				
シラバス執筆（主）	角地　佳子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

１．保育に関する研究、季節に応じた行事、２年次卒業研究発表鑑賞を通して、専門的な保育技術を身に付け、実践することができる。
２．実習に関する説明会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

第1回　実習の報告会（幼稚園）
第2回　保育実習Ｉ（保育所）に向けての説明会
第3回　保育実習や後期授業に向けた課題の明確化と取り組み方
第4回　人権映画鑑賞、学修ポートフォリオについて
第5回　保育に関する研究
第6回　季節に応じた行事・準備
第7回　大学祭に向けての準備
第8回　実習の報告会（保育所）
第9回　季節に応じた行事・セミナー内での発表
第10回　就職ガイダンス　公務員試験の説明、活動スケジュールの説明、２年生の講話など
第11回　保育実習Ｉ（施設）に向けての説明会
第12回　２年次卒業研究発表鑑賞①　鑑賞
第13回　２年次卒業研究発表鑑賞②　鑑賞とレポート作成
第14回　後期及び1年間の振り返り
第15回　保育に関する講演会（施設）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第1回、第8回の実習の報告会は、事前に報告したい内容をまとめておく。
・第2回、第3回、第11回、第15回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しべておく。
・第9回の季節に応じた行事は、事前に準備をしておく。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、６０点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度（45） 課題への取り組みと提出（45）	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2
その他	0		

テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
参考書	適宜、授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039521	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡａ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	玉井　久実代				
シラバス執筆（主）	玉井　久実代				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会、保育に関する講演会、就職に関する行事、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

１．卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
２．上記の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
３．実習に関する説明会、あるいは就職関係行事を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

【第1回】履修指導(学習ポートフォリオ含む)および学外実習の指導、クラス運営について（役割分担など）
【第2回】卒業研究発表の説明会
【第3回】実習の報告会、前年度（４月まで）の学習成果の振り返り
【第4回】併設園への保育への参加または保育教材の製作
【第5回】就職についての講座
【第6回】履歴書対策講座
【第7回】卒業研究発表について検討
【第8回】「卒業生の話を聞こう！」
【第9回】卒業研究発表に向けて発表内容の決定・５月までの学習成果の振り返り
【第10回】卒業研究中間発表に向けての準備①　内容の確認
【第11回】幼稚園教育実習に向けての説明会（第二段階）
【第12回】卒業研究中間発表に向けての準備②中間発表練習
【第13回】卒業研究中間発表（発表内容の全体プレゼンテーション）
【第14回】保育に関する講演会
【第15回】前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第1回、第11回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
・第2回、第7回、第8回、第9回、第10回、第12回、第13回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
・第5回、第6回、第8回の就職関係行事は、事前に就職候補園を挙げ、事後に園見学やボランティアに行く。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、卒業研究発表への参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039522	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	織田　恵輔				
シラバス執筆(主)	織田　恵輔				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会、保育に関する講演会、就職に関する行事、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

１．卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
２．上記の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
３．実習に関する説明会、あるいは就職関係行事を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

【第1回】履修指導(学習ポートフォリオ含む)および学外実習の指導、クラス運営について（役割分担など）
【第2回】卒業研究発表の説明会
【第3回】実習の報告会、前年度（４月まで）の学習成果の振り返り
【第4回】併設園への保育への参加または保育教材の製作
【第5回】就職についての講座
【第6回】履歴書対策講座
【第7回】卒業研究発表について検討
【第8回】「卒業生の話を聞こう！」
【第9回】卒業研究発表に向けて発表内容の決定・５月までの学習成果の振り返り
【第10回】卒業研究中間発表に向けての準備①　内容の確認
【第11回】幼稚園教育実習に向けての説明会（第二段階）
【第12回】卒業研究中間発表に向けての準備②中間発表練習
【第13回】卒業研究中間発表（発表内容の全体プレゼンテーション）
【第14回】保育に関する講演会
【第15回】前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第1回、第11回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
・第2回、第7回、第8回、第9回、第10回、第12回、第13回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
・第5回、第6回、第8回の就職関係行事は、事前に就職候補園を挙げ、事後に園見学やボランティアに行く。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、卒業研究発表への参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039523	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	吉田　貴子				
シラバス執筆(主)	吉田　貴子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会、保育に関する講演会、就職に関する行事、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

１．卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
２．上記の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
３．実習に関する説明会、あるいは就職関係行事を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

【第1回】履修指導(学習ポートフォリオ含む)および学外実習の指導、クラス運営について（役割分担など）
【第2回】卒業研究発表の説明会
【第3回】実習の報告会、前年度（４月まで）の学習成果の振り返り
【第4回】併設園への保育への参加または保育教材の製作
【第5回】就職についての講座
【第6回】履歴書対策講座
【第7回】卒業研究発表について検討
【第8回】「卒業生の話を聞こう！」
【第9回】卒業研究発表に向けて発表内容の決定・５月までの学習成果の振り返り
【第10回】卒業研究中間発表に向けての準備①　内容の確認
【第11回】幼稚園教育実習に向けての説明会（第二段階）
【第12回】卒業研究中間発表に向けての準備②中間発表練習
【第13回】卒業研究中間発表（発表内容の全体プレゼンテーション）
【第14回】保育に関する講演会
【第15回】前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第1回、第11回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
・第2回、第7回、第8回、第9回、第10回、第12回、第13回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
・第5回、第6回、第8回の就職関係行事は、事前に就職候補園を挙げ、事後に園見学やボランティアに行く。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、卒業研究発表への参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039524	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	北村　麻樹				
シラバス執筆(主)	北村　麻樹				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会、保育に関する講演会、就職に関する行事、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

１．卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
２．上記の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
３．実習に関する説明会、あるいは就職関係行事を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

【第1回】履修指導(学習ポートフォリオ含む)および学外実習の指導、クラス運営について（役割分担など）
【第2回】卒業研究発表の説明会
【第3回】実習の報告会、前年度（４月まで）の学習成果の振り返り
【第4回】併設園への保育への参加または保育教材の製作
【第5回】就職についての講座
【第6回】履歴書対策講座
【第7回】卒業研究発表について検討
【第8回】「卒業生の話を聞こう！」
【第9回】卒業研究発表に向けて発表内容の決定・５月までの学習成果の振り返り
【第10回】卒業研究中間発表に向けての準備①　内容の確認
【第11回】幼稚園教育実習に向けての説明会（第二段階）
【第12回】卒業研究中間発表に向けての準備②中間発表練習
【第13回】卒業研究中間発表（発表内容の全体プレゼンテーション）
【第14回】保育に関する講演会
【第15回】前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第1回、第11回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
・第2回、第7回、第8回、第9回、第10回、第12回、第13回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
・第5回、第6回、第8回の就職関係行事は、事前に就職候補園を挙げ、事後に園見学やボランティアに行く。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、卒業研究発表への参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039525	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	松木　宏史				
シラバス執筆(主)	松木　宏史				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会、保育に関する講演会、就職に関する行事、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

１．卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
２．上記の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
３．実習に関する説明会、あるいは就職関係行事を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

【第1回】履修指導(学習ポートフォリオ含む)および学外実習の指導、クラス運営について（役割分担など）
【第2回】卒業研究発表の説明会
【第3回】実習の報告会、前年度（４月まで）の学習成果の振り返り
【第4回】併設園への保育への参加または保育教材の製作
【第5回】就職についての講座
【第6回】履歴書対策講座
【第7回】卒業研究発表について検討
【第8回】「卒業生の話を聞こう！」
【第9回】卒業研究発表に向けて発表内容の決定・５月までの学習成果の振り返り
【第10回】卒業研究中間発表に向けての準備①　内容の確認
【第11回】幼稚園教育実習に向けての説明会（第二段階）
【第12回】卒業研究中間発表に向けての準備②中間発表練習
【第13回】卒業研究中間発表（発表内容の全体プレゼンテーション）
【第14回】保育に関する講演会
【第15回】前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第1回、第11回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
・第2回、第7回、第8回、第9回、第10回、第12回、第13回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
・第5回、第6回、第8回の就職関係行事は、事前に就職候補園を挙げ、事後に園見学やボランティアに行く。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、卒業研究発表への参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039526	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	渡邊　詩子				
シラバス執筆(主)	渡邊　詩子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会、保育に関する講演会、就職に関する行事、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

１．卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
２．上記の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
３．実習に関する説明会、あるいは就職関係行事を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

【第1回】履修指導(学習ポートフォリオ含む)および学外実習の指導、クラス運営について（役割分担など）
【第2回】卒業研究発表の説明会
【第3回】実習の報告会、前年度（４月まで）の学習成果の振り返り
【第4回】併設園への保育への参加または保育教材の製作
【第5回】就職についての講座
【第6回】履歴書対策講座
【第7回】卒業研究発表について検討
【第8回】「卒業生の話を聞こう！」
【第9回】卒業研究発表に向けて発表内容の決定・５月までの学習成果の振り返り
【第10回】卒業研究中間発表に向けての準備①　内容の確認
【第11回】幼稚園教育実習に向けての説明会（第二段階）
【第12回】卒業研究中間発表に向けての準備②中間発表練習
【第13回】卒業研究中間発表（発表内容の全体プレゼンテーション）
【第14回】保育に関する講演会
【第15回】前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第1回、第11回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
・第2回、第7回、第8回、第9回、第10回、第12回、第13回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
・第5回、第6回、第8回の就職関係行事は、事前に就職候補園を挙げ、事後に園見学やボランティアに行く。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、卒業研究発表への参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039527	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	古海　忍				
シラバス執筆(主)	古海　忍				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会、保育に関する講演会、就職に関する行事、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

１．卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
２．上記の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
３．実習に関する説明会、あるいは就職関係行事を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

【第1回】履修指導(学習ポートフォリオ含む)および学外実習の指導、クラス運営について（役割分担など）
【第2回】卒業研究発表の説明会
【第3回】実習の報告会、前年度（４月まで）の学習成果の振り返り
【第4回】併設園への保育への参加または保育教材の製作
【第5回】就職についての講座
【第6回】履歴書対策講座
【第7回】卒業研究発表について検討
【第8回】「卒業生の話を聞こう！」
【第9回】卒業研究発表に向けて発表内容の決定・５月までの学習成果の振り返り
【第10回】卒業研究中間発表に向けての準備①　内容の確認
【第11回】幼稚園教育実習に向けての説明会（第二段階）
【第12回】卒業研究中間発表に向けての準備②中間発表練習
【第13回】卒業研究中間発表（発表内容の全体プレゼンテーション）
【第14回】保育に関する講演会
【第15回】前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第1回、第11回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
・第2回、第7回、第8回、第9回、第10回、第12回、第13回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
・第5回、第6回、第8回の就職関係行事は、事前に就職候補園を挙げ、事後に園見学やボランティアに行く。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、卒業研究発表への参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039528	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡａ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	角地　佳子				
シラバス執筆（主）	角地　佳子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会、保育に関する講演会、就職に関する行事、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

１．卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
２．上記の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
３．実習に関する説明会、あるいは就職関係行事を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

【第1回】履修指導（学習ポートフォリオ含む）および学外実習の指導、クラス運営について（役割分担など）
【第2回】卒業研究発表の説明会
【第3回】実習の報告会、前年度（４月まで）の学習成果の振り返り
【第4回】併設園への保育への参加または保育教材の製作
【第5回】就職についての講座
【第6回】履歴書対策講座
【第7回】卒業研究発表について検討
【第8回】「卒業生の話を聞こう！」
【第9回】卒業研究発表に向けて発表内容の決定・５月までの学習成果の振り返り
【第10回】卒業研究中間発表に向けての準備①　内容の確認
【第11回】幼稚園教育実習に向けての説明会（第二段階）
【第12回】卒業研究中間発表に向けての準備②中間発表練習
【第13回】卒業研究中間発表（発表内容の全体プレゼンテーション）
【第14回】保育に関する講演会
【第15回】前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第1回、第11回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
・第2回、第7回、第8回、第9回、第10回、第12回、第13回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
・第5回、第6回、第8回の就職関係行事は、事前に就職候補園を挙げ、事後に園見学やボランティアに行く。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、卒業研究発表への参加や発表態度（45） 課題への取り組みと提出（45）	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039529	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡａ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	大塚　穂波				
シラバス執筆（主）	大塚　穂波				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会、保育に関する講演会、就職に関する行事、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

１．卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
２．上記の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
３．実習に関する説明会、あるいは就職関係行事を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

【第1回】履修指導(学習ポートフォリオ含む)および学外実習の指導、クラス運営について（役割分担など）
【第2回】卒業研究発表の説明会
【第3回】実習の報告会、前年度（４月まで）の学習成果の振り返り
【第4回】併設園への保育への参加または保育教材の製作
【第5回】就職についての講座
【第6回】履歴書対策講座
【第7回】卒業研究発表について検討
【第8回】「卒業生の話を聞こう！」
【第9回】卒業研究発表に向けて発表内容の決定・５月までの学習成果の振り返り
【第10回】卒業研究中間発表に向けての準備①　内容の確認
【第11回】幼稚園教育実習に向けての説明会（第二段階）
【第12回】卒業研究中間発表に向けての準備②中間発表練習
【第13回】卒業研究中間発表（発表内容の全体プレゼンテーション）
【第14回】保育に関する講演会
【第15回】前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第1回、第11回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
・第2回、第7回、第8回、第9回、第10回、第12回、第13回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
・第5回、第6回、第8回の就職関係行事は、事前に就職候補園を挙げ、事後に園見学やボランティアに行く。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、卒業研究発表への参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039621	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡｂ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	玉井　久実代				
シラバス執筆（主）	玉井　久実代				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

１．卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
２．卒業研究発表会を通して保護者や地域社会から信頼されるような行為について理解し、それを実行することができる
３．卒業研究発表会の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
４．実習に関する報告会や説明会を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

【第1回】前期の学習成果の振り返り
【第2回】保育実習Ⅱへ向けての説明会
【第3回】　教育実習Ⅱの振り返り
【第4回】卒業研究発表の説明会
【第5回】卒業研究発表の準備①　脚本の執筆・９月までの学習成果の振り返り
【第6回】卒業研究発表の準備②　小道具、大道具の製作
【第7回】大学祭に向けて
【第8回】卒業研究発表リハーサル（全体）
【第9回】人権映画鑑賞・１１月までの学習成果の振り返り
【第10回】実習の報告会（保育所）
【第11回】卒業研究発表会リハーサル（全体）②
【第12回】卒業研究発表の準備③　演技・発声の確認
【第13回】２年次卒業研究発表および鑑賞①　鑑賞（前半）
【第14回】２年次卒業研究発表および鑑賞①　鑑賞（後半）
【第15回】卒業研究発表の振り返り・レポート作成

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第2回、第3回、第10回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
・第4回、第5回、第6回、第8回、第11回、第12回、第13回、第14回、第15回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度（45） 課題への取り組みと提出（45）	
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039622	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡｂ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	織田　恵輔				
シラバス執筆（主）	織田　恵輔				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

１．卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
２．卒業研究発表会を通して保護者や地域社会から信頼されるような行為について理解し、それを実行することができる
３．卒業研究発表会の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
４．実習に関する報告会や説明会を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

【第1回】前期の学習成果の振り返り
【第2回】保育実習Ⅱへ向けての説明会
【第3回】　教育実習Ⅱの振り返り
【第4回】卒業研究発表の説明会
【第5回】卒業研究発表の準備①　脚本の執筆・９月までの学習成果の振り返り
【第6回】卒業研究発表の準備②　小道具、大道具の製作
【第7回】大学祭に向けて
【第8回】卒業研究発表リハーサル（全体）
【第9回】人権映画鑑賞・１１月までの学習成果の振り返り
【第10回】実習の報告会（保育所）
【第11回】卒業研究発表会リハーサル（全体）②
【第12回】卒業研究発表の準備③　演技・発声の確認
【第13回】２年次卒業研究発表および鑑賞①　鑑賞（前半）
【第14回】２年次卒業研究発表および鑑賞①　鑑賞（後半）
【第15回】卒業研究発表の振り返り・レポート作成

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第2回、第3回、第10回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
・第4回、第5回、第6回、第8回、第11回、第12回、第13回、第14回、第15回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度（45） 課題への取り組みと提出（45）	
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039623	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡｂ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	吉田　貴子				
シラバス執筆（主）	吉田　貴子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

１．卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
２．卒業研究発表会を通して保護者や地域社会から信頼されるような行為について理解し、それを実行することができる
３．卒業研究発表会の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
４．実習に関する報告会や説明会を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

【第1回】前期の学習成果の振り返り
【第2回】保育実習Ⅱへ向けての説明会
【第3回】　教育実習Ⅱの振り返り
【第4回】卒業研究発表の説明会
【第5回】卒業研究発表の準備①　脚本の執筆・９月までの学習成果の振り返り
【第6回】卒業研究発表の準備②　小道具、大道具の製作
【第7回】大学祭に向けて
【第8回】卒業研究発表リハーサル（全体）
【第9回】人権映画鑑賞・１１月までの学習成果の振り返り
【第10回】実習の報告会（保育所）
【第11回】卒業研究発表会リハーサル（全体）②
【第12回】卒業研究発表の準備③　演技・発声の確認
【第13回】２年次卒業研究発表および鑑賞①　鑑賞（前半）
【第14回】２年次卒業研究発表および鑑賞①　鑑賞（後半）
【第15回】卒業研究発表の振り返り・レポート作成

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第2回、第3回、第10回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
・第4回、第5回、第6回、第8回、第11回、第12回、第13回、第14回、第15回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度（45） 課題への取り組みと提出（45）	
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039624	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡｂ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	北村　麻樹				
シラバス執筆（主）	北村　麻樹				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

１．卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
２．卒業研究発表会を通して保護者や地域社会から信頼されるような行為について理解し、それを実行することができる
３．卒業研究発表会の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
４．実習に関する報告会や説明会を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

【第1回】前期の学習成果の振り返り
【第2回】保育実習Ⅱへ向けての説明会
【第3回】　教育実習Ⅱの振り返り
【第4回】卒業研究発表の説明会
【第5回】卒業研究発表の準備①　脚本の執筆・９月までの学習成果の振り返り
【第6回】卒業研究発表の準備②　小道具、大道具の製作
【第7回】大学祭に向けて
【第8回】卒業研究発表リハーサル（全体）
【第9回】人権映画鑑賞・１１月までの学習成果の振り返り
【第10回】実習の報告会（保育所）
【第11回】卒業研究発表会リハーサル（全体）②
【第12回】卒業研究発表の準備③　演技・発声の確認
【第13回】２年次卒業研究発表および鑑賞①　鑑賞（前半）
【第14回】２年次卒業研究発表および鑑賞①　鑑賞（後半）
【第15回】卒業研究発表の振り返り・レポート作成

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第2回、第3回、第10回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
・第4回、第5回、第6回、第8回、第11回、第12回、第13回、第14回、第15回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度（45） 課題への取り組みと提出（45）	
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039625	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡｂ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	松木　宏史				
シラバス執筆（主）	松木　宏史				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

１．卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
２．卒業研究発表会を通して保護者や地域社会から信頼されるような行為について理解し、それを実行することができる
３．卒業研究発表会の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
４．実習に関する報告会や説明会を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

【第1回】前期の学習成果の振り返り
【第2回】保育実習Ⅱへ向けての説明会
【第3回】　教育実習Ⅱの振り返り
【第4回】卒業研究発表の説明会
【第5回】卒業研究発表の準備①　脚本の執筆・９月までの学習成果の振り返り
【第6回】卒業研究発表の準備②　小道具、大道具の製作
【第7回】大学祭に向けて
【第8回】卒業研究発表リハーサル（全体）
【第9回】人権映画鑑賞・１１月までの学習成果の振り返り
【第10回】実習の報告会（保育所）
【第11回】卒業研究発表会リハーサル（全体）②
【第12回】卒業研究発表の準備③　演技・発声の確認
【第13回】２年次卒業研究発表および鑑賞①　鑑賞（前半）
【第14回】２年次卒業研究発表および鑑賞①　鑑賞（後半）
【第15回】卒業研究発表の振り返り・レポート作成

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第2回、第3回、第10回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
・第4回、第5回、第6回、第8回、第11回、第12回、第13回、第14回、第15回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度（45） 課題への取り組みと提出（45）	
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039626	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡｂ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	渡邊　詩子				
シラバス執筆（主）	渡邊　詩子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

１．卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
２．卒業研究発表会を通して保護者や地域社会から信頼されるような行為について理解し、それを実行することができる
３．卒業研究発表会の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
４．実習に関する報告会や説明会を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

【第1回】前期の学習成果の振り返り
【第2回】保育実習Ⅱへ向けての説明会
【第3回】　教育実習Ⅱの振り返り
【第4回】卒業研究発表の説明会
【第5回】卒業研究発表の準備①　脚本の執筆・９月までの学習成果の振り返り
【第6回】卒業研究発表の準備②　小道具、大道具の製作
【第7回】大学祭に向けて
【第8回】卒業研究発表リハーサル（全体）
【第9回】人権映画鑑賞・１１月までの学習成果の振り返り
【第10回】実習の報告会（保育所）
【第11回】卒業研究発表会リハーサル（全体）②
【第12回】卒業研究発表の準備③　演技・発声の確認
【第13回】２年次卒業研究発表および鑑賞①　鑑賞（前半）
【第14回】２年次卒業研究発表および鑑賞①　鑑賞（後半）
【第15回】卒業研究発表の振り返り・レポート作成

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第2回、第3回、第10回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
・第4回、第5回、第6回、第8回、第11回、第12回、第13回、第14回、第15回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度（45） 課題への取り組みと提出（45）	
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039627	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡｂ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	古海　忍				
シラバス執筆（主）	古海　忍				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

１．卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
２．卒業研究発表会を通して保護者や地域社会から信頼されるような行為について理解し、それを実行することができる
３．卒業研究発表会の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
４．実習に関する報告会や説明会を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

【第1回】前期の学習成果の振り返り
【第2回】保育実習Ⅱへ向けての説明会
【第3回】　教育実習Ⅱの振り返り
【第4回】卒業研究発表の説明会
【第5回】卒業研究発表の準備①　脚本の執筆・９月までの学習成果の振り返り
【第6回】卒業研究発表の準備②　小道具、大道具の製作
【第7回】大学祭に向けて
【第8回】卒業研究発表リハーサル（全体）
【第9回】人権映画鑑賞・１１月までの学習成果の振り返り
【第10回】実習の報告会（保育所）
【第11回】卒業研究発表会リハーサル（全体）②
【第12回】卒業研究発表の準備③　演技・発声の確認
【第13回】２年次卒業研究発表および鑑賞①　鑑賞（前半）
【第14回】２年次卒業研究発表および鑑賞①　鑑賞（後半）
【第15回】卒業研究発表の振り返り・レポート作成

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第2回、第3回、第10回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
・第4回、第5回、第6回、第8回、第11回、第12回、第13回、第14回、第15回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度（45） 課題への取り組みと提出（45）	
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039628	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡｂ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	角地　佳子				
シラバス執筆（主）	角地　佳子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

１．卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
２．卒業研究発表会を通して保護者や地域社会から信頼されるような行為について理解し、それを実行することができる
３．卒業研究発表会の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
４．実習に関する報告会や説明会を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

【第1回】前期の学習成果の振り返り
【第2回】保育実習Ⅱへ向けての説明会
【第3回】　教育実習Ⅱの振り返り
【第4回】卒業研究発表の説明会
【第5回】卒業研究発表の準備①　脚本の執筆・９月までの学習成果の振り返り
【第6回】卒業研究発表の準備②　小道具、大道具の製作
【第7回】大学祭に向けて
【第8回】卒業研究発表リハーサル（全体）
【第9回】人権映画鑑賞・１１月までの学習成果の振り返り
【第10回】実習の報告会（保育所）
【第11回】卒業研究発表会リハーサル（全体）②
【第12回】卒業研究発表の準備③　演技・発声の確認
【第13回】２年次卒業研究発表および鑑賞①　鑑賞（前半）
【第14回】２年次卒業研究発表および鑑賞①　鑑賞（後半）
【第15回】卒業研究発表の振り返り・レポート作成

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第2回、第3回、第10回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
・第4回、第5回、第6回、第8回、第11回、第12回、第13回、第14回、第15回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度（45） 課題への取り組みと提出（45）	
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039629	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	セミナーⅡｂ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	大塚　穂波				
シラバス執筆（主）	大塚　穂波				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

１．卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
２．卒業研究発表会を通して保護者や地域社会から信頼されるような行為について理解し、それを実行することができる
３．卒業研究発表会の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
４．実習に関する報告会や説明会を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

【第1回】前期の学習成果の振り返り
【第2回】保育実習Ⅱへ向けての説明会
【第3回】　教育実習Ⅱの振り返り
【第4回】卒業研究発表の説明会
【第5回】卒業研究発表の準備①　脚本の執筆・９月までの学習成果の振り返り
【第6回】卒業研究発表の準備②　小道具、大道具の製作
【第7回】大学祭に向けて
【第8回】卒業研究発表リハーサル（全体）
【第9回】人権映画鑑賞・１１月までの学習成果の振り返り
【第10回】実習の報告会（保育所）
【第11回】卒業研究発表会リハーサル（全体）②
【第12回】卒業研究発表の準備③　演技・発声の確認
【第13回】２年次卒業研究発表および鑑賞①　鑑賞（前半）
【第14回】２年次卒業研究発表および鑑賞①　鑑賞（後半）
【第15回】卒業研究発表の振り返り・レポート作成

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第2回、第3回、第10回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
・第4回、第5回、第6回、第8回、第11回、第12回、第13回、第14回、第15回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度（45） 課題への取り組みと提出（45）	
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円　ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目（幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ）と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22050401	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	保育内容の指導法（健康）　［対面］				
シラバス執筆（全員）	織田　恵輔				
シラバス執筆（主）	織田　恵輔				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

・健康についての概念を明らかにし、幼児期の健康について概説する。
・乳幼児期の発育発達について理解し、基本的生活習慣の獲得について解説する。
　さらに教員の視点から子どもに対する現状の課題や問題について焦点を当て、その改善について考えることで保育者としての役割について解説する。
・幼稚園教育要領に示された健康領域の内容について解説する

到達目標

１．幼稚園教育要領･保育所保育指針･幼保連携型認定こども園教育･保育要領における、領域「健康」を説明できる。
２．睡眠や食事といった生活習慣についての重要性を理解し、健康な体の育成法について実践できる。
３．保育時における安全対策を説明できる。
４．自分なりの観点を持ち、制作物の作成や保育の実践ができる。
５．情報機器を用いた保育を実践できる。
６．模擬保育とその振り返りを通し、具体的な保育方法を立案できる。
７．健康における幼児から小学校へのつながりや変化を説明できる。

授業計画

【第１回】
テーマ：　健康の定義、幼児期における健康の定義
内容・方法：健康とは何か、幼児期における健康教育とは何か。
【第２回】
テーマ：領域「健康」とは
内容・方法：健康の内容およびねらいについて、幼児期･児童期（小学校）･青年期（20歳まで）までの発育・発達と健康について
【第３回】
テーマ：幼児期運動指針について
内容・方法：幼児期運動指針についての内容と解説
【第４回】
テーマ：幼児の体力測定評価および幼児期の体力に影響する要因について①
内容・方法：幼児の体力測定・小学校での体力測定の方法を解説
【第５回】
テーマ：幼児の体力測定評価および幼児期の体力に影響する要因について②
内容・方法：幼児の体力・小学校（児童）の体力について評価法を解説
【第６回】
テーマ：運動指導案の作成
内容・方法：指導案のねらいと目的、教師の配慮などの指導上の留意点を解説
【第７回】
テーマ：子どもの睡眠について①
内容・方法：適正な睡眠時間や、乳児期における睡眠の注意点（SIDS）について
【第８回】
テーマ：子どもの睡眠について②
内容・方法：睡眠不足による心身への影響（精神病や内分泌について）
【第９回】
テーマ：人の免疫機能について
内容・方法：免疫力獲得における発達、免疫システムについて
【第１０回】
テーマ：感染症について・病気の予防について
内容・方法：子どもに起こりやすい感染症やその対応について
【第１１回】
テーマ：保育現場でのリスクマネジメントについて
内容･方法：子どもの怪我が起きやすい状況や、子どもの視野を理解する。
【第１２回】
テーマ：保健便りの作成
内容・方法：季節ごとの健康テーマを考えた保健便りを作成する
【第１３回】
テーマ：情報機器を使った教材作成
内容・方法：情報機器を用いて教材の例や実際に作成を行う
【第１４回】
テーマ：模擬保育
内容・方法：健康にかかわる模擬保育を行う
【第１５回】

テーマ：模擬保育における評価と振り返り
内容・方法：模擬保育後にグループワーク形式で評価・振り返り・発表を行う

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】
①事前学修課題：子どもの健康において何が大事か自分の意見を述べるよう考えておく。
②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。
【第2回】
①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。
【第3回】
①事前学修課題：幼児期運動指針を一読すること。
②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。
【第4回】
①事前学修課題：幼児期の体力測定の内容を知っておくこと。
②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。
【第5回】
①事前学修課題：幼児期の体力測定の内容を知っておくこと。
②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。
【第6回】
①事前学修課題：　指導案の書き方について事前学習を行うこと。
②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。
【第7回】
①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。
【第8回】
①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。
【第9回】
①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。
【第10回】
①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。
【第11回】
①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。
【第12回】
①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。
【第13回】
①事前学修課題：事前資料で提示された保健だよりテーマから選択をしておくこと。
②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。
【第14回】
①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。
【第15回】
①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

課題に対するフィードバックの方法

振り返りプリントを毎授業実施・提出を行い、次回講義にてその内容の講評を行い、反映していく。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

１．60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
２．正当な理由なく、6回以上の授業欠席をした場合は「K」評価とする。
３．幼児の健康について基礎的な理解ができている。
４．振り返りプリントなどの提出及び理解状況。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業への取り組み状況・態度（30） 制作課題の提出及びその内容（10）	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
授業外での評価	30	各授業後の振り返り用紙の提出（15） 各授業後の振り返り用紙における理解度（15）	1, 2, 3, 4, 6
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	30	レポート内容(30)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。資料の配布を適宜行う。
参考書	＊購入必須ではない 文部科学省「幼稚園教育要領」 厚生労働省「保育所保育指針」 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携認定こども園教育保育要領」
履修条件・他の科目との関連	1. 各授業で学んだことについては振り返りプリントに記入・提出を行うこと 2. 欠席した回の資料は申し出があった場合、再配布を行う。

授業コード	22050501	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	保育内容の指導法（人間関係）　［対面］				
シラバス執筆（全員）	野崎　美香子				
シラバス執筆（主）	野崎　美香子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

「幼児園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容をふまえた上で、教員の視点から乳幼児期における人とのかかわりの育ちについて概説する。
また人とのかかわりの力を育む為に、対話・討論型授業を通して、保育における援助や具体的な指導方法について学びが深められるようにする。

到達目標

1.　領域「人間関係」に係る、基礎理論・知識を説明できる。
2.　子どもの人とかかわる力を育てる為の保育者の適切な援助について、保育事例をもとに演習問題に取り組み、説明できる。
3.　学んだ基礎的な知識に基づいて、保育を実践することができるようになるために、子どもの発達や援助方法についての考えをまとめることができる。

授業計画

第１回：５領域の中の人間関係
第２回：人とのかかわりの発達　−発達理論を軸にして　０．１歳児のかかわりの特徴と援助−
第３回：人とのかかわりの発達　−発達理論を軸にして　２．３歳児のかかわりの特徴と援助−
第４回：人とのかかわりの発達　−発達理論を軸にして　４．５歳児のかかわりの特徴と援助−
（「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と小学校との接続を含む）
第５回：保育の基本と「人とのかかわり」について　−保育者との出会い・信頼関係を築くかかわり−
第６回：保育内容の捉え方と「人間関係」（幼稚園における評価）
第７回：遊びの中で育つ人とのかかわり　−保育における遊びの理解−
第８回：遊びの中で育つ人とのかかわり　−友だち関係の広がりを援助する−
第９回：人間関係と環境　−情報機器の活用を含めた人とのかかわりを育てる保育環境−
第１０回：人とのかかわりをみる視点（１）　−必要な態度・ルール・規範意識を育てる援助−
第１１回：人とのかかわりをみる視点（２）　−いざこざ・トラブル・仲間入りについて−
第１２回：人とのかかわりを育てる保育実践−人間関係における問題行動の理解と援助−
第１３回：人とのかかわりに関する保育者の役割と援助
−人間関係を良い方向に導く保育者の援助と関わり・記録方法−
第１４回：多様な保育ニーズ　−地域子育て支援を担う保育士・悩む親を支える役割−
第１５回：保育現場の国際化の問題　−アメリカの多文化教育の試みの紹介−
学びの振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

第１回　事前学習課題：幼稚園教育要領　領域「人間関係」の箇所の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第２回　事前学習課題：保育所保育指針　第2章「１．乳児保育に関わるねらい及び内容」の箇所の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第３回　事前学習課題：保育所保育指針　第2章「２．1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」の箇所の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第４回　事前学習課題：保育所保育指針　第2章「３．３歳以上児の保育に関するねらい及び内容」の箇所の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第５回　事前学習課題：資料「課題の解説」の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第６回　事前学習課題：対応テキストの箇所（授業内にて指示）の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第７回　事前学習課題：保育施設における遊びをイメージする。あなたの経験した保育施設における遊びを書き出してみましょう。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第８回　事前学習課題：対応テキストの箇所（授業内にて指示）の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第９回　事前学習課題：資料「課題の解説」の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第１０回　事前学習課題：保育施設におけるルールをイメージする。
あなたの経験した保育施設におけるルールを書き出してみましょう。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第１１回　事前学習課題：保育施設におけるトラブルをイメージする。

あなたの経験した子ども同士のトラブルを書き出してみましょう。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。レポート課題。
第１２回　事前学習課題：資料「課題の解説」の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第１３回　事前学習課題：資料「課題の解説」の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第１４回　事前学習課題：子どもを保育施設に預ける保護者の気持ちを想像してみましょう。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第１５回　事前学習課題：対応テキストの箇所（講義内にて指示）の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。レポート課題。

課題に対するフィードバックの方法

課題については、採点基準や適切な解答について授業内で解説する。または、Google Classroomより模範解答や採点基準を提示する。
希望者には評価を開示する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内容への意欲的な取り組み態度・授業に関する貢献度(10) 課題の提出状況の程度(10) 課題の理解の程度(10) 小テスト(20)	1, 2
授業外での評価	20	事前事後学習などの課題の提出状況の程度(10) レポート課題の理解の程度(10)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	定期試験に代わるレポート:授業内容をふまえて自分の考えを論理的に記述しているか(30)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	「知のゆりかご　子どもの姿からはじめる領域・人間関係」編著 三宅茂夫 みらい　2022年　2100円 ISBN978-4-86015-571-1
参考書	幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府 文部科学省　厚生労働省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） その他、必要に応じて紹介する。
履修条件・他の科目との関連	復習は授業内容と併せて、テキスト又は配布資料を読み込み、理解を深め、学んだ事を整理することを奨励する。 疑問に思った事やわからない事は積極的に質問することを奨励する。意欲的な取り組みの姿勢と評価とする。 欠席については学校の規則に添い取り扱うが、多くなると課題提出不足にもなり評価に影響する。

授業コード	22050503	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	保育内容の指導法（人間関係）　［対面］				
シラバス執筆（全員）	大塚　穂波				
シラバス執筆（主）	大塚　穂波				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

「幼児園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容をふまえた上で、教員の視点から乳幼児期における人とのかかわりの育ちについて概説する。
また人とのかかわりの力を育む為に、対話・討論型授業を通して、保育における援助や具体的な指導方法について学びが深められるようにする。

到達目標

1.　領域「人間関係」に係る、基礎理論・知識を説明できる。
2.　子どもの人とかかわる力を育てる為の保育者の適切な援助について、保育事例をもとに演習問題に取り組み、説明できる。
3.　学んだ基礎的な知識に基づいて、保育を実践することができるようになるために、子どもの発達や援助方法についての考えをまとめることができる。

授業計画

第１回：５領域の中の人間関係
第２回：人とのかかわりの発達　−発達理論を軸にして　０．１歳児のかかわりの特徴と援助−
第３回：人とのかかわりの発達　−発達理論を軸にして　２．３歳児のかかわりの特徴と援助−
第４回：人とのかかわりの発達　−発達理論を軸にして　４．５歳児のかかわりの特徴と援助−
（「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と小学校との接続を含む）
第５回：保育の基本と「人とのかかわり」について　−保育者との出会い・信頼関係を築くかかわり−
第６回：保育内容の捉え方と「人間関係」（幼稚園における評価）
第７回：遊びの中で育つ人とのかかわり　−保育における遊びの理解−
第８回：遊びの中で育つ人とのかかわり　−友だち関係の広がりを援助する−
第９回：人間関係と環境　−情報機器の活用を含めた人とのかかわりを育てる保育環境−
第１０回：人とのかかわりをみる視点（１）　−必要な態度・ルール・規範意識を育てる援助−
第１１回：人とのかかわりをみる視点（２）　−いざこざ・トラブル・仲間入りについて−
第１２回：人とのかかわりを育てる保育実践−人間関係における問題行動の理解と援助−
第１３回：人とのかかわりに関する保育者の役割と援助
−人間関係を良い方向に導く保育者の援助と関わり・記録方法−
第１４回：多様な保育ニーズ　−地域子育て支援を担う保育士・悩む親を支える役割−
第１５回：保育現場の国際化の問題　−アメリカの多文化教育の試みの紹介−
学びの振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

第１回　事前学習課題：幼稚園教育要領　領域「人間関係」の箇所の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第２回　事前学習課題：保育所保育指針　第2章「１．乳児保育に関わるねらい及び内容」の箇所の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第３回　事前学習課題：保育所保育指針　第2章「２．1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」の箇所の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第４回　事前学習課題：保育所保育指針　第2章「３．３歳以上児の保育に関するねらい及び内容」の箇所の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第５回　事前学習課題：資料「課題の解説」の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第６回　事前学習課題：対応テキストの箇所（授業内にて指示）の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第７回　事前学習課題：保育施設における遊びをイメージする。あなたの経験した保育施設における遊びを書き出してみましょう。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第８回　事前学習課題：対応テキストの箇所（授業内にて指示）の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第９回　事前学習課題：資料「課題の解説」の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第１０回　事前学習課題：保育施設におけるルールをイメージする。
あなたの経験した保育施設におけるルールを書き出してみましょう。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第１１回　事前学習課題：保育施設におけるトラブルをイメージする。

あなたの経験した子ども同士のトラブルを書き出してみましょう。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。レポート課題。
第１２回　事前学習課題：資料「課題の解説」の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第１３回　事前学習課題：資料「課題の解説」の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第１４回　事前学習課題：子どもを保育施設に預ける保護者の気持ちを想像してみましょう。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第１５回　事前学習課題：対応テキストの箇所（講義内にて指示）の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。レポート課題。

課題に対するフィードバックの方法

課題については、採点基準や適切な解答について授業内で解説する。または、Google Classroomより模範解答や採点基準を提示する。
希望者には評価を開示する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内容への意欲的な取り組み態度・授業に関する貢献度(10) 課題の提出状況の程度(10) 課題の理解の程度(10) 小テスト(20)	1, 2
授業外での評価	20	事前事後学習などの課題の提出状況の程度(10) レポート課題の理解の程度(10)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	定期試験に代わるレポート:授業内容をふまえて自分の考えを論理的に記述しているか(30)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	「知のゆりかご　子どもの姿からはじめる領域・人間関係」編著 三宅茂夫 みらい　2022年　2100円 ISBN978-4-86015-571-1
参考書	幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府 文部科学省　厚生労働省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） その他、必要に応じて紹介する。
履修条件・他の科目との関連	復習は授業内容と併せて、テキスト又は配布資料を読み込み、理解を深め、学んだ事を整理することを奨励する。 疑問に思った事やわからない事は積極的に質問することを奨励する。意欲的な取り組みの姿勢と評価とする。 欠席については学校の規則に添い取り扱うが、多くなると課題提出不足にもなり評価に影響する。

授業コード	22050601	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	保育内容の指導法（環境）　［対面］				
シラバス執筆（全員）	古海　忍				
シラバス執筆（主）	古海　忍				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

〔目的〕
子どもたちの成長や発達・学びは、子どもの身近にある環境によって大きく変わる。保育者は環境の与える影響の大切さを知り、それを踏まえて環境設定を行っていく必要がある。これを踏まえて、本授業では幼児教育において育みたい資質・能力を理解し、それを実現するための５領域のねらいや内容の全体像を把握し、領域「環境」の位置づけについて説明する。日々の生活や遊びの中で、どのような環境が子どもたちの主体的・対話的で深い学びに繋がっていくのかを理解できるようにする。子どもの発達や現在の姿を踏まえて、実際の保育場面を想定しながら、指導案を作成し、模擬保育を通して保育を実践する力を身に付けることや、常に保育の質向上に努めるため、最新動向の把握や情報機器・教材研究を怠らない学び続ける力を培うことができるよう授業を行う。

〔概要〕
基本的な知識や考え方を講義形式で学ぶとともに、事例研究や発表などの実践活動により、各自の意見を他者と交換し、指導案の作成、模擬保育の実施を通して、保育の捉え方、配慮事項、幼児の主体的な学びについて考えを深める。

到達目標

１．幼児教育の基本を踏まえた領域「環境」のねらい及び内容について、概略を説明することができる。
２．幼児の発達や学びの過程を理解した上で、具体的な保育場面を想定し、適切な情報機器や教材を活用した指導案を作成し、保育を実施することができる。
３．実施した保育の内容を振り返り、改善を検討することや、最新の保育動向に気を配り、質の向上を図ることができる。

授業計画

【第1回】　保育内容「環境」のねらいと内容
領域「環境」のねらいと内容について学び、保育の役割と意義について学ぶ
【第2回】　物的・人的・自然環境
子どもたちが身近に接する環境とはどのようなものかを具体的に考察する
【第3回】　物的環境を生かした保育
子どもたちが遊びを通して学ぶ中で、遊びを豊かにする物的環境について考え、その効果について検討する
【第4回】　自然環境を生かした保育（学外授業）
一つとして同じものがない自然環境の美しさや大きさ、おもしろさについて考え、子どもが自然環境をどのように遊びに取り入れていくのか考察する
【第5回】　人的環境としての保育者の役割（学外授業）
人的環境として保育者が求められる役割の多様性に気付き、その意義を考える
【第6回】　５領域の関連性と保育計画
５領域の中の環境の位置づけや総合的な学びを実現する保育計画のありかたについて考察する
【第7回】　具体的な保育場面を想定した保育計画
保育場面を想定しながら環境に関連した保育計画について考える
【第8回】　幼児の発達や学習過程を踏まえた保育上の留意点
園内の保育室や園庭の環境構成を子どもの動線から考察する
【第9回】　幼児の発達特性を踏まえた情報機器と教材の活用
情報機器や教材研究を行い、幼児の発達に合わせた保育に活用する
【第10回】　保育における評価の観点
保育における評価の考え方について知り、評価の観点を学習する
【第11回】　指導案の理解と具体的な保育場面での指導案作成
指導案の成り立ちについて知り、保育場面を想定しながら指導案を作成する
【第12回】　模擬保育の実施
作成した指導案に基づき模擬保育を行い、反省・評価を行う
【第13回】　幼児教育から小学校教育へのつながり
幼児教育と小学校教育の特性を知り、現状の課題を整理し、円滑な接続のための連携について考える
【第14回】　文字や数への興味関心を高める
身近な自然や生活の中で触れることができる文字や数の存在や子どもの捉え方について学ぶ
【第15回】　保育内容の改善と最新動向を踏まえた保育の質向上
保育内容を振り返り、課題の発見、改善を行い、最新動向を念頭におきながら、保育の質を常に向上させる手段について検討する

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

①事前学修課題：５領域について調べる
②事後学修課題：領域「環境」の内容を見直し、自分なりに大切にしたい内容を選び、自分なりの考えを持つ
【第2回】
①事前学修課題：物的・人的・自然環境の具体例を考えておく
②事後学修課題：物的・人的・自然環境の特徴について考える
【第3回】
①事前学修課題：保育現場にある物的環境を一つ取り上げ、意味を考える
②事後学修課題：授業で共有した物的環境の意味について自分なりに考える
【第4回】
①事前学修課題：保育に取り入れられる自然環境の例とその意味について考える
②事後学修課題：自然環境を取り入れた活動とそのねらいについて具体例を一つ考える
【第5回】
①事前学修課題：人的環境として“友だち”の意味を考える
②事後学修課題：人的環境として“保育者”の役割について再度ふりかえって考える
【第6回】
①事前学修課題：保育計画について調べる
②事後学修課題：総合的な保育の意味について再度考える
【第7回】
①事前学修課題：季節の移り変わりを感じる事柄について考えておく
②事後学修課題：子どもの主体性を支える環境について具体例を考える
【第8回】
①事前学修課題：子どもの発達過程について調べる
②事後学修課題：子どもの発達過程に応じた環境構成について再度ふりかえる
【第9回】
①事前学修課題：保育活動の具体例を調べる
②事後学修課題：保育のねらいを実現するために役立つ情報機器の活用方法について調べる
【第10回】
①事前学修課題：保育における評価の特徴について調べる
②事後学修課題：具体的な例をもとに評価方法について図書館やインターネットなどで調べる
【第11回】
①事前学修課題：指導案について調べる
②事後学修課題：指導案に基づいて具体的な手順をシミュレーションする
【第12回】
①事前学修課題：模擬保育を行う前の準備物を用意する
②事後学修課題：模擬保育を振り返り、今後の課題を挙げ、改善策を立てる
【第13回】
①事前学修課題：幼児教育と小学校教育の違いについて考える
②事後学修課題：保育現場と小学校現場の連携の方法について具体例を調べる
【第14回】
①事前学修課題：生活の中で見ることができる文字や数の例を考える
②事後学修課題：文字や数に自然に興味を持つきっかけについて考える
【第15回】
①事前学修課題：最新の保育に関するトピックスを考える
②事後学修課題：保育を振り返り、改善につなげる方法を具体的に考える

課題に対するフィードバックの方法

授業のテーマにあわせて各自が自分の考えを表現したレポートや製作、ワークシートについては、全体に共有化したい内容は授業で取り上げ、解説を行う。個々にフィードバックを行いたい内容は、プリント内にコメントをつけるなど、各自の状況にあわせて対応する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

授業毎に授業内容を考えたり整理したりする課題を提示する。これらの内容と期末レポートを総合評価し、60点以上を合格とする。
成績評価にあたっては、期末レポートの提出を必須とする。提出されない場合は単位を認定しない（評価不能「K」）。
この授業は全15回の授業であるため、出席が10回に満たない場合は評価不能（K）となり、単位を認定することはできない。
なお、遅刻や早退は３回で欠席１回に換算するため、５回欠席２回遅刻または早退までは成績評価の対象とする。
ただし、成績評価の対象となっても欠席回数が多ければ合格点に達することは困難であるため、毎回の授業に出席し授業で出される課題を確実に提出することが求められる。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	毎回の授業で提示するワークシートやレポート、発表内容（70）	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	30	期末レポート（30）	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	新訂　事例で学ぶ保育内容 領域　環境 無藤隆　監修　福元真由美　編者代表 萌文書林 2000円＋税 978-4-89347-258-8
参考書	〈平成30年施行〉 保育所保育指針　幼稚園教育要領　幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント 汐見稔幸／無藤隆　ミネルヴァ書房編集部〔編〕 ミネルヴァ社 1500円＋税 978-4-623-08098-4
履修条件・他の科目との関連	「幼児と環境」の授業で学んだ基礎知識をもとに、実際の保育場面に応用させて理解を深めてください。 保育内容５領域のうち、環境以外の領域を学ぶ授業を意識しながら学習を進めるようにしてください。 授業欠席者には Google Classroom による資料配信を行うので、内容をよく読み、課題については自身で取り組む。質問がある場合は s-furumi@oiu.jp までメールを送るか、オフィスアワー（月曜日、水曜日昼休み）に研究室まで質問にくること。オフィスアワーを利用する場合は、前日までにメールで相談してください。 自然環境について学ぶため学外授業を実施する予定です（状況に応じて中止する場合があります）。 実施時期はシラバスに示された授業回とは異なる可能性がありますが、少なくとも１か月前には日程などの詳細を授業内で連絡します。

授業コード	22050701	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	保育内容の指導法（言葉）　［対面］				
シラバス執筆（全員）	吉田　貴子				
シラバス執筆（主）	吉田　貴子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

幼稚園教育要領等における領域「言葉」のねらい及び内容について、説明する授業である。
また、（１）保育における言葉とは何か、（２）言葉の発達、（３）言葉を育てる環境、（４）言葉を育てる児童文化、（５）言葉に関する諸問題について概説する。

到達目標

1. 乳幼児期の子どもの言葉の育ちの過程について説明できる。
2. 子どもの言葉の育ちを支える保育に関する事例を参考にして、指導案を作成できる。
3. 子どもの言葉の育ちを支える児童文化財について説明できる。
4. 保育内容「言葉」のねらいと内容について説明できる。

授業計画

第1回　オリエンテーション・幼稚園教育要領における各領域のねらい及び内容
第2回　領域「言葉」のねらい及び内容と指導上の留意点
第3回　子どもどうしの関わりから育つ言葉
第4回　言葉を豊かにする言葉遊びの指導案
第5回　言葉を豊かにする言葉遊びの実践
第6回　言葉に関連する障害
第7回　母語が日本語ではない子どもの言葉
第8回　児童文化財のとは何か
第9回　児童文化財の実践
第10回　児童文化財—ペープサートの製作
第11回　児童文化財—ペープサートの演じ方
第12回　児童文化財—ペープサートの発表会
第13回　保育実践の動向—オリジナル作品のテーマ設定
第14回　保育実践の動向—オリジナル作品の発表
第15回　今後の保育構想の向上

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（１回につき２時間として計算）と事前事後学修をあわせて１単位あたり４５時間が必要です。

【第１回】
①事前学修課題：事前にテキストの目次を参考にして、授業内容を把握しておくこと。
②事後学修課題：課題を課すので、次回の授業前に提出すること。
【第２回】
①事前学修課題：自分が好きな絵本や紙芝居を見つけ、読むこと。
②事後学修課題：課題を課すので、次回の授業前に提出すること。
【第３回】
①事前学修課題：保育現場で実践される言葉の活動について調べておくこと。
②事後学修課題：言葉の活動についてまとめること。
【第4回】
①事前学修課題：言葉遊びの種類について、調べておくこと。
②事後学修課題：指導案を作成すること。
【第5回】
①事前学修課題：言葉遊びの実践にむけて、準備しておくこと。
②事後学修課題：言葉遊びにおける保育者の言葉がけについてまとめること。
【第6回】
①事前学修課題：言葉に関連する障害について調べておくこと。
②事後学修課題：子どもの言葉の発達と障害について整理し、疑問点を書いておくこと。
【第7回】
①事前学修課題：母語が日本語ではない子どもの保育について、テキストを読んでおくこと。
②事後学修課題：授業で学習した問題点とその解決策についてまとめること。
【第8回】
①事前学修課題：今までの授業内容を見直しておくこと。
②事後学修課題：授業全体での学びを振り返り、課題に取り組むこと。
【第9回】
①事前学修課題：児童文化財について、テキストを読んでおくこと。
②事後学修課題：授業で学習した児童文化財について、調べて理解を深めること。
【第10回】

①事前学修課題：ペープサートとは何か調べておくこと。
②事後学修課題：授業で行った製作の続きを行うこと。
【第11回】
①事前学修課題：ペープサートの実演動画を観ておくこと。
②事後学修課題：子どもに伝わりやすい実演の方法について整理しておくこと。
【第12回】
①事前学修課題：発表にむけて、自分の担当を練習しておくこと。
②事後学修課題：発表会での実演と鑑賞を通して、学習した内容を書いておくこと。
【第13回】
①事前学修課題：保育に関する近年の問題を調べ、幼児に伝えたいテーマを考えておくこと。
②事後学修課題：グループで話し合い、取り上げたテーマに関する作品づくりを進めておくこと。
【第14回】
①事前学修課題：グループで選んだテーマ以外で、子どもに関する近年の動向をテキストで読んでおくこと。
②事後学修課題：各グループのオリジナル作品について、工夫点や改善点を整理しておくこと。
【第15回】
①事前学修課題：今後の保育構想の向上について、テキストで読んでおくこと。
②事後学修課題：この授業で学習したことを振り返り、整理しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業内での発表や受け取った課題に対して、コメントを返してフィードバックし、その後の授業で説明する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	発表（30）、課題（30）	1, 3, 4
授業外での評価	20	レポート	1, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポート	2, 4
その他	0		

テキスト	谷田貝公昭・廣澤満之　編著（2018）『新版　実践保育内容シリーズ4　言葉』一藝社 ISBN　9784863591592　¥2,200
参考書	・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） ・幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府　文部科学省　厚生労働省）
履修条件・他の科目との関連	卒業必修であり、幼稚園教諭免許、保育士資格取得のために必要な科目である。 欠席者には、資料をGoogle Classroomに掲示する。

授業コード	22050801	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	保育内容の指導法（表現・総合）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	角地　佳子、玉井　久実代、作野　理恵				
シラバス執筆(主)	角地　佳子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

本科目は、乳幼児の様々な表現活動を援助するために必要な知識や技術を学ぶことを目的とする。
総合的な表現活動についての計画、準備、練習、実践、記録、省察を行うための指導法を概説する。

到達目標

1.総合的な表現活動についての知識・技術を習得し応用できる。
2.総合的な表現活動を構想し、実践できる。
3.総合的な表現活動のための準備、練習、後片付け、振り返りを実行できる。

授業計画

【第1回】　保育内容の指導法（表現・総合）の授業概要と３法令における領域（表現）について学ぶ。　角地もしくは渡邊・作野・玉井
【第2回】　幼児期の表現活動と小学校の教科等のつながり考える。　角地もしくは渡邊・作野・玉井
【第3回】　総合的な表現活動を実践するため、グループで発表のテーマを計画し、準備する。　角地もしくは渡邊・作野・玉井
【第4回】　総合的な表現活動を練習する。　角地もしくは渡邊・作野・玉井
【第5回】　総合的な表現活動を実践し、記録から振り返りを行う。　角地もしくは渡邊・作野・玉井
【第6回】　幼稚園や保育所での劇発発表映像を観て、表現が広がる指導法を考える。　角地もしくは渡邊・作野・玉井
【第7回】　ICTを活用して五感を使った総合的な表現活動における保育内容を理解する。角地もしくは渡邊・作野・玉井
【第8回】　これまでの学びを踏まえた総合的な表現活動を実践するため、グループで発表のテーマを考える。　角地もしくは渡邊・作野・玉井
【第9回】　総合的な表現活動を実践するため、テーマに沿ったストーリやセリフ、身体活動を考える。　角地もしくは渡邊・作野・玉井
【第10回】 総合的な表現活動の実践に向けて、テーマに沿った造形活動を考える。　角地もしくは渡邊・作野・玉井
【第11回】 総合的な表現活動の実践に向けて、テーマに沿って音楽活動を考える。　角地もしくは渡邊・作野・玉井
【第12回】 総合的な表現活動の実践に向けて、見せ方・演出効果等の保育構想の向上に取り組む。　角地もしくは渡邊・作野・玉井
【第13回】 総合的な表現活動を実践する。　角地もしくは渡邊・作野・玉井
【第14回】 総合的な表現活動を実践するための指導案を作成する。　角地もしくは渡邊・作野・玉井
【第15回】 総合的な表現活動を実践し、その振り返りを通して保育の場における表現活動について考える。 角地もしくは渡邊・作野・玉井

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後学習をあわせて、1単位あたり45時間が必要です。
1回の授業につき、事前事後合わせて1時間以上の学習が必要です。
【第1回】
①事前学習課題：シラバスを確認する。
②事後学習課題：授業内容を確認する。
【第2回】
①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：学習したことを整理する。
【第3～5回】
①事前学習課題：「幼児と表現」の授業資料を見直す。
②事後学習課題：学習したことを整理する。
【第6～7回】
①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：学習したことを整理する。
【第8～13回】
①事前学習課題：第1～7回の授業を振り返り、発表の準備を行う。
②事後学習課題：学習したことを整理する。
【第14～15回】
①事前学習課題：乳幼児の総合表現について、総括の準備を行う。
②事後学習課題：乳幼児の総合表現について、学びの総括を整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、授業内やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。
3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。
定期試験に代わるレポート等の提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	授業全体の取り組みに対する意欲や態度、課題(60) 第5回、第13回の実践発表(20)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	レポート	1
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、資料の配付もしくはclassroomへの提示を行う。
参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件・他の科目との関連	卒業科目であり、幼稚園教諭免許および保育士資格の必修科目である。 各回に必要な準備物や服装、および教室は担当教員に確認すること。 授業で用いる写真や動画等は、取り扱いに十分注意すること。 配当施設や進捗状況に応じて、授業計画を変更することがある。 欠席時に配付された資料は、担当教員に申し出て受け取ること。 「幼児と表現」に関連する授業である。

授業コード	22050802	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	保育内容の指導法（表現・総合）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	渡邊　詩子、玉井　久実代、作野　理恵				
シラバス執筆(主)	渡邊　詩子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

本科目は、乳幼児の様々な表現活動を援助するために必要な知識や技術を学ぶことを目的とする。
総合的な表現活動についての計画、準備、練習、実践、記録、省察を行うための指導法を概説する。

到達目標

1.総合的な表現活動についての知識・技術を習得し応用できる。
2.総合的な表現活動を構想し、実践できる。
3.総合的な表現活動のための準備、練習、後片付け、振り返りを実行できる。

授業計画

【第1回】　保育内容の指導法（表現・総合）の授業概要と３法令における領域（表現）について学ぶ。　角地もしくは渡邊、作野・玉井
【第2回】　幼児期の表現活動と小学校の教科等のつながり考える。　角地もしくは渡邊、作野・玉井
【第3回】　総合的な表現活動を実践するため、グループで発表のテーマを計画し、準備する。　角地もしくは渡邊、作野・玉井
【第4回】　総合的な表現活動を練習する。　角地もしくは渡邊、作野・玉井
【第5回】　総合的な表現活動を実践し、記録から振り返りを行う。　角地もしくは渡邊、作野・玉井
【第6回】　幼稚園や保育所での劇発発表映像を観て、表現が広がる指導法を考える。　角地もしくは渡邊、作野・玉井
【第7回】　ICTを活用して五感を使った総合的な表現活動における保育内容を理解する。角地もしくは渡邊、作野・玉井
【第8回】　これまでの学びを踏まえた総合的な表現活動を実践するため、グループで発表のテーマを考える。　角地もしくは渡邊、作野・玉井
【第9回】　総合的な表現活動を実践するため、テーマに沿ったストーリやセリフ、身体活動を考える。　角地もしくは渡邊、作野・玉井
【第10回】 総合的な表現活動の実践に向けて、テーマに沿った造形活動を考える。　角地もしくは渡邊、作野・玉井
【第11回】 総合的な表現活動の実践に向けて、テーマに沿って音楽活動を考える。　角地もしくは渡邊、作野・玉井
【第12回】 総合的な表現活動の実践に向けて、見せ方・演出効果等の保育構想の向上に取り組む。　角地もしくは渡邊、作野・玉井
【第13回】 総合的な表現活動を実践する。　角地もしくは渡邊、作野・玉井
【第14回】 総合的な表現活動を実践するための指導案を作成する。　角地もしくは渡邊、作野・玉井
【第15回】 総合的な表現活動を実践し、その振り返りを通して保育の場における表現活動について考える。 角地もしくは渡邊、作野・玉井

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後学習をあわせて、1単位あたり45時間が必要です。
1回の授業につき、事前事後合わせて1時間以上の学習が必要です。
【第1回】
①事前学習課題：シラバスを確認する。
②事後学習課題：授業内容を確認する。
【第2回】
①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：学習したことを整理する。
【第3～5回】
①事前学習課題：「幼児と表現」の授業資料を見直す。
②事後学習課題：学習したことを整理する。
【第6～7回】
①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：学習したことを整理する。
【第8～13回】
①事前学習課題：第1～7回の授業を振り返り、発表の準備を行う。
②事後学習課題：学習したことを整理する。
【第14～15回】
①事前学習課題：乳幼児の総合表現について、総括の準備を行う。
②事後学習課題：乳幼児の総合表現について、学びの総括を整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、授業内やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。
3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。
定期試験に代わるレポート等の提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	授業全体の取り組みに対する意欲や態度、課題(60) 第5回、第13回の実践発表(20)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	レポート	1
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、資料の配付もしくはclassroomへの提示を行う。
参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件・他の科目との関連	卒業科目であり、幼稚園教諭免許および保育士資格の必修科目である。 各回に必要な準備物や服装、および教室は担当教員に確認すること。 授業で用いる写真や動画等は、取り扱いに十分注意すること。 配当施設や進捗状況に応じて、授業計画を変更することがある。 欠席時に配付された資料は、担当教員に申し出て受け取ること。 「幼児と表現」に関連する授業である。

授業コード	22050901	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	保育内容の指導法（表現・言語）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	角地　佳子				
シラバス執筆(主)	角地　佳子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

乳幼児の豊かな言葉や表現を理解するために必要な基礎知識を概説する。
グループワークを取り入れた主体的な学び合いにより、乳幼児の発達に伴う言葉の理解を促す授業内容にする。
言葉の大切さを理解した上で、乳幼児の言葉を育て感性を豊かにする教材や児童文化の基礎的な知識を概説する。

到達目標

１．乳幼児が言葉による豊かな表現力と想像する楽しさを身に付けられるよう実践できる。
２．乳幼児の発達における言葉の持つ意義を説明できる。
３．乳幼児の言葉を育て感性を豊かにする教材や児童文化の基礎的な知識や技術を習得し応用できる。

授業計画

【第１回】授業概要　領域「表現」のねらい及び内容に基づき、乳幼児の言語表現を理解する。
【第２回】乳幼児の言葉の発達過程において実践例を用いて理解する。
【第３回】保育現場の動画を鑑賞し、乳幼児の言葉の発達過程における表現が、小学校教育にどのように繋がるかグループで話し合う。
【第４回】言葉に対する感覚を豊かにするための言葉遊びを、ICTを用いてグループで教材研究をする。
【第５回】言葉に対する感覚を豊かにするための言葉遊びを、グループで発表する。
【第６回】言葉による伝え合いを育む援助について、ICTを活用して理解する。
【第７回】言葉による伝え合いを育む援助について、グループで実践する。
【第８回】表現としての言葉の美しさ、楽しさについてICTを活用して材料研究をする。
【第９回】表現としての言葉の美しさ、楽しさの活動をグループで実践する。
【第１０回】表現としての言葉の美しさ、楽しさの活動をグループで発表し、振り返りを行う。
【第１１回】乳幼児にとっての児童文化財（絵本、紙芝居、ペープサートなど）の意義を理解する。
【第１２回】児童文化財（絵本、紙芝居、ペープサートなど）の作成をグループで取り組む。
【第１３回】児童文化財（絵本、紙芝居、ペープサートなど）の保育の指導案をグループで作成する。
【第１４回】児童文化財（絵本、紙芝居、ペープサートなど）の模擬保育をグループで考える。
【第１５回】児童文化財（絵本、紙芝居、ペープサートなど）の模擬保育をグループで発表し、振り返りを行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（１回につき２時間として計算）と事前事後のあわせて１単位あたり４５時間が必要であるため、各回につき事前事後合わせて1時間以上の学習が必要です。

【第1回】
①事前学習課題：シラバスを確認する。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。
【第2～3回】
①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。
【第４～１０回】
①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、まとめる。
【第11回】
①事前学習課題：児童文化財に関して、インターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。
【第１２～14回】
①事前学習課題：２～11回目の授業を復習し、発表の準備を行う。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。
【第１５回】
①事前学習課題：発表内容を再確認する。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、まとめる。

課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法

課題のフィードバックは、授業内やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法･基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。

●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、６０点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、評価対象とせず「K」評価とする。
３回の遅刻及び早退は1回の欠席とする。
定期試験に代わるレポート等の提出がない場合は、評価対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業全体の学びに向かう過程の評価	1, 2, 3
授業外での評価	10	授業のまとめ課題の完成度を評価	2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	課題レポートの完成度を評価	2, 3
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、資料の配布もしくは classroom への提示を行う。
参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件・他の科目との関連	学科専門教育科目であり、幼稚園教諭免許必修科目及び保育士資格選択必修科目である。

授業コード	22051001	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	保育内容の指導法（表現・音楽）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	作野　理恵				
シラバス執筆(主)	作野　理恵				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

「保育内容の指導法（総合・表現）」の授業内容をより充実・発展させ、乳幼児のあそびや生活を踏まえた、音楽における保育内容の展開や指導法を概説する。
音やリズムを用いた様々な音楽の表現活動を学び、実践を通しての構想・計画・指導力の習得法を説明する。

到達目標

1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」のねらい及び内容を理解し、応用できる。
2. 乳幼児の心情、認識、思考に応じた音楽表現活動を実践できる。
3. 感じたことや考えたことを自分なりに表現できる。
4. 音楽表現の特性を考慮した情報機器及び活用法を理解し、保育構想に活用できる。
5. 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成できる。
6. 表現活動における指導上の留意点を理解し、模擬保育を実践できる。
7. 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善することができる。

授業計画

【第1回】
テーマ：授業計画の説明
内容・方法：領域「表現」のねらい及び内容に関連させた音楽表現について理解する。
【第2回】
テーマ：乳幼児の音楽表現について
内容・方法：具体的な実践例を挙げ、その表現の背景や要因について考察する。
【第3回】
テーマ：年齢別表現活動について
内容・方法：年齢別の歌あそびと音楽的表現活動（3、４、5歳児）について学ぶ。
【第4回】
テーマ：乳幼児の音楽表現活動と小学校の教科音楽との学びの連続性について①
ー歌唱表現活動について
内容・方法：日常保育の四季別（春・夏・秋・冬）による歌を考察し、
歌唱曲を教える際の造形、言葉、身体を用いた工夫について学び、実践する。
【第5回】
テーマ：乳幼児の音楽表現活動と小学校の教科音楽との学びの連続性について②
ー芸術作品について
内容・方法：作曲家の背景や作品内容等について学び、現場での活用方法を習得する。
【第6回】
テーマ：音楽表現におけるICT活用方法について
内容・方法：タブレットを中心としたICT活用例を学び、実践を通して保育構想の向上を図る。
【第7回】
テーマ：国内外の音楽表現活動について
内容・方法：国内外の様々な音楽表現活動について知り、自らの保育構想の向上に取り組む。
【第8回】
テーマ：音やリズムを身体で表現する活動を実践し、活動の特徴や面白さ、留意点を考える。
内容・方法：リトミックについて理解・実践する。
【第9回】
テーマ：リズムを用いた音楽表現活動を実践し、活動の特徴や面白さ、留意点を考える。
内容・方法：リズム合奏（楽器を使った表現）の事例について学び、実践する。
【第10回】
テーマ：インクルーシブ保育における音楽活動について
内容・方法：音楽療法セッション楽器等を使った表現事例について学び、実践する。
【第11回】
テーマ：指導計画の立案①
内容・方法：歌う活動を核とした音楽活動指導計画を作成する。
【第12回】
テーマ：模擬実技発表①
内容・方法：指導案に基づき、歌う活動を中心とした模擬保育を実践し、その振り返りを行う。
【第13回】
テーマ：指導計画の立案②
内容・方法：演奏活動を核とした音楽活動指導計画を作成する。
【第14回】
テーマ：模擬実技発表②
内容・方法：指導案に基づき、楽器等を用いた演奏活動の模擬保育を実践し、その振り返りを行う。
【第15回】
テーマ：総合音楽表現活動の振り返り

内容・方法：これまでに学んだ表現活動を振り返り、保育現場における音楽表現活動を総合的に考える。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。
授業と事前事後の合わせて1単位あたり45時間必要である。
（事前）前授業の復習をし、内容を理解・習得しておく。
（事後）授業内外課題に取り組み提出する。
　　授業で学んだ内容での指導計画案の作成方法について調べ、考察する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で音楽表現活動の実践を評価・講評する。
授業内課題に対する講評を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

授業内での評価
・音楽表現活動の習得、実践に意欲的に取り組んでいるかを評価する。
・指導計画の立案、模擬保育の実践内容を評価する。
・感じたことや考えたことを自分なりに表現しているかを評価する。

授業外での評価
・事後課題の完成度について評価する。
・定期試験に代わるレポート等の完成度を評価する。

定期試験は無し

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく5回を超える欠席した場合は評価の対象とせず「K」評価とする。
３回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。
授業開始時間から開始後30分までを遅刻とする。
定期試験に代わるレポートの提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	・音楽表現活動の習得、実践に意欲的に取り組んでいるかを評価する。(20) ・指導計画の立案、模擬保育の実践内容を評価する。(40) ・感じたことや考えたことを自分なりに表現しているかを評価する。(10)	1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	10	課題の完成度を評価(10)	1, 2, 3, 4, 5, 6
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	課題レポートの完成度を評価	1, 2, 3, 4, 5, 6
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 随時プリントを配付する。
参考書	幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府 文部科学省　厚生労働省） 保育所保育指針（平成29年3月告示　厚生労働省）
履修条件・他の科目との関連	学科専門教育科目であり、幼稚園免許状取得の必修科目である。 欠席時に配付された資料は次回、担当教員に申し出て受け取ること

授業コード	22051101	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	保育内容の指導法（表現・造形）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	渡邊　詩子				
シラバス執筆(主)	渡邊　詩子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

保育における造形表現の指導法を、子どもの生活や遊びを踏まえて概説する。
造形表現の基礎的な知識・技能について概説し、乳幼児期の表現活動について保育の構想や計画、指導方法を説明する。

到達目標

１）領域「表現」のねらい及び内容に基づき、乳幼児の造形表現を理解することができる。
２）乳幼児の発達や学びの過程を理解し、保育構想に活用することができる。
３）具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
４）造形表現の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

授業計画

1. 授業概要　領域「表現」のねらい及び内容に基づき、乳幼児の造形表現を理解する。
2. 3歳児未満の造形表現についてICTを活用し、活動内容を具体的に考える。
3. 3歳から5歳児の造形表現についてICTを活用し、活動内容を具体的に考える。
4. 幼児期の表現活動から小学校の図画工作への繋がりを実践例を用いて考える。
5. ペンやパスなどの描画材料を用いて幼児の描画表現が広がる指導法を考える。
6. 絵の具を用いて遊びによる表現活動を構想し、実践する力を身につける。
7. 絵の具を用いた表現活動の指導案をグループで作成し、模擬保育を実践する。
8. 身近な素材を用いた表現活動の指導案を個人で作成し、保育構想の向上に取り組む。
9. 身近な素材を用いた遊びによる造形活動を実践し、素材の面白さや活動の留意点を理解する。
10. 身近な素材を用いた造形活動の実践例を参考にし、模擬保育を実践する。
11. 自然や自然物を用いた造形活動を実践し、自然や自然物の面白さや活動の留意点を理解する。
12. 自然や自然物を用いた造形活動についてICTを活用し、保育構想の向上に取り組む。
13. これまでの学びを踏まえ、総合的な造形表現を実践するために、グループで指導案を作成する。
14. グループでの指導案に沿って模擬保育を実践する。
15. グループでの模擬保育を振り返り、保育現場における造形活動を総合的に考える。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後学習をあわせて、1単位あたり45時間が必要です。
1回の授業につき、事前事後合わせて1時間以上の学習が必要です。

【第1回】
①事前学習課題：シラバスを確認する。
②事後学習課題：授業内容を確認する。
【第2～3回】
①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：学習したことを整理する。
【第4~9回】
①事前学習課題：前授業の復習をし、本授業の材料用具の確認を行う。
②事後学習課題：本授業で学んだ内容を整理し、保育の現場で役立つよう課題記録をつける。
【第10回】
①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：学習したことを整理する。
【第11~12回】
①事前学習課題：前授業の復習をし、本授業の材料用具の確認を行う。
②事後学習課題：本授業で学んだ内容を整理し、保育の現場で役立つよう課題記録をつける。
【第13回】
①事前学習課題：これまでの授業を振り返り、資料作成の準備を行う。
②事後学習課題：総合的な造形表現の学びについて、整理する。
【第14～15回】
①事前学習課題：総合的な造形表現について、総括の準備を行う。
②事後学習課題：総合的な造形表現について、学びの総括を整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、授業内やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法・基準（方針）
●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。 ●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。 ---------- 以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。 3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。 定期試験に代わるレポートの提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業全体を通じた学生の学びをに向かう過程の評価	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	学習内容のまとめの評価	1, 2, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	定期試験に代わるレポートの評価	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、資料の配布もしくはclassroomへの提示を行う。
参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件・他の科目との関連	学科専門教育科目であり、幼稚園教諭免許の必修科目および保育士資格の選択必修科目である。 配当施設や進捗状況に応じて、授業計画を変更することがある。 欠席時に配布された資料は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22051201	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	保育内容の指導法（表現・身体）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	玉井　久実代				
シラバス執筆(主)	玉井　久実代				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

乳幼児の発達や学びの過程を理解し、身体表現遊びの指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。
年齢や発達に応じ、乳幼児の素朴な表現を活かした保育構想を指導案に取り上げ、音楽や造形表現を取り入れた身体表現遊びの教材研究や模擬保育と振り返りを行う。

到達目標

1. 身体表現のねらいおよび内容を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を説明できる。
2. 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を説明できる。

授業計画

【第1回】オリエンテーション、乳幼児における身体表現
【第2回】身体表現によるコミュニケーション
【第3回】発達過程からみる乳児の身体表現
【第4回】発達過程からみる幼児の身体表現
【第5回】保育の構想　指導案の作成
【第6回】保育の構想と実践　身近な道具や遊具を用いて
【第7回】保育の構想と実践　音楽表現を用いて
【第8回】保育の構想と実践　造表現を用いて
【第9回】保育の構想と実践　リズムダンス
【第10回】模擬保育　ICTを活用した計画
【第11回】模擬保育　実践
【第12回】模擬保育　ICTを活用した記録・省察
【第13回】模擬保育　ICTを活用した評価・改善
【第14回】身体表現と小学校の教科等とのつながり
【第15回】ICTを活用し、保育の場における身体表現遊びを整理する

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後学習をあわせて、1単位あたり45時間が必要です。
1回の授業につき、事前事後合わせて1時間以上の学習が必要です。
【第1回】
①事前学習課題：シラバスを確認する。
②事後学習課題：授業内容を確認する。
【第2～9回】
①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：学習したことを整理する。
【第10～13回】
①事前学習課題：模擬保育の準備を行う。
②事後学習課題：模擬保育の振り返りを行う。
【第14回】
①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：学習したことを整理する。
【第15回】
①事前学習課題：総括の準備を行う。
②事後学習課題：学びの総括を整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、授業内やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法･基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。
3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。
定期試験に代わるレポート等の提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	85	授業全体の取り組みに対する意欲や態度、課題（75） 模擬保育（10）	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	レポート	1, 2
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、資料の配付もしくはclassroomへの提示を行う。
参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 その他は、必要に応じて授業のなかで紹介する。
履修条件・他の科目との関連	学科専門教育科目であり、幼稚園教諭免許の必修科目および保育士資格の選択必修科目である。 各回に必要な準備物や服装等は、授業内やclassroomで周知する。 配当施設や進捗状況に応じて、授業計画を変更することがある。 欠席時に配付された資料は、担当教員に申し出て受け取ること。 「幼児と表現」「保育内容の指導法（表現・総合）」等の表現科目に関連する授業である。

授業コード	22046501	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	保育・教育課程論　［対面］				
シラバス執筆（全員）	吉田　貴子				
シラバス執筆（主）	吉田　貴子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的･概要

この授業では、幼稚園・保育所・認定こども園における教育課程の編成の在り方を説明する。教育課程の編成には、「子どもの発達、保育・教育内容の考え方とその実際、保育者の環境構成・援助の在り方、地域・家庭との連携」などの知識が求められるため、他教科の学習内容と関連させながら総合的な視点でとらえ、対応していく力を育成する。
指導計画の実際例や実践を通して、教育課程を基に具体的な指導計画を作成し、その評価や保育活動の展開のポイントなどを概説する。

到達目標

1. 教育課程及び全体的な計画等、指導計画の意義と目的を説明できる。
2. 教育課程及び全体的な計画の編成について内容の説明ができる。
3. 子どもの発達の過程や特徴の理解を基にして、実際に指導計画のポイントをおさえて、作成できる。
4. 保育記録・評価反省と計画の関係性を説明できる。
5. 計画の改善の意義と方法について説明できる。

授業計画

第　１回　オリエンテーション　保育・教育課程の役割理解
第　２回　保育の基本と計画の考え方　教育課程や全体的な計画の意義と目的について
第　３回　幼児教育の特質と幼児期に育みたい資質・能力について
第　４回　教育課程の変遷と幼稚園における教育課程編成の役割と編成
第　５回　保育所における全体的な計画
第　６回　幼保連携型認定こども園における教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画
第　７回　長期の指導計画と短期の指導計画の実際
第　８回　指導計画の作成・PDCAサイクルと幼児理解に基づいた評価の実際
第　９回　カリキュラム・マネジメントの意義と実際
第１０回　園・家庭・地域社会の役割
第１１回　指導計画の作成①（発達過程を意識して）
第１２回　指導計画の作成②（保育の展開を考える）
第１３回　指導計画の実践と評価
第１４回　幼児教育と小学校教育との円滑な接続
第１５回　まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（１回につき２時間として計算）と事前事後学修をあわせて１単位あたり４５時間が必要です。
毎回の授業に対して、合わせて４時間の事前・事後学修が必要となります。
【第１回】
①事前学修課題：事前にテキストの目次を参考にして、この授業の流れを把握しておくこと。
②事後学修課題：課題を課すので、次回の授業前に提出すること。
【第２回】
①事前学修課題：テキストで、教育課程や全体的な計画の意義に関する箇所を読むこと。
②事後学修課題：課題を課すので、次回の授業前に提出すること。
【第３回】
①事前学修課題：幼児期に育みたい資質・能力についての箇所を読んでおくこと。
②事後学修課題：授業内に示した課題に取り組むこと。
【第４回】
①事前学修課題：幼稚園教育要領について調べておくこと。
②事後学修課題：幼稚園教育要領の大事なポイントについて整理しておくこと。
【第５回】
①事前学修課題：保育所保育指針について調べておくこと。
②事後学修課題：保育所の特徴と保育士の役割についてまとめること。
【第６回】
①事前学修課題：幼保連携型認定こども園教育・保育要領について調べておくこと。
②事後学修課題：認定子ども園の特徴について整理すること。
【第７回】
①事前学修課題：保育の計画にはどのようなものがあるかテキストで調べておくこと。
②事後学修課題：計画の種類についてまとめること。
【第８回】
①事前学修課題：ここまでの授業内容を復習しておくこと。
②事後学修課題：課題を課すので、次回の授業前に提出すること。

【第９回】
①事前学修課題：事前にテキストの当該箇所を読んでおくこと。
②事後学修課題：課題を課すので、次回の授業前に提出すること。
【第１０回】
①事前学修課題：子どもの家庭環境や地域社会について調べること。
②事後学修課題：自分で調べたり、考えたことをレポートにまとめること。
【第１１回】
①事前学修課題：指導計画の作成について予習すること。
②事後学修課題：指導計画を作成すること。
【第１２回】
①事前学修課題：授業内容を復習しておくこと。
②事後学修課題：課題を課すので、次回の授業前に提出すること。
【第１３回】
①事前学修課題：計画を実践する際の留意点についてまとめること。
②事後学修課題：課題を課すので、次回の授業前に提出すること。
【第１４回】
①事前学修課題：幼稚園や保育所と小学校の違いを考えておくこと。
②事後学修課題：幼保小連携のポイントを整理しておくこと。
【第１５回】
①事前学修課題：今までの授業内容を見直しておくこと。
②事後学修課題：授業全体での学びを振り返り、課題に取り組むこと。

課題に対するフィードバックの方法

受け取った課題に、コメントを返してフィードバックし、その後の授業で説明する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	発表(20)、リフレクションシート(10)	1, 2, 4
授業外での評価	50	レポート(50)	3, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポート(20)	2, 4, 5
その他	0		

テキスト	前田和代編著（2023）『新・保育の計画と評価－理論と実践をつなぐ保育カリキュラム論－』 教育情報出版社 ISBN 978-4-909378-59-0 ¥2,200
参考書	・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） ・幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府　文部科学省　厚生労働省）
履修条件・他の科目との関連	幼稚園教諭免許および保育士資格取得のために必要な科目です。 興味のある幼稚園や保育所、認定こども園のHPを見たり、保育の本を読むことで、色々な保育のカリキュラムについて調べてみましょう。 欠席者へはGoogle Classroomで資料を掲示します。

授業コード	22022801	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	保育相談（幼児理解の理論・方法を含む）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	大塚　穂波				
シラバス執筆(主)	大塚　穂波				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

保育ニーズが多様化する中で、保育者は子どもだけでなく保護者や同僚とよりよい関係を築き、一人一人に応じた援助を行うことが重要である。本講義では、保育相談に必要な基礎的知識や、保育者に求められる援助の基本的姿勢や考え方について概説する。

到達目標

1. 発達過程にもとづいて子どもを理解するための基礎的知識を説明することができる。
2. カウンセリングマインドに関わる基礎的知識及び態度を説明することができる。
3. 幼児理解の意義と具体的な方法について、言葉で説明することができる。
4. 個の育ちと集団の育ちの両面から、子ども一人一人の特性に応じて適切な援助方法を提案することができる。

授業計画

第1回　イントロダクション：保育相談とは
第2回　幼児理解の重要性
第3回　保育相談の基本的態度
第4回　乳幼児の発達理解と相談・支援
第5回　保護者への支援と信頼関係
第6回　保育相談の基本的態度(1) カウンセリングマインド
第7回　保育相談の基本的態度(2) 受容・共感・傾聴
第8回　個と集団の関係と保育士の専門性
第9回　障害のある子ども、「気になる子」やその保護者への支援
第10回　アセスメントの方法
第11回　相談援助の具体的方法(1) 支援のプロセス
第12回　相談援助の具体的方法(2) 支援計画
第13回　園内の相談体制
第14回　外部機関との連携：虐待事例
第15回　まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

予習として毎回テキストまたは資料の該当範囲を通読し、自身の関心や関連する経験について考えをまとめておくこと。授業後はテキスト・ノートをもとに授業内容を復習し、疑問点等を整理すること。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーは次回の授業内で紹介する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格として所定の単位を認定する。
正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	小テスト(20%)、演習課題(50%)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	定期試験に代わるレポート	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	「スギ先生と学ぶ　教育相談のきほん〈第2版〉」杉﨑雅子(著), 萌文書林, 1,870円, ISBM:

テキスト	9784893473158
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	欠席した回の資料はGoogle Classroomよりダウンロードし、自習すること。 「発達心理学Ⅰ」「障害児保育」を復習しておくこと。

授業コード	22046601	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	子どもの保健　［対面］				
シラバス執筆（全員）	織田　恵輔				
シラバス執筆（主）	織田　恵輔				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

子どもの心身の健全な成長には、健康の保持及び増進が必要である。本講義では、子どもの発育・発達、運動機能や生理機能、心身の健康について説明し、子どもの生活行動と関連させながら健康の保持増進に必要な知識だけでなく、子どもによく見られる疾患事故の予防に必要な知識について概説する。

到達目標

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、実行できる。
2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解し、判断できる。
3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解し、実行できる。
4. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解し、具体的に説明できる

授業計画

【第1回】
テーマ：子どもの心身の健康と保健の意義
（1）生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
内容・方法：乳幼児の生命の保持、情緒の安定に必要な保健活動を説明する。
【第2回】
テーマ：子どもの心身の健康と保健の意義
（2）健康の概念と健康指標
内容・方法：乳幼児の健康の増進に必要な保健活動を説明する。
【第3回】
テーマ：子どもの心身の健康と保健の意義
（3）現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
内容・方法：現代社会における乳幼児の健康の現状と課題を説明する。
【第4回】
テーマ：子どもの心身の健康と保健の意義
（4）地域における保健活動と児童虐待防止
内容・方法：児童虐待の定義と虐待防止の保健活動を説明する。
【第5回】
テーマ：子どもの身体的発育・発達と保健
（1）身体発育及び運動機能の発達と保健
内容・方法：乳幼児の成長の意義と身体発育を説明する
【第6回】
テーマ：子どもの身体的発育・発達と保健
（2）生理機能の発達と保健
内容・方法：乳幼児の生理機能（循環・呼吸・代謝）の発達と保健を説明する。
【第7回】
テーマ：子どもの身体的発育・発達と保健
（3）生理機能の発達と保健
内容・方法：乳幼児の生理機能（消化・排泄・免疫機能）の発達と保健を説明する。
【第8回】
テーマ：子どもの心身の健康状態とその把握
（1）健康状態の観察
内容・方法：乳幼児の健康状態の観察方法を説明する。
【第9回】
テーマ：子どもの心身の健康状態とその把握
（2）発育・発達の把握と健康診断
内容・方法：乳幼児の発育・発達を説明する。
【第10回】
テーマ：子どもの心身の健康状態とその把握
（3）発育・発達の把握と健康診断
内容・方法：健康診断の方法とその結果から乳幼児の発育・発達の評価を説明する。
【第11回】
テーマ：子どもの心身の健康状態とその把握
（4）保護者との情報共有
内容・方法：乳幼児の心身の健康状態の把握における保護者との情報共有の重要性とその方法を説明する。
【第12回】
テーマ：子どもの疾病の予防及び適切な対応
（1）主な疾病の特徴
内容・方法：乳幼児の疾病の特徴を説明する。
【第13回】
テーマ：子どもの疾病の予防及び適切な対応

（2）子どもの疾病の予防と適切な対応
内容・方法：乳幼児の感染症や疾病の予防とその対応を説明する。
【第14回】
子どもの疾病の予防及び適切な対応
（3）子どもの疾病の予防と適切な対応
内容・方法：乳幼児の疾病予防における関連職種と他職種間の連携・協働の必要性を説明する。
【第15回】
テーマ：授業のまとめ
内容・方法：これまでの授業内容の復習と確認を行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】
①事前学習課題：参考書等で乳幼児の「健康」の概念について調べておく（２時間）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（２時間）。
【第2回】
①事前学習課題：参考書等で乳幼児の「健康」の概念について調べておく（２時間）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（２時間）。
【第3回】
①事前学習課題：参考書等で乳幼児の心身の健康について調べておく（２時間）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（２時間）。
【第4回】
①事前学習課題：参考書等で児童虐待について調べておく（２時間）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（２時間）。
【第5回】
①事前学習課題：参考書等で乳幼児の身体発育と運動機能の発達について調べておく（２時間）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（２時間）。
【第6回】
①事前学習課題：参考書等で乳幼児の生理機能の発達について調べておく（２時間）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（２時間）。
【第7回】
①事前学習課題：参考書等で乳幼児の生理機能の発達について調べておく（２時間）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（２時間）。
【第8回】
①事前学習課題：参考書等で健康状態の観察について調べておく（２時間）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（２時間）。
【第9回】
①事前学習課題：参考書等で健康状態の観察と健康診断について調べておく（２時間）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（２時間）。
【第10回】
①事前学習課題：参考書等で乳幼児の発育と発達の評価方法について調べておく（２時間）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（２時間）。
【第11回】
①事前学習課題：参考書等で乳幼児の心身の健康の把握における保護者との情報共有について調べておく（２時間）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（２時間）。
【第12回】
①事前学習課題：参考書等で乳幼児の主な疾病について調べておく（２時間）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（２時間）。
【第13回】
①事前学習課題：参考書等で乳幼児の疾病の予防と対応について調べておく（２時間）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（２時間）。
【第14回】
①事前学習課題：参考書等で乳幼児の疾病予防における多職種の連携・協働について調べておく（２時間）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（２時間）。
【第15回】
①事前学習課題：配布資料をよく読み、理解が不足している点を明らかにしておくこと（２時間）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（２時間）。

課題に対するフィードバックの方法

実施する課題について教室内で教員への提出直後に採点し、課題による学びは授業内で学生にフィードバックする。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は授業への取り組み状況・受講態度、課題及び定期試験に代わるレポートの総合的評価により判定のうえ、60点以上を合格とし所定の単位を認定する。

受講態度とは、授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度のことであり、総合的に評価する。
課題は、課題への取り組みと課題の提出により評価する。

授業への出席は、全体の2/3を必須とし、正当な理由なく6回以上欠席した場合は評価の対象とせず「K」評価とする。
なお、成績の評価は、授業の授業内評価やレポートを重視するため、欠席5回以下であっても所定の単位認定とならない場合がある。

30分以上の遅刻は欠席とし、3回の遅刻は1回の欠席とする。

授業の理解度を確認するためのレポートが未提出の場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への取り組み状況・態度(30)、課題(60)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	授業の理解度を確認するためのレポート(10)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 毎回の授業に必要な資料を配布する
参考書	子育て支援のための子ども保健学　中村肇監修　日本小児医事出版社　2,300円 子どもの保健　渡辺博編著　中山書店　2,100円 子どもの病気の地図帳　鴨下重彦・柳澤正義監修　講談社　4,200円 イラストによるお母さんへの子育てのアドバイスと育児相談　金子堅一郎・大塚親哉　南山堂　7,560円 イラストによるお母さんへの病気の説明と小児の診療　金子堅一郎・大塚親哉　南山堂　10,500円
履修条件・他の科目との関連	授業で配する資料について、授業を欠席した学生は申し出があった場合、個別的に対応をする。

授業コード	22051301	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	幼児と健康　［対面］				
シラバス執筆（全員）	織田　恵輔				
シラバス執筆（主）	織田　恵輔				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

この科目は幼稚園教育要領「健康」に示された専門的な知識と指導に関する基本的な内容を講義する。
特に、幼児期における運動機能の発育発達や子どもに起こりやすい外傷における応急処置法などを説明する。

到達目標

授業の到達目標及びテーマ
1. 健康の定義と乳幼児期の健康の意義を説明できる。
2. 乳幼児期の心身の発達、運動発達などの健康課題を説明できる。
3. 乳幼児の体の発達的特徴、それに応じた基本的な生活習慣の形成とその意義を説明できる。
4. 乳幼児期の運動発達の特徴、幼児期における動きの多様性の獲得とその意義を説明できる。
5. 幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を説明できる。
6. 幼児期の怪我の特徴、病気の予防、危険に関するリスクとハザードの違いと安全管理を説明できる。
7. 日常生活における幼児の動きの経験やその配慮など身体活動の在り方を説明できる。

授業計画

【第１回】領域「健康」とは
健康の定義と乳幼児における健康の意義、5領域の考え方と健康の内容およびねらいを解説
【第２回】乳幼児における発育発達について
乳幼児期における身体の発育発達、生理的機能の発育発達について解説
【第３回】乳幼児における生活習慣
正しい生活リズムの重要性とバランスが崩れた際の悪影響、生活習慣（食事や睡眠など）の発育発達について解説
【第４回】：免疫機能の発育発達
子どもの免疫力獲得における発育発達、免疫システムについて解説
【第５回】：保育現場でのリスクマネジメントについて
子どもに対する安全への配慮の重要性、安全管理の必要性を解説
【第６回】感染症や病気の予防・外傷の対応について
幼児期に発生しやすい病気や外傷（怪我）に対する基礎知識･予防法や応急処置法を解説
【第７回】：社会性の発育発達について
乳･幼児における社会性の発育発達や社会性を育てる方法について解説
【第８回】幼児期運動指針について
子どもにとっての遊び（多様な動き）とは、適正な遊びの内容や時間、その効果について解説

事前事後の学習

授業時間外で、計45時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】
①事前学修課題：子どもの健康において何が大事か自分の意見を述べるよう考えておく。
②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。
【第2回】
①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。
【第3回】
①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。
【第4回】
①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。
【第5回】
①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。
【第6回】
①事前学修課題：　事前配布資料を読んでおくこと。
②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。
【第7回】
①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。
【第8回】
①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対し、授業内で復習と合わせてコメントをする。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とする。
授業に対する取り組み(40%)、レポート（20%）、定期試験に代わるレポート(40%)

授業への出席は、全体の2/3を必須とし、3回以上欠席した場合は評価の対象とせず「K」評価とする。
なお、成績の評価は、授業内評価やレポートを重視するため、欠席2回以下であっても所定の単位認定とならない場合がある
授業の理解度を確認するためのレポートが未提出の場合は「K」評価とする。

30分以上の遅刻は欠席とし、3回の遅刻は1回の欠席とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業に対する取り組み	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
授業外での評価	20	レポート	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	レポート	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 毎回の授業ごとに資料の配布をCasroom上にアップロードする。
参考書	＊インターネットにてダウンロード可能 文部科学省「幼稚園教育要領」 厚生労働省「保育所保育指針」 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携認定こども園教育保育要領」
履修条件・他の科目との関連	授業を欠席した場合には、自己申請があった場合、授業で配布するプリントなどについて個別的に対応を行う

授業コード	22051401	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	幼児と人間関係　［対面］				
シラバス執筆(全員)	大塚　穂波				
シラバス執筆(主)	大塚　穂波				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

幼児園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいと内容に関する基礎的理論をふまえ、子どもが人とどのようにかかわりながら育つかについて概説する。また、現代の環境をふまえて人間関係の育ちを支える保育者の基本的態度や保育・幼児教育で保障すべき教育内容について説明する。

到達目標

1. 領域「人間関係」に関する基本的事項や乳幼児期の人間関係の発達について、各時期の発達の姿と合わせて説明することができる
2. 豊かな人間関係の育ちを支える援助方法について、集団の育ちの観点を含めて説明することができる

授業計画

第1回　イントロダクション：子どもを取り巻く環境と人間関係
第2回　3法令にみる人間関係：幼児期に育みたい資質・能力
第3回　人と関わる力の基礎の発達：アタッチメントの形成
第4回　人と関わる力の発達の様相　幼児期における人間関係の発達
第5回　保育の中で育つ人間関係(1)：3歳未満児（遊びを通した人間関係の広がり）
第6回　保育の中で育つ人間関係(2)：3歳以上児（イメージの共有，自己主張）
第7回　人間関係に着目した援助方法
第8回　人とのかかわりを支える保育者の役割

事前事後の学習

授業時間外で、計45時間の事前事後学習が必要です。

テキストの該当範囲を通読して授業内容を予習し、毎回の授業への取り組みについて自分なりの目標を決めること。また、授業後にはテキストおよびノートを活用して重要語句等を復習すること。

課題に対するフィードバックの方法

課題は授業内で解説する。また、レポート課題の結果については希望者に対して開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格として所定の単位を認定する。正当な理由がある場合を除き、出席が6回に満たない場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	課題の達成度(30%)、ワークシート(30%)	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	全授業終了後に実施するレポート	1, 2
その他	0		

テキスト	「人間関係(新・保育実践を支える)」成田　朋子(編著)，福村出版，2,310円，ISBM: 9784571116131
参考書	幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示　内閣府 文部科学省 厚生労働省)
履修条件・他の科目との関連	欠席した回もテキストを通読してワークに取り組み、内容を理解しておくこと。

授業コード	22051501	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	幼児と環境　［対面］				
シラバス執筆(全員)	古海　忍				
シラバス執筆(主)	古海　忍				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

領域「環境」の幼児教育における位置付けを知り、幼児を取り巻く環境の捉え方や現代的課題、発達との関わり、数量・図形、自然、標識・文字等、情報や施設など、幼児の身近な環境への関わり方について学ぶ。
講義形式で概説を行うとともに、学生の理解度を測り、学生同士の学び合いを意識しながら授業を進める。

到達目標

１．幼児の発達過程において幼児を取り巻く物的・人的・社会的環境や安全等の重要性を説明できる。
２．幼児と環境との関わり方について幼児の能動性や好奇心、探求心、有能感等などの専門的概念を交えて説明できる。
３．乳幼児期の認知的な発達の特徴を踏まえ、数量・図形、自然、標識・文字等、生活に深く関係する情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を説明できる。
４．知識基盤社会及び持続可能な開発のための教育（ESD）などの現代的課題について説明できる。

授業計画

第１回：幼児を取り巻く環境（物的・人的・社会的環境、安全等）
第２回：乳幼児期の認知的発達の特徴と発達における環境との関わり
第３回：乳幼児期の数量・図形との関わり
第４回：乳幼児の自然との関わり（幼児の生き物や自然への興味・関心、捉え方）
第５回：乳幼児の自然との関わり（自然物を使った遊び、飼育や栽培）
第６回：乳幼児の標識・文字等との関わり
第７回：乳幼児の情報・施設との関わり
第８回：現代的課題（知識基盤社会、ESD）
定期試験は実施せず、期末レポートを課す。

事前事後の学習

授業時間外で、計45時間の事前事後学習が必要です。

各授業で学んだ事項を復習し、実際の保育場面と関連づけながら自分の言葉で説明できるようにしておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

各授業内で行った課題については、Google Classroom 等を通じてコメントを付したり、授業内で振り返りを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

授業毎に授業内容を考えたり整理したりする課題を提示する。これらの内容と期末レポートを総合評価し、60点以上を合格とする。
成績評価にあたっては、期末レポートの提出を必須とする。提出されない場合は単位を認定しない（評価不能「K」）。
この授業は全８回の授業であるため、出席が６回に満たない場合は評価不能（K）となり、単位を認定することはできない。
なお、遅刻や早退は３回で欠席１回に換算するため、２回欠席２回遅刻または早退までは成績評価の対象とする。
ただし、成績評価の対象となっても欠席回数が多ければ合格点に達することは困難であるため、毎回の授業に出席し授業で出される課題を確実に提出することが求められる。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業中に記入するワークシート	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	期末レポート	1, 2, 3, 4

その他	0		

テキスト	新訂　事例で学ぶ保育内容 領域　環境 無藤隆　監修　福元真由美　編者代表 萌文書林 2000円＋税 978-4-89347-258-8
参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件・他の科目との関連	保育内容の指導法（環境）で実際の保育内容について学ぶための基礎となる。 他の4つの領域と重なり合いつつ、総合的に保育が実践されるため、「幼児と健康」、「幼児と人間関係」、「幼児と言葉」、「幼児と表現」と関連付けながら履修すること。 授業欠席者には Google Classroom による資料配信を行うので、内容をよく読み、課題については自身で取り組む。質問がある場合は s-furumi@oiu.jp までメールを送るか、オフィスアワー（月曜日、水曜日昼休み）に研究室まで質問にくること。オフィスアワーを利用する場合は、前日までにメールで相談してください。

授業コード	22051601	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	幼児と言葉　［対面］				
シラバス執筆（全員）	吉田　貴子				
シラバス執筆（主）	吉田　貴子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

言葉の獲得に関する領域「言葉」において、基礎となる専門事項である「言葉のもつ意義と機能」「言葉に対する感覚を豊かにする実践と児童文化財」についての概説する。
幼児の言葉の習得過程を理解し、言葉に対する感覚を豊かにする実践の在り方と教材について説明する。

到達目標

１．人間にとっての言葉の意義や機能を理解し、話し言葉や書き言葉などの意義と機能について説明できる。
２．乳幼児の言葉の発達過程と、言葉の機能への気付きについて説明できる。
３．言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解し、基礎的な知識を活かせる。
４．言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を、幼児の発達の姿と合わせて説明できる。
５．幼児にとっての児童文化財についての意義を理解し、基礎的な知識を活かせる。
６．幼児の発達における児童文化財（絵本、紙芝居、ペープサート、パネルシアター等）の意義について理解し、発達に適した児童文化財を考えることができる。

授業計画

第１回：言葉のもつ意義と機能
第２回：乳幼児の言葉の発達過程−誕生から書き言葉の習得まで
第３回：言葉に対する感覚を豊かにする実践−幼児の発達に合わせた保育者のコミュニケーション
第４回：言葉の楽しさや美しさに気付く実践とは−言葉遊びのいろいろと保育への取り入れ方
第５回：言葉を豊かにする実践−保育環境が与える影響
第６回：幼児にとっての児童文化財−言葉の育ちを促し、想像する楽しさを広げよう
第７回：言葉を育てる児童文化財の実際−種類や保育への取り入れ方
第８回：想像する楽しさを広げる児童文化財の実際−幼児と物語を読もう（模擬保育）

事前事後の学習

授業時間外で、計45時間の事前事後学習が必要です。

【第１回】
①事前学修課題：テキストで、言葉のもつ意義と機能に関する部分を読んでおくこと。
②事後学修課題：言葉のもつ意義について、自分の経験を踏まえて整理すること。
【第２回】
①事前学修課題：乳幼児の言葉の発達過程について、テキストで読んでおくこと。
②事後学修課題：言葉の発達過程をまとめ、年齢に合わせた特徴を理解すること。
【第３回】
①事前学修課題：発達に合わせた保育者のコミュニケーションとは何か、調べてみること。
②事後学修課題：発達に合わせた保育者の適切なコミュニケーションについて復習すること。
【第４回】
①事前学修課題：言葉遊びの種類についてテキストで確認すること。
②事後学修課題：保育で取り入れたい言葉遊びについてまとめ、実践の準備をすること。
【第５回】
①事前学修課題：保育環境と言葉の発達との関係について、テキストを読みながら考えること。
②事後学修課題：言葉の発達を促す理想の保育環境についてまとめること。
【第６回】
①事前学修課題：幼児にとっての児童文化財とは何か調べること。
②事後学修課題：授業で学んだ児童文化財について、各年齢に適した内容を考えること。
【第７回】
①事前学修課題：保育へ取り入れたい児童文化財を選び、具体的にイメージすること。
②事後学修課題：模擬保育に向けて準備すること。
【第８回】
①事前学修課題：模擬保育にむけて練習すること。
②事後学修課題：模擬保育を振り返り、改善点についてまとめること。

課題に対するフィードバックの方法

受け取った課題に、コメントを返してフィードバックし、その後の授業で説明する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	授業内での発表(30)、模擬保育 (20)、課題(30)	2, 4, 5, 6
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポート(20)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	谷田貝公昭・廣澤満之　編著（2018）『新版　実践保育内容シリーズ4　言葉』一藝社 ISBN　9784863591592　¥2,200
参考書	・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） ・幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府　文部科学省　厚生労働省）
履修条件・他の科目との関連	卒業必修であり、幼稚園教諭免許、保育士資格取得のために必要な科目である。 保育内容の指導法（言葉）と関連する科目である。講義で学んだことが、保育実践につながるように復習すること。 欠席者には、資料をGoogle Classroomに掲示する。

授業コード	22051701	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	幼児と表現　［対面］				
シラバス執筆(全員)	渡邊　詩子、玉井　久実代、作野　理恵				
シラバス執筆(主)	渡邊　詩子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

身体・造形・音楽表現など様々な表現の基礎的な知識および技能（手遊び等を含む）、幼児の感性や創造性を育むための表現遊びや環境構成などを説明する。
授業は各教員によるオムニバス形式中心で行う。

到達目標

1.幼児の表現する姿やその発達を理解し、説明することができる。
2.幼児の表現活動を支えるための感性を豊かにし、自分なりの表現を実践することができる。
3.協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。

授業計画

【第1回】授業概要「幼児と表現」の授業内容を理解する。　作野もしくは角地もしくは玉井もしくは渡邊
【第2回】身近な自然物に着目し、造形表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。　角地もしくは渡邊
【第3回】生活の中にあるものに目を向け、造形表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。　角地もしくは渡邊
【第4回】文化に関する表現に触れ、造形表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。　角地もしくは渡邊
【第5回】ドキュメンテーションを活用し、造形表現を中心とした総合的な表現活動の学びをまとめる。　角地もしくは渡邊
【第6回】身近な自然物に着目した、音楽表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。作野
【第7回】生活の中にあるものに目を向け、音楽表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。 作野
【第8回】文化に関する表現に触れ、音楽表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。　作野
【第9回】ドキュメンテーションを活用し、音楽表現を中心とした総合的な表現活動の学びをまとめる。作野
【第10回】身近な自然物に着目した、身体表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。　玉井
【第11回】生活の中にあるものに目を向け、身体表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。　玉井
【第12回】文化に関する表現に触れ、身体表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。　玉井
【第13回】ドキュメンテーションを活用し、身体表現を中心とした総合的な表現活動の学びをまとめる。玉井
【第14回】 ICTを活用して総合的な表現活動の発表準備を行う。　作野もしくは角地もしくは玉井もしくは渡邊
【第15回】 ICTを活用して総合的な表現活動の発表を行う。　作野もしくは角地もしくは玉井もしくは渡邊

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後学習をあわせて、1単位あたり45時間が必要です。
1回の授業につき、事前事後合わせて1時間以上の学習が必要です。

【第1回】
①事前学習課題：シラバスを確認する。
②事後学習課題：授業内容を確認する。
【第2～4回】
①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：学習したことを整理する。
【第5回】
①事前学習課題：第2～4回の授業を振り返り、発表資料作成の準備を行う。
②事後学習課題：第2～4回の総合表現の学びについて、整理する。
【第6～8回】
①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：学習したことを整理する。
【第9回】
①事前学習課題：第6～8回の授業を振り返り、発表資料作成の準備を行う。
②事後学習課題：第6～8回の総合表現の学びについて、整理する。
【第10～12回】
①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：学習したことを整理する。
【第13回】
①事前学習課題：第10～12回の授業を振り返り、発表資料作成の準備を行う
②事後学習課題：第10～12回の総合表現の学びについて、整理する。
【第14～15回】
①事前学習課題：幼児の総合表現について、総括の準備を行う。

②事後学習課題：幼児の総合表現について、学びの総括を整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、授業内やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。
3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。
定期試験に代わるレポートの提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	85	授業全体の学びに向かう過程の評価(75)、ポスター発表(10)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	レポート	1
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、資料の配布もしくはclassroomへの提示を行う。
参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件・他の科目との関連	卒業科目及び幼稚園教諭免許の必修科目である。 「保育内容の指導法（表現・総合）」に関連する授業である。 各回に必要な準備物や服装、および教室は担当教員に確認すること。 授業で用いる写真や動画等は、取り扱いに十分注意すること。 配当施設や進捗状況に応じて、授業計画を変更することがある。 欠席時に配布された資料は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22051703	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	幼児と表現　［対面］				
シラバス執筆(全員)	角地　佳子、玉井　久実代、作野　理恵				
シラバス執筆(主)	角地　佳子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

身体・造形・音楽表現など様々な表現の基礎的な知識および技能（手遊び等を含む）、幼児の感性や創造性を育むための表現遊びや環境構成などを説明する。
授業は各教員によるオムニバス形式中心で行う。

到達目標

1.幼児の表現する姿やその発達を理解し、説明することができる。
2.幼児の表現活動を支えるための感性を豊かにし、自分なりの表現を実践することができる。
3.協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。

授業計画

【第1回】授業概要「幼児と表現」の授業内容を理解する。　作野もしくは角地もしくは玉井もしくは渡邊
【第2回】身近な自然物に着目し、造形表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。　角地もしくは渡邊
【第3回】生活の中にあるものに目を向け、造形表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。　角地もしくは渡邊
【第4回】文化に関する表現に触れ、造形表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。　角地もしくは渡邊
【第5回】ドキュメンテーションを活用し、造形表現を中心とした総合的な表現活動の学びをまとめる。　角地もしくは渡邊
【第6回】身近な自然物に着目した、音楽表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。作野
【第7回】生活の中にあるものに目を向け、音楽表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。 作野
【第8回】文化に関する表現に触れ、音楽表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。　作野
【第9回】ドキュメンテーションを活用し、音楽表現を中心とした総合的な表現活動の学びをまとめる。作野
【第10回】身近な自然物に着目した、身体表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。　玉井
【第11回】生活の中にあるものに目を向け、身体表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。　玉井
【第12回】文化に関する表現に触れ、身体表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。　玉井
【第13回】ドキュメンテーションを活用し、身体表現を中心とした総合的な表現活動の学びをまとめる。玉井
【第14回】 ICTを活用して総合的な表現活動の発表準備を行う。　作野もしくは角地もしくは玉井もしくは渡邊
【第15回】 ICTを活用して総合的な表現活動の発表を行う。　作野もしくは角地もしくは玉井もしくは渡邊

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後学習をあわせて、1単位あたり45時間が必要です。
1回の授業につき、事前事後合わせて1時間以上の学習が必要です。

【第1回】
①事前学習課題：シラバスを確認する。
②事後学習課題：授業内容を確認する。
【第2～4回】
①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：学習したことを整理する。
【第5回】
①事前学習課題：第2～4回の授業を振り返り、発表資料作成の準備を行う。
②事後学習課題：第2～4回の総合表現の学びについて、整理する。
【第6～8回】
①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：学習したことを整理する。
【第9回】
①事前学習課題：第6～8回の授業を振り返り、発表資料作成の準備を行う。
②事後学習課題：第6～8回の総合表現の学びについて、整理する。
【第10～12回】
①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：学習したことを整理する。
【第13回】
①事前学習課題：第10～12回の授業を振り返り、発表資料作成の準備を行う
②事後学習課題：第10～12回の総合表現の学びについて、整理する。
【第14～15回】
①事前学習課題：幼児の総合表現について、総括の準備を行う。

②事後学習課題：幼児の総合表現について、学びの総括を整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、授業内やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。
3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。
定期試験に代わるレポートの提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	85	授業全体の学びに向かう過程の評価(75)、ポスター発表(10)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	レポート	1
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、資料の配布もしくはclassroomへの提示を行う。
参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件・他の科目との関連	卒業科目及び幼稚園教諭免許の必修科目である。 「保育内容の指導法（表現・総合）」に関連する授業である。 各回に必要な準備物や服装、および教室は担当教員に確認すること。 授業で用いる写真や動画等は、取り扱いに十分注意すること。 配当施設や進捗状況に応じて、授業計画を変更することがある。 欠席時に配布された資料は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22051801	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	音楽（基礎） a ［対面］				
シラバス執筆(全員)	作野　理恵、光本　諭史、西脇　恭子、福原　千織、大和　千穂、山内　由香				
シラバス執筆(主)	作野　理恵				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

本科目は1コマ内でピアノ実技レッスンと音楽理論講義を45分間ずつ受ける授業で、ピアノ・レッスンでは主に『バイエル』『ブルクミュラー』『ソナチネ』『ソナタ』を教材として使用しながらピアノ奏法・表現方法について説明をする。
ピアノは10本の指で同時に音を奏でることができ、多彩な音楽表現が可能な楽器である故に、保育・教育現場においても幅広く活用されている。その保育・教育現場で必要となる演奏技術・表現力・読譜力を養うことを目標とした指導を行う。また、保育現場で扱う幼児歌曲や生活の歌を取り上げ、弾き歌い技能を養う。

音楽理論授業においては、保育者が保育現場において音楽活動をする際に必要となる音楽の理論、並びに読譜に必要な知識を概説する。楽譜通りに演奏するために必要な知識を習得し、正確に演奏することが出来るようになることを目的とする。記譜法に始まり、西洋音楽の基礎である音階の成り立ちからハーモニーに至るまで幅広く説明する。テキストと並行して五線譜や鍵盤を用いながら実践することによりリズムを体感し、実際の演奏に役立てるようにする。

到達目標

ピアノ実技
１．基礎教材曲、幼児歌曲の読譜ができる
２．正しい運指で演奏することができる
３．手、腕が脱力した状態で演奏できる
４．基礎教材曲を暗譜で演奏することができる
５．曲調に合った演奏表現ができる
６．幼児歌曲の弾きうたいができる
７．課題曲の予習・復習ができている

音楽理論
1. 五線譜上の音を読むことができる
2. 記譜されている音符のリズムを正確に打つことができる
3. 簡易な音程を判断できる
4. 簡易なコードを演奏することができる
5. 演奏記号について説明できる
6. 記譜通りに演奏することができる

授業計画

ピアノ実技
【第1回】
テーマ：授業のガイダンス
内容・方法：授業の進め方、概要の説明

（以下は習得のモデルである。課題曲は個々に指定する。）
【第2回】
テーマ：ピアノ・レッスン①
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル 8番、12番
　　弾きうたい　ちょうちょう
【第3回】
テーマ：ピアノ・レッスン②
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル8番、12番、15番
　　弾きうたい　ちょうちょう
【第4回】
テーマ：ピアノ・レッスン③
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル15番、18番、25番
　　弾きうたい　チューリップ
【第5回】
テーマ：ピアノ・レッスン④
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル18番、25番、29番
　　弾きうたい　チューリップ
【第6回】
テーマ：ピアノ・レッスン⑤
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル29番、31番、39番
　　弾きうたい　ぶんぶんぶん
【第7回】
テーマ：ピアノ・レッスン⑥
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル31番、39番、46番

弾きうたい　ぶんぶんぶん
【第8回】
テーマ：ピアノ・レッスン⑦
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル46番、58番
弾きうたい　ぶんぶんぶん
【第9回】
テーマ：ピアノ・レッスン⑧
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル58番、音階
弾きうたい　かたつむり
【第10回】
テーマ：ピアノ・レッスン⑨
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル59番、60番
弾きうたい　かたつむり
【第11回】
テーマ：ピアノ・レッスン⑩
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル60番、66番
弾きうたい　かたつむり
【第12回】
テーマ：ピアノ・レッスン⑪
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル66番、78番
弾きうたい　きらきらぼし
【第13回】
テーマ：ピアノ・レッスン⑫
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル78番、81番
弾きうたい　きらきらぼし
【第14回】
テーマ：ピアノ・レッスン⑬＋リハーサル
内容・方法：学期末演奏発表に向けてピアノ基礎教材曲、弾きうたい幼児歌曲各1曲ずつの授業内リハーサル
【第15回】
テーマ：ピアノ基礎教材曲と弾きうたい幼児歌曲の演奏発表、及び前期のふり返り
内容・方法：ピアノ基礎教材曲・弾き歌い曲を仕上げ、リハーサル等により実技定期試験に備える。
【定期試験】
2曲の演奏発表後に振り返りを行い、次の課題を選定する。

音楽理論
【第1回】
テーマ：五線と音の長さ
内容・方法：五線の名前、加線、代表的な音部記号、オクターブ記号、例題と解説
【第2回】
テーマ：音名と変化記号
内容・方法：白鍵、黒鍵、♯と♭、変化記号、異名同音、例題と解説
【第3回】
テーマ：音符と休符１
内容・方法：音符の名前、音符と休符の種類　例題と解説
【第4回】
テーマ：音符と休符２
内容・方法：付点音符と休符、複付点音符、3連符、例題と解説
【第5回】
テーマ：拍子1
内容・方法：拍と拍子、拍子記号、拍子の種類、例題と解説
【第6回】
テーマ：拍子2
内容・方法：強拍と弱拍、シンコペーション、アウフタクト、例題と解説
【第7回】
テーマ：記号と楽語1
内容・方法：強弱記号、速度標語、メトロノーム記号、発想標語、例題と解説
【第8回】
テーマ：記号と楽語2
内容・方法：アーティキュレーション、装飾音と略記法、くり返し記号、例題と解説
【第9回】
テーマ：音程1
内容・方法：音程の度数、音程の種類、例題と解説
【第10回】
テーマ：音程2
内容・方法：更に詳しい音程の種類と見分け方、例題と解説
【第11回】
テーマ：音階１
内容・方法：長音階、短音階、例題と解説
【第12回】
テーマ：音階2
内容・方法：近親調、転調と移調、いろいろな音階、例題と解説
【第13回】
テーマ：和音1
内容・方法：和音の種類、三和音の種類、例題と解説
【第14回】
テーマ：和音2

内容・方法：コードネーム、七の和音、基本形と転回形、例題と解説
【第15回】
テーマ：まとめと確認
内容・方法：総復習として学んだことのまとめ確認、そしてその解説を行う。
【定期試験】
音楽理論筆記試験の実施

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

ピアノ実技
授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。
授業と事前事後の合わせて1単位あたり45時間必要である。
【第1回】
①事前学修課題：シラバスを読んでおくこと。入学前に練習した課題の曲を練習しておくこと。
②事後学修課題：授業で受けた指導をもとに復習する。
【第2回～第11回】
①事前学修課題：課題曲の読譜を行う。運指にも配慮して授業までに練習しておくこと。
②事後学修課題：授業で受けた指導をもとに復習する。
【第12回～14回】
①事前学修課題：課題曲を練習して、授業・発表に備える。
②事後学修課題：授業で受けた曲を復習し、仕上げる。
【第15回】
①事前学修課題：課題曲の演奏発表。
②事後学修課題：学期のふりかえりを行う。

音楽理論
授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後の合わせて1単位あたり45時間が必要である。
知識として理解した後に実際に音を出してみることが大切である。従って毎回の授業前にテキストをよく読み、授業後は学んだことをピアノ等の鍵盤楽器を用いて実際に確認することが必要となるため、各回につき事前・事後合わせて4時間程度の学習が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

ピアノ実技
各回のレッスンで指導された内容が反映されて演奏できているか、翌週のレッスンで確認する。

音楽理論
毎回、授業内・外で確認のための課題を実施する。それを元に次回の授業で解説するゆえ、自己採点と復習に役立てるように。

成績評価の方法･基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

ピアノ実技
学期末試験でのピアノ基礎教材課題曲暗譜演奏を評価する。
幼児歌曲の弾き歌いを評価する。
毎回の予習・復習と課題曲への取り組み状況を評価する。
曲調に合った演奏ができているか評価する。
授業はマンツーマンのレッスン形式で一人ずつ順番に行うが、遅刻・欠席をしないよう気をつけること。３回遅刻した場合を１回の欠席とする。１５分以上遅刻した場合は欠席とみなす。
授業開始時間から15分迄を遅刻とする。
正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

音楽理論
以下に示す通り、授業内・外での課題取り組み状況と、定期試験の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とする。
正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

ピアノ実技、音楽理論の授業内外評価＋試験の総合点で、それぞれに60点以上を取ることで所定の単位を認定する。
乃ち100点満点中、ピアノ50点、音楽理論50点で、各30点以上の合計点を必要とする。
但し、ピアノ実技定期試験を受けない場合は「K」評価となる。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法･割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	ピアノ実技 授業内における課題曲の取り組み姿勢 （10） 音楽理論 授業内で出される課題の取り組み状況(25)	ピアノ実技1, 2, 3, 4, 5, 6 音楽理論1, 2, 3, 4, 5, 6

授業外での評価	10	ピアノ実技 課題曲の予習・復習（10）	ピアノ実技7音楽理論4, 6
定期試験	55	ピアノ実技 定期試験（基礎教材曲1曲　幼児歌曲1曲）（30） 音楽理論 定期試験（25）	ピアノ実技2, 3, 4, 5, 6音楽理論1, 2, 3, 5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	ピアノ実技 『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』大阪国際大学短期大学部発行/カワイ出版製作（購入不要） 『最新・幼児の音楽教育　改訂版』/井口太編著/朝日出版社　/ 978-4-255-15725-2　2750円 　基礎教材の『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』を習得した場合は、それぞれの能力に応じた課題を個人レスナーより指示する。 音楽理論 『実践　大人のための音楽ワーク　テキスト』　　ヤマハミュージックメディア ISBN4-636-80155-5　　1210円
参考書	必要に応じて紹介、配付する。
履修条件・他の科目との関連	ピアノ実技 全音楽関係科目履修時にピアノは基本となる楽器である故、与えられた課題を意欲的に練習し、理解・向上に努める。 音楽理論 五線紙を持参する。（課題を提出して貰うことがあるので、五線紙は切り離せるものが便利である。） 本授業内容を理解することにより、楽器演奏の際の読譜力、及び他の音楽科目における技術習得がスムーズに行えるようになる故、真摯に取り組むこと。

授業コード	22051802	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	音楽（基礎） a ［対面］				
シラバス執筆(全員)	作野　理恵、光本　諭史、西脇　恭子、福原　千織、大和　千穂、山内　由香				
シラバス執筆(主)	作野　理恵				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

本科目は1コマ内でピアノ実技レッスンと音楽理論講義を45分間ずつ受ける授業で、ピアノ・レッスンでは主に『バイエル』『ブルクミュラー』『ソナチネ』『ソナタ』を教材として使用しながらピアノ奏法・表現方法について説明をする。
ピアノは10本の指で同時に音を奏でることができ、多彩な音楽表現が可能な楽器である故に、保育・教育現場においても幅広く活用されている。その保育・教育現場で必要となる演奏技術・表現力・読譜力を養うことを目標とした指導を行う。また、保育現場で扱う幼児歌曲や生活の歌を取り上げ、弾き歌い技能を養う。

音楽理論授業においては、保育者が保育現場において音楽活動をする際に必要となる音楽の理論、並びに読譜に必要な知識を概説する。楽譜通りに演奏するために必要な知識を習得し、正確に演奏することが出来るようになることを目的とする。記譜法に始まり、西洋音楽の基礎である音階の成り立ちからハーモニーに至るまで幅広く説明する。テキストと並行して五線譜や鍵盤を用いながら実践することによりリズムを体感し、実際の演奏に役立てるようにする。

到達目標

ピアノ実技
１．基礎教材曲、幼児歌曲の読譜ができる
２．正しい運指で演奏することができる
３．手、腕が脱力した状態で演奏できる
４．基礎教材曲を暗譜で演奏することができる
５．曲調に合った演奏表現ができる
６．幼児歌曲の弾きうたいができる
７．課題曲の予習・復習ができている

音楽理論
1. 五線譜上の音を読むことができる
2. 記譜されている音符のリズムを正確に打つことができる
3. 簡易な音程を判断できる
4. 簡易なコードを演奏することができる
5. 演奏記号について説明できる
6. 記譜通りに演奏することができる

授業計画

ピアノ実技
【第1回】
テーマ：授業のガイダンス
内容・方法：授業の進め方、概要の説明

（以下は習得のモデルである。課題曲は個々に指定する。）
【第2回】
テーマ：ピアノ・レッスン①
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル 8番、12番
　　弾きうたい　ちょうちょう
【第3回】
テーマ：ピアノ・レッスン②
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル8番、12番、15番
　　弾きうたい　ちょうちょう
【第4回】
テーマ：ピアノ・レッスン③
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル15番、18番、25番
　　弾きうたい　チューリップ
【第5回】
テーマ：ピアノ・レッスン④
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル18番、25番、29番
　　弾きうたい　チューリップ
【第6回】
テーマ：ピアノ・レッスン⑤
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル29番、31番、39番
　　弾きうたい　ぶんぶんぶん
【第7回】
テーマ：ピアノ・レッスン⑥
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル31番、39番、46番

弾きうたい　ぶんぶんぶん
【第8回】
テーマ：ピアノ・レッスン⑦
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル46番、58番
弾きうたい　ぶんぶんぶん
【第9回】
テーマ：ピアノ・レッスン⑧
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル58番、音階
弾きうたい　かたつむり
【第10回】
テーマ：ピアノ・レッスン⑨
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル59番、60番
弾きうたい　かたつむり
【第11回】
テーマ：ピアノ・レッスン⑩
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル60番、66番
弾きうたい　かたつむり
【第12回】
テーマ：ピアノ・レッスン⑪
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル66番、78番
弾きうたい　きらきらぼし
【第13回】
テーマ：ピアノ・レッスン⑫
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル78番、81番
弾きうたい　きらきらぼし
【第14回】
テーマ：ピアノ・レッスン⑬＋リハーサル
内容・方法：学期末演奏発表に向けてピアノ基礎教材曲、弾きうたい幼児歌曲各1曲ずつの授業内リハーサル
【第15回】
テーマ：ピアノ基礎教材曲と弾きうたい幼児歌曲の演奏発表、及び前期のふり返り
内容・方法：ピアノ基礎教材曲・弾き歌い曲を仕上げ、リハーサル等により実技定期試験に備える。
【定期試験】
2曲の演奏発表後に振り返りを行い、次の課題を選定する。

音楽理論
【第1回】
テーマ：五線と音の長さ
内容・方法：五線の名前、加線、代表的な音部記号、オクターブ記号、例題と解説
【第2回】
テーマ：音名と変化記号
内容・方法：白鍵、黒鍵、♯と♭、変化記号、異名同音、例題と解説
【第3回】
テーマ：音符と休符１
内容・方法：音符の名前、音符と休符の種類　例題と解説
【第4回】
テーマ：音符と休符２
内容・方法：付点音符と休符、複付点音符、3連符、例題と解説
【第5回】
テーマ：拍子1
内容・方法：拍と拍子、拍子記号、拍子の種類、例題と解説
【第6回】
テーマ：拍子2
内容・方法：強拍と弱拍、シンコペーション、アウフタクト、例題と解説
【第7回】
テーマ：記号と楽語1
内容・方法：強弱記号、速度標語、メトロノーム記号、発想標語、例題と解説
【第8回】
テーマ：記号と楽語2
内容・方法：アーティキュレーション、装飾音と略記法、くり返し記号、例題と解説
【第9回】
テーマ：音程1
内容・方法：音程の度数、音程の種類、例題と解説
【第10回】
テーマ：音程2
内容・方法：更に詳しい音程の種類と見分け方、例題と解説
【第11回】
テーマ：音階１
内容・方法：長音階、短音階、例題と解説
【第12回】
テーマ：音階2
内容・方法：近親調、転調と移調、いろいろな音階、例題と解説
【第13回】
テーマ：和音1
内容・方法：和音の種類、三和音の種類、例題と解説
【第14回】
テーマ：和音2

内容・方法：コードネーム、七の和音、基本形と転回形、例題と解説
【第15回】
テーマ：まとめと確認
内容・方法：総復習として学んだことのまとめ確認、そしてその解説を行う。
【定期試験】
音楽理論筆記試験の実施

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

ピアノ実技
授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。
授業と事前事後の合わせて1単位あたり45時間必要である。
【第1回】
①事前学修課題：シラバスを読んでおくこと。入学前に練習した課題の曲を練習しておくこと。
②事後学修課題：授業で受けた指導をもとに復習する。
【第2回～第11回】
①事前学修課題：課題曲の読譜を行う。運指にも配慮して授業までに練習しておくこと。
②事後学修課題：授業で受けた指導をもとに復習する。
【第12回～14回】
①事前学修課題：課題曲を練習して、授業・発表に備える。
②事後学修課題：授業で受けた曲を復習し、仕上げる。
【第15回】
①事前学修課題：課題曲の演奏発表。
②事後学修課題：学期のふりかえりを行う。

音楽理論
授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後の合わせて1単位あたり45時間が必要である。
知識として理解した後に実際に音を出してみることが大切である。従って毎回の授業前にテキストをよく読み、授業後は学んだことをピアノ等の鍵盤楽器を用いて実際に確認することが必要となるため、各回につき事前・事後合わせて4時間程度の学習が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

ピアノ実技
各回のレッスンで指導された内容が反映されて演奏できているか、翌週のレッスンで確認する。

音楽理論
毎回、授業内・外で確認のための課題を実施する。それを元に次回の授業で解説するゆえ、自己採点と復習に役立てるように。

成績評価の方法･基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

ピアノ実技
学期末試験でのピアノ基礎教材課題曲暗譜演奏を評価する。
幼児歌曲の弾き歌いを評価する。
毎回の予習・復習と課題曲への取り組み状況を評価する。
曲調に合った演奏ができているか評価する。
授業はマンツーマンのレッスン形式で一人ずつ順番に行うが、遅刻・欠席をしないよう気をつけること。３回遅刻した場合を１回の欠席とする。１５分以上遅刻した場合は欠席とみなす。
授業開始時間から15分迄を遅刻とする。
正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

音楽理論
以下に示す通り、授業内・外での課題取り組み状況と、定期試験の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とする。
正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

ピアノ実技、音楽理論の授業内外評価＋試験の総合点で、それぞれに60点以上を取ることで所定の単位を認定する。
乃ち100点満点中、ピアノ50点、音楽理論50点で、各30点以上の合計点を必要とする。
但し、ピアノ実技定期試験を受けない場合は「K」評価となる。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法･割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	ピアノ実技 授業内における課題曲の取り組み姿勢 （10） 音楽理論 授業内で出される課題の取り組み状況(25)	ピアノ実技1, 2, 3, 4, 5, 6 音楽理論1, 2, 3, 4, 5, 6

授業外での評価	10	ピアノ実技 課題曲の予習・復習（10）	ピアノ実技7音楽理論4, 6
定期試験	55	ピアノ実技 定期試験（基礎教材曲1曲　幼児歌曲1曲）（30） 音楽理論 定期試験（25）	ピアノ実技2, 3, 4, 5, 6音楽理論1, 2, 3, 5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	ピアノ実技 『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』大阪国際大学短期大学部発行/カワイ出版製作（購入不要） 『最新・幼児の音楽教育　改訂版』/井口太編著/朝日出版社　/ 978-4-255-15725-2　2750円 　基礎教材の『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』を習得した場合は、それぞれの能力に応じた課題を個人レスナーより指示する。 音楽理論 『実践　大人のための音楽ワーク　テキスト』　　ヤマハミュージックメディア ISBN4-636-80155-5　　1210円
参考書	必要に応じて紹介、配付する。
履修条件・他の科目との関連	ピアノ実技 全音楽関係科目履修時にピアノは基本となる楽器である故、与えられた課題を意欲的に練習し、理解・向上に努める。 音楽理論 五線紙を持参する。（課題を提出して貰うことがあるので、五線紙は切り離せるものが便利である。） 本授業内容を理解することにより、楽器演奏の際の読譜力、及び他の音楽科目における技術習得がスムーズに行えるようになる故、真摯に取り組むこと。

授業コード	22051803	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	音楽（基礎） a ［対面］				
シラバス執筆(全員)	作野　理恵、光本　諭史、寺見　香織、山手　敦子、安部　り麻、蜂谷　葉子				
シラバス執筆(主)	作野　理恵				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

本科目は1コマ内でピアノ実技レッスンと音楽理論講義を45分間ずつ受ける授業で、ピアノ・レッスンでは主に『バイエル』『ブルクミュラー』『ソナチネ』『ソナタ』を教材として使用しながらピアノ奏法・表現方法について説明をする。
ピアノは10本の指で同時に音を奏でることができ、多彩な音楽表現が可能な楽器である故に、保育・教育現場においても幅広く活用されている。その保育・教育現場で必要となる演奏技術・表現力・読譜力を養うことを目標とした指導を行う。また、保育現場で扱う幼児歌曲や生活の歌を取り上げ、弾き歌い技能を養う。

音楽理論授業においては、保育者が保育現場において音楽活動をする際に必要となる音楽の理論、並びに読譜に必要な知識を概説する。楽譜通りに演奏するために必要な知識を習得し、正確に演奏することが出来るようになることを目的とする。記譜法に始まり、西洋音楽の基礎である音階の成り立ちからハーモニーに至るまで幅広く説明する。テキストと並行して五線譜や鍵盤を用いながら実践することによりリズムを体感し、実際の演奏に役立てるようにする。

到達目標

ピアノ実技
１．基礎教材曲、幼児歌曲の読譜ができる
２．正しい運指で演奏することができる
３．手、腕が脱力した状態で演奏できる
４．基礎教材曲を暗譜で演奏することができる
５．曲調に合った演奏表現ができる
６．幼児歌曲の弾きうたいができる
７．課題曲の予習・復習ができている

音楽理論
1. 五線譜上の音を読むことができる
2. 記譜されている音符のリズムを正確に打つことができる
3. 簡易な音程を判断できる
4. 簡易なコードを演奏することができる
5. 演奏記号について説明できる
6. 記譜通りに演奏することができる

授業計画

ピアノ実技
【第1回】
テーマ：授業のガイダンス
内容・方法：授業の進め方、概要の説明

（以下は習得のモデルである。課題曲は個々に指定する。）
【第2回】
テーマ：ピアノ・レッスン①
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル 8番、12番
　　弾きうたい　ちょうちょう
【第3回】
テーマ：ピアノ・レッスン②
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル8番、12番、15番
　　弾きうたい　ちょうちょう
【第4回】
テーマ：ピアノ・レッスン③
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル15番、18番、25番
　　弾きうたい　チューリップ
【第5回】
テーマ：ピアノ・レッスン④
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル18番、25番、29番
　　弾きうたい　チューリップ
【第6回】
テーマ：ピアノ・レッスン⑤
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル29番、31番、39番
　　弾きうたい　ぶんぶんぶん
【第7回】
テーマ：ピアノ・レッスン⑥
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル31番、39番、46番

弾きうたい　ぶんぶんぶん
【第8回】
テーマ：ピアノ・レッスン⑦
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル46番、58番
弾きうたい　ぶんぶんぶん
【第9回】
テーマ：ピアノ・レッスン⑧
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル58番、音階
弾きうたい　かたつむり
【第10回】
テーマ：ピアノ・レッスン⑨
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル59番、60番
弾きうたい　かたつむり
【第11回】
テーマ：ピアノ・レッスン⑩
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル60番、66番
弾きうたい　かたつむり
【第12回】
テーマ：ピアノ・レッスン⑪
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル66番、78番
弾きうたい　きらきらぼし
【第13回】
テーマ：ピアノ・レッスン⑫
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル78番、81番
弾きうたい　きらきらぼし
【第14回】
テーマ：ピアノ・レッスン⑬＋リハーサル
内容・方法：学期末演奏発表に向けてピアノ基礎教材曲、弾きうたい幼児歌曲各1曲ずつの授業内リハーサル
【第15回】
テーマ：ピアノ基礎教材曲と弾きうたい幼児歌曲の演奏発表、及び前期のふり返り
内容・方法：ピアノ基礎教材曲・弾き歌い曲を仕上げ、リハーサル等により実技定期試験に備える。
【定期試験】
2曲の演奏発表後に振り返りを行い、次の課題を選定する。

音楽理論
【第1回】
テーマ：五線と音の長さ
内容・方法：五線の名前、加線、代表的な音部記号、オクターブ記号、例題と解説
【第2回】
テーマ：音名と変化記号
内容・方法：白鍵、黒鍵、♯と♭、変化記号、異名同音、例題と解説
【第3回】
テーマ：音符と休符１
内容・方法：音符の名前、音符と休符の種類　例題と解説
【第4回】
テーマ：音符と休符２
内容・方法：付点音符と休符、複付点音符、3連符、例題と解説
【第5回】
テーマ：拍子1
内容・方法：拍と拍子、拍子記号、拍子の種類、例題と解説
【第6回】
テーマ：拍子2
内容・方法：強拍と弱拍、シンコペーション、アウフタクト、例題と解説
【第7回】
テーマ：記号と楽語1
内容・方法：強弱記号、速度標語、メトロノーム記号、発想標語、例題と解説
【第8回】
テーマ：記号と楽語2
内容・方法：アーティキュレーション、装飾音と略記法、くり返し記号、例題と解説
【第9回】
テーマ：音程1
内容・方法：音程の度数、音程の種類、例題と解説
【第10回】
テーマ：音程2
内容・方法：更に詳しい音程の種類と見分け方、例題と解説
【第11回】
テーマ：音階１
内容・方法：長音階、短音階、例題と解説
【第12回】
テーマ：音階2
内容・方法：近親調、転調と移調、いろいろな音階、例題と解説
【第13回】
テーマ：和音1
内容・方法：和音の種類、三和音の種類、例題と解説
【第14回】
テーマ：和音2

内容・方法：コードネーム、七の和音、基本形と転回形、例題と解説
【第15回】
テーマ：まとめと確認
内容・方法：総復習として学んだことのまとめ確認、そしてその解説を行う。
【定期試験】
音楽理論筆記試験の実施

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

ピアノ実技
授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。
授業と事前事後の合わせて1単位あたり45時間必要である。
【第1回】
①事前学修課題：シラバスを読んでおくこと。入学前に練習した課題の曲を練習しておくこと。
②事後学修課題：授業で受けた指導をもとに復習する。
【第2回～第11回】
①事前学修課題：課題曲の読譜を行う。運指にも配慮して授業までに練習しておくこと。
②事後学修課題：授業で受けた指導をもとに復習する。
【第12回～14回】
①事前学修課題：課題曲を練習して、授業・発表に備える。
②事後学修課題：授業で受けた曲を復習し、仕上げる。
【第15回】
①事前学修課題：課題曲の演奏発表。
②事後学修課題：学期のふりかえりを行う。

音楽理論
授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後の合わせて1単位あたり45時間が必要である。
知識として理解した後に実際に音を出してみることが大切である。従って毎回の授業前にテキストをよく読み、授業後は学んだことをピアノ等の鍵盤楽器を用いて実際に確認することが必要となるため、各回につき事前・事後合わせて4時間程度の学習が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

ピアノ実技
各回のレッスンで指導された内容が反映されて演奏できているか、翌週のレッスンで確認する。

音楽理論
毎回、授業内・外で確認のための課題を実施する。それを元に次回の授業で解説するゆえ、自己採点と復習に役立てるように。

成績評価の方法･基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

ピアノ実技
学期末試験でのピアノ基礎教材課題曲暗譜演奏を評価する。
幼児歌曲の弾き歌いを評価する。
毎回の予習・復習と課題曲への取り組み状況を評価する。
曲調に合った演奏ができているか評価する。
授業はマンツーマンのレッスン形式で一人ずつ順番に行うが、遅刻・欠席をしないよう気をつけること。３回遅刻した場合を１回の欠席とする。１５分以上遅刻した場合は欠席とみなす。
授業開始時間から15分迄を遅刻とする。
正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

音楽理論
以下に示す通り、授業内・外での課題取り組み状況と、定期試験の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とする。
正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

ピアノ実技、音楽理論の授業内外評価＋試験の総合点で、それぞれに60点以上を取ることで所定の単位を認定する。
乃ち100点満点中、ピアノ50点、音楽理論50点で、各30点以上の合計点を必要とする。
但し、ピアノ実技定期試験を受けない場合は「K」評価となる。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法･割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	ピアノ実技 授業内における課題曲の取り組み姿勢 （10） 音楽理論 授業内で出される課題の取り組み状況(25)	ピアノ実技1, 2, 3, 4, 5, 6 音楽理論1, 2, 3, 4, 5, 6

授業外での評価	10	ピアノ実技 課題曲の予習・復習（10）	ピアノ実技7音楽理論4, 6
定期試験	55	ピアノ実技 定期試験（基礎教材曲1曲　幼児歌曲1曲）（30） 音楽理論 定期試験（25）	ピアノ実技2, 3, 4, 5, 6音楽理論1, 2, 3, 5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	ピアノ実技 『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』大阪国際大学短期大学部発行/カワイ出版製作（購入不要） 『最新・幼児の音楽教育　改訂版』/井口太編著/朝日出版社　/ 978-4-255-15725-2　2750円 　基礎教材の『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』を習得した場合は、それぞれの能力に応じた課題を個人レスナーより指示する。 音楽理論 『実践　大人のための音楽ワーク　テキスト』　　ヤマハミュージックメディア ISBN4-636-80155-5　　1210円
参考書	必要に応じて紹介、配付する。
履修条件・他の科目との関連	ピアノ実技 全音楽関係科目履修時にピアノは基本となる楽器である故、与えられた課題を意欲的に練習し、理解・向上に努める。 音楽理論 五線紙を持参する。（課題を提出して貰うことがあるので、五線紙は切り離せるものが便利である。） 本授業内容を理解することにより、楽器演奏の際の読譜力、及び他の音楽科目における技術習得がスムーズに行えるようになる故、真摯に取り組むこと。

授業コード	22051901	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	音楽（基礎）ｂ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	作野　理恵、寺見　香織、内海　由美子、佐々木　聡子、錦見　朋子、蜂谷　葉子				
シラバス執筆(主)	作野　理恵				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

本科目は、1コマ内でピアノ実技レッスンとソルフェージュ(歌唱)指導を45分間ずつ受ける授業であり、ピアノ・レッスンにおいては「音楽基礎a」で習得したピアノ奏法・表現方法を更に深化・進歩させた内容について説明・実施をする。
保育・教育現場で必要となる演奏技術・表現力・読譜力を養うことを目標とした指導を行う。また、保育現場で扱う幼児歌曲や生活の歌の内、更に難易度の高い楽曲を取り上げ、弾うたいができる能力を養う。
教材としては引き続バイエル、ブルクミュラー、ソナチネ、ソナタ等を使用する。

ソルフェージュ学習においては、乳幼児の音楽教育に関わる際に必要とされている音楽についての基礎知識、及び保育者自身の豊かな音楽的感性と音楽的能力(技能)の習得・養成を目的としている。本学習では、保育現場で必要とされる音楽表現のための基礎技能について指導し、教材の活用および作成、並びに保育の環境構成及び具体的展開方法について概説する。更に子どもの生活とあそびを豊かに展開する音楽表現方法を習得することを目的とする。
授業概要としては、発声法および保育現場で歌われる「こどものうた」について、講義、範唱の鑑賞および実践を通して学習を行い、保育者に求められる歌唱の基礎力を養成する。また、弾き歌い時の発声に関する学習および合唱、アンサンブルの実践など、保育現場における歌唱活動に役立つ応用力についても習得を目指す。

到達目標

ピアノ実技
１．基礎教材曲、幼児歌曲の読譜ができる
２．正しい運指で演奏することができる
３．手、腕が脱力した状態で演奏できる
４．基礎教材曲を暗譜で演奏することができる
５．曲調に合った演奏表現ができる
６．幼児歌曲の弾き歌いができる
７．課題曲の予習・復習ができている

ソルフェージュ
１．豊かな音楽的感性を身につけ、保育現場に還元できる。
２．保育現場で必要とされる歌唱・伴奏付け・ソルフェージュの基礎的知識を演奏に反映できる。
３．合唱やアンサンブルなどを通して調和のとれた響きを体感し演奏することができる。
４．各年次の子どもへの音楽指導計画に基づき指導することができる。
５．子どもへの適切な言葉掛けができる。
６．指導者として必要な音楽の知識を説明できる。

授業計画

ピアノ実技
(以下は学習モデルであり、個別進度により内容が変わることがある。)
【第1回】
テーマ：ピアノレッスン①
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル　88番、90番
　　弾きうたい　おべんとう
【第2回】
テーマ：ピアノレッス②
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル　90番、91番
　　弾きうたい　おべんとう
【第3回】
テーマ：ピアノレッスン③
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル　91番、94番
　　弾きうたい　うんどうかい
【第4回】
テーマ：ピアノレッスン④
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル　94番、96番
　　弾きうたい　うんどうかい
【第5回】
テーマ：ピアノレッスン⑤
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル　96番、102番
　　弾きうたい　大きなくりの木の下で
【第6回】
テーマ：ピアノレッスン⑥
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル　102番、保育に使える効果音
　　弾きうたい　大きなくりの木の下で

【第7回】
テーマ：ピアノレッスン⑦
内容・方法：ピアノ基礎教材　ブルクミュラー　素直な心
　　弾きうたい　こぎつね
【第8回】
テーマ：ピアノレッスン⑧
内容・方法：ピアノ基礎教材　ブルクミュラー　素直な心
　　弾きうたい　こぎつね
【第9回】
テーマ：ピアノレッスン⑨
内容・方法：ピアノ基礎教材　ブルクミュラー　アラベスク
　　弾きうたい　おかえりのうた
【第10回】
テーマ：ピアノレッスン⑩
内容・方法：ピアノ基礎教材　ブルクミュラー　アラベスク
　　弾きうたい　おかえりのうた
【第11回】
テーマ：ピアノレッスン⑪
内容・方法：ピアノ基礎教材　ブルクミュラー　バラード
　　弾きうたい　お正月
【第12回】
テーマ：ピアノレッスン⑫
内容・方法：ピアノ基礎教材　ブルクミュラー　バラード
　　弾きうたい　お正月
【第13回】
テーマ：ピアノレッスン⑬
内容・方法：ピアノ基礎教材　ブルクミュラー　貴婦人の乗馬
　　弾きうたい　まめまき
【第14回】
テーマ：ピアノレッス⑭
内容・方法：ピアノ基礎教材　ブルクミュラー　貴婦人の乗馬
　　弾きうたい　まめまき
【第15回】
テーマ：ピアノ基礎教材曲と弾きうたいの曲の仕上げ・後期のふり返り
内容・方法：ピアノ基礎教材曲・弾き歌い曲を仕上げ、リハーサル等により実技定期試験に備える。
【定期試験】
2曲の演奏発表後に振り返りを行い、次の課題を選定する。

ソルフェージュ
【第1回】
テーマ：保育者に求められる「歌唱力」とは？
内容・方法：発声法とは、保育の現場で歌われる「こどものうた」について
【第2回】
テーマ：保育者に求められる「歌唱力」とは？
内容・方法：発声法（声の出るしくみ・からだの使い方）、こどものうた（生活のうた）
【第3回】
テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成
内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（卒園のうた）
【第4回】
テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成
内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（春のうた）
【第5回】
テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成
内容・方法：こどものうた（梅雨時のうた）
【第6回】
テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成
内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（夏のうた）
【第7回】
テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成
内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（秋のうた）
【第8回】
テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成
内容・方法：こどものうた（冬のうた）
【第9回】
テーマ：保育の歌唱に関する応用力の養成
内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（生きもののうた）
【第10回】
テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得
内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（食べもののうた）
【第11回】
テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得
内容・方法：こどものうた（乗りもののうた）
【第12回】
テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得
内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（人に関するうた）
【第13回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得
内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（音楽に関するうた）
【第14回】
テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得および保育の歌唱まとめ
内容・方法：合唱・アンサンブルの試み、保育の歌唱まとめ
【第15回】
テーマ：童謡の演奏発表
内容・方法：童謡の演奏発表・後期授業のふり返り・まとめ

該当授業終講後に課題レポートを提出してもらいます。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

ピアノ実技
授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。
授業と事前事後の合わせて1単位あたり45時間必要である。
【第1回】
①事前学修課題：シラバスを読んでおくこと。入学前に練習した課題の曲を練習しておくこと。
②事後学修課題：授業で受けた指導をもとに復習する。
【第2回～第11回】
①事前学修課題：課題曲の読譜を行う。運指にも配慮して授業までに練習しておくこと。
②事後学修課題：授業で受けた指導をもとに復習する。
【第12回～14回】
①事前学修課題：課題曲を練習して、授業・発表に備える。
②事後学修課題：授業で受けた曲を復習し、仕上げる。
【第15回】
①事前学修課題：課題曲の演奏発表。
②事後学修課題：学期のふりかえりを行う。

ソルフェージュ
授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。
各回につき1時間以上の事前・事後学習が必要です。
【第1回】
①事前学修課題：シラバスを熟読する。保育者に求められる歌唱力について考える。
②事後学修課題：発声についての学習事項の復習。
【第2回】
①事前学修課題：歌唱指導においてよく用いられる声かけについて考える。
②事後学修課題：声が出るしくみ、エクササイズ、生活のうたについて復習。
【第3回】
①事前学修課題：個人レッスンに向けて練習。卒園のこどものうたについて予習。
②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および卒園のこどものうたについて復習。
【第4回】
①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。春のこどものうたについて予習。
②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および春のこどものうたについて復習。
【第5回】
①事前学修課題：梅雨時のこどものうたについて予習。
②事後学修課題：授業で取り上げた梅雨時のこどものうたについて復習。
【第6回】
①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。夏のこどものうたについて予習。
②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および夏のこどものうたについて復習。
【第7回】
①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。秋のこどものうたについて予習。
②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および秋のこどものうたについて復習。
【第8回】
①事前学修課題：冬のこどものうたについて予習。
②事後学修課題：授業で取り上げた冬のこどものうたについて復習。
【第9回】
①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。生きものに関するうたについて予習。
②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および生きものに関するうたを復習。
【第10回】
①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。食べものに関するうたについて予習。
②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および食べものに関するうたを復習。
【第11回】
①事前学修課題：乗りものに関するうたについて予習。
②事後学修課題：授業で取り上げた乗りものに関するうたについて復習。
【第12回】
①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。人に関するうたについて予習。
②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および人に関するうたについて復習。
【第13回】
①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。音楽に関するうたについて予習。
②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および音楽に関するうたについて復習。
【第14回】
①事前学修課題：これまでに学習した歌唱技術について事前に復習。
②事後学修課題：合唱・アンサンブルについて復習。発表に向けて課題曲を練習。
【第15回】

①事前学修課題：発表に向けて課題曲を練習・予習。
②事後学修課題：発声法、こどものうた、弾き歌いについて総合的に復習する

課題に対するフィードバックの方法

ピアノ実技
各回のレッスンで指導された内容が反映されて演奏できているか、翌週のレッスンで確認する。

ソルフェージュ
提出されたレポート課題の内容および個人レッスンにおいてみられた事象について例を提示し、それらへの評価を共有する形でフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

ピアノ実技
学期末に課題とされたピアノ基礎教材曲を暗譜で演奏できているか評価する。
幼児歌曲の弾きうたいができているか評価する。
毎回の予習・復習と課題曲への取り組み状況を評価する。
曲調に合った演奏ができているか評価する。
授業はマンツーマンのレッスン形式で一人ずつ順番に行うが、遅刻・欠席をしないよう気をつけること。３回遅刻した場合を１回の欠席とする。１５分以上遅刻した場合は欠席とみなす。
授業開始時間から15分迄を遅刻とする。
正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

ソルフェージュ
授業への参加意欲およびレポート課題の提出状況と内容、授業内の歌唱発表から総合的に評価する。
正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

ピアノ実技、ソルフェージュの授業内外評価＋試験の総合点で、それぞれに60点以上を取ることで所定の単位を認定する。
乃ち100点満点中、ピアノ50点、音楽理論50点で、各30点以上の合計点を必要とする。
但し、ピアノ実技定期試験を受けない場合は「K」評価となる。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	ピアノ実技 授業内における課題曲の取り組み姿勢 （10） ソルフェージュ 授業への参加意欲（10） 実践課題（10） 演奏発表（10）	ピアノ実技1, 2, 3, 4, 5, 6 ソルフェージュ1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	20	ピアノ実技 課題曲の予習・復習（10） ソルフェージュ レポート課題の提出状況および内容（10）	ピアノ実技2, 4, 6, 7ソルフェージュ3, 4, 5, 6
定期試験	40	ピアノ実技 定期試験（基礎教材曲1曲　幼児歌曲1曲）（30） ソルフェージュ 定期試験（10）	ピアノ実技2, 3, 4, 5, 6ソルフェージュ1, 2
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』大阪国際大学短期大学部発行/カワイ出版製作（購入不要） 『最新・幼児の音楽教育　改訂版』/井口太編著/朝日出版社　/ 978-4-255-15725-2　2750円 基礎教材の『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』を習得した場合は、それぞれの能力に応じた課題を個人レスナーより指示する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介・配付する。
履修条件・他の科目との関連	ピアノ実技 全音楽関係科目履修時にピアノは基本となる楽器である故、与えられた課題を意欲的に練習し、理解・向上に努める。 ソルフェージュ

履修条件・他の科目との関連	テキストは毎授業必ず持ってくること。

授業コード	22051902	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	音楽（基礎）ｂ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	作野　理恵、光本　諭史、内海　由美子、西脇　恭子、福原　千織、大和　千穂				
シラバス執筆(主)	作野　理恵				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

本科目は、1コマ内でピアノ実技レッスンとソルフェージュ(歌唱)指導を45分間ずつ受ける授業であり、ピアノ・レッスンにおいては「音楽基礎a」で習得したピアノ奏法・表現方法を更に深化・進歩させた内容について説明・実施をする。
保育・教育現場で必要となる演奏技術・表現力・読譜力を養うことを目標とした指導を行う。また、保育現場で扱う幼児歌曲や生活の歌の内、更に難易度の高い楽曲を取り上げ、弾うたいができる能力を養う。
教材としては引き続バイエル、ブルクミュラー、ソナチネ、ソナタ等を使用する。

ソルフェージュ学習においては、乳幼児の音楽教育に関わる際に必要とされている音楽についての基礎知識、及び保育者自身の豊かな音楽的感性と音楽的能力(技能)の習得・養成を目的としている。本学習では、保育現場で必要とされる音楽表現のための基礎技能について指導し、教材の活用および作成、並びに保育の環境構成及び具体的展開方法について概説する。更に子どもの生活とあそびを豊かに展開する音楽表現方法を習得することを目的とする。
授業概要としては、発声法および保育現場で歌われる「こどものうた」について、講義、範唱の鑑賞および実践を通して学習を行い、保育者に求められる歌唱の基礎力を養成する。また、弾き歌い時の発声に関する学習および合唱、アンサンブルの実践など、保育現場における歌唱活動に役立つ応用力についても習得を目指す。

到達目標

ピアノ実技
１．基礎教材曲、幼児歌曲の読譜ができる
２．正しい運指で演奏することができる
３．手、腕が脱力した状態で演奏できる
４．基礎教材曲を暗譜で演奏することができる
５．曲調に合った演奏表現ができる
６．幼児歌曲の弾き歌いができる
７．課題曲の予習・復習ができている

ソルフェージュ
１．豊かな音楽的感性を身につけ、保育現場に還元できる。
２．保育現場で必要とされる歌唱・伴奏付け・ソルフェージュの基礎的知識を演奏に反映できる。
３．合唱やアンサンブルなどを通して調和のとれた響きを体感し演奏することができる。
４．各年次の子どもへの音楽指導計画に基づき指導することができる。
５．子どもへの適切な言葉掛けができる。
６．指導者として必要な音楽の知識を説明できる。

授業計画

ピアノ実技
(以下は学習モデルであり、個別進度により内容が変わることがある。)
【第1回】
テーマ：ピアノレッスン①
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル　88番、90番
　　弾きうたい　おべんとう
【第2回】
テーマ：ピアノレッス②
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル　90番、91番
　　弾きうたい　おべんとう
【第3回】
テーマ：ピアノレッスン③
内容・方法：ピアノ基礎教材　　バイエル　91番、94番
　　弾きうたい　うんどうかい
【第4回】
テーマ：ピアノレッスン④
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル　94番、96番
　　弾きうたい　うんどうかい
【第5回】
テーマ：ピアノレッスン⑤
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル　96番、102番
　　弾きうたい　大きなくりの木の下で
【第6回】
テーマ：ピアノレッスン⑥
内容・方法：ピアノ基礎教材　　バイエル　102番、保育に使える効果音
　　弾きうたい　大きなくりの木の下で

【第7回】
テーマ：ピアノレッスン⑦
内容・方法：ピアノ基礎教材　ブルクミュラー　素直な心
　　弾きうたい　こぎつね
【第8回】
テーマ：ピアノレッスン⑧
内容・方法：ピアノ基礎教材　ブルクミュラー　素直な心
　　弾きうたい　こぎつね
【第9回】
テーマ：ピアノレッスン⑨
内容・方法：ピアノ基礎教材　ブルクミュラー　アラベスク
　　弾きうたい　おかえりのうた
【第10回】
テーマ：ピアノレッスン⑩
内容・方法：ピアノ基礎教材　ブルクミュラー　アラベスク
　　弾きうたい　おかえりのうた
【第11回】
テーマ：ピアノレッスン⑪
内容・方法：ピアノ基礎教材　ブルクミュラー　バラード
　　弾きうたい　お正月
【第12回】
テーマ：ピアノレッスン⑫
内容・方法：ピアノ基礎教材　ブルクミュラー　バラード
　　弾きうたい　お正月
【第13回】
テーマ：ピアノレッスン⑬
内容・方法：ピアノ基礎教材　ブルクミュラー　貴婦人の乗馬
　　弾きうたい　まめまき
【第14回】
テーマ：ピアノレッス⑭
内容・方法：ピアノ基礎教材　ブルクミュラー　貴婦人の乗馬
　　弾きうたい　まめまき
【第15回】
テーマ：ピアノ基礎教材曲と弾きうたいの曲の仕上げ・後期のふり返り
内容・方法：ピアノ基礎教材曲・弾き歌い曲を仕上げ、リハーサル等により実技定期試験に備える。
【定期試験】
2曲の演奏発表後に振り返りを行い、次の課題を選定する。

ソルフェージュ
【第1回】
テーマ：保育者に求められる「歌唱力」とは？
内容・方法：発声法とは、保育の現場で歌われる「こどものうた」について
【第2回】
テーマ：保育者に求められる「歌唱力」とは？
内容・方法：発声法（声の出るしくみ・からだの使い方）、こどものうた（生活のうた）
【第3回】
テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成
内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（卒園のうた）
【第4回】
テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成
内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（春のうた）
【第5回】
テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成
内容・方法：こどものうた（梅雨時のうた）
【第6回】
テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成
内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（夏のうた）
【第7回】
テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成
内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（秋のうた）
【第8回】
テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成
内容・方法：こどものうた（冬のうた）
【第9回】
テーマ：保育の歌唱に関する応用力の養成
内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（生きもののうた）
【第10回】
テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得
内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（食べもののうた）
【第11回】
テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得
内容・方法：こどものうた（乗りもののうた）
【第12回】
テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得
内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（人に関するうた）
【第13回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得
内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（音楽に関するうた）
【第14回】
テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得および保育の歌唱まとめ
内容・方法：合唱・アンサンブルの試み、保育の歌唱まとめ
【第15回】
テーマ：童謡の演奏発表
内容・方法：童謡の演奏発表・後期授業のふり返り・まとめ

該当授業終講後に課題レポートを提出してもらいます。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

ピアノ実技
授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。
授業と事前事後の合わせて1単位あたり45時間必要である。
【第1回】
①事前学修課題：シラバスを読んでおくこと。入学前に練習した課題の曲を練習しておくこと。
②事後学修課題：授業で受けた指導をもとに復習する。
【第2回～第11回】
①事前学修課題：課題曲の読譜を行う。運指にも配慮して授業までに練習しておくこと。
②事後学修課題：授業で受けた指導をもとに復習する。
【第12回～14回】
①事前学修課題：課題曲を練習して、授業・発表に備える。
②事後学修課題：授業で受けた曲を復習し、仕上げる。
【第15回】
①事前学修課題：課題曲の演奏発表。
②事後学修課題：学期のふりかえりを行う。

ソルフェージュ
授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。
各回につき1時間以上の事前・事後学習が必要です。
【第1回】
①事前学修課題：シラバスを熟読する。保育者に求められる歌唱力について考える。
②事後学修課題：発声についての学習事項の復習。
【第2回】
①事前学修課題：歌唱指導においてよく用いられる声かけについて考える。
②事後学修課題：声が出るしくみ、エクササイズ、生活のうたについて復習。
【第3回】
①事前学修課題：個人レッスンに向けて練習。卒園のこどものうたについて予習。
②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および卒園のこどものうたについて復習。
【第4回】
①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。春のこどものうたについて予習。
②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および春のこどものうたについて復習。
【第5回】
①事前学修課題：梅雨時のこどものうたについて予習。
②事後学修課題：授業で取り上げた梅雨時のこどものうたについて復習。
【第6回】
①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。夏のこどものうたについて予習。
②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および夏のこどものうたについて復習。
【第7回】
①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。秋のこどものうたについて予習。
②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および秋のこどものうたについて復習。
【第8回】
①事前学修課題：冬のこどものうたについて予習。
②事後学修課題：授業で取り上げた冬のこどものうたについて復習。
【第9回】
①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。生きものに関するうたについて予習。
②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および生きものに関するうたを復習。
【第10回】
①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。食べものに関するうたについて予習。
②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および食べものに関するうたを復習。
【第11回】
①事前学修課題：乗りものに関するうたについて予習。
②事後学修課題：授業で取り上げた乗りものに関するうたについて復習。
【第12回】
①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。人に関するうたについて予習。
②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および人に関するうたについて復習。
【第13回】
①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。音楽に関するうたについて予習。
②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および音楽に関するうたについて復習。
【第14回】
①事前学修課題：これまでに学習した歌唱技術について事前に復習。
②事後学修課題：合唱・アンサンブルについて復習。発表に向けて課題曲を練習。
【第15回】

①事前学修課題：発表に向けて課題曲を練習・予習。
②事後学修課題：発声法、こどものうた、弾き歌いについて総合的に復習する

課題に対するフィードバックの方法

ピアノ実技
各回のレッスンで指導された内容が反映されて演奏できているか、翌週のレッスンで確認する。

ソルフェージュ
提出されたレポート課題の内容および個人レッスンにおいてみられた事象について例を提示し、それらへの評価を共有する形でフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

ピアノ実技
学期末に課題とされたピアノ基礎教材曲を暗譜で演奏できているか評価する。
幼児歌曲の弾きうたいができているか評価する。
毎回の予習・復習と課題曲への取り組み状況を評価する。
曲調に合った演奏ができているか評価する。
授業はマンツーマンのレッスン形式で一人ずつ順番に行うが、遅刻・欠席をしないよう気をつけること。３回遅刻した場合を１回の欠席とする。１５分以上遅刻した場合は欠席とみなす。
授業開始時間から15分迄を遅刻とする。
正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

ソルフェージュ
授業への参加意欲およびレポート課題の提出状況と内容、授業内の歌唱発表から総合的に評価する。
正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

ピアノ実技、ソルフェージュの授業内外評価＋試験の総合点で、それぞれに60点以上を取ることで所定の単位を認定する。
乃ち100点満点中、ピアノ50点、音楽理論50点で、各30点以上の合計点を必要とする。
但し、ピアノ実技定期試験を受けない場合は「K」評価となる。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	ピアノ実技 授業内における課題曲の取り組み姿勢 （10） ソルフェージュ 授業への参加意欲（10） 実践課題（10） 演奏発表（10）	ピアノ実技1, 2, 3, 4, 5, 6 ソルフェージュ1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	20	ピアノ実技 課題曲の予習・復習（10） ソルフェージュ レポート課題の提出状況および内容（10）	ピアノ実技2, 4, 6, 7ソルフェージュ3, 4, 5, 6
定期試験	40	ピアノ実技 定期試験（基礎教材曲1曲　幼児歌曲1曲）（30） ソルフェージュ 定期試験（10）	ピアノ実技2, 3, 4, 5, 6ソルフェージュ1, 2
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』大阪国際大学短期大学部発行/カワイ出版製作（購入不要） 『最新・幼児の音楽教育　改訂版』/井口太編著/朝日出版社　/ 978-4-255-15725-2　2750円 基礎教材の『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』を習得した場合は、それぞれの能力に応じた課題を個人レスナーより指示する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介・配付する。
履修条件・他の科目との関連	ピアノ実技 全音楽関係科目履修時にピアノは基本となる楽器である故、与えられた課題を意欲的に練習し、理解・向上に努める。 ソルフェージュ

履修条件・他の科目との関連	テキストは毎授業必ず持ってくること。

授業コード	22051903	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	音楽（基礎）ｂ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	作野　理恵、光本　諭史、内海　由美子、西脇　恭子、福原　千織、大和　千穂				
シラバス執筆(主)	作野　理恵				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

本科目は、1コマ内でピアノ実技レッスンとソルフェージュ(歌唱)指導を45分間ずつ受ける授業であり、ピアノ・レッスンにおいては「音楽基礎a」で習得したピアノ奏法・表現方法を更に深化・進歩させた内容について説明・実施をする。
保育・教育現場で必要となる演奏技術・表現力・読譜力を養うことを目標とした指導を行う。また、保育現場で扱う幼児歌曲や生活の歌の内、更に難易度の高い楽曲を取り上げ、弾うたいができる能力を養う。
教材としては引き続バイエル、ブルクミュラー、ソナチネ、ソナタ等を使用する。

ソルフェージュ学習においては、乳幼児の音楽教育に関わる際に必要とされている音楽についての基礎知識、及び保育者自身の豊かな音楽的感性と音楽的能力(技能)の習得・養成を目的としている。本学習では、保育現場で必要とされる音楽表現のための基礎技能について指導し、教材の活用および作成、並びに保育の環境構成及び具体的展開方法について概説する。更に子どもの生活とあそびを豊かに展開する音楽表現方法を習得することを目的とする。
授業概要としては、発声法および保育現場で歌われる「こどものうた」について、講義、範唱の鑑賞および実践を通して学習を行い、保育者に求められる歌唱の基礎力を養成する。また、弾き歌い時の発声に関する学習および合唱、アンサンブルの実践など、保育現場における歌唱活動に役立つ応用力についても習得を目指す。

到達目標

ピアノ実技
１．基礎教材曲、幼児歌曲の読譜ができる
２．正しい運指で演奏することができる
３．手、腕が脱力した状態で演奏できる
４．基礎教材曲を暗譜で演奏することができる
５．曲調に合った演奏表現ができる
６．幼児歌曲の弾き歌いができる
７．課題曲の予習・復習ができている

ソルフェージュ
１．豊かな音楽的感性を身につけ、保育現場に還元できる。
２．保育現場で必要とされる歌唱・伴奏付け・ソルフェージュの基礎的知識を演奏に反映できる。
３．合唱やアンサンブルなどを通して調和のとれた響きを体感し演奏することができる。
４．各年次の子どもへの音楽指導計画に基づき指導することができる。
５．子どもへの適切な言葉掛けができる。
６．指導者として必要な音楽の知識を説明できる。

授業計画

ピアノ実技
(以下は学習モデルであり、個別進度により内容が変わることがある。)
【第1回】
テーマ：ピアノレッスン①
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル　88番、90番
　　弾きうたい　おべんとう
【第2回】
テーマ：ピアノレッス②
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル　90番、91番
　　弾きうたい　おべんとう
【第3回】
テーマ：ピアノレッスン③
内容・方法：ピアノ基礎教材　　バイエル　91番、94番
　　弾きうたい　うんどうかい
【第4回】
テーマ：ピアノレッスン④
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル　94番、96番
　　弾きうたい　うんどうかい
【第5回】
テーマ：ピアノレッスン⑤
内容・方法：ピアノ基礎教材　バイエル　96番、102番
　　弾きうたい　大きなくりの木の下で
【第6回】
テーマ：ピアノレッスン⑥
内容・方法：ピアノ基礎教材　　バイエル　102番、保育に使える効果音
　　弾きうたい　大きなくりの木の下で

【第7回】
テーマ：ピアノレッスン⑦
内容・方法：ピアノ基礎教材　ブルクミュラー　素直な心
　　弾きうたい　こぎつね
【第8回】
テーマ：ピアノレッスン⑧
内容・方法：ピアノ基礎教材　ブルクミュラー　素直な心
　　弾きうたい　こぎつね
【第9回】
テーマ：ピアノレッスン⑨
内容・方法：ピアノ基礎教材　ブルクミュラー　アラベスク
　　弾きうたい　おかえりのうた
【第10回】
テーマ：ピアノレッスン⑩
内容・方法：ピアノ基礎教材　ブルクミュラー　アラベスク
　　弾きうたい　おかえりのうた
【第11回】
テーマ：ピアノレッスン⑪
内容・方法：ピアノ基礎教材　ブルクミュラー　バラード
　　弾きうたい　お正月
【第12回】
テーマ：ピアノレッスン⑫
内容・方法：ピアノ基礎教材　ブルクミュラー　バラード
　　弾きうたい　お正月
【第13回】
テーマ：ピアノレッスン⑬
内容・方法：ピアノ基礎教材　ブルクミュラー　貴婦人の乗馬
　　弾きうたい　まめまき
【第14回】
テーマ：ピアノレッス⑭
内容・方法：ピアノ基礎教材　ブルクミュラー　貴婦人の乗馬
　　弾きうたい　まめまき
【第15回】
テーマ：ピアノ基礎教材曲と弾きうたいの曲の仕上げ・後期のふり返り
内容・方法：ピアノ基礎教材曲・弾き歌い曲を仕上げ、リハーサル等により実技定期試験に備える。
【定期試験】
2曲の演奏発表後に振り返りを行い、次の課題を選定する。

ソルフェージュ
【第1回】
テーマ：保育者に求められる「歌唱力」とは？
内容・方法：発声法とは、保育の現場で歌われる「こどものうた」について
【第2回】
テーマ：保育者に求められる「歌唱力」とは？
内容・方法：発声法（声の出るしくみ・からだの使い方）、こどものうた（生活のうた）
【第3回】
テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成
内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（卒園のうた）
【第4回】
テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成
内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（春のうた）
【第5回】
テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成
内容・方法：こどものうた（梅雨時のうた）
【第6回】
テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成
内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（夏のうた）
【第7回】
テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成
内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（秋のうた）
【第8回】
テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成
内容・方法：こどものうた（冬のうた）
【第9回】
テーマ：保育の歌唱に関する応用力の養成
内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（生きもののうた）
【第10回】
テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得
内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（食べもののうた）
【第11回】
テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得
内容・方法：こどものうた（乗りもののうた）
【第12回】
テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得
内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（人に関するうた）
【第13回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得
内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（音楽に関するうた）
【第14回】
テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得および保育の歌唱まとめ
内容・方法：合唱・アンサンブルの試み、保育の歌唱まとめ
【第15回】
テーマ：童謡の演奏発表
内容・方法：童謡の演奏発表・後期授業のふり返り・まとめ

該当授業終講後に課題レポートを提出してもらいます。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

ピアノ実技
授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。
授業と事前事後の合わせて1単位あたり45時間必要である。
【第1回】
①事前学修課題：シラバスを読んでおくこと。入学前に練習した課題の曲を練習しておくこと。
②事後学修課題：授業で受けた指導をもとに復習する。
【第2回～第11回】
①事前学修課題：課題曲の読譜を行う。運指にも配慮して授業までに練習しておくこと。
②事後学修課題：授業で受けた指導をもとに復習する。
【第12回～14回】
①事前学修課題：課題曲を練習して、授業・発表に備える。
②事後学修課題：授業で受けた曲を復習し、仕上げる。
【第15回】
①事前学修課題：課題曲の演奏発表。
②事後学修課題：学期のふりかえりを行う。

ソルフェージュ
授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。
各回につき1時間以上の事前・事後学習が必要です。
【第1回】
①事前学修課題：シラバスを熟読する。保育者に求められる歌唱力について考える。
②事後学修課題：発声についての学習事項の復習。
【第2回】
①事前学修課題：歌唱指導においてよく用いられる声かけについて考える。
②事後学修課題：声が出るしくみ、エクササイズ、生活のうたについて復習。
【第3回】
①事前学修課題：個人レッスンに向けて練習。卒園のこどものうたについて予習。
②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および卒園のこどものうたについて復習。
【第4回】
①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。春のこどものうたについて予習。
②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および春のこどものうたについて復習。
【第5回】
①事前学修課題：梅雨時のこどものうたについて予習。
②事後学修課題：授業で取り上げた梅雨時のこどものうたについて復習。
【第6回】
①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。夏のこどものうたについて予習。
②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および夏のこどものうたについて復習。
【第7回】
①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。秋のこどものうたについて予習。
②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および秋のこどものうたについて復習。
【第8回】
①事前学修課題：冬のこどものうたについて予習。
②事後学修課題：授業で取り上げた冬のこどものうたについて復習。
【第9回】
①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。生きものに関するうたについて予習。
②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および生きものに関するうたを復習。
【第10回】
①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。食べものに関するうたについて予習。
②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および食べものに関するうたを復習。
【第11回】
①事前学修課題：乗りものに関するうたについて予習。
②事後学修課題：授業で取り上げた乗りものに関するうたについて復習。
【第12回】
①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。人に関するうたについて予習。
②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および人に関するうたについて復習。
【第13回】
①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。音楽に関するうたについて予習。
②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および音楽に関するうたについて復習。
【第14回】
①事前学修課題：これまでに学習した歌唱技術について事前に復習。
②事後学修課題：合唱・アンサンブルについて復習。発表に向けて課題曲を練習。
【第15回】

①事前学修課題：発表に向けて課題曲を練習・予習。
②事後学修課題：発声法、こどものうた、弾き歌いについて総合的に復習する

課題に対するフィードバックの方法

ピアノ実技
各回のレッスンで指導された内容が反映されて演奏できているか、翌週のレッスンで確認する。

ソルフェージュ
提出されたレポート課題の内容および個人レッスンにおいてみられた事象について例を提示し、それらへの評価を共有する形でフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

ピアノ実技
学期末に課題とされたピアノ基礎教材曲を暗譜で演奏できているか評価する。
幼児歌曲の弾きうたいができているか評価する。
毎回の予習・復習と課題曲への取り組み状況を評価する。
曲調に合った演奏ができているか評価する。
授業はマンツーマンのレッスン形式で一人ずつ順番に行うが、遅刻・欠席をしないよう気をつけること。３回遅刻した場合を１回の欠席とする。１５分以上遅刻した場合は欠席とみなす。
授業開始時間から15分迄を遅刻とする。
正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

ソルフェージュ
授業への参加意欲およびレポート課題の提出状況と内容、授業内の歌唱発表から総合的に評価する。
正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

ピアノ実技、ソルフェージュの授業内外評価＋試験の総合点で、それぞれに60点以上を取ることで所定の単位を認定する。
乃ち100点満点中、ピアノ50点、音楽理論50点で、各30点以上の合計点を必要とする。
但し、ピアノ実技定期試験を受けない場合は「K」評価となる。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	ピアノ実技 授業内における課題曲の取り組み姿勢 （10） ソルフェージュ 授業への参加意欲（10） 実践課題（10） 演奏発表（10）	ピアノ実技1, 2, 3, 4, 5, 6 ソルフェージュ1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	20	ピアノ実技 課題曲の予習・復習（10） ソルフェージュ レポート課題の提出状況および内容（10）	ピアノ実技2, 4, 6, 7ソルフェージュ3, 4, 5, 6
定期試験	40	ピアノ実技 定期試験（基礎教材曲1曲　幼児歌曲1曲）（30） ソルフェージュ 定期試験（10）	ピアノ実技2, 3, 4, 5, 6ソルフェージュ1, 2
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』大阪国際大学短期大学部発行/カワイ出版製作（購入不要） 『最新・幼児の音楽教育　改訂版』/井口太編著/朝日出版社　/ 978-4-255-15725-2　2750円 基礎教材の『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』を習得した場合は、それぞれの能力に応じた課題を個人レスナーより指示する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介・配付する。
履修条件・他の科目との関連	ピアノ実技 全音楽関係科目履修時にピアノは基本となる楽器である故、与えられた課題を意欲的に練習し、理解・向上に努める。 ソルフェージュ

履修条件・他の科目との関連	テキストは毎授業必ず持ってくること。

授業コード	22052001	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	音楽（応用） a ［対面］				
シラバス執筆(全員)	作野　理恵、光本　諭史、濵谷　田穂、蜂谷　葉子、平田　道子				
シラバス執筆(主)	作野　理恵				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

本授業はピアノの個人レッスンと、音楽活動の実践方法についての講義・実技演習から成る。
ピアノ・レッスンでは「音楽(基礎) ab」での学びを基礎とし、更なるピアノ演奏技術、並びに表現方法を概説する。
本科目は演奏技術の習得のみにとどまらず、豊かな表現力や音楽性を養うことを目標にしている。
また、幼児歌曲や生活・行事の歌等高難度の「弾き歌い教材曲」を取り上げ、実習や就職活動、並びに実際の保育現場で役立つピアノ演奏について説明する。
講義・実践演習では、コード伴奏や楽曲の編曲方法等について概説し、保育現場における音楽活動に活かすことのできる実践力習得を指導する。
リトミックなどの身体表現に用いるピアノ演奏技術、音楽表現方法を説明する。

到達目標

１．基礎教材曲・幼児歌曲の読譜ができる
２．正しい運指で演奏できる
３．手・腕が脱力した状態で演奏できる
４．基礎教材曲を暗譜で演奏できる
５．曲調に合った演奏表現ができる
６．幼児歌曲の弾き歌いができる
７．和音進行のパターンを用い、メロディーに相応しい伴奏をつけることができる
８．楽曲の簡単な編曲・即興演奏ができる
９．リズム感覚を養うあそびを実践できる
10．こどもの音楽感覚を育てるためのリズム指導ができる
11．課題曲の予習・復習ができる

授業計画

個人レッスンではピアノ基礎教材曲、幼児歌曲の指導を受ける。
講義・実践演習では各回のテーマに基づく課題を五線紙、あるいはプリントに記入し、発表・提出する。
【第1回】
ピアノ・レッスン①テーマ：授業の進め方、概要の説明
内容・方法：１年次生時に取り組んだピアノ基礎教材曲・弾き歌い教材曲を次の段階へ進める。
講義・実践演習　①テーマ：授業についてのガイダンス
内容・方法：授業の進め方、概要の説明。

（ピアノ・レッスンにおけるピアノ基礎教材・弾き歌い教材は習得のモデルである）
【第2回】
ピアノ・レッスン②テーマ：レガート奏法の習得
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　素直な心
弾き歌い：メリーさんのひつじ
講義・実践演習　②テーマ：楽譜の表示
内容・方法等：楽譜の表示について学ぶ。
【第3回】
ピアノ・レッスン③テーマ：対旋律の弾き方
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　素直な心
弾き歌い：メリーさんのひつじ
講義・実践演習　③テーマ：コードネーム
内容・方法等:コードネームについて学ぶ。
【第4回】
ピアノ・レッスン④テーマ：16分音符の細かい動き
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　アラベスク
弾き歌い：おうま
講義・実践演習　④テーマ：幼児歌曲の伴奏①
内容・方法等：ベース音による伴奏を学ぶ。
【第5回】
ピアノ・レッスン⑤テーマ：2拍子を感じる
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　アラベスク
弾き歌い：おうま
講義・実践演習　⑤テーマ：幼児歌曲の伴奏②
内容・方法等：コードによる伴奏付けを学ぶ。
【第6回】
ピアノ・レッスン⑥テーマ：左手の16分音符の動き
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　バラード

弾き歌い：水あそび
講義・実践演習　⑥テーマ：幼児歌曲の伴奏③
内容・方法等：さまざまな伴奏形を学ぶ。
【第7回】
ピアノ・レッスン⑦テーマ：和音の連打
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　バラード
弾き歌い：水あそび
講義・実践演習　⑦テーマ：幼児歌曲の伴奏・アレンジ
内容・方法等：幼児歌曲の伴奏形を変奏してアレンジする。
【第8回】
ピアノ・レッスン⑧テーマ：3拍子を感じる
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　バラード
弾き歌い：かたつむり
講義・実践演習　⑧テーマ：幼児歌曲の移調①
内容・方法：簡易な幼児歌曲を移調して演奏する方法を学ぶ。
【第9回】
ピアノ・レッスン⑨テーマ：スタッカートとレガートの違い
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　貴婦人の乗馬
弾き歌い：かたつむり
講義・実践演習　⑨テーマ：幼児歌曲の移調②
内容・方法：簡易な幼児歌曲を移調して演奏する方法を学ぶ。
【第10回】
ピアノ・レッスン⑩テーマ：16分音符の音階
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　貴婦人の乗馬
弾き歌い：やぎさんゆうびん
講義・実践演習　⑩テーマ：和音①
内容・方法：主要三和音と副三和音
【第11回】
ピアノ・レッスン⑪テーマ：3連音符の奏法
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　貴婦人の乗馬
弾き歌い：やぎさんゆうびん
講義・実践演習　⑪テーマ：和音②
内容・方法：転回形について
【第12回】
ピアノ・レッスン⑫テーマ：ソナチネの形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：クレメンティ　ソナチネ7番　第1楽章
弾き歌い：むすんでひらいて
講義・実践演習　⑫テーマ：対旋律
内容・方法：対旋律と主旋律について
【第13回】
ピアノ・レッスン⑬テーマ：楽曲の暗譜
内容・方法：ピアノ基礎教材：クレメンティ　ソナチネ7番　第1楽章
弾き歌い：むすんでひらいて
講義・実践演習　⑬テーマ：幼児歌曲の伴奏④
内容・方法：幼児歌曲にコードで伴奏をつけて演奏する。
【第14回】
ピアノ・レッスン⑭テーマ：楽曲を仕上げる
内容・方法：ピアノ基礎教材：クレメンティ　ソナチネ7番　第1楽章
弾き歌い：十人のインディアン
講義・実践演習　⑭テーマ：幼児歌曲の伴奏⑤
内容・方法：幼児歌曲に分散和音等で伴奏をつけて演奏する。
【第15回】
ピアノ・レッスン⑮テーマ：ピアノ基礎教材曲と弾き歌い曲の発表リハーサル
内容・方法：ピアノ基礎教材の曲と弾き歌い曲発表のリハーサルを行う。
講義・実践演習　⑮テーマ：幼児歌曲のまとめ
内容・方法：幼児歌曲にさまざまな形の伴奏をつけて演奏する。
【定期試験】
ピアノ基礎教材曲と弾き歌い曲の演奏発表後、次の課題曲の選定

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。
各回につき１時間の事前・事後学習が必要である。
【第1回～第12回、第16回～第29回】
①事前学修課題：課題曲の読譜を行っておくこと。運指にも配慮して授業までに練習しておくこと。
②事後学修課題：授業で取りあげた曲の復習。
【第13回、第14回】
①事前学修課題：課題曲の暗譜を行っておくこと。曲の表情にも配慮して授業までに練習しておくこと。
②事後学修課題：授業で取りあげた曲を復習し、演奏発表に備える。
【第15回】
①事前学修課題：ピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、弾き歌いの教材の曲を楽譜を見て歌いながら演奏できるように備える。
②事後学修課題：演奏発表の振り返りを行い、今後も容易に弾けるよう体得する。

課題に対するフィードバックの方法

各回のレッスン・授業で指導された内容が反映されて演奏できているか、翌週のレッスン・授業で確認する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

●以下に示すピアノ実技試験、講義復習課題レポート、課題演奏・課題発表を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
・演奏発表にはそれぞれ課題とされたピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、また弾き歌い教材の曲として『最新・幼児の音楽教育』又は『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』から選んだ曲を楽譜を見て歌いながら演奏する。
　各自の能力に応じた努力を重視する。
　学期末試験でのピアノ基礎教材課題曲暗譜演奏を評価する。
　幼児歌曲の弾き歌いを評価する。
　毎回の予習・復習と課題曲への取り組み状況を評価する。
　曲調に合った演奏ができているか評価する。
・講義で学んだ内容について課題取り組み状況・発表を評価する。

●出欠について
・ピアノ・レッスンはマンツーマンのレッスン形式で一人ずつ順番に行うが、遅刻・欠席をしないよう注意すること。３回遅刻した場合を１回の欠席、15分以上遅刻した場合は欠席とみなす。
・授業開始時間から15分迄を遅刻とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	講義課題についての演奏・取り組み状況（30） 授業への意欲・取り組み姿勢（20）	1～10
授業外での評価	20	課題提出状況（10） 課題取り組み状況（10）	7, 10, 11
定期試験	30	定期試験（基礎教材曲1曲、幼児歌曲1曲）（30）	2, 3, 4, 5, 6
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『保育に役立つ　基礎から学ぶピアノ』/大阪国際大学短期大学部発行/カワイ出版（購入不要） 『最新・幼児の音楽教育　改訂版』/井口太編著/朝日出版社　/ 978-4-255-15725-2　2750円
参考書	必要に応じて配付する。
履修条件・他の科目との関連	全音楽関係科目履修時にピアノは基本となる楽器である故、与えられた課題に真摯に取り組み、充分に練習・向上すること。

授業コード	22052002	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	音楽（応用） a ［対面］				
シラバス執筆(全員)	作野　理恵、光本　諭史、錦見　朋子、平田　道子、村上　利香				
シラバス執筆(主)	作野　理恵				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

本授業はピアノの個人レッスンと、音楽活動の実践方法についての講義・実技演習から成る。
ピアノ・レッスンでは「音楽(基礎) ab」での学びを基礎とし、更なるピアノ演奏技術、並びに表現方法を概説する。
本科目は演奏技術の習得のみにとどまらず、豊かな表現力や音楽性を養うことを目標にしている。
また、幼児歌曲や生活・行事の歌等高難度の「弾き歌い教材曲」を取り上げ、実習や就職活動、並びに実際の保育現場で役立つピアノ演奏について説明する。
講義・実践演習では、コード伴奏や楽曲の編曲方法等について概説し、保育現場における音楽活動に活かすことのできる実践力習得を指導する。
リトミックなどの身体表現に用いるピアノ演奏技術、音楽表現方法を説明する。

到達目標

１．基礎教材曲・幼児歌曲の読譜ができる
２．正しい運指で演奏できる
３．手・腕が脱力した状態で演奏できる
４．基礎教材曲を暗譜で演奏できる
５．曲調に合った演奏表現ができる
６．幼児歌曲の弾き歌いができる
７．和音進行のパターンを用い、メロディーに相応しい伴奏をつけることができる
８．楽曲の簡単な編曲・即興演奏ができる
９．リズム感覚を養うあそびを実践できる
10．こどもの音楽感覚を育てるためのリズム指導ができる
11．課題曲の予習・復習ができる

授業計画

個人レッスンではピアノ基礎教材曲、幼児歌曲の指導を受ける。
講義・実践演習では各回のテーマに基づく課題を五線紙、あるいはプリントに記入し、発表・提出する。
【第1回】
ピアノ・レッスン①テーマ：授業の進め方、概要の説明
内容・方法：１年次生時に取り組んだピアノ基礎教材曲・弾き歌い教材曲を次の段階へ進める。
講義・実践演習　①テーマ：授業についてのガイダンス
内容・方法：授業の進め方、概要の説明。

（ピアノ・レッスンにおけるピアノ基礎教材・弾き歌い教材は習得のモデルである）
【第2回】
ピアノ・レッスン②テーマ：レガート奏法の習得
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　素直な心
弾き歌い：メリーさんのひつじ
講義・実践演習　②テーマ：楽譜の表示
内容・方法等：楽譜の表示について学ぶ。
【第3回】
ピアノ・レッスン③テーマ：対旋律の弾き方
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　素直な心
弾き歌い：メリーさんのひつじ
講義・実践演習　③テーマ：コードネーム
内容・方法等:コードネームについて学ぶ。
【第4回】
ピアノ・レッスン④テーマ：16分音符の細かい動き
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　アラベスク
弾き歌い：おうま
講義・実践演習　④テーマ：幼児歌曲の伴奏①
内容・方法等：ベース音による伴奏を学ぶ。
【第5回】
ピアノ・レッスン⑤テーマ：2拍子を感じる
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　アラベスク
弾き歌い：おうま
講義・実践演習　⑤テーマ：幼児歌曲の伴奏②
内容・方法等：コードによる伴奏付けを学ぶ。
【第6回】
ピアノ・レッスン⑥テーマ：左手の16分音符の動き
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　バラード

弾き歌い：水あそび
講義・実践演習　⑥テーマ：幼児歌曲の伴奏③
内容・方法等：さまざまな伴奏形を学ぶ。
【第7回】
ピアノ・レッスン⑦テーマ：和音の連打
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　バラード
弾き歌い：水あそび
講義・実践演習　⑦テーマ：幼児歌曲の伴奏・アレンジ
内容・方法等：幼児歌曲の伴奏形を変奏してアレンジする。
【第8回】
ピアノ・レッスン⑧テーマ：3拍子を感じる
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　バラード
弾き歌い：かたつむり
講義・実践演習　⑧テーマ：幼児歌曲の移調①
内容・方法：簡易な幼児歌曲を移調して演奏する方法を学ぶ。
【第9回】
ピアノ・レッスン⑨テーマ：スタッカートとレガートの違い
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　貴婦人の乗馬
弾き歌い：かたつむり
講義・実践演習　⑨テーマ：幼児歌曲の移調②
内容・方法：簡易な幼児歌曲を移調して演奏する方法を学ぶ。
【第10回】
ピアノ・レッスン⑩テーマ：16分音符の音階
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　貴婦人の乗馬
弾き歌い：やぎさんゆうびん
講義・実践演習　⑩テーマ：和音①
内容・方法：主要三和音と副三和音
【第11回】
ピアノ・レッスン⑪テーマ：3連音符の奏法
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　貴婦人の乗馬
弾き歌い：やぎさんゆうびん
講義・実践演習　⑪テーマ：和音②
内容・方法：転回形について
【第12回】
ピアノ・レッスン⑫テーマ：ソナチネの形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：クレメンティ　ソナチネ7番　第1楽章
弾き歌い：むすんでひらいて
講義・実践演習　⑫テーマ：対旋律
内容・方法：対旋律と主旋律について
【第13回】
ピアノ・レッスン⑬テーマ：楽曲の暗譜
内容・方法：ピアノ基礎教材：クレメンティ　ソナチネ7番　第1楽章
弾き歌い：むすんでひらいて
講義・実践演習　⑬テーマ：幼児歌曲の伴奏④
内容・方法：幼児歌曲にコードで伴奏をつけて演奏する。
【第14回】
ピアノ・レッスン⑭テーマ：楽曲を仕上げる
内容・方法：ピアノ基礎教材：クレメンティ　ソナチネ7番　第1楽章
弾き歌い：十人のインディアン
講義・実践演習　⑭テーマ：幼児歌曲の伴奏⑤
内容・方法：幼児歌曲に分散和音等で伴奏をつけて演奏する。
【第15回】
ピアノ・レッスン⑮テーマ：ピアノ基礎教材曲と弾き歌い曲の発表リハーサル
内容・方法：ピアノ基礎教材の曲と弾き歌い曲発表のリハーサルを行う。
講義・実践演習　⑮テーマ：幼児歌曲のまとめ
内容・方法：幼児歌曲にさまざまな形の伴奏をつけて演奏する。
【定期試験】
ピアノ基礎教材曲と弾き歌い曲の演奏発表後、次の課題曲の選定

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。
各回につき１時間の事前・事後学習が必要である。
【第1回～第12回、第16回～第29回】
①事前学修課題：課題曲の読譜を行っておくこと。運指にも配慮して授業までに練習しておくこと。
②事後学修課題：授業で取りあげた曲の復習。
【第13回、第14回】
①事前学修課題：課題曲の暗譜を行っておくこと。曲の表情にも配慮して授業までに練習しておくこと。
②事後学修課題：授業で取りあげた曲を復習し、演奏発表に備える。
【第15回】
①事前学修課題：ピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、弾き歌いの教材の曲を楽譜を見て歌いながら演奏できるように備える。
②事後学修課題：演奏発表の振り返りを行い、今後も容易に弾けるよう体得する。

課題に対するフィードバックの方法

各回のレッスン・授業で指導された内容が反映されて演奏できているか、翌週のレッスン・授業で確認する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

●以下に示すピアノ実技試験、講義復習課題レポート、課題演奏・課題発表を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
・演奏発表にはそれぞれ課題とされたピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、また弾き歌い教材の曲として『最新・幼児の音楽教育』又は『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』から選んだ曲を楽譜を見て歌いながら演奏する。
　各自の能力に応じた努力を重視する。
　学期末試験でのピアノ基礎教材課題曲暗譜演奏を評価する。
　幼児歌曲の弾き歌いを評価する。
　毎回の予習・復習と課題曲への取り組み状況を評価する。
　曲調に合った演奏ができているか評価する。
・講義で学んだ内容について課題取り組み状況・発表を評価する。

●出欠について
・ピアノ・レッスンはマンツーマンのレッスン形式で一人ずつ順番に行うが、遅刻・欠席をしないよう注意すること。３回遅刻した場合を１回の欠席、15分以上遅刻した場合は欠席とみなす。
・授業開始時間から15分迄を遅刻とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	講義課題についての演奏・取り組み状況（30） 授業への意欲・取り組み姿勢（20）	1～10
授業外での評価	20	課題提出状況（10） 課題取り組み状況（10）	7, 10, 11
定期試験	30	定期試験（基礎教材曲1曲、幼児歌曲1曲）（30）	2, 3, 4, 5, 6
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『保育に役立つ　基礎から学ぶピアノ』/大阪国際大学短期大学部発行/カワイ出版（購入不要） 『最新・幼児の音楽教育　改訂版』/井口太編著/朝日出版社　/ 978-4-255-15725-2　2750円
参考書	必要に応じて配付する。
履修条件・他の科目との関連	全音楽関係科目履修時にピアノは基本となる楽器である故、与えられた課題に真摯に取り組み、充分に練習・向上すること。

授業コード	22052003	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	音楽（応用） a ［対面］				
シラバス執筆(全員)	作野　理恵、光本　諭史、山手　敦子、濵谷　田穂、佐々木　聡子、村上　利香				
シラバス執筆(主)	作野　理恵				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的･概要

本授業はピアノの個人レッスンと、音楽活動の実践方法についての講義・実技演習から成る。
ピアノ・レッスンでは「音楽(基礎) ab」での学びを基礎とし、更なるピアノ演奏技術、並びに表現方法を概説する。
本科目は演奏技術の習得のみにとどまらず、豊かな表現力や音楽性を養うことを目標にしている。
また、幼児歌曲や生活・行事の歌等高難度の「弾き歌い教材曲」を取り上げ、実習や就職活動、並びに実際の保育現場で役立つピアノ演奏について説明する。
講義・実践演習では、コード伴奏や楽曲の編曲方法等について概説し、保育現場における音楽活動に活かすことのできる実践力習得を指導する。
リトミックなどの身体表現に用いるピアノ演奏技術、音楽表現方法を説明する。

到達目標

１．基礎教材曲・幼児歌曲の読譜ができる
２．正しい運指で演奏できる
３．手・腕が脱力した状態で演奏できる
４．基礎教材曲を暗譜で演奏できる
５．曲調に合った演奏表現ができる
６．幼児歌曲の弾き歌いができる
７．和音進行のパターンを用い、メロディーに相応しい伴奏をつけることができる
８．楽曲の簡単な編曲・即興演奏ができる
９．リズム感覚を養うあそびを実践できる
10．こどもの音楽感覚を育てるためのリズム指導ができる
11．課題曲の予習・復習ができる

授業計画

個人レッスンではピアノ基礎教材曲、幼児歌曲の指導を受ける。
講義・実践演習では各回のテーマに基づく課題を五線紙、あるいはプリントに記入し、発表・提出する。
【第1回】
ピアノ・レッスン①テーマ：授業の進め方、概要の説明
内容・方法：１年次生時に取り組んだピアノ基礎教材曲・弾き歌い教材曲を次の段階へ進める。
講義・実践演習　①テーマ：授業についてのガイダンス
内容・方法：授業の進め方、概要の説明。

（ピアノ・レッスンにおけるピアノ基礎教材・弾き歌い教材は習得のモデルである）
【第2回】
ピアノ・レッスン②テーマ：レガート奏法の習得
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　素直な心
弾き歌い：メリーさんのひつじ
講義・実践演習　②テーマ：楽譜の表示
内容・方法等：楽譜の表示について学ぶ。
【第3回】
ピアノ・レッスン③テーマ：対旋律の弾き方
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　素直な心
弾き歌い：メリーさんのひつじ
講義・実践演習　③テーマ：コードネーム
内容・方法等:コードネームについて学ぶ。
【第4回】
ピアノ・レッスン④テーマ：16分音符の細かい動き
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　アラベスク
弾き歌い：おうま
講義・実践演習　④テーマ：幼児歌曲の伴奏①
内容・方法等：ベース音による伴奏を学ぶ。
【第5回】
ピアノ・レッスン⑤テーマ：2拍子を感じる
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　アラベスク
弾き歌い：おうま
講義・実践演習　⑤テーマ：幼児歌曲の伴奏②
内容・方法等：コードによる伴奏付けを学ぶ。
【第6回】
ピアノ・レッスン⑥テーマ：左手の16分音符の動き
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　バラード

弾き歌い：水あそび
講義・実践演習　⑥テーマ：幼児歌曲の伴奏③
内容・方法等：さまざまな伴奏形を学ぶ。
【第7回】
ピアノ・レッスン⑦テーマ：和音の連打
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　バラード
弾き歌い：水あそび
講義・実践演習　⑦テーマ：幼児歌曲の伴奏・アレンジ
内容・方法等：幼児歌曲の伴奏形を変奏してアレンジする。
【第8回】
ピアノ・レッスン⑧テーマ：3拍子を感じる
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　バラード
弾き歌い：かたつむり
講義・実践演習　⑧テーマ：幼児歌曲の移調①
内容・方法：簡易な幼児歌曲を移調して演奏する方法を学ぶ。
【第9回】
ピアノ・レッスン⑨テーマ：スタッカートとレガートの違い
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　貴婦人の乗馬
弾き歌い：かたつむり
講義・実践演習　⑨テーマ：幼児歌曲の移調②
内容・方法：簡易な幼児歌曲を移調して演奏する方法を学ぶ。
【第10回】
ピアノ・レッスン⑩テーマ：16分音符の音階
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　貴婦人の乗馬
弾き歌い：やぎさんゆうびん
講義・実践演習　⑩テーマ：和音①
内容・方法：主要三和音と副三和音
【第11回】
ピアノ・レッスン⑪テーマ：3連音符の奏法
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー　貴婦人の乗馬
弾き歌い：やぎさんゆうびん
講義・実践演習　⑪テーマ：和音②
内容・方法：転回形について
【第12回】
ピアノ・レッスン⑫テーマ：ソナチネの形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：クレメンティ　ソナチネ7番　第1楽章
弾き歌い：むすんでひらいて
講義・実践演習　⑫テーマ：対旋律
内容・方法：対旋律と主旋律について
【第13回】
ピアノ・レッスン⑬テーマ：楽曲の暗譜
内容・方法：ピアノ基礎教材：クレメンティ　ソナチネ7番　第1楽章
弾き歌い：むすんでひらいて
講義・実践演習　⑬テーマ：幼児歌曲の伴奏④
内容・方法：幼児歌曲にコードで伴奏をつけて演奏する。
【第14回】
ピアノ・レッスン⑭テーマ：楽曲を仕上げる
内容・方法：ピアノ基礎教材：クレメンティ　ソナチネ7番　第1楽章
弾き歌い：十人のインディアン
講義・実践演習　⑭テーマ：幼児歌曲の伴奏⑤
内容・方法：幼児歌曲に分散和音等で伴奏をつけて演奏する。
【第15回】
ピアノ・レッスン⑮テーマ：ピアノ基礎教材曲と弾き歌い曲の発表リハーサル
内容・方法：ピアノ基礎教材の曲と弾き歌い曲発表のリハーサルを行う。
講義・実践演習　⑮テーマ：幼児歌曲のまとめ
内容・方法：幼児歌曲にさまざまな形の伴奏をつけて演奏する。
【定期試験】
ピアノ基礎教材曲と弾き歌い曲の演奏発表後、次の課題曲の選定

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。
各回につき１時間の事前・事後学習が必要である。
【第1回～第12回、第16回～第29回】
①事前学修課題：課題曲の読譜を行っておくこと。運指にも配慮して授業までに練習しておくこと。
②事後学修課題：授業で取りあげた曲の復習。
【第13回、第14回】
①事前学修課題：課題曲の暗譜を行っておくこと。曲の表情にも配慮して授業までに練習しておくこと。
②事後学修課題：授業で取りあげた曲を復習し、演奏発表に備える。
【第15回】
①事前学修課題：ピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、弾き歌いの教材の曲を楽譜を見て歌いながら演奏できるように備える。
②事後学修課題：演奏発表の振り返りを行い、今後も容易に弾けるよう体得する。

課題に対するフィードバックの方法

各回のレッスン・授業で指導された内容が反映されて演奏できているか、翌週のレッスン・授業で確認する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

●以下に示すピアノ実技試験、講義復習課題レポート、課題演奏・課題発表を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
・演奏発表にはそれぞれ課題とされたピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、また弾き歌い教材の曲として『最新・幼児の音楽教育』又は『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』から選んだ曲を楽譜を見て歌いながら演奏する。
　各自の能力に応じた努力を重視する。
　学期末試験でのピアノ基礎教材課題曲暗譜演奏を評価する。
　幼児歌曲の弾き歌いを評価する。
　毎回の予習・復習と課題曲への取り組み状況を評価する。
　曲調に合った演奏ができているか評価する。
・講義で学んだ内容について課題取り組み状況・発表を評価する。

●出欠について
・ピアノ・レッスンはマンツーマンのレッスン形式で一人ずつ順番に行うが、遅刻・欠席をしないよう注意すること。３回遅刻した場合を１回の欠席、15分以上遅刻した場合は欠席とみなす。
・授業開始時間から15分迄を遅刻とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	講義課題についての演奏・取り組み状況（30） 授業への意欲・取り組み姿勢（20）	1～10
授業外での評価	20	課題提出状況（10） 課題取り組み状況（10）	7, 10, 11
定期試験	30	定期試験（基礎教材曲1曲、幼児歌曲1曲）（30）	2, 3, 4, 5, 6
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『保育に役立つ　基礎から学ぶピアノ』/大阪国際大学短期大学部発行/カワイ出版（購入不要） 『最新・幼児の音楽教育　改訂版』/井口太編著/朝日出版社　/ 978-4-255-15725-2　2750円
参考書	必要に応じて配付する。
履修条件・他の科目との関連	全音楽関係科目履修時にピアノは基本となる楽器である故、与えられた課題に真摯に取り組み、充分に練習・向上すること。

授業コード	22052101	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	音楽（応用）ｂ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	作野　理恵、光本　諭史、寺見　香織、錦見　朋子、平田　道子				
シラバス執筆(主)	作野　理恵				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

本授業はピアノの個人レッスンと、音楽活動の実践方法についての講義・実技演習から成る。
ピアノ・レッスンでは「音楽(基礎) ab」「音楽(応用)a」での学びを更に発展させ、多様なピアノ演奏技術、並びに表現方法を説明する。
本科目は演奏技術の習得のみにとどまらず、豊かな表現力や音楽性を養うことを目標にしている。
また、幼児歌曲や生活・行事の歌等高難度の「弾き歌い教材曲」を取り上げ、実習や就職活動、並びに実際の保育現場で役立つピアノ演奏について説明する。
講義・実践演習では、コード伴奏や楽曲の編曲方法等について概説し、保育現場における音楽活動に活かすことのできる実践力習得を指導する。
リトミックなどの身体表現に用いるピアノ演奏技術、音楽表現方法を概説する。

到達目標

１．基礎教材曲・幼児歌曲の読譜ができる
２．正しい運指で演奏できる
３．手・腕が脱力した状態で演奏できる
４．基礎教材曲を暗譜で演奏できる
５．曲調に合った演奏表現ができる
６．幼児歌曲の弾きうたいができる
７．和音進行のパターンを用い、メロディーに相応しい伴奏をつけることができる
８．楽曲の簡易なアレンジ・即興演奏ができる
９．リズム感覚を養うあそびを実践できる
10．こどもの音楽感覚を育てるためのリズム指導ができる
11．課題曲の予習・復習ができている

授業計画

個人レッスンではピアノ基礎教材曲、幼児歌曲の指導を受ける。
講義・実践演習では各回のテーマに基づく課題を五線紙、あるいはプリントに記入し、発表する。
【第1回】
ピアノ・レッスン⑯テーマ：メロディのフレーズ
内容・方法：ピアノ基礎教材　クレメンティ　ソナチネ7番　第3楽章
弾き歌い：ひげじいさん
講義・実践演習　⑯テーマ：身体表現、リトミックについて
内容・方法：・後期授業のガイダンス　幼児にとっての身体表現の意味と必要性
【第2回】
ピアノ・レッスン⑰テーマ：複合二部形式
内容・方法：ピアノ基礎教材　クレメンティ　ソナチネ7番　第3楽章
弾き歌い：ひげじいさん
講義・実践演習　⑰テーマ：音と音楽
内容・方法：音に反応することと、音楽に同調することについて考察する。
【第3回】
ピアノ・レッスン⑱テーマ：ソナタ形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：　クーラウ　ソナチネ4番　第1楽章
弾き歌い：はをみがきましょう
講義・実践演習　⑱テーマ：リズムと動き
内容・方法：リズムの捉え方とリズムを感じた動きを体感し、それを楽器で表現する方法を学ぶ。
【第4回】
ピアノ・レッスン⑱テーマ：指使いの工夫
内容・方法：ピアノ基礎教材：　クーラウ　ソナチネ4番　第1楽章
弾き歌い：はをみがきましょう
講義・実践演習　⑲テーマ：音楽の捉え方①
内容・方法：等速感について考察・体感し、ピアノで表現する。
【第5回】
ピアノ・レッスン⑳テーマ：ロンド形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ　　ソナチネ4番　第２楽章
弾き歌い：とんぼのめがね
講義・実践演習　⑳テーマ：音楽の捉え方②
内容・方法：拍子感、フレーズ感について考察、体感し、ピアノで表現する。
【第6回】
ピアノ・レッスン㉑テーマ：半音階の動き
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ　　ソナチネ4番　第２楽章
弾き歌い：とんぼのめがね

講義・実践演習　㉑テーマ：リズムあそび①
内容・方法：歩くことを中心にしたリズムあそびを学習しその活動のためのピアノ曲を習得する。
【第7回】
ピアノ・レッスン㉒テーマ：トリルの入れ方
内容・方法：基礎教材：クレメンティ　ソナチネ9番　第1楽章
弾き歌い：どんぐりころころ
講義・実践演習　㉒テーマ：リズムあそび②
内容・方法：模倣を中心にしたリズムあそびを学習し、その活動のためのピアノ曲を習得する。
【第8回】
ピアノ・レッスン㉓テーマ：装飾音の入れ方
内容・方法：基礎教材：クレメンティ　ソナチネ9番　第1楽章
弾き歌い：どんぐりころころ
講義・実践演習　㉓テーマ：リズムあそび③
内容・方法：道具・小物楽器をつかったリズムあそびを学習する。
【第9回】
ピアノ・レッスン㉔テーマ：複合三部形式
内容・方法：基礎教材：クレメンティ　ソナチネ9番　第３楽章
弾き歌い：雪
講義・実践演習　㉔テーマ：リズムあそび④
内容・方法：鍵盤楽器をつかったリズムあそびを学習する。
【第10回】
ピアノ・レッスン㉕テーマ：和音の連打
内容・方法：基礎教材：クレメンティ　ソナチネ9番　第３楽章
弾き歌い：犬のおまわりさん
講義・実践演習　㉕テーマ：リズムとことば
内容・方法：リズムとことばの関連を考察し、ことばをつかったリズムあそびを学習する。

【第11回】
ピアノ・レッスン㉖テーマ：ソナタ形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：ベートーヴェン　ソナタ作品49-2　第1楽章
弾き歌い：ジングルベル
講義・実践演習　㉖テーマ：うたと動き
内容・方法：うたと身体表現の関連を考察し、うたいながらの身体表現を学習する。
【第12回】
ピアノ・レッスン㉗テーマ：ソナタについて
内容・方法：ピアノ基礎教材：ベートーヴェン　ソナタ作品49-2　第1楽章
弾き歌い：小ぎつね
講義・実践演習　㉗テーマ：身体表現のための音楽の捉え方①
内容・方法：身体表現のためのピアノ演奏法～伴奏付け・変奏について
【第13回】
ピアノ・レッスン㉘テーマ：楽曲の暗譜
内容・方法：ピアノ基礎教材：モーツァルト　ソナタ　K.545　第1楽章
弾き歌い：雪のペンキやさん
講義・実践演習　㉘テーマ：身体表現のための音楽の捉え方②
内容・方法：身体表現のためのピアノ演奏法～表情について
【第14回】
ピアノ・レッスン㉙テーマ：楽曲を仕上げる
内容・方法：ピアノ基礎教材：モーツァルト　ソナタ　K.545　第1楽章
弾き歌い：雪のペンキやさん
講義・実践演習　㉙テーマ：身体表現のための音楽の捉え方③
内容・方法：身体表現のためのピアノ演奏法～拍子について
【第15回】
ピアノ・レッスン㉚テーマ：ピアノ基礎教材の曲と弾き歌いの曲の仕上げ。
内容・方法：ピアノ基礎教材の曲と弾き歌いの曲を仕上げ、発表練習をする。
講義・実践演習　㉚テーマ：演奏発表・まとめ
内容・方法：身体表現のための音楽表現方法のまとめ・発表
【定期試験】
ピアノ基礎教材曲と弾き歌い曲の演奏発表後、振り返りを行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。
各回につき１時間の事前・事後学習が必要である。
【第1回～第12回、第16回～第29回】
①事前学修課題：課題曲の読譜を行っておくこと。運指にも配慮して授業までに練習しておくこと。
②事後学修課題：授業で取りあげた曲の復習。
【第13回、第14回】
①事前学修課題：課題曲の暗譜を行っておくこと。曲の表情にも配慮して授業までに練習しておくこと。
②事後学修課題：授業で取りあげた曲を復習し、演奏発表に備える。
【第15回】
①事前学修課題：ピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、弾き歌いの教材の曲を楽譜を見て歌いながら演奏できるように備える。
②事後学修課題：演奏発表の振り返りを行い、今後も容易に弾けるよう体得する。

課題に対するフィードバックの方法

各回のレッスン・授業で指導された内容が反映されて演奏できているか、翌週のレッスン・授業で確認する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

●以下に示すピアノ実技試験、講義復習課題レポート、課題演奏・課題発表を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
・演奏発表にはそれぞれ課題とされたピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、また弾き歌い教材の曲として『最新・幼児の音楽教育』又は『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』から選んだ曲を楽譜を見て歌いながら演奏する。
　各自の能力に応じた努力を重視する。
　学期末試験でのピアノ基礎教材課題曲暗譜演奏を評価する。
　幼児歌曲の弾き歌いを評価する。
　毎回の予習・復習と課題曲への取り組み状況を評価する。
　曲調に合った演奏ができているか評価する。
・講義で学んだ内容について課題取り組み状況・発表を評価する。

●出欠について
・ピアノ・レッスンはマンツーマンのレッスン形式で一人ずつ順番に行うが、遅刻・欠席をしないよう注意すること。３回遅刻した場合を１回の欠席、15分以上遅刻した場合は欠席とみなす。
・授業開始時間から15分迄を遅刻とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	講義課題についての演奏・取り組み状況（30） 授業への意欲・取り組み姿勢（20）	1～10
授業外での評価	20	課題提出状況（10） 課題取り組み状況（10）	7, 10, 11
定期試験	30	定期試験（基礎教材曲1曲、幼児歌曲1曲）（30）	2, 3, 4, 5, 6
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『保育に役立つ　基礎から学ぶピアノ』/大阪国際大学短期大学部発行/カワイ出版（購入不要） 『最新・幼児の音楽教育　改訂版』/井口太編著/朝日出版社　/ 978-4-255-15725-2　2750円
参考書	必要に応じて配付します。
履修条件・他の科目との関連	全音楽関係科目履修時にピアノは基本となる楽器である故、与えられた課題に真摯に取り組み、充分に練習・向上すること。

授業コード	22052102	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	音楽（応用）ｂ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	作野　理恵、光本　諭史、蜂谷　葉子、平田　道子、村上　利香				
シラバス執筆(主)	作野　理恵				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

本授業はピアノの個人レッスンと、音楽活動の実践方法についての講義・実技演習から成る。
ピアノ・レッスンでは「音楽(基礎) ab」「音楽(応用)a」での学びを更に発展させ、多様なピアノ演奏技術、並びに表現方法を説明する。
本科目は演奏技術の習得のみにとどまらず、豊かな表現力や音楽性を養うことを目標にしている。
また、幼児歌曲や生活・行事の歌等高難度の「弾き歌い教材曲」を取り上げ、実習や就職活動、並びに実際の保育現場で役立つピアノ演奏について説明する。
講義・実践演習では、コード伴奏や楽曲の編曲方法等について概説し、保育現場における音楽活動に活かすことのできる実践力習得を指導する。
リトミックなどの身体表現に用いるピアノ演奏技術、音楽表現方法を概説する。

到達目標

１．基礎教材曲・幼児歌曲の読譜ができる
２．正しい運指で演奏できる
３．手・腕が脱力した状態で演奏できる
４．基礎教材曲を暗譜で演奏できる
５．曲調に合った演奏表現ができる
６．幼児歌曲の弾きうたいができる
７．和音進行のパターンを用い、メロディーに相応しい伴奏をつけることができる
８．楽曲の簡易なアレンジ・即興演奏ができる
９．リズム感覚を養うあそびを実践できる
10．こどもの音楽感覚を育てるためのリズム指導ができる
11．課題曲の予習・復習ができている

授業計画

個人レッスンではピアノ基礎教材曲、幼児歌曲の指導を受ける。
講義・実践演習では各回のテーマに基づく課題を五線紙、あるいはプリントに記入し、発表する。
【第1回】
ピアノ・レッスン⑯テーマ：メロディのフレーズ
内容・方法：ピアノ基礎教材　クレメンティ　ソナチネ7番　第3楽章
弾き歌い：ひげじいさん
講義・実践演習　⑯テーマ：身体表現、リトミックについて
内容・方法：・後期授業のガイダンス　幼児にとっての身体表現の意味と必要性
【第2回】
ピアノ・レッスン⑰テーマ：複合二部形式
内容・方法：ピアノ基礎教材　クレメンティ　ソナチネ7番　第3楽章
弾き歌い：ひげじいさん
講義・実践演習　⑰テーマ：音と音楽
内容・方法：音に反応することと、音楽に同調することについて考察する。
【第3回】
ピアノ・レッスン⑱テーマ：ソナタ形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：　クーラウ　ソナチネ4番　第1楽章
弾き歌い：はをみがきましょう
講義・実践演習　⑱テーマ：リズムと動き
内容・方法：リズムの捉え方とリズムを感じた動きを体感し、それを楽器で表現する方法を学ぶ。
【第4回】
ピアノ・レッスン⑱テーマ：指使いの工夫
内容・方法：ピアノ基礎教材：　クーラウ　ソナチネ4番　第1楽章
弾き歌い：はをみがきましょう
講義・実践演習　⑲テーマ：音楽の捉え方①
内容・方法：等速感について考察・体感し、ピアノで表現する。
【第5回】
ピアノ・レッスン⑳テーマ：ロンド形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ　　ソナチネ4番　第２楽章
弾き歌い：とんぼのめがね
講義・実践演習　⑳テーマ：音楽の捉え方②
内容・方法：拍子感、フレーズ感について考察、体感し、ピアノで表現する。
【第6回】
ピアノ・レッスン㉑テーマ：半音階の動き
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ　　ソナチネ4番　第２楽章
弾き歌い：とんぼのめがね

講義・実践演習　㉑テーマ：リズムあそび①
内容・方法：歩くことを中心にしたリズムあそびを学習しその活動のためのピアノ曲を習得する。
【第7回】
ピアノ・レッスン㉒テーマ：トリルの入れ方
内容・方法：基礎教材：クレメンティ　ソナチネ9番　第1楽章
弾き歌い：どんぐりころころ
講義・実践演習　㉒テーマ：リズムあそび②
内容・方法：模倣を中心にしたリズムあそびを学習し、その活動のためのピアノ曲を習得する。
【第8回】
ピアノ・レッスン㉓テーマ：装飾音の入れ方
内容・方法：基礎教材：クレメンティ　ソナチネ9番　第1楽章
弾き歌い：どんぐりころころ
講義・実践演習　㉓テーマ：リズムあそび③
内容・方法：道具・小物楽器をつかったリズムあそびを学習する。
【第9回】
ピアノ・レッスン㉔テーマ：複合三部形式
内容・方法：基礎教材：クレメンティ　ソナチネ9番　第３楽章
弾き歌い：雪
講義・実践演習　㉔テーマ：リズムあそび④
内容・方法：鍵盤楽器をつかったリズムあそびを学習する。
【第10回】
ピアノ・レッスン㉕テーマ：和音の連打
内容・方法：基礎教材：クレメンティ　ソナチネ9番　第３楽章
弾き歌い：犬のおまわりさん
講義・実践演習　㉕テーマ：リズムとことば
内容・方法：リズムとことばの関連を考察し、ことばをつかったリズムあそびを学習する。

【第11回】
ピアノ・レッスン㉖テーマ：ソナタ形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：ベートーヴェン　ソナタ作品49-2　第1楽章
弾き歌い：ジングルベル
講義・実践演習　㉖テーマ：うたと動き
内容・方法：うたと身体表現の関連を考察し、うたいながらの身体表現を学習する。
【第12回】
ピアノ・レッスン㉗テーマ：ソナタについて
内容・方法：ピアノ基礎教材：ベートーヴェン　ソナタ作品49-2　第1楽章
弾き歌い：小ぎつね
講義・実践演習　㉗テーマ：身体表現のための音楽の捉え方①
内容・方法：身体表現のためのピアノ演奏法～伴奏付け・変奏について
【第13回】
ピアノ・レッスン㉘テーマ：楽曲の暗譜
内容・方法：ピアノ基礎教材：モーツァルト　ソナタ　K.545　第1楽章
弾き歌い：雪のペンキやさん
講義・実践演習　㉘テーマ：身体表現のための音楽の捉え方②
内容・方法：身体表現のためのピアノ演奏法～表情について
【第14回】
ピアノ・レッスン㉙テーマ：楽曲を仕上げる
内容・方法：ピアノ基礎教材：モーツァルト　ソナタ　K.545　第1楽章
弾き歌い：雪のペンキやさん
講義・実践演習　㉙テーマ：身体表現のための音楽の捉え方③
内容・方法：身体表現のためのピアノ演奏法～拍子について
【第15回】
ピアノ・レッスン㉚テーマ：ピアノ基礎教材の曲と弾き歌いの曲の仕上げ。
内容・方法：ピアノ基礎教材の曲と弾き歌いの曲を仕上げ、発表練習をする。
講義・実践演習　㉚テーマ：演奏発表・まとめ
内容・方法：身体表現のための音楽表現方法のまとめ・発表
【定期試験】
ピアノ基礎教材曲と弾き歌い曲の演奏発表後、振り返りを行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。
各回につき１時間の事前・事後学習が必要である。
【第1回～第12回、第16回～第29回】
①事前学修課題：課題曲の読譜を行っておくこと。運指にも配慮して授業までに練習しておくこと。
②事後学修課題：授業で取りあげた曲の復習。
【第13回、第14回】
①事前学修課題：課題曲の暗譜を行っておくこと。曲の表情にも配慮して授業までに練習しておくこと。
②事後学修課題：授業で取りあげた曲を復習し、演奏発表に備える。
【第15回】
①事前学修課題：ピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、弾き歌いの教材の曲を楽譜を見て歌いながら演奏できるように備える。
②事後学修課題：演奏発表の振り返りを行い、今後も容易に弾けるよう体得する。

課題に対するフィードバックの方法

各回のレッスン・授業で指導された内容が反映されて演奏できているか、翌週のレッスン・授業で確認する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

●以下に示すピアノ実技試験、講義復習課題レポート、課題演奏・課題発表を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
・演奏発表にはそれぞれ課題とされたピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、また弾き歌い教材の曲として『最新・幼児の音楽教育』又は『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』から選んだ曲を楽譜を見て歌いながら演奏する。
　各自の能力に応じた努力を重視する。
　学期末試験でのピアノ基礎教材課題曲暗譜演奏を評価する。
　幼児歌曲の弾き歌いを評価する。
　毎回の予習・復習と課題曲への取り組み状況を評価する。
　曲調に合った演奏ができているか評価する。
・講義で学んだ内容について課題取り組み状況・発表を評価する。

●出欠について
・ピアノ・レッスンはマンツーマンのレッスン形式で一人ずつ順番に行うが、遅刻・欠席をしないよう注意すること。３回遅刻した場合を１回の欠席、15分以上遅刻した場合は欠席とみなす。
・授業開始時間から15分迄を遅刻とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	講義課題についての演奏・取り組み状況（30） 授業への意欲・取り組み姿勢（20）	1～10
授業外での評価	20	課題提出状況（10） 課題取り組み状況（10）	7, 10, 11
定期試験	30	定期試験（基礎教材曲1曲、幼児歌曲1曲）（30）	2, 3, 4, 5, 6
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『保育に役立つ　基礎から学ぶピアノ』/大阪国際大学短期大学部発行/カワイ出版（購入不要） 『最新・幼児の音楽教育　改訂版』/井口太編著/朝日出版社　/ 978-4-255-15725-2　2750円
参考書	必要に応じて配付します。
履修条件・他の科目との関連	全音楽関係科目履修時にピアノは基本となる楽器である故、与えられた課題に真摯に取り組み、充分に練習・向上すること。

授業コード	22052103	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	音楽（応用）ｂ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	作野　理恵、光本　諭史、山手　敦子、濵谷　田穂、佐々木　聡子、村上　利香				
シラバス執筆(主)	作野　理恵				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

本授業はピアノの個人レッスンと、音楽活動の実践方法についての講義・実技演習から成る。
ピアノ・レッスンでは「音楽(基礎) ab」「音楽(応用)a」での学びを更に発展させ、多様なピアノ演奏技術、並びに表現方法を説明する。
本科目は演奏技術の習得のみにとどまらず、豊かな表現力や音楽性を養うことを目標にしている。
また、幼児歌曲や生活・行事の歌等高難度の「弾き歌い教材曲」を取り上げ、実習や就職活動、並びに実際の保育現場で役立つピアノ演奏について説明する。
講義・実践演習では、コード伴奏や楽曲の編曲方法等について概説し、保育現場における音楽活動に活かすことのできる実践力習得を指導する。
リトミックなどの身体表現に用いるピアノ演奏技術、音楽表現方法を概説する。

到達目標

１．基礎教材曲・幼児歌曲の読譜ができる
２．正しい運指で演奏できる
３．手・腕が脱力した状態で演奏できる
４．基礎教材曲を暗譜で演奏できる
５．曲調に合った演奏表現ができる
６．幼児歌曲の弾きうたいができる
７．和音進行のパターンを用い、メロディーに相応しい伴奏をつけることができる
８．楽曲の簡易なアレンジ・即興演奏ができる
９．リズム感覚を養うあそびを実践できる
10．こどもの音楽感覚を育てるためのリズム指導ができる
11．課題曲の予習・復習ができている

授業計画

個人レッスンではピアノ基礎教材曲、幼児歌曲の指導を受ける。
講義・実践演習では各回のテーマに基づく課題を五線紙、あるいはプリントに記入し、発表する。
【第1回】
ピアノ・レッスン⑯テーマ：メロディのフレーズ
内容・方法：ピアノ基礎教材　クレメンティ　ソナチネ7番　第3楽章
弾き歌い：ひげじいさん
講義・実践演習　⑯テーマ：身体表現、リトミックについて
内容・方法：・後期授業のガイダンス　幼児にとっての身体表現の意味と必要性
【第2回】
ピアノ・レッスン⑰テーマ：複合二部形式
内容・方法：ピアノ基礎教材　クレメンティ　ソナチネ7番　第3楽章
弾き歌い：ひげじいさん
講義・実践演習　⑰テーマ：音と音楽
内容・方法：音に反応することと、音楽に同調することについて考察する。
【第3回】
ピアノ・レッスン⑱テーマ：ソナタ形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：　クーラウ　ソナチネ4番　第1楽章
弾き歌い：はをみがきましょう
講義・実践演習　⑱テーマ：リズムと動き
内容・方法：リズムの捉え方とリズムを感じた動きを体感し、それを楽器で表現する方法を学ぶ。
【第4回】
ピアノ・レッスン⑱テーマ：指使いの工夫
内容・方法：ピアノ基礎教材：　クーラウ　ソナチネ4番　第1楽章
弾き歌い：はをみがきましょう
講義・実践演習　⑲テーマ：音楽の捉え方①
内容・方法：等速感について考察・体感し、ピアノで表現する。
【第5回】
ピアノ・レッスン⑳テーマ：ロンド形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ　　ソナチネ4番　第２楽章
弾き歌い：とんぼのめがね
講義・実践演習　⑳テーマ：音楽の捉え方②
内容・方法：拍子感、フレーズ感について考察、体感し、ピアノで表現する。
【第6回】
ピアノ・レッスン㉑テーマ：半音階の動き
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ　　ソナチネ4番　第２楽章
弾き歌い：とんぼのめがね

講義・実践演習　㉑テーマ：リズムあそび①
内容・方法：歩くことを中心にしたリズムあそびを学習しその活動のためのピアノ曲を習得する。
【第7回】
ピアノ・レッスン㉒テーマ：トリルの入れ方
内容・方法：基礎教材：クレメンティ　ソナチネ9番　第1楽章
弾き歌い：どんぐりころころ
講義・実践演習　㉒テーマ：リズムあそび②
内容・方法：模倣を中心にしたリズムあそびを学習し、その活動のためのピアノ曲を習得する。
【第8回】
ピアノ・レッスン㉓テーマ：装飾音の入れ方
内容・方法：基礎教材：クレメンティ　ソナチネ9番　第1楽章
弾き歌い：どんぐりころころ
講義・実践演習　㉓テーマ：リズムあそび③
内容・方法：道具・小物楽器をつかったリズムあそびを学習する。
【第9回】
ピアノ・レッスン㉔テーマ：複合三部形式
内容・方法：基礎教材：クレメンティ　ソナチネ9番　第３楽章
弾き歌い：雪
講義・実践演習　㉔テーマ：リズムあそび④
内容・方法：鍵盤楽器をつかったリズムあそびを学習する。
【第10回】
ピアノ・レッスン㉕テーマ：和音の連打
内容・方法：基礎教材：クレメンティ　ソナチネ9番　第３楽章
弾き歌い：犬のおまわりさん
講義・実践演習　㉕テーマ：リズムとことば
内容・方法：リズムとことばの関連を考察し、ことばをつかったリズムあそびを学習する。

【第11回】
ピアノ・レッスン㉖テーマ：ソナタ形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：ベートーヴェン　ソナタ作品49-2　第1楽章
弾き歌い：ジングルベル
講義・実践演習　㉖テーマ：うたと動き
内容・方法：うたと身体表現の関連を考察し、うたいながらの身体表現を学習する。
【第12回】
ピアノ・レッスン㉗テーマ：ソナタについて
内容・方法：ピアノ基礎教材：ベートーヴェン　ソナタ作品49-2　第1楽章
弾き歌い：小ぎつね
講義・実践演習　㉗テーマ：身体表現のための音楽の捉え方①
内容・方法：身体表現のためのピアノ演奏法～伴奏付け・変奏について
【第13回】
ピアノ・レッスン㉘テーマ：楽曲の暗譜
内容・方法：ピアノ基礎教材：モーツァルト　ソナタ　K.545　第1楽章
弾き歌い：雪のペンキやさん
講義・実践演習　㉘テーマ：身体表現のための音楽の捉え方②
内容・方法：身体表現のためのピアノ演奏法～表情について
【第14回】
ピアノ・レッスン㉙テーマ：楽曲を仕上げる
内容・方法：ピアノ基礎教材：モーツァルト　ソナタ　K.545　第1楽章
弾き歌い：雪のペンキやさん
講義・実践演習　㉙テーマ：身体表現のための音楽の捉え方③
内容・方法：身体表現のためのピアノ演奏法～拍子について
【第15回】
ピアノ・レッスン㉚テーマ：ピアノ基礎教材の曲と弾き歌いの曲の仕上げ。
内容・方法：ピアノ基礎教材の曲と弾き歌いの曲を仕上げ、発表練習をする。
講義・実践演習　㉚テーマ：演奏発表・まとめ
内容・方法：身体表現のための音楽表現方法のまとめ・発表
【定期試験】
ピアノ基礎教材曲と弾き歌い曲の演奏発表後、振り返りを行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。
各回につき１時間の事前・事後学習が必要である。
【第1回～第12回、第16回～第29回】
①事前学修課題：課題曲の読譜を行っておくこと。運指にも配慮して授業までに練習しておくこと。
②事後学修課題：授業で取りあげた曲の復習。
【第13回、第14回】
①事前学修課題：課題曲の暗譜を行っておくこと。曲の表情にも配慮して授業までに練習しておくこと。
②事後学修課題：授業で取りあげた曲を復習し、演奏発表に備える。
【第15回】
①事前学修課題：ピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、弾き歌いの教材の曲を楽譜を見て歌いながら演奏できるように備える。
②事後学修課題：演奏発表の振り返りを行い、今後も容易に弾けるよう体得する。

課題に対するフィードバックの方法

各回のレッスン・授業で指導された内容が反映されて演奏できているか、翌週のレッスン・授業で確認する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

●以下に示すピアノ実技試験、講義復習課題レポート、課題演奏・課題発表を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
・演奏発表にはそれぞれ課題とされたピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、また弾き歌い教材の曲として『最新・幼児の音楽教育』又は『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』から選んだ曲を楽譜を見て歌いながら演奏する。
　各自の能力に応じた努力を重視する。
　学期末試験でのピアノ基礎教材課題曲暗譜演奏を評価する。
　幼児歌曲の弾き歌いを評価する。
　毎回の予習・復習と課題曲への取り組み状況を評価する。
　曲調に合った演奏ができているか評価する。
・講義で学んだ内容について課題取り組み状況・発表を評価する。

●出欠について
・ピアノ・レッスンはマンツーマンのレッスン形式で一人ずつ順番に行うが、遅刻・欠席をしないよう注意すること。３回遅刻した場合を１回の欠席、15分以上遅刻した場合は欠席とみなす。
・授業開始時間から15分迄を遅刻とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	講義課題についての演奏・取り組み状況（30） 授業への意欲・取り組み姿勢（20）	1～10
授業外での評価	20	課題提出状況（10） 課題取り組み状況（10）	7, 10, 11
定期試験	30	定期試験（基礎教材曲1曲、幼児歌曲1曲）（30）	2, 3, 4, 5, 6
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『保育に役立つ　基礎から学ぶピアノ』/大阪国際大学短期大学部発行/カワイ出版（購入不要） 『最新・幼児の音楽教育　改訂版』/井口太編著/朝日出版社　/ 978-4-255-15725-2　2750円
参考書	必要に応じて配付します。
履修条件・他の科目との関連	全音楽関係科目履修時にピアノは基本となる楽器である故、与えられた課題に真摯に取り組み、充分に練習・向上すること。

授業コード	22052201	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	吹奏楽Ｉａ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	山内　由香				
シラバス執筆（主）	山内　由香				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

（目的）
この授業は、管打楽器演奏を自ら経験することにより、保育現場で必要とされる音楽表現方法を習得させるために、音楽基礎知識に加え、演奏指導法を概説する。
管打楽器を経験したことがない学生には、演奏技術を深めるだけでなく、他の人と協力し合いながら一つの音楽作品を仕上げる喜びを見いだしていくことを目標とする。
（内容）
吹奏楽オリジナル作品だけでなく、比較的馴染みのある楽曲を使用し、初心者についても自らの上達が感じられることを目指す。
また、教員が合奏を仕上げる過程を概説し、子どもへの指導法を習得する。

到達目標

1、さまざまな楽曲に取り組むことで、より深い音楽表現ができる
2、初心者にとっては管打楽器の正しい奏法で演奏ができる
3、経験者にはより確立した技術で演奏できる
4、他者と協力し合いながら演奏することができる

授業計画

【第1回】
テーマ：吹奏楽で使用される楽器の種類とそれぞれの特質
内容・方法：　木管・金管・打楽器それぞれの楽器の音色・特色を説明し、自分が演奏する楽器を選びます
【第2回】
テーマ：楽器の組み立てと手入れ
内容・方法：　演奏に入る前に、正しい組立方と毎回の手入れについて練習します
【第3回】
テーマ：基本トレーニング１（マウスピースによる）
内容・方法：　マウスピースのみで音が出るまで練習します
【第4回】
テーマ：基礎トレーニング２（音出しの実際）
内容・方法：　楽器にマウスピースをつけ、実際に音を出してみます
【第5回】
テーマ：基礎トレーニング３（音出しの実際）
内容・方法：　一番出しやすい音域を徹底的に吹いてみます
【第6回】
テーマ：基礎トレーニング４（音出しの実際）
内容・方法：　徐々に音域を広げていきます
【第7回】
テーマ：音階１
内容・方法：　統一した楽譜で合奏形態で行います
【第8回】
テーマ：音階２
内容・方法：　音階の種類を増やしていきます
【第9回】
テーマ：基本トレーニング２（音出しの実際）
内容・方法：　楽器にマウスピースをつけ、実際に音を出してみます
【第10回】
テーマ：基本トレーニング３（音出しの実際）
内容・方法：　一番、出しやすい音域を徹底的に吹いてみます
【第11回】
テーマ：基本トレーニング４（音出しの実際）
内容・方法：　徐々に音域を広げていきます
【第12回】
テーマ：音階１
内容・方法：　統一した楽譜で合奏形態で行います
【第13回】
テーマ：合奏１
内容・方法：　初心者向けの曲を配布しパート練習から始めます
【第14回】
テーマ：合奏３
内容・方法：　指揮者から音楽的な要求をしていきます
【第15回】
テーマ：成果の発表

内容・方法：　自分のパートがどれくらいできるようになったかを確認します

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（１回につき２時間として計算）と事前事後のあわせて１単位あたり４５時間が必要です。

【第1回】
①事前学修課題：シラバスを読んで希望の楽器を決めておく
②事後学修課題：与えられた楽器についてその特質などを調べる
【第2回】
①事前学修課題：与えられた楽器が使われた演奏を聴いておく
②事後学修課題：手入れの実際を何度も試してみる
【第3回】
①事前学修課題：授業が始まるまでに楽器を組み立てておく
②事後学修課題：マウスピースでの練習を繰り返す
【第4回】
①事前学修課題：マウスピースでの練習を繰り返す
②事後学修課題：自分が出せる音を確実なものにしていく
【第5回】
①事前学修課題：自分が出せる音を確実なものにしていく
②事後学修課題：新しい音に挑戦していく
【第6回】
①事前学修課題：新しい音に挑戦していく
②事後学修課題：できるだけ広い音域で音が出せるように、繰り返し練習する
【第7回】
①事前学修課題：音域を広げる
②事後学修課題：指使いを確認し、何度も音階練習を行う
【第8回】
①事前学修課題：新しい音階を練習しておく
②事後学修課題：指使いを確認し、何度も音階練習を行う
【第9回】
①事前学修課題：マウスピースでの練習を繰り返す
②事後学修課題：自分が出せる音を確実なものにしていく
【第10回】
①事前学修課題：自分が出せる音を確実なものにしていく
②事後学修課題：新しい音に挑戦していく
【第11回】
①事前学修課題：新しい音に挑戦していく
②事後学修課題：できるだけ広い音域で音が出せるように、繰り返し練習する
【第12回】
①事前学修課題：音域を広げる
②事後学修課題：指使いを確認し、何度も音階練習をする
【第13回】
①事前学修課題：配られた楽譜を事前に見ておく
②事後学修課題：新しい指使いを確認しながら練習する
【第14回】
①事前学修課題：新しい部分を事前に確認しておく
②事後学修課題：指使いを確認し確実なものにしておく
【第15回】
①事前学修課題：楽曲の中で不得意な部分を何度も練習しておく
②事後学修課題：演奏の録音を聴く

課題に対するフィードバックの方法

自分の演奏を他の学生に聴いてもらい、お互いに感想を述べあう機会を作りたいと思います。そしてその都度、教員によるアドバイスを加えていきます。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

授業参加意欲、普段の課題に対する到達度、演奏発表、正当な理由なく６回以上、欠席した場合は評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業への取り組み姿勢（20）、演奏発表（30）	1, 2, 3
授業外での評価	40	毎回の課題に対する到達度	1
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	振り返りレポート	4

その他	0		

テキスト	プリントを配布する、欠席者へはClassroomにて共有します。
参考書	こちらで楽譜等は用意します。欠席者へはClassroomにて共有します。
履修条件・他の科目との関連	なお、備品の関係で希望以外の楽器になることがあります。事前にご了承ください。この授業を習得することによって、他の表現分野の科目にも応用でき、成果を上げることができると思います。経験者にとっても演奏技術を深められる授業となりますので、是非Ｉａからの受講を推奨します。

授業コード	22052301	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	吹奏楽Ｉｂ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	山内　由香				
シラバス執筆(主)	山内　由香				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

（目的）
この授業は、管打楽器演奏を自ら経験することにより、保育現場で必要とされる音楽表現方法を習得させるために、音楽基礎知識に加え、演奏指導法を概説する。
演奏技術を深めるだけでなく、他の人と協力し合いながら一つの音楽作品を仕上げる喜びを見いだしていくことを目標とする。
（内容）
吹奏楽オリジナル作品だけでなく、比較的馴染みのある楽曲を使用し、また、教員が合奏を仕上げる過程を概説し、子どもへの指導法を習得する。

到達目標

1、さまざまな楽曲に取り組むことで、より深い音楽表現ができる
2、経験者にはより確立した技術で演奏できる
3、吹奏楽を通して、調和のとれた響きを体感し演奏することができる
4、他者と協力し合いながら演奏することができる

授業計画

【第1回】
テーマ：吹奏楽で使用される楽器の種類とそれぞれの特質
内容・方法：　木管・金管・打楽器それぞれの楽器の音色・特色を説明し、自分が演奏する楽器を選びます
【第2回】
テーマ：楽器の組み立てと手入れ
内容・方法：　演奏に入る前に、正しい組立方と毎回の手入れについて練習します
【第3回】
テーマ：合奏1　観賞
内容・方法：　吹奏楽や管楽器のDVDを観て、楽しみながらプロの演奏の様子を学びます
【第4回】
テーマ：合奏2
内容・方法：　パート練習を中心に行っていきます
【第5回】
テーマ：合奏3
内容・方法：　新しい曲を全員で合わせてみます
【第6回】
テーマ：合奏4
内容・方法：　細かい音楽的指示を合奏で受けます
【第7回】
テーマ：合奏5
内容・方法：　さらに合奏として成り立つよう整理していきます
【第8回】
テーマ：合奏6　アンサンブル１
内容・方法：　合奏だけでなく、アンサンブル曲も並行して練習します
【第9回】
テーマ：合奏7　アンサンブル２
内容・方法：　小規模アンサンブルの中でハーモニーを作っていきます
【第10回】
テーマ：合奏8　アンサンブル３
内容・方法：　3曲目の合奏曲に挑戦します。アンサンブルはそのままです
【第11回】
テーマ：合奏9　アンサンブル４
内容・方法：　合奏曲はパート練習中心となります。アンサンブルの充実をはかります
【第12回】
テーマ：合奏10　アンサンブル５
内容・方法：　合奏は音楽的な指示を指揮者から受けます。アンサンブルは次回の発表に向け整理します
【第13回】
テーマ：合奏11　アンサンブル６
内容・方法：　アンサンブルの発表会を行います
【第14回】
テーマ：合奏12　指揮の見方
内容・方法：　演奏会に向けて、指揮をどのように見、その指示を感じるのかを学びます
【第15回】
テーマ：合奏13　指揮法の基礎
内容・方法：　学生が実際に指揮をしてみて、表現の方法、まとめ方を学びます

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】
①事前学修課題：シラバスを読んで希望の楽器を決めておく
②事後学修課題：与えられた楽器についてその特質などを調べる
【第2回】
①事前学修課題：与えられた楽器が使われた演奏を聴いておく
②事後学修課題：手入れの実際を何度も試してみる
【第3回】
①事前学修課題：新しい部分の指使い等を確認しておく
②事後学修課題：繰り返し練習する
【第4回】
①事前学修課題：合奏で吹けなかったところを確認しておく
②事後学修課題：何度も通して持久力を付ける
【第5回】
①事前学修課題：ミスの内容に繰り返し練習しておく
②事後学修課題：授業で指示された個所を繰り返し練習する
【第6回】
①事前学修課題：ミスのないように繰り返し練習しておく
②事後学修課題：確実に演奏できるように繰り返し練習しておく
【第7回】
①事前学修課題：事前に楽譜に目を通しておく
②事後学修課題：新しい指使いを練習しておく
【第8回】
①事前学修課題：事前に集まって練習しておく
②事後学修課題：授業後に集まって、指示された事項を確認しながら練習する
【第9回】
①事前学修課題：新しい楽譜に目を通しておく
②事後学修課題：演奏できなかった個所を繰り返し練習しておく
【第10回】
①事前学修課題：演奏できなかった個所を、繰り返し練習しておく
②事後学修課題：アンサンブルで集まって練習する
【第11回】
①事前学修課題：アンサンブルで集まり課題を克服する
②事後学修課題：アンサンブルで集まり課題を克服する
【第12回】
①事前学修課題：アンサンブルで集まり、音楽的な構成を考えておく
②事後学修課題：録音したものを聴いて、その問題点や成果を確認する
【第13回】
①事前学修課題：自分のパートを確実に演奏できるように練習を繰り返す
②事後学修課題：演奏の録音を聴く
【第14回】
①事前学修課題：暗譜を確実なものにしておく
②事後学修課題：指揮者の指示を実現できるよう、何度も練習する
【第15回】
①事前学修課題：演奏中に指揮者を見ることができるよう、暗譜しておく
②事後学修課題：指摘された個所を、確認する

課題に対するフィードバックの方法

自分の演奏を他の学生に聴いてもらい、お互いに感想を述べあう機会を作りたいと思います。そしてその都度、教員によるアドバイスを加えていきます。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

授業参加意欲、普段の課題に対する到達度、演奏発表、正当な理由なく６回以上、欠席した場合は評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業への取り組み姿勢（20）、演奏発表（30）	1, 2, 3
授業外での評価	40	毎回の課題に対する到達度	1, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	振り返りレポート	4
その他	0		

テキスト	プリントを配布する、欠席者へはClassroomにて共有します。
参考書	こちらで楽譜等は用意します。欠席者へはClassroomにて共有します。
履修条件・他の科目との関連	なお、備品の関係で希望以外の楽器になることがあります。事前にご了承ください。この授業を習得することによって、他の表現分野の科目にも応用でき、成果を上げることができると思います。

授業コード	22052401	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	吹奏楽Ⅱａ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	山内　由香、李　胎蓮				
シラバス執筆（主）	山内　由香				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

（目的）
この授業は、管打楽器演奏を自ら経験することにより、保育現場で必要とされる音楽表現方法を習得させるために、音楽基礎知識に加え、演奏指導法を概説する。
管打楽器を経験したことがない学生には、演奏技術を深めるだけでなく、他の人と協力し合いながら一つの音楽作品を仕上げる喜びを見いだしていくことを目標とする。
（内容）
吹奏楽オリジナル作品だけでなく、比較的馴染みのある楽曲を使用し、初心者についても自らの上達が感じられることを目指す。
また、教員が合奏を仕上げる過程を概説し、子どもへの指導法を習得する。

到達目標

1、さまざまな楽曲に取り組むことで、より深い音楽表現ができる
2、初心者にとっては管打楽器の正しい奏法で演奏ができる
3、経験者にはより確立した技術で演奏できる
4、他者と協力し合いながら演奏することができる

授業計画

【第1回】
テーマ：吹奏楽で使用される楽器の種類とそれぞれの特質
内容・方法：　木管・金管・打楽器それぞれの楽器の音色・特色を説明し、自分が演奏する楽器を選びます
【第2回】
テーマ：楽器の組み立てと手入れ
内容・方法：　演奏に入る前に、正しい組立方と毎回の手入れについて練習します
【第3回】
テーマ：基本トレーニング１（マウスピースによる）
内容・方法：　マウスピースのみで音が出るまで練習します
【第4回】
テーマ：基礎トレーニング２（音出しの実際）
内容・方法：　楽器にマウスピースをつけ、実際に音を出してみます
【第5回】
テーマ：基礎トレーニング３（音出しの実際）
内容・方法：　一番出しやすい音域を徹底的に吹いてみます
【第6回】
テーマ：基礎トレーニング４（音出しの実際）
内容・方法：　徐々に音域を広げていきます
【第7回】
テーマ：音階１
内容・方法：　統一した楽譜で合奏形態で行います
【第8回】
テーマ：音階２
内容・方法：　音階の種類を増やしていきます
【第9回】
テーマ：基本トレーニング２（音出しの実際）
内容・方法：　楽器にマウスピースをつけ、実際に音を出してみます
【第10回】
テーマ：基本トレーニング３（音出しの実際）
内容・方法：　一番、出しやすい音域を徹底的に吹いてみます
【第11回】
テーマ：基本トレーニング４（音出しの実際）
内容・方法：　徐々に音域を広げていきます
【第12回】
テーマ：音階１
内容・方法：　統一した楽譜で合奏形態で行います
【第13回】
テーマ：合奏１
内容・方法：　初心者向けの曲を配布しパート練習から始めます
【第14回】
テーマ：合奏３
内容・方法：　指揮者から音楽的な要求をしていきます
【第15回】
テーマ：成果の発表

内容・方法：　自分のパートがどれくらいできるようになったかを確認します

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（１回につき２時間として計算）と事前事後のあわせて１単位あたり４５時間が必要です。

【第1回】
①事前学修課題：シラバスを読んで希望の楽器を決めておく
②事後学修課題：与えられた楽器についてその特質などを調べる
【第2回】
①事前学修課題：与えられた楽器が使われた演奏を聴いておく
②事後学修課題：手入れの実際を何度も試してみる
【第3回】
①事前学修課題：授業が始まるまでに楽器を組み立てておく
②事後学修課題：マウスピースでの練習を繰り返す
【第4回】
①事前学修課題：マウスピースでの練習を繰り返す
②事後学修課題：自分が出せる音を確実なものにしていく
【第5回】
①事前学修課題：自分が出せる音を確実なものにしていく
②事後学修課題：新しい音に挑戦していく
【第6回】
①事前学修課題：新しい音に挑戦していく
②事後学修課題：できるだけ広い音域で音が出せるように、繰り返し練習する
【第7回】
①事前学修課題：音域を広げる
②事後学修課題：指使いを確認し、何度も音階練習を行う
【第8回】
①事前学修課題：新しい音階を練習しておく
②事後学修課題：指使いを確認し、何度も音階練習を行う
【第9回】
①事前学修課題：マウスピースでの練習を繰り返す
②事後学修課題：自分が出せる音を確実なものにしていく
【第10回】
①事前学修課題：自分が出せる音を確実なものにしていく
②事後学修課題：新しい音に挑戦していく
【第11回】
①事前学修課題：新しい音に挑戦していく
②事後学修課題：できるだけ広い音域で音が出せるように、繰り返し練習する
【第12回】
①事前学修課題：音域を広げる
②事後学修課題：指使いを確認し、何度も音階練習をする
【第13回】
①事前学修課題：配られた楽譜を事前に見ておく
②事後学修課題：新しい指使いを確認しながら練習する
【第14回】
①事前学修課題：新しい部分を事前に確認しておく
②事後学修課題：指使いを確認し確実なものにしておく
【第15回】
①事前学修課題：楽曲の中で不得意な部分を何度も練習しておく
②事後学修課題：演奏の録音を聴く

課題に対するフィードバックの方法

自分の演奏を他の学生に聴いてもらい、お互いに感想を述べあう機会を作りたいと思います。そしてその都度、教員によるアドバイスを加えていきます。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

授業参加意欲、普段の課題に対する到達度、演奏発表、正当な理由なく６回以上、欠席した場合は評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業への取り組み姿勢（20）、演奏発表（30）	1, 2, 3
授業外での評価	40	毎回の課題に対する到達度	1
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	振り返りレポート	4

その他	0		

テキスト	プリントを配布する、欠席者へはClassroomにて共有します。
参考書	こちらで楽譜等は用意します。欠席者へはClassroomにて共有します。
履修条件・他の科目との関連	なお、備品の関係で希望以外の楽器になることがあります。事前にご了承ください。この授業を習得することによって、他の表現分野の科目にも応用でき、成果を上げることができると思います。経験者にとっても演奏技術を深められる授業となりますので、是非Ｉａからの受講を推奨します。

授業コード	22052501	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	吹奏楽Ⅱｂ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	山内　由香、李　胎蓮				
シラバス執筆（主）	山内　由香				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

（目的）
この授業は、管打楽器演奏を自ら経験することにより、保育現場で必要とされる音楽表現方法を習得させるために、音楽基礎知識に加え、演奏指導法を概説する。
演奏技術を深めるだけでなく、他の人と協力し合いながら一つの音楽作品を仕上げる喜びを見いだしていくことを目標とする。
（内容）
吹奏楽オリジナル作品だけでなく、比較的馴染みのある楽曲を使用し、また、教員が合奏を仕上げる過程を概説し、子どもへの指導法を習得する。

到達目標

1、さまざまな楽曲に取り組むことで、より深い音楽表現ができる
2、経験者にはより確立した技術で演奏できる
3、吹奏楽を通して、調和のとれた響きを体感し演奏することができる
4、他者と協力し合いながら演奏することができる

授業計画

【第1回】
テーマ：吹奏楽で使用される楽器の種類とそれぞれの特質
内容・方法：　木管・金管・打楽器それぞれの楽器の音色・特色を説明し、自分が演奏する楽器を選びます
【第2回】
テーマ：楽器の組み立てと手入れ
内容・方法：　演奏に入る前に、正しい組立方と毎回の手入れについて練習します
【第3回】
テーマ：合奏1　観賞
内容・方法：　吹奏楽や管楽器のDVDを観て、楽しみながらプロの演奏の様子を学びます
【第4回】
テーマ：合奏2
内容・方法：　パート練習を中心に行っていきます
【第5回】
テーマ：合奏3
内容・方法：　新しい曲を全員で合わせてみます
【第6回】
テーマ：合奏4
内容・方法：　細かい音楽的指示を合奏で受けます
【第7回】
テーマ：合奏5
内容・方法：　さらに合奏として成り立つよう整理していきます
【第8回】
テーマ：合奏6　アンサンブル１
内容・方法：　合奏だけでなく、アンサンブル曲も並行して練習します
【第9回】
テーマ：合奏7　アンサンブル２
内容・方法：　小規模アンサンブルの中でハーモニーを作っていきます
【第10回】
テーマ：合奏8　アンサンブル３
内容・方法：　3曲目の合奏曲に挑戦します。アンサンブルはそのままです
【第11回】
テーマ：合奏9　アンサンブル４
内容・方法：　合奏曲はパート練習中心となります。アンサンブルの充実をはかります
【第12回】
テーマ：合奏10　アンサンブル５
内容・方法：　合奏は音楽的な指示を指揮者から受けます。アンサンブルは次回の発表に向け整理します
【第13回】
テーマ：合奏11　アンサンブル６
内容・方法：　アンサンブルの発表会を行います
【第14回】
テーマ：合奏12　指揮の見方
内容・方法：　演奏会に向けて、指揮をどのように見、その指示を感じるのかを学びます
【第15回】
テーマ：合奏13　指揮法の基礎
内容・方法：　学生が実際に指揮をしてみて、表現の方法、まとめ方を学びます

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】
①事前学修課題：シラバスを読んで希望の楽器を決めておく
②事後学修課題：与えられた楽器についてその特質などを調べる
【第2回】
①事前学修課題：与えられた楽器が使われた演奏を聴いておく
②事後学修課題：手入れの実際を何度も試してみる
【第3回】
①事前学修課題：新しい部分の指使い等を確認しておく
②事後学修課題：繰り返し練習する
【第4回】
①事前学修課題：合奏で吹けなかったところを確認しておく
②事後学修課題：何度も通して持久力を付ける
【第5回】
①事前学修課題：ミスの内容に繰り返し練習しておく
②事後学修課題：授業で指示された個所を繰り返し練習する
【第6回】
①事前学修課題：ミスのないように繰り返し練習しておく
②事後学修課題：確実に演奏できるように繰り返し練習しておく
【第7回】
①事前学修課題：事前に楽譜に目を通しておく
②事後学修課題：新しい指使いを練習しておく
【第8回】
①事前学修課題：事前に集まって練習しておく
②事後学修課題：授業後に集まって、指示された事項を確認しながら練習する
【第9回】
①事前学修課題：新しい楽譜に目を通しておく
②事後学修課題：演奏できなかった個所を繰り返し練習しておく
【第10回】
①事前学修課題：演奏できなかった個所を、繰り返し練習しておく
②事後学修課題：アンサンブルで集まって練習する
【第11回】
①事前学修課題：アンサンブルで集まり課題を克服する
②事後学修課題：アンサンブルで集まり課題を克服する
【第12回】
①事前学修課題：アンサンブルで集まり、音楽的な構成を考えておく
②事後学修課題：録音したものを聴いて、その問題点や成果を確認する
【第13回】
①事前学修課題：自分のパートを確実に演奏できるように練習を繰り返す
②事後学修課題：演奏の録音を聴く
【第14回】
①事前学修課題：暗譜を確実なものにしておく
②事後学修課題：指揮者の指示を実現できるよう、何度も練習する
【第15回】
①事前学修課題：演奏中に指揮者を見ることができるよう、暗譜しておく
②事後学修課題：指摘された個所を、確認する

課題に対するフィードバックの方法

自分の演奏を他の学生に聴いてもらい、お互いに感想を述べあう機会を作りたいと思います。そしてその都度、教員によるアドバイスを加えていきます。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

授業参加意欲、普段の課題に対する到達度、演奏発表、正当な理由なく６回以上、欠席した場合は評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業への取り組み姿勢（20）、演奏発表（30）	1, 2, 3
授業外での評価	40	毎回の課題に対する到達度	1, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	振り返りレポート	4
その他	0		

テキスト	プリントを配布する、欠席者へはClassroomにて共有します。
参考書	こちらで楽譜等は用意します。欠席者へはClassroomにて共有します。
履修条件・他の科目との関連	なお、備品の関係で希望以外の楽器になることがあります。事前にご了承ください。この授業を習得することによって、他の表現分野の科目にも応用でき、成果を上げることができると思います。

授業コード	22052601	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	美術（基礎）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	渡邊　詩子				
シラバス執筆(主)	渡邊　詩子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

保育における造形表現での様々な教材等の活用と、具体的な展開のための基礎技術を実践的に習得する。
子どもの生活と遊びにおける、美術や造形表現の基礎的な知識や技術を概説する。
美術、造形感覚を養い、保育に生かす表現方法の理解について説明する。

到達目標

1.子どもの生活と遊びにおける、様々な素材や材料等の特性を理解し、より豊かな表現につなげていくことができる。
2.美術や造形表現の基礎的な知識や技能を理解し、幼児の表現活動に展開させることができる。
3.創造性豊かに表現する態度を養い、実践できる。

授業計画

【第1回】授業概要　保育における教材や素材について理解する。
【第2回】描画材料（ペン）を用いた表現活動を実践する。
【第3回】描画材料（パス・コンテ）を用いて、様々な技法を実践的に習得する。
【第4回】ICTを活用し、子どもの絵の具による表現の特性を理解する。
【第5回】絵の具を用いた表現活動を実践し、活動の面白さ、留意点などを考える。
【第6回】自然物を題材とし、イメージを平面的な形で表す。
【第7回】自然物を題材とし、絵の具を用いてイメージを色で表す。
【第8回】身近な素材（アルミホイルなど）を用いた表現活動を実践する。
【第9回】身近な素材（新聞紙、テッシュなど）を用いた表現活動を実践し、活動の面白さ留意点などを考える。
【第10回】幼小接続について、版による表現活動から考える。
【第11回】飛び出す仕組みを活用したカードを作成し、紙の加工について理解する。
【第12回】飛び出す仕組みを活用したカードを作成し、「想い」を色や形で表す。
【第13回】様々な素材や用具を使用しカードを完成させ、素材研究を深める。
【第14回】展開図を描きイメージを立体的な形で表す。
【第15回】立体的な形を身近な素材を用いて装飾し、素材の特徴を理解する。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（１回につき２時間として計算）と事前事後のあわせて１単位あたり４５時間が必要であるため、各回につき事前事後合わせて1時間以上の学習が必要です。

【第1回】
①事前学習課題：シラバスを確認する。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。
【第2～3回】
①事前学習課題：前授業を復習し、本授業の内容の理解と材料用具の確認を行う。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、課題記録をつける。
【第４回】
①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、課題記録をつける。
【第５～９回】
①事前学習課題：前授業を復習し、本授業の内容の理解と材料用具の確認を行う。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、課題記録をつける。
【第10回】
①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、課題記録をつける。
【第11～15回】
①事前学習課題：前授業を復習し、本授業の内容の理解と材料用具の確認を行う。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、課題記録をつける。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、授業内やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

授業内での評価
・授業全体の学びに向かう過程を評価する。
授業外での評価
・課題記録の完成度について評価する。
定期試験に代わるレポート等
・課題レポートの完成度について評価する。
定期試験
なし
その他
なし

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく6回以上欠席した場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。
3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。
定期試験に代わるレポートの提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業全体の学びに向かう過程の評価	1, 2, 3
授業外での評価	10	課題記録の完成度を評価	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	課題レポートの完成度を評価	1, 2
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、資料の配布もしくは classroom への提示を行う。
参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件・他の科目との関連	卒業科目であり、保育士資格必修科目である。 欠席時に配布された資料は担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22052602	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	美術（基礎）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	角地　佳子				
シラバス執筆(主)	角地　佳子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

保育における造形表現での様々な教材等の活用と、具体的な展開のための基礎技術を実践的に習得する。
子どもの生活と遊びにおける、美術や造形表現の基礎的な知識や技術を概説する。
美術、造形感覚を養い、保育に生かす表現方法の理解について説明する。

到達目標

1.子どもの生活と遊びにおける、様々な素材や材料等の特性を理解し、より豊かな表現につなげていくことができる。
2.美術や造形表現の基礎的な知識や技能を理解し、幼児の表現活動に展開させることができる。
3.創造性豊かに表現する態度を養い、実践できる。

授業計画

【第1回】授業概要　保育における教材や素材について理解する。
【第2回】描画材料（ペン）を用いた表現活動を実践する。
【第3回】描画材料（パス・コンテ）を用いて、様々な技法を実践的に習得する。
【第4回】ICTを活用し、子どもの絵の具による表現の特性を理解する。
【第5回】絵の具を用いた表現活動を実践し、活動の面白さ、留意点などを考える。
【第6回】自然物を題材とし、イメージを平面的な形で表す。
【第7回】自然物を題材とし、絵の具を用いてイメージを色で表す。
【第8回】身近な素材（アルミホイルなど）を用いた表現活動を実践する。
【第9回】身近な素材（新聞紙、テッシュなど）を用いた表現活動を実践し、活動の面白さ留意点などを考える。
【第10回】幼小接続について、版による表現活動から考える。
【第11回】飛び出す仕組みを活用したカードを作成し、紙の加工について理解する。
【第12回】飛び出す仕組みを活用したカードを作成し、「想い」を色や形で表す。
【第13回】様々な素材や用具を使用しカードを完成させ、素材研究を深める。
【第14回】展開図を描きイメージを立体的な形で表す。
【第15回】立体的な形を身近な素材を用いて装飾し、素材の特徴を理解する。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（１回につき２時間として計算）と事前事後のあわせて１単位あたり４５時間が必要であるため、各回につき事前事後合わせて1時間以上の学習が必要です。

【第1回】
①事前学習課題：シラバスを確認する。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。
【第2～3回】
①事前学習課題：前授業を復習し、本授業の内容の理解と材料用具の確認を行う。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、課題記録をつける。
【第４回】
①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、課題記録をつける。
【第５～９回】
①事前学習課題：前授業を復習し、本授業の内容の理解と材料用具の確認を行う。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、課題記録をつける。
【第10回】
①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、課題記録をつける。
【第11～15回】
①事前学習課題：前授業を復習し、本授業の内容の理解と材料用具の確認を行う。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、課題記録をつける。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、授業内やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

授業内での評価
・授業全体の学びに向かう過程を評価する。
授業外での評価
・課題記録の完成度について評価する。
定期試験に代わるレポート等
・課題レポートの完成度について評価する。
定期試験
なし
その他
なし

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく6回以上欠席した場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。
3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。
定期試験に代わるレポートの提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業全体の学びに向かう過程の評価	1, 2, 3
授業外での評価	10	課題記録の完成度を評価	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	課題レポートの完成度を評価	1, 2
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、資料の配布もしくは classroom への提示を行う。
参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件・他の科目との関連	卒業科目であり、保育士資格必修科目である。 欠席時に配布された資料は担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22052701	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	美術（応用）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	渡邊　詩子				
シラバス執筆(主)	渡邊　詩子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

子どもの発達を理解し、生活や遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。
子どもの生活と遊びにおける、美術や造形表現の基礎的な知識や技術を概説する。
保育の展開に必要となる感性や創造性を身につける知識や技術を概説する。

到達目標

１．子どもの発達を踏まえ、様々な用具や素材、材料等を活用することができる。
２．子どもの生活と遊びにおける様々な用具や素材、材料等の特性を理解できる。
３．創造性豊かに表現する態度を養い、実践できる。

授業計画

【第１回】授業概要　乳幼児の描画を鑑賞し、乳幼児の表現を理解する。
【第２回】描画材料（パス）を用いてテーマに沿った表現活動を実践する。
【第３回】描画材料（鉛筆）を用いて、身体の動きを表現する。
【第４回】自然物を題材とし、対象物を観察し形に表す。
【第５回】自然物を題材とし、絵の具を用いて対象物の色を表現し、素材の特性を理解し技術を習得する。
【第６回】身近な人物のイメージを色や形で構成し、感性を養う。
【第７回】身近な素材（チラシや写真）を様々な形に切り、イメージを豊かにする。
【第８回】身近な素材（チラシや写真）を用いたコラージュを作成し、活動の面白さ留意点などを考える。
【第９回】ケント紙にペンで模様を描き、多面体を構成する。
【第10回】子どもの切り絵による表現から、小学校の図画工作へのつながりを考える。
【第11回】切り絵の「図と地」の関係や構図の取り方を理解し下絵を制作する。
【第１２回】テーマをもとにした切り絵を完成し、作品を鑑賞する。
【第１３回】紙粘土の感触に親しみ、活動の面白さ、留意点などを考える。
【第１４回】様々な素材を用いて、紙粘土の作品を完成させ、用具や技術の活用法について理解する。
【第１５回】ＩＣＴを活用し美術作品を鑑賞し、子どもとの鑑賞について考える。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。
授業（１回につき２時間として計算）と事前事後のあわせて１単位あたり４５時間が必要であるため、各回につき事前事後合わせて1時間以上の学習が必要です。

【第1回】
①事前学習課題：シラバスを確認する。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。
【第2～3回】
①事前学習課題：前授業を復習し、本授業の内容の理解と材料用具の確認を行う。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。
【第４～５回】
①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、まとめる。
【第６～９回】
①事前学習課題：前授業を復習し、本授業の内容の理解と材料用具の確認を行う。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。
【第10回】
①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、まとめる。
【第11～14回】
①事前学習課題：前授業を復習し、本授業の内容の理解と材料用具の確認を行う。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。
【第15回】
①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、授業内やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、６０点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、評価対象とせず「K」評価とする。
３回の遅刻及び早退は1回の欠席とする。
定期試験に代わるレポート等の提出がない場合は、評価対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業全体の学びに向かう過程の評価	1, 2, 3
授業外での評価	10	授業のまとめ課題の完成度を評価	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	課題レポートの完成度を評価	1, 2
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、資料の配布もしくは classroom への提示を行う。
参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件・他の科目との関連	学科専門教育科目であり、保育士資格必修科目である。 欠席時に配布された資料は教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22052702	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	美術（応用）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	角地　佳子				
シラバス執筆(主)	角地　佳子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

子どもの発達を理解し、生活や遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。
子どもの生活と遊びにおける、美術や造形表現の基礎的な知識や技術を概説する。
保育の展開に必要となる感性や創造性を身につける知識や技術を概説する。

到達目標

１．子どもの発達を踏まえ、様々な用具や素材、材料等を活用することができる。
２．子どもの生活と遊びにおける様々な用具や素材、材料等の特性を理解できる。
３．創造性豊かに表現する態度を養い、実践できる。

授業計画

【第１回】授業概要　乳幼児の描画を鑑賞し、乳幼児の表現を理解する。
【第２回】描画材料（パス）を用いてテーマに沿った表現活動を実践する。
【第３回】描画材料（鉛筆）を用いて、身体の動きを表現する。
【第４回】自然物を題材とし、対象物を観察し形に表す。
【第５回】自然物を題材とし、絵の具を用いて対象物の色を表現し、素材の特性を理解し技術を習得する。
【第６回】身近な人物のイメージを色や形で構成し、感性を養う。
【第７回】身近な素材（チラシや写真）を様々な形に切り、イメージを豊かにする。
【第８回】身近な素材（チラシや写真）を用いたコラージュを作成し、活動の面白さ留意点などを考える。
【第９回】ケント紙にペンで模様を描き、多面体を構成する。
【第10回】子どもの切り絵による表現から、小学校の図画工作へのつながりを考える。
【第11回】切り絵の「図と地」の関係や構図の取り方を理解し下絵を制作する。
【第１２回】テーマをもとにした切り絵を完成し、作品を鑑賞する。
【第１３回】紙粘土の感触に親しみ、活動の面白さ、留意点などを考える。
【第１４回】様々な素材を用いて、紙粘土の作品を完成させ、用具や技術の活用法について理解する。
【第１５回】ＩＣＴを活用し美術作品を鑑賞し、子どもとの鑑賞について考える。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。
授業（１回につき２時間として計算）と事前事後のあわせて１単位あたり４５時間が必要であるため、各回につき事前事後合わせて1時間以上の学習が必要です。

【第1回】
①事前学習課題：シラバスを確認する。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。
【第2～3回】
①事前学習課題：前授業を復習し、本授業の内容の理解と材料用具の確認を行う。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。
【第４～５回】
①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、まとめる。
【第６～９回】
①事前学習課題：前授業を復習し、本授業の内容の理解と材料用具の確認を行う。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。
【第10回】
①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、まとめる。
【第11～14回】
①事前学習課題：前授業を復習し、本授業の内容の理解と材料用具の確認を行う。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。
【第15回】
①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、授業内やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、６０点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、評価対象とせず「K」評価とする。
３回の遅刻及び早退は1回の欠席とする。
定期試験に代わるレポート等の提出がない場合は、評価対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業全体の学びに向かう過程の評価	1, 2, 3
授業外での評価	10	授業のまとめ課題の完成度を評価	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	課題レポートの完成度を評価	1, 2
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、資料の配布もしくは classroom への提示を行う。
参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件・他の科目との関連	学科専門教育科目であり、保育士資格必修科目である。 欠席時に配布された資料は教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22002401	授業形態	実技	実務家教員	ー
授業科目名	スポーツ実技　［対面］				
シラバス執筆（全員）	佐藤　光子				
シラバス執筆（主）	佐藤　光子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

健康的な生活を維持していくため身体活動を積極的に取り入れる必要性があることや、スポーツを実践することが仲間づくりにどのように影響するのかを概説する。
授業では、基本的な運動・球技を中心に幅広く運動・スポーツ種目を行ない、それぞれ特有の楽しさを味わい生涯にわたってスポーツを楽しむための能力を高めるための実践及び説明を行う。また幼少年期に身につけておきたい基本的動作が含まれる運動遊びや表現リズム遊びについても実践及び説明を行う。

到達目標

１．複数の運動・スポーツ種目の基礎的技能を実行できる。
２．各種スポーツの知識を説明できる。
３．仲間と共にスポーツを協力して実行できる。
４．保育者として安全面について説明ができる。
５．スポーツを体験し、その内容を遊びとして子どもたちにどのように指導するのか説明できる。

授業計画

【第1回】
テーマ：ガイダンス（講義目的と評価、授業の進め方について解説）、基本的な運動Ⅰ
内容・方法：鬼ごっこ、運動遊び、表現リズム遊び
【第2回】
テーマ：基本的な運動Ⅱ
内容・方法：運動遊び、表現リズム遊び、ストレッチング（静的・動的）、ボディーバランス・トレーニング
【第3回】
テーマ：ネット型スポーツⅠ
内容・方法：バドミントン（卓球）①　ルールの理解と基礎技術の習得
【第4回】
テーマ：ネット型スポーツⅠ
内容・方法：バドミントン（卓球）②　シングルスによるゲームの実践
【第5回】
テーマ：ネット型スポーツⅠ
内容・方法：バドミントン（卓球）③　ダブルスによるゲームの進め方
【第6回】
テーマ：ネット型スポーツⅠ
内容・方法：バドミントン（卓球）④　ダブルスによるゲームの実践
【第7回】
テーマ：ネット型スポーツⅡ
内容・方法：バレーボール（ソフトバレーボール）①　ルールの理解と基礎技術の習得
【第8回】
テーマ：ネット型スポーツⅡ
内容・方法：バレーボール（ソフトバレーボール）②　ゲームの進め方
【第9回】
テーマ：ネット型スポーツⅡ
内容・方法：バレーボール（ソフトバレーボール）③　ゲームの実践
【第10回】
テーマ：ゴール型スポーツⅠ
内容・方法：バスケットボール①　ルールの理解と基本技術の習得
【第11回】
テーマ：ゴール型スポーツⅠ
内容・方法：バスケットボール②　ゲームの進め方
【第12回】
テーマ：ゴール型スポーツⅠ
内容・方法：バスケットボール③　ゲームの実践①
【第13回】
テーマ：ゴール型スポーツⅠ
内容・方法：バスケットボール④　ゲームの実践②
【第14回】
テーマ：ゴール型スポーツⅡ
内容・方法：ミニサッカー　ルールの理解、基本技術の習得、ゲームの実践
【第15回】
テーマ：ベースボール型スポーツ
内容・方法：キックベースボール　ルールの理解とゲームの実践

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

この科目を受講するにあたり、授業計画における種目について毎回1時間程度の事前学習及び事後学習を必要とする。インターネットでの検索から基本となる動き、ルール、ゲームの進め方などを事前にレポートにまとめておくことが望ましい。

【第1回】
①事前学習課題：運動の意義について考える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
【第2回】
①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
【第3回】
①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
【第4回】
①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
【第5回】
①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
【第6回】
①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
【第7回】
①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
【第8回】
①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
【第9回】
①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
【第10回】
①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
【第11回】
①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
【第12回】
①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
【第13回】
①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
【第14回】
①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
【第15回】
①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックの方法

授業に関する話題・質問等は、適時受講生で共有し、評価・講評を行い授業に反映する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する
１．授業への取り組む意欲、受講態度、授業内の一部の時間を使った実技小テスト等、総合的に評価する。
２．60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
３．正当な理由なく、6回以上授業を欠席した場合は「K」評価とする。
４．全授業終了後に実施するレポート試験課題が未提出の場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業への取り組み状況・態度（15） 各種目の技能習得状況（15）	1, 3, 4, 5
授業外での評価	30	各種目への理解度を問うレポート（30）	2, 4

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	全授業終了後に実施するレポート試験	2, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。各種スポーツの内容確認などで資料の配布を適宜行う。
参考書	適宜授業内にて紹介を行う。
履修条件・他の科目との関連	1．体育の授業に適した服装（Tシャツ、ジャージ）、体育館シューズを履くこと。 2．アクセサリーなどの着用はしないこと。 3．体調管理も学習内容と考え、全出席を目指すこと。 4．授業で学んだことについては、ノートにまとめておくこと。 5．欠席した回の資料は申し出があった場合、再配布を行う。

授業コード	22002403	授業形態	実技	実務家教員	ー
授業科目名	スポーツ実技　［対面］				
シラバス執筆（全員）	織田　恵輔				
シラバス執筆（主）	織田　恵輔				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

健康的な生活を維持していくため身体活動を積極的に取り入れる必要性があることや、スポーツを実践することが仲間づくりにどのように影響するのかを概説する。
授業では、基本的な運動・球技を中心に幅広く運動・スポーツ種目を行ない、それぞれ特有の楽しさを味わい生涯にわたってスポーツを楽しむための能力を高めるための実践及び説明を行う。また幼少年期に身につけておきたい基本的動作が含まれる運動遊びや表現リズム遊びについても実践及び説明を行う。

到達目標

１．複数の運動・スポーツ種目の基礎的技能を実行できる。
２．各種スポーツの知識を説明できる。
３．仲間と共にスポーツを協力して実行できる。
４．保育者として安全面について説明ができる。
５．スポーツを体験し、その内容を遊びとして子どもたちにどのように指導するのか説明できる。

授業計画

【第1回】
テーマ：ガイダンス（講義目的と評価、授業の進め方について解説）、基本的な運動Ⅰ
内容・方法：鬼ごっこ、運動遊び、表現リズム遊び
【第2回】
テーマ：基本的な運動Ⅱ
内容・方法：運動遊び、表現リズム遊び、ストレッチング（静的・動的）、ボディーバランス・トレーニング
【第3回】
テーマ：ネット型スポーツⅠ
内容・方法：バドミントン（卓球）①　ルールの理解と基礎技術の習得
【第4回】
テーマ：ネット型スポーツⅠ
内容・方法：バドミントン（卓球）②　シングルスによるゲームの実践
【第5回】
テーマ：ネット型スポーツⅠ
内容・方法：バドミントン（卓球）③　ダブルスによるゲームの進め方
【第6回】
テーマ：ネット型スポーツⅠ
内容・方法：バドミントン（卓球）④　ダブルスによるゲームの実践
【第7回】
テーマ：ネット型スポーツⅡ
内容・方法：バレーボール（ソフトバレーボール）①　ルールの理解と基礎技術の習得
【第8回】
テーマ：ネット型スポーツⅡ
内容・方法：バレーボール（ソフトバレーボール）②　ゲームの進め方
【第9回】
テーマ：ネット型スポーツⅡ
内容・方法：バレーボール（ソフトバレーボール）③　ゲームの実践
【第10回】
テーマ：ゴール型スポーツⅠ
内容・方法：バスケットボール①　ルールの理解と基本技術の習得
【第11回】
テーマ：ゴール型スポーツⅠ
内容・方法：バスケットボール②　ゲームの進め方
【第12回】
テーマ：ゴール型スポーツⅠ
内容・方法：バスケットボール③　ゲームの実践①
【第13回】
テーマ：ゴール型スポーツⅠ
内容・方法：バスケットボール④　ゲームの実践②
【第14回】
テーマ：ゴール型スポーツⅡ
内容・方法：ミニサッカー　ルールの理解、基本技術の習得、ゲームの実践
【第15回】
テーマ：ベースボール型スポーツ
内容・方法：キックベースボール　ルールの理解とゲームの実践

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

この科目を受講するにあたり、授業計画における種目について毎回1時間程度の事前学習及び事後学習を必要とする。インターネットでの検索から基本となる動き、ルール、ゲームの進め方などを事前にレポートにまとめておくことが望ましい。

【第1回】
①事前学習課題：運動の意義について考える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
【第2回】
①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
【第3回】
①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
【第4回】
①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
【第5回】
①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
【第6回】
①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
【第7回】
①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
【第8回】
①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
【第9回】
①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
【第10回】
①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
【第11回】
①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
【第12回】
①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
【第13回】
①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
【第14回】
①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
【第15回】
①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる
課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックの方法

授業に関する話題・質問等は、適時受講生で共有し、評価・講評を行い授業に反映する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する
１．授業への取り組む意欲、受講態度、授業内の一部の時間を使った実技小テスト等、総合的に評価する。
２．60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
３．正当な理由なく、6回以上授業を欠席した場合は「K」評価とする。
４．全授業終了後に実施するレポート試験課題が未提出の場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業への取り組み状況・態度（15） 各種目の技能習得状況（15）	1, 3, 4, 5
授業外での評価	30	各種目への理解度を問うレポート（30）	2, 4

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	全授業終了後に実施するレポート試験	2, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。各種スポーツの内容確認などで資料の配布を適宜行う。
参考書	適宜授業内にて紹介を行う。
履修条件・他の科目との関連	1．体育の授業に適した服装（Tシャツ、ジャージ）、体育館シューズを履くこと。 2．アクセサリーなどの着用はしないこと。 3．体調管理も学習内容と考え、全出席を目指すこと。 4．授業で学んだことについては、ノートにまとめておくこと。 5．欠席した回の資料は申し出があった場合、再配布を行う。

授業コード	22052801	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	子どもの運動遊び　［対面］				
シラバス執筆(全員)	玉井　久実代				
シラバス執筆(主)	玉井　久実代				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

幼児期の健康を踏まえ、運動遊びの理論と共に、保育現場で運動遊びを実践するための知識や技能について、講義形式および演習形式で説明する。
運動遊びにおける安全への配慮や管理に重点をおいた、保育者としての基本的態度や基礎技能を説明する。
子どもの発育・発達、興味・関心に応じた様々な運動遊びの教材を取り上げ、具体的な展開方法について説明する。

到達目標

1. 幼児保育・教育における運動遊びの実践に必要な知識や技術を説明できる。
2. 幼児の発育・発達段階に応じた運動遊びの実践ができる。
3. 幼児保育・教育において、運動遊びの適切な援助や補助ができる。
4. 幼児保育・教育において、運動遊びの適切な環境構成ができる。

授業計画

この授業は、講義室や体育施設で行います。
【第1回】 幼児期における運動遊びの意義
【第2回】 準備体操、体つくりの運動遊び
【第3回】 かけっこ遊び（鬼ごっこ、リレー）
【第4回】 ボールを使った運動遊び（ボールを用いた遊び）
【第5回】 ボールを使った運動遊び
【第6回】 フラフープを使った運動遊び
【第7回】 短縄を使った運動遊び
【第8回】 長縄を使った運動遊び
【第9回】 伝承遊び
【第10回】 マットを使った運動遊び
【第11回】 鉄棒を使った運動遊び
【第12回】 跳び箱を使った運動遊び
【第13回】 サーキットを使った運動遊び
【第14回】 身近な物を使った運動遊び
【第15回】 まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】
①事前学習課題：シラバスを確認する
②事後学習課題：授業内容の復習を行う。
【第2～14回】
①事前学習課題：授業内容に関する運動遊びを、インターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：授業で学習したことを、授業内容のまとめレポートに整理する。
【第15回】
①事前学習課題：これまで学習したことを、総復習する。
②事後学習課題：学習したことを、保育現場での実践に活かせるよう整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、授業内やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく6回以上の欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。
3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。
定期試験に代わるレポート等の提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標

授業内での評価	75	第1・15回　課題レポート（10） 第2～14回　取り組み姿勢、スキル（65）	1, 2, 3, 4
授業外での評価	15	授業内容のまとめレポート（15）	1
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポート（10）	1
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて資料の配付もしくはclassroomへの提示を行う。
参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼児期運動指針
履修条件・他の科目との関連	1. 積極的に授業へ参加する。 2. 運動遊びに適した服装、靴を着用する。 3. 装飾品（ピアス、ネックレス、指輪、時計等）は装着しない。 4. 爪は短くしておく。 5. 長い髪の毛はゴム等で束ねる。 6. 配当施設や進捗状況に応じて、授業計画を変更することがある。

授業コード	22052803	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	子どもの運動遊び　［対面］				
シラバス執筆(全員)	織田　恵輔				
シラバス執筆(主)	織田　恵輔				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

幼児期の健康を踏まえ、運動遊びの理論と共に、保育現場で運動遊びを実践するための知識や技能について、講義形式および演習形式で説明する。
運動遊びにおける安全への配慮や管理に重点をおいた、保育者としての基本的態度や基礎技能を説明する。
子どもの発育・発達、興味・関心に応じた様々な運動遊びの教材を取り上げ、具体的な展開方法について説明する。

到達目標

1. 幼児保育・教育における運動遊びの実践に必要な知識や技術を説明できる。
2. 幼児の発育・発達段階に応じた運動遊びの実践ができる。
3. 幼児保育・教育において、運動遊びの適切な援助や補助ができる。
4. 幼児保育・教育において、運動遊びの適切な環境構成ができる。

授業計画

この授業は、講義室や体育施設で行います。
【第1回】 幼児期における運動遊びの意義
【第2回】 準備体操、体つくりの運動遊び
【第3回】 かけっこ遊び（鬼ごっこ、リレー）
【第4回】 ボールを使った運動遊び（ボールを用いた遊び）
【第5回】 ボールを使った運動遊び
【第6回】 フラフープを使った運動遊び
【第7回】 短縄を使った運動遊び
【第8回】 長縄を使った運動遊び
【第9回】 伝承遊び
【第10回】 マットを使った運動遊び
【第11回】 鉄棒を使った運動遊び
【第12回】 跳び箱を使った運動遊び
【第13回】 サーキットを使った運動遊び
【第14回】 身近な物を使った運動遊び
【第15回】 まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】
①事前学習課題：シラバスを確認する
②事後学習課題：授業内容の復習を行う。
【第2～14回】
①事前学習課題：授業内容に関する運動遊びを、インターネットや書籍で調べる。
②事後学習課題：授業で学習したことを、授業内容のまとめレポートに整理する。
【第15回】
①事前学習課題：これまで学習したことを、総復習する。
②事後学習課題：学習したことを、保育現場での実践に活かせるよう整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、授業内やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく6回以上の欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。
3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。
定期試験に代わるレポート等の提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標

授業内での評価	75	第1・15回　課題レポート（10） 第2～14回　取り組み姿勢、スキル（65）	1, 2, 3, 4
授業外での評価	15	授業内容のまとめレポート（15）	1
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポート（10）	1
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて資料の配付もしくはclassroomへの提示を行う。
参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼児期運動指針
履修条件・他の科目との関連	1. 積極的に授業へ参加する。 2. 運動遊びに適した服装、靴を着用する。 3. 装飾品（ピアス、ネックレス、指輪、時計等）は装着しない。 4. 爪は短くしておく。 5. 長い髪の毛はゴム等で束ねる。 6. 配当施設や進捗状況に応じて、授業計画を変更することがある。

授業コード	22046901	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	野外活動演習（キャンプ）　［対面］				
シラバス執筆(全員)	織田　恵輔、玉井　久実代				
シラバス執筆(主)	織田　恵輔				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業は、子どもを対象としたキャンプの企画・運営に関する知識やスキルを学ぶことを目的とする。
事前研修では、キャンプに関する基本的な知識やスキルを概説する。学外研修では、野外炊飯などのキャンプ生活やネイチャーゲームなどのアクティビティーを安全に実施するための知識やスキルについて、実践を通して学習できるよう説明する。
事後研修では、本授業を振り返るとともに、子どもを対象としたキャンプの振り返り方法や事後の取り組みについて説明する。

到達目標

1. 子どもを対象としたキャンプの企画や運営を行うことができる。
2. 子どもとともに自然に親しみ、子どもに自然の話ができる。
3. キャンプを通して仲間と協力することができる。

授業計画

事前研修と事後研修は、履修者の時間割を調整して授業を設定する。
学外研修は、9月下旬に1泊2日で行う。

【第1回】事前研修1：オリエンテーション、キャンプの意義と目的
【第2回】事前研修2：キャンプの生活とアクティビティー
【第3回】事前研修3：キャンプの準備
【第4回】学外研修1：オリエンテーション
【第5回】学外研修2：レクリエーションゲーム
【第6回】学外研修3：沢登
【第7回】学外研修4：野外炊飯
【第8回】学外研修5：天体観測
【第9回】学外研修6：キャンドルファイヤー
【第10回】学外研修7：ネイチャーゲーム①
【第11回】学外研修8：ネイチャーゲーム②
【第12回】学外研修9：クラフト
【第13回】学外研修10：現地振り返り
【第14回】事後研修1：振り返りおよび学習成果発表準備
【第15回】事後研修2：学習成果発表

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

第1回
【事前】シラバスを確認しておく。
【事後】オリエンテーションの説明内容に基づき、基礎知識を自習し、ノートを準備する。
第2回・第3回
【事前】授業内容に関することを、インターネットや書籍で調べる。
【事後】授業で学習したことを、ノートに整理する。
第4回～第13回
【事前】キャンプに必要な携行品等を準備する。各種プログラム等の打合せや準備を行う。
【事後】学外研修で学習したことを、ノートに整理する。
第14回・15回
【事前】学外研修を振り返り、報告会の準備を行う。
【事後】学習成果発表で学習したことを、ノートに整理する。

課題に対するフィードバックの方法

事前研修と事後研修で実施した課題のフィードバックは、次回以降の授業やGoogle Classroomで行う。
学外研修で実施した課題のフィードバックは、各取り組みごとの振り返りと事後研修で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく事前研修を欠席した場合や、学外研修を欠席した場合は「K」評価とする。
定期試験に代わるレポート等が未提出の場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	事前研修と事後研修の課題（50） 学外研修の取り組み姿勢（30） 学外研修の課題（10）	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず資料を配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・履修希望者は、「野外活動演習（キャンプ）」の説明会に必ず参加すること。 ・説明会後の履修確認をClassroomで行った後に受講を取り止める場合は、必ず本人から授業担当者に申し出ること。申し出がない場合は参加の意思があるとみなす。 ・事前研修は、原則、全て出席することを学外研修の参加条件とする。 ・欠席した授業の配布資料は、次回授業までに申し出て受け取ってください。 ・授業に必要な個人装備（雨具・ザック等）は、各自で準備すること。 ・履修登録の取り消しは、履修取り消し期間に各自で行うこと。 ・説明会や授業に関する諸連絡は、UNIPAやClassroomで行う。 ・荒天により、延期または中止とすることがある。

授業コード	22052901	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	教育方法の理論と実践　［対面］				
シラバス執筆(全員)	松山　由美子				
シラバス執筆(主)	松山　由美子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的･概要

保育現場において、これからの社会を担う子どもたちに必要な資質・能力を養う必要があるが、そのためには教育の方法を理解し、技術を身につけ、教材や情報機器を活用して教育効果を高めることが求められている。
これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につけることを目的とする。
この授業では、幼稚園教諭免許取得を目指す学生を対象として、教育方法の基礎的理論、保育を構成する基礎的要件、幼児理解に基づく評価を理解した上で、教育方法の基礎的技術とその応用、これからの社会を担う子どもたちに必要な資質・能力を養うためのICT活用も含めた教育方法について説明する。さらに、教材作成や部分案作成を通した模擬保育・省察を実施する。
目的達成のため、ミニテストを行うことで、各自が自主的に学び、振り返りができるようにする。さらに、個人及びグループでのワークを毎時間取り入れるので、自主的で対話的な学びを自ら実践しながら理解し、将来、子どもたちと共に実践できる力を養う。

到達目標

1.教育方法の基礎的理論について説明できる。
2.子どもたちに求められる資質・能力について説明できる。
3.保育を構成する基礎的要件について説明できる。
4.幼児理解に基づく評価について説明できる。
5.教育を行う上での基礎的技術を使って保育実践できる。
6.保育現場で必要とされる教材を作成することができ、幼児の体験に基づき、興味・関心を高めながら活用することができる。
7.子どもたちの情報活用能力（情報モラル）をを育成するための保育実践ができる。

授業計画

第１回：幼稚園・こども園における教育方法
第２階：教育方法の歴史的変遷
第３回：子どもたちに求められる資質・能力（１）主体的・対話的で深い学び、幼児期に育みたい資質・能力
第４回：子どもたちに求められる資質・能力（２）幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
第５回：保育を構成する基礎的要件（環境構成の理論と実践）
第６回：幼児理解に基づく評価について（指導の過程と振り返り、組織的・計画的な評価）
第７回：教材作成の基本技術
第８回：模擬保育（作成した教材の効果的な提示）①　グループ発表１
第９回：模擬保育（作成した教材の効果的な提示）②　発表後の省察
第10回：教育方法の技術の応用（３）コンピュータやタブレットなどの活用
第11回：教育方法の技術の応用（１）子どもたちの興味・関心と情報機器の活用
第12回：教育方法の技術の応用（２）音声・映像技術の活用と応用
第13回：子どもたちのデジタル・リテラシー（情報活用能力や情報モラル）の育成
第14回：保育の実践理論、教材作成理論に基づいたICTの活用を含む保育について
第15回：総復習及びまとめ（定期試験に代わるレポートについての説明も含む）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。
授業内容はプリント等で示さないため、各自でノート等にまとめるなどし、必要な知識を理解したり、課題作成に活かすことができるようにする。
学外実習などで観察したICT活用の意義や活用方法に興味・関心をもち、自分なりの意見をもつことができるよう本を読んだり、意見交換を行う。
大人として、また、保育者として必要な情報活用能力を高めるために、積極的にICTを活用してレポート等を作成する。
大人として、また、保育者として必要な情報モラルを意識した生活ができるようになるために、自らのデジタル・リテラシーを振り返りながら、子どもや保護者に必要な情報モラルについて考えるために新聞やニュースに目を通す。
子どもが今またこれから生きることになる高度なICT社会について興味や関心をもち、子どもとともにより良い社会のあり方について考え、意見をもつことができるように見聞を広める。

課題に対するフィードバックの方法

毎回、前回授業に関するミニテストを行い、解説、助言、補足等を行う。
授業内課題については、優れた点の指摘と助言等のコメントを行う
グループで教材を作成した後の発表を行う際に、学生どうしの相互評価の公開と指導・助言コメントを行う。

個人で作成した指導案についてコメントを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

●評価方法に記載した方法より総合的に判定のうえ 、 60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
●出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にすること。
・正当な理由なく5回より多く欠席した場合は「K」評価とする。
・正当な理由なく定期試験に変わるレポート及び教材課題の提出が期限までにない場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	毎週のミニテスト：毎回点数をフィードバックする。全体の合計点を評価割合分に変換し反映させる。 授業内課題（ワークシート）：内容によって3段階評価を行い、全評価の平均を反映させる。	1,2,3,4
授業外での評価	20	ICTを活用した課題作成と省察レポート ・課題は授業内容や子どもの姿を意識して作成できているかを評価する。 ・省察レポートは発表した課題をグループで評価しあった結果と、その結果から自ら省察した内容をレポートにまとめたものを評価する。	2,3,5,6,7
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	課題は授業内でアナウンスする。課題は授業で学んだ内容を含んでいるかどうかを重視する。	2,3,4,5,6,7
その他	0		

テキスト	文部科学省『幼稚園教育要領（平成29年3月告示）』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示）』
参考書	京都教育大学附属幼稚園『幼児の遊びや生活を豊かにするICT活用に関する研究（令和4年度文部科学省委託）』※文部科学省websiteに掲載
履修条件・他の科目との関連	・「コンピュータ基礎演習I（ワープロ）」及び「コンピュータ基礎演習II（表計算基礎）」の単位を取得している、あるいは同等の知識・技術があることを前提とする。 ・毎回のミニテストや課題の提出は全てClassroomを使用して行いますので、ノートパソコン等がある方が望ましい。 ・教職免許の取得を希望し、他の教職科目も履修していることが望ましい。 ・欠席した場合は、その回の課題を担当教員等に聞いたり、ワークシートを取りにきて取り組むなどして自習してください。

授業コード	22011811	授業形態	実習	実務家教員	ー
授業科目名	教育実習　［対面］				
シラバス執筆（全員）	吉田　貴子				
シラバス執筆（主）	吉田　貴子				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期、後期、2	単位数	5単位

授業の目的･概要

教育実習は、保育指導や学級経営など教職についての専門的知識・技能の修得を目的とする。そのため実習を幼稚園において１年次（第一段階）と２年次（第二段階）の2回に分けて実施する。これらの実習を効果あるものとするために教育実習（事前・事後の指導）を前期に開講する。教育実習５単位のうち、４単位は２回の実習、１単位は事前・事後指導の授業に相当し、すべてを履修し合格となって初めて教育実習５単位が認定される。

【事前・事後指導】
教育実習（第一段階）に向けて１年次前期に７回、教育実習（第二段階）に向けて２年次前期に８回、２年間を通して合計15回の授業を実施する。

【実習】
第一段階（１年次生）、第二段階（２年次生）とも９月に２週間実施する。
教育実習においては観察実習・参加実習・責任実習を通してそれぞれ、保育環境・園児の活動・教諭の保育指導の状況・保育内容などを理解し、教諭の指導に基づく保育の補助的・部分的参加により保育技術を修得し、保育の実際的指導および学級経営などを実際に経験し、幼稚園教諭となるために必要となる今後の課題を各自明らかにする。
なお、教育実習を実施するに当たっては、教育実習（事前・事後の指導）を履修すると同時に、実習説明会・巡回担当教員との実習打合会に参加し事前準備の万全をはかることが必要である。
また、教育実習には、様々な事務手続きが必要になるので教学・教職センターと連携を密にとって教育実習の実施がスムーズに行われるようにしなければならない。

到達目標

【事前・事後指導】
１．幼稚園教諭の役割を知り、幼稚園実習に対して、明確な目的意識をもって取り組むことができる。
２．子ども理解をもとにして、発達支援や保育実践の方法について具体的に考えることができる。
３．学びを振り返り、自己の課題を省察することができる。
４．子ども理解をもとにした指導計画を立案することができる。

【実習】
第一段階（１年）
５．幼稚園の生活に参加し幼児への理解を深めるとともに、幼稚園の機能と幼稚園教諭の職務について説明することができる。
第二段階（２年）
６．幼稚園教諭として必要な資質・能力・技術を活用し、保育を実際に実践し省察することができる。

授業計画

【事前指導】
＜第一段階に向けた事前指導（１年次生）＞
1.オリエンテーション、実習とは何か
2.実習生としてのマナー、幼稚園における安全管理
3.幼稚園の役割と幼稚園教諭の職務
4.幼稚園の１日の流れと保育内容
5.環境整備、保育方法
6.実習記録の書き方
7.実習課題の立て方

＜第二段階に向けた事前指導（２年次生）＞
1.１年次の実習の振り返りとオリエンテーション
2.実習生としての心構え、実習課題の立て方
3.幼稚園の役割、幼稚園教諭の職務、幼稚園の１日の流れ
4.幼稚園における安全管理
5.環境整備、各保育場面における援助方法
6.実習記録の書き方
7.指導案の立案および模擬保育
8.実習課題の確認

【事後指導】
＜第一段階および第二段階＞
1.教育実習についての反省会の開催
2.実習の振り返り
3.実習記録、実習評価に基づく個別指導

事前事後の学習

教育実習（学外実習）については、実習時間外で、計20時間の事前事後学習が必要です。 また、教育実習（事前事後指導）については、授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

実習の事前・事後指導（１単位）にあたる授業は１年次に第一段階に向けて７回、２年次に第二段階に向けて８回の合計15回の授業を実施するため、それぞれの授業に対して事前事後学習が必要となる。
次回の授業に対して「実習の手引き」を熟読しておく。
事後は授業内容を振り返り復習する。

課題に対するフィードバックの方法

課題・レポートを次回授業で返却。説明等を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

授業内での課題、学外実習における評価、期末レポートを総合して評価します。
幼児保育学科の規定に基づき、授業の５分の４以上の出席がなければ、実習には参加できず、「K」（評価不能）となります。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業内課題、レポート等（60）	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	学外実習に対する評価（実習先からの評価や実習記録など）	1, 2, 3, 4, 5, 6
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポート（20）	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	「実習の手引き」大阪国際大学短期大学部幼児保育学科
参考書	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉/文部科学省、厚生労働省、内閣府/チャイルド本社/価格：550円/ISBN：480540258X
履修条件・他の科目との関連	本科目は教育実習の一部です。通常の講義とは異なりますので「幼児保育学科学生必携」を熟読し、科目特性や単位の認定基準を理解した上で受講すること。

授業コード	22011812	授業形態	実習	実務家教員	ー
授業科目名	教育実習　［対面］				
シラバス執筆（全員）	古海　忍				
シラバス執筆（主）	古海　忍				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期、後期、2	単位数	5単位

授業の目的･概要

教育実習は、保育指導や学級経営など教職についての専門的知識・技能の修得を目的とする。そのため実習を幼稚園において１年次（第一段階）と２年次（第二段階）の2回に分けて実施する。これらの実習を効果あるものとするために教育実習（事前・事後の指導）を前期に開講する。教育実習５単位のうち、４単位は２回の実習、１単位は事前・事後指導の授業に相当し、すべてを履修し合格となって初めて教育実習５単位が認定される。

【事前・事後指導】
教育実習（第一段階）に向けて１年次前期に７回、教育実習（第二段階）に向けて２年次前期に８回、２年間を通して合計15回の授業を実施する。

【実習】
第一段階（１年次生）、第二段階（２年次生）とも９月に２週間実施する。
教育実習においては観察実習・参加実習・責任実習を通してそれぞれ、保育環境・園児の活動・教諭の保育指導の状況・保育内容などを理解し、教諭の指導に基づく保育の補助的・部分的参加により保育技術を修得し、保育の実際的指導および学級経営などを実際に経験し、幼稚園教諭となるために必要となる今後の課題を各自明らかにする。
なお、教育実習を実施するに当たっては、教育実習（事前・事後の指導）を履修すると同時に、実習説明会・巡回担当教員との実習打合会に参加し事前準備の万全をはかることが必要である。
また、教育実習には、様々な事務手続きが必要になるので教学・教職センターと連携を密にとって教育実習の実施がスムーズに行われるようにしなければならない。

到達目標

【事前・事後指導】
１．幼稚園教諭の役割を知り、幼稚園実習に対して、明確な目的意識をもって取り組むことができる。
２．子ども理解をもとにして、発達支援や保育実践の方法について具体的に考えることができる。
３．学びを振り返り、自己の課題を省察することができる。
４．子ども理解をもとにした指導計画を立案することができる。

【実習】
第一段階（１年）
５．幼稚園の生活に参加し幼児への理解を深めるとともに、幼稚園の機能と幼稚園教諭の職務について説明することができる。
第二段階（２年）
６．幼稚園教諭として必要な資質・能力・技術を活用し、保育を実際に実践し省察することができる。

授業計画

【事前指導】
＜第一段階に向けた事前指導（１年次生）＞
1.オリエンテーション、実習とは何か
2.実習生としてのマナー、幼稚園における安全管理
3.幼稚園の役割と幼稚園教諭の職務
4.幼稚園の１日の流れと保育内容
5.環境整備、保育方法
6.実習記録の書き方
7.実習課題の立て方

＜第二段階に向けた事前指導（２年次生）＞
1.１年次の実習の振り返りとオリエンテーション
2.実習生としての心構え、実習課題の立て方
3.幼稚園の役割、幼稚園教諭の職務、幼稚園の１日の流れ
4.幼稚園における安全管理
5.環境整備、各保育場面における援助方法
6.実習記録の書き方
7.指導案の立案および模擬保育
8.実習課題の確認

【事後指導】
＜第一段階および第二段階＞
1.教育実習についての反省会の開催
2.実習の振り返り
3.実習記録、実習評価に基づく個別指導

事前事後の学習

教育実習（学外実習）については、実習時間外で、計20時間の事前事後学習が必要です。 また、教育実習（事前事後指導）については、授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

実習の事前・事後指導（１単位）にあたる授業は１年次に第一段階に向けて７回、２年次に第二段階に向けて８回の合計15回の授業を実施するため、それぞれの授業に対して事前事後学習が必要となる。
次回の授業に対して「実習の手引き」を熟読しておく。
事後は授業内容を振り返り復習する。

課題に対するフィードバックの方法

課題・レポートを次回授業で返却。説明等を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

授業内での課題、学外実習における評価、期末レポートを総合して評価します。
幼児保育学科の規定に基づき、授業の５分の４以上の出席がなければ、実習には参加できず、「K」（評価不能）となります。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業内課題、レポート等（60）	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	学外実習に対する評価（実習先からの評価や実習記録など）	1, 2, 3, 4, 5, 6
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポート（20）	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	「実習の手引き」大阪国際大学短期大学部幼児保育学科
参考書	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉/文部科学省、厚生労働省、内閣府/チャイルド本社/価格：550円/ISBN：480540258X
履修条件・他の科目との関連	本科目は教育実習の一部です。通常の講義とは異なりますので「幼児保育学科学生必携」を熟読し、科目特性や単位の認定基準を理解した上で受講すること。

授業コード	22904901	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）　［対面］				
シラバス執筆（全員）	久保田　健一郎、吉田　貴子、大塚　穂波				
シラバス執筆（主）	久保田　健一郎				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

これまで学んできた知識や実習経験を基に、保育者になる上で何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補いその定着を図ることができるよう、理論と実践の有機的な統合を可能とする演習を行う授業である。そのため、模擬保育、ロールプレーイング、グループ討論といった参加型の学習や、保育現場の協力を仰ぎ、事例研究やフィールドワーク等を取り入れ、保育者に必要な資質の向上を図る。
　なお、授業はグループ学習と各教員によるオムニバス形式で行う。

到達目標

１．使命感、責任感、教育的愛情、専門職としての倫理観等について説明することができる。
２．社会性や対人関係能力などを身に付け、保護者とのコミュニケーションや協力することの重要性について、説明することができる。
３．乳幼児の成長発達や学級経営などに関して説明することができる。
４．領域、保育内容を意識した指導案を作成し、実際に指導することができる。
５．保育に関する現代的課題について分析し、その課題について保育者が求められること等を考察することができる。

授業計画

第1回　保育・教育実践演習の意義とこれまでの学修内容の確認
第2回　グループ学習①（グループ分け等）
第3回　講演会（子育て支援現場からの講話）
第4回　グループ学習②（計画・調査）
第5回　グループ学習③（学内外での調査：訪問調査も含む）
第6回　グループ学習④（発表準備）
第7回　全体発表会（前半）
第8回　全体発表会（後半）
第9回　発達的視点から考える遊び
第10回　保育者の役割・社会人としての保育者
第11回　子どもの発達を踏まえた保育環境
第12回　新任保育者の現状
第13回　現役保育者の話を聞こう！
第14回　保育現場で働く上での意見交換
第15回　２年間の学びの振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習に関しては、各回事前２時間・事後２時間が前提であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
・第1回は本授業の意義の復習
・第2回～第8回はグループ学習のための準備も事前事後学習に含む
・第9回～第11回は、個別の教員の内容の予習復習
・第12～第14回は保育現場で働くことを想定した予習復習
・第15回は全体の学びを復習

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroomを通じて、各教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

各回の課題を成績評価に反映させるので、毎回提出すること。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	提出課題によって評価する。	2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	2, 3, 4, 5
その他	30	発表・調査などへの取り組みによって評価する。	1

テキスト	テキストを使用せず、資料を配布する
参考書	幼稚園教育要領、幼稚園教育要領解説、保育所保育指針、保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
履修条件・他の科目との関連	幼稚園教員免許資格、保育士資格に関わるすべての科目について、受講しておくこと。 欠席した回の資料は、Google Classroomに掲示しておく。

授業コード	22047001	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	子ども家庭福祉　［対面］				
シラバス執筆（全員）	松木　宏史				
シラバス執筆（主）	松木　宏史				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

授業の大きなテーマは「子どもの生存権」である。まずは、子どもや子どものいる世帯の生活問題を実態と歴史の双方から学ぶ。そのうえで、現在の子ども家庭福祉のサービスの現状と、今後の改善点についてふれていく。講義形式の授業であるが、単なる歴史や制度の解説にとどまらず、「本当にこれでいいのか」「現状に合っているのか」という批判的な視点から授業を展開していく。

到達目標

１．前期「社会福祉」の学びを踏まえ、子どもを取り巻く生活問題とその対策についての成り立ちを説明できる。
２．子どもの「人権」について具体的に学び、身近な問題として具体例を挙げ説明できる。
３．子ども家庭福祉に関する支援やサービスについて説明できる。

授業計画

１．子ども家庭福祉を学ぶために
２．子どものいる世帯の生活問題（１）日本と「子育て先進国」との比較
３．子どものいる世帯の生活問題（２）現代社会と子ども家庭福祉
４．子どもの人権
５．子ども家庭福祉の歴史（１）明治・大正期
６．子ども家庭福祉の歴史（２）昭和初期から現代
７．子ども家庭福祉の体系
８．子育て支援・保育政策
９．母子保健
10．ひとり親世帯への支援
11．子どもへの虐待とDV問題
12．社会的養護 の諸問題
13．障害児への福祉政策
14．少年非行への対応
15．授業のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

この授業は予習を必須としない.
しかし復習を重視する．授業内容を理解するために配布したプリントやテキストをしっかり理解してほしい．そのために，テキストの授業該当箇所は必ず通読すること.
復習の目安として各授業につき最低60分はかけること．定期試験の準備にはさらに時間がかかることを想定しておくこと．全体として60時間以上の事後学習が必要となる.

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で何らかの課題提出を求める．課題はチェックのうえ返却する.

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示すように,毎回の提出物と定期試験の合算で評価する．60点以上を合格とし，所定の単位を認定する.
正当な理由なく授業回数の2/3以上の出席がなされない場合（累計6回以上を欠席した場合）や同じく定期試験を欠席した場合はK評価とする.

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内のミニレポート	1, 2
授業外での評価	10	授業日程の後半（10回目をめどとする）でレポートを出題する	2
定期試験	60	試験期間中にペーパーテストを行う．持ち込み一切不可.	1, 2, 3

定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	喜多・堀場編『みらい×子どもの福祉ブックス　子ども家庭福祉（第2版）』 みらい（本体2,400円+税） ISBN　9784860156060
参考書	授業中に紹介する
履修条件・他の科目との関連	万が一授業を欠席した場合は，GoogleClassroomから資料をダウンロードできる．テキストと合わせて自己学習すること． この科目は卒業必修科目である．

授業コード	22014901	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	社会福祉　［対面］				
シラバス執筆(全員)	松木　宏史				
シラバス執筆(主)	松木　宏史				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

日本国憲法第25条「生存権」の理念に基づいて、くらしにまつわる様々な問題を「ほっとけない」「ひとごとではない」問題として、社会科学的なものの見方・考え方からとらえていく、その手がかりを得ることを目標とする。そのために、まずはいま社会福祉や保育の現場でどのような問題が起こっているのか、現実に即して学んでいく。特に、貧困や差別、虐待といった社会問題がどのように生み出され、そして私たちはどのように対処してきたのか、歴史から学ぶことを重視する。歴史や理論を踏まえ、現在の法制度や、支援の実態について授業を展開する。なお、担当教員は生活保護法に基づく救護施設での勤務経験を持ち、元路上生活者・重度重複障害者・精神障害者といった様々な入居者への支援を行ってきた。現場経験のある実務家教員として、学生の皆さんに「福祉のリアル」を伝えたい。

到達目標

１．社会問題としての生活問題を、具体的な事例を手掛かりに説明できる。
２．社会福祉の成り立ちを説明できる。
３．現代社会における社会福祉の実態を説明できる。
４．「生存権」について単なる文言としてでなく、具体的に説明できる。

授業計画

１．開講にあたって
２．社会福祉の基本的な考え方
３．社会福祉の発達史（１）英国の場合
４．社会福祉の発達史（２）日本の社会福祉の源流
５．社会福祉の発展史（３）社会福祉の発展・変容
６．社会福祉の法制度・実施体系
７．社会福祉施設・専門職
８．社会保障（１）総論・社会保険
９．社会保障（２）公的扶助
10．社会福祉の制度・体系（１）子ども家庭福祉
11．社会福祉の制度・体系（２）高齢者福祉
12．社会福祉の制度・体系（３）障害者福祉
13．社会福祉の制度・体系（４）地域福祉 の推進
14．社会福祉とソーシャルワーク
15．授業のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

この授業は予習を必須としない.
しかし復習を重視する．授業内容を理解するために配布したプリントやテキストをしっかり理解してほしい．そのために，テキストの授業該当箇所は必ず通読すること.
復習の目安として，授業ごとに最低60分はかけること．また定期試験の準備にはさらに時間がかかることを想定しておくこと．全体として60時間以上の事後学習が必要となる.

課題に対するフィードバックの方法

ほぼ毎回の授業で何らかの課題提出を求める．課題はチェックのうえ返却する.

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示すように,毎回の提出物と定期試験の合算で評価する．60点以上を合格とし，所定の単位を認定する.
正当な理由なく授業回数の2/3以上の出席がなされない場合（累計6回以上を欠席した場合）や同じく定期試験を欠席した場合はK評価とする.

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内のミニレポート	1
授業外での評価	10	授業日程の後半(10週目をめどとする)でレポートを出題する	4

定期試験	60	試験期間にペーパーテストを行う。持ち込み一切不可。	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	志濃原亜美編『みらい×子どもの福祉ブックス　社会福祉（第2版）』 みらい （本体2,400円+税） ISBN　9784860156169
参考書	授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	万が一授業を欠席した場合は，GoogleClassroomから資料をダウンロードできる．テキストと合わせて自己学習すること． なおこの科目は卒業必修科目である．

授業コード	22047101	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	社会的養護Ⅰ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	松木　宏史				
シラバス執筆(主)	松木　宏史				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

さまざまな理由で社会的養護（児童福祉施設や里親等による社会的養育）を必要とする子どもたちがいる．こうした子どもたちの問題を考える時，その背景からさまざまな要因をうかがうことができる．加えてこれまでの家族形態・地域形態が変容する中で社会的養護に期待される役割はより一層大きくなっている．
本講義では、社会的養護の原理を学びつつ，子どもたちにとっての最善の利益（子どもの人権尊重）とは何かを問うていく．また政府が示す「新しい社会的養育ビジョン」における枠組みを踏まえ，社会的養護の今後の在り方を展望する．

到達目標

１．前期「社会福祉」や，同時開講している「子ども家庭福祉」を踏まえ，社会的養護問題が起こる社会構造を考察できる
２．社会的養護の概要を説明できる
３．今後に迎える「保育実習Ⅰ（施設）」等の実体験の機会と関連づけながら，社会的養護の現状・課題について説明できる
４．これからの社会的養護の在り方について自分なりの意見を持つことができる

授業計画

１．社会的養護の理念と概念
２．日本における社会的養護の歴史
３．社会的養護の現状
４．子どもの権利と社会的養護
５．社会的養護の基本原則
６．社会的養護の制度・法体系
７．施設養護（１）乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設
８．施設養護（２）児童心理治療施設・児童自立支援施設・自立援助ホーム
９．施設養護（３）障害児施設
10．家庭養護　里親・ファミリーホーム
11．社会的養護にかかわる専門職と倫理
12．施設等の運営管理
13．被措置児童等の虐待防止
14．他機関・他職種連携
15．授業のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

この授業は予習を必須としない．
しかし復習を重視する．授業内容を理解するために配布したプリントやテキストをしっかり理解してほしい．そのために，テキストの授業該当箇所は必ず通読すること．
復習の目安として，授業ごとに最低60分はかけること．また定期試験の準備・作成にはさらに時間がかかることを想定しておくこと．全体として60時間以上の事後学習が必要となる．

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で何らかの課題提出を求める．課題はチェックのうえ返却する．

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示すように,毎回の提出物と定期試験の合算で評価する．60点以上を合格とし，所定の単位を認定する．
正当な理由なく授業回数の2/3以上の出席がなされない場合（累計6回以上を欠席した場合）や同じく定期試験を欠席した場合はK評価とする．

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内のミニレポート	1, 2
授業外での評価	10	授業日程の後半(10回目をめどとする)でレポートを出題する	4

定期試験	60	試験期間中にペーパーテストを行う．持ち込み一切不可．	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	松本峰雄監修（2024）「よくわかる！保育士エクササイズ　社会的養護Ⅰ・Ⅱ演習ブック」ミネルヴァ書房（本体2,800円＋税） ISBN　9784623096176 このテキストは2年次前期配当「社会的養護Ⅱ」でも使用する．
参考書	授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	万が一授業を欠席した場合は，GoogleClassroomから資料をダウンロードできる．テキストと合わせて自己学習すること． なお，この科目は保育士資格の必修科目である． 今回購入したテキストは2年次前期配当「社会的養護Ⅱ」でも使用する．

授業コード	22020401	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	発達心理学Ⅱ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	大塚　穂波				
シラバス執筆（主）	大塚　穂波				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

子どもの理解と援助にかかわる実践力を養うことを目的として、乳幼児期の子どもの発達、遊び、保育環境について概説する。グループワークやプレゼンテーションを通して子どもの発達を丁寧にとらえるとともに、共感的理解にもとづく援助方法について説明する。

到達目標

1. 実態に応じた子どもの心身の発達的特徴を説明することができる
2. 多様な視点から子どもを理解し、具体的な援助方法を提案することができる
3. 他者と協働して子どもの発達や遊びの実態について考えを整理し、発表することができる

授業計画

第1回　イントロダクション：保育における子ども理解の意義
第2回　子どもに対するかかわりと共感的理解
第3回　人的環境としての保育者と子どもの発達：0～1歳ごろ
第4回　自我の発達と共感的理解：2～3歳ごろ
第5回　発達における葛藤やつまずき：4～5歳ごろ
第6回　いざこざと集団の育ち
第7回　子どもの生活と遊び：遊びの分類
第8回　発達に応じた援助
第9回　子ども理解のための対話・保護者との情報共有
第10回　発達過程と個人差
第11回　子ども相互のかかわりと関係づくり
第12回　特別な配慮を要する子どもの理解と援助
第13回　保育の環境の理解と構成
第14回　環境の変化や移行
第15回　発達の連続性と就学への支援

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

予習として毎回の授業テーマを確認し、自分の関心を整理しておくこと。授業後は配布資料・ノートをもとに授業内容を復習し、疑問点等を整理すること。

課題に対するフィードバックの方法

グループワークやプレゼンテーションに対してはその場で講評を行う。
レポート課題の結果は希望者に開示する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格として所定の単位を認定する。正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	ワークシート（30%）、グループワーク（30%）、プレゼンテーション（10%）	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート	1, 2
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず資料を配布する。

参考書	「子どもの理解と援助―子どもの育ちと学びの理解と保育実践―」 藪中征代・玉瀬友美 編著 萌文書林　2020年 その他、必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	欠席した回の資料はGoogle Classroomよりダウンロードし、自習すること。 「発達心理学Ⅰ」の内容を復習しておくこと。

授業コード	22047201	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	子ども家庭支援の心理学　［対面］				
シラバス執筆（全員）	大塚　穂波				
シラバス執筆（主）	大塚　穂波				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

子どもや保育を取り巻く社会情勢が大きく変化する現代において、子どもだけでなく家庭への支援を行うことは保育者の重要な職務の一つである。この授業では、子どもやその家庭への包括的な理解と支援を目的として、生涯発達の過程や家族・家庭の現状や課題について概説する。

到達目標

1. 生涯を通した人の発達段階と各時期における発達課題を説明することができる
2. 現代における家族・家庭の機能やその意義を説明することができる
3. 子育て家庭の現状をふまえた適切な支援を考えることができる

授業計画

第1回　イントロダクション：生涯発達の視点からみた乳幼児期
第2回　児童期の発達過程：認識の深まりと対人関係の広がり
第3回　青年期の発達過程(1)：思春期以降の心身の変化と恋愛
第4回　青年期の発達過程(2)：アイデンティティ
第5回　成人期の発達過程(1)：ライフコースの多様化
第6回　成人期の発達過程(2)：出産と育児にともなう心理的変化
第7回　中年期～老年期の発達過程：ジェネラティヴィティ
第8回　生涯発達と発達観
第9回　家族・家庭の意義と機能：家族ライフサイクル
第10回　親子関係・家族関係の理解：家族システム理論
第11回　現代の子育て
第12回　子どもの生活・成育環境
第13回　多様な子ども・家庭の理解と支援
第14回　心の健康にかかわる問題
第15回　まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

資料を通読し授業内容を予習しておくこと。また、復習として毎回の授業内容に関する具体的な事例や関連するニュース等を調べ、ノートにまとめること。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーは授業内で解説する。
レポート課題の結果については希望者に対して開示する。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格として所定の単位を認定する。正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	小テスト(40)、ワークシート(30)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート	2, 3
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず資料を配布する。

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	欠席した回の資料はGoogle Classroomよりダウンロードし、自習すること。 「発達心理学Ⅰ」「発達心理学Ⅱ」の内容を復習しておくこと。また、日頃から子育て家庭に関する現代的問題に関心を持っておくこと。

授業コード	22047301	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	子どもの健康と安全　［対面］				
シラバス執筆（全員）	織田　恵輔				
シラバス執筆（主）	織田　恵輔				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

子どもの心身の健全な成長には、その健康の保持及び増進が必要である。 本講義では、乳幼児の基本的な健康及び成長の観察方法と評価について説明する。 また、体調不良時や緊急時における具体的な対応方法に関する基礎的知識と技術について概説する。 さらに、 保育及び母子保健に関わる関連機関との連携・ 協働について説明をする。 子どもの健康と安全の授業では、 実際の保育の場面で活用できる演習や映像などの視覚的な教材を多く取り入れた授業を行う。

到達目標

1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について実行できる。
2. 関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に説明できる。
3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に実行できる。
4. 関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に実行できる。
5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドラインや近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に説明できる。
6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に説明できる。

授業計画

【第1回】
テーマ：保健的観点を踏まえた保育環境及び援助
（1）子どもの健康と保育の環境
内容・方法：乳幼児の健康と保育の環境を学ぶ。
【第2回】
テーマ：保健的観点を踏まえた保育環境及び援助
（2）子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理
内容・方法：乳幼児の個別及び集団における健康や安全管理の意義を学ぶ。
【第3回】
テーマ：保育における健康及び安全管理
（1）衛生管理
内容・方法：保育現場における衛生管理を学ぶ。
【第4回】
テーマ：保育における健康及び安全管理
（2）事故防止及び安全対策
内容・方法：乳幼児に起こりやすい事故防止と安全対策を学ぶ。
【第5回】
テーマ：保育における健康及び安全管理
（3）災害への備えと危機管理
内容・方法：保育の現場における災害への備えと危機管理を学ぶ。
【第6回】
テーマ：子どもの体調不良等に対する適切な対応
（1）体調不良や傷害が生じた場合の対応
内容・方法：乳幼児の体調不良の兆候や体調不良時の対応、傷害が生じたときの対応を学ぶ。
【第7回】
テーマ：子どもの体調不良等に対する適切な対応
（2）応急処置、救急処置及び救急蘇生法
内容・方法：保育の現場での応急処置の方法と急変時などに対応できる救急処置及び救急蘇生法を学ぶ。
【第8回】
テーマ：感染症対策
（1）感染症の集団発生の予防
内容・方法：保育の現場における乳幼児の感染症の集団発生の予防方法を学ぶ。
【第9回】
テーマ：感染症対策
（2）感染症発生時と罹患後の対応
内容・方法：保育の現場において発生した感染への対応と感染症に罹患後の乳幼児の対応を学ぶ。
【第10回】
テーマ：保育における保健的対応
（1）保育における保健的対応の基本的な考え方
内容・方法：保育における保健的対応の基本的な考え方を学ぶ。
【第11回】
テーマ：保育における保健的対応
（2）3歳未満児への対応

内容・方法：乳児から3歳未満児への保健的対応を学ぶ。
【第12回】
テーマ：保育における保健的対応
（3）個別的な配慮を要する子どもへの対応
内容・方法：慢性疾患及びアレルギー疾患などの個別的な配慮を要する乳幼児への対応を学ぶ。
【第13回】
テーマ：保育における保健的対応
（4）障害のある子どもへの対応
内容・方法：障害のある乳幼児への対応を学ぶ。
【第14回】
テーマ：健康及び安全の管理の実施体制
（1）保育における保健活動の計画及び評価
内容・方法：保育の現場における保健活動の計画及び評価を学ぶ。
【第15回】
テーマ：健康及び安全の管理の実施体制
（2）保育における連携・協働
内容・方法：職員間の連携・協働と組織的取組、母子保健・地域保健における自治体との連携、
家庭、専門機関、地域の関連機関などとの連携を学ぶ。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】
①事前学習課題：参考書等で乳幼児の健康と保育の環境について調べておく（30分）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。
【第2回】
①事前学習課題：参考書等で乳幼児の健康及び安全管理について調べておく（30分）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。
【第3回】
①事前学習課題：参考書等で衛生管理について調べておく（30分）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。
【第4回】
①事前学習課題：参考書等で事故防止と安全対策の方法について調べておく（30分）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。
【第5回】
①事前学習課題：参考書等で災害への備えと災害時の対策について調べておく（30分）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。
【第6回】
①事前学習課題：参考書等で乳幼児の体調不良及び傷害時の対応について調べておく（30分）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。
【第7回】
①事前学習課題：参考書等で救急処置及び救急蘇生法について調べておく（30分）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。
【第8回】
①事前学習課題：参考書等で感染症予防について調べておく（30分）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。
【第9回】
①事前学習課題：参考書等で感染症発生時の対応について調べておく（30分）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。
【第10回】
①事前学習課題：参考書等で保育における保健的対応について調べておく（30分）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。
【第11回】
①事前学習課題：参考書等で乳児から３歳までの乳幼児について調べておく（30分）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。
【第12回】
①事前学習課題：参考書等で乳幼児の慢性疾患及びアレルギー疾患について調べておく（30分）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。
【第13回】
①事前学習課題：参考書等で障害のある子どもについて調べておく（30分）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。
【第14回】
①事前学習課題：参考書等で保育における保健活動計画について調べておく（30分）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。
【第15回】
①事前学習課題：参考書等で保育に関わる関連機関との連携について調べておく（30分）。
②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。

課題に対するフィードバックの方法

採点基準（適正な解答）を公開し、実施する課題について教室内で教員への提出直後に採点し、課題による学びは授業内で学生にフィードバックする。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。

●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

成績は授業への取り組み状況・受講態度、課題及び授業の理解度を確認するためのレポート（定期試験に代わるレポート）の総合的評価により判定のうえ、60点以上を合格とし所定の単位を認定する。

受講態度とは、授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度のことであり、総合的に評価する。
課題は、課題への取り組みと課題の提出により評価する。

授業への出席は、全体の2/3を必須とし、6回以上欠席した場合は評価の対象とせず「K」評価とする。
なお、成績の評価は、授業内評価やレポートを重視するため、欠席5回以下であっても所定の単位認定とならない場合がある。

30分以上の遅刻は欠席とし、3回の遅刻は1回の欠席とする。

授業の理解度を確認するためのレポートが未提出の場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、演習及びグループワークへの参加や発表態度（30） 課題への取り組みと提出（60）	1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	授業の理解度を確認するためのレポート（10）	2, 5, 6
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない 毎回の授業で必要な資料を配布する。
参考書	子どもの保健Ⅱ（演習）　白野幸子　医歯薬出版株式会社　2,200円 小児保健実習　第6版　保育と保健・看護の視点から　同文書院　2,310円 写真でわかる小児看護技術　改訂第2版　インターメディカ　2,625円 地震なんかに負けない！　幼稚園・保育園・家庭防災ハンドブック　子どもの命を守るための防災マニュアル　学研　1,680円
履修条件・他の科目との関連	授業を欠席した場合の授業資料の配布については、個別的に対応する。

授業コード	22053001	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	子どもの食と栄養　［対面］				
シラバス執筆（全員）	田村　千里				
シラバス執筆（主）	田村　千里				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

子どもの食生活や栄養は、生涯にわたる健康と生活の基礎となり、その後の心と身体の健康に大きく影響する。今日の生活環境や社会環境の中で、子どもたちに適切な食事を好ましい環境のもとで提供することは極めて重要である。本演習では、栄養に関する基本的知識とともに、子どもの発育・発達と食生活の関連について説明する。同時に、自分自身の食生活を見直す機会としてもらう。
「食事の大切さ」を子どもたちに伝える方法として、食育の媒体作り・発表を取り入れている。また、子どもの成長に適した献立を紹介し、調理形態と調理ポイントを説明する。保育者として食に関する基礎的知識と実践態度を身につけることを目的とする。

到達目標

１．身体の健康と食事の役割について、および栄養素の種類とはたらきについて説明できる
２．子どもの発育・発達と食生活の関連について考えることができる
３．食生活に関心をもち、食文化を大切にし、食事時のマナーを身につけ、食事の楽しさを日々、子どもたちに伝えることができる

授業計画

【第1回】講義オリエンテーション、食生活の現状と課題
授業の概要、到達目標、成績評価についてシラバスを見ながら説明
「子どもの食と栄養」を学ぶ目的、「食べる」ということ、自分自身の現在の食生活についての見直し

【第2回】健康と食生活、栄養に関する基本的知識（１）
健康とは何か、栄養について
五大栄養素について（糖質、脂質、たんぱく質）

【第3回】栄養に関する基本的知識（２）
五大栄養素について（無機質）（ビタミン）

【第4回】栄養に関する基本的知識（３）
五大栄養素について　水分について
栄養のバランス、バランスのよい食事、自分自身の食生活を見直す

【第5回】自分自身の食生活を見直す
１日の食事を写真に撮り、食べたものを分類し栄養バランスを検討する
食環境の現状、食品添加物との関わり
食環境の現状、食品添加物との関わりを知る

【第6回】妊娠期の食生活
妊娠期の栄養と食生活、胎児に影響を与える母体の要因、献立紹介「妊娠中の食生活」
乳児期の授乳の意義と食生活
母乳の利点と問題点、母乳の保存、解凍および加温、人工栄養
乳汁栄養、調乳、
正しい調乳方法、離乳期段階に合った離乳食

【第7回】前半のまとめ、食中毒について
前半に学んだ内容の確認
食中毒の予防について

【第8回】離乳期の意義と食生活（１）献立紹介「調乳と離乳食」
離乳の必要性と役割、離乳の実際

【第9回】離乳期の意義と食生活（２）ビデオ「味覚のしつけは乳幼児期から」
離乳食の進め方と原則、離乳各期における調理形態の違いを意識する

【第10回】離乳期の意義と食生活（３）
離乳食の進め方と原則、離乳各期における調理形態の違いを意識する
乳児期の栄養上の問題と健康への対応
乳児期の栄養上の問題をとりあげ、健康への対応を考える

【第11回】幼児期の心身の発達と食生活
幼児期の心身の特徴と食生活

【第12回】幼児期の栄養上の問題と健康への対応

食物アレルギー、献立紹介「アレルギー対応食」
幼児期の心身の特徴と食生活の関係、問題と対応について
給食における食物アレルギーをもっている子どものための調理の工夫

【第13回】幼児期のお弁当
幼児期のお弁当を作る上での注意点の確認
保育所給食
保育所給食の献立と調理の工夫、保育所給食を食べる際に注意すること

【第14回】幼児期の間食
子どもにとっての間食の意義、おやつを一緒に作ることの意味
学童期の心身の発達と食生活、障害のある子どもへの対応
学童期の子ども、障害のある子どもの食生活に関わる時に注意すること

【第15回】食育の必要性、留意点、実践（カルタ作成）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】
①事前学修課題：シラバスにある「子どもの食と栄養」を読む
②事後学修課題：自分が毎日食べているものを意識する
【第2回】
①事前学修課題：健康について考える。中学や高校の時に学んだ栄養素について復習する
②事後学修課題：健康に暮らすために、今、自分が食べているものの栄養について考える
【第3回】
①事前学修課題：中学や高校の時に学んだ栄養素について復習する
②事後学修課題：自分が食べているものの栄養についてまとめる
【第4回】
①事前学修課題：１日の食事３食（朝・昼・夜）の写真を撮る
②事後学修課題：自分が食べているものの栄養についてまとめ、バランスのよい食事とは何かを考える
【第5回】
①事前学修課題：自分自身の食生活を振り返る。
②事後学修課題：今後、食生活をする上で気をつけなければならないことをまとめる
【第6回】
①事前学修課題：妊娠時の母体の変化について調べる
乳児期の栄養について調べる
②事後学修課題：妊娠時の食生活で気をつけることを確認する
乳児期の心身の発達についてまとめる
【第7回】
①事前学修課題：前半に学んだことを見直す
食中毒に関する情報を集める
②事後学修課題：食中毒の予防と対処法をまとめる
【第8回】
①事前学修課題：乳児期の栄養「乳汁栄養」について復習する。正しい調乳法を確認する
②事後学修課題：離乳の必要性と役割についてまとめる
【第9回】
①事前学修課題：前週の「離乳食の進め方」を復習する
②事後学修課題：市販の離乳食を観察し、発達段階による違いを確認する
ビデオの内容を表に書き加え、まとめる
【第10回】
①事前学修課題：乳児期の栄養上の問題点について実習で感じたことをまとめる
②事後学修課題：乳児期の食事における保育者としての対応を考える
【第11回】
①事前学修課題：幼児期の食生活について考える
②事後学修課題：幼児期の特徴と留意点についてまとめる
【第12回】
①事前学修課題：実習に行った際の、食物アレルギーを持った子どもへの対応を振り返る
実習に行った時の子どもたちの昼食時間を振り返る
②事後学修課題：食物アレルギーを持った子どもに対処する時の注意点をまとめる
幼児期の食生活に接する際の注意点をまとめる
【第13回】
①事前学修課題：子どものお弁当において大切なことは何かを調べる
実習中に見た給食の献立と調理の工夫を書き出してみる
②事後学修課題：子どもと大人のお弁当の違いをまとめてみる
保育所給食の時に注意すべきことをまとめる
【第14回】
①事前学修課題：自分自身の間食について考える
実習に行った時の給食の献立、保育者の接し方を振り返る
②事後学修課題：子どもと大人の間食の違いをまとめる
児童福祉施設における食事や保育所での給食で、保育士として注意することをまとめる
子どもたちが楽しく食事ができるように、保育士としてどうあるべきかをまとめる
【第15回】
①事前学修課題：今まで自分が受けてきた食育について思い出し、書き出してみる
②事後学修課題：子どもたちに食育を通して伝えたいことをまとめる

なお、各回授業において、事前事後学習は合わせて１時間必要とする

課題に対するフィードバックの方法

課題は点検後返却する。返却時のコメントを確認すること
評価については、希望者に開示することが可能

成績評価の方法・基準（方針）

全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる
正当な理由なく５回を超えて欠席した場合、また必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は「K」評価とする
授業内に提示された必須課題を全て提出すること。提出物は期限厳守のこと

以下に示す評価方法により総合的に評価し、60点以上を合格とし所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業に取り組む姿勢（30） 発表・媒体作り（食事・食育など）（20） 前半の確認試験（20）	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	30	30	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない 授業内容に応じ、プリントを配布する
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	保育士資格必修科目である 保育関連の他科目において子どもの心身の発達と関連づけて理解すること 授業内容に応じて資料を配布しているので、欠席した場合は次回授業に出席した際に自分から申し出て資料を受け取り自習すること

授業コード	22047401	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	子ども家庭支援論　［対面］				
シラバス執筆（全員）	松木　宏史				
シラバス執筆（主）	松木　宏史				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

幼児教育・保育の現場では、しばしば子育てに関して悩みを抱える保護者に出会う。そうしたとき、支援の方法や制度の枠組みを知っておくことで余裕を持った対応ができる。加えて、子育て世帯の生活実態を知ることで寄り添った支援が可能となる。また子育て世帯を継続的に支援するうえで，ソーシャルワークの知見から得るものも多い．これら現場に出ればすぐに直面する「子育て世帯の生活問題とその対策」について理解しやすく授業を進めていく。

到達目標

１．1年次開講科目「社会福祉」「子ども家庭福祉」での学びを踏まえ、保育の専門性を生かした家庭支援のあり方を考えることができる。
２．子育て世帯の生活問題を理解し具体的に実態を説明できる。
３．日本の子ども家庭支援・子育て支援政策について説明できる。
４．各世帯の状況に合わせた支援のあり方を考えることができる。

授業計画

１．子ども家庭支援を学ぶために
２．子ども家庭支援の意義と必要性
３．子ども家庭支援の目的・機能
４．保育の専門性を活かした子ども家庭支援
５．子どもの育ちの喜びを共有すること
６．保護者を支える際の留意点
７．保育者に求められる基本的態度　バイステックの7原則に学ぶ
８．子育て世帯の状況に応じた支援
９．関係機関との連携
10．子育て支援施策・次世代育成支援施策
11．子ども家庭支援の実際
12．保育所等を利用する世帯への支援
13．地域の子育て世帯への支援
14．要保護児童および世帯に対する支援
15．授業のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

この授業は予習を必須としない．
しかし復習を重視する．授業内容を理解するために配布したプリントやテキストをしっかり理解してほしい．そのために，テキストの授業該当箇所は必ず通読すること．
復習の目安として各授業最低60分はかけること．また定期試験の準備にはさらに時間がかかることを想定しておくこと．全体として60時間以上の事後学習が必要となる．

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で何らかの課題提出を求める．課題はチェックのうえ返却する．

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示すように，毎回の提出物と定期試験の合算で評価する．60点以上を合格とし，所定の単位を認定する．
正当な理由なく授業回数の2/3以上の出席がなされない場合（累計6回以上を欠席した場合）や同じく定期試験を欠席した場合はK評価とする．

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内のミニレポート	1, 2
授業外での評価	10	授業日程の後半（10回目以降）でレポートを出題する	2
定期試験	60	試験期間中にペーパーテストを行う．持ち込み一切不可．	1, 2, 3, 4

定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	立花・丸目・田邉等編『プラクティス/保育・福祉のはじまり　子ども家庭支援論』ミネルヴァ書房(本体2,200円＋税) ISBN　9784623097449
参考書	授業中に紹介する
履修条件・他の科目との関連	万が一授業を欠席した場合は，GoogleClassroomから資料をダウンロードできる．テキストと合わせて自己学習すること. なお，この科目は保育士資格取得のための必修科目である

授業コード	22047501	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	社会的養護Ⅱ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	松木　宏史				
シラバス執筆(主)	松木　宏史				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

これまで「社会福祉」「子ども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」で学んだ知識，「保育実習Ⅰ（施設）」で学んだ技術や子どもとのかかわり方そして現場での矛盾などを踏まえて，今後の社会的養護の在り方について，理論と事例を踏まえて演習していく．社会的養護の抱える諸問題は一朝一夕には解決できない．多くの学生が施設実習直後でもあり，現場での記憶が鮮やかに残っていることと思う．現場で感じた「よかった，楽しかった」という思いや「なぜこうなっているんだろう」というモヤモヤする思いを忘れずに授業に臨んでもらいたい．

到達目標

１．社会的養護の対象となる子どもについて理解できる
２．子どもの権利擁護について考えることができる
３．社会的養護の実際について理解できる
４．既習の「社会福祉」「子ども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」といった講義、「保育実習Ⅰ（施設）」等の実体験と関連づけながらより具体的なイメージを育むことができる

授業計画

１．開講にあたって　施設実習の振り返り
２．社会的養護の現代的課題（社会的養護Ⅰの復習）
３．施設養護における日常生活支援
４．施設養護における治療的支援
５．施設養護における自立支援
６．家庭養護の生活特性
７．社会的養護におけるアフターケア
８．求められる継続的支援
９．社会的養護における個別支援計画
10．社会的養護における記録の重要性
11．施設における保育士の役割
12．社会的養護における家庭支援
13．フォスタリングとその実際
14．社会的養護の課題と展望
15．授業のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

この授業は予習を必要としない．しかし復習を重視する．授業内容を理解するために配布したプリントをしっかり理解してほしい．
復習の目安として各授業最低30分はかけること．また最終レポートの準備・作成にはさらに時間がかかることを想定しておくこと．
全体として15時間以上の事後学習が必要となる．

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題はチェックのうえ返却する．

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示すように，毎回の提出物と定期試験の合算で評価する．60点以上を合格とし，所定の単位を認定する．
正当な理由なく授業回数の2/3以上の出席がなされない場合（累計6回以上を欠席した場合）や同じく定期試験を欠席した場合はK評価とする．

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内のミニレポートや演習シートへの記入	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	50	試験期間中にペーパーテストを行う.	1, 2, 3, 4

定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない．別途資料等を提示する．
参考書	松本峰雄監修（2024）『よくわかる！保育士エクササイズ　社会的養護Ⅰ・Ⅱ演習ブック』
履修条件・他の科目との関連	万が一授業を欠席した場合は，GoogleClassroomから資料をダウンロードできる． 保育士資格取得のための必修科目である

授業コード	22047601	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	乳児保育Ⅰ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	北村　麻樹				
シラバス執筆（主）	北村　麻樹				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

子どもの成長や生活を保障するための乳児保育の社会的役割について説明する。担当教員が保育現場に従事してきた経験をもとに、実務家教員として、3歳未満児の心身の発育・発達過程についての理解、環境との関わり、生活や遊びと保育の方法について、理論と実践への応用を関連付けながら講義を展開する。

到達目標

1.乳児保育の現状と課題の理解を深め、乳児保育の意義と目的について説明できる。
2.3歳未満児の発達や特徴について説明できる。
3.3歳未満児の生活や遊びについて説明できる。
4.保育者として子どもを理解し、育ちを援助する方法を考えることができる。

授業計画

この授業は対面授業です。

第1回　　オリエンテーション　乳児保育とは？
第2回　　乳児保育の制度と課題①（子ども・子育てをめぐる現状）
第3回　　乳児保育の制度と課題②（乳児保育の変遷・保育制度）
第4回　　乳児保育の基本
第5回　　保育所保育指針のねらい及び内容・保育所保育指針に準拠した保育展開とは？
第6回　　0歳児の発達と生活、体験と遊び（6か月未満児）
第7回　　0歳児の発達と生活、体験と遊び（6か月以上1歳未満児）
第8回　　1歳児の発達と生活、体験と遊び（1歳児前半）
第9回　　1歳児の発達と生活、体験と遊び（1歳児後半）
第10回　2歳児の発達と生活
第11回　2歳児の体験と遊び
第12回　乳児保育現場の1日の流れ
第13回　乳児保育における保育教材の研究
第14回　保育教材の発表
第15回　総括　振り返りとまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後あわせて1単位あたり45時間が必要。

第1回
事前学習課題：乳児について調べる
事後学習課題：授業内容を振り返りまとめる
第2回
事前学習課題：子ども・子育てをめぐる現状について調べる
事後学習課題：子ども・子育てをめぐる課題についてまとめる
第3回
事前学習課題：乳児保育の変遷・保育制度について調べる
事後学習課題：乳児保育の保育制度の課題についてまとめる
第4回
事前学習課題：乳児の基本的生活について調べる
事後学習課題：乳児の基本についてまとめる
第5回
事前学習課題：保育所保育指針のねらい及び内容を読む
事後学習課題：保育所保育指針に準拠した保育展開についてまとめる
第6回
事前学習課題：6か月未満児の発達と生活について調べる
事後学習課題：6か月未児の発達と生活、遊びについてまとめる
第7回
事前学習課題：6か月以上1歳未満児の発達と生活について調べる
事後学習課題：6か月以上1歳未満児発達と生活、遊びについてまとめる
第8回
事前学習課題：1歳児前半の発達と生活について調べる
事後学習課題：1歳児前半の発達と生活、遊びについてまとめる
第9回
事前学習課題：1歳児後半の発達と生活について調べる

事後学習課題：1歳児後半の発達と生活、遊びについてまとめる
第10回
事前学習課題：2歳児の発達について調べる
事後学習課題：2歳児の発達と生活についてまとめる
第11回
事前学習課題：2歳児の体験と遊びについて調べる
事後学習課題：2歳児の体験と遊びについてまとめる
第12回
事前学習課題：乳児保育現場の1日について調べる
事後学習課題：乳児保育現場の1日の流れについてまとめる
第13回
事前学習課題：乳児保育現場で使われている保育教材について調べる
事後学習課題：乳児保育現場で使用できる保育教材を作成する
第14回
事前学習課題：保育教材を発表できるようまとめる
事後学習課題：発表した保育教材について反省課題をまとめる
第15回
事前学習課題：授業で学んだ内容を振り返る
事後学習課題：これまでの学びについてまとめる

課題に対するフィードバックの方法

課題のまとめの評価については、希望者に開示する。
授業の学びにおけるフィードバックは、次回の授業の初めに振り返り、学びを深める。
教材発表については、授業の中で評価・考察を含め学習を深める。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する

授業内小テストや課題レポート及び、毎回の授業意欲や提出物に対する総合評価とする。
正当な理由なく、欠席回数が授業の3分の1を超えた場合は、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業への取組、課題提出状況や課題内容を評価する（40） 授業内小テスト（20） 授業の内容から出題する	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	授業の内容から出題する（40）	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	「ワークで学ぶ　乳児保育Ⅰ・Ⅱ」 菊地篤子(編)　株式会社みらい　2022年4月　　2310円 ISBN978-4-86015-572-8
参考書	保育所保育指針解説　平成30年3月　　厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　平成30年3月　内閣府・文部科学省・厚生労働省
履修条件・他の科目との関連	乳児保育Ⅱへと繋がるため、乳児保育の理論をしっかり理解しておくことが必要となる。

授業コード	22047703	授業形態	演習	実務家教員	○
授業科目名	乳児保育Ⅱ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	北村　麻樹、小井手　瑞代、長﨑　元気				
シラバス執筆（主）	北村　麻樹				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

乳児保育Ⅰで学んだ理論を基に、乳児の保育に関する実践力を身につけるために、演習を通して支援の方法を説明する。担当教員が保育現場に従事してきた経験をもとに、実務家教員として、3歳未満児への養護と教育の両視点から考える保育の計画や、子どもの生活場面での具体的な関わり方、職員とのチームワークや保護者との連携など、実践に役立つ授業展開を行う。

到達目標

1.おむつ替えや授乳等の保育技術の知識を身につけ実践に活かすことができる。
2.3歳未満児の健康と衛生面に配慮した環境づくりを考えることができる。
3.3歳未満児の保育の計画や必要性について説明できる。
4.保育者間、保護者、多職種との連携を意識し、保育者としての役割を考えることができる。

授業計画

この授業は対面授業です。

第1回　乳児保育の養護と実際（調乳・授乳）
第2回　乳児保育の養護と実際（離乳食）
第3回　乳児保育の養護と実際（排泄・衛生）
第4回　乳児保育の養護と実際（着脱・睡眠）
第5回　乳児保育における人的環境
第6回　乳児保育における安心安全な保育環境
第7回　模擬保育計画
第8回　模擬保育発表
第9回　保育の計画①（短期指導計画）
第10回　保育の計画②（長期指導計画）
第11回　保育の記録（保育日誌等）
第12回　職員間の協働
第13回　保護者との連携
第14回　地域との連携
第15回　総括　振り返りとまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後あわせて1単位あたり45時間が必要。

第1回
事前学習課題：乳児の調乳・授乳について調べる
事後学習課題：乳児の調乳・授乳の実際についてまとめる
第2回
事前学習課題：離乳食とは何かについて調べる
事後学習課題：離乳食の必要性についてまとめる
第3回
事前学習課題：紙おむつ、布おむつの違いについて調べる
事後学習課題：乳児期の排泄や睡眠についてまとめる
第4回
事前学習課題：乳児期に適した衣類について調べる
事後学習課題：衣類の着脱や、乳児期の睡眠についてまとめる
第5回
事前学習課題：乳児期に関わる人について調べる
事後学習課題：乳児期の人との関わりについてまとめる
第6回
事前学習課題：乳児期の子どもの環境について調べる
事後学習課題：乳児期の子どもに適した保育環境についてまとめる
第7回
事前学習課題：模擬保育について考える
事後学習課題：模擬保育の指導案作成を行う
第8回
事前学習課題：模擬保育の準備を行う
事後学習課題：模擬保育の反省・課題をまとめる
第9回

事前学習課題：デイリープログラムとは何か調べる
事後学習課題：短期指導計画の必要性についてまとめる
第10回
事前学習課題：年間カリキュラム、月間カリキュラムについて調べる
事後学習課題：長期指導計画の必要性についてまとめる
第11回
事前学習課題：保育記録の必要性について調べる
事後学習課題：保育の記録の重要性についてまとめる
第12回
事前学習課題：保育者間の連携について調べる
事後学習課題：保育者間の連携の重要性についてまとめる
第13回
事前学習課題：保護者との連携の必要性について調べる
事後学習課題：保護者との連携の重要性についてまとめる
第14回
事前学習課題：地域との連携の必要性について調べる
事後学習課題：地域との連携の重要性についてまとめる
第15回
事前学習課題：授業で学んだ内容を振り返る
事後学習課題：これまでの学びについてまとめる

課題に対するフィードバックの方法

課題のまとめの評価については、希望者に開示する。
授業の学びにおけるフィードバックは、次回の授業の初めに振り返り、学びを深める。
模擬保育については、授業の中で評価・考察を含め学習を深める。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する

毎回の授業意欲（態度と課題内容）、課題レポート、授業内小テストに対する総合評価とする。
正当な理由なく、欠席回数が授業の3分の1を超えた場合は、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業への取組や態度、授業時の提出物の内容、模擬保育に向けた準備や発表、模擬保育指導案（50） 授業内小テスト（20） 授業の内容から出題する	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	授業の内容から出題する(30)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	「ワークで学ぶ　乳児保育Ⅰ・Ⅱ」 菊地篤子(編)　株式会社みらい　2022年4月　　2310円 ISBN978-4-86015-572-8 （乳児保育Ⅰと同じ教科書です）
参考書	保育所保育指針解説　平成30年3月　　厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　平成30年3月　内閣府・文部科学省・厚生労働省
履修条件・他の科目との関連	乳児保育Ⅰで学んだ理論を基に、実践的な体験を通して技術を高めていくため、乳児保育Ⅰの復習が必要である。

授業コード	22047801	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	子育て支援演習　［対面］				
シラバス執筆（全員）	松木　宏史				
シラバス執筆（主）	松木　宏史				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

前期に学んだ「子ども家庭支援論」の現場編・実践編である．保育の専門性を踏まえた保護者に対する相談援助・助言・情報提供などの支援について具体的に解説する．そして保育士が行うべき「子育て支援」について様々な生活問題・課題に対応した支援内容や方法及び技術について演習を行う．

到達目標

１．子育て支援の目的や意義を理解し説明できる
２．子どもや保護者の「暮らし」について具体的に説明できる
３．子育て支援の具体的な方法・技術について理解し実践できる
４．世帯の特性に応じた子育て支援について自分なりの意見を持つことができる

授業計画

１．日常の保育のなかの保護者支援
２．保護者との信頼関係構築と相互理解
３．世帯の抱える課題に対する理解と支援
４．子どもや保護者に対する様々な場や機会の提供
５．子どもや保護者の実態把握と対応
６．支援計画の立案
７．支援におけるアプローチ
８．法人内・園内における連携・協働
９．他機関との連携・協働
10．保育施設における支援
11．地域の子育て世帯への支援
12．障害児とその保護者への支援
13．子ども虐待の予防と対応
14．多様な課題を抱える子育て世帯の理解
15．授業のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

この授業は予習を必須としない．
しかし復習を重視する．授業内容を理解するために配布したプリントやテキストをしっかり理解してほしい．そのために，テキストの授業該当箇所は必ず通読すること．
復習の目安として各授業最低30分はかけること．また最終レポートの準備・作成にはさらに時間がかかることを想定しておくこと．
全体として15時間以上の事後学習が必要となる．

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で何らかの課題提出を求める．課題はチェックのうえ返却する．

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示すように，毎回の提出物と定期試験の合算で評価する．60点以上を合格とし，所定の単位を認定する．
正当な理由なく授業回数の2/3以上の出席がなされない場合（累計6回以上を欠席した場合）や同じく定期試験を欠席した場合はK評価とする．

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内のミニレポートや演習シート等	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	50	定期試験期間中にペーパーテストを行う	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		

その他	0		

テキスト	立花直樹・渡邊慶一監修（2025）『こどもまんなか社会に活かす「子育て支援」』晃洋書房 2025年4月刊行予定
参考書	立花・丸目・田邉ほか編（2024）『子ども家庭支援論』（ミネルヴァ書房）：前期「子ども家庭支援論」で購入済み
履修条件・他の科目との関連	万が一授業を欠席した場合は，GoogleClassroomから資料をダウンロードできる．テキストと合わせて自己学習すること． 保育士資格取得のための必修科目である

授業コード	22022601	授業形態	実習	実務家教員	ー
授業科目名	保育実習Ⅰ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	久保田　健一郎				
シラバス執筆（主）	久保田　健一郎				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	4単位

授業の目的・概要

保育実習Iは、すでに修得した教科の知識・技術を基礎として、これらを総合的に実践する能力を養うためのものであり、子どもに対する理解を通して保育の理論と実践の関係について修得するために行うものである。そのために実習を保育所において２週間(80時間以上）、その他の児童福祉施設において２週間（80時間以上）実施する。

到達目標

１．保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深め、保育実践に応用することができる。
２．保育所の機能とそこでの保育士の職務について説明することができる。
３．児童福祉施設の生活に参加し、児童への理解を深め、保育実践に応用することができる。
４．児童福祉施設の機能とそこでの保育士の職務について説明することができる。
５．習得した教科の知識・技術を生かして実践に取り組むことができる。
６．自身の課題を認識し、改善に取り組むことができる。
７．マナーを守り、意欲・責任感、協調性等をもって実習に取り組むことができる。

授業計画

1年次後期（保育所実習は11月、施設実習は2月～3月）に実施する。保育実習においては観察実習・参加実習・責任実習を通して、まずは、保育の一日の流れ・児童の集団的個人的行動・施設の人的物的環境・保育士の職務内容などを理解する。次に、職員の指導に基づく保育・養護の補助的・部分的参加により保育・養護技術を修得し、指導計画の立案・実践を実際に経験する。以上の内容を経て、保育士の役割を総合的に理解し、保育士となるために必要となる今後の課題を各自明らかにする。
　なお、保育実習を実施するに当たっては、保育実習指導Ⅰを履修すると同時に、実習説明会・巡回教員との打合会に参加し事前準備の万全をはかることが必要である。
　また、保育実習には様々な事務手続が必要になるので教学・教職センターとの連絡を密にとって保育実習の実施がスムーズに行われるようにしなければならない。

事前事後の学習

実習時間外で、計20時間の事前事後学習が必要です。

実習科目のため本授業の単位には含まれないが、他資格関係科目で学習する必要がある。

課題に対するフィードバックの方法

巡回教員が指導を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	30	事務手続の実施状況（提出物の期限が守られていることなど）	6, 7
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	実習記録の内容（保育所20%、施設20%）	1, 2, 3, 4, 5
その他	30	実習先からの評価（保育所15%、施設15%）	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7

テキスト	実習のため、テキストは使用しない。
参考書	保育所保育指針、保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

履修条件・他の科目との関連	保育実習指導Ⅰを履修すること やむを得ない理由以外で欠席することは認められない。所定の手続きを経た上で欠席したものについては追加実習を行う。

授業コード	22037101	授業形態	演習	実務家教員	ー
授業科目名	保育実習指導Ⅰ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	北村　麻樹、松木　宏史				
シラバス執筆（主）	北村　麻樹				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業は保育実習（保育所および保育所以外の児童福祉施設）の意義・目的を理解する授業である。実習を円滑に進めていくために、子どもの発達過程や一人一人に応じた関り方を概説し、自己の課題を明確化できるよう講義する。
ビデオ視聴、事例検討等、様々な形態で授業を行う。

到達目標

１．保育所や施設の保育についての理解と子ども理解を学び、これらと関連付けながら、保育士の職務について説明することができる。
２．具体的な指導案や記録の書き方を学び、実習に向けた実践力と意欲を高め、事前に計画を立て、準備することができる。
３．実習後は自己の課題を明確にし、改善を図ることができる。

授業計画

この授業は対面授業です。

第　1回　保育実習Ⅰ（保育所）に向けて実習の意義・目的及び実習の内容理解と自己課題の明確化
第　2回　保育所の役割と機能　保育所実習の一日の流れと留意点
第　3回　子どもとの関わり　子どもの発達　保育所保育指針から
第　4回　実習記録の書き方①　実習における観察、記録及び評価
第　5回　実習記録の書き方②　記録に基づく省察、子ども理解
第　6回　実習指導案について　指導計画作成及び援助方法
第　7回　子どもの人権と最善の利益への考慮、実習生としての心構え
第　8回　保育実習Ⅰ（保育所）の振り返り　学びの共有　自己評価
第　9回　施設実習に向けて／実習簿の説明
第10回　事前学習を進めるために
第11回　施設実習事前学習①
　　配属される実習先種別について調べる
第12回　施設実習事前学習②
　　配属される施設の沿革や理念について調べる
第13回　実習記録の書き方③　施設実習編
第14回　施設実習で何を学んでくるか
第15回　施設実習直前指導

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回の授業内容について、事前に予告した内容についてテキストを読み、授業後は内容を復習し、フィードバックされた課題について振り返りを行う。
授業１回につき、事前・事後学習４時間を要する。

課題に対するフィードバックの方法

課題・レポートを授業で返却し説明等を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

毎回の授業で提示するレポートや課題内容と定期試験に代わるレポートの内容を総合評価する。
幼児保育学科の規定に基づき、保育所での実習までの授業回数及び保育実習後から施設での実習までの授業回数に対して、それぞれ5分の4以上の出席がなければ、それぞれの実習には参加できません。
また正当な理由なく、欠席回数が授業の3分の1を超えた場合は、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	実践課題やワークシート等の記入内容、小テストまたはレポート課題（70）	１～３

授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	授業内で行った内容に関するレポート(30)	1～3
その他	0		

テキスト	「実習の手引き」大阪国際大学短期大学部幼児保育学科 なお，施設実習に関する指導では「社会的養護Ⅰ」で使用している以下のテキストを持参すること. 松本峰雄監修(2024)『よくわかる！保育士エクササイズ　社会的養護Ⅰ・Ⅱ演習ブック』ミネルヴァ書房　ISBN　978-4-623-09617-6
参考書	・はじめて学ぶ保育10　保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園実習　亀山秀郎〔編著〕ミネルヴァ書房　2200円＋税　978-4-623-07971-1 ・〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント　汐見稔幸、無藤隆監修　ミネルヴァ書房　1650円 ISBN:978-4623080984 必要に応じて授業中に紹介する。
履修条件・他の科目との関連	本科目は保育実習の一部です。通常の講義とは異なりますので「幼児保育学科学生必携」を熟読し、科目特性や単位の認定基準を理解した上で受講すること。 幼児保育学科の規定に基づき、保育所での実習までの授業回数及び保育実習後から施設での実習までの授業回数に対して、それぞれ5分の4以上の出席がなければ、それぞれの実習には参加できません。

授業コード	22022701	授業形態	実習	実務家教員	ー
授業科目名	保育実習Ⅱ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	久保田　健一郎				
シラバス執筆（主）	久保田　健一郎				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

保育実習IIはすでに実施した保育実習Iを継続し、保育に関する知識・技能の一層の深化をはかるためのものであり、こどもに対する理解を通して保育の理論と実践の関係について修得することを目的とする。そのために実習を保育所において実質10日間（合計80時間以上）実施する。

到達目標

１．保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深め、保育実践に応用することができる。
２．保育所の機能とそこでの保育士の職務について説明することができる。
３．習得した教科の知識・技術を生かして実践に取り組むことができる。
４．自身の課題を認識し、改善に取り組むことができる。
５．マナーを守り、意欲・責任感、協調性等をもって実習に取り組むことができる。

以上の内容を保育実習Ⅰからより深化させること

授業計画

２年次後期11月に実施する。実習においては観察実習・参加実習・指導実習の内、参加・責任実習に重点を移し、保育の一日の流れ・児童の集団的個人的行動・施設の人的物的環境・保育士の職務内容などを理解する。職員の指導に基づく保育・養護の補助的・部分的参加により保育・養護技術を修得し、指導計画の立案・実践を実際に経験する。以上の内容を踏まえて、保育士の役割を総合的に理解し、保育士となるために必要となる今後の課題を各自一層明確にする。
　なお、保育実習を実施するに当たっては、保育実習指導Ⅱを履修すると同時に、実習説明会・巡回指導教員との打合会に参加し事前準備の万全をはかることが必要である。
　また、保育実習には様々な事務手続が必要になるので教学・教職センターとの連絡を密にとって保育実習の実施がスムーズに行われるようにしなければならない。

事前事後の学習

実習時間外で、計10時間の事前事後学習が必要です。

実習科目のため本授業の単位には含まれないが、他資格関係科目で学習する必要がある。

課題に対するフィードバックの方法

巡回教員が指導を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	30	事務手続の実施状況（提出物の期限が守られていることなど）	4, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	実習記録の内容	1, 2, 3
その他	30	実習先からの評価	1, 2, 3, 4, 5

テキスト	実習のため、テキストは使用しない。
参考書	保育所保育指針、保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

履修条件・他の科目との関連	保育実習指導Ⅱを履修すること やむを得ない理由以外で欠席することは認められない。所定の手続きを経た上で欠席したものについては追加実習を行う。

授業コード	22037201	授業形態	演習	実務家教員	○
授業科目名	保育実習指導Ⅱ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	北村　麻樹				
シラバス執筆（主）	北村　麻樹				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

保育実習Ⅱを円滑に進めていくための知識や技術を習得し、学習内容及び課題を明確化するとともに実習体験を深化させる。担当教員が保育現場に従事してきた経験をもとに実務家教員として、保育者としての専門性と職業論理、子どもの最善の利益の具体化について理解を深められるよう授業を展開する。
また、実習や教科学習をつなげ、総合的に実践する応用能力を養えるようビデオ視聴、事例検討等、様々な形態で授業を行う。

到達目標

１．保育実習の意義と目的を理解し、保育を総合的に実行できる。
２．実習の既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を向上することができる。
３．保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通じて説明できる。
４．保育士の専門性と職業倫理について理解し、保育に対する課題や認識を明確にする。

授業計画

８回授業終了後に、定期試験に代わるレポート等として期末レポートを課します。

第1回　保育実習Ⅱのオリエンテーションと実習課題の明確化
第2回　子どもの最善の利益を考慮した保育の理解
第3回　子どもの保育と保育環境の理解、環境を通しての保育について
第4回　保育者の専門性と役割理解
第5回　保育実践力の育成①　実習の指導計画作成及び援助方法
第6回　保育実践力の育成②　責任実習の指導計画作成及び援助方法
第7回　保育計画と実践・記録・自己評価　計画や実践においてのPDCAサイクルの重要性
第8回　実習の総括と自己評価　実習を終えて自己課題の明確化と改善への取り組み

事前事後の学習

授業時間外で、計45時間の事前事後学習が必要です。

毎回の授業内容について、事前に予告した内容についてテキストを読み、授業後は内容を復習し、フィードバックされた課題について振り返りを行う。

課題に対するフィードバックの方法

課題、レポートを授業で返却し説明等を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

毎回の授業で提示するレポートや課題内容とすべての授業後に実施する期末レポートの内容を総合評価する。
幼児保育学科の規定に基づき、保育所実習前の「保育実習指導Ⅱ」について５分の４以上の出席がなければ、実習には参加できず、「K」（評価不能）となります。
これは実習前の授業だけでなく、授業後の振り返りの授業も含んでいます。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	実践課題やワークシート等の記入内容、小テストまたは課題レポート（70）	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	期末レポート（30）	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	「実習の手引き」大阪国際大学短期大学部幼児保育学科 適宜必要な資料をGoogleClassroomに載せる。

参考書	必要に応じて授業中に紹介する。
履修条件・他の科目との関連	本科目は保育実習の一部です。通常の講義とは異なりますので「幼児保育学科学生必携」を熟読し、科目特性や単位の認定基準を理解した上で受講すること。 幼児保育学科の規定に基づき、保育所実習前の「保育実習指導Ⅱ」を5分の4以上出席していない場合には、実習には参加できません。

授業コード	22037202	授業形態	演習	実務家教員	○
授業科目名	保育実習指導Ⅱ　［対面］				
シラバス執筆（全員）	吉田　貴子				
シラバス執筆（主）	吉田　貴子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

保育実習Ⅱを円滑に進めていくための知識や技術を習得し、学習内容及び課題を明確化するとともに実習体験を深化させる。担当教員が保育現場に従事してきた経験をもとに実務家教員として、保育者としての専門性と職業論理、子どもの最善の利益の具体化について理解を深められるよう授業を展開する。
また、実習や教科学習をつなげ、総合的に実践する応用能力を養えるようビデオ視聴、事例検討等、様々な形態で授業を行う。

到達目標

１．保育実習の意義と目的を理解し、保育を総合的に実行できる。
２．実習の既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を向上することができる。
３．保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通じて説明できる。
４．保育士の専門性と職業倫理について理解し、保育に対する課題や認識を明確にする。

授業計画

８回授業終了後に、定期試験に代わるレポート等として期末レポートを課します。

第1回　保育実習Ⅱのオリエンテーションと実習課題の明確化
第2回　子どもの最善の利益を考慮した保育の理解
第3回　子どもの保育と保育環境の理解、環境を通しての保育について
第4回　保育者の専門性と役割理解
第5回　保育実践力の育成①　実習の指導計画作成及び援助方法
第6回　保育実践力の育成②　責任実習の指導計画作成及び援助方法
第7回　保育計画と実践・記録・自己評価　計画や実践においてのPDCAサイクルの重要性
第8回　実習の総括と自己評価　実習を終えて自己課題の明確化と改善への取り組み

事前事後の学習

授業時間外で、計45時間の事前事後学習が必要です。

毎回の授業内容について、事前に予告した内容についてテキストを読み、授業後は内容を復習し、フィードバックされた課題について振り返りを行う。

課題に対するフィードバックの方法

課題、レポートを授業で返却し説明等を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

毎回の授業で提示するレポートや課題内容とすべての授業後に実施する期末レポートの内容を総合評価する。
幼児保育学科の規定に基づき、保育所実習前の「保育実習指導Ⅱ」について５分の４以上の出席がなければ、実習には参加できず、「K」（評価不能）となります。
これは実習前の授業だけでなく、授業後の振り返りの授業も含んでいます。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	実践課題やワークシート等の記入内容、小テストまたは課題レポート（70）	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	期末レポート（30）	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	「実習の手引き」大阪国際大学短期大学部幼児保育学科 適宜必要な資料をGoogleClassroomに載せる。

参考書	必要に応じて授業中に紹介する。
履修条件・他の科目との関連	本科目は保育実習の一部です。通常の講義とは異なりますので「幼児保育学科学生必携」を熟読し、科目特性や単位の認定基準を理解した上で受講すること。 幼児保育学科の規定に基づき、保育所実習前の「保育実習指導Ⅱ」を5分の4以上出席していない場合には、実習には参加できません。

授業コード	22037301	授業形態	演習	実務家教員	○
授業科目名	保育内容総論　［対面］				
シラバス執筆（全員）	中村　洋美				
シラバス執筆（主）	中村　洋美				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

保育内容を実践に即して総合的にとらえる視点が持てるように、保育全体の構造を説明する。担当教員が保育現場に従事してきた経験をもとに、実務家教員として将来、現場に求められる態度、資質の育成を目指す。

到達目標

1. 保育所・幼稚園・こども園の実際を知り、乳幼児の発達と生活の基本を説明できる。
2. 子どもの主体的な活動を促す環境設定や遊びを通しての総合的な保育内容を具体化することができる。
3. 保育の多様な展開について具体的に説明できる。

授業計画

第1回　　オリエンテーション　「幼稚園」「保育所」「認定こども園」について
第2回　　保育の基本と保育内容の理解
第3回　　子どもの発達と理解
第4回　　5領域と保育内容
第5回　　保育内容の歴史的変遷
第6回　　環境を通して行う保育①子どもを取り巻く「環境」とは
第7回　　環境を通して行う保育②環境を通して行う保育の具体的な展開
第8回　　生活や遊びを通して行う保育①乳幼児期にふさわしい生活
第9回　　生活や遊びを通して行う保育②生活や遊びのなかの学び
第10回　保育内容を実践するための保育の計画と評価
第11回　0～2歳児の発達と保育内容
第12回　3～5歳児の発達と保育内容
第13回　子育て支援と保育内容
第14回　小学校との連携と保育内容
第15回　保育内容の課題と展望　振り返りとまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後学習を合わせて1単位あたり45時間が必要であるため、授業ごとに合計1時間の事前事後学習が必要となります。
第1回
事前学習課題：幼稚園、保育所、認定こども園の違いについて調べる
事後学習課題：授業内容を振り返りまとめる
第2回
事前学習課題：子どもの最善の利益について考える（保育所保育指針を参考に）
事後学習課題：保育の基本と保育内容の理解についてまとめる
第3回
事前学習課題：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）について調べる
事後学習課題：子どもの発達と理解についてまとめる
第4回
事前学習課題：幼稚園教育要領や保育所保育指針等に示された「領域」の考えたかについて調べる
事後学習課題：5領域と保育内容についてまとめる
第5回
事前学習課題：戦後の保育内容について調べる
事後学習課題：保育内容の歴史的変遷についてまとめる
第6回
事前学習課題：保育における「環境」について調べる
事後学習課題：子どもを取り巻く「環境」についてまとめる
第7回
事前学習課題：人的環境について調べる
事後学習課題：環境を通して行う保育の具体的な展開についてまとめる
第8回
事前学習課題：乳幼児を取り巻く生活環境について調べる
事後学習課題：乳幼児期にふさわしい生活についてまとめる
第9回
事前学習課題：乳幼児期の遊びについて調べる
事後学習課題：生活や遊びのなかの学びについてまとめる
第10回
事前学習課題：教育課程と全体的な計画とはなにか調べる
事後学習課題：保育内容を実践するための保育の計画と評価についてまとめる

第11回
事前学習課題：0～2歳児の発達的特徴を調べる
事後学習課題：0～2歳児の発達と保育内容についてまとめる
第12回
事前学習課題：3～5歳児の発達的特徴を調べる
事後学習課題：3～5歳児の発達と保育内容についてまとめる
第13回
事前学習課題：保護者に対する基本的態度について調べる
事後学習課題：子育て支援と保育内容についてまとめる
第14回
事前学習課題：幼児期の教育と小学校教育の違いについて調べる
事後学習課題：小学校との連携と保育内容についてまとめる
第15回
事前学習課題：幼児保育の重要性について調べ考える
事後学習課題：保育内容の課題と展望についてまとめる

課題に対するフィードバックの方法

課題のまとめの評価については、希望者に開示する。
授業の学びにおけるフィードバックは、次回の授業の初めに振り返り、学びを深める。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、単位を認定する。

毎回の授業意欲（態度と課題内容）、課題レポート、授業内小テストに対する総合評価とする。
正当な理由なく6回以上欠席した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業への取り組み、課題提出状況や課題内容を評価する（40） 授業内小テスト（20） 授業内容から出題する	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	授業内容から出題する（40）	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない。 適宜必要な資料をGoogleClassroomに載せる。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	・こどもに関わる新聞記事などに関心を持ち、読んでおくこと ・日常生活生活の中で、こどもや親子連れ等の観察をしておくこと ・こどもの成長と発達について、乳幼児保育に関する授業（科目）内容と関連付けて講義に臨むこと

授業コード	22037302	授業形態	演習	実務家教員	○
授業科目名	保育内容総論　［対面］				
シラバス執筆（全員）	北村　麻樹				
シラバス執筆（主）	北村　麻樹				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

保育内容を実践に即して総合的にとらえる視点が持てるように、保育全体の構造を説明する。担当教員が保育現場に従事してきた経験をもとに、実務家教員として将来、現場に求められる態度、資質の育成を目指す。

到達目標

1. 保育所・幼稚園・こども園の実際を知り、乳幼児の発達と生活の基本を説明できる。
2. 子どもの主体的な活動を促す環境設定や遊びを通しての総合的な保育内容を具体化することができる。
3. 保育の多様な展開について具体的に説明できる。

授業計画

第1回　　オリエンテーション　「幼稚園」「保育所」「認定こども園」について
第2回　　保育の基本と保育内容の理解
第3回　　子どもの発達と理解
第4回　　5領域と保育内容
第5回　　保育内容の歴史的変遷
第6回　　環境を通して行う保育①子どもを取り巻く「環境」とは
第7回　　環境を通して行う保育②環境を通して行う保育の具体的な展開
第8回　　生活や遊びを通して行う保育①乳幼児期にふさわしい生活
第9回　　生活や遊びを通して行う保育②生活や遊びのなかの学び
第10回　保育内容を実践するための保育の計画と評価
第11回　0～2歳児の発達と保育内容
第12回　3～5歳児の発達と保育内容
第13回　子育て支援と保育内容
第14回　小学校との連携と保育内容
第15回　保育内容の課題と展望　振り返りとまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後学習を合わせて1単位あたり45時間が必要であるため、授業ごとに合計1時間の事前事後学習が必要となります。
第1回
事前学習課題：幼稚園、保育所、認定こども園の違いについて調べる
事後学習課題：授業内容を振り返りまとめる
第2回
事前学習課題：子どもの最善の利益について考える（保育所保育指針を参考に）
事後学習課題：保育の基本と保育内容の理解についてまとめる
第3回
事前学習課題：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）について調べる
事後学習課題：子どもの発達と理解についてまとめる
第4回
事前学習課題：幼稚園教育要領や保育所保育指針等に示された「領域」の考えたかについて調べる
事後学習課題：5領域と保育内容についてまとめる
第5回
事前学習課題：戦後の保育内容について調べる
事後学習課題：保育内容の歴史的変遷についてまとめる
第6回
事前学習課題：保育における「環境」について調べる
事後学習課題：子どもを取り巻く「環境」についてまとめる
第7回
事前学習課題：人的環境について調べる
事後学習課題：環境を通して行う保育の具体的な展開についてまとめる
第8回
事前学習課題：乳幼児を取り巻く生活環境について調べる
事後学習課題：乳幼児期にふさわしい生活についてまとめる
第9回
事前学習課題：乳幼児期の遊びについて調べる
事後学習課題：生活や遊びのなかの学びについてまとめる
第10回
事前学習課題：教育課程と全体的な計画とはなにか調べる
事後学習課題：保育内容を実践するための保育の計画と評価についてまとめる

第11回
事前学習課題：0～2歳児の発達的特徴を調べる
事後学習課題：0～2歳児の発達と保育内容についてまとめる
第12回
事前学習課題：3～5歳児の発達的特徴を調べる
事後学習課題：3～5歳児の発達と保育内容についてまとめる
第13回
事前学習課題：保護者に対する基本的態度について調べる
事後学習課題：子育て支援と保育内容についてまとめる
第14回
事前学習課題：幼児期の教育と小学校教育の違いについて調べる
事後学習課題：小学校との連携と保育内容についてまとめる
第15回
事前学習課題：幼児保育の重要性について調べ考える
事後学習課題：保育内容の課題と展望についてまとめる

課題に対するフィードバックの方法

課題のまとめの評価については、希望者に開示する。
授業の学びにおけるフィードバックは、次回の授業の初めに振り返り、学びを深める。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、単位を認定する。

毎回の授業意欲（態度と課題内容）、課題レポート、授業内小テストに対する総合評価とする。
正当な理由なく6回以上欠席した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業への取り組み、課題提出状況や課題内容を評価する（40） 授業内小テスト（20） 授業内容から出題する	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	授業内容から出題する（40）	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない。 適宜必要な資料をGoogleClassroomに載せる。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	・こどもに関わる新聞記事などに関心を持ち、読んでおくこと ・日常生活生活の中で、こどもや親子連れ等の観察をしておくこと ・こどもの成長と発達について、乳幼児保育に関する授業（科目）内容と関連付けて講義に臨むこと

授業コード	22007101	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	レクリエーション理論　［対面］				
シラバス執筆(全員)	玉井　久実代				
シラバス執筆(主)	玉井　久実代				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

現代社会におけるレクリエーションの意義や価値の多様性を学習するとともに、保育現場で行われるレクリエーション活動の企画を行い、レクリエーション支援者や保育者に求められるレクリエーションの基礎的な知識や技術を説明する。また、保育の合間や隙間時間に活用できる遊びを紹介する。

到達目標

1. レクリエーション活動を安全に楽しむための基礎的な知識を説明できる。
2. レクリエーションの支援者に必要な知識を説明できる。
3. レクリエーションに関する知識を支援に活かすことができる。

授業計画

【第1回】オリエンテーション
【第2回】レクリエーションの基本的理解1：レクリエーションにおける語句の整理
【第3回】レクリエーションの基本的理解2：子どもとレクリエーション
【第4回】レクリエーションの基本的理解3：レクリエーション支援とは
【第5回】楽しさと心の元気づくりの理論1：レクリエーションの楽しさ
【第6回】楽しさと心の元気づくりの理論2：楽しさを通した心の元気づくり
【第7回】楽しさと心の元気づくりの理論3：ライフステージと心の元気づくり
【第8回】レクリエーション支援の理論1：コミュニケーションと信頼関係づくりの理論
【第9回】レクリエーション支援の理論2：良好な集団づくりの理論
【第10回】レクリエーション支援の理論3：自主的、主体的に楽しむ力を育む理論
【第11回】レクリエーション支援の方法1　：　リスクマネジメント
【第12回】レクリエーション支援の方法2　：　レクリエーション・プログラムの立案1
【第13回】レクリエーション支援の方法3　：　レクリエーション・プログラムの立案2
【第14回】レクリエーション支援の方法4　：　レクリエーション・プログラムの立案3
【第15回】まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】
①事前学習課題：シラバスを確認しておく。
②事後学習課題：授業概要を確認する。
【第2回～第14回】
①事前学習課題：授業に関連する内容について、書籍やインターネットで調べる。
②事後学習課題：授業資料等を活用し、復習する。
【第15回】
①事前学習課題：これまで学習した内容を、総復習する。
②事後学習課題：学習したことを、レクリエーション支援や保育現場に活かせるよう整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、次回以降の授業やGoogle Classroom で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく6回以上欠席した場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。
3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。
定期試験に代わるレポート等の提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	授業内で課される課題(75)	1, 2, 3
授業外での評価	0		

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	レポート（25）	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じてclassroomへの提示もしくは資料を配布する。
参考書	「楽しさをとおした心の元気づくり　レクリエーション支援の理論と方法」 「『レクリエーション教育モデル・コア・カリキュラム』リファレンスブック」
履修条件・他の科目との関連	「レクリエーション理論」は、レクリエーション・インストラクター資格の取得に必要な科目です。 「レクリエーション実技a」「レクリエーション実技b」を履修済みであることが望ましいです。

授業コード	22053101	授業形態	実技	実務家教員	ー
授業科目名	レクリエーション実技ａ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	玉井　久実代、梶本　智子				
シラバス執筆(主)	玉井　久実代				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本科目は、多世代を対象としたレクリエーション活動の楽しさの本質を理解し、レクリエーション支援の方法について学習することを目的とする。
笑顔や元気を引き出しコミュニケーションを促進する、多世代を対象としたレクリエーション活動を説明する。

到達目標

１．様々なレクリエーション活動を身に付け、それぞれのレクリエーション活動の楽しさを理解し、活用することができる。
２．レクリエーション支援において、対象者とのコミュニケーションや、対象者と対象者の間に立ってコミュニケーションを行うことができる。
３．レクリエーション支援において、対象者がより楽しみやすいように工夫してレクリエーション活動を展開することができる。

授業計画

本科目は体育施設や講義室で行います。
【第1回】オリエンテーション
【第2回】アイスブレーキング
【第3回】導入段階のレクリエーションゲーム
【第4回】交流段階のレクリエーションゲーム
【第5回】発展段階のレクリエーションゲーム
【第6回】チャレンジ・ザ・ゲーム（キャッチング・ザ・スティック、リング・キャッチ）
【第7回】チャレンジ・ザ・ゲーム（ラダーゲッター、ロープ・ジャンプ）
【第8回】チャレンジ・ザ・ゲーム（ゴム・ダンス・“ステっぴょん”）
【第9回】ニュースポーツ（モルック）
【第10回】ニュースポーツ（シャフルボード）
【第11回】ニュースポーツ（ボッチャ）
【第12回】ニュースポーツ（キンボール）
【第13回】レクリエーション支援の準備
【第14回】レクリエーション支援の練習
【第15回】レクリエーション支援の発表、まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】
①事前学習課題：シラバスを確認する。
②事後学習課題：授業概要を確認する。
【第2～14回】
①事前学習課題：次回の授業内容について、インターネットや書籍等で調べる。
②事後学習課題：授業内容を整理し、関連する内容を調べる。
【第15回】
①事前学習課題：学習した内容を、総復習する。
②事後学習課題：学習したことを、今後のレクリエーション支援に活かせるように整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは、授業やGoogle Classroom で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく5回を超えて欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。
3回の遅刻および早退は、1回の欠席とみなす。
定期試験に代わるレポート等の提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標

授業内での評価	75	授業への取り組み姿勢（75）	1, 2, 3
授業外での評価	15	授業内容のまとめレポート（15）	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポート（10）	1, 3
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない。 必要に応じて資料を配付もしくはclassroomで提示する。
参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件・他の科目との関連	教室の利用状況等により、内容が変更されることがあります。 服装、準備物等については、随時授業やClassroomでお知らせします。 欠席した授業の配付資料は、次回授業で申し出て受け取ってください。 「レクリエーション実技a」「レクリエーション実技b」は、レクリエーション・インストラクター資格取得に必要な科目です。

授業コード	22053201	授業形態	実技	実務家教員	ー
授業科目名	レクリエーション実技ｂ　［対面］				
シラバス執筆(全員)	玉井　久実代、梶本　智子				
シラバス執筆(主)	玉井　久実代				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的･概要

本科目は、子どもを対象としたレクリエーション活動の楽しさの本質を理解し、レクリエーション支援の方法について学習することを目的とする。
子どもの発育・発達に役立つ様々なレクリエーション活動を実践し、さらに対象者に合わせたレクリエーション支援と、レクリエーション支援におけるコミュニケーション・スキルについて説明する。

到達目標

１．子どもを対象とした様々なレクリエーション活動を身に付け、それぞれのレクリエーション活動の楽しさを理解し、活用することができる。
２．子どもを対象としたレクリエーション支援において、対象者とのコミュニケーションや、対象者と対象者の間に立ってコミュニケーションを行うことができる。
３．子どもを対象としたレクリエーション支援において、対象者がより楽しみやすいように工夫してレクリエーション活動を展開することができる。

授業計画

本科目は体育施設や講義室で行います。
【第1回】子どものためのレクリエーション1　新聞紙で作って遊ぼう
【第2回】子どものためのレクリエーション2　牛乳パックで作って遊ぼう
【第3回】子どものためのレクリエーション3　パラバルーンで遊ぼう
【第4回】子どものためのレクリエーション4　パラバルーンで踊ろう
【第5回】子どものためのレクリエーション5　パラバルーンの遊びを考えよう
【第6回】子どものためのレクリエーション6　道具を用いた伝承遊び
【第7回】子どものためのレクリエーション7　伝承遊びを作って遊ぼう
【第8回】レクリエーション支援の実践１　レクリエーション支援について
【第9回】レクリエーション支援の実践2　計画
【第10回】レクリエーション支援の実践3　準備
【第11回】レクリエーション支援の実践4　実践
【第12回】レクリエーション支援の実践5　振り返り
【第13回】子どものためのレクリエーション8　季節の遊び（クリスマス）
【第14回】子どものためのレクリエーション9　季節の遊び（お正月）
【第15回】まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】
①事前学習課題：シラバスを確認する。
②事後学習課題：授業概要を確認する。
【第2～7回】
①事前学習課題：次回の授業内容について、インターネットや書籍等で調べる。
②事後学習課題：授業内容を整理し、関連する内容を調べる。
【第8～12回】
①事前学習課題：レクリエーション支援の計画、準備を行う。
②事後学習課題：レクリエーション支援の振り返りを行う。
【第13～14回】
①事前学習課題：次回の授業内容について、インターネットや書籍等で調べる。
②事後学習課題：授業内容を整理し、関連する内容を調べる。
【第15回】
①事前学習課題：学習した内容を、総復習する。
②事後学習課題：学習したことを、今後のレクリエーション支援に活かせるように整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは、授業やGoogle Classroom で行う。

成績評価の方法･基準(方針)

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく5回を超えて欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

3回の遅刻および早退は、1回の欠席とみなす。
定期試験に代わるレポート等の提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	授業への取り組み姿勢（60） レクリエーション支援（15）	1, 2, 3
授業外での評価	15	授業内容のまとめレポート（15）	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポート（10）	1, 3
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない。 必要に応じて資料を配付もしくはclassroomで提示する。
参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件・他の科目との関連	教室の利用状況等により、内容が変更されることがあります。 服装、準備物等については、随時授業やClassroomでお知らせします。 欠席した授業の配付資料は、次回授業で申し出て受け取ってください。 「レクリエーション実技a」「レクリエーション実技b」は、レクリエーション・インストラクター資格取得に必要な科目です。 「レクリエーション実技a」を履修済みであることが望ましい。

授業コード	22035601	授業形態	講義	実務家教員	ー
授業科目名	在宅保育　［対面］				
シラバス執筆（全員）	北村　麻樹				
シラバス執筆（主）	北村　麻樹				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

家庭訪問保育に関する基礎的知識や、実際の内容及び技術を身につけるために、文献、講義、ビデオ、演習を通して概説する。単位取得者は社団法人全国ベビーシッター協会「認定ベビーシッター」の資格を取得することができる。

到達目標

1. 家庭訪問保育に関する知識を習得し、説明することができる。
2. 家庭訪問保育に必要な保育技術を身につけ、実践することができる。

授業計画

この授業は対面授業です。

第1回　　オリエンテーション　家庭訪問保育とは（家庭訪問保育の実態、家庭訪問保育の有効性と課題）
第2回　　乳幼児の生活と遊び（子どもの遊びと環境、保育のねらい・内容）
第3回　　乳幼児の発達と心理（乳幼児の発達過程、発達を支える保育者の役割）
第4回　　乳幼児の食事と栄養（離乳食の進め方、食物アレルギーなど健康状態に考慮した食事）
第5回　　乳幼児の健康と衛生管理（発育、感染予防）
第6回　　居宅訪問型保育における環境整備（保育環境の整備）
第7回　　安全確保とリスクマネジメント（子どもの事故、事故の予防、緊急時の対応、対策）
第8回　　居宅訪問型保育者の職業倫理と配慮事項（自己管理、自己評価、第三者評価）
第9回　　居宅訪問型保育における保護者への対応（保護者支援の必要性、家族との関わり方）
第10回　子ども虐待（子ども虐待の実態、子ども虐待への支援）
第11回　特別に配慮を要する子どもへの対応（気になる行動の原因とその対応、保育者の役割）
第12回　家庭訪問保育における保育技術①（睡眠、排泄、清潔、衣類の着脱）
第13回　家庭訪問保育における保育技術②（居宅での保育における遊び、発達過程に応じた遊びへの働きかけ）
第14回　さまざまな家庭訪問保育（病児・病後児保育、障害児保育、多胎児の保育、学童の保育）
第15回　総括　振り返りとまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後あわせて1単位あたり45時間が必要。

第1回
事前学習課題：家庭訪問保育とは何か調べる
事後学習課題：家庭訪問保育の実態と課題についてまとめる
第2回
事前学習課題：居宅で行う乳幼児の生活と遊びについて調べる
事後学習課題：居宅で行う乳幼児の保育のねらい・内容についてまとめる
第3回
事前学習課題：乳幼児の発達過程について調べる
事後学習課題：乳幼児の発達を支える保育者の役割についてまとめる
第4回
事前学習課題：乳幼児の健康状態に考慮した食事について調べる
事後学習課題：離乳食の進め方や食物アレルギーに考慮した食事についてまとめる
第5回
事前学習課題：乳幼児の感染予防について調べる
事後学習課題：乳幼児の健康と衛生管理についてまとめる
第6回
事前学習課題：居宅で行う保育環境について調べる
事後学習課題：居宅での保育における環境整備についてまとめる
第7回
事前学習課題：子どもの事故予防や緊急時の対応について調べる
事後学習課題：安全管理とリスクマネジメントについてまとめる
第8回
事前学習課題：全国保育士会倫理綱領について調べる
事後学習課題：居宅訪問型保育者の職業倫理と配慮事項についてまとめる
第9回
事前学習課題：保護者支援の必要性について調べる
事後学習課題：居宅訪問型保育者における保護者への対応についてまとめる
第10回

事前学習課題：虐待の定義について調べる
事後学習課題：子どもの虐待の実態、支援についてまとめる
第11回
事前学習課題：発達障害について調べる
事後学習課題：特別な配慮を要する子どもへの対応についてまとめる
第12回
事前学習課題：子どもの睡眠、排泄、清潔、衣類の着脱の仕方について調べる
事後学習課題：家庭訪問保育における睡眠、排泄、清潔、衣類の着脱についてまとめる
第13回
事前学習課題：0歳から2歳までの子どもの発達に応じた遊びについて調べる
事後学習課題：0歳から2歳までの居宅での発達に応じた遊びへの働きかけについてまとめる
第14回
事前学習課題：病児・病後児保育、障害児保育、多胎児の保育、学童保育の実態について調べる
事後学習課題：病児・病後児保育、障害児保育、多胎児の保育、学童保育のあり方についてまとめる
第15回
事前学習課題：授業で学んだ内容を振り返る
事後学習課題：これまでの学びについてまとめる

課題に対するフィードバックの方法

課題のまとめの評価については、希望者に開示する。
授業の学びにおけるフィードバックは、次回の授業の初めに振り返り、学びを深める。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する

毎回の授業意欲（態度）、課題レポート、授業内小テストに対する総合評価とする。
正当な理由なく、欠席回数が授業の3分の1を超えた場合は、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業への取組、課題提出状況や課題内容を評価する（40） 授業内小テスト（20） 授業内容から出題する	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	レポート内容は授業で行った内容から出題する（40）	1, 2
その他	0		

テキスト	家庭訪問保育の理論と実際　第3版　―居宅訪問型保育基礎研修テキスト・一般型家庭訪問保育学習テキスト―　公益社団法人全国保育者―ビス協会　監修　　中央法規 3080円　ISBN 978-4-8058-8427-0
参考書	必要に応じて授業内に紹介する
履修条件・他の科目との関連	子どもの保健の理論をしっかり復習することが必要である。

授業コード	27000401	授業形態	実習	実務家教員	ー
授業科目名	海外幼児教育実習　［対面］				
シラバス執筆（全員）	久保田　健一郎				
シラバス執筆（主）	久保田　健一郎				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

海外における幼児教育の実際を実習を通して学び、国際的な視野を広げることを目的とする。
　主に、海外の幼児教育施設における実習（オリエンテーションと実習記録の作成も含む）と自主研修で構成される。実習では、海外の幼児教育について学ぶと同時に、日本で学んだ保育技術を海外の子どもたちの前で試し、自主研修では、現地の様々な文化を体験し、学生の成長を促す。

到達目標

１．海外の幼児教育について説明することができる
２．海外の幼児教育施設で実習をすることで、日本の保育との違いについて説明することができる。
３．海外での研修全般を通した自らの異文化体験について、その意義を説明することができる。

授業計画

日程や内容が決まり次第、募集案内を行う。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前の説明会、帰国後の報告会は参加必須である。

課題に対するフィードバックの方法

実習中は引率教員が課題レポートの返却において行い、報告会においては他教員も含めて行う。

成績評価の方法・基準（方針）

●全ての授業に出席し、所定の学修をすることが単位修得の前提条件となる。
●必要最低限の授業学修が確保できていないとみなした場合は、「K」評価とする。

実習全般にかかわる態度（説明会の参加を含む）、幼児教育施設での実習、自主研修への取り組み、報告会における発表で評価する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	実習、自主研修にかかわる態度や報告会への取り組み	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	課題レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、資料を配布する。
参考書	説明会で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	海外の保育を学ぶためには、まずは日本の保育を学ぶ必要があるため、資格関係科目全般と関連する。 説明会などを欠席した場合の関係資料は追って配布する。